

鈴鹿亀山地区広域連合
第7期介護保険事業計画策定に関する
アンケート調査
調査結果報告書

平成29年3月

鈴鹿亀山地区広域連合

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査結果	3
1	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3
	(1) あなたのご家族や生活状況について	4
	(2) からだを動かすことについて	15
	(3) 食べることについて	26
	(4) 毎日の生活について	32
	(5) 地域での活動について	51
	(6) たすけあいについて	61
	(7) 健康について	87
	(8) 介護保険サービス全般および高齢者福祉について	94
	(9) ご家族を介護している（していた）方への質問	123
2	生活機能評価等に関する分析	127
	(1) 機能別リスク該当者割合の分析	127
	①運動器	127
	②閉じこもり	129
	③転倒	131
	④栄養	133
	⑤口腔	135
	⑥認知	137
	⑦うつ	139
	(2) 日常生活	141
	①手段的自立度（IADL）	141
	(3) 社会参加	143
	①知的能動性	143
	②社会的役割	145

3	2号保険者	147
	(1) 回答者属性	147
	(2) 介護に関する考え方について	150
	(3) 健康について	159
	(4) 認知症について	168
	(5) 地域の助け合いについて	171
4	在宅介護認定者	191
	(1) 要介護認定者本人について	191
	(2) 介護者について	258
5	居宅介護支援事業所	284
	(1) 事業者の状況について	284
	(2) ケアマネジメントについて	288
	(3) 介護サービスについて	294
	(4) 医療との連携について	305
	(5) 地域包括ケアについて	311
	(6) 今後の高齢者介護について	320
6	介護サービス提供事業所	324
	(1) 事業者の状況について	324
	(2) 介護サービスについて	326
	(3) 地域包括ケアについて	338
	(4) これからの高齢者介護について	347

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 30 年度から実施する「第 7 期介護保険事業計画」策定にあたっての基礎資料とするために調査を実施したものです。

2 調査対象

介護予防・

日常生活圏域ニーズ調査：65 歳以上の介護保険の被保険者で、介護保険の要介護認定（要介護 1～5）を受けていない方

在宅介護実態調査：介護保険の要介護（要支援）認定を受けている在宅の方のうち、直近に更新申請又は区分変更申請をされた方

第 2 号被保険者調査：第 2 号被保険者のうち 55 歳以上で介護保険の要介護認定を受けていない方

居宅介護支援事業所調査：鈴鹿市および亀山市内の全居宅介護支援事業所

サービス提供事業者：鈴鹿市および亀山市内の全介護保険サービス提供事業所（居宅介護支援事業所を除く）

3 調査期間

平成 29 年 2 月 9 日から平成 29 年 2 月 24 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,500 通	1,872 通	74.9%
在宅介護実態調査	2,500 通	1,662 通	66.5%
第 2 号被保険者調査	750 通	451 通	60.1%
居宅介護支援事業所調査	85 通	77 通	90.6%
サービス提供事業者	388 通	271 通	69.8%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

II 調査結果

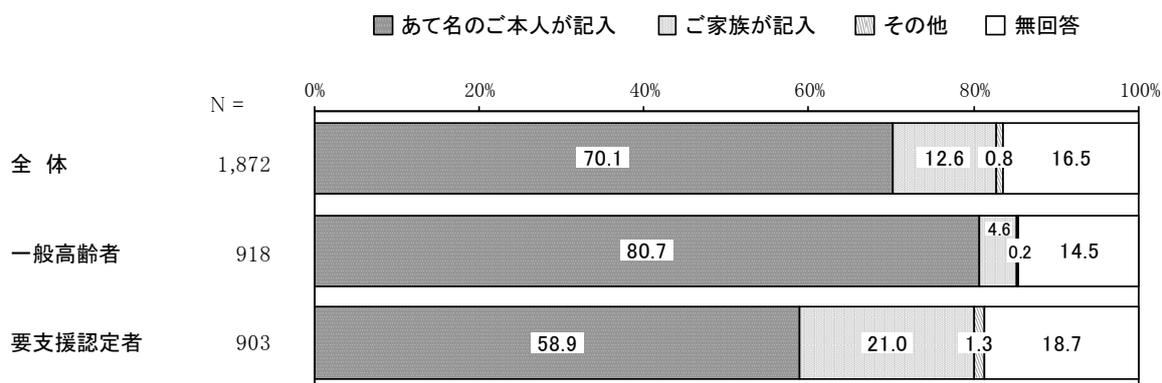
1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

一般高齢者では、「あて名のご本人が記入」の割合が80.7%、「ご家族が記入」の割合が4.6%となっています。

要支援認定者では、「あて名のご本人が記入」の割合が58.9%、「ご家族が記入」の割合が21.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「あて名のご本人が記入」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ご家族が記入」の割合が高くなっています。



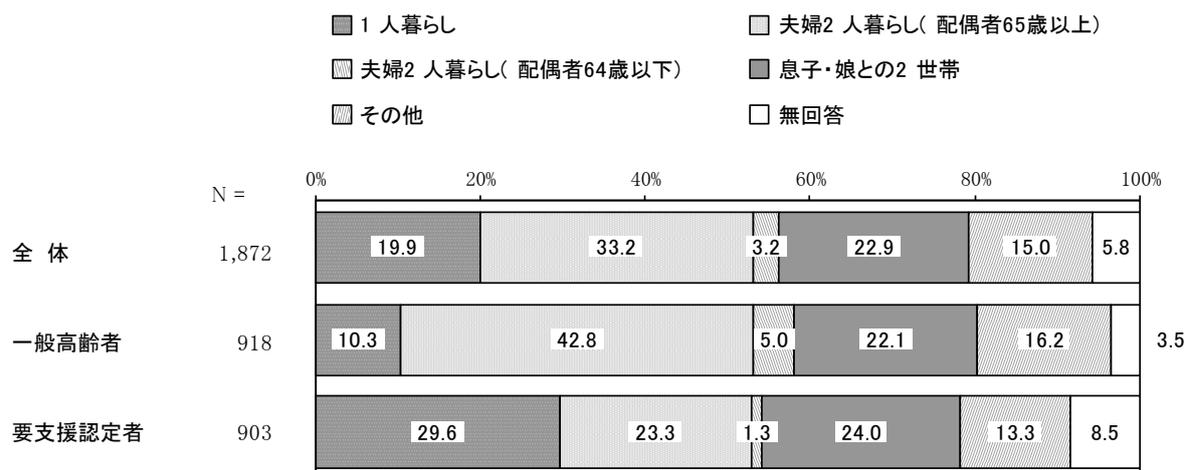
(1) あなたのご家族や生活状況について

問1 家族構成をお教えてください。(1つを選択)

一般高齢者では、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が42.8%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が22.1%、「1人暮らし」の割合が10.3%となっています。

要支援認定者では、「1人暮らし」の割合が29.6%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」の割合が24.0%、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」の割合が23.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「1人暮らし」の割合が高くなっています。



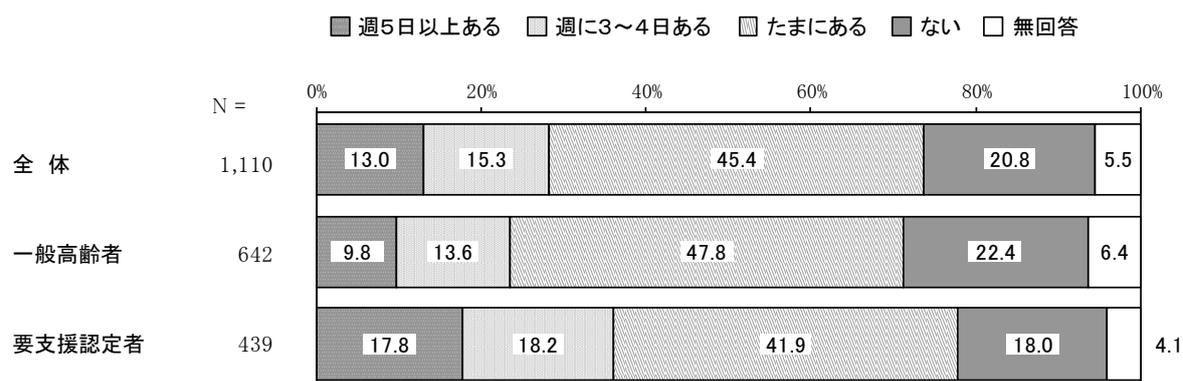
問1で「2 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」または「3 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」または「4 息子・娘との2世帯」と回答した方にお伺いします。

問1-② あなたは、日中、一人になることがありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「たまにある」の割合が47.8%と最も高く、次いで「ない」の割合が22.4%、「週に3~4日ある」の割合が13.6%となっています。

要支援認定者では、「たまにある」の割合が41.9%と最も高く、次いで「週に3~4日ある」の割合が18.2%、「ない」の割合が18.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「たまにある」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「週5日以上ある」の割合が高くなっています。

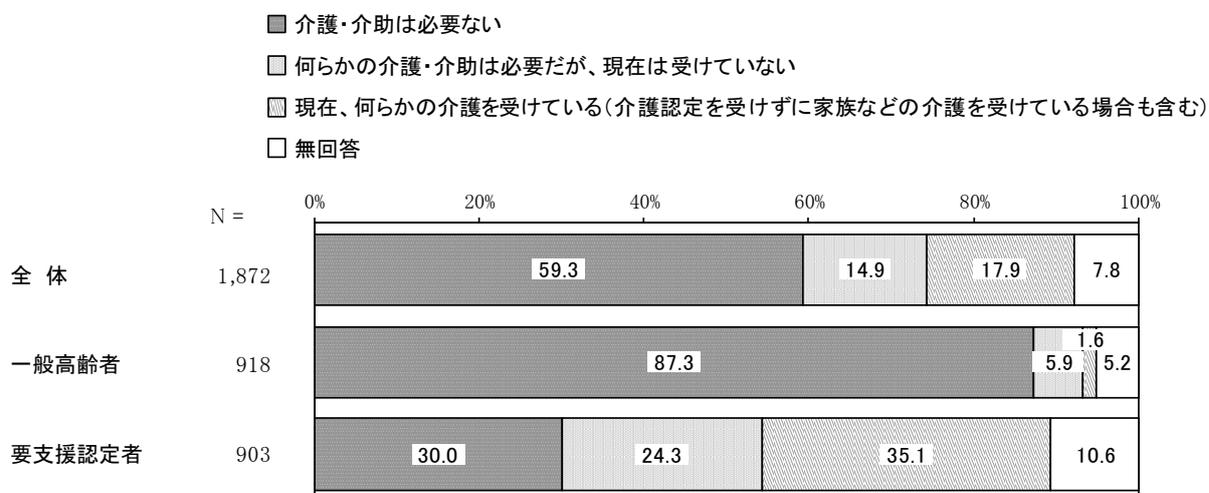


問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」の割合が87.3%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が35.1%と最も高く、次いで「介護・介助は必要ない」の割合が30.0%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が24.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「介護・介助は必要ない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の割合が高くなっています。



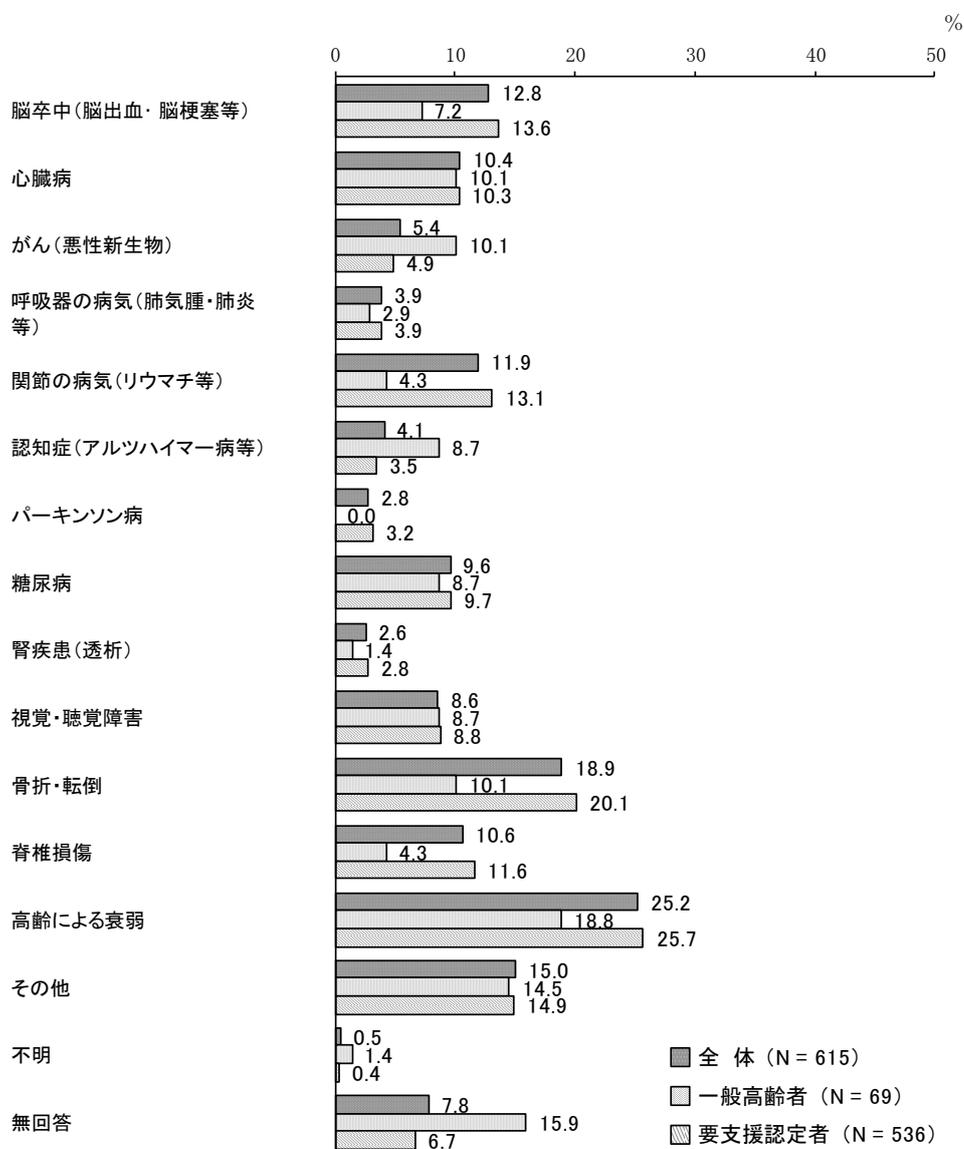
問2で「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と回答した方にお伺いします。

問2-② 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。（複数選択可）

一般高齢者では、「高齢による衰弱」の割合が18.8%と最も高く、次いで「心臓病」、「がん（悪性新生物）」、「骨折・転倒」の割合が10.1%となっています。

要支援認定者では、「高齢による衰弱」の割合が25.7%と最も高く、次いで「骨折・転倒」の割合が20.1%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が13.6%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「がん（悪性新生物）」「認知症（アルツハイマー病等）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「関節の病気（リウマチ等）」「骨折・転倒」「脊椎損傷」「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、1人暮らしで「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	関節の病気 (リウマチ等)	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病
1人暮らし	179	8.9	10.1	3.9	5.0	11.7	0.6	2.8	9.5
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	165	15.8	14.5	8.5	4.2	10.3	4.2	1.8	10.9
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	7	57.1	14.3	—	—	14.3	—	—	28.6
息子・娘との2世帯	155	12.9	11.0	5.2	5.2	11.6	4.5	0.6	7.7
その他	79	13.9	2.5	3.8	—	15.2	12.7	7.6	10.1

区分	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
1人暮らし	0.6	10.1	20.7	14.0	31.8	17.3	0.6	9.5
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	3.0	7.9	17.6	10.9	19.4	13.3	—	8.5
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	—	—	14.3	—	14.3	—	—	—
息子・娘との2世帯	4.5	9.0	17.4	7.1	26.5	12.9	0.6	4.5
その他	1.3	7.6	21.5	5.1	24.1	20.3	1.3	6.3

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の65～69歳で「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の割合が高くなっています。また、男性の75～79歳で「糖尿病」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等)	関節の病気 (リウマチ等)	認知症 (アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病
男性 65～69 歳	20	45.0	10.0	5.0	—	5.0	5.0	—	20.0
70～74 歳	26	26.9	11.5	7.7	—	—	7.7	11.5	11.5
75～79 歳	29	24.1	17.2	3.4	6.9	3.4	10.3	6.9	34.5
80～84 歳	39	12.8	20.5	17.9	12.8	5.1	2.6	2.6	10.3
85 歳以上	62	8.1	14.5	4.8	1.6	8.1	3.2	1.6	8.1
女性 65～69 歳	33	15.2	—	15.2	6.1	15.2	3.0	—	9.1
70～74 歳	33	15.2	9.1	6.1	6.1	18.2	3.0	12.1	6.1
75～79 歳	89	16.9	4.5	4.5	4.5	15.7	3.4	3.4	11.2
80～84 歳	121	8.3	9.1	5.0	2.5	21.5	4.1	2.5	8.3
85 歳以上	153	6.5	11.1	1.3	2.6	8.5	3.9	—	4.6

区分	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
男性 65～69 歳	—	10.0	—	15.0	10.0	15.0	—	—
70～74 歳	7.7	7.7	—	3.8	3.8	15.4	—	11.5
75～79 歳	—	3.4	20.7	10.3	13.8	13.8	—	6.9
80～84 歳	2.6	15.4	12.8	5.1	28.2	10.3	—	5.1
85 歳以上	3.2	9.7	12.9	19.4	40.3	14.5	1.6	3.2
女性 65～69 歳	3.0	12.1	18.2	12.1	3.0	9.1	—	12.1
70～74 歳	—	3.0	15.2	15.2	3.0	30.3	—	6.1
75～79 歳	4.5	10.1	19.1	13.5	12.4	19.1	2.2	7.9
80～84 歳	1.7	9.1	27.3	12.4	24.8	14.0	—	7.4
85 歳以上	2.6	7.2	22.9	5.2	42.5	12.4	—	10.5

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「骨折・転倒」の割合が高くなっています。

単位：％

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳卒中 (脳出血・脳 梗塞等)	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺炎等)	関節の病気 (リウマ チ等)	認知症 (アルツハイ マー病等)	パーキンソン 病	糖尿病
鈴鹿西部	112	12.5	8.9	7.1	4.5	7.1	3.6	1.8	7.1
鈴鹿北部	111	14.4	10.8	4.5	2.7	9.0	5.4	1.8	9.0
鈴鹿中部	128	9.4	11.7	3.1	4.7	14.8	3.9	3.9	10.9
鈴鹿南部	116	12.1	9.5	6.9	3.4	16.4	0.9	2.6	12.1
亀山	138	15.9	10.1	5.8	3.6	12.3	6.5	3.6	8.7

区分	腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障 害	骨折・転 倒	脊椎損傷	高齢による衰 弱	その他	不明	無回 答
鈴鹿西部	1.8	7.1	16.1	8.0	28.6	17.9	—	8.9
鈴鹿北部	2.7	8.1	21.6	10.8	25.2	10.8	—	9.9
鈴鹿中部	3.1	10.9	21.1	11.7	24.2	14.1	1.6	5.5
鈴鹿南部	4.3	6.0	23.3	13.8	19.8	13.8	—	6.9
亀山	1.4	10.9	13.8	9.4	26.8	17.4	0.7	8.0

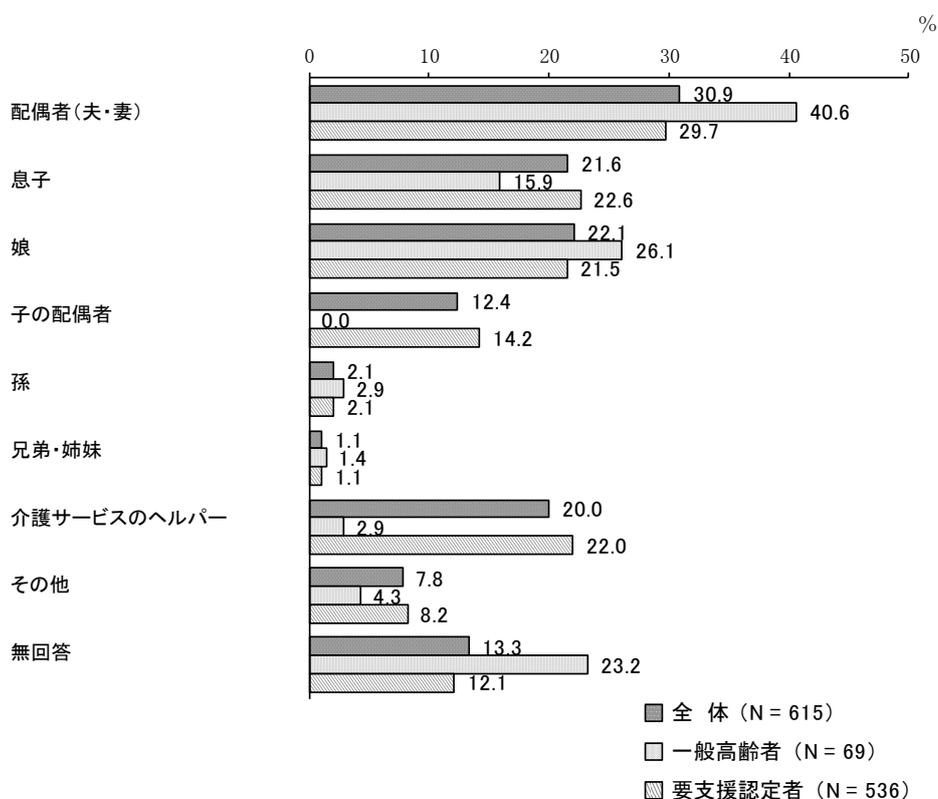
問2で「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と回答した方にお伺いします。

問2-③ 主にどなたの介護、介助を受けていますか。（複数選択可）

一般高齢者では、「配偶者（夫・妻）」の割合が40.6%と最も高く、次いで「娘」の割合が26.1%、「息子」の割合が15.9%となっています。

要支援認定者では、「配偶者（夫・妻）」の割合が29.7%と最も高く、次いで「息子」の割合が22.6%、「介護サービスのヘルパー」の割合が22.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「配偶者（夫・妻）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「息子」「子の配偶者」「介護サービスのヘルパー」の割合が高くなっています。

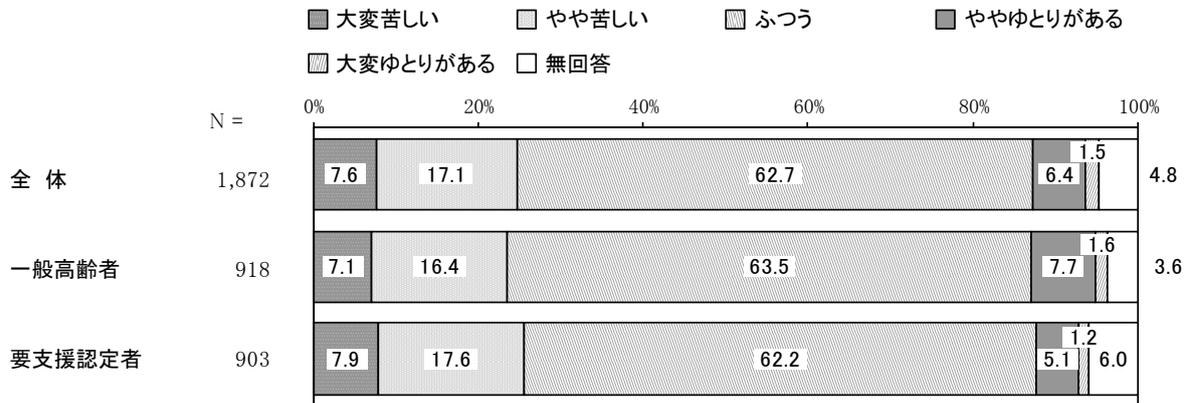


問3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「ふつう」の割合が63.5%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が16.4%となっています。

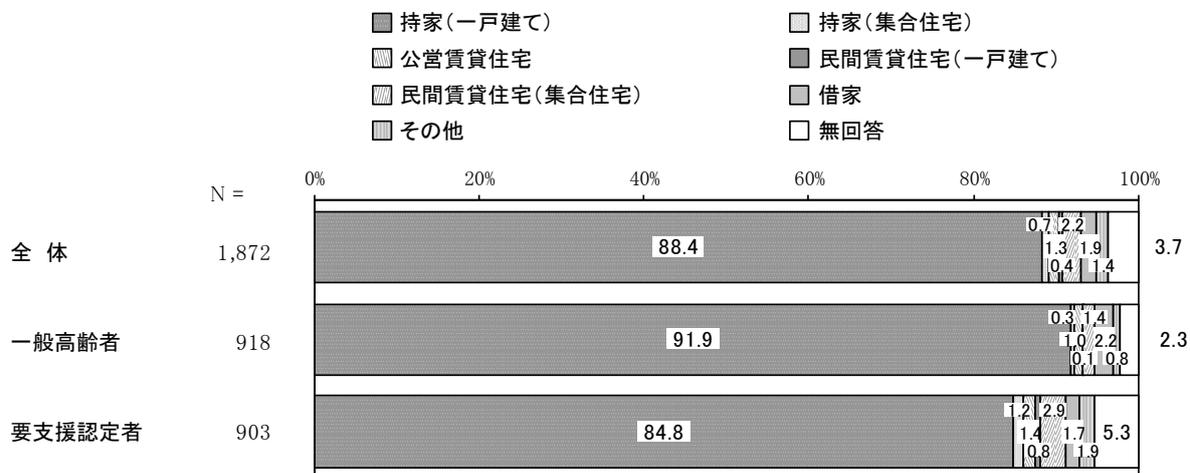
要支援認定者では、「ふつう」の割合が62.2%と最も高く、次いで「やや苦しい」の割合が17.6%となっています。

一般高齢者と要支援認定者で、大きな差異はみられません。



問4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「持家（一戸建て）」の割合が91.9%と最も高くなっています。
 要支援認定者では、「持家（一戸建て）」の割合が84.8%と最も高くなっています。
 要支援認定者に比べ、一般高齢者で「持家（一戸建て）」の割合が高くなっています。

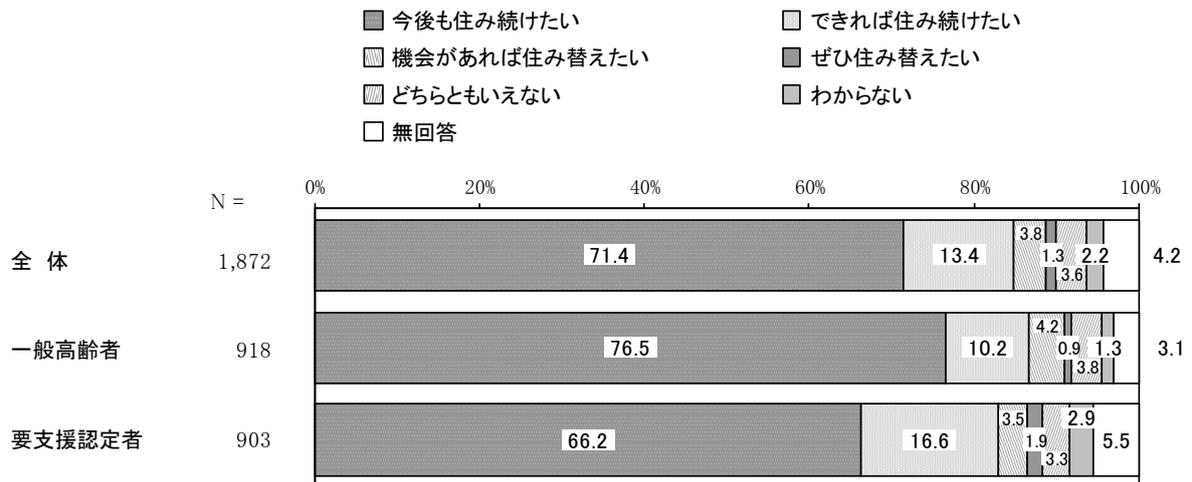


問5 あなたは、現在のお住まいにこれからも住みたいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「今後も住みたい」の割合が76.5%と最も高く、次いで「できれば住みたい」の割合が10.2%となっています。

要支援認定者では、「今後も住みたい」の割合が66.2%と最も高く、次いで「できれば住みたい」の割合が16.6%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「今後も住みたい」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「できれば住みたい」の割合が高くなっています。



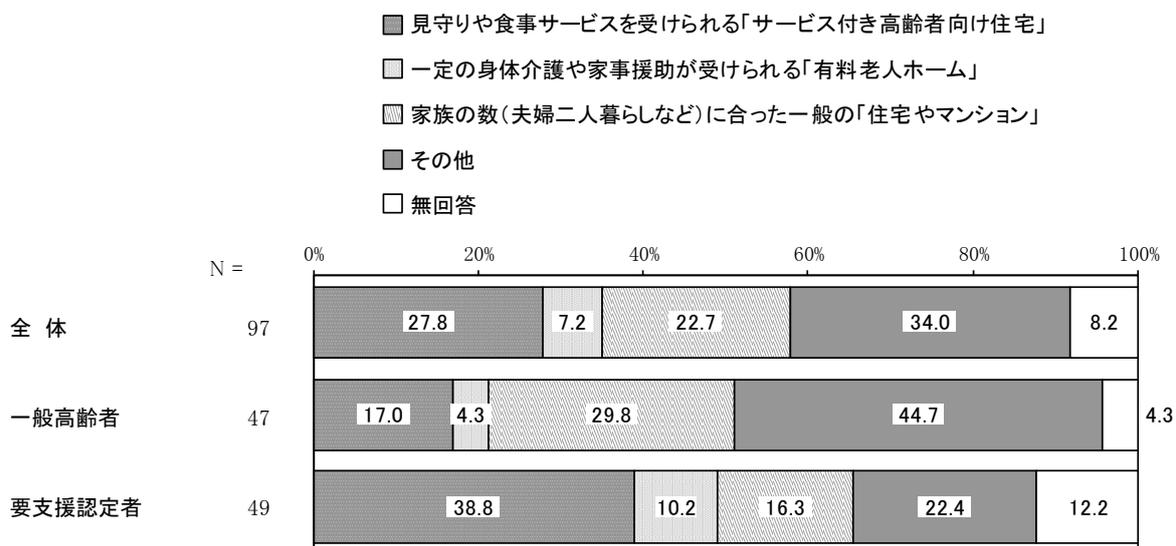
問5で「3 機会があれば住み替えたい」または「4 ぜひ住み替えたい」と回答した方にお伺いします。

問5-② 具体的にどのような種類の住宅に住み替えたいですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「家族の数(夫婦二人暮らしなど)に合った一般の「住宅やマンション」」の割合が29.8%と最も高く、次いで「見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」」の割合が17.0%となっています。

要支援認定者では、「見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」」の割合が38.8%と最も高く、次いで「家族の数(夫婦二人暮らしなど)に合った一般の「住宅やマンション」」の割合が16.3%、「一定の身体介護や家事援助が受けられる「有料老人ホーム」」の割合が10.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「家族の数(夫婦二人暮らしなど)に合った一般の「住宅やマンション」」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」」「一定の身体介護や家事援助が受けられる「有料老人ホーム」」の割合が高くなっています。



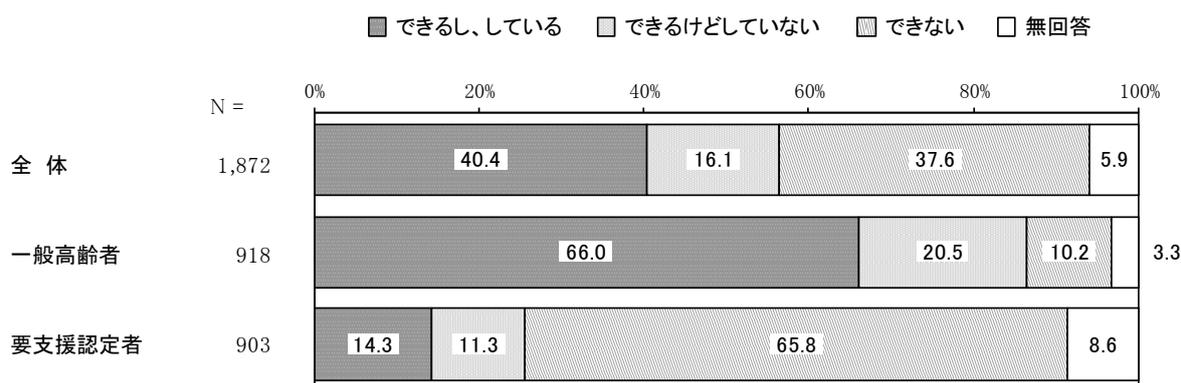
(2) からだを動かすことについて

問6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が66.0%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が20.5%、「できない」の割合が10.2%となっています。

要支援認定者では、「できない」の割合が65.8%と最も高く、次いで「できるし、している」の割合が14.3%、「できるけどしていない」の割合が11.3%となっています。

「できない」の割合は、一般で10.2%、要支援で65.8%となっており、55.6ポイントの差となっています。

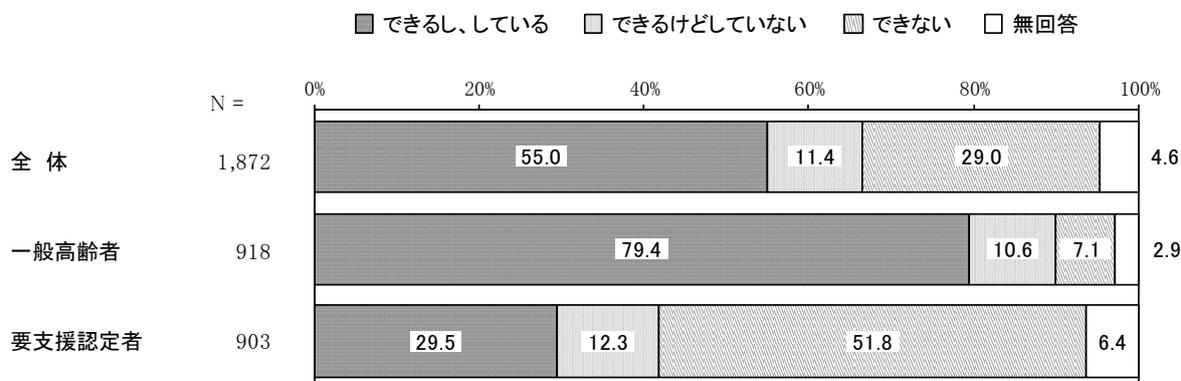


問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が79.4%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が10.6%となっています。

要支援認定者では、「できない」の割合が51.8%と最も高く、次いで「できるし、している」の割合が29.5%、「できるけどしていない」の割合が12.3%となっています。

「できない」の割合は、一般で7.1%、要支援で51.8%となっており、44.7ポイントの差となっています。

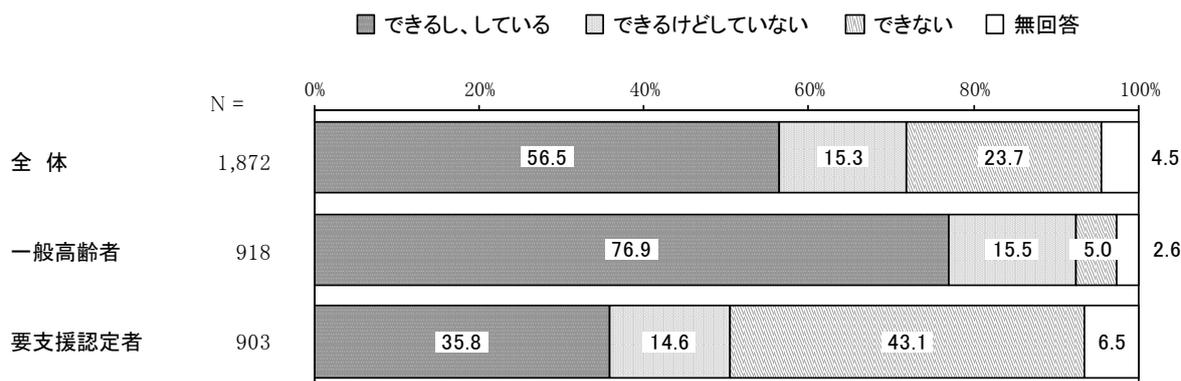


問8 15分位続けて歩いていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が76.9%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が15.5%となっています。

要支援認定者では、「できない」の割合が43.1%と最も高く、次いで「できるし、している」の割合が35.8%、「できるけどしていない」の割合が14.6%となっています。

「できない」の割合は、一般で5.0%、要支援で43.1%となっており、38.1ポイントの差となっています。

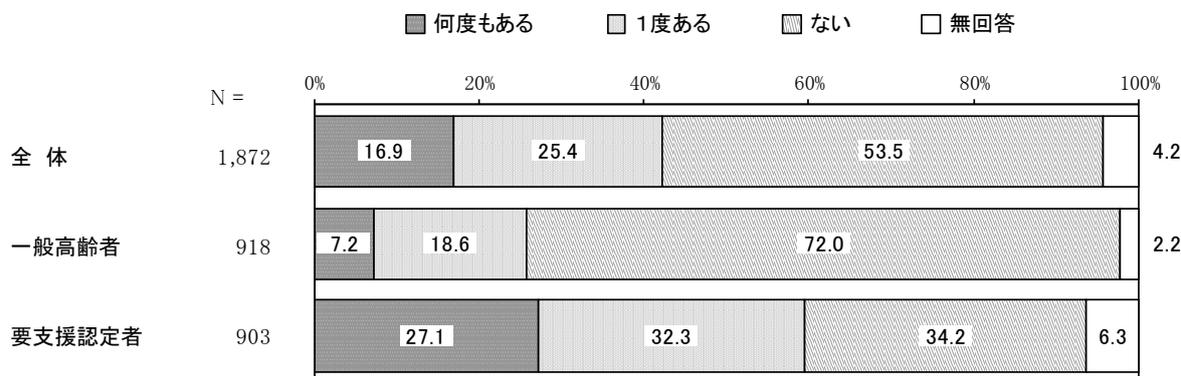


問9 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「ない」の割合が72.0%と最も高く、次いで「1度ある」の割合が18.6%となっています。

要支援認定者では、「ない」の割合が34.2%と最も高く、次いで「1度ある」の割合が32.3%、「何でもある」の割合が27.1%となっています。

「何でもある」と「1度ある」を合わせた“過去1年間に転んだ経験がある人”の割合は、一般で25.8%、要支援で59.4%となっており、33.6ポイントの差となっています。

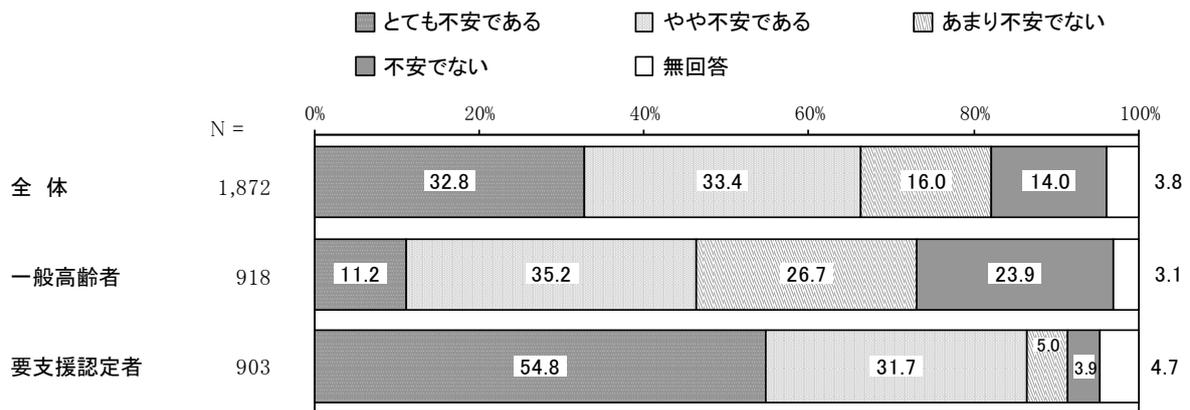


問 10 転倒に対する不安は大きいですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「やや不安である」の割合が 35.2%と最も高く、次いで「あまり不安でない」の割合が 26.7%、「不安でない」の割合が 23.9%となっています。

要支援認定者では、「とても不安である」の割合が 54.8%と最も高く、次いで「やや不安である」の割合が 31.7%となっています。

「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた“転倒に対して不安な人”の割合は、一般で 46.4%、要支援で 86.5%となっており、40.1ポイントの差となっています。

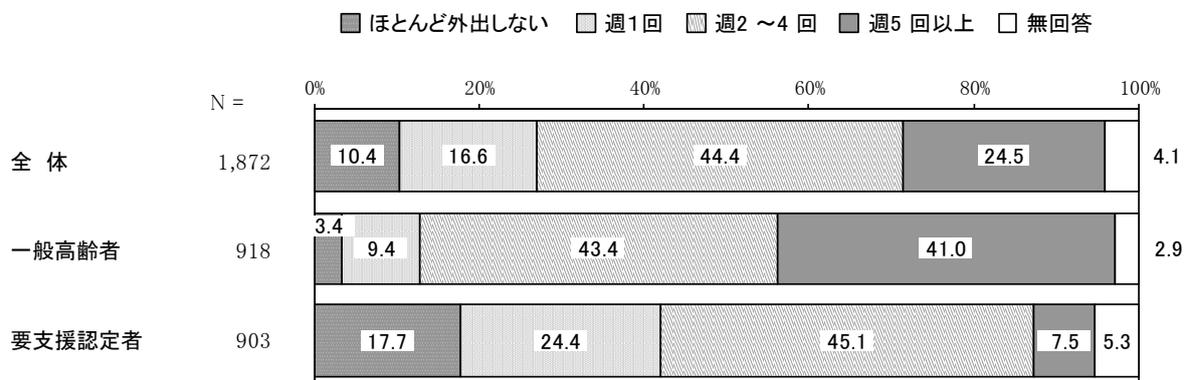


問 11 週に1回以上は外出していますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「週2～4回」の割合が 43.4%と最も高く、次いで「週5回以上」の割合が 41.0%となっています。

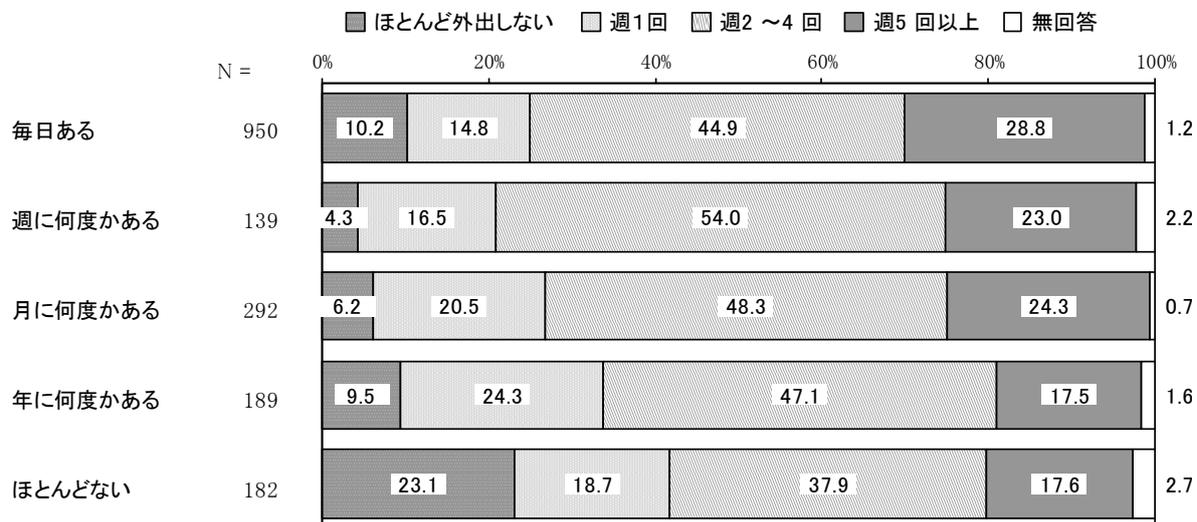
要支援認定者では、「週2～4回」の割合が 45.1%と最も高く、次いで「週1回」の割合が 24.4%、「ほとんど外出しない」の割合が 17.7%となっています。

「ほとんど外出しない」と「週1回」を合わせた“閉じこもり傾向のある人”の割合は、一般で 12.8%、要支援で 42.1%となっており、29.3ポイントの差となっています。



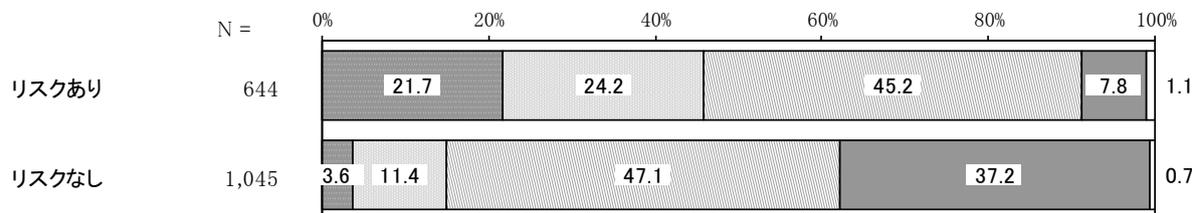
【誰かと食事をとにもする機会の有無別】

誰かと食事をとにもする機会の有無別でみると、他に比べ、誰かと食事をとにもする機会が多くなるにつれ「週5回以上」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、ほとんどない人で「ほとんど外出しない」の割合が高くなっています。



【運動機能のリスク別】

運動機能のリスク別でみると、他に比べ、リスクがない人に比べ、リスクがある人で「ほとんど外出しない」「週1回」の割合が高く、「週5回以上」の割合が低くなっています。

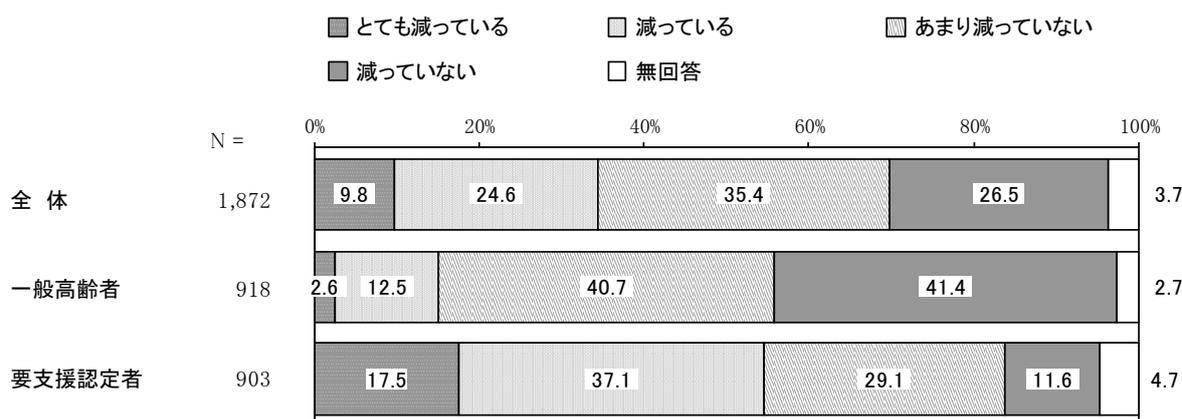


問 12 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「減っていない」の割合が41.4%と最も高く、次いで「あまり減っていない」の割合が40.7%、「減っている」の割合が12.5%となっています。

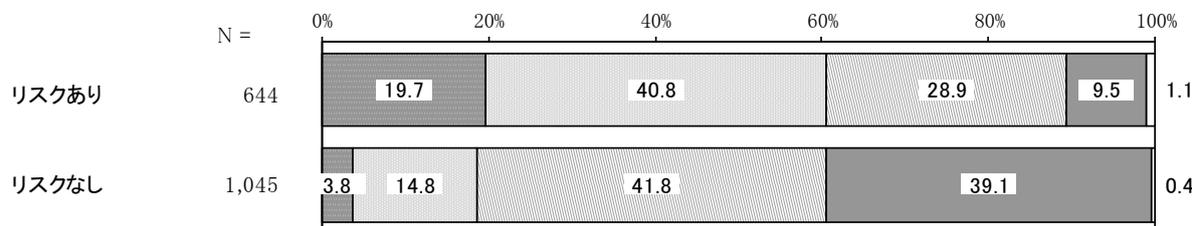
要支援認定者では、「減っている」の割合が37.1%と最も高く、次いで「あまり減っていない」の割合が29.1%、「とても減っている」の割合が17.5%となっています。

「とても減っている」と「減っている」を合わせた“外出の回数が減っている人”の割合は、一般で15.1%、要支援で54.6%となっており、39.5ポイントの差となっています。



【運動機能のリスク別】

運動機能のリスク別でみると、リスクがない人に比べ、リスクがある人で”外出の回数が減っている人“の割合が高くなっています。

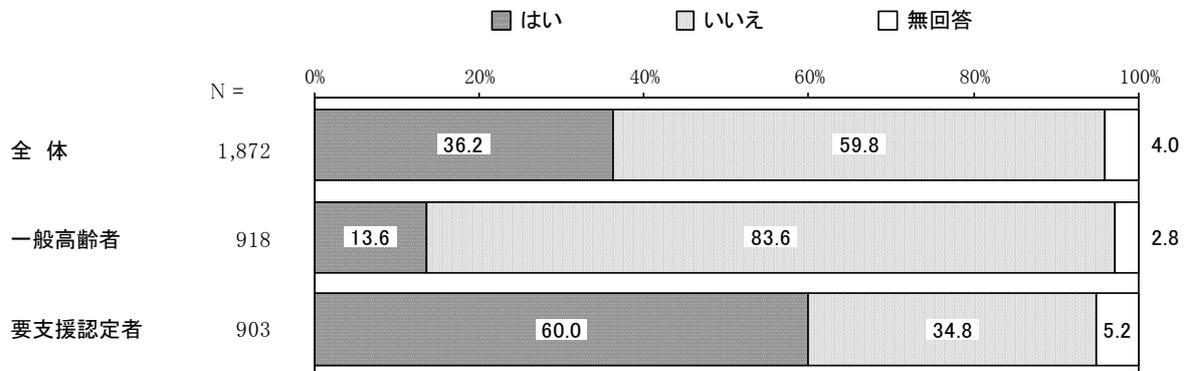


問 13 外出を控えていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が13.6%、「いいえ」の割合が83.6%となっています。

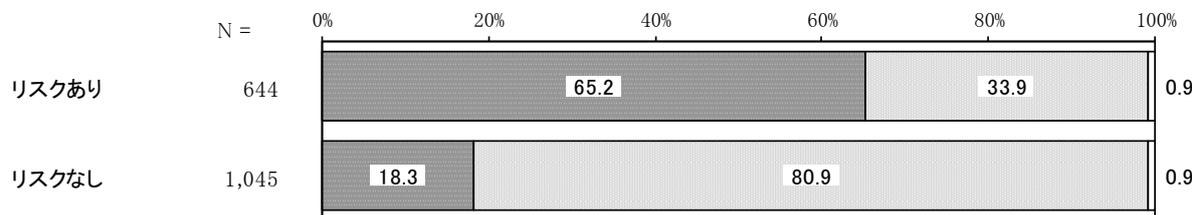
要支援認定者では、「はい」の割合が60.0%、「いいえ」の割合が34.8%となっています。

「はい」の割合は、一般で13.6%、要支援で60.0%となっており、46.4ポイントの差となっています。



【運動機能のリスク別】

運動機能のリスク別でみると、リスクがない人に比べ、リスクがある人で”はい“の割合が高くなっています。



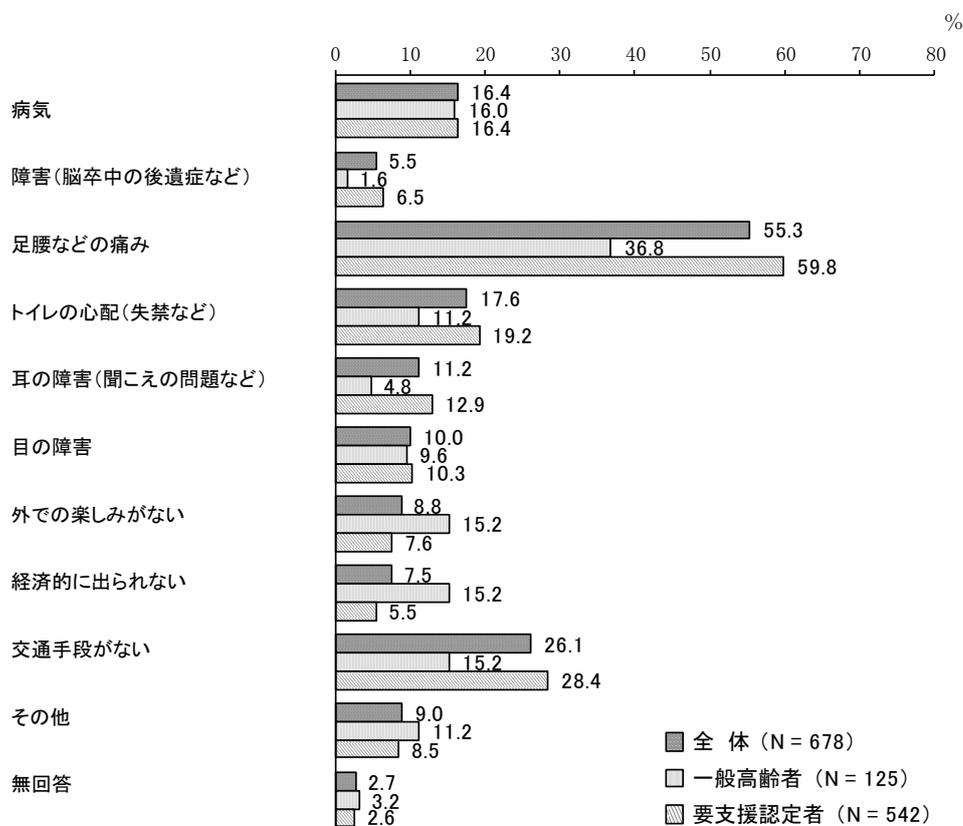
問13で「1 はい」と回答した方にお伺いします。

問13-② 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「足腰などの痛み」の割合が36.8%と最も高く、次いで「病気」の割合が16.0%、「外での楽しみがない」、「経済的に出られない」、「交通手段がない」の割合が15.2%となっています。

要支援認定者では、「足腰などの痛み」の割合が59.8%と最も高く、次いで「交通手段がない」の割合が28.4%、「トイレの心配(失禁など)」の割合が19.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「外での楽しみがない」「経済的に出られない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「足腰などの痛み」「トイレの心配(失禁など)」「耳の障害(聞こえの問題など)」「交通手段がない」の割合が高くなっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「病気」「障害（脳卒中の後遺症など）」「目の障害」「外での楽しみがない」「経済的に出られない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「足腰などの痛み」「交通手段がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	病気	障害（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
男性	212	19.8	9.4	45.3	17.0	13.2	14.6	12.7	11.8	19.3	8.5	1.9
女性	455	14.7	3.7	60.2	18.0	10.5	8.1	7.3	5.3	29.0	9.2	3.1

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「交通手段がない」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部で「耳の障害（聞こえの問題など）」の割合が高くなっています。

単位：％

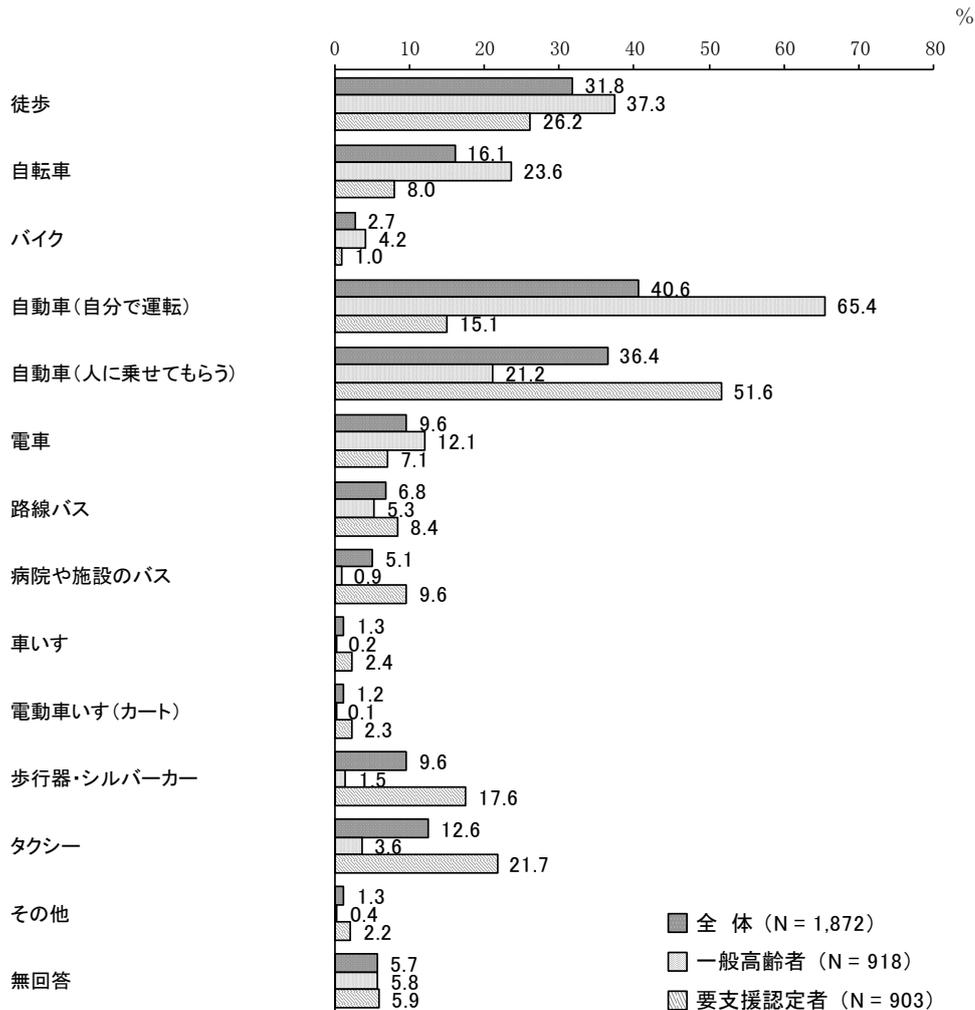
区分	有効回答数（件）	病気	障害（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
鈴鹿西部	130	15.4	5.4	57.7	20.0	17.7	9.2	9.2	10.8	25.4	5.4	3.8
鈴鹿北部	132	16.7	5.3	52.3	18.2	9.1	11.4	11.4	8.3	30.3	6.8	2.3
鈴鹿中部	131	13.7	5.3	52.7	16.0	9.2	12.2	6.1	7.6	24.4	10.7	1.5
鈴鹿南部	136	19.1	5.9	59.6	19.1	9.6	9.6	8.1	4.4	22.8	11.0	3.7
亀山	138	16.7	5.8	55.1	15.2	11.6	8.7	10.1	5.8	26.8	10.9	2.2

問 14 外出する際の移動手段は何ですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「自動車（自分で運転）」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が 37.3%、「自転車」の割合が 23.6%となっています。

要支援認定者では、「自動車（人に乗せてもらう）」の割合が 51.6%と最も高く、次いで「徒歩」の割合が 26.2%、「タクシー」の割合が 21.7%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「徒歩」「自転車」「自動車（自分で運転）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「自動車（人に乗せてもらう）」「病院や施設のバス」「歩行器・シルバーカー」「タクシー」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)で「自動車(自分で運転)」の割合が高くなっています。また、息子・娘との2世帯で「自動車(人に乗せてもらう)」の割合が、1人暮らしで「路線バス」「歩行器・シルバーカー」「タクシー」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス
1人暮らし	372	32.3	12.4	3.0	23.1	35.5	12.6	11.8
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	622	36.0	20.6	2.7	52.7	34.1	12.4	5.5
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	60	30.0	20.0	6.7	75.0	15.0	8.3	3.3
息子・娘との2世帯	428	32.5	15.0	2.1	36.7	43.9	5.4	7.5
その他	281	28.1	17.4	3.6	44.5	39.9	9.3	4.3

区分	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・ シルバーカー	タクシー	その他	無回答
1人暮らし	9.9	0.3	2.4	16.9	22.3	3.0	3.0
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	1.8	1.6	0.8	2.9	9.8	0.5	5.5
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	1.7	1.7	—	5.0	1.7	—	5.0
息子・娘との2世帯	6.1	1.9	0.7	13.1	11.7	0.9	2.6
その他	5.0	0.7	1.1	10.0	9.3	1.4	2.8

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿南部で「徒歩」「自転車」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「電車」の割合が、亀山で「タクシー」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運 転)	自動車 (人に乗せて もらう)	電車	路線バス
鈴鹿西部	347	27.4	14.1	2.6	43.8	33.7	3.7	11.2
鈴鹿北部	365	33.7	18.6	2.2	35.6	37.8	16.2	2.7
鈴鹿中部	377	30.5	15.4	3.2	40.1	36.3	9.8	6.6
鈴鹿南部	362	38.7	23.2	2.5	39.5	35.6	15.5	7.2
亀山	370	28.6	8.1	2.7	43.2	37.8	2.7	6.8

区分	病院や施設のバス	車いす	自動車いす (カー ト)	歩行器・シルバーク 	タクシー	その他	無回答
鈴鹿西部	5.2	0.9	2.0	8.4	9.8	1.7	4.6
鈴鹿北部	4.7	1.6	0.5	10.1	11.2	1.9	6.6
鈴鹿中部	5.6	1.3	1.1	11.1	10.9	1.6	7.2
鈴鹿南部	6.4	1.1	1.4	9.9	12.4	0.6	5.0
亀山	4.3	1.6	1.1	7.8	18.4	0.8	5.7

(3) 食べることについて

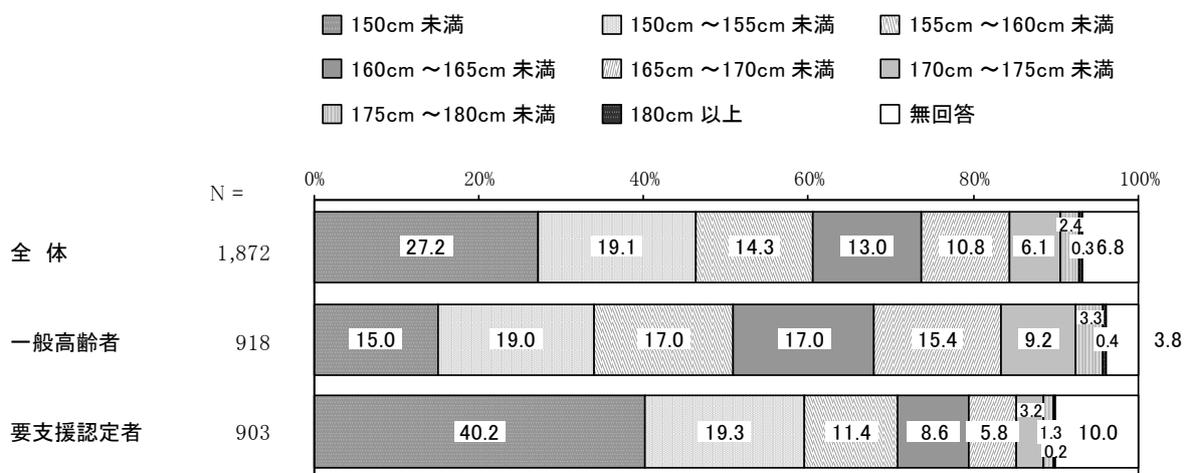
問 15 身長・体重をご記入ください。

① 身長

一般高齢者では、「150cm～155cm 未満」の割合が 19.0%と最も高く、次いで「155cm～160cm 未満」、「160cm～165cm 未満」の割合が 17.0%となっています。

要支援認定者では、「150cm 未満」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「150cm～155cm 未満」の割合が 19.3%、「155cm～160cm 未満」の割合が 11.4%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「155cm～160cm 未満」「160cm～165cm 未満」「165cm～170cm 未満」「170cm～175cm 未満」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「150cm 未満」の割合が高くなっています。

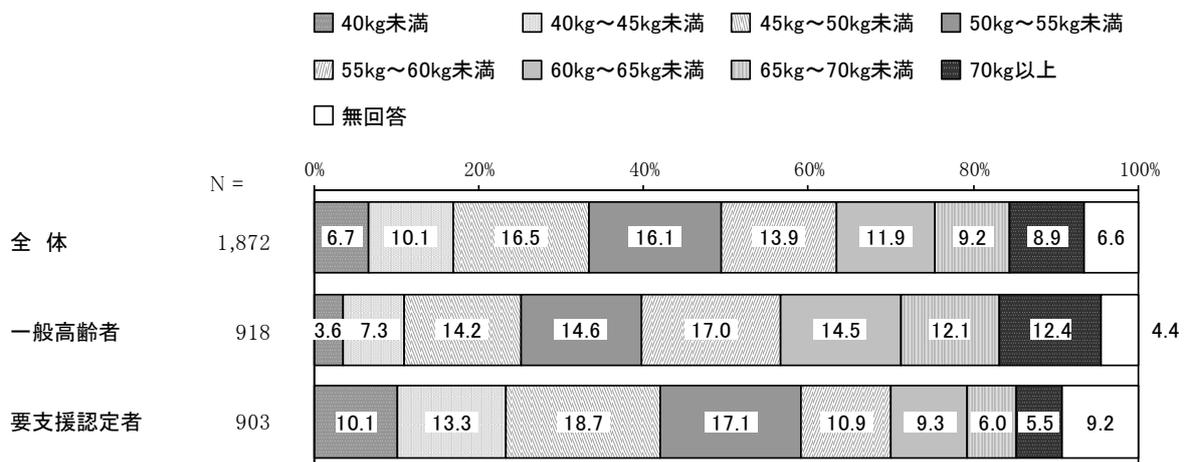


② 体重

一般高齢者では、「55kg～60kg 未満」の割合が 17.0%と最も高く、次いで「50kg～55kg 未満」の割合が 14.6%、「60kg～65kg 未満」の割合が 14.5%となっています。

要支援認定者では、「45kg～50kg 未満」の割合が 18.7%と最も高く、次いで「50kg～55kg 未満」の割合が 17.1%、「40kg～45kg 未満」の割合が 13.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「55kg～60kg 未満」「60kg～65kg 未満」「65kg～70kg 未満」「70kg 以上」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「40kg 未満」「40kg～45kg 未満」の割合が高くなっています。

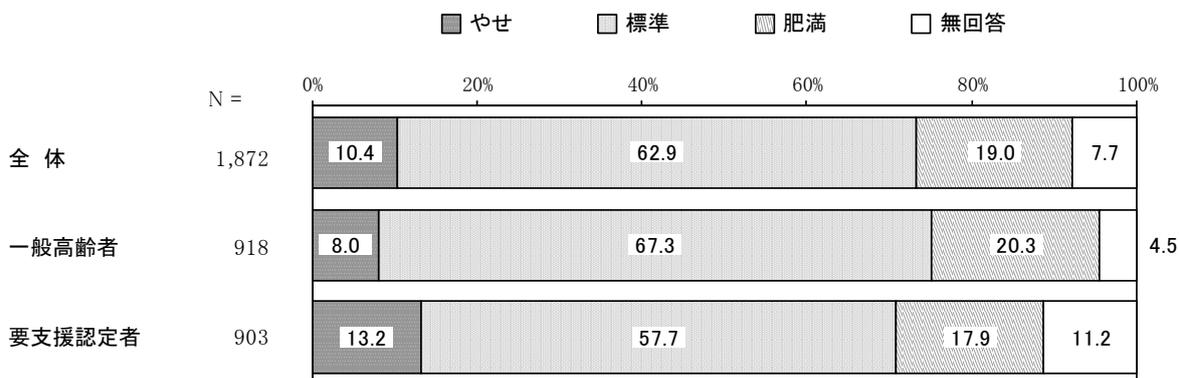


BMI

一般高齢者では、「標準」の割合が67.3%と最も高く、次いで「肥満」の割合が20.3%となっています。

要支援認定者では、「標準」の割合が57.7%と最も高く、次いで「肥満」の割合が17.9%、「やせ」の割合が13.2%となっています。

「やせ」の割合は、一般で8.0%、要支援で13.2%、「標準」の割合は、一般で67.3%、要支援で57.7%、「肥満」の割合は、一般で20.3%、要支援で17.9%となっております。

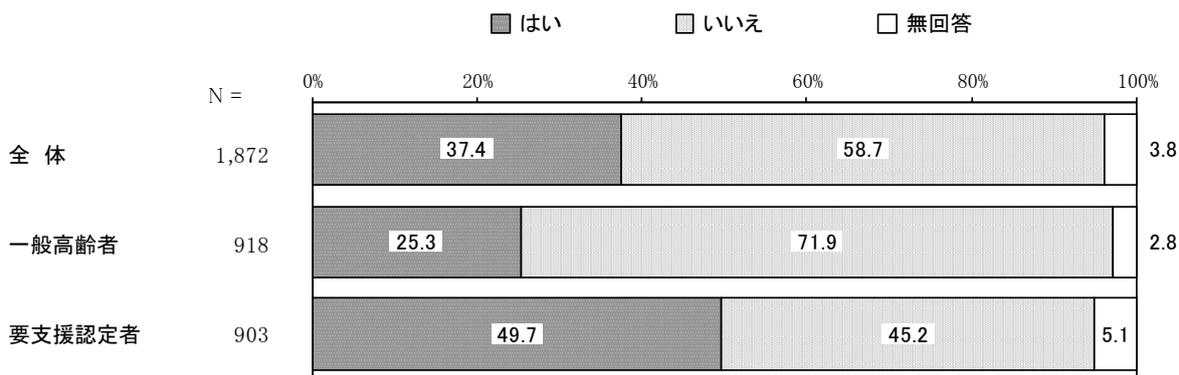


問 16 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が25.3%、「いいえ」の割合が71.9%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が49.7%、「いいえ」の割合が45.2%となっています。

「はい」の割合は、一般で25.3%、要支援で49.7%となっており、24.4ポイントの差となっています。

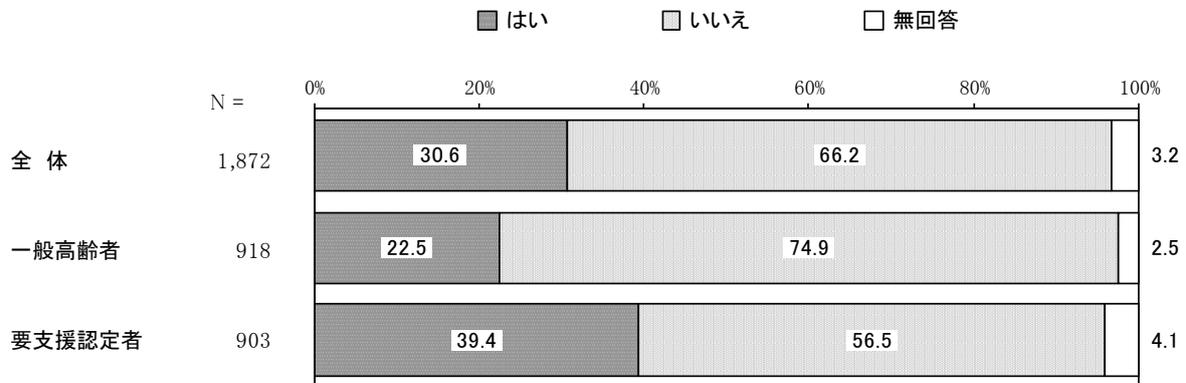


問 17 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が22.5%、「いいえ」の割合が74.9%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が39.4%、「いいえ」の割合が56.5%となっています。

「はい」の割合は、一般で22.5%、要支援で39.4%となっており、16.9ポイントの差となっています。

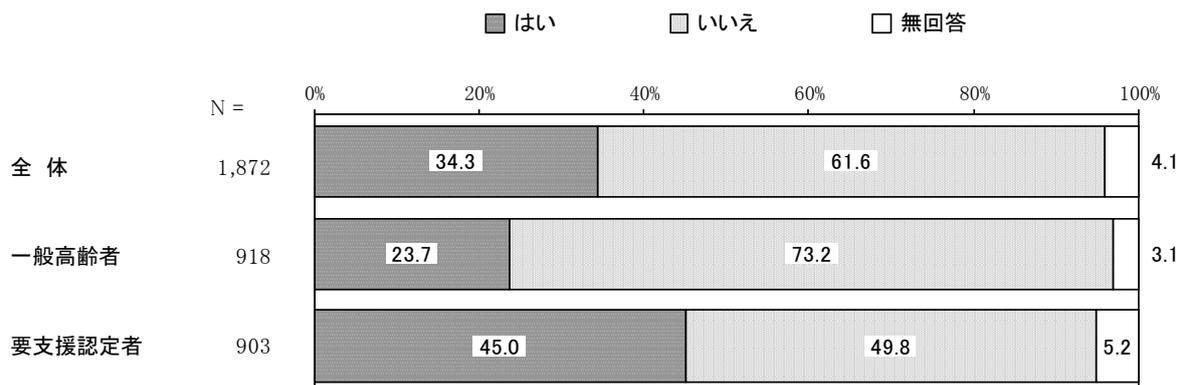


問 18 口の渇きが気になりますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が23.7%、「いいえ」の割合が73.2%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が45.0%、「いいえ」の割合が49.8%となっています。

「はい」の割合は、一般で23.7%、要支援で45.0%となっており、21.3ポイントの差となっています。

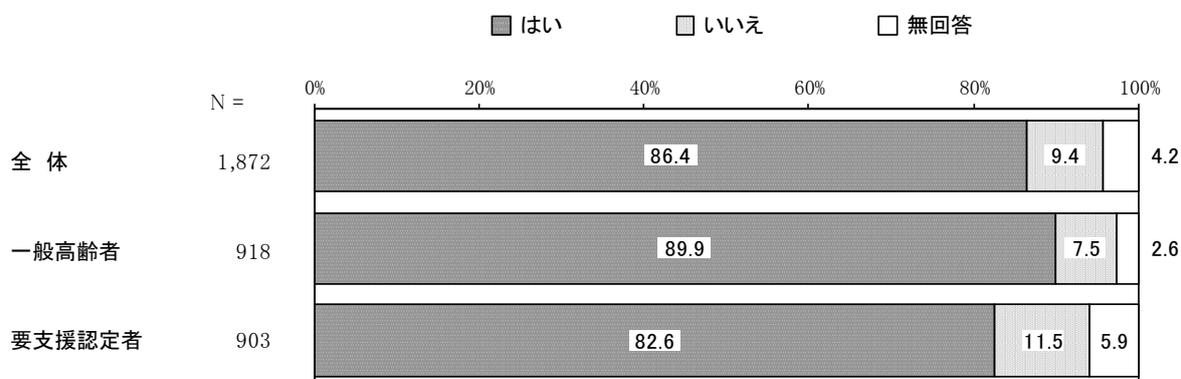


問 19 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「はい」の割合が89.9%、「いいえ」の割合が7.5%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が82.6%、「いいえ」の割合が11.5%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で7.5%、要支援で11.5%となっており、4.0ポイントの差となっています。

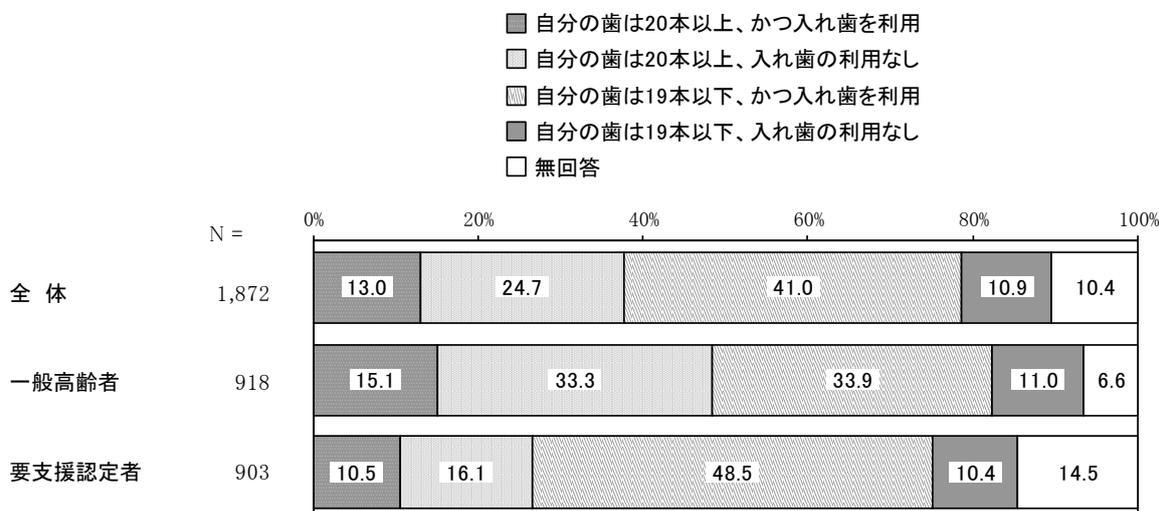


問 20 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）（1つを選択）

一般高齢者では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が33.9%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が33.3%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」の割合が15.1%となっています。

要支援認定者では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が48.5%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が16.1%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」の割合が10.5%となっています。

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」を合わせた“自分の歯は20本以上の人”の割合は、一般で48.4%、要支援で26.6%となっており、21.8ポイントの差となっています。また、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」を合わせた“入れ歯を利用している人”の割合は、一般で49.0%、要支援で59.0%となっており、10.0ポイントの差となっています。



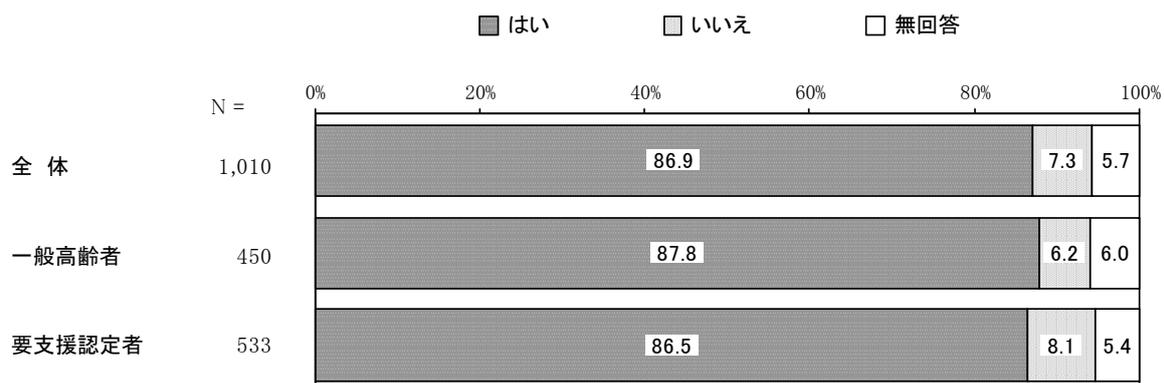
問 20 で「1 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」または「3 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と回答した方にお伺いします。

問 20-② 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が 87.8%、「いいえ」の割合が 6.2%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が 86.5%、「いいえ」の割合が 8.1%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で 6.2%、要支援で 8.1%となっており、1.9 ポイントの差となっています。

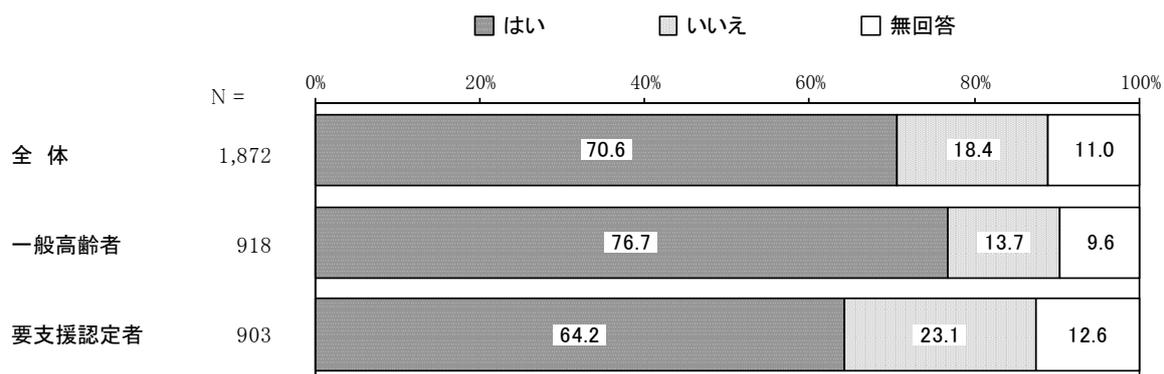


問 21 噛み合わせは良いですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が 76.7%、「いいえ」の割合が 13.7%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が 64.2%、「いいえ」の割合が 23.1%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で 13.7%、要支援で 23.1%となっており、9.4 ポイントの差となっています。

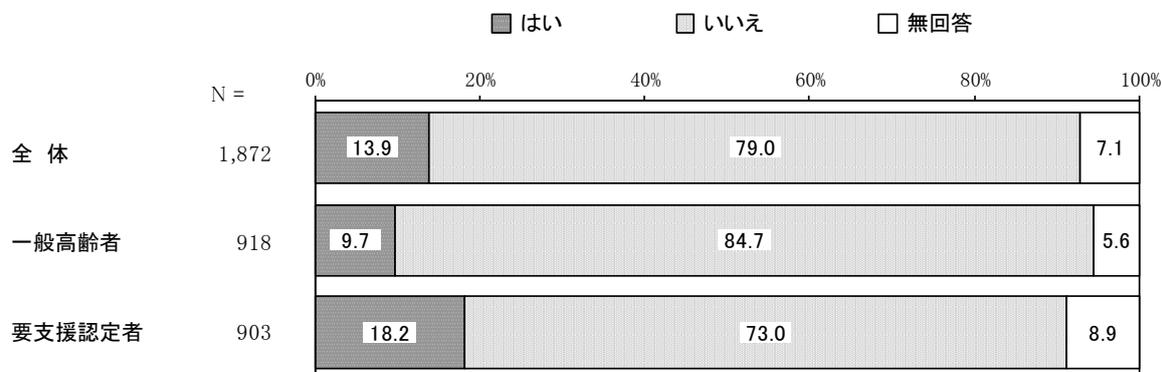


問 22 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が9.7%、「いいえ」の割合が84.7%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が18.2%、「いいえ」の割合が73.0%となっています。

「はい」の割合は、一般で9.7%、要支援で18.2%となっており、8.5ポイントの差となっています。

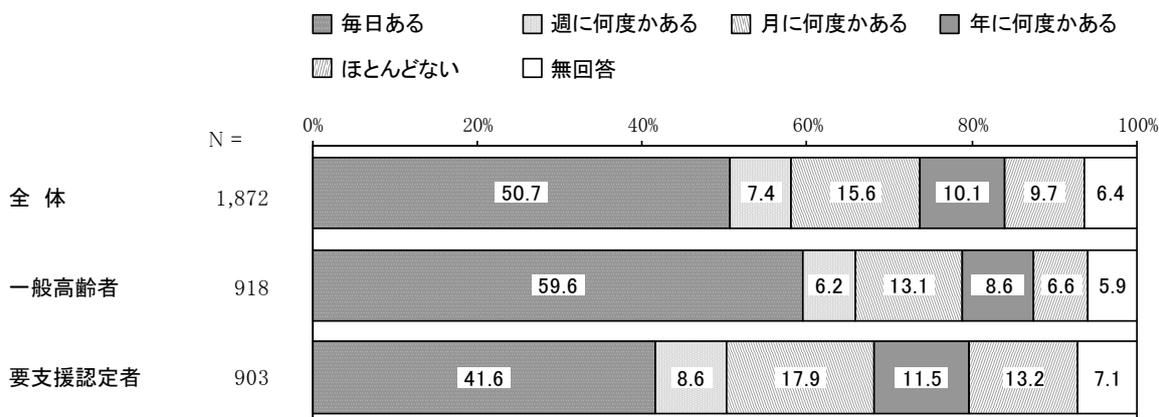


問 23 どなたかと食事をとる機会がありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「毎日ある」の割合が59.6%と最も高く、次いで「月に何度かある」の割合が13.1%となっています。

要支援認定者では、「毎日ある」の割合が41.6%と最も高く、次いで「月に何度かある」の割合が17.9%、「ほとんどない」の割合が13.2%となっています。

「毎日ある」の割合は、一般で59.6%、要支援で41.6%となっており、18.0ポイントの差となっています。また、「ほとんどない」の割合は、一般で6.6%、要支援で13.2%となっており、6.6ポイントの差となっています。



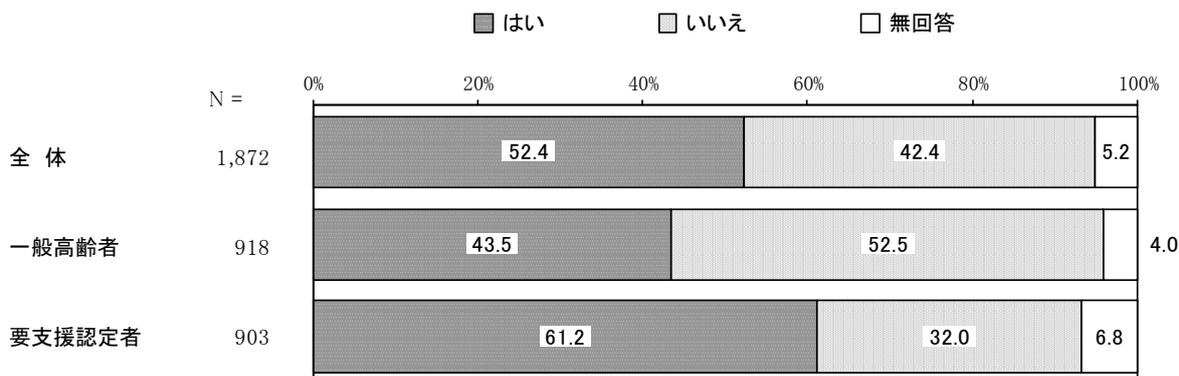
(4) 毎日の生活について

問 24 物忘れが多いと感じますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が43.5%、「いいえ」の割合が52.5%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が61.2%、「いいえ」の割合が32.0%となっています。

「はい」の割合は、一般で43.5%、要支援で61.2%となっており、17.7ポイントの差となっています。

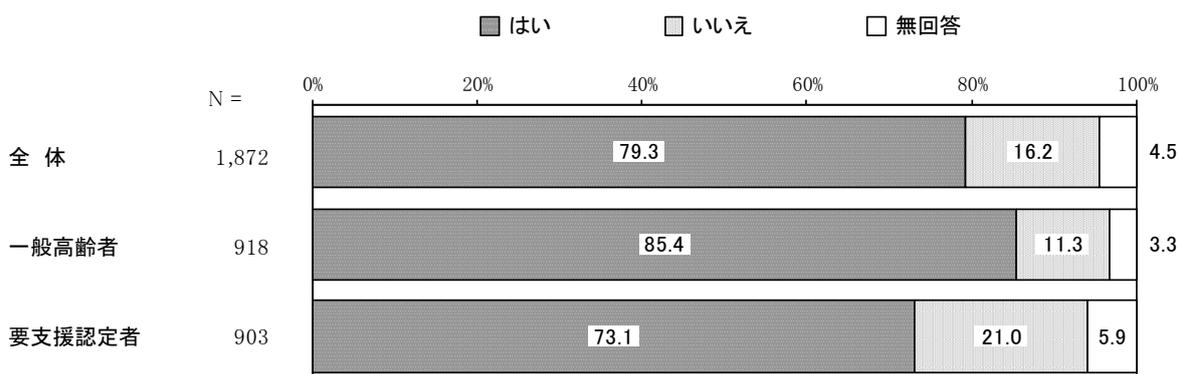


問 25 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が85.4%、「いいえ」の割合が11.3%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が73.1%、「いいえ」の割合が21.0%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で11.3%、要支援で21.0%となっており、9.7ポイントの差となっています。

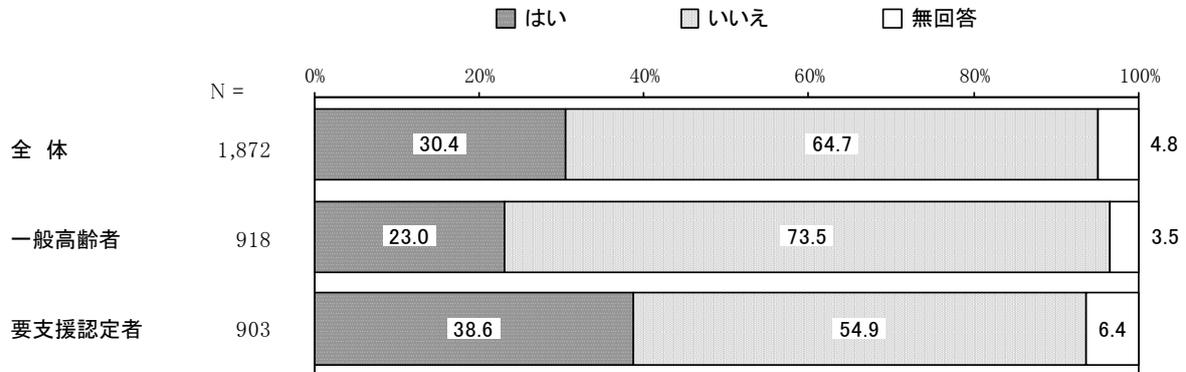


問 26 今日が何月何日かわからない時がありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が23.0%、「いいえ」の割合が73.5%となっています。

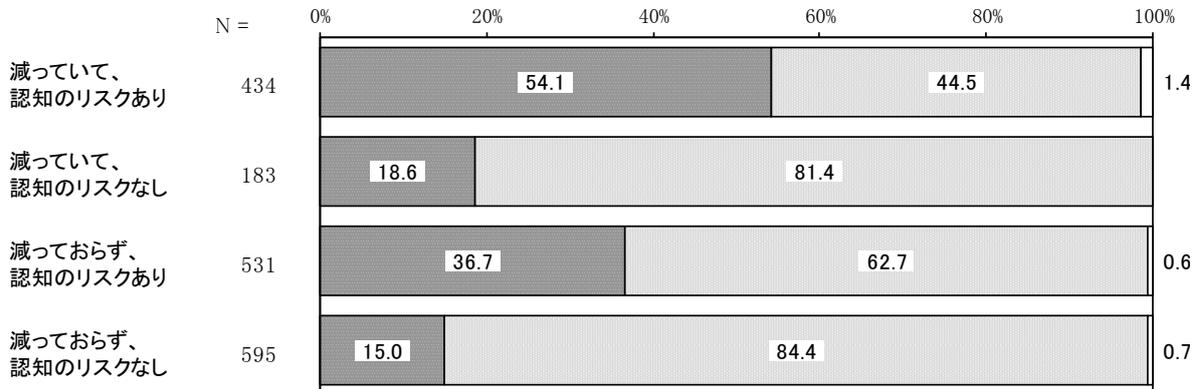
要支援認定者では、「はい」の割合が38.6%、「いいえ」の割合が54.9%となっています。

「はい」の割合は、一般で23.0%、要支援で38.6%となっており、15.6ポイントの差となっています。



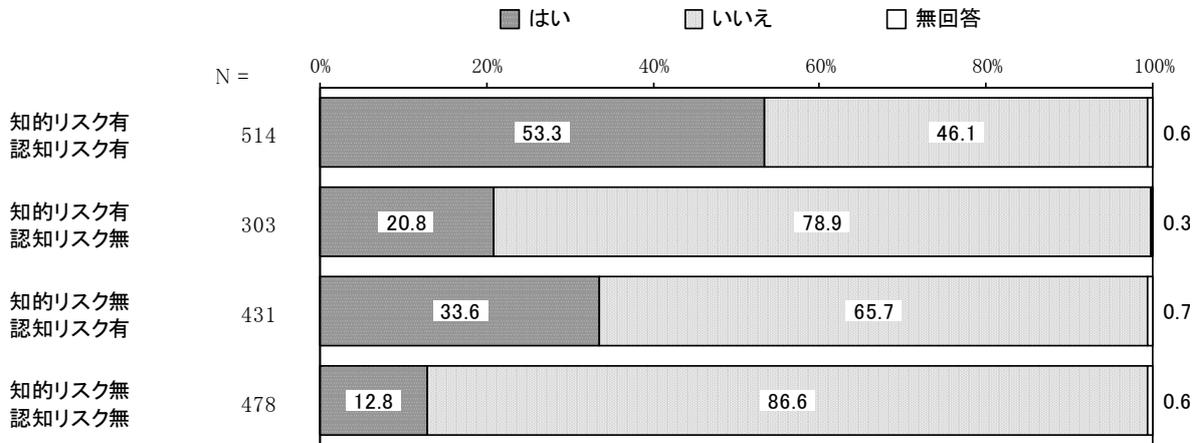
【外出頻度の減少と認知機能のリスク別】

外出頻度の減少と認知機能のリスク別でみると、他に比べ、外出の回数が減っていて、認知機能のリスクがある人で「はい」の割合が高くなっています。



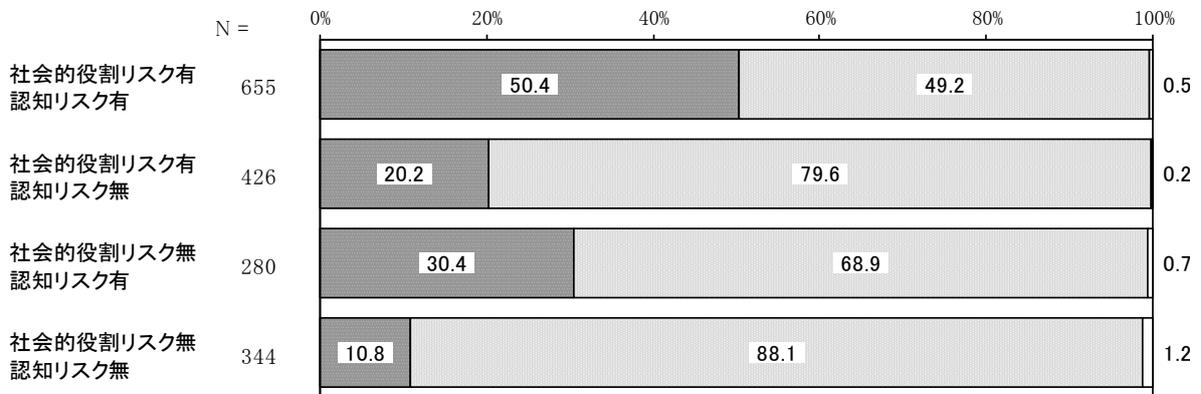
【知的能動性のリスクと認知機能のリスク別】

知的能動性のリスクと認知機能のリスク別でみると、他に比べ、知的能動性のリスク、認知機能のリスクがともにある人で「はい」の割合が高くなっています。



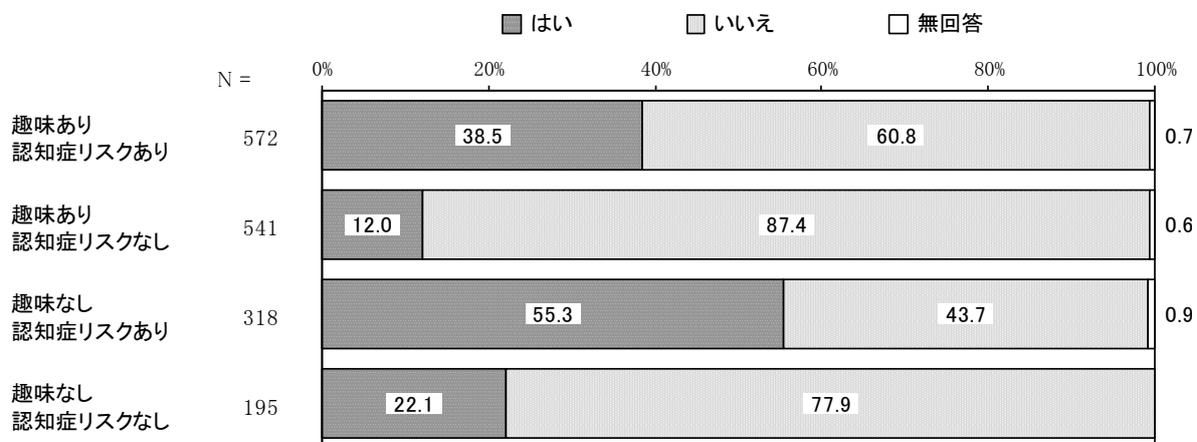
【社会的役割のリスクと認知機能のリスク別】

社会的役割のリスクと認知機能のリスク別でみると、他に比べ、社会的役割のリスク、認知機能のリスクがともにある人で「はい」の割合が高くなっています。



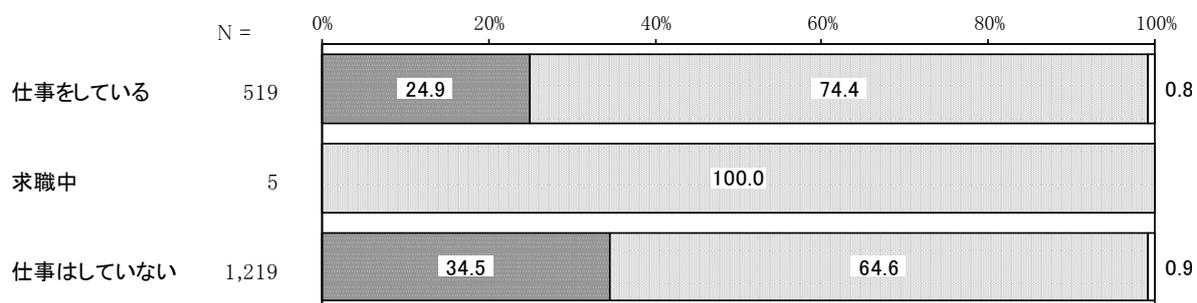
【趣味の有無と認知機能のリスク別】

趣味の有無と認知機能のリスク別でみると、他に比べ、趣味がなく、かつ認知症リスクがある人で「はい」の割合が高くなっています。



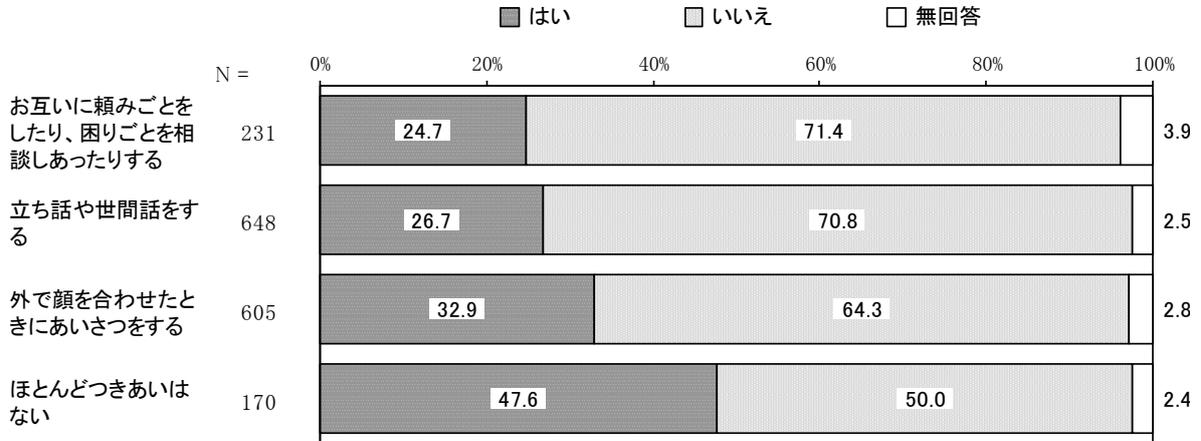
【仕事の有無と認知機能のリスク別】

仕事の有無と認知機能のリスク別でみると、他に比べ、仕事はしていない人で「はい」の割合が高くなっています。



【近所づきあいの程度別】

近所づきあいの程度別でみると、近所づきあいの程度が薄くなるにつれ「はい」の割合が高くなっています。

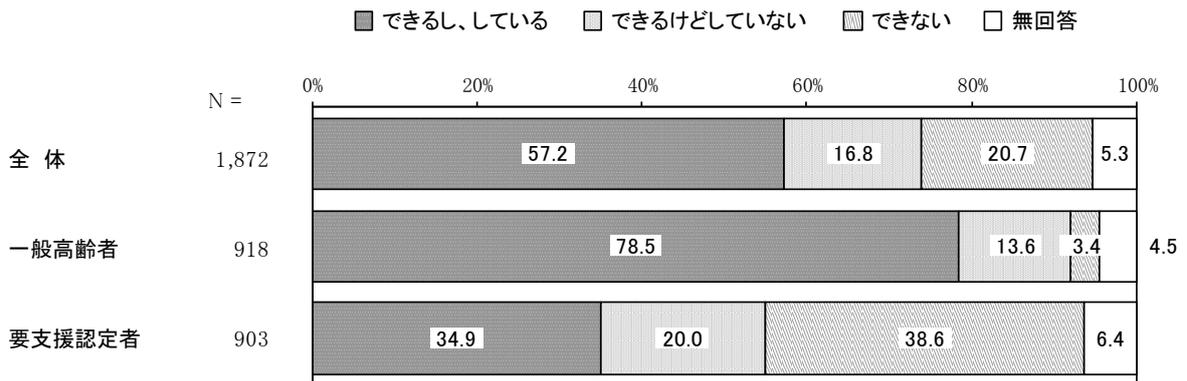


問 27 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が78.5%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が13.6%となっています。

要支援認定者では、「できない」の割合が38.6%と最も高く、次いで「できるし、している」の割合が34.9%、「できるけどしていない」の割合が20.0%となっています。

「できない」の割合は、一般で3.4%、要支援で38.6%となっており、35.2ポイントの差となっています。

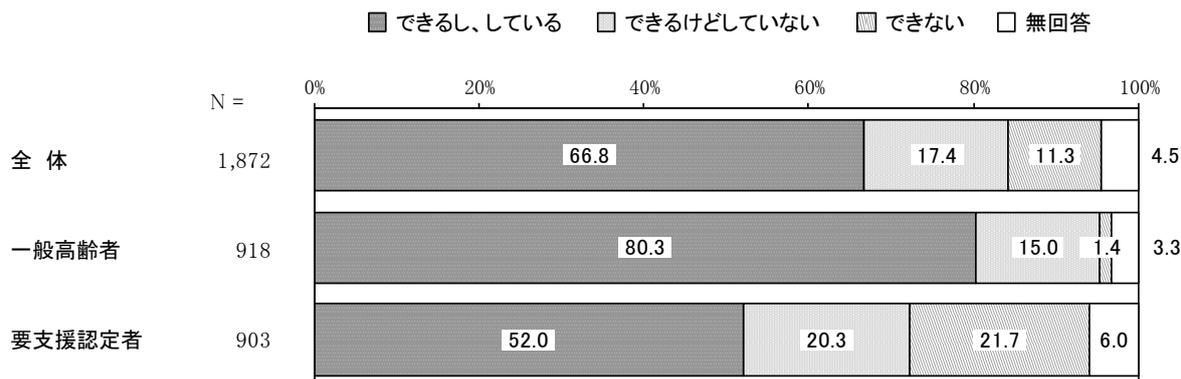


問 28 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が 80.3%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 15.0%となっています。

要支援認定者では、「できるし、している」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「できない」の割合が 21.7%、「できるけどしていない」の割合が 20.3%となっています。

「できない」の割合は、一般で 1.4%、要支援で 21.7%となっており、20.3ポイントの差となっています。

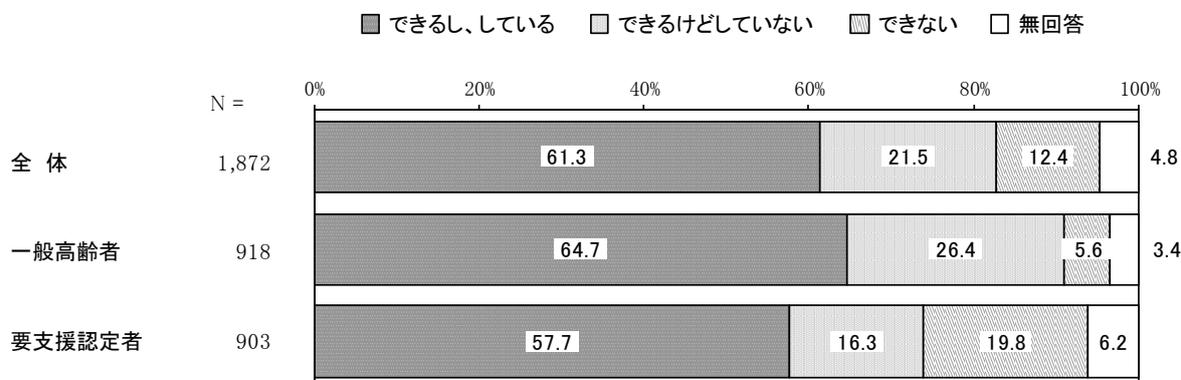


問 29 自分で食事の用意をしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 26.4%となっています。

要支援認定者では、「できるし、している」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「できない」の割合が 19.8%、「できるけどしていない」の割合が 16.3%となっています。

「できない」の割合は、一般で 5.6%、要支援で 19.8%となっており、14.2ポイントの差となっています。

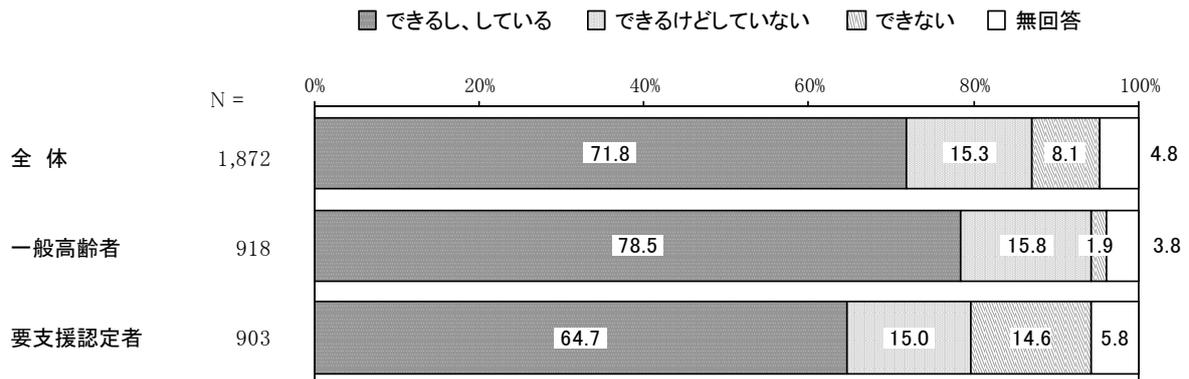


問 30 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が 78.5%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 15.8%となっています。

要支援認定者では、「できるし、している」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 15.0%、「できない」の割合が 14.6%となっています。

「できない」の割合は、一般で 1.9%、要支援で 14.6%となっており、12.7 ポイントの差となっています。

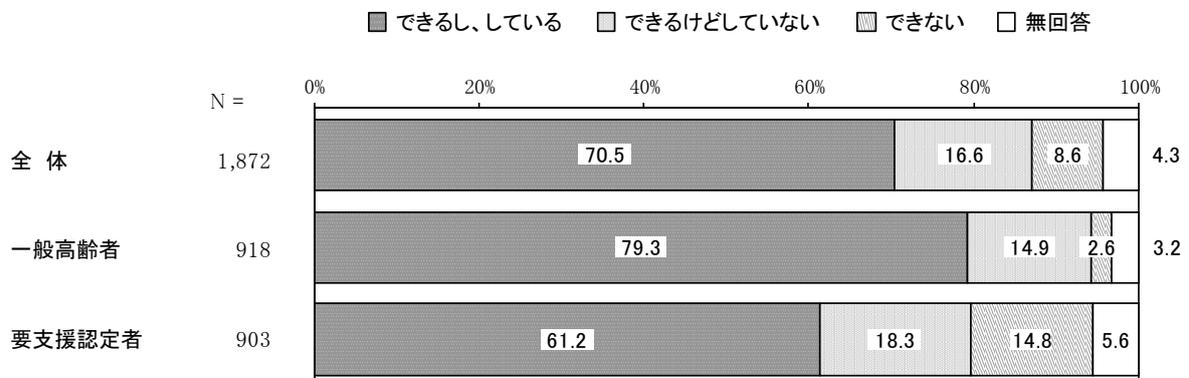


問 31 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「できるし、している」の割合が 79.3%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 14.9%となっています。

要支援認定者では、「できるし、している」の割合が 61.2%と最も高く、次いで「できるけどしていない」の割合が 18.3%、「できない」の割合が 14.8%となっています。

「できない」の割合は、一般で 2.6%、要支援で 14.8%となっており、12.2 ポイントの差となっています。

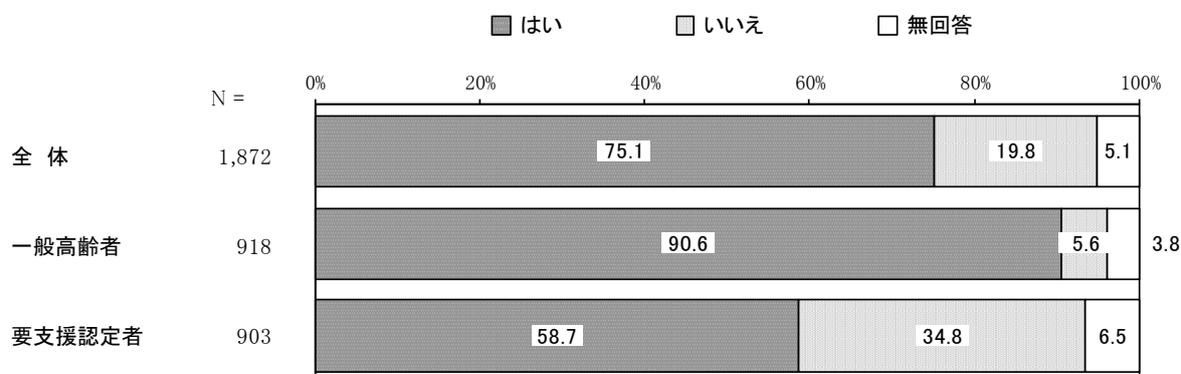


問 32 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「はい」の割合が90.6%、「いいえ」の割合が5.6%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が58.7%、「いいえ」の割合が34.8%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で5.6%、要支援で34.8%となっており、29.2ポイントの差となっています。

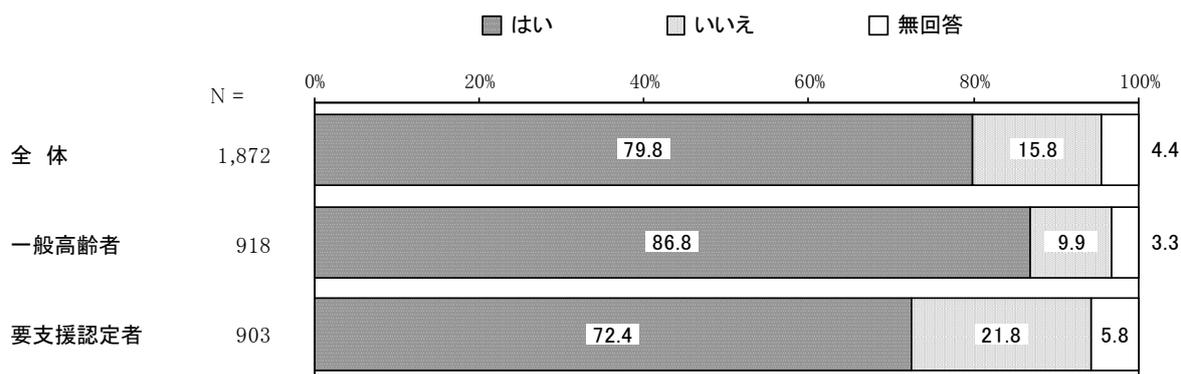


問 33 新聞を読んでいますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「はい」の割合が86.8%、「いいえ」の割合が9.9%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が72.4%、「いいえ」の割合が21.8%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で9.9%、要支援で21.8%となっており、11.9ポイントの差となっています。

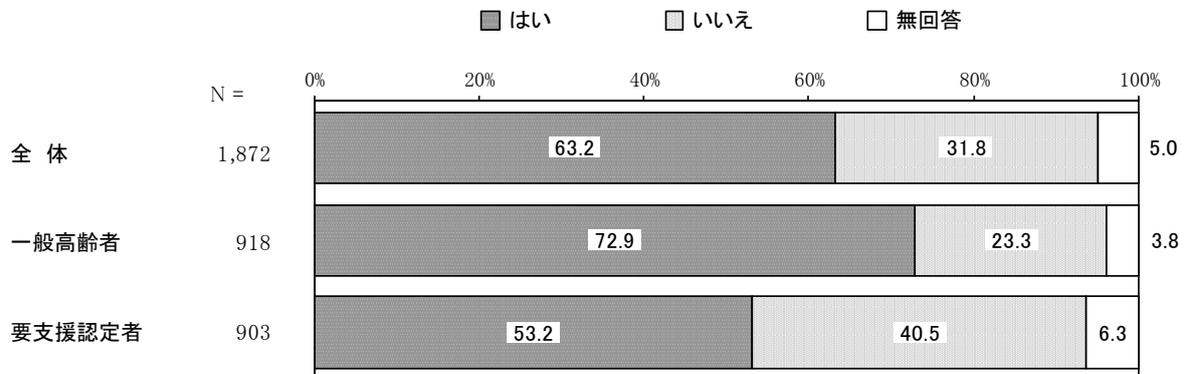


問 34 本や雑誌を読んでいますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が72.9%、「いいえ」の割合が23.3%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が53.2%、「いいえ」の割合が40.5%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で23.3%、要支援で40.5%となっており、17.2ポイントの差となっています。

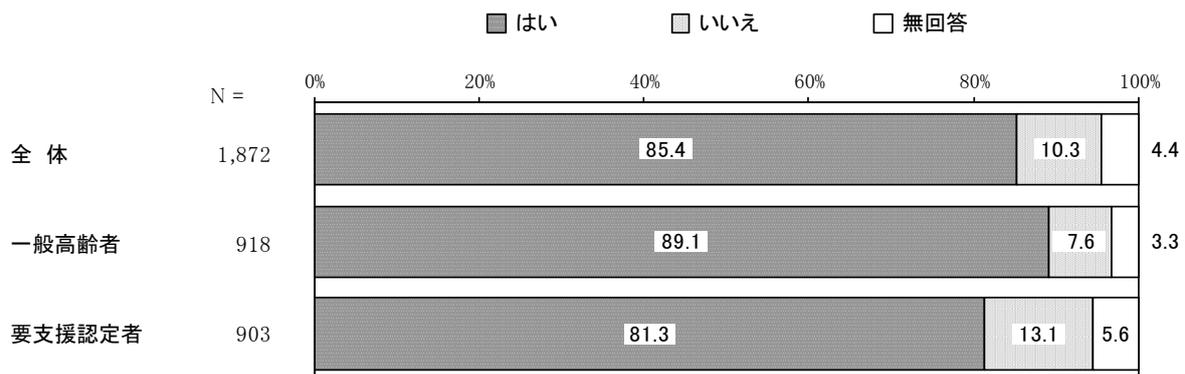


問 35 健康についての記事や番組に関心がありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が89.1%、「いいえ」の割合が7.6%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が81.3%、「いいえ」の割合が13.1%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で7.6%、要支援で13.1%となっており、5.5ポイントの差となっています。

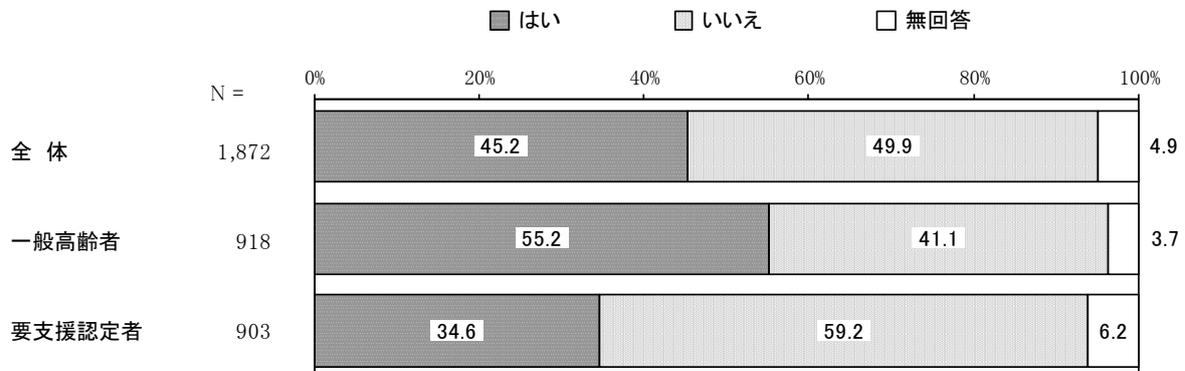


問 36 友人の家を訪ねていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が 55.2%、「いいえ」の割合が 41.1%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が 34.6%、「いいえ」の割合が 59.2%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で 41.1%、要支援で 59.2%となっており、18.1 ポイントの差となっています。

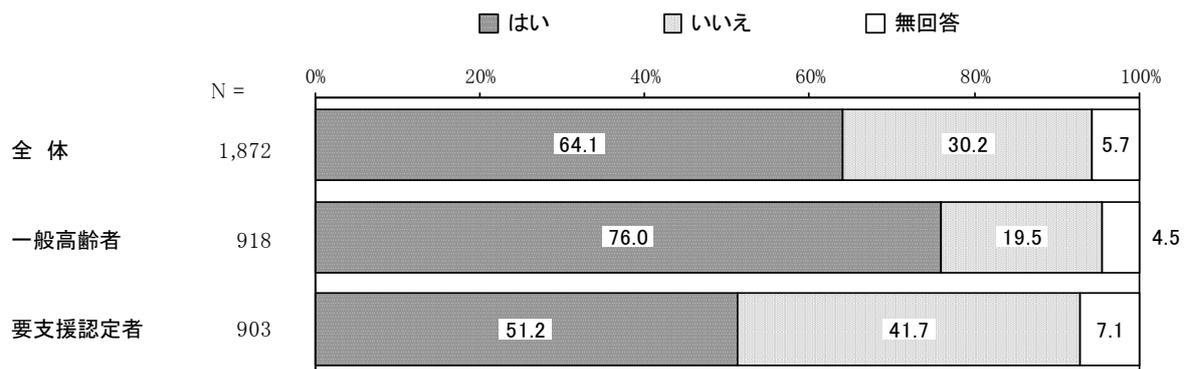


問 37 家族や友人の相談にのっていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が 76.0%、「いいえ」の割合が 19.5%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が 51.2%、「いいえ」の割合が 41.7%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で 19.5%、要支援で 41.7%となっており、22.2 ポイントの差となっています。

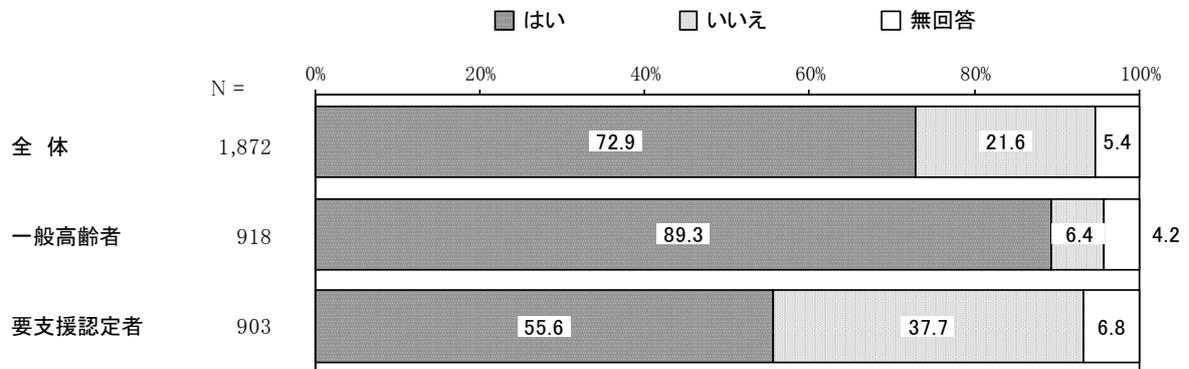


問 38 病人を見舞うことができますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が 89.3%、「いいえ」の割合が 6.4%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が 55.6%、「いいえ」の割合が 37.7%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で 6.4%、要支援で 37.7%となっており、31.3 ポイントの差となっています。

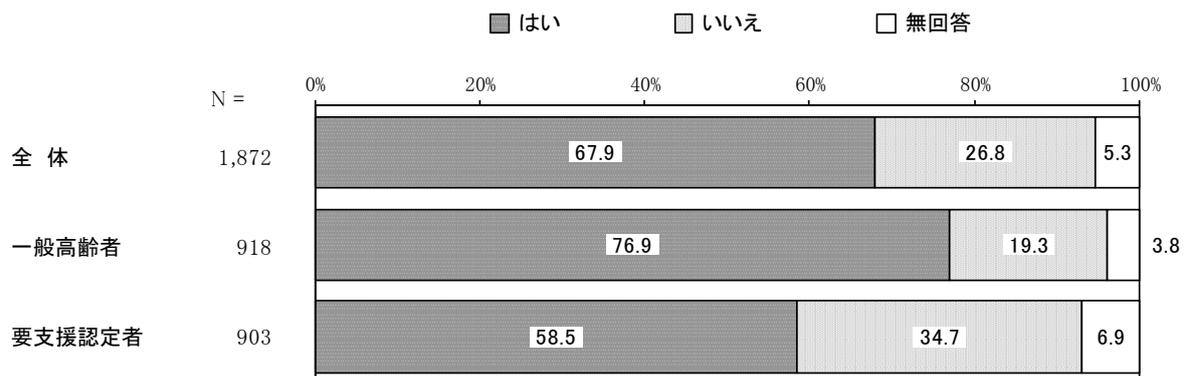


問 39 若い人に自分から話しかけることがありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が 76.9%、「いいえ」の割合が 19.3%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が 58.5%、「いいえ」の割合が 34.7%となっています。

「いいえ」の割合は、一般で 19.3%、要支援で 34.7%となっており、15.4 ポイントの差となっています。

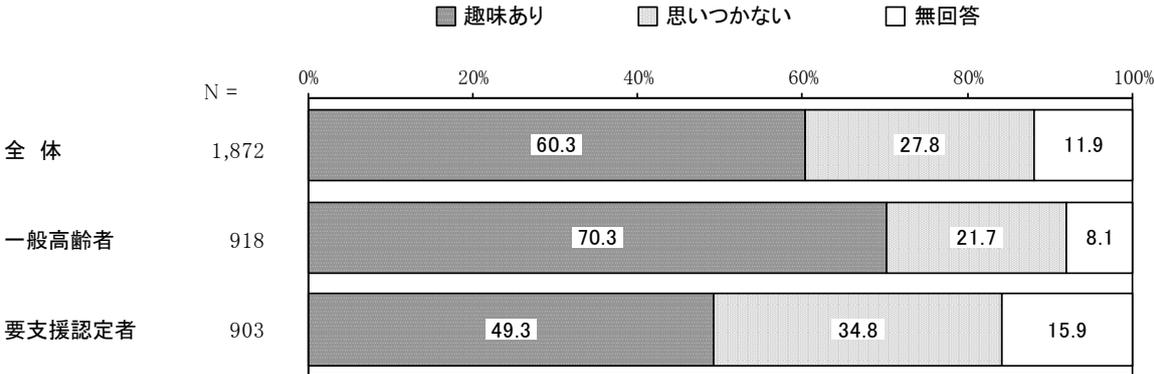


問 40 趣味はありますか。ある場合は（ ）内にご記入ください。（1つを選択）

一般高齢者では、「趣味あり」の割合が 70.3%、「思いつかない」の割合が 21.7%となっています。

要支援認定者では、「趣味あり」の割合が 49.3%、「思いつかない」の割合が 34.8%となっています。

「趣味あり」の割合は、一般で 70.3%、要支援で 49.3%となっており、21.0ポイントの差となっています。

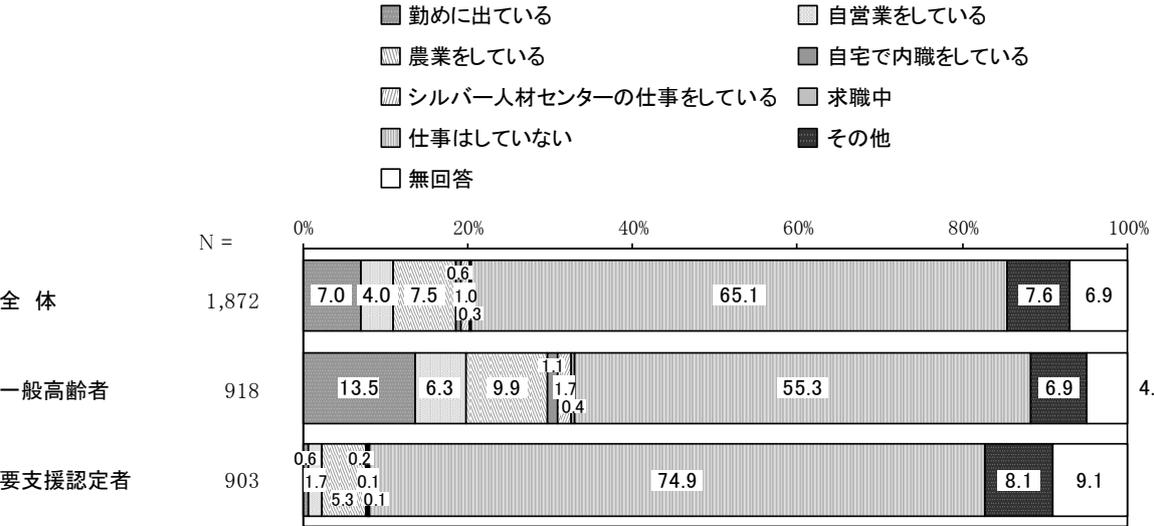


問 41 あなたは、現在、どんな仕事をしていますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「仕事はしていない」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「勤めに出ている」の割合が 13.5%となっています。

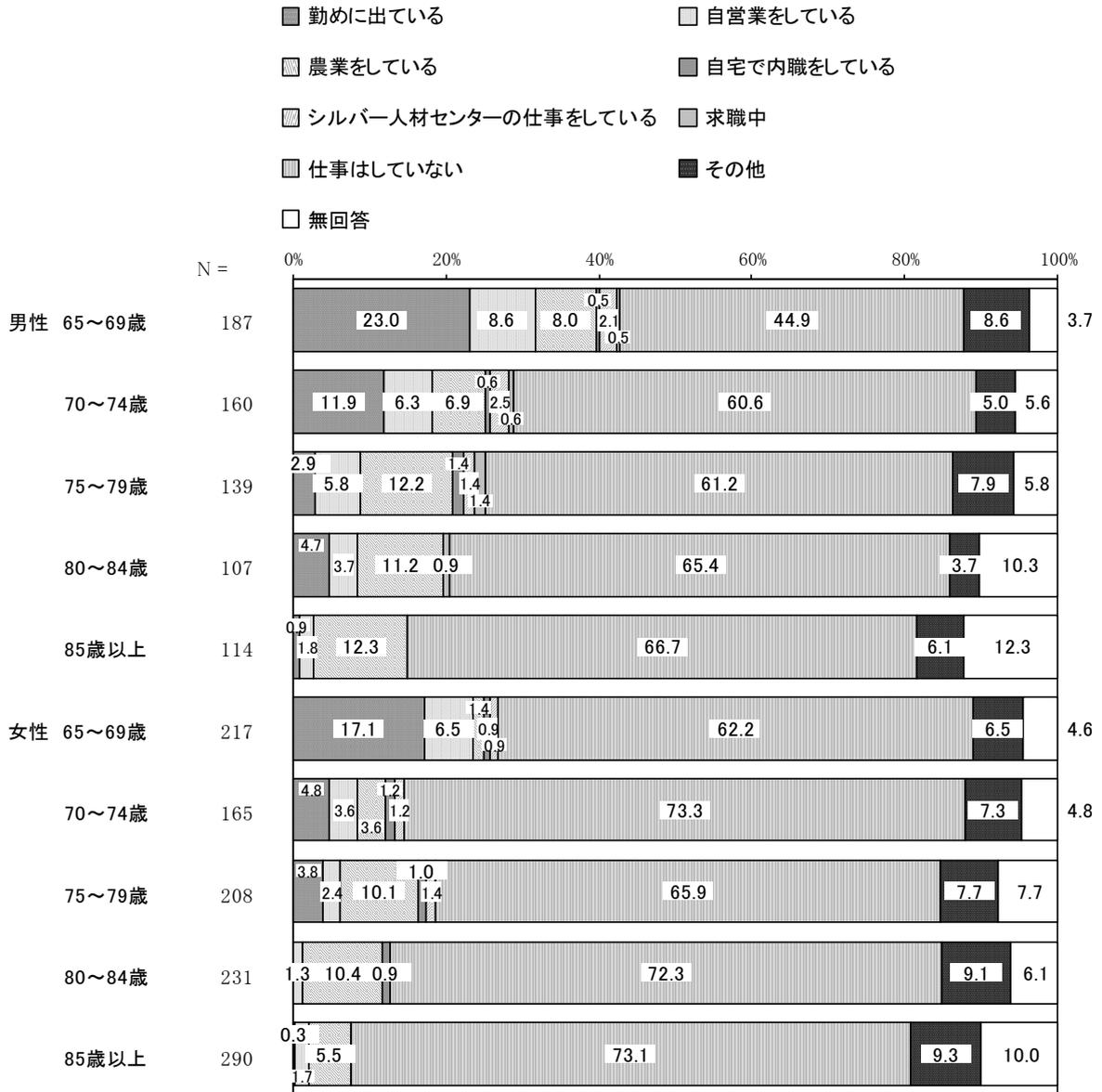
要支援認定者では、「仕事はしていない」の割合が 74.9%と最も高くなっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「勤めに出ている」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「仕事はしていない」の割合が高くなっています。



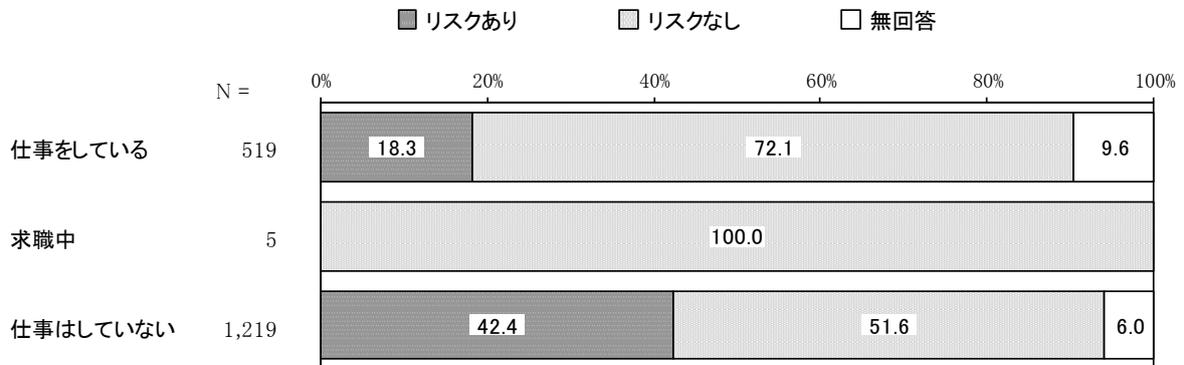
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男女とも 65～69 歳で「勤めに出ている」の割合が高くなっています。また、女性の 70～74 歳、80 歳以上で「仕事はしていない」の割合が高くなっています。



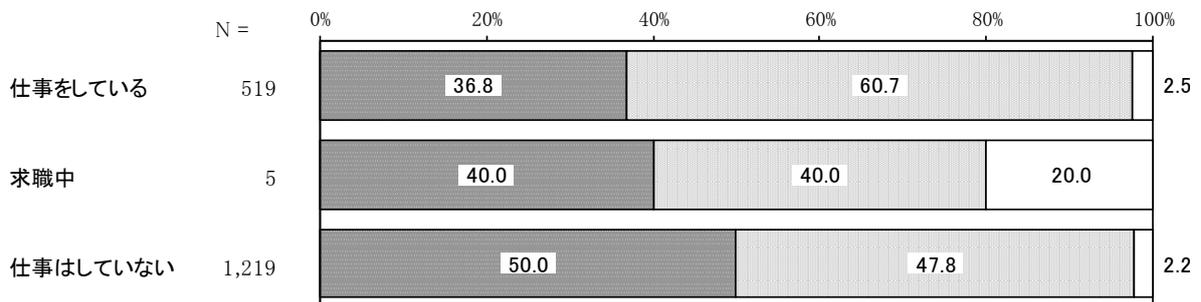
【仕事の有無別でみた運動機能リスク】

運動機能リスクを仕事の有無別で見ると、他に比べ、仕事はしていない人で「リスクあり」の割合が高くなっています。



【仕事の有無別でみた知的能動性リスク】

知的能動性リスクを仕事の有無別で見ると、他に比べ、仕事はしていない人で「リスクあり」の割合が高くなっています。

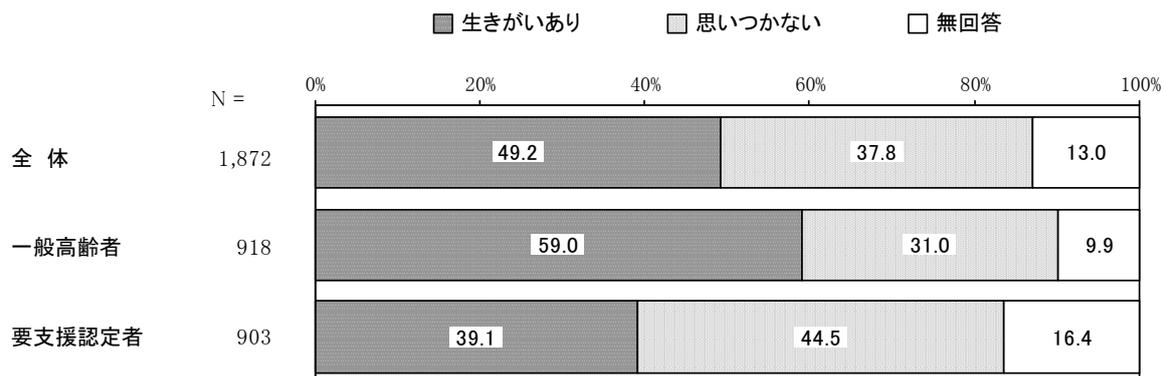


問 42 生きがいがありますか。ある場合は（ ）内にご記入ください。（1つを選択）

一般高齢者では、「生きがいあり」の割合が 59.0%、「思いつかない」の割合が 31.0%となっています。

要支援認定者では、「生きがいあり」の割合が 39.1%、「思いつかない」の割合が 44.5%となっています。

「生きがいあり」の割合は、一般で 59.0%、要支援で 39.1%となっており、19.9 ポイントの差となっています。

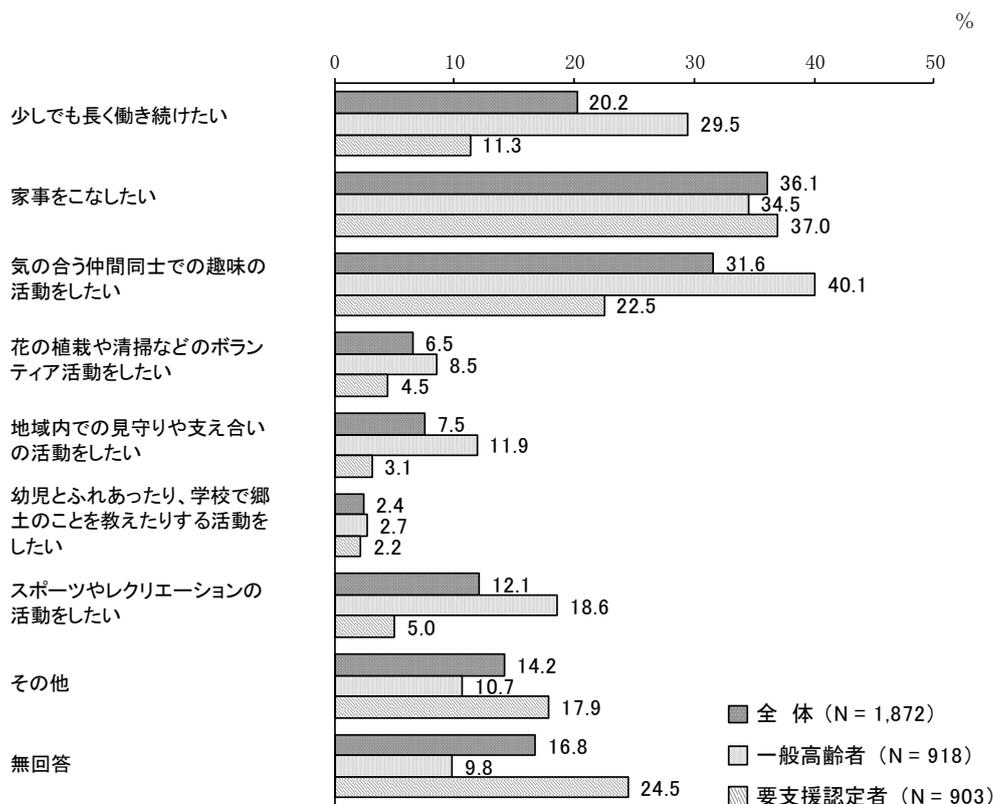


問 43 あなたは、自分の健康や生きがいのために、どんなことをしたいと思いますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」の割合が 40.1%と最も高く、次いで「家事をこなしたい」の割合が 34.5%、「少しでも長く働きたい」の割合が 29.5%となっています。

要支援認定者では、「家事をこなしたい」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」の割合が 22.5%、「少しでも長く働きたい」の割合が 11.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「少しでも長く働きたい」「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」「地域内での見守りや支え合いの活動をしたい」「スポーツやレクリエーションの活動をしたい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の65～69歳、75～79歳で「家事をこなしたい」の割合が高くなっています。また、女性の70～74歳で「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」の割合が、男性の65～69歳で「少しでも長く働きたい」の割合が、男性の65～79歳で「スポーツやレクリエーションの活動をしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

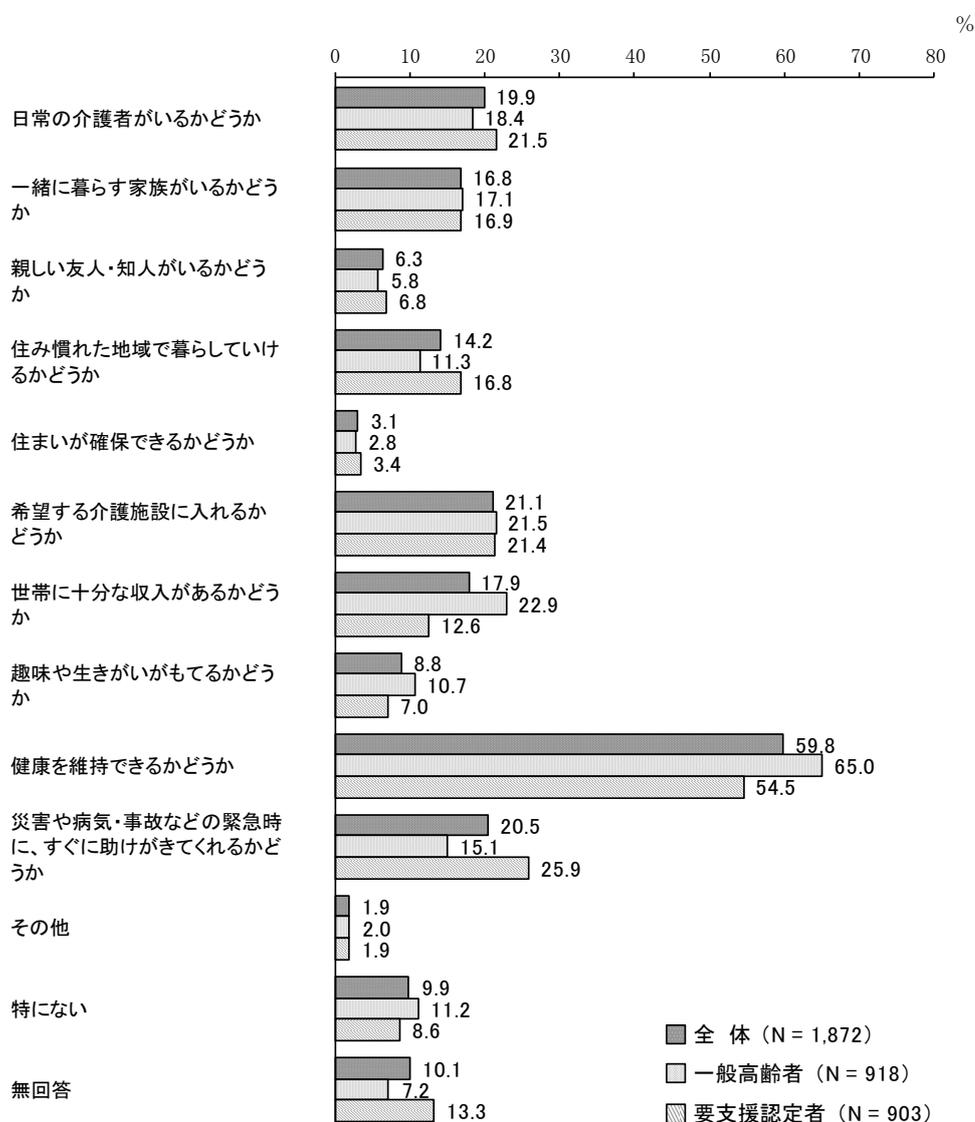
区分	有効回答数(件)	い 少 し で も 長 く 働 き 続 け た	家 事 を こ な し た い	気 の 合 う 仲 間 同 士 で の 趣 味 の 活 動 を し た い	花 の 植 栽 や 清 掃 な ど の ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 を し た い	地 域 内 で の 見 守 り や 支 え 合 い の 活 動 を し た い	幼 児 と ふ れ あ つ た り 、 学 校 で 郷 土 の こ と を 教 え た り す る 活 動 を し た い	ス ポ ー ツ や レ ク リ エ ー シ ヨ ン の 活 動 を し た い	そ の 他	無 回 答
男性 65～69 歳	187	35.8	18.2	35.3	8.6	15.0	2.7	23.5	17.1	8.6
70～74 歳	160	25.0	6.9	33.8	9.4	15.0	4.4	20.0	15.0	12.5
75～79 歳	139	24.5	19.4	41.0	10.1	10.1	2.2	20.1	12.2	18.0
80～84 歳	107	30.8	14.0	30.8	2.8	8.4	1.9	7.5	18.7	19.6
85 歳以上	114	21.9	21.9	21.1	0.9	4.4	1.8	3.5	22.8	26.3
女性 65～69 歳	217	24.9	56.2	40.1	7.8	11.1	2.3	17.5	6.0	11.5
70～74 歳	165	12.7	50.9	47.9	11.5	6.7	1.8	13.9	9.1	12.7
75～79 歳	208	22.1	56.3	32.2	6.3	6.7	2.9	11.5	9.6	13.0
80～84 歳	231	10.8	47.6	28.1	5.2	2.2	3.0	3.5	13.9	17.7
85 歳以上	290	9.3	36.2	13.4	2.8	1.0	1.7	2.4	21.0	29.3

問 44 あなたは、将来に向けて不安に思うことはありますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「健康を維持できるかどうか」の割合が 65.0%と最も高く、次いで「世帯に十分な収入があるかどうか」の割合が 22.9%、「希望する介護施設に入れるかどうか」の割合が 21.5%となっています。

要支援認定者では、「健康を維持できるかどうか」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」の割合が 25.9%、「日常の介護者がいるかどうか」の割合が 21.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「世帯に十分な収入があるかどうか」「健康を維持できるかどうか」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「住み慣れた地域で暮らしていけるかどうか」「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」の割合が高くなっています。

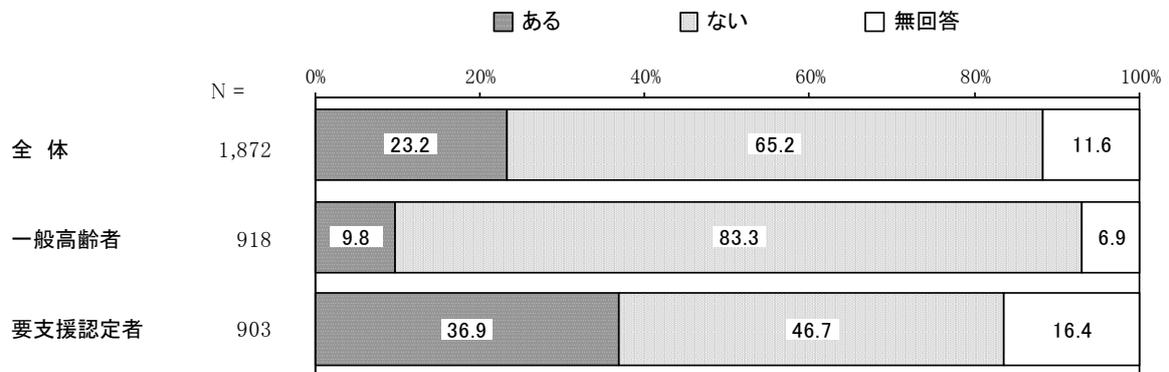


問 45 あなたは今、生活する上で困っていること（家事・外出・孤立など）はありますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「ある」の割合が9.8%、「ない」の割合が83.3%となっています。

要支援認定者では、「ある」の割合が36.9%、「ない」の割合が46.7%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「ない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ある」の割合が高くなっています。



(5) 地域での活動について

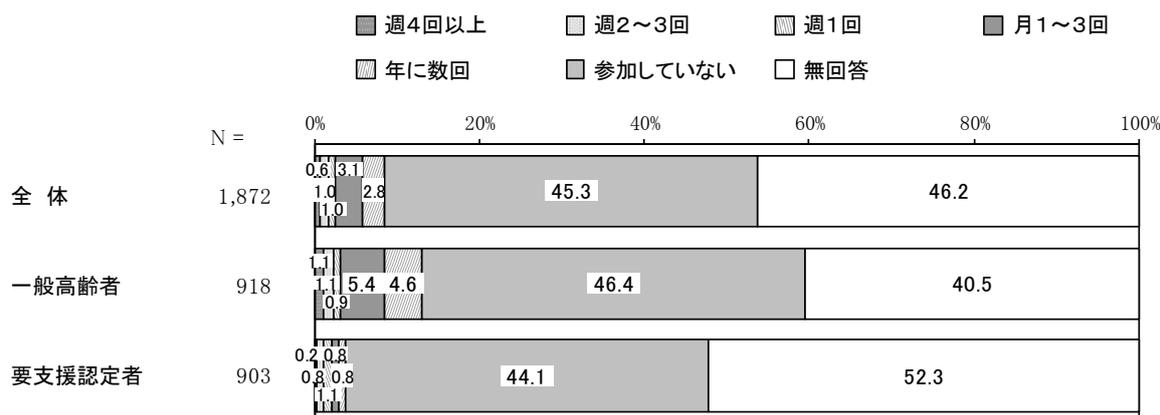
問 46 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
 ※①～⑦それぞれ1つを選択

①ボランティアのグループ

一般高齢者では、「参加していない」の割合が46.4%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が44.1%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で46.4%、要支援で44.1%となっており、2.3ポイントの差となっています。

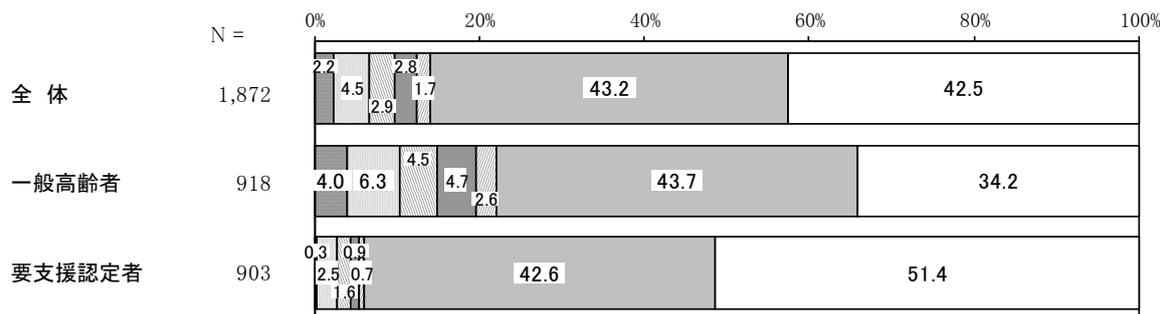


②スポーツ関係のグループやクラブ

一般高齢者では、「参加していない」の割合が43.7%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が42.6%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で43.7%、要支援で42.6%となっており、1.1ポイントの差となっています。

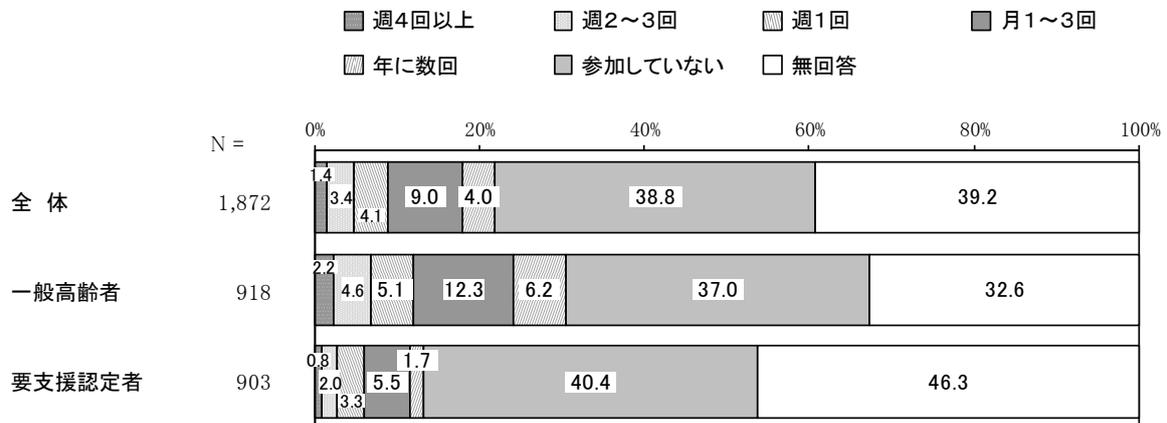


③趣味関係のグループ

一般高齢者では、「参加していない」の割合が37.0%と最も高く、次いで「月1～3回」の割合が12.3%となっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が40.4%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で37.0%、要支援で40.4%となっており、3.4ポイントの差となっています。

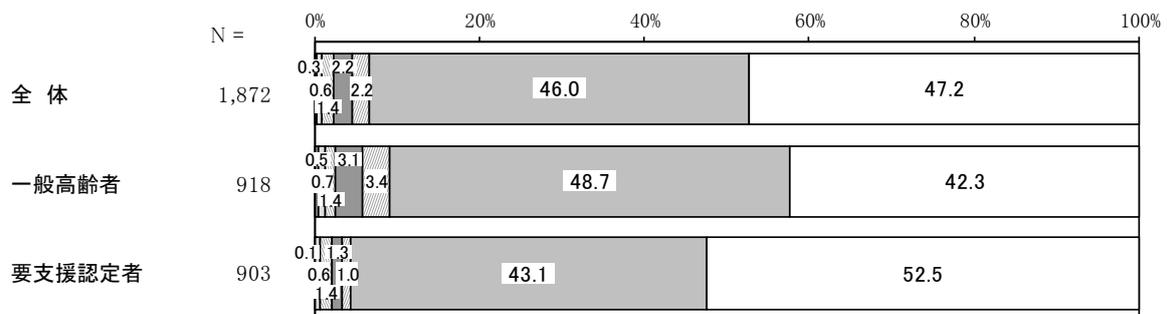


④学習・教養サークル

一般高齢者では、「参加していない」の割合が48.7%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が43.1%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で48.7%、要支援で43.1%となっており、5.6ポイントの差となっています。

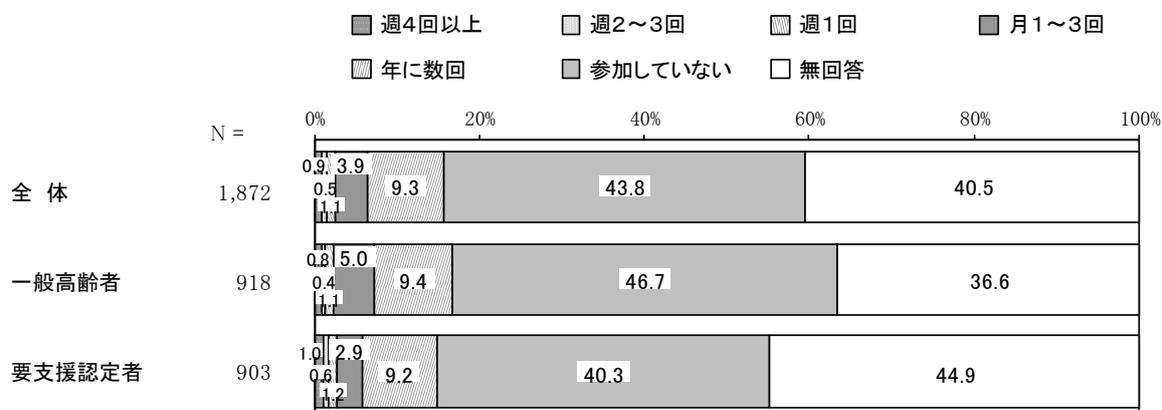


⑤老人クラブ

一般高齢者では、「参加していない」の割合が46.7%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が40.3%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で46.7%、要支援で40.3%となっており、6.4ポイントの差となっています。

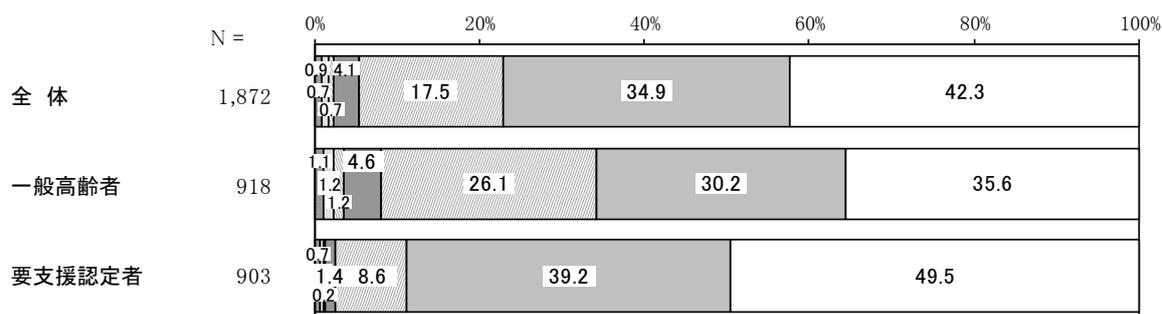


⑥町内会・自治会

一般高齢者では、「参加していない」の割合が30.2%と最も高く、次いで「年に数回」の割合が26.1%となっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が39.2%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で30.2%、要支援で39.2%となっており、9.0ポイントの差となっています。

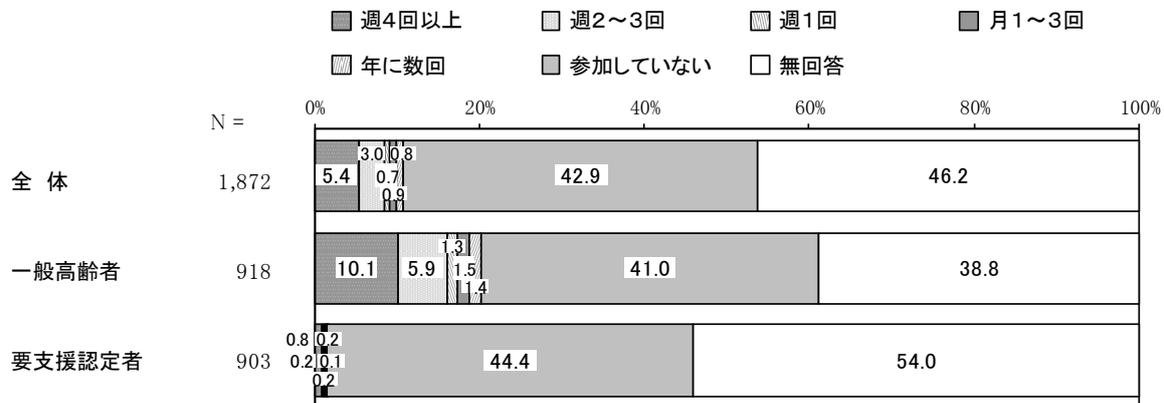


⑦収入のある仕事

一般高齢者では、「参加していない」の割合が41.0%と最も高く、次いで「週4回以上」の割合が10.1%となっています。

要支援認定者では、「参加していない」の割合が44.4%と最も高くなっています。

「参加していない」の割合は、一般で41.0%、要支援で44.4%となっており、3.4ポイントの差となっています。



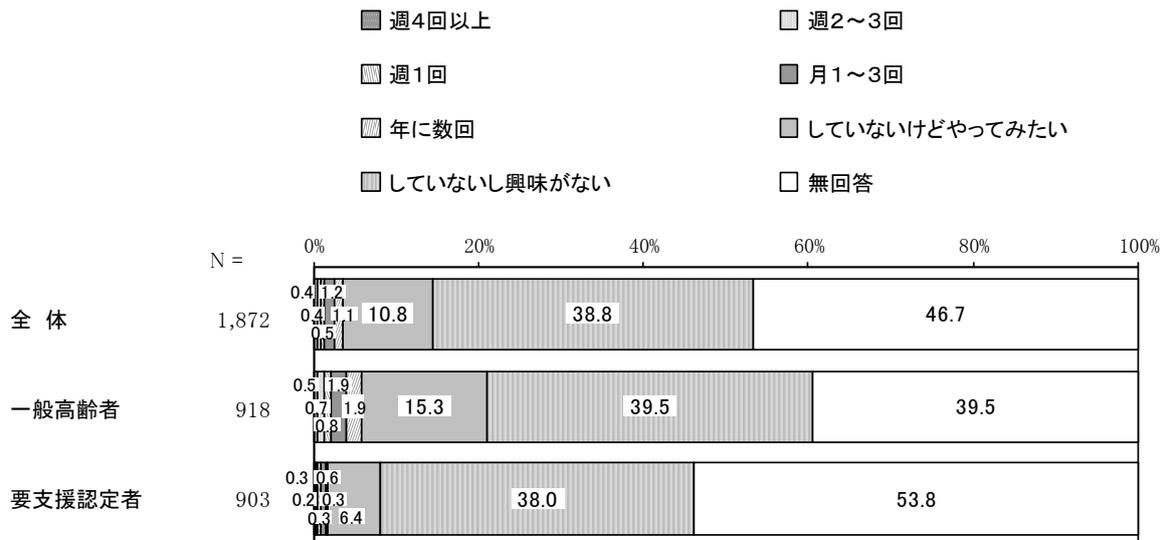
問 46-② 以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。※①～④それぞれ1つに○

①見守りが必要な高齢者を支援する活動

一般高齢者では、「していないし興味がない」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「していないけどやってみたい」の割合が 15.3%となっています。

要支援認定者では、「していないし興味がない」の割合が 38.0%と最も高くなっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「していないけどやってみたい」の割合が高くなっています。

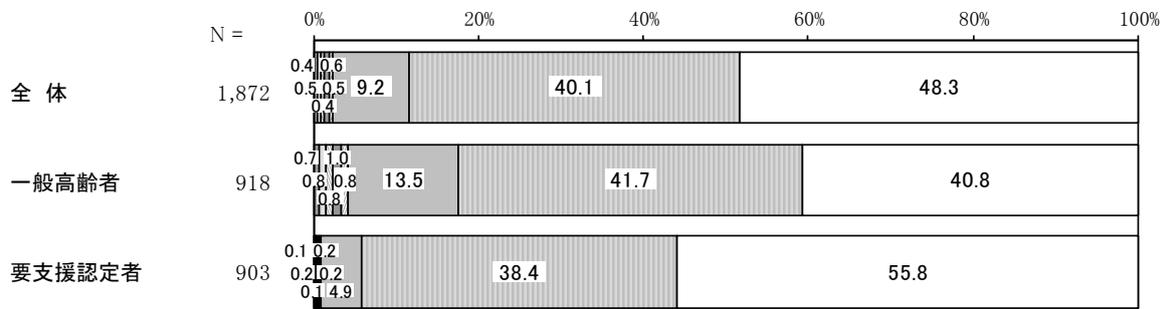


②介護が必要な高齢者を支援する活動

一般高齢者では、「していないし興味がない」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「していないけどやってみたい」の割合が 13.5%となっています。

要支援認定者では、「していないし興味がない」の割合が 38.4%と最も高くなっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「していないけどやってみたい」の割合が高くなっています。

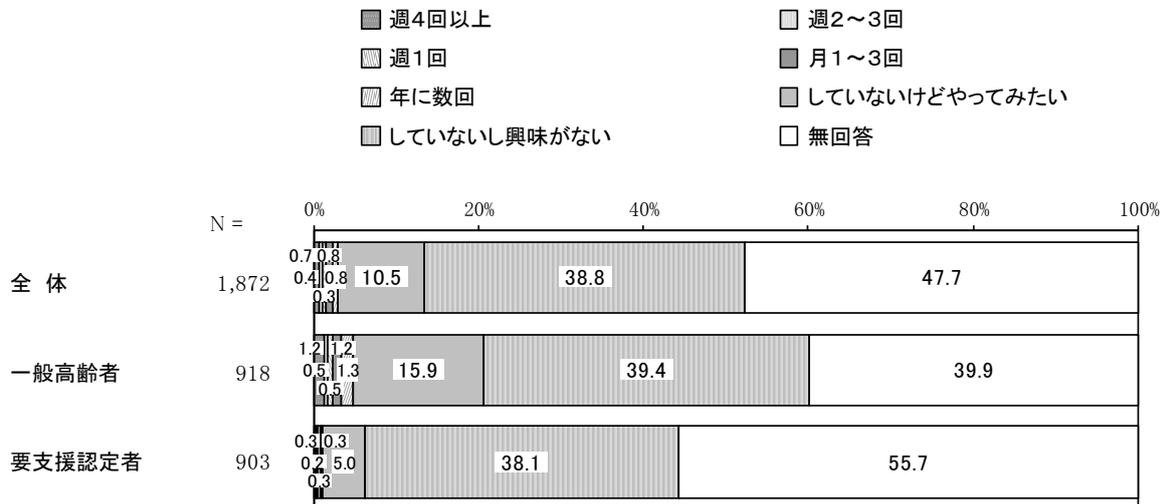


③子どもを育てている親を支援する活動

一般高齢者では、「していないし興味がない」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「していないけどやってみたい」の割合が 15.9%となっています。

要支援認定者では、「していないし興味がない」の割合が 38.1%と最も高くなっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「していないけどやってみたい」の割合が高くなっています。

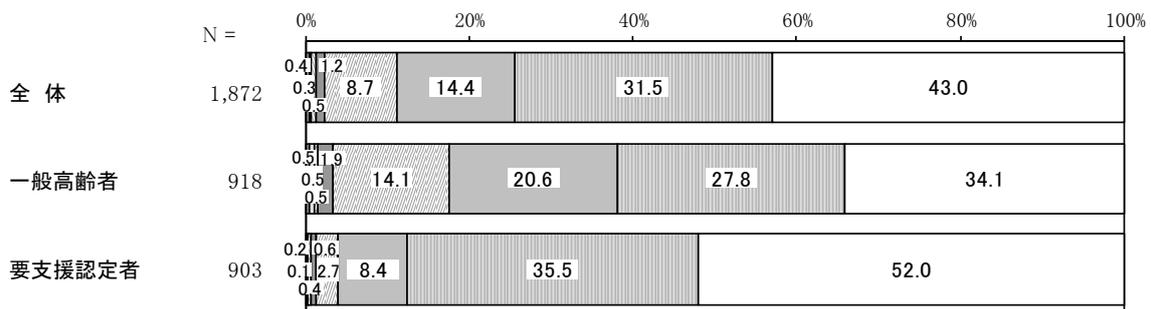


④地域の美化活動

一般高齢者では、「していないし興味がない」の割合が 27.8%と最も高く、次いで「していないけどやってみたい」の割合が 20.6%、「年に数回」の割合が 14.1%となっています。

要支援認定者では、「していないし興味がない」の割合が 35.5%と最も高くなっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「年に数回」「していないけどやってみたい」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「していないし興味がない」の割合が高くなっています。

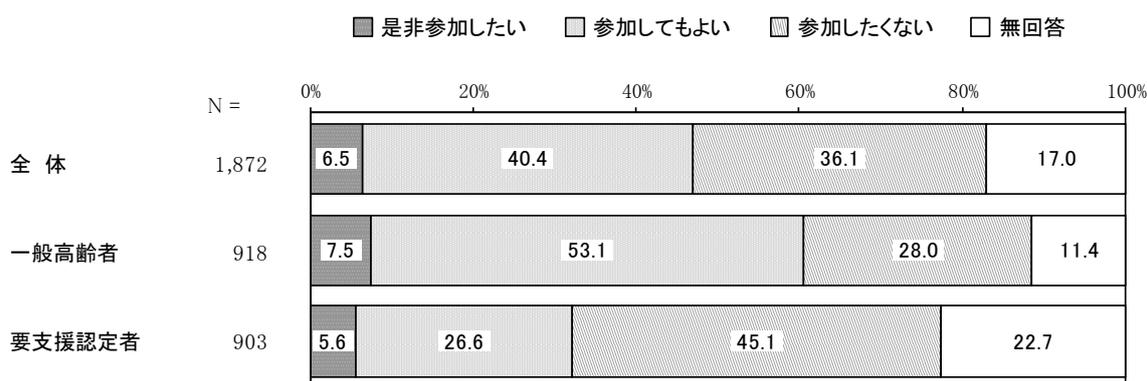


問 47 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「参加してもよい」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が 28.0%となっています。

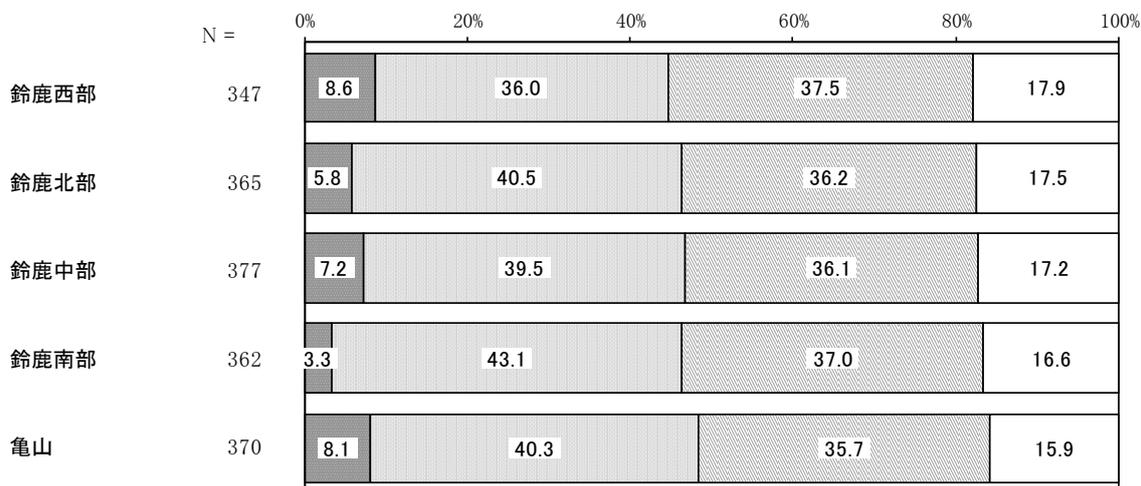
要支援認定者では、「参加したくない」の割合が 45.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 26.6%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「参加してもよい」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「参加したくない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿南部で「是非参加したい」の割合が低くなっています。



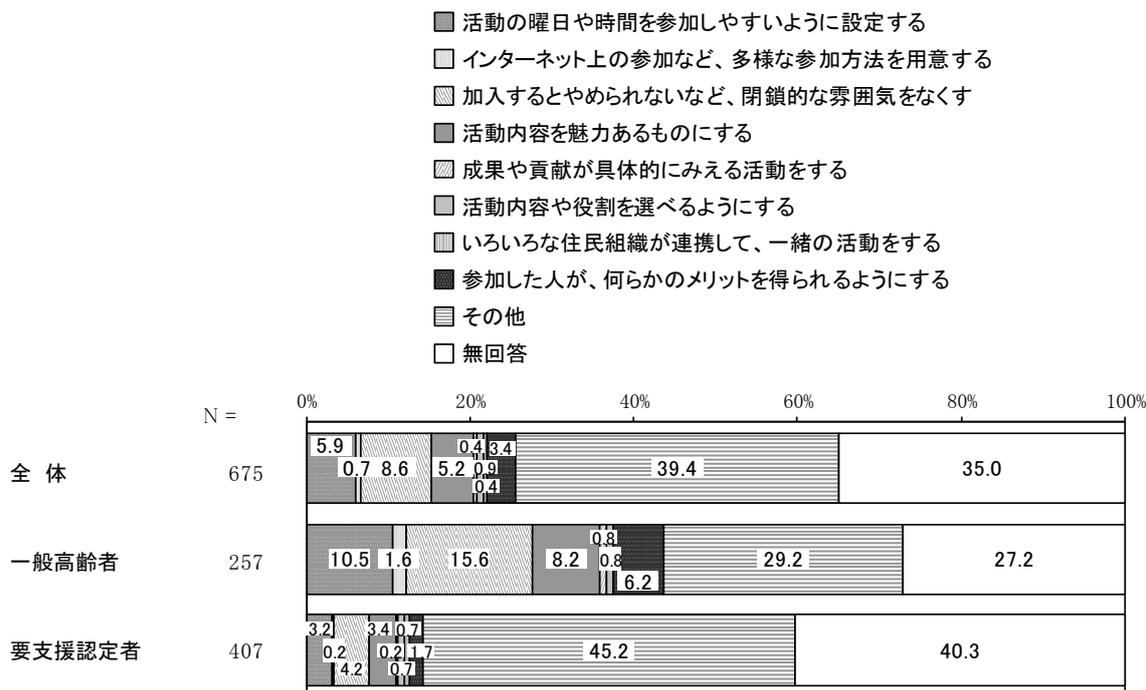
問 47 で「3 参加したくない」と回答した方にお伺いします。

問 47-② どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が 15.6% と最も高く、次いで「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」の割合が 10.5% となっています。

要支援認定者では、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が 4.2% と最も高くなっています。

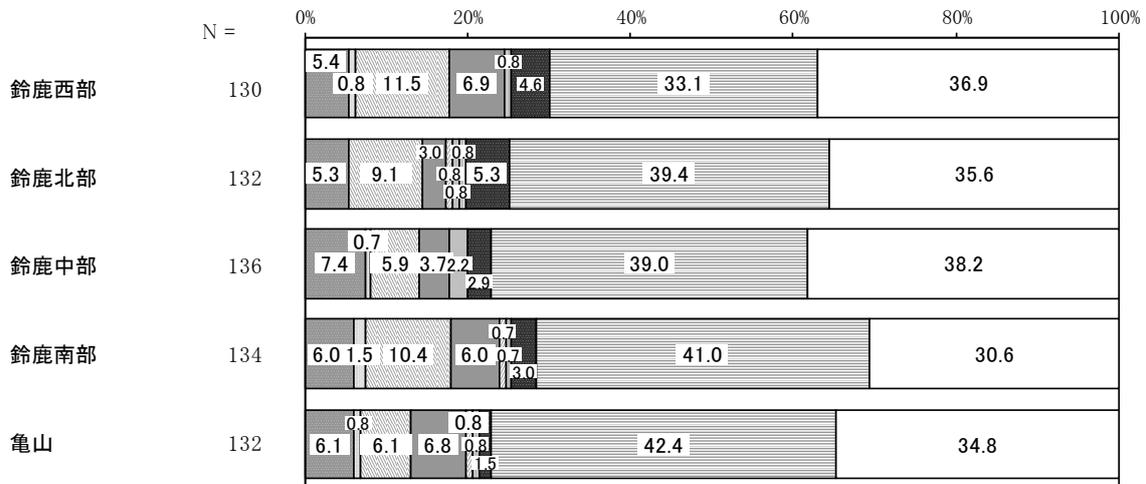
要支援認定者に比べ、一般高齢者で「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、大きな差異はみられません。

- 活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する
- インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する
- ▨ 加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をなくす
- 活動内容を魅力あるものにする
- ▨ 成果や貢献が具体的にみえる活動をする
- 活動内容や役割を選べるようにする
- ▨ いろいろな住民組織が連携して、一緒に活動をする
- 参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする
- その他
- 無回答

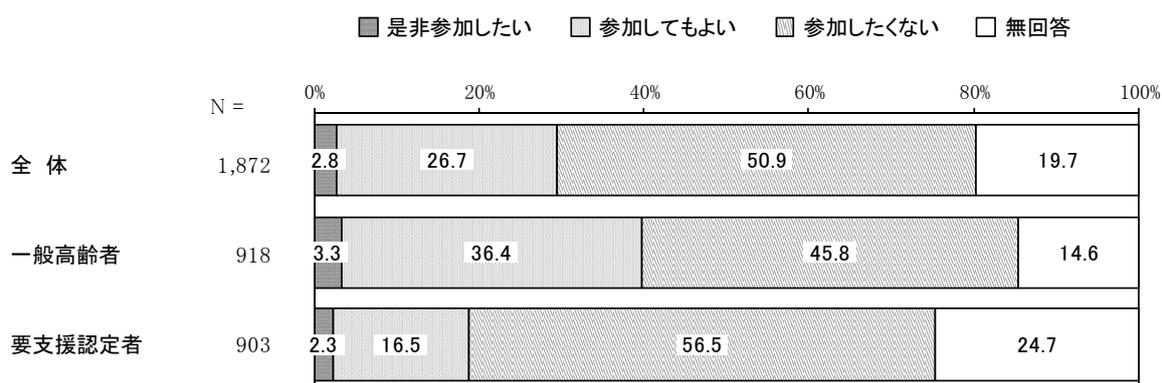


問 48 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「参加したくない」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 36.4%となっています。

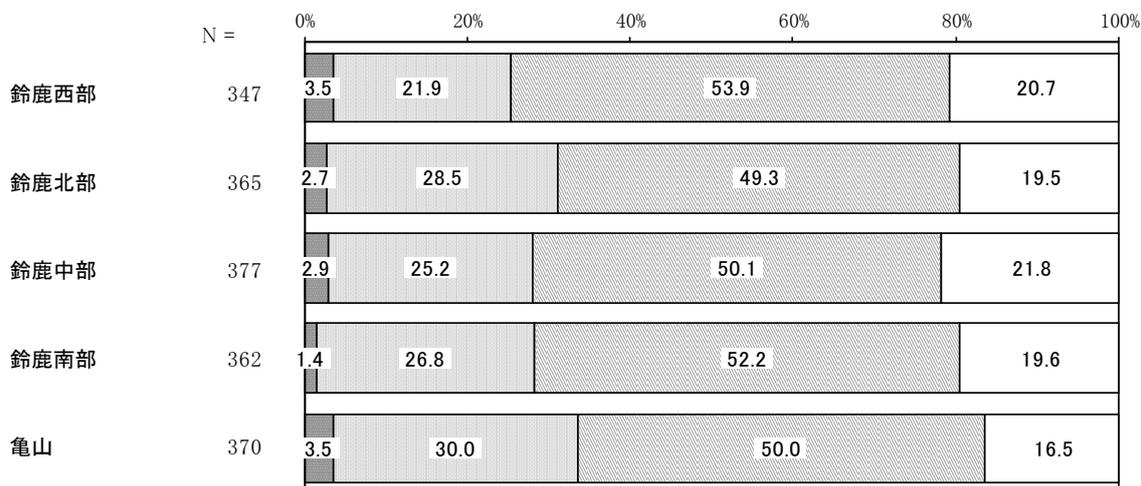
要支援認定者では、「参加したくない」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 16.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「参加してもよい」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「参加したくない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山、鈴鹿北部で「参加してもよい」の割合が高くなっています。



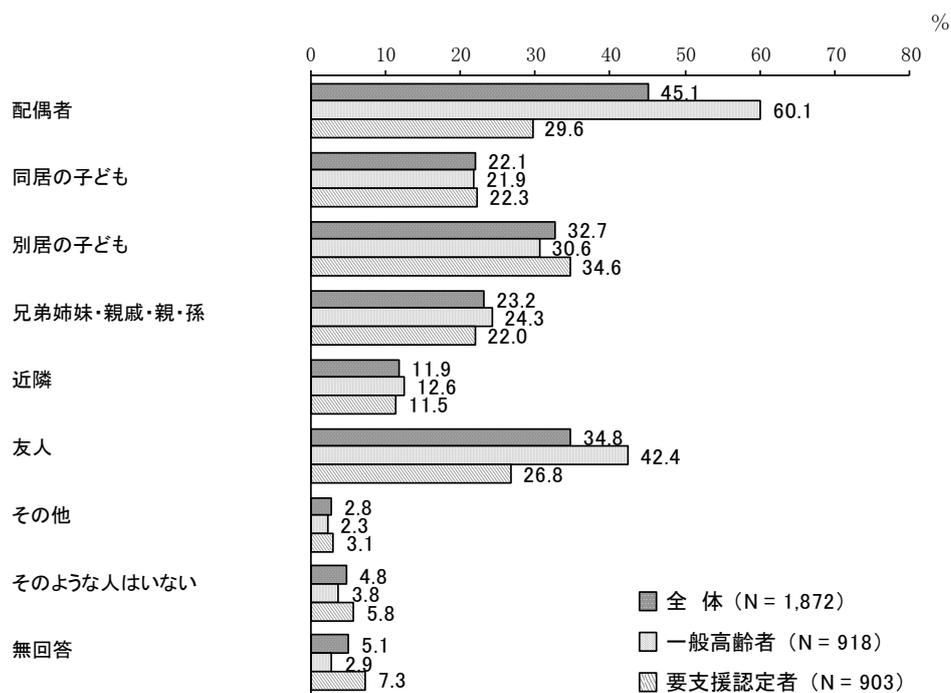
(6) たすけあいについて

問 49 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（複数選択可）

一般高齢者では、「配偶者」の割合が60.1%と最も高く、次いで「友人」の割合が42.4%、「別居の子ども」の割合が30.6%となっています。

要支援認定者では、「別居の子ども」の割合が34.6%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が29.6%、「友人」の割合が26.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「配偶者」「友人」の割合が高くなっています。

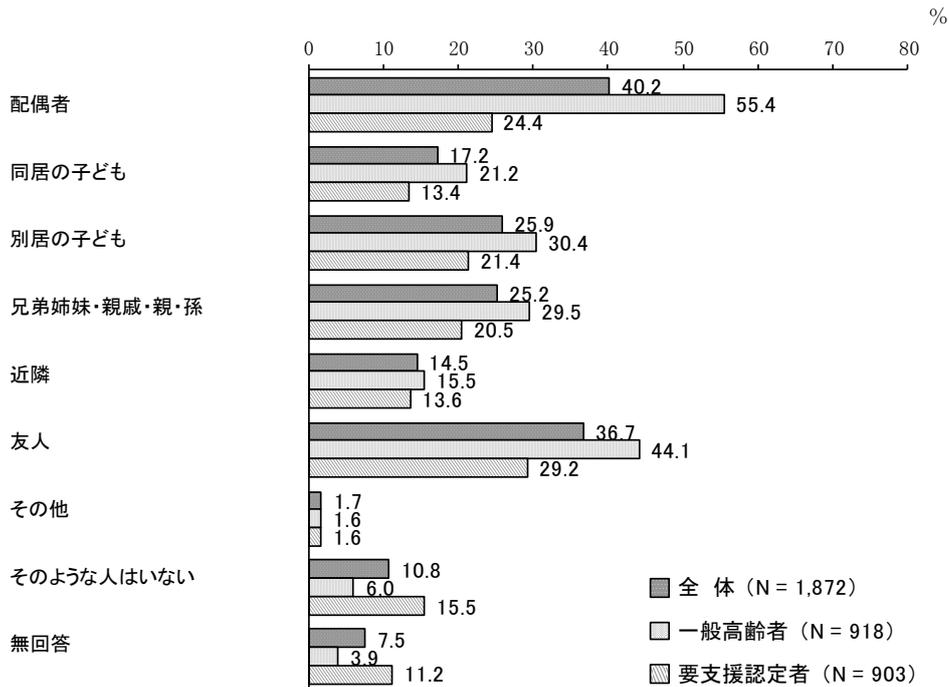


問 50 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（複数選択可）

一般高齢者では、「配偶者」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「友人」の割合が 44.1%、「別居の子ども」の割合が 30.4%となっています。

要支援認定者では、「友人」の割合が 29.2%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が 24.4%、「別居の子ども」の割合が 21.4%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「そのような人はいない」の割合が高くなっています。

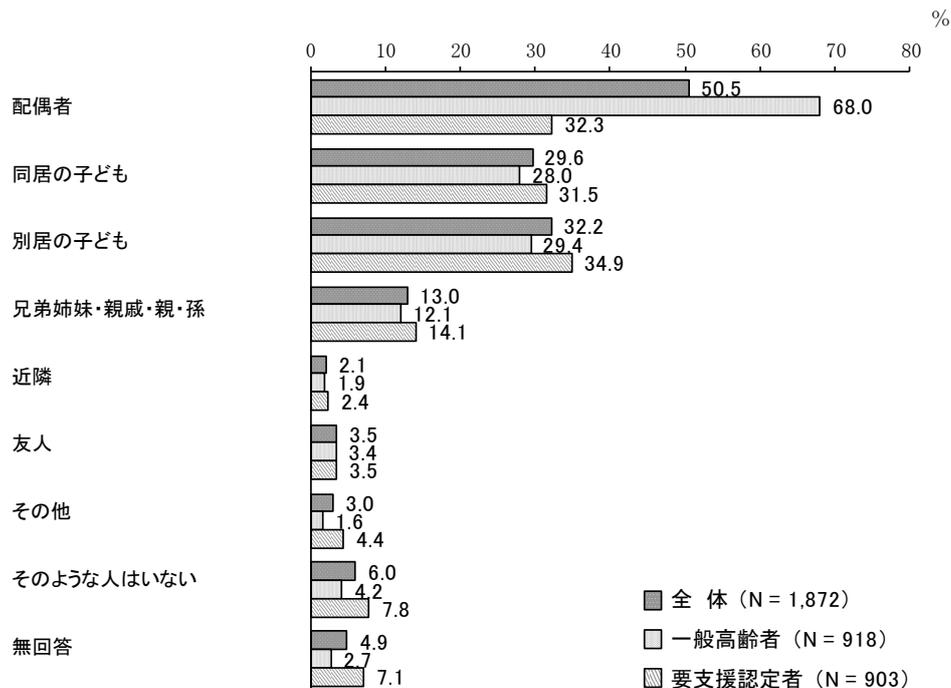


問 51 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(複数選択可)

一般高齢者では、「配偶者」の割合が68.0%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が29.4%、「同居の子ども」の割合が28.0%となっています。

要支援認定者では、「別居の子ども」の割合が34.9%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が32.3%、「同居の子ども」の割合が31.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「配偶者」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「別居の子ども」の割合が高くなっています。

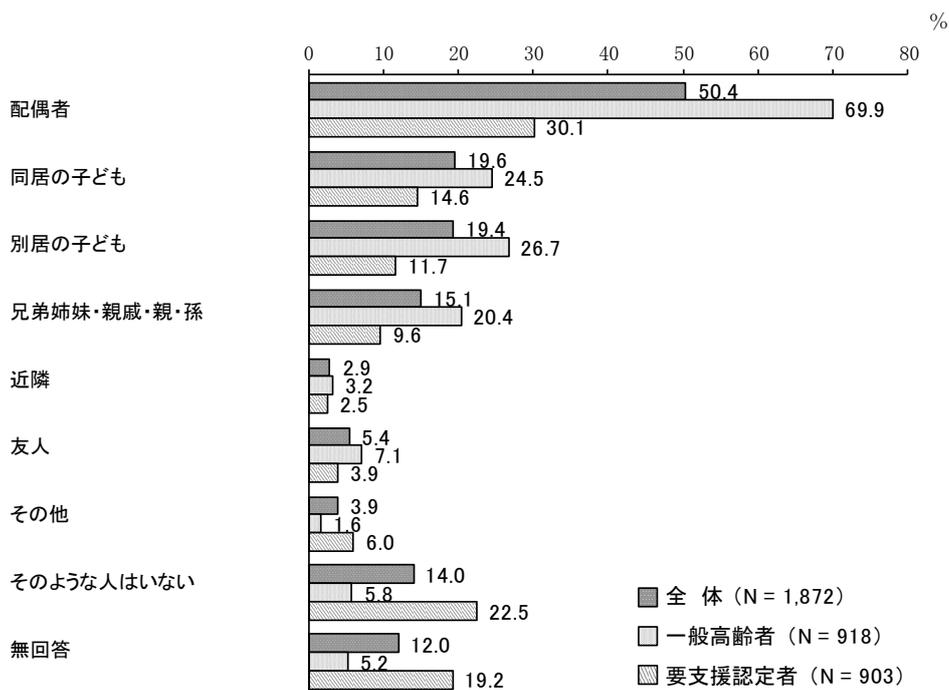


問 52 反対に、看病や世話をしあける人。(複数選択可)

一般高齢者では、「配偶者」の割合が69.9%と最も高く、次いで「別居の子ども」の割合が26.7%、「同居の子ども」の割合が24.5%となっています。

要支援認定者では、「配偶者」の割合が30.1%と最も高く、次いで「そのような人はいない」の割合が22.5%、「同居の子ども」の割合が14.6%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「そのような人はいない」の割合が高くなっています。

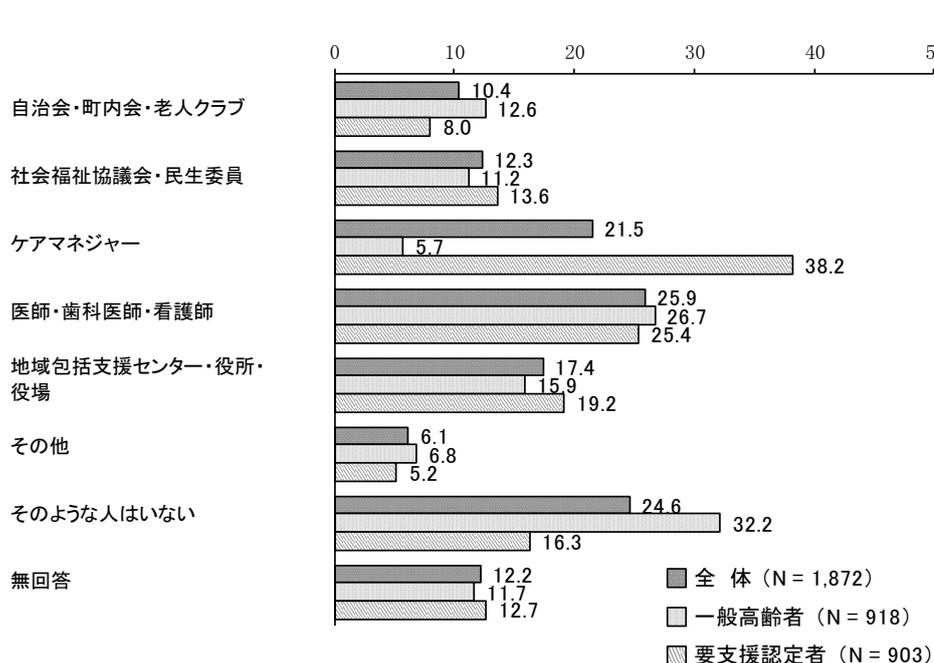


問 53 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(複数選択可)

一般高齢者では、「そのような人はいない」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」の割合が 26.7%、「地域包括支援センター・役所・役場」の割合が 15.9%となっています。

要支援認定者では、「ケアマネジャー」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」の割合が 25.4%、「地域包括支援センター・役所・役場」の割合が 19.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「そのような人はいない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ケアマネジャー」の割合が高くなっています。

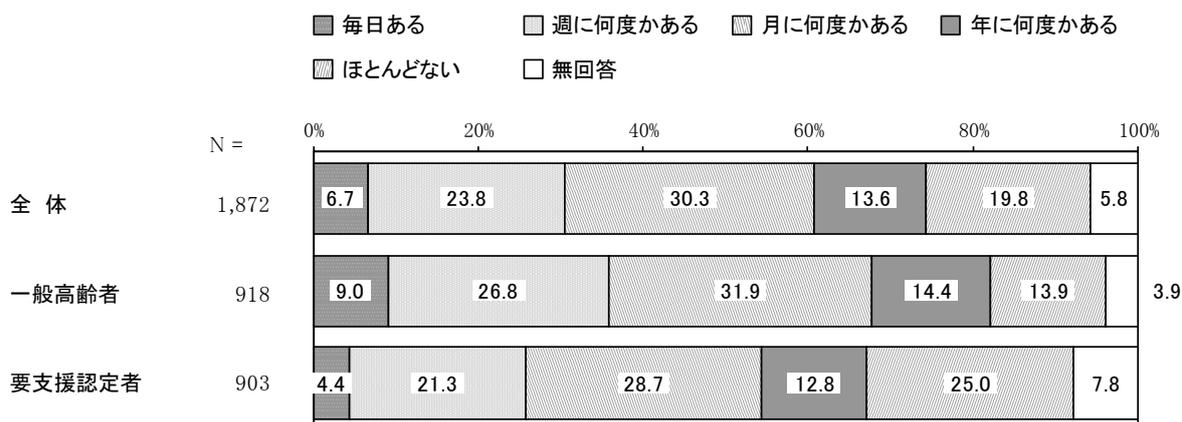


問 54 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「月に何度かある」の割合が 31.9%と最も高く、次いで「週に何度かある」の割合が 26.8%、「年に何度かある」の割合が 14.4%となっています。

要支援認定者では、「月に何度かある」の割合が 28.7%と最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が 25.0%、「週に何度かある」の割合が 21.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「週に何度かある」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ほとんどない」の割合が高くなっています。

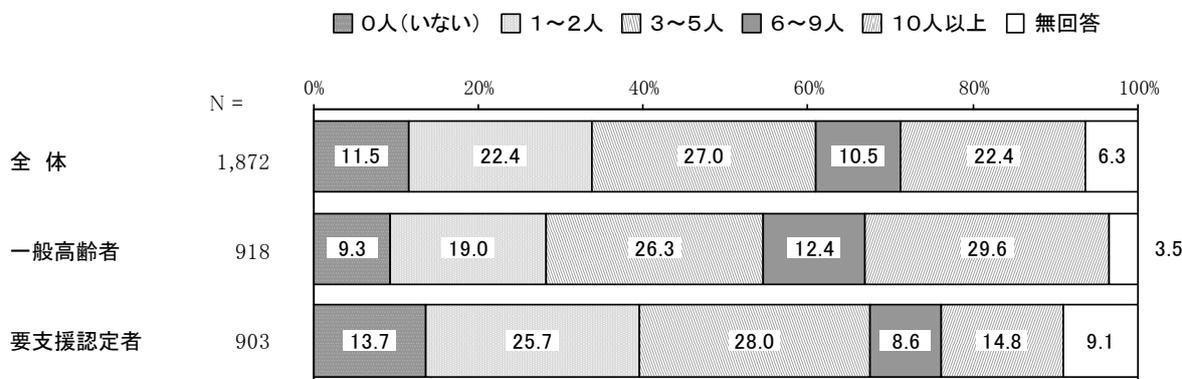


問 55 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つを選択)

一般高齢者では、「10人以上」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「3～5人」の割合が 26.3%、「1～2人」の割合が 19.0%となっています。

要支援認定者では、「3～5人」の割合が 28.0%と最も高く、次いで「1～2人」の割合が 25.7%、「10人以上」の割合が 14.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「10人以上」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「1～2人」の割合が高くなっています。

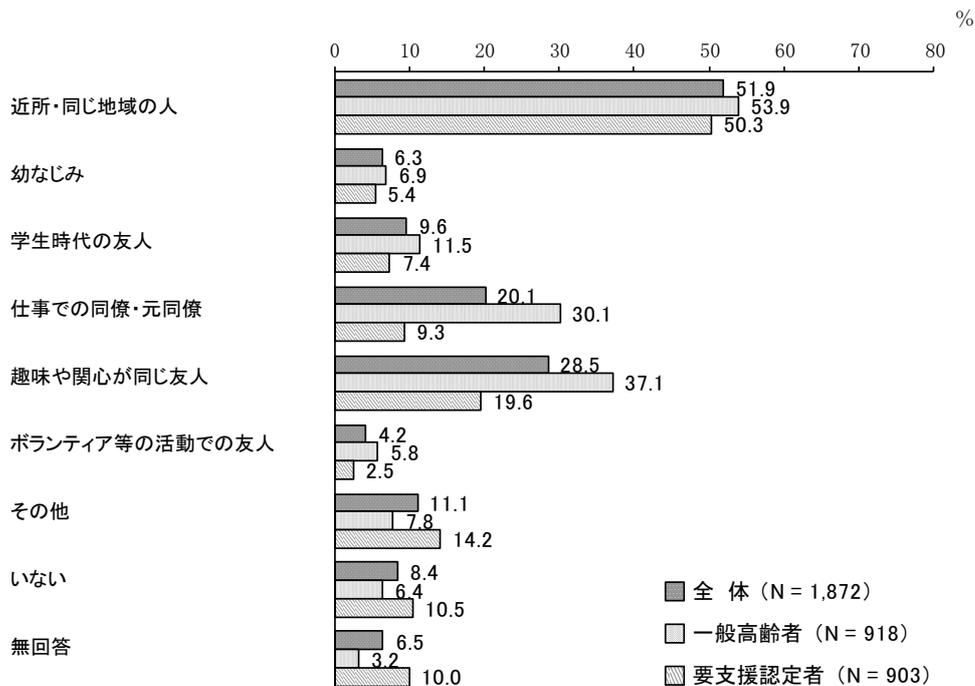


問 56 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「近所・同じ地域の人」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」の割合が 37.1%、「仕事での同僚・元同僚」の割合が 30.1%となっています。

要支援認定者では、「近所・同じ地域の人」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」の割合が 19.6%、「いない」の割合が 10.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「仕事での同僚・元同僚」「趣味や関心が同じ友人」の割合が高くなっています。

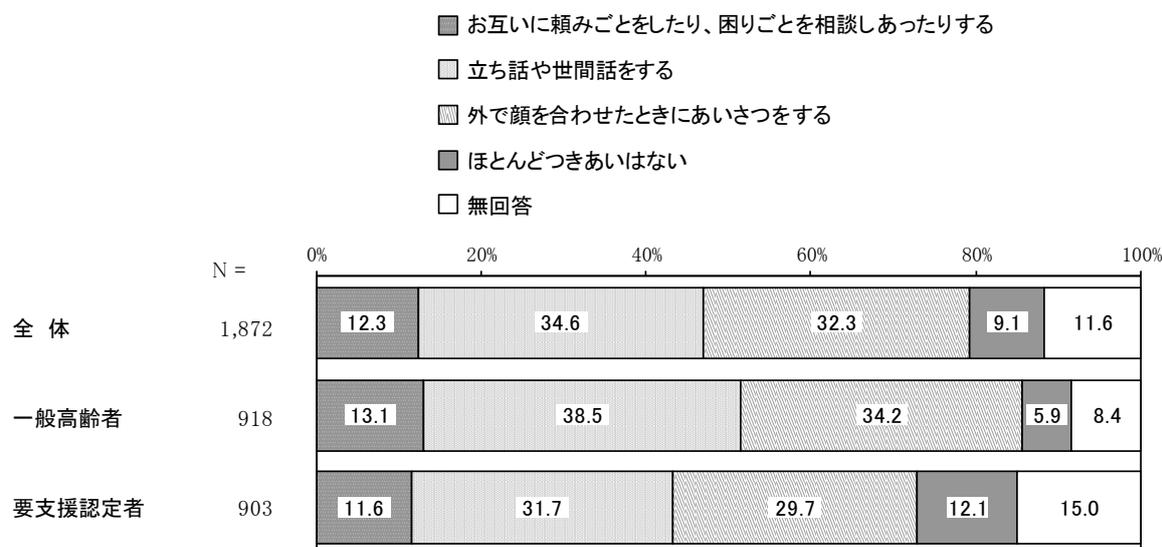


問 57 あなたは、隣近所や地域の方とどの程度のおつきあいをしていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「立ち話や世間話をする」の割合が 38.5%と最も高く、次いで「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が 34.2%、「お互いに頼みごとをしたり、困りごとを相談しあったりする」の割合が 13.1%となっています。

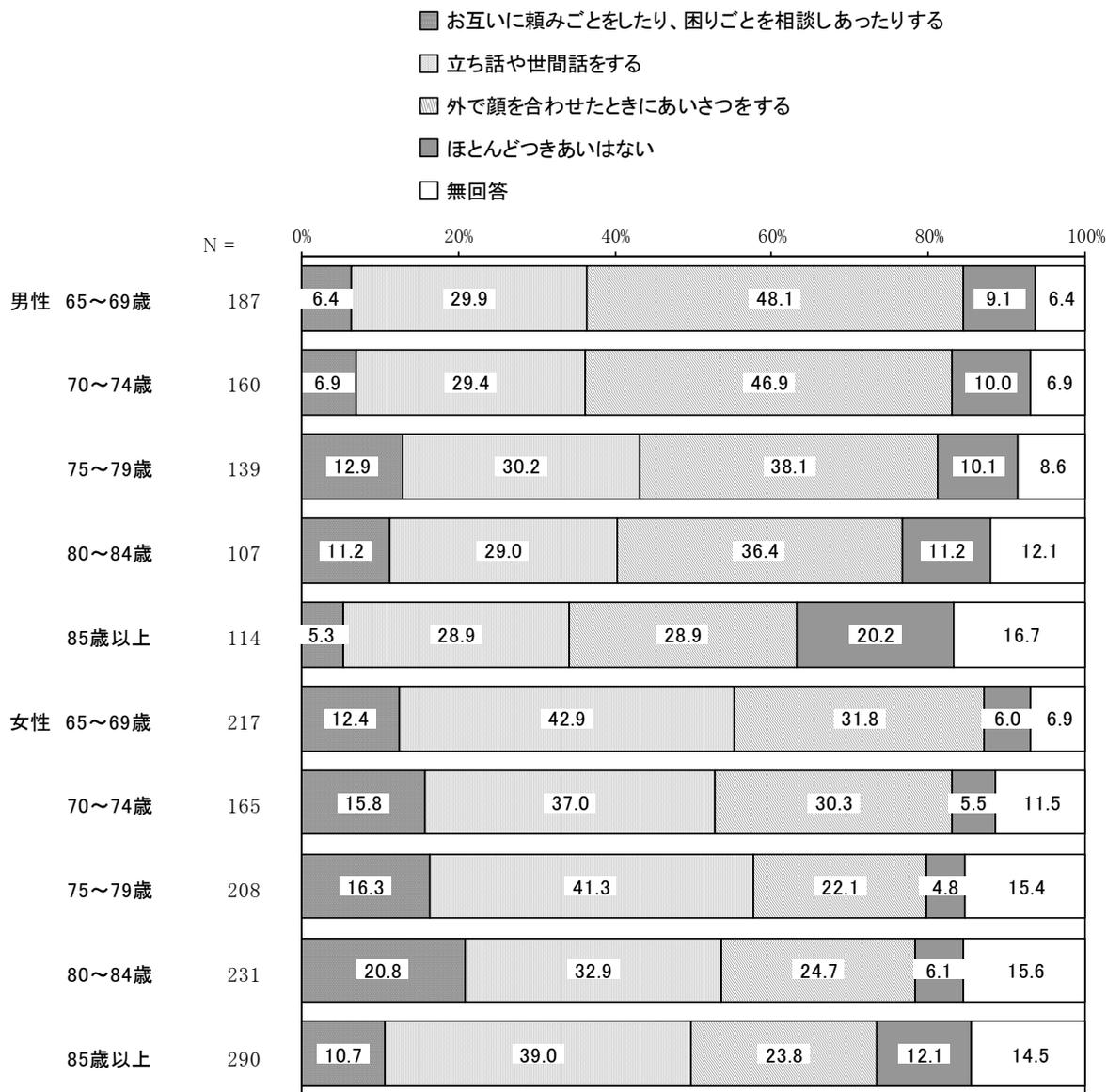
要支援認定者では、「立ち話や世間話をする」の割合が 31.7%と最も高く、次いで「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が 29.7%、「ほとんどつきあいはない」の割合が 12.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「立ち話や世間話をする」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ほとんどつきあいはない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の65～74歳で「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が高くなっています。また、男性の85歳以上で「ほとんどつきあいはない」の割合が、女性の80～84歳で「お互いに頼みごとをしたり、困りごとを相談しあったりする」の割合が高くなっています。

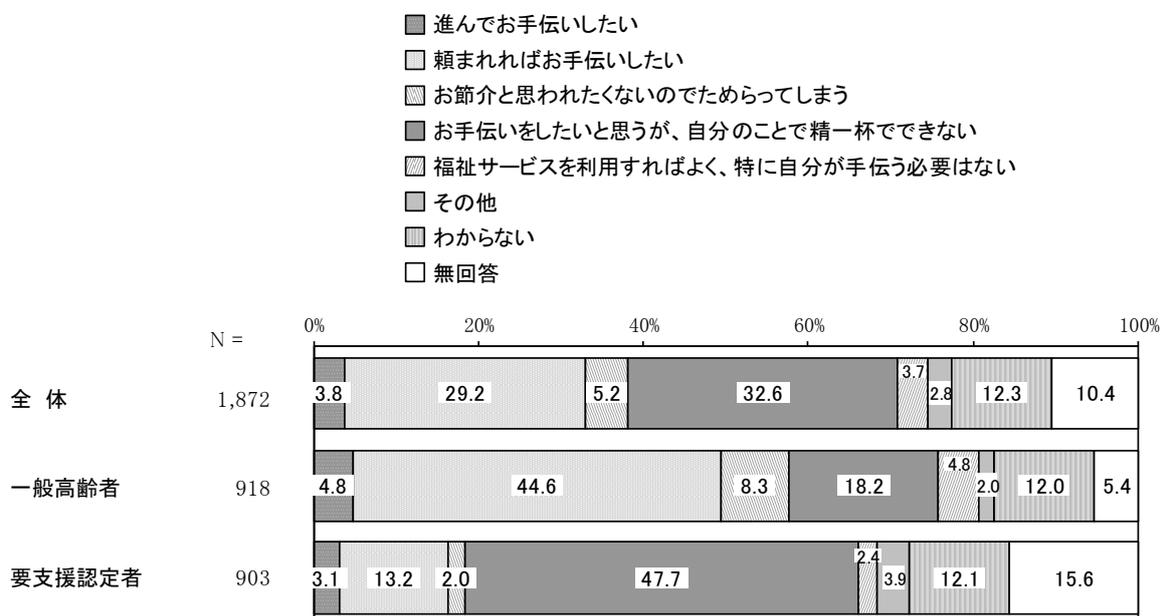


問 58 あなたのご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、どんな対応をしますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「頼まれればお手伝いしたい」の割合が 44.6%と最も高く、次いで「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が 18.2%、「わからない」の割合が 12.0%となっています。

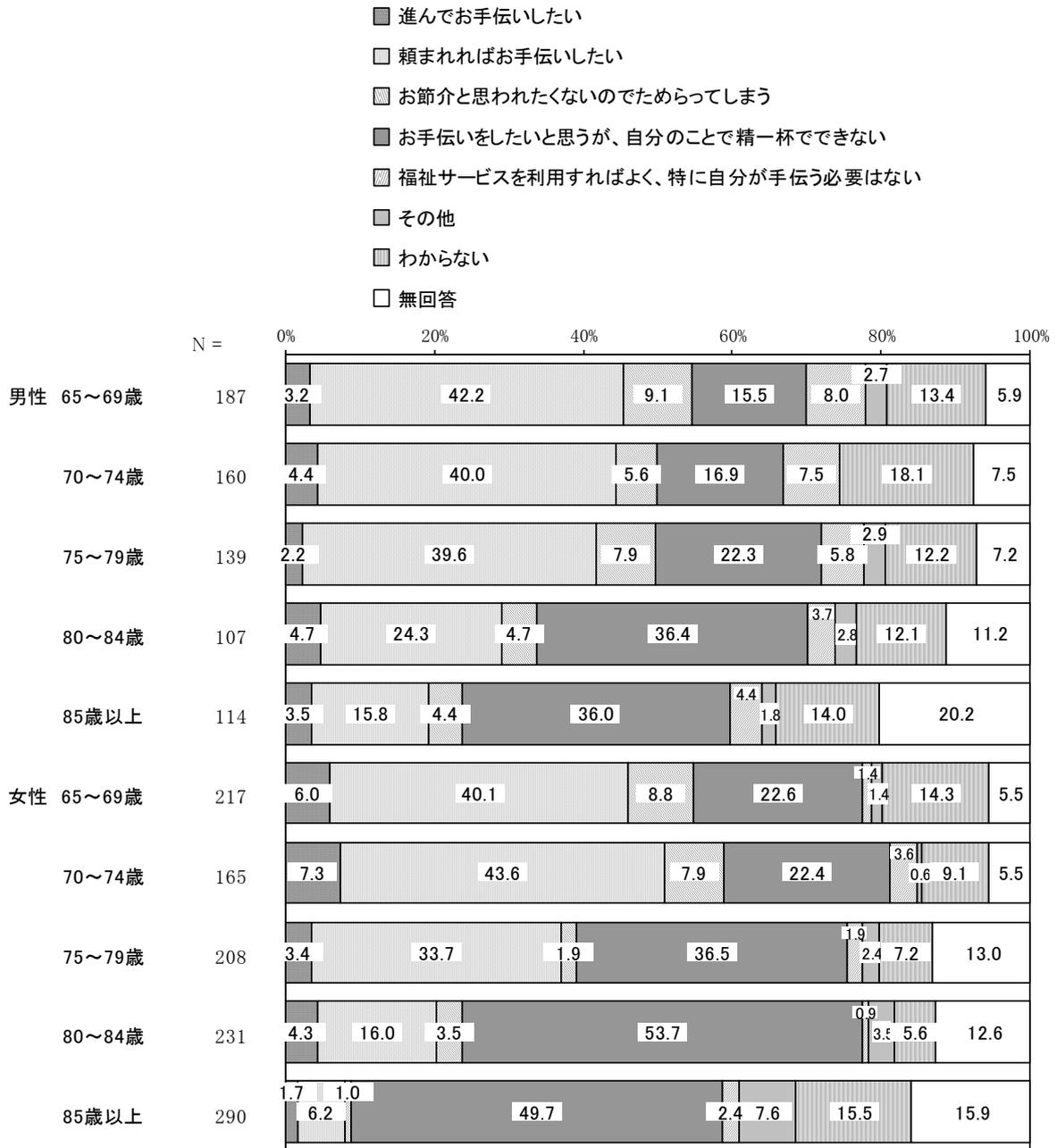
要支援認定者では、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「頼まれればお手伝いしたい」の割合が 13.2%、「わからない」の割合が 12.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「頼まれればお手伝いしたい」「お節介と思われたくないのだからためらってしまう」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の65～79歳、女性65～74歳で「頼まれればお手伝いしたい」の割合が高くなっています。また、女性の80～84歳で「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が高くなっています。



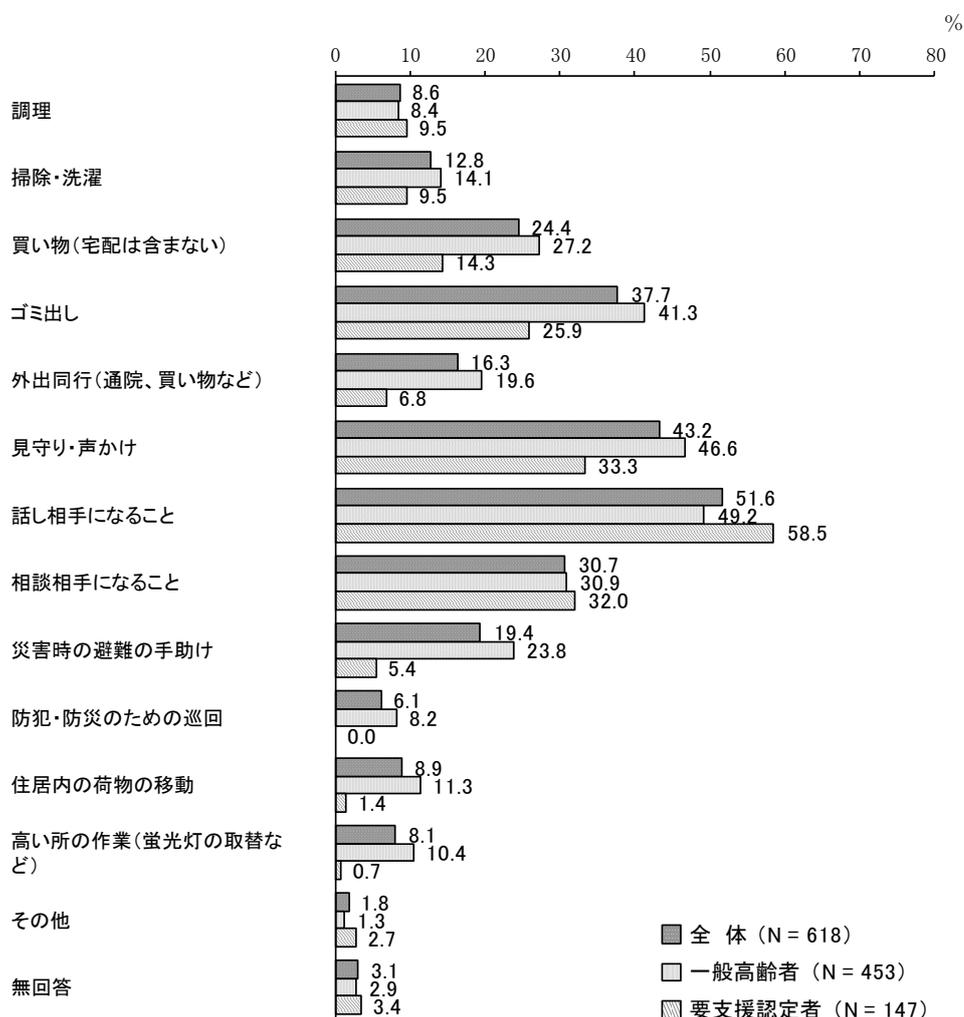
問 58 で「1 進んでお手伝いしたい」または「2 頼まれればお手伝いしたい」と回答した方にお伺いします。

問 58-② 具体的にどのような手助けができますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「話し相手になること」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」の割合が 46.6%、「ゴミ出し」の割合が 41.3%となっています。

要支援認定者では、「話し相手になること」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」の割合が 33.3%、「相談相手になること」の割合が 32.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「買い物(宅配は含まない)」「ゴミ出し」「外出同行(通院、買い物など)」「見守り・声かけ」「災害時の避難の手助け」「防犯・防災のための巡回」「住居内の荷物の移動」「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「話し相手になること」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の80歳以上で「話し相手になること」の割合が高くなっています。また、女性の65～74歳で「買い物（宅配は含まない）」男性の75～79歳、女性の65～79歳で「ゴミ出し」の割合が、女性の65～69歳で「見守り・声かけ」の割合が、男性の65～69歳で「災害時の避難の手助け」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	調理	掃除・洗濯	買い物 (宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行 (通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になる こと
男性 65～69歳	85	2.4	3.5	12.9	31.8	8.2	60.0	41.2
70～74歳	71	1.4	7.0	16.9	36.6	18.3	39.4	31.0
75～79歳	58	—	5.2	24.1	48.3	27.6	41.4	46.6
80～84歳	31	—	3.2	12.9	19.4	16.1	32.3	48.4
85歳以上	22	—	—	9.1	36.4	4.5	36.4	40.9
女性 65～69歳	100	15.0	25.0	40.0	45.0	20.0	54.0	59.0
70～74歳	84	23.8	23.8	39.3	45.2	17.9	41.7	56.0
75～79歳	77	9.1	18.2	23.4	42.9	20.8	40.3	58.4
80～84歳	47	12.8	6.4	12.8	21.3	8.5	19.1	70.2
85歳以上	23	4.3	13.0	13.0	13.0	4.3	34.8	69.6

区分	相談相手になる こと	災害時の避難の 手助け	巡回 防犯・防災のための	移動 住居内の荷物の	高い所の作業 (蛍光灯の取替など)	その他	無回答
男性 65～69歳	28.2	43.5	16.5	11.8	22.4	2.4	1.2
70～74歳	38.0	36.6	18.3	18.3	18.3	2.8	2.8
75～79歳	37.9	29.3	12.1	17.2	15.5	3.4	1.7
80～84歳	32.3	12.9	—	—	3.2	3.2	6.5
85歳以上	31.8	13.6	—	4.5	9.1	—	4.5
女性 65～69歳	28.0	15.0	2.0	9.0	3.0	—	4.0
70～74歳	31.0	8.3	1.2	6.0	—	2.4	1.2
75～79歳	27.3	3.9	—	2.6	—	—	6.5
80～84歳	31.9	6.4	—	4.3	—	2.1	—
85歳以上	30.4	—	—	—	—	—	4.3

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部、鈴鹿南部で「ゴミ出し」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「買い物（宅配は含まない）」の割合が、亀山で「災害時の避難の手助け」「住居内の荷物の移動」「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること
鈴鹿西部	109	7.3	10.1	18.3	25.7	12.8	41.3	52.3
鈴鹿北部	118	11.0	14.4	29.7	37.3	18.6	47.5	50.8
鈴鹿中部	120	6.7	10.0	20.0	44.2	14.2	44.2	50.8
鈴鹿南部	125	4.8	13.6	29.6	42.4	15.2	41.6	55.2
亀山	128	13.3	16.4	21.9	36.7	21.1	42.2	48.4

区分	と相談相手になること	災害時の避難の手助け	巡回 防犯・防災のための	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
鈴鹿西部	30.3	14.7	1.8	3.7	4.6	0.9	2.8
鈴鹿北部	34.7	13.6	6.8	8.5	5.9	0.8	4.2
鈴鹿中部	28.3	19.2	5.8	7.5	6.7	1.7	4.2
鈴鹿南部	31.2	21.6	6.4	8.8	8.8	2.4	0.8
亀山	31.3	26.6	9.4	14.8	13.3	2.3	3.1

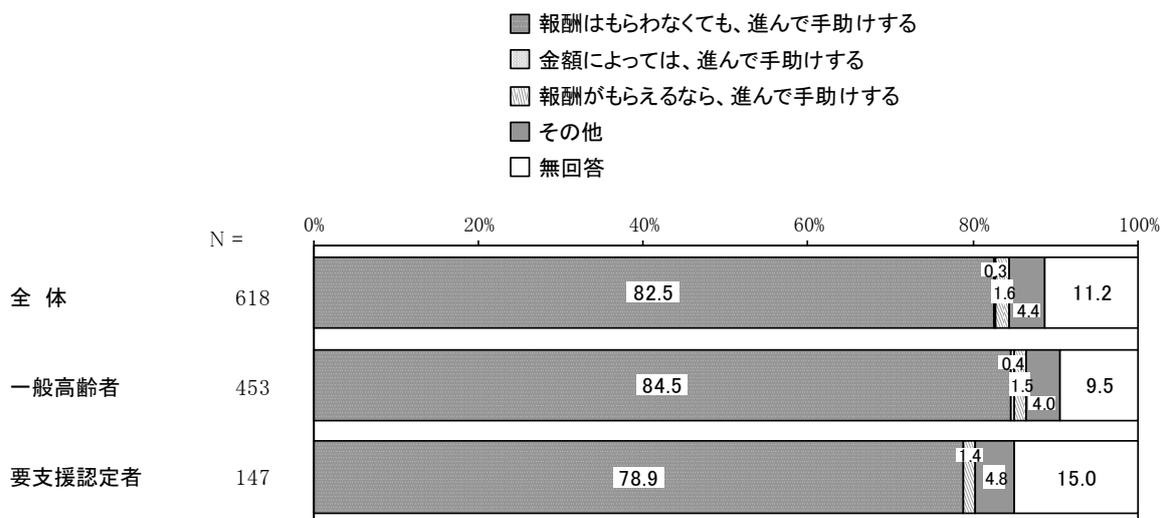
問 58 で「1 進んでお手伝いしたい」または「2 頼まれればお手伝いしたい」と回答した方にお伺いします。

問 58-③ 上のような（問 58-②）の手助けに対し、報酬をもらうことをどう思いますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「報酬はもらわなくても、進んで手助けする」の割合が 84.5%と最も高くなっています。

要支援認定者では、「報酬はもらわなくても、進んで手助けする」の割合が 78.9%と最も高くなっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「報酬はもらわなくても、進んで手助けする」の割合が高くなっています。

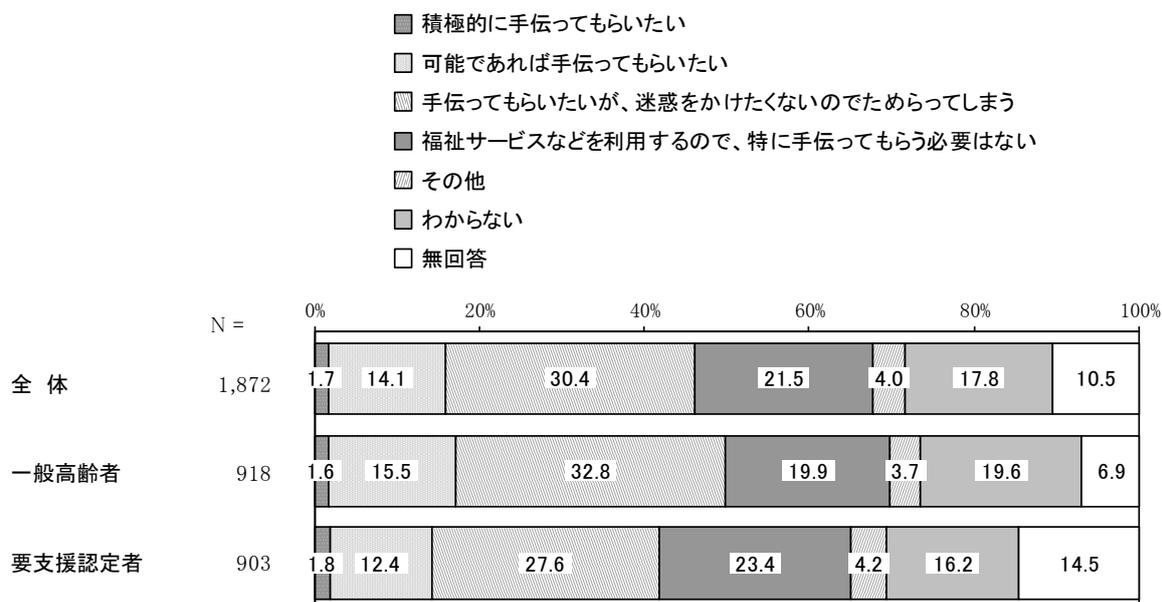


問 59 あなたは、生活する上で手助けが必要になったとき、隣近所や地域の人から手助けしてもらいたいですか。（1つを選択）

一般高齢者では、「手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのでためらってしまう」の割合が32.8%と最も高く、次いで「福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもら必要はない」の割合が19.9%、「わからない」の割合が19.6%となっています。

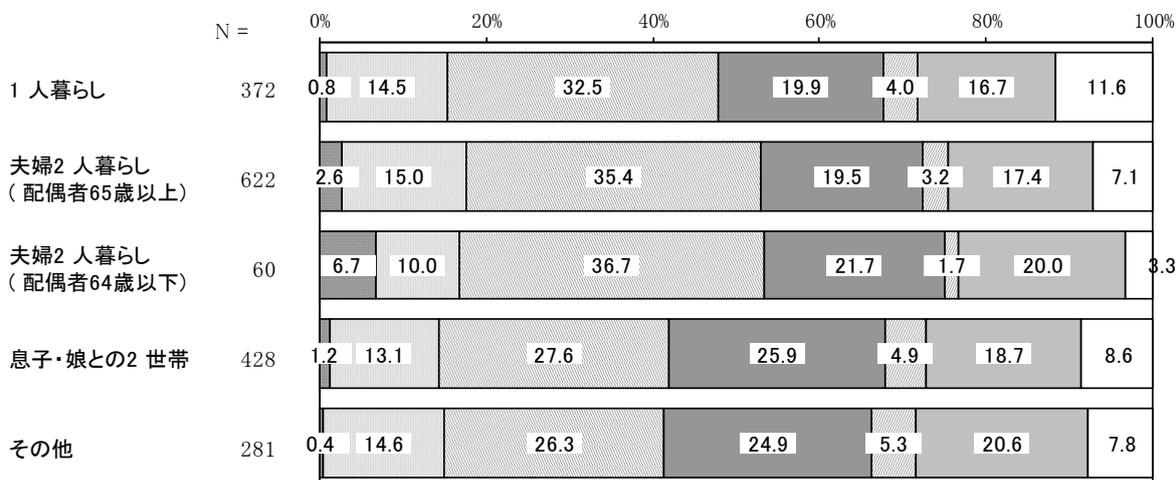
要支援認定者では、「手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのでためらってしまう」の割合が27.6%と最も高く、次いで「福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもら必要はない」の割合が23.4%、「わからない」の割合が16.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのでためらってしまう」の割合が高くなっています。



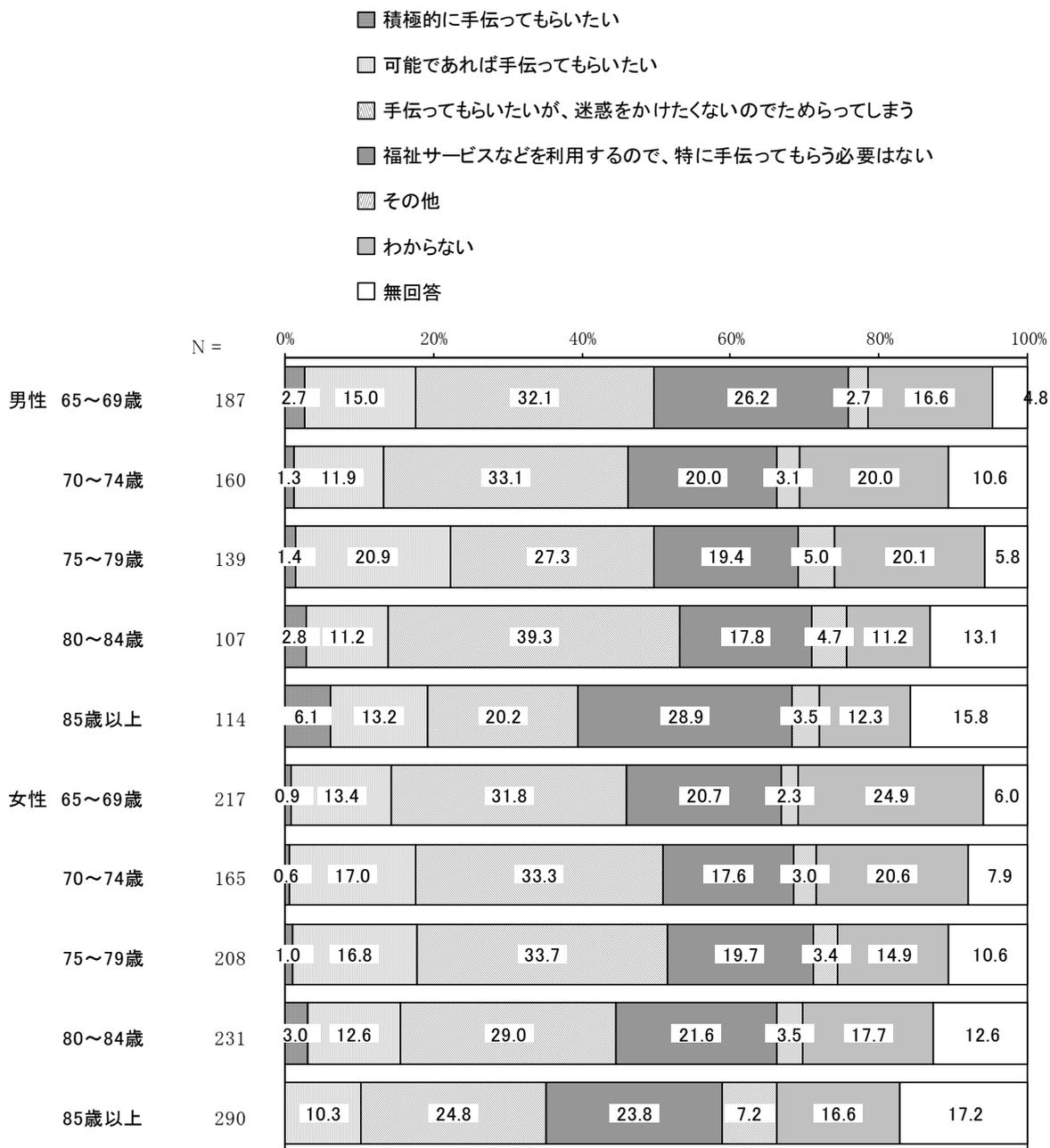
【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、息子・娘との2世帯で「福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもら必要はない」の割合が高くなっています。



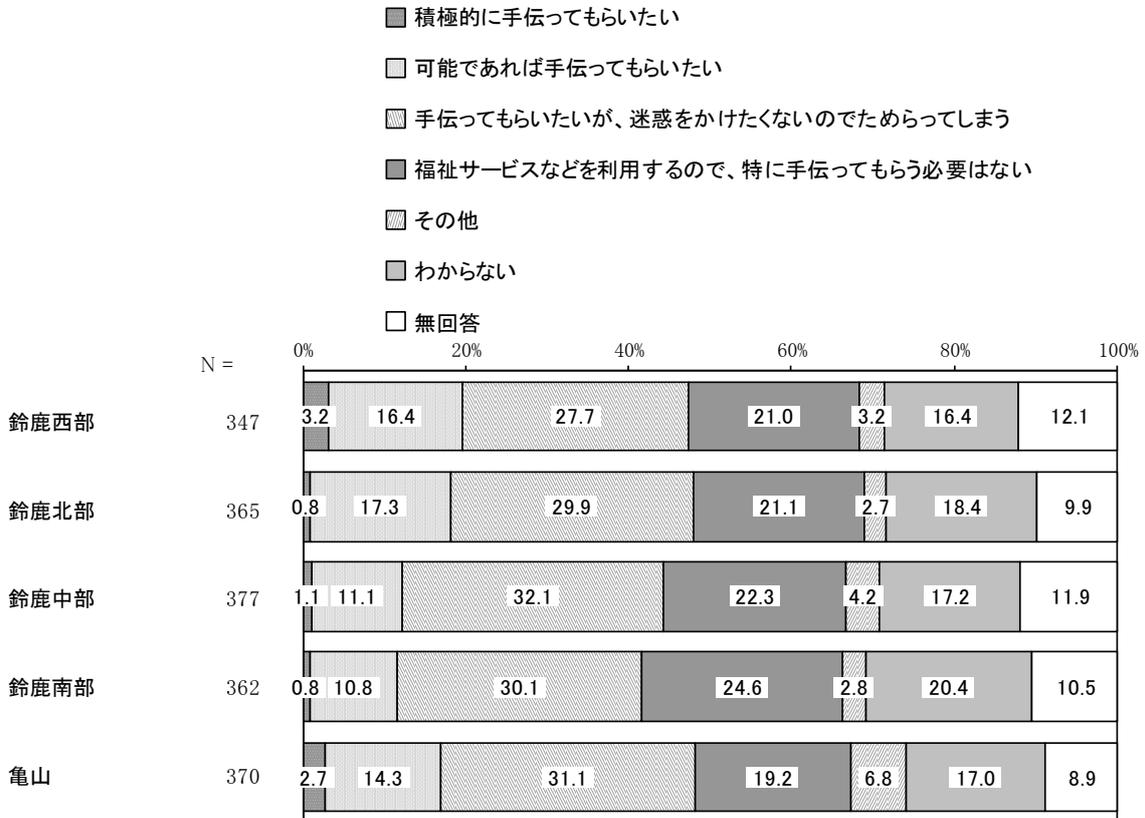
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の80～84歳、女性の65～79歳で「手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのでためらってしまう」の割合が高くなっています。また、男性の65～69歳、85歳以上で「福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもらう必要はない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿北部で「可能であれば手伝ってもらいたい」の割合が高くなっています。また、亀山、鈴鹿中部、鈴鹿南部で「手伝ってもらいたい、迷惑をかけたくないのでためらってしまう」の割合が高くなっています。



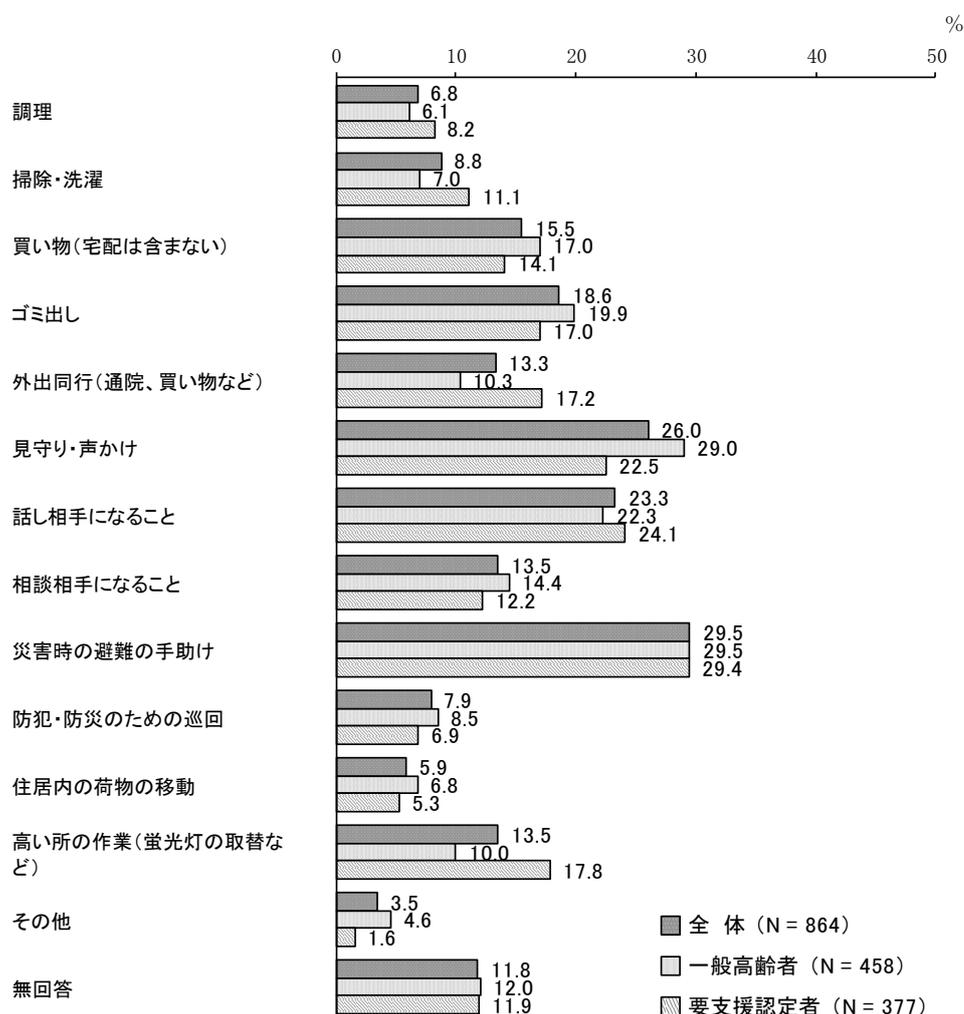
問 59 で「1 積極的に手伝ってもらいたい」または「2 可能であれば手伝ってもらいたい」または「3 手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのためらってしまう」と回答した方にお伺いします。

問 59-② 具体的にどのような手助けをしてもらいたいですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「災害時の避難の手助け」の割合が 29.5%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」の割合が 29.0%、「話し相手になること」の割合が 22.3%となっています。

要支援認定者では、「災害時の避難の手助け」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「話し相手になること」の割合が 24.1%、「見守り・声かけ」の割合が 22.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「見守り・声かけ」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「外出同行（通院、買い物など）」「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、1人暮らし、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)で「ゴミ出し」の割合が、1人暮らしで「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
1人暮らし	178	7.9	9.6	19.1	24.2	16.3	30.3	19.7	13.5	32.0	9.0	8.4	23.6	2.8	10.1
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	329	7.0	10.0	16.4	21.9	9.1	26.4	22.8	11.2	27.1	7.6	4.6	14.3	3.0	14.9
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	32	12.5	9.4	9.4	9.4	12.5	9.4	25.0	12.5	28.1	6.3	—	3.1	6.3	12.5
息子・娘との2世帯	179	7.3	7.8	10.6	10.1	14.5	24.6	27.4	16.8	33.0	7.3	5.6	7.8	3.9	9.5
その他	116	4.3	5.2	19.0	16.4	16.4	29.3	24.1	14.7	30.2	10.3	6.0	8.6	5.2	11.2

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「話し相手になること」の割合が高くなっています。また、鈴鹿中部、鈴鹿南部で「ゴミ出し」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	巡回	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
鈴鹿西部	164	5.5	7.9	15.2	16.5	12.2	22.6	28.0	15.2	23.8	4.9	6.7	10.4	3.7	9.1	
鈴鹿北部	175	4.0	6.3	13.1	16.6	15.4	30.3	20.6	14.9	31.4	10.3	5.1	14.3	1.7	10.9	
鈴鹿中部	167	7.8	9.6	17.4	21.0	17.4	26.9	23.4	13.8	30.5	8.4	7.2	12.6	3.0	18.0	
鈴鹿南部	151	7.9	7.9	19.9	23.8	11.9	23.2	20.5	9.9	31.1	7.3	4.0	15.9	4.6	9.3	
亀山	178	10.1	12.4	13.5	15.7	10.1	27.0	23.0	12.9	30.3	7.9	7.3	14.6	3.4	12.4	

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性で年齢が低くなるにつれ「買い物（宅配は含まない）」「ゴミ出し」の割合が高くなっています。また、他に比べ、男性の65～69歳で「災害時の避難の手助け」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
男性 65～69歳	93	10.8	7.5	12.9	9.7	12.9	25.8	21.5	14.0	40.9	10.8	8.6	11.8	5.4	12.9
70～74歳	74	6.8	5.4	12.2	12.2	6.8	35.1	16.2	10.8	28.4	10.8	5.4	12.2	1.4	20.3
75～79歳	69	8.7	11.6	18.8	18.8	15.9	26.1	21.7	15.9	34.8	11.6	8.7	20.3	5.8	11.6
80～84歳	57	10.5	7.0	14.0	19.3	19.3	19.3	19.3	14.0	28.1	12.3	7.0	10.5	—	14.0
85歳以上	45	8.9	17.8	13.3	20.0	13.3	24.4	28.9	8.9	24.4	4.4	6.7	13.3	2.2	15.6
女性 65～69歳	100	5.0	5.0	26.0	31.0	11.0	34.0	24.0	13.0	27.0	10.0	4.0	9.0	5.0	11.0
70～74歳	84	7.1	10.7	20.2	25.0	11.9	25.0	25.0	11.9	23.8	6.0	4.8	10.7	3.6	9.5
75～79歳	107	6.5	9.3	15.9	21.5	10.3	24.3	22.4	14.0	23.4	3.7	7.5	19.6	2.8	13.1
80～84歳	103	5.8	9.7	15.5	15.5	18.4	22.3	26.2	10.7	28.2	6.8	4.9	15.5	2.9	4.9
85歳以上	102	3.9	8.8	6.9	12.7	15.7	23.5	25.5	17.6	34.3	3.9	4.9	11.8	2.0	11.8

【生活上の困難の有無別】

生活上の困難の有無別でみると、困難がない人に比べ、ある人で「掃除・洗濯」「外出同行（通院、買い物など）」「災害時の避難の手助け」「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」の割合が高くなっています。また、困難がある人に比べ、ない人で「見守り・声かけ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
ある	209	10.0	13.9	19.1	19.6	19.1	21.1	25.4	12.9	33.5	8.1	8.1	20.1	1.4	7.7
ない	583	5.8	6.5	15.3	19.4	11.1	29.0	23.0	14.2	28.1	7.7	5.7	10.6	4.1	12.5

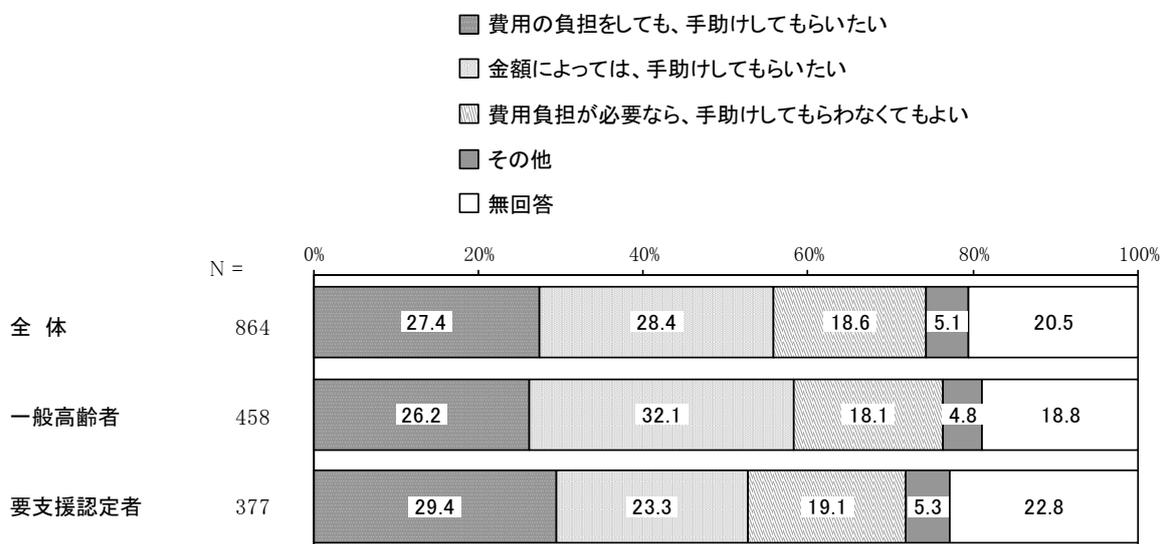
問 59 で「1 積極的に手伝ってもらいたい」または「2 可能であれば手伝ってもらいたい」または「3 手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのためらってしまう」と回答した方にお伺いします。

問 59-③ 上のような（問 59-②）の手助けに対し、費用の負担をすることをどう思いますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「金額によっては、手助けしてもらいたい」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「費用の負担をしても、手助けしてもらいたい」の割合が 26.2%、「費用負担が必要なら、手助けしてもらわなくてもよい」の割合が 18.1%となっています。

要支援認定者では、「費用の負担をしても、手助けしてもらいたい」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「金額によっては、手助けしてもらいたい」の割合が 23.3%、「費用負担が必要なら、手助けしてもらわなくてもよい」の割合が 19.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「金額によっては、手助けしてもらいたい」の割合が高くなっています。

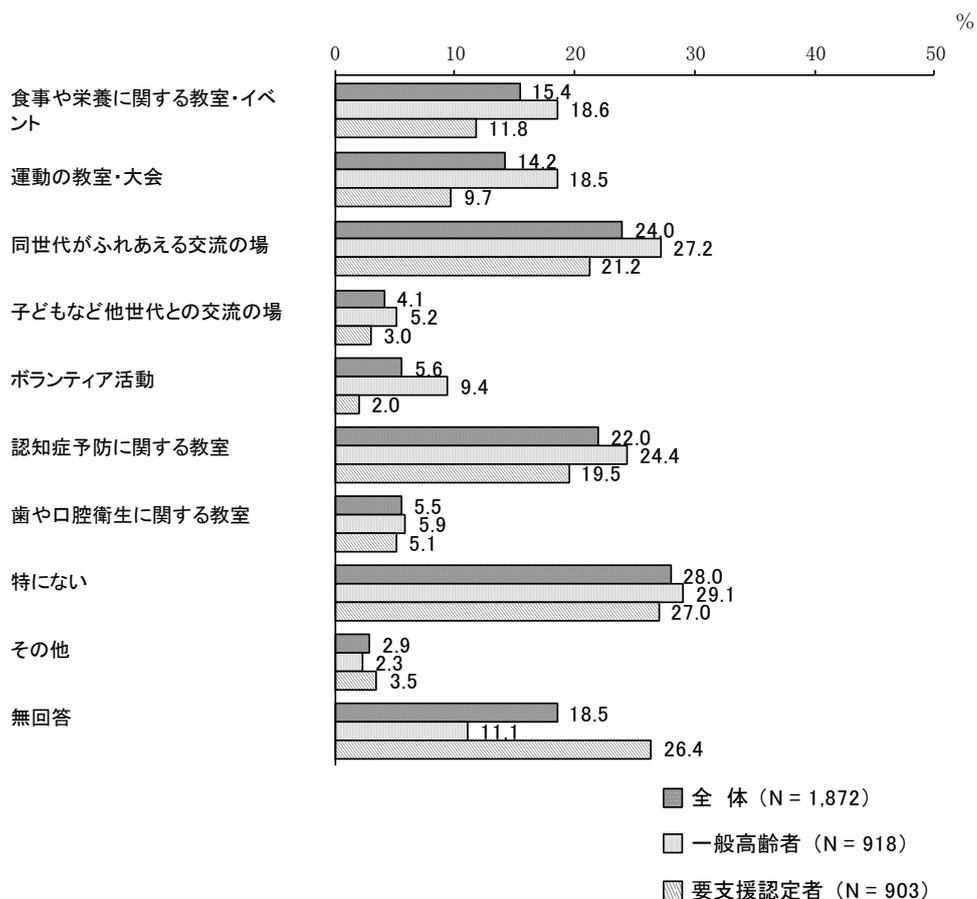


問 60 介護予防（介護が必要な状態にならないようにすること）のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。（複数選択可）

一般高齢者では、「特にない」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「同世代がふれあえる交流の場」の割合が 27.2%、「認知症予防に関する教室」の割合が 24.4%となっています。

要支援認定者では、「特にない」の割合が 27.0%と最も高く、次いで「同世代がふれあえる交流の場」の割合が 21.2%、「認知症予防に関する教室」の割合が 19.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「食事や栄養に関する教室・イベント」「運動の教室・大会」「同世代がふれあえる交流の場」「ボランティア活動」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

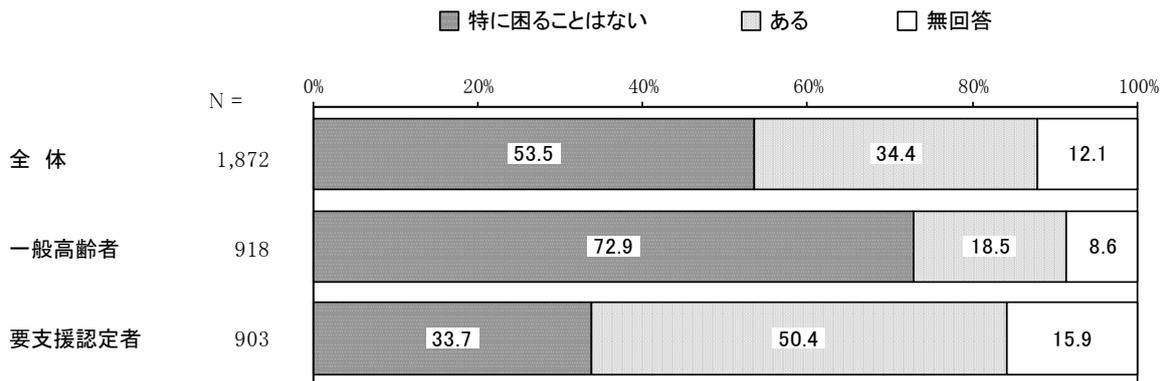
区分	有効回答数(件)	食事や栄養に関する教室・イベント	運動の教室・大会	同世代がふれあえる交流の場	子どもなど他世代との交流の場	ボランティア活動	認知症予防に関する教室	歯や口腔衛生に関する教室	特にない	その他	無回答
鈴鹿西部	347	15.3	14.4	25.1	6.1	4.6	24.8	4.3	28.8	1.7	17.3
鈴鹿北部	365	15.1	13.4	23.0	3.6	7.7	20.8	7.4	27.7	4.1	19.5
鈴鹿中部	377	14.1	12.2	23.1	4.0	6.1	21.5	5.3	25.7	3.2	22.0
鈴鹿南部	362	13.3	16.3	25.7	3.3	6.4	19.1	5.8	30.9	1.9	17.1
亀山	370	18.6	14.6	24.3	3.8	3.8	23.8	4.6	27.3	3.5	17.3

問 61 あなたは、災害時の避難に困ることはありますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「特に困ることはない」の割合が 72.9%、「ある」の割合が 18.5%となっています。

要支援認定者では、「特に困ることはない」の割合が 33.7%、「ある」の割合が 50.4%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「特に困ることはない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ある」の割合が高くなっています。

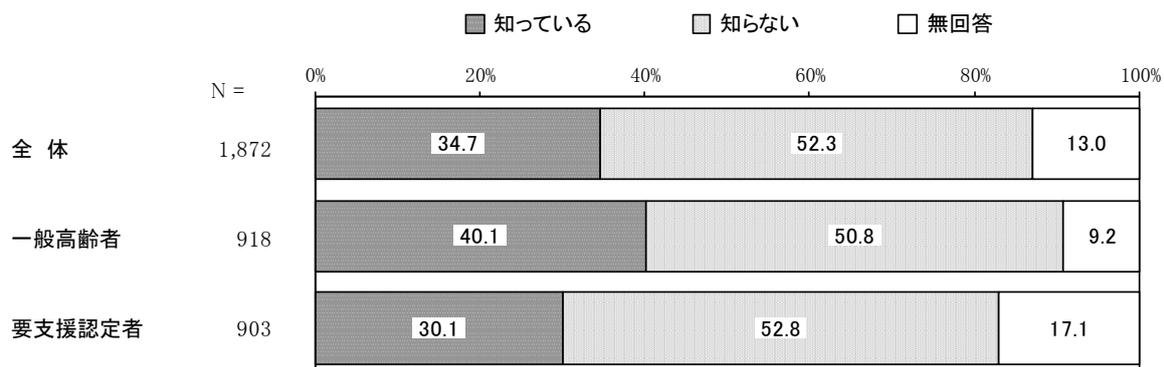


問 62 災害時要援護者支援活動とは、災害時の避難や避難所生活で、さまざまな困難が予想される高齢者や障がい者を登録し、その人の情報を消防署・消防団、民生委員・児童委員、自治会などの関係団体が持つことによって、住民同士の助け合いや支援活動を行いやすくする活動です。
あなたは、このような活動を知っていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「知っている」の割合が 40.1%、「知らない」の割合が 50.8%となっています。

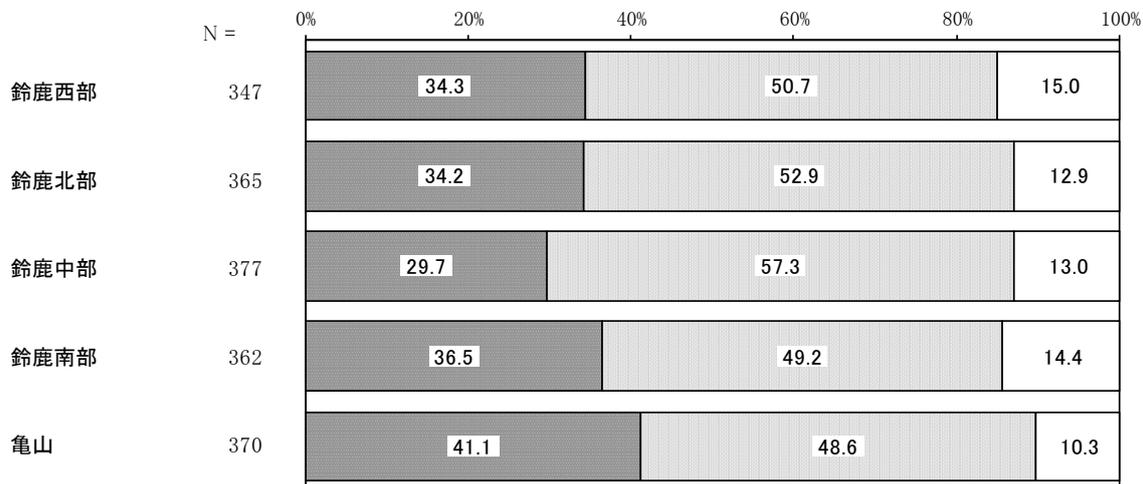
要支援認定者では、「知っている」の割合が 30.1%、「知らない」の割合が 52.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「知っている」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「知っている」の割合が高くなっています。

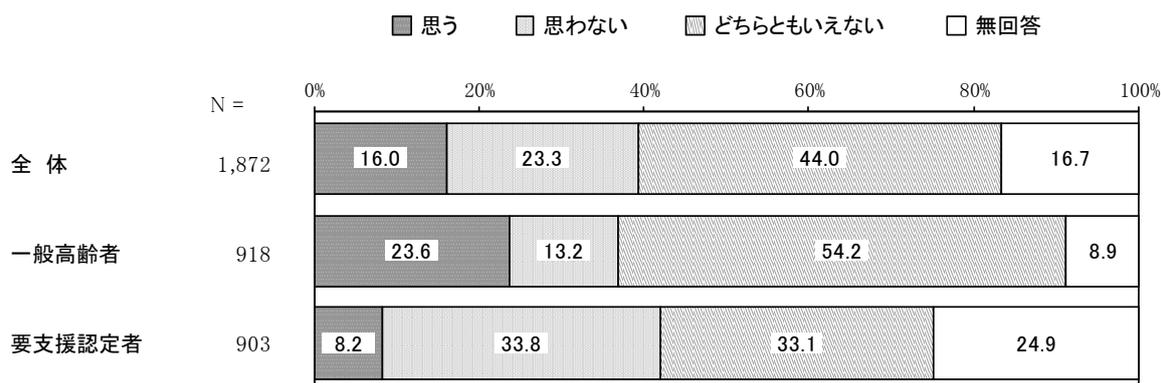


問 63 あなたは、災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」を支援する支援者になってもよいと思いますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「どちらともいえない」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「思う」の割合が 23.6%、「思わない」の割合が 13.2%となっています。

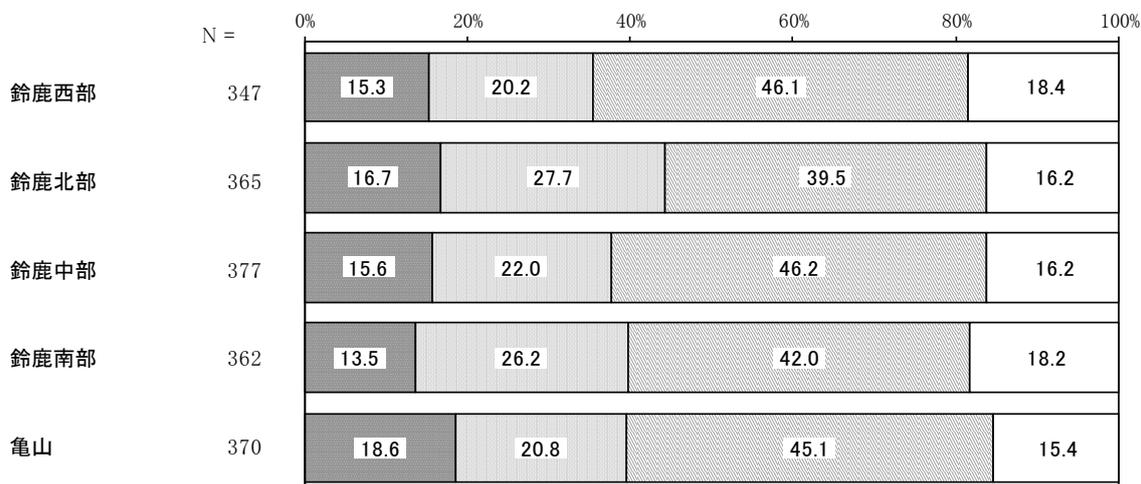
要支援認定者では、「思わない」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が 33.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「思う」「どちらともいえない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「思わない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「思わない」の割合が高くなっています。



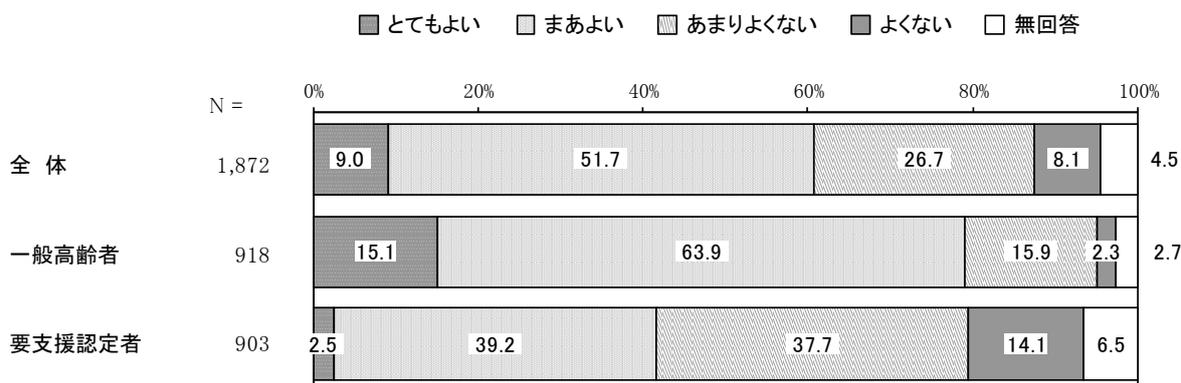
(7) 健康について

問 64 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「まあよい」の割合が 63.9%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が 15.9%、「とてもよい」の割合が 15.1%となっています。

要支援認定者では、「まあよい」の割合が 39.2%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が 37.7%、「よくない」の割合が 14.1%となっています。

“健康状態がよい人”の割合は、一般で 79.0%、要支援で 41.7%となっており、37.3ポイントの差となっています。また、“健康状態がよくない人”の割合は、一般で 18.2%、要支援で 51.8%となっており、33.6ポイントの差となっています。

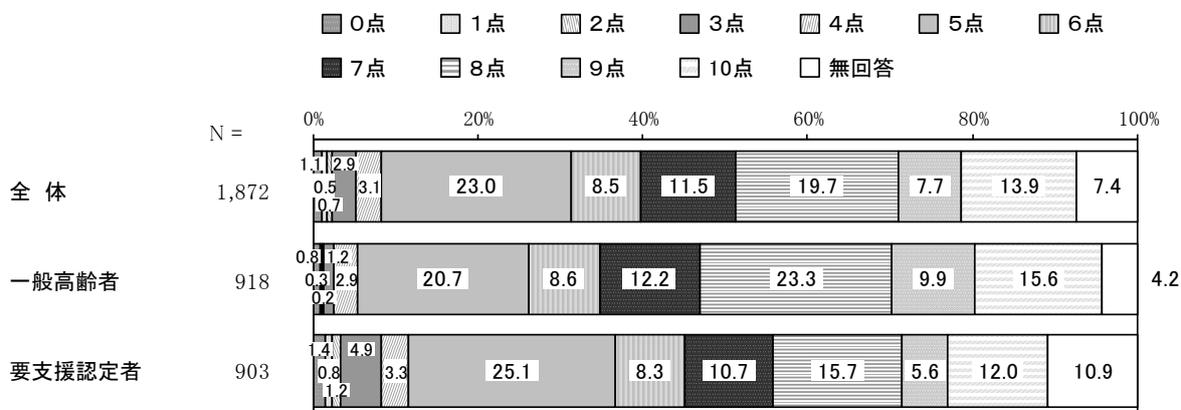


問 65 あなたは、現在どの程度幸せですか。

一般高齢者では、「8点」の割合が 23.3%と最も高く、次いで「5点」の割合が 20.7%、「10点」の割合が 15.6%となっています。

要支援認定者では、「5点」の割合が 25.1%と最も高く、次いで「8点」の割合が 15.7%、「10点」の割合が 12.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「8点」の割合が高くなっています。

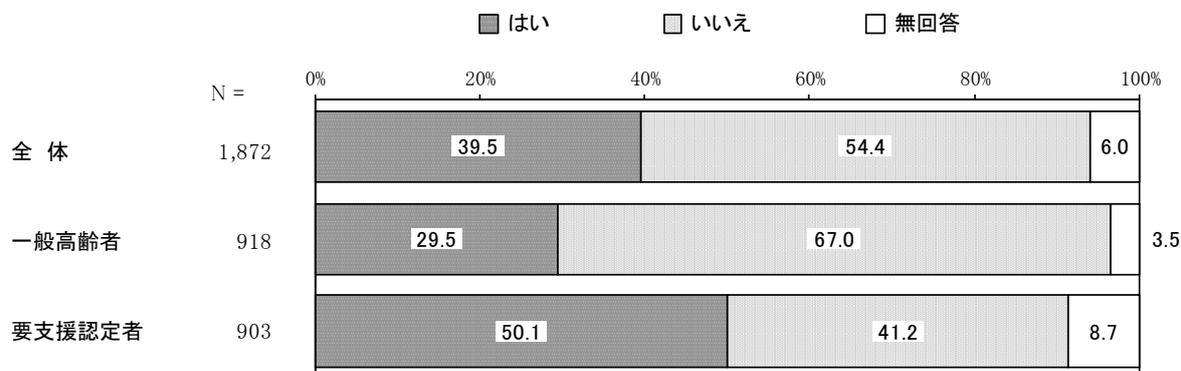


問 66 この1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が29.5%、「いいえ」の割合が67.0%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が50.1%、「いいえ」の割合が41.2%となっています。

「はい」の割合は、一般で29.5%、要支援で50.1%となっており、20.6ポイントの差となっています。

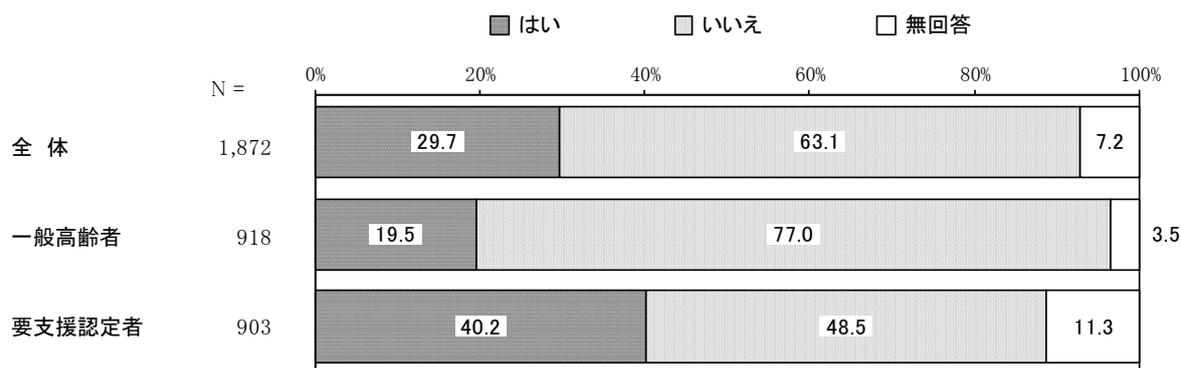


問 67 この1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つを選択)

一般高齢者では、「はい」の割合が19.5%、「いいえ」の割合が77.0%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が40.2%、「いいえ」の割合が48.5%となっています。

「はい」の割合は、一般で19.5%、要支援で40.2%となっており、20.7ポイントの差となっています。

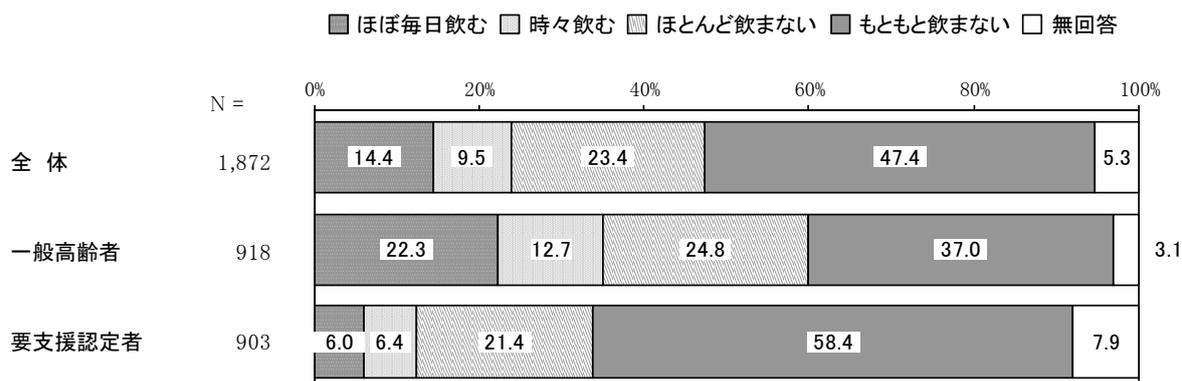


問 68 お酒は飲みますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「もともと飲まない」の割合が 37.0%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」の割合が 24.8%、「ほぼ毎日飲む」の割合が 22.3%となっています。

要支援認定者では、「もともと飲まない」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」の割合が 21.4%となっています。

「ほぼ毎日のむ」の割合は、一般で 22.3%、要支援で 6.0%となっており、16.3 ポイントの差となっています。

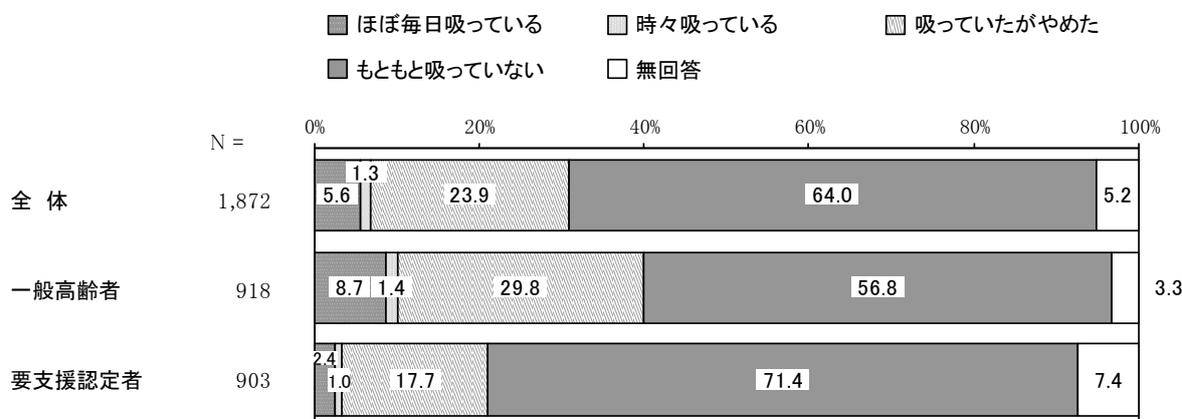


問 69 タバコは吸っていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「もともと吸っていない」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」の割合が 29.8%となっています。

要支援認定者では、「もともと吸っていない」の割合が 71.4%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」の割合が 17.7%となっています。

「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“吸っている人”の割合は、一般で 10.1%、要支援で 3.4%となっており、6.7 ポイントの差となっています。

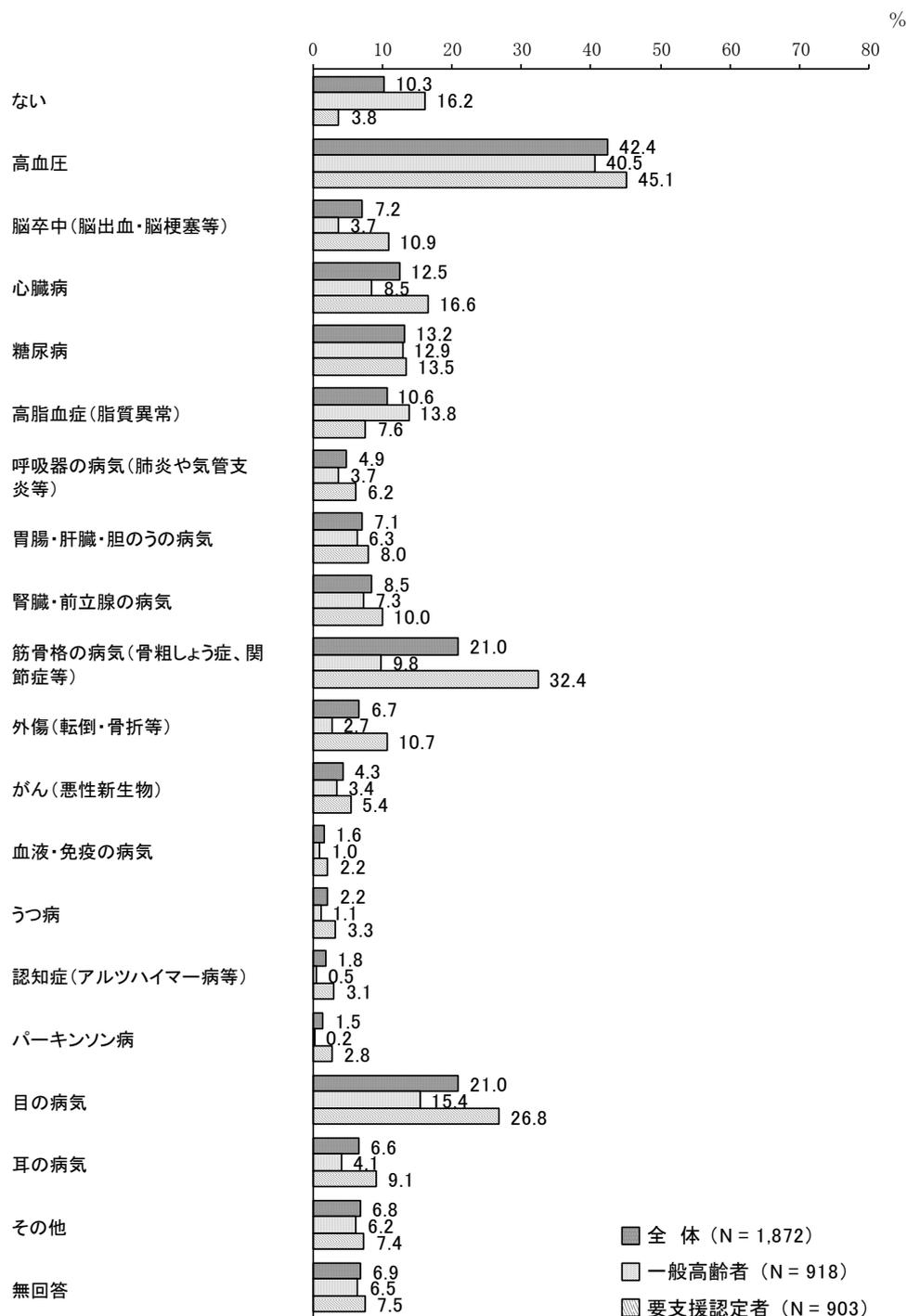


問 70 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「高血圧」の割合が40.5%と最も高く、次いで「ない」の割合が16.2%、「目の病気」の割合が15.4%となっています。

要支援認定者では、「高血圧」の割合が45.1%と最も高く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が32.4%、「目の病気」の割合が26.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「ない」「高脂血症（脂質異常）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「心臓病」「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」「外傷（転倒・骨折等）」「目の病気」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男女とも、年齢が高くなるにつれ「ない」の割合が低く、「目の病気」の割合が高くなる傾向がみられます。また、男性で年齢が高くなるにつれ「腎臓・前立腺の病気」の割合が高く、女性で年齢が高くなるにつれ「高血圧」「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	有効回答数（件）	ない	高血圧	脳卒中 （脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症 （脂質異常）	呼吸器の病気 （肺炎や 気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの 病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気 （骨粗しょう症、 関節症等）
男性 65～69 歳	187	18.7	35.8	9.1	8.6	16.6	16.6	2.1	8.6	9.1	3.2
70～74 歳	160	11.9	42.5	10.0	10.6	15.0	8.1	3.8	4.4	12.5	3.1
75～79 歳	139	9.4	42.4	12.9	18.7	21.6	11.5	7.9	6.5	21.6	3.6
80～84 歳	107	8.4	38.3	12.1	19.6	12.1	5.6	11.2	8.4	15.9	8.4
85 歳以上	114	2.6	38.6	8.8	20.2	13.2	5.3	6.1	9.6	28.1	24.6
女性 65～69 歳	217	18.4	33.2	6.0	4.1	12.9	16.6	1.8	4.6	2.8	15.7
70～74 歳	165	10.9	43.6	6.1	9.1	13.3	16.4	4.2	6.1	2.4	26.1
75～79 歳	208	8.7	45.2	6.3	9.1	13.9	11.5	7.2	7.7	4.3	30.3
80～84 歳	231	3.0	48.9	4.3	14.7	10.8	6.5	3.5	7.8	3.0	38.1
85 歳以上	290	6.2	51.4	4.1	16.6	7.9	7.6	5.5	8.3	5.2	35.2

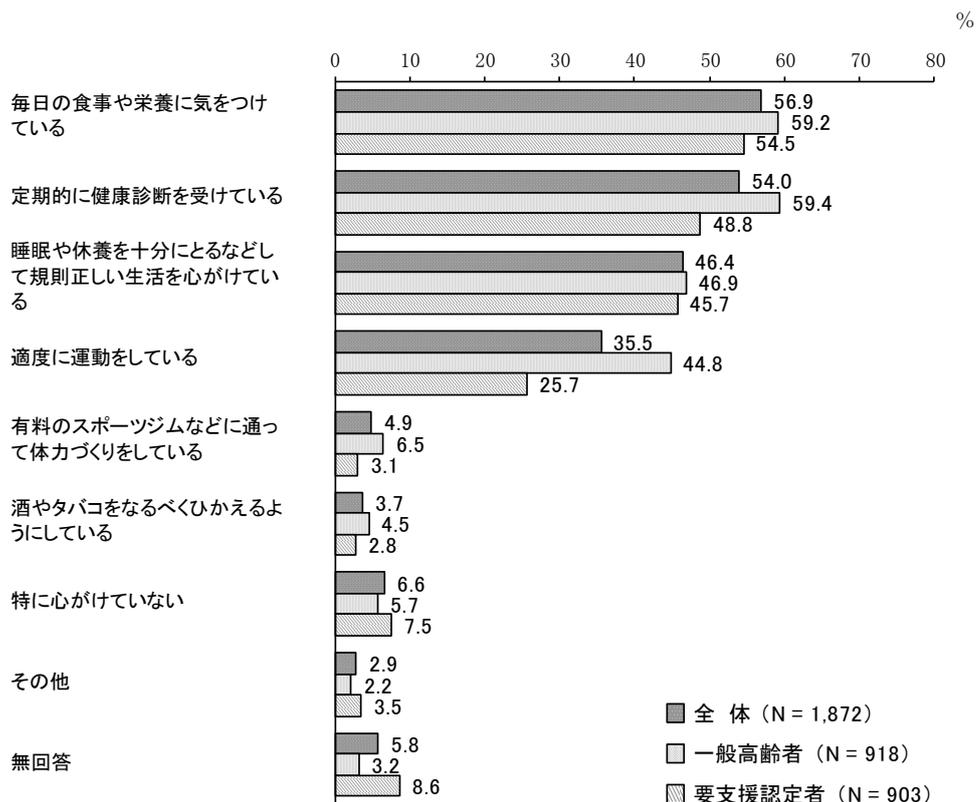
区分	外傷 （転倒・骨折等）	がん （悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症 （アルツハイマ ー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
男性 65～69 歳	2.1	2.7	2.1	1.6	0.5	0.5	15.5	3.7	6.4	6.4
70～74 歳	0.6	5.0	0.6	0.6	1.3	2.5	16.9	1.3	7.5	8.1
75～79 歳	6.5	5.8	—	1.4	2.2	2.9	20.1	10.1	9.4	5.8
80～84 歳	3.7	8.4	2.8	0.9	2.8	0.9	24.3	9.3	7.5	2.8
85 歳以上	7.0	5.3	0.9	0.9	1.8	1.8	25.4	7.9	7.0	11.4
女性 65～69 歳	4.6	4.1	1.8	2.8	0.5	—	12.4	2.8	6.0	6.5
70～74 歳	8.5	4.2	0.6	3.6	1.2	3.0	20.6	4.2	8.5	6.1
75～79 歳	9.1	3.4	2.4	5.3	1.4	2.9	23.1	9.1	9.6	4.8
80～84 歳	12.1	4.3	1.7	1.7	2.6	1.3	25.1	9.1	5.6	9.1
85 歳以上	8.6	3.8	2.1	1.7	3.4	0.3	26.6	8.6	3.8	8.3

問 71 日頃、健康についてどんなことを心がけていますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「定期的に健康診断を受けている」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「毎日の食事や栄養に気をつけている」の割合が 59.2%、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」の割合が 46.9%となっています。

要支援認定者では、「毎日の食事や栄養に気をつけている」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」の割合が 48.8%、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」の割合が 45.7%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「定期的に健康診断を受けている」「適度に運動をしている」の割合が高くなっています。

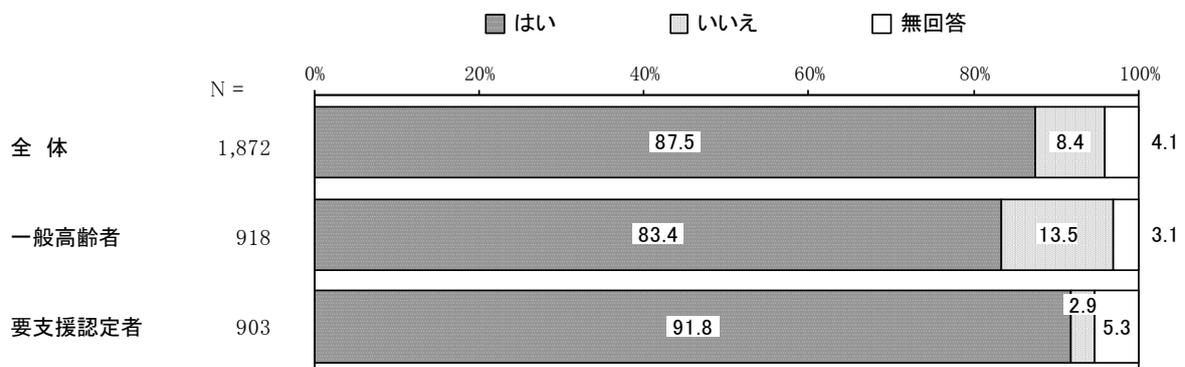


問 72 あなたには、「かかりつけ医（主治医）」または、いつもかかっている医療機関がありますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「はい」の割合が83.4%、「いいえ」の割合が13.5%となっています。

要支援認定者では、「はい」の割合が91.8%、「いいえ」の割合が2.9%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「いいえ」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「はい」の割合が高くなっています。



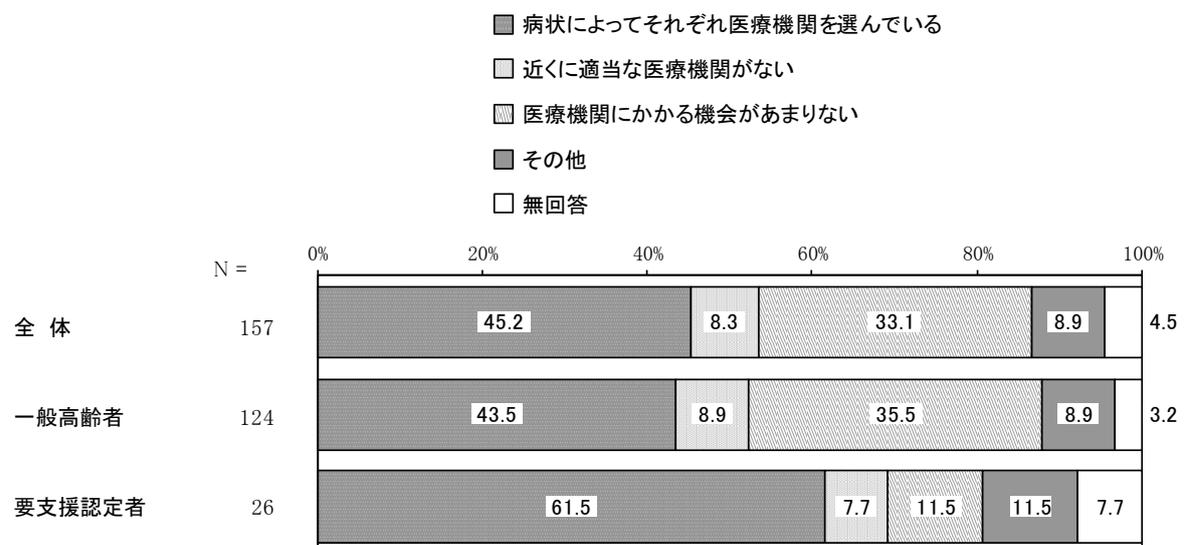
問 72 で「2 いいえ」と回答した方にお伺いします。

問 72-② 「かかりつけ医」をもたない主な理由は何ですか。（1つを選択）

一般高齢者では、「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」の割合が43.5%と最も高く、次いで「医療機関にかかる機会があまりない」の割合が35.5%となっています。

要支援認定者では、「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」の割合が61.5%と最も高く、次いで「医療機関にかかる機会があまりない」の割合が11.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「医療機関にかかる機会があまりない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」の割合が高くなっています。



(8) 介護保険サービス全般および高齢者福祉について

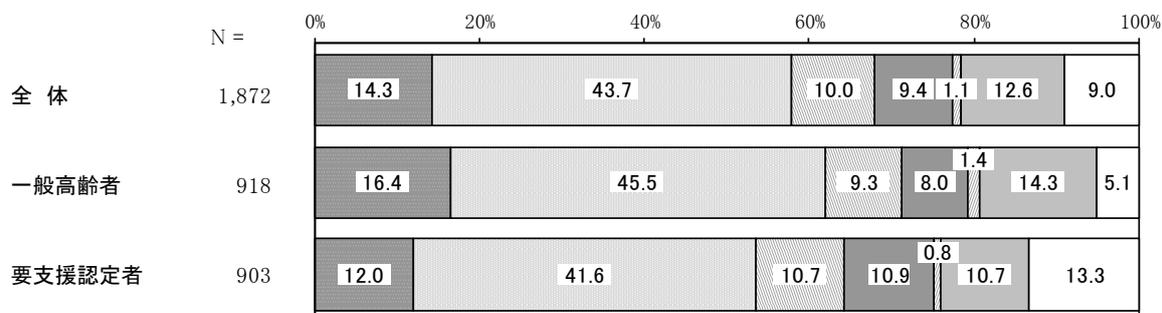
問 73 今後、仮にあなたが介護が必要な状態になった場合、どのようにしたいですか。(1つを選択)

一般高齢者では、「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が45.5%と最も高く、次いで「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が16.4%、「わからない」の割合が14.3%となっています。

要支援認定者では、「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が41.6%と最も高く、次いで「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が12.0%、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」の割合が10.9%となっています。

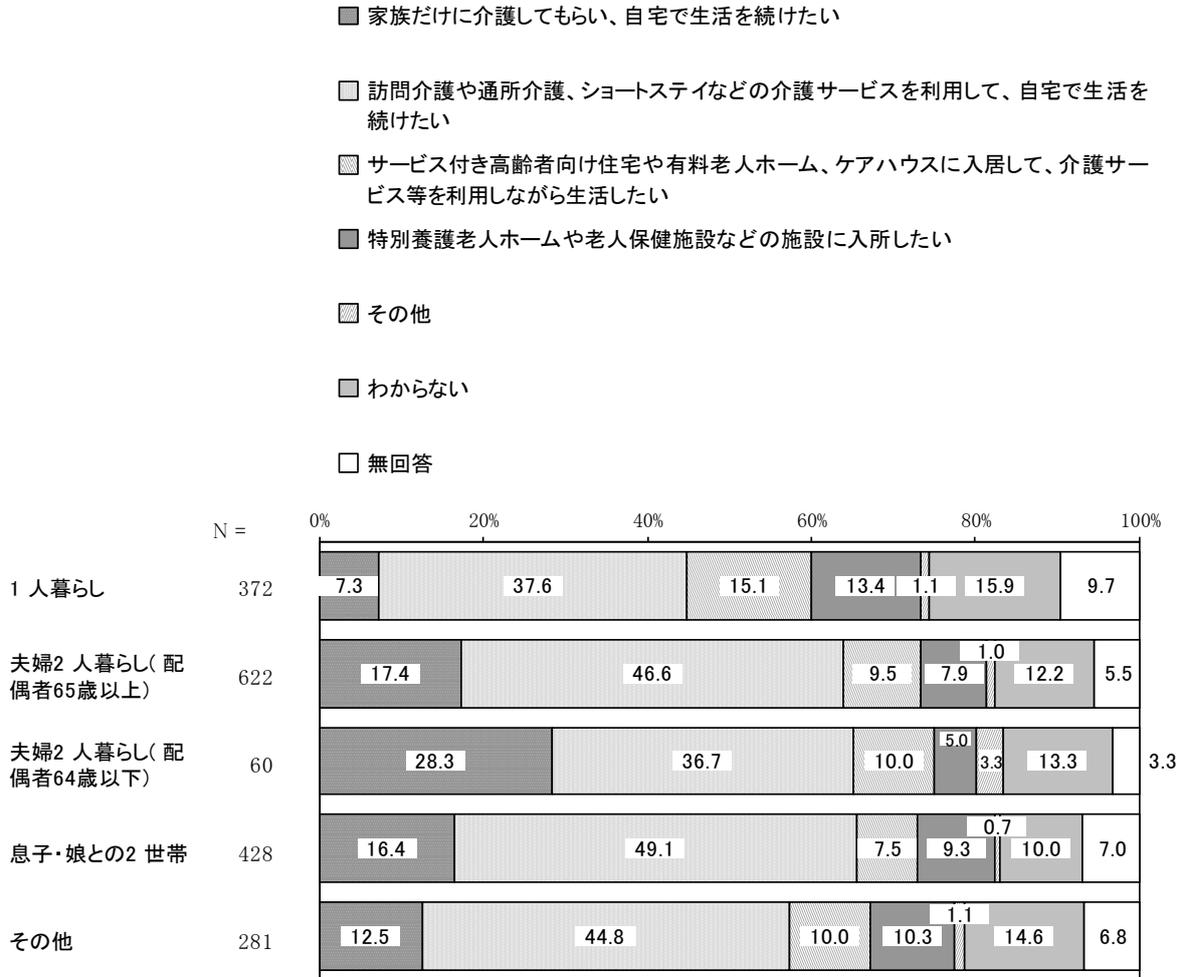
一般高齢者と要支援認定者で、大きな差異はみられません。

- 家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



【家族構成別】

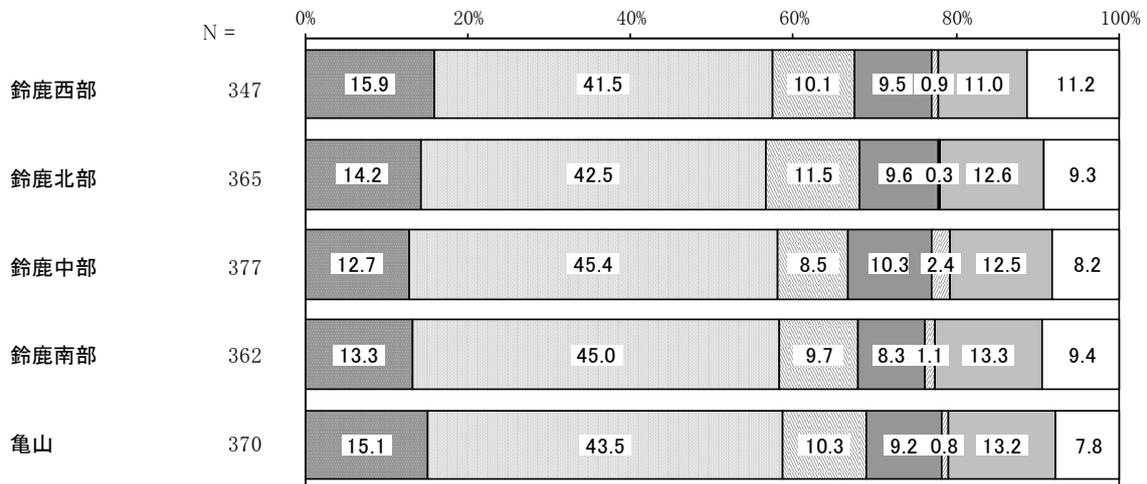
家族構成別で見ると、他に比べ、息子・娘との2世帯で「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が高くなっています。また、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)で「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。

- 家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



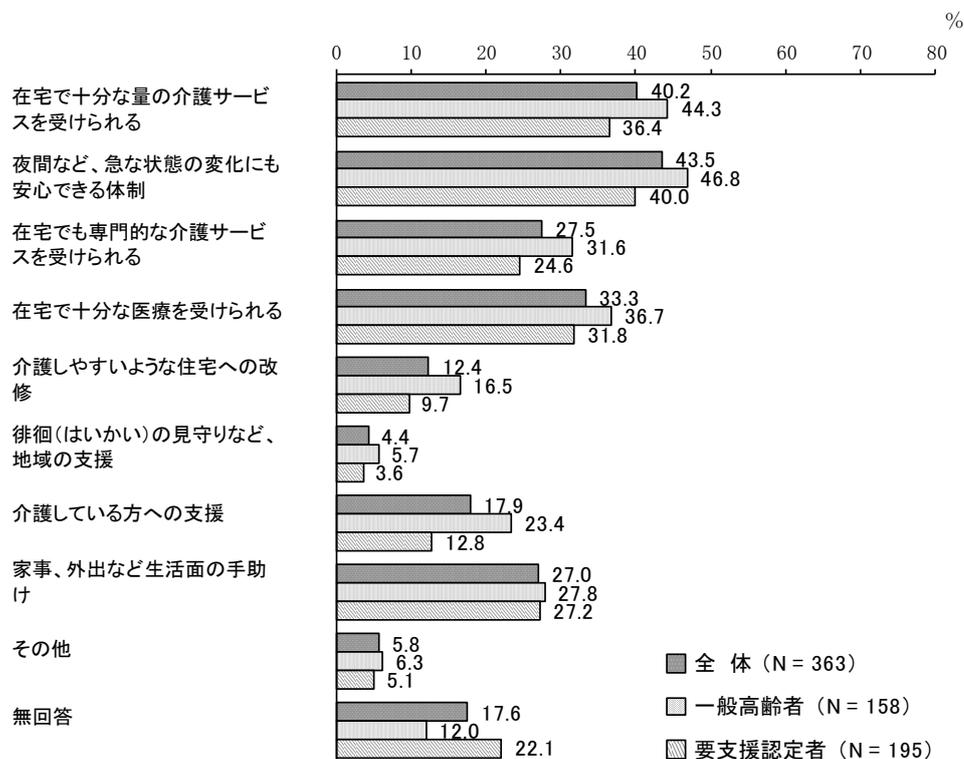
問 73 で「3 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい」または「4 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」と回答した方にお伺いします。

問 73-② どのような条件が整えば、自宅で生活が続けられると思いますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が 46.8%と最も高く、次いで「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が 44.3%、「在宅で十分な医療を受けられる」の割合が 36.7%となっています。

要支援認定者では、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が 36.4%、「在宅で十分な医療を受けられる」の割合が 31.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「介護しやすいような住宅への改修」「介護している方への支援」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)で「在宅で十分な医療を受けられる」「介護している方への支援」の割合が高くなっています。また、1 人暮らしで「家事、外出など生活面の手助け」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
1 人暮らし	106	28.3	46.2	25.5	33.0	10.4	3.8	9.4	32.1	6.6	23.6
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)	108	50.9	47.2	34.3	38.9	17.6	5.6	25.0	26.9	1.9	13.0
夫婦 2 人暮らし (配偶者 64 歳以下)	9	66.7	44.4	33.3	33.3	22.2	—	22.2	11.1	—	—
息子・娘との 2 世帯	72	34.7	33.3	18.1	22.2	4.2	4.2	19.4	19.4	2.8	27.8
その他	57	42.1	42.1	29.8	36.8	14.0	3.5	19.3	24.6	15.8	7.0

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「介護している方への支援」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「家事、外出など生活面の手助け」の割合が高くなっています。

単位：％

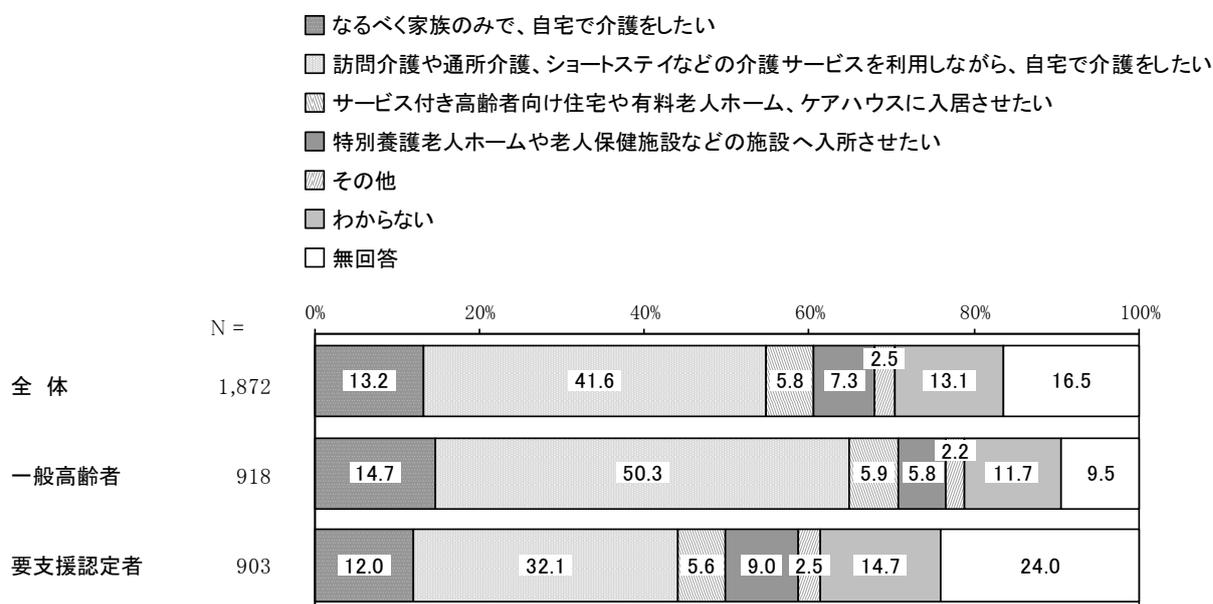
区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
鈴鹿西部	68	27.9	41.2	23.5	23.5	8.8	2.9	14.7	17.6	4.4	26.5
鈴鹿北部	77	40.3	40.3	19.5	39.0	14.3	6.5	20.8	33.8	5.2	19.5
鈴鹿中部	71	40.8	45.1	25.4	33.8	15.5	5.6	14.1	21.1	4.2	14.1
鈴鹿南部	65	43.1	43.1	30.8	33.8	7.7	4.6	10.8	35.4	7.7	16.9
亀山	72	47.2	45.8	40.3	38.9	16.7	2.8	26.4	29.2	6.9	11.1

**問 74 家族等に介護が必要となった際、どのようにしたいと思いますか。
(1つを選択)**

一般高齢者では、「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が50.3%と最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい」の割合が14.7%、「わからない」の割合が11.7%となっています。

要支援認定者では、「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が32.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が14.7%、「なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい」の割合が12.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が高くなっています。



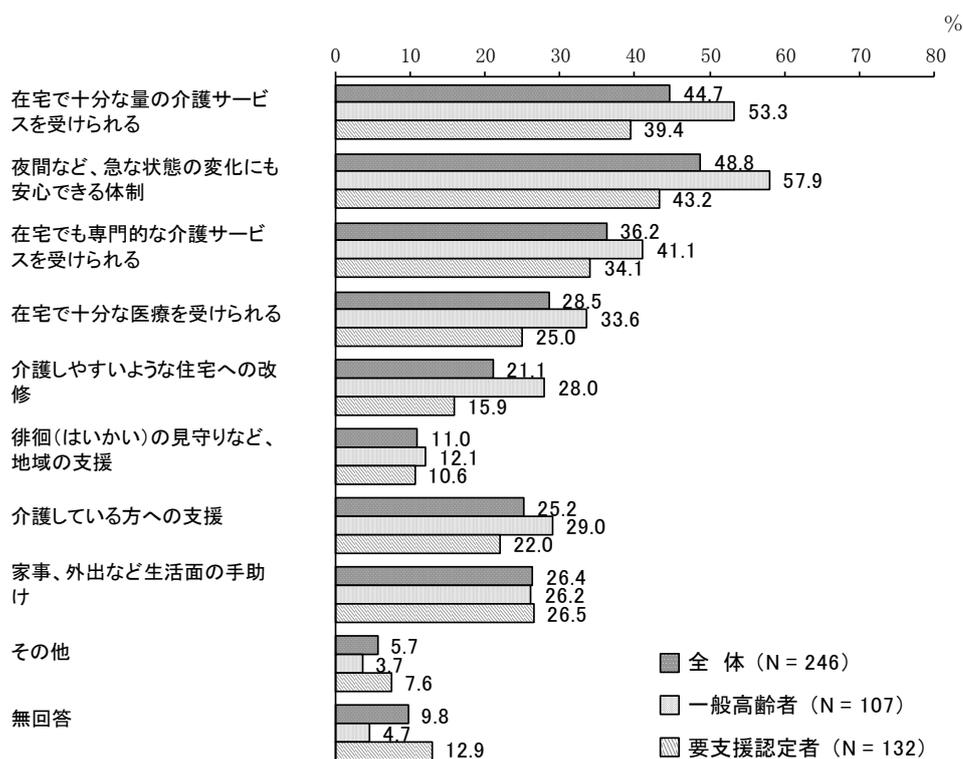
問 74 で「3 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい」または「4 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」と回答した方にお伺いします。

問 74-② どのような条件が整えば、自宅で生活をすることができますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が 57.9%と最も高く、次いで「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が 53.3%、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」の割合が 41.1%となっています。

要支援認定者では、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が 39.4%、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」の割合が 34.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「在宅で十分な医療を受けられる」「介護しやすいような住宅への改修」「介護している方への支援」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)で「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「在宅で十分な医療を受けられる」「介護しやすいような住宅への改修」の割合が高くなっています。また、息子・娘との 2 世帯で「介護している方への支援」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
1 人暮らし	45	37.8	44.4	35.6	31.1	17.8	8.9	17.8	28.9	8.9	13.3
夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)	89	46.1	55.1	38.2	36.0	27.0	10.1	23.6	27.0	4.5	6.7
夫婦 2 人暮らし (配偶者 64 歳以下)	7	57.1	28.6	14.3	42.9	14.3	—	57.1	57.1	—	—
息子・娘との 2 世帯	54	42.6	48.1	25.9	16.7	11.1	14.8	29.6	20.4	3.7	16.7
その他	46	45.7	39.1	47.8	21.7	23.9	10.9	23.9	19.6	8.7	6.5

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山、鈴鹿南部で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「介護している方への支援」の割合が高くなっています。また、亀山で「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」の割合が、鈴鹿南部で「家事、外出など生活面の手助け」の割合が高くなっています。

単位：%

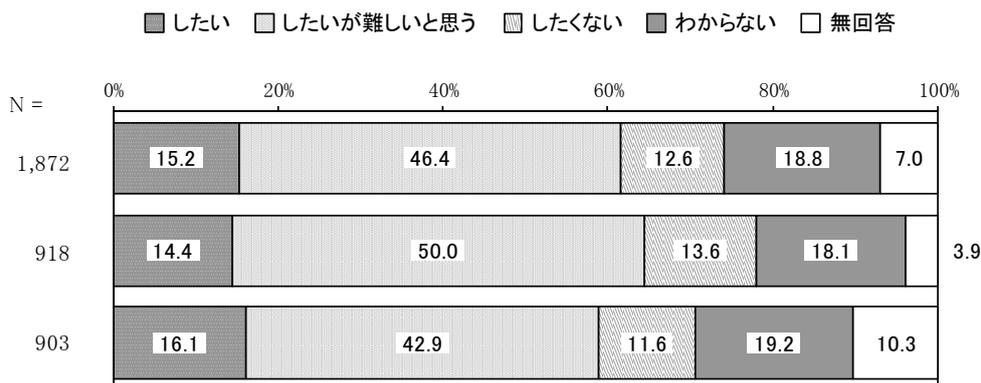
区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
鈴鹿西部	41	43.9	48.8	29.3	22.0	19.5	12.2	24.4	14.6	9.8	9.8
鈴鹿北部	46	43.5	37.0	26.1	23.9	23.9	8.7	21.7	17.4	8.7	19.6
鈴鹿中部	67	40.3	50.7	34.3	31.3	19.4	11.9	16.4	28.4	4.5	9.0
鈴鹿南部	41	53.7	56.1	43.9	34.1	24.4	14.6	34.1	43.9	4.9	4.9
亀山	44	50.0	56.8	54.5	31.8	20.5	9.1	34.1	27.3	2.3	2.3

問 75 あなたは、今後、自身のお身体の状態が悪くなり、介護を必要とし、回復の見込がなくなったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「したいが難しいと思う」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 18.1%、「したい」の割合が 14.4%となっています。

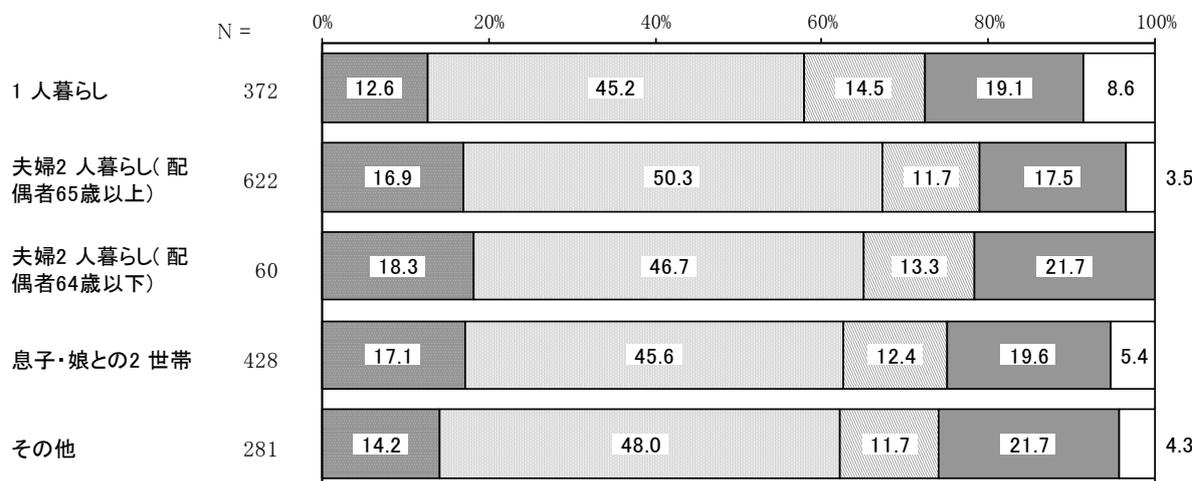
要支援認定者では、「したいが難しいと思う」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 19.2%、「したい」の割合が 16.1%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「したいが難しいと思う」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)で「したいが難しいと思う」の割合が高くなっています。

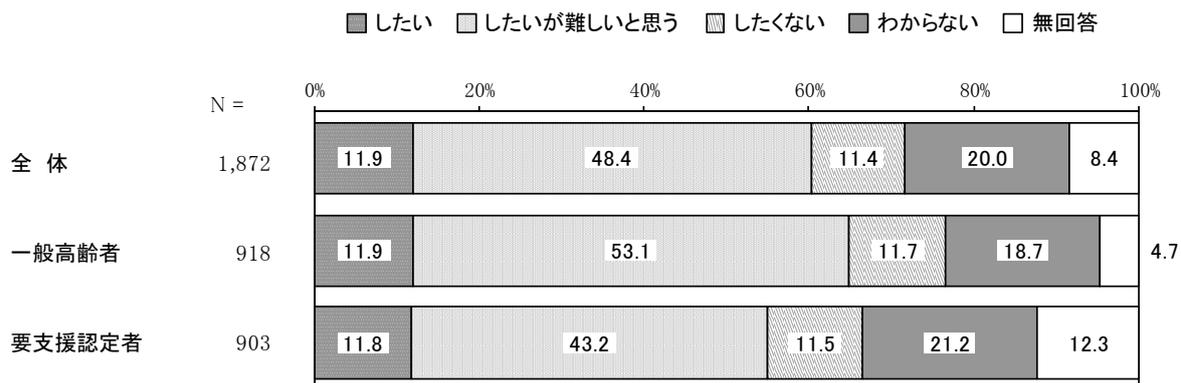


問 76 あなた、またはあなたのご家族が介護を必要とし、さらに、治る見込みのない病気になった場合、自宅で最期まで療養したいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「したいが難しいと思う」の割合が 53.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 18.7%、「したい」の割合が 11.9%となっています。

要支援認定者では、「したいが難しいと思う」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 21.2%、「したい」の割合が 11.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「したいが難しいと思う」の割合が高くなっています。

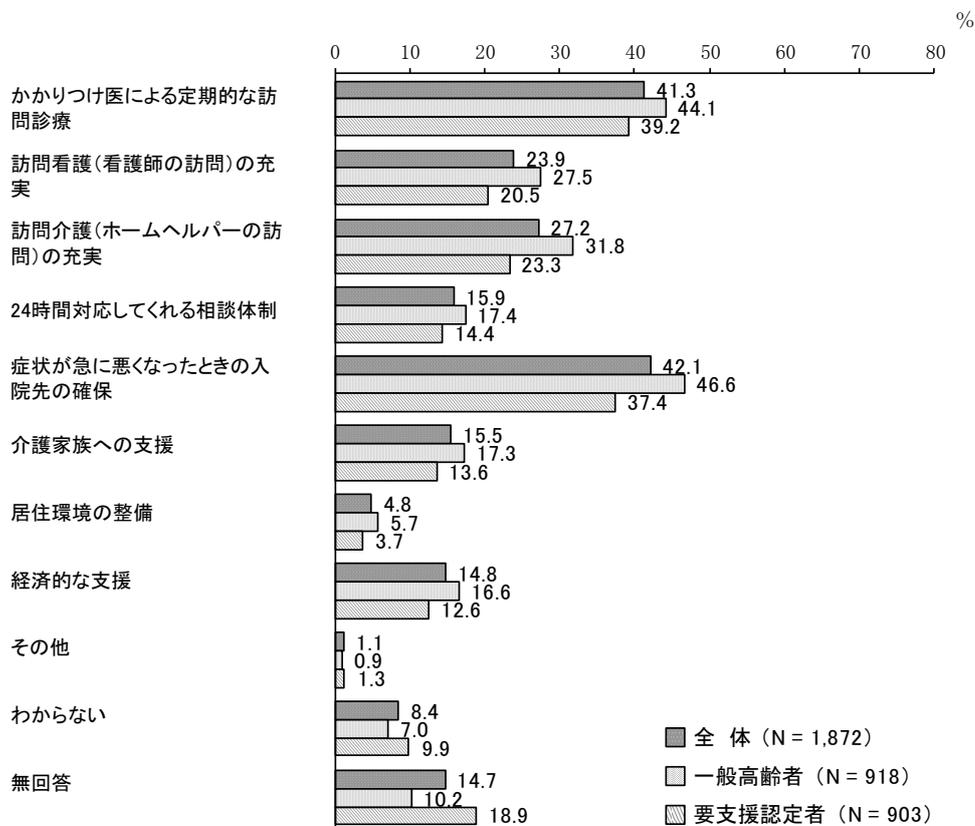


問 77 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)

一般高齢者では、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」の割合が 44.1%、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」の割合が 31.8%となっています。

要支援認定者では、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」の割合が 39.2%と最も高く、次いで「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が 37.4%、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」の割合が 23.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「訪問看護（看護師の訪問）の充実」「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)で「介護家族への支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	かかりつけ医による定期的な訪問診療	訪問看護(看護師の訪問)の充実	訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の充実	24時間対応してくれる相談体制	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	介護家族への支援	居住環境の整備	経済的な支援	その他	わからない	無回答
1人暮らし	372	37.6	22.0	25.5	15.1	37.1	6.7	4.6	14.5	0.5	14.2	17.5
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	622	44.5	27.0	31.2	18.8	43.7	16.6	4.5	14.3	1.3	6.6	11.7
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	60	41.7	31.7	35.0	21.7	40.0	26.7	11.7	16.7	3.3	6.7	6.7
息子・娘との2世帯	428	46.0	21.5	24.8	13.6	44.9	20.3	5.1	15.2	1.4	6.8	12.1
その他	281	38.1	27.4	31.3	14.6	47.7	17.4	5.7	16.0	1.1	8.5	11.4

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「訪問看護(看護師の訪問)の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

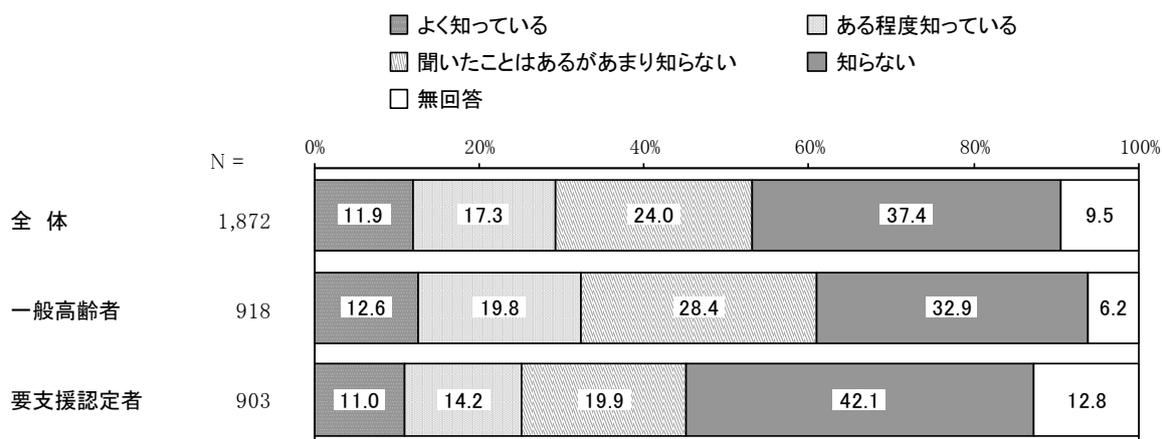
区分	有効回答数(件)	かかりつけ医による定期的な訪問診療	訪問看護(看護師の訪問)の充実	訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の充実	24時間対応してくれる相談体制	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	介護家族への支援	居住環境の整備	経済的な支援	その他	わからない	無回答
鈴鹿西部	347	42.4	20.2	25.9	16.1	40.6	15.6	4.6	11.8	1.2	8.6	15.0
鈴鹿北部	365	40.8	21.6	26.3	14.8	41.1	14.5	4.9	17.0	0.8	8.5	17.5
鈴鹿中部	377	36.6	22.8	25.7	18.8	40.6	14.1	4.5	17.0	1.3	8.8	15.1
鈴鹿南部	362	44.8	26.0	30.1	15.7	43.4	17.4	4.4	12.4	0.8	9.1	12.7
亀山	370	44.1	29.2	29.7	14.1	44.6	15.9	4.9	14.6	1.4	7.0	12.4

問 78 自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を残す「エンディングノート」を知っていますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「知らない」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがあまり知らない」の割合が 28.4%、「ある程度知っている」の割合が 19.8%となっています。

要支援認定者では、「知らない」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがあまり知らない」の割合が 19.9%、「ある程度知っている」の割合が 14.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「ある程度知っている」「聞いたことはあるがあまり知らない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「知らない」の割合が高くなっています。



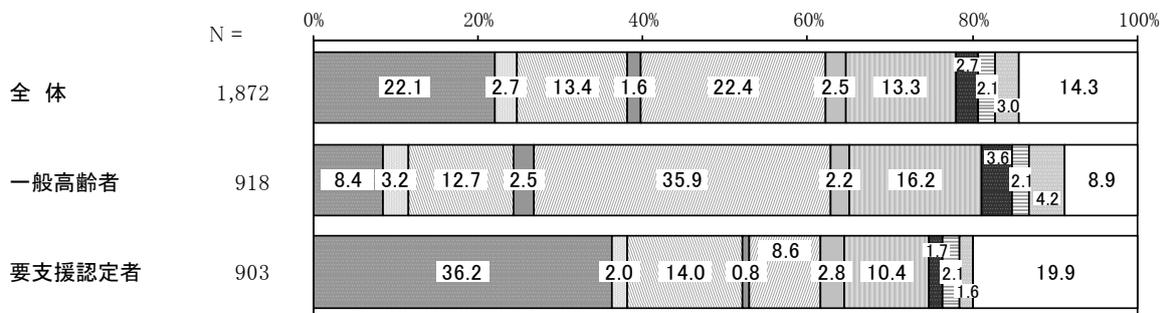
問 79 あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】」の割合が35.9%と最も高く、次いで「主治医（かかりつけ医）」の割合が16.2%、「地域包括支援センター」の割合が12.7%となっています。

要支援認定者では、「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」の割合が36.2%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」の割合が14.0%、「主治医（かかりつけ医）」の割合が10.4%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】」「主治医（かかりつけ医）」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」の割合が高くなっています。

- ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)
- 介護サービス事業者
- ▨ 地域包括支援センター
- 在宅介護支援センター
- ▨ 市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい(亀山市総合保健福祉センター)を含む】
- ▨ 鈴鹿亀山地区広域連合
- ▨ 主治医(かかりつけ医)
- 民生委員・児童委員
- ▨ その他
- 相談するところがない
- 無回答

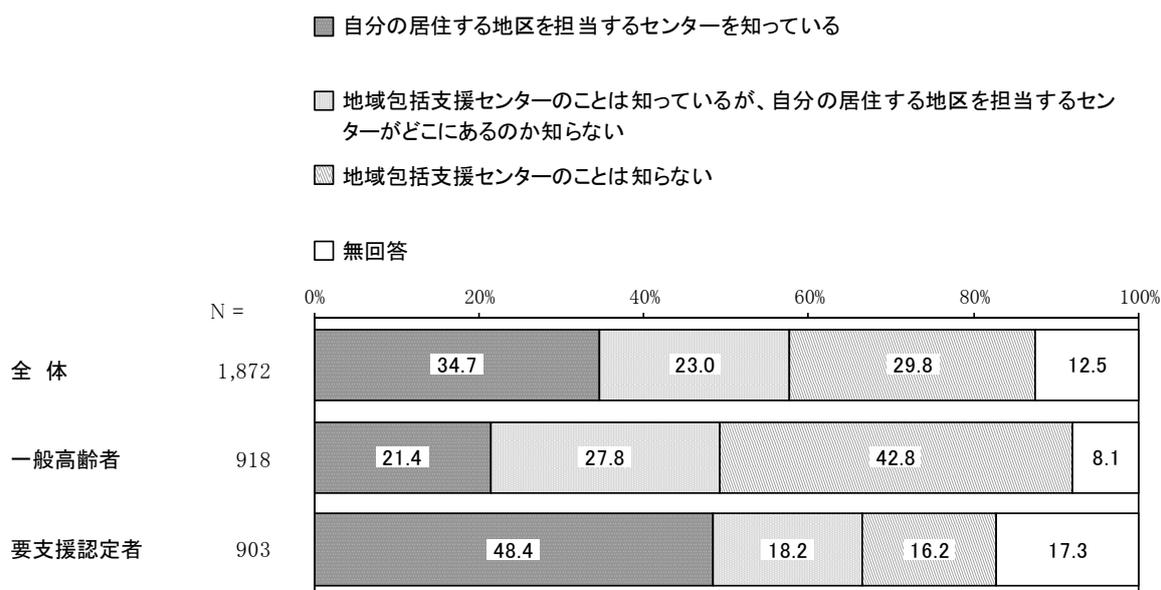


問 80 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1つを選択）

一般高齢者では、「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が42.8%と最も高く、次いで「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が27.8%、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が21.4%となっています。

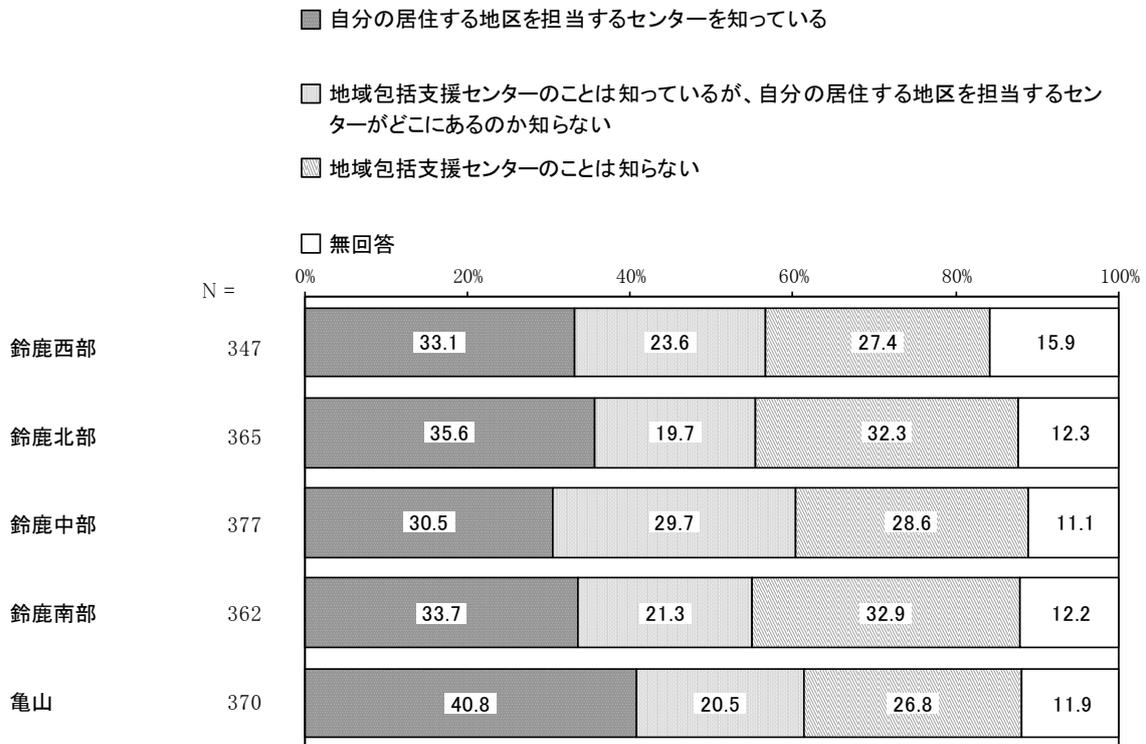
要支援認定者では、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が48.4%と最も高く、次いで「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が18.2%、「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が16.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が高くなっています。また、鈴鹿中部で「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が高くなっています。



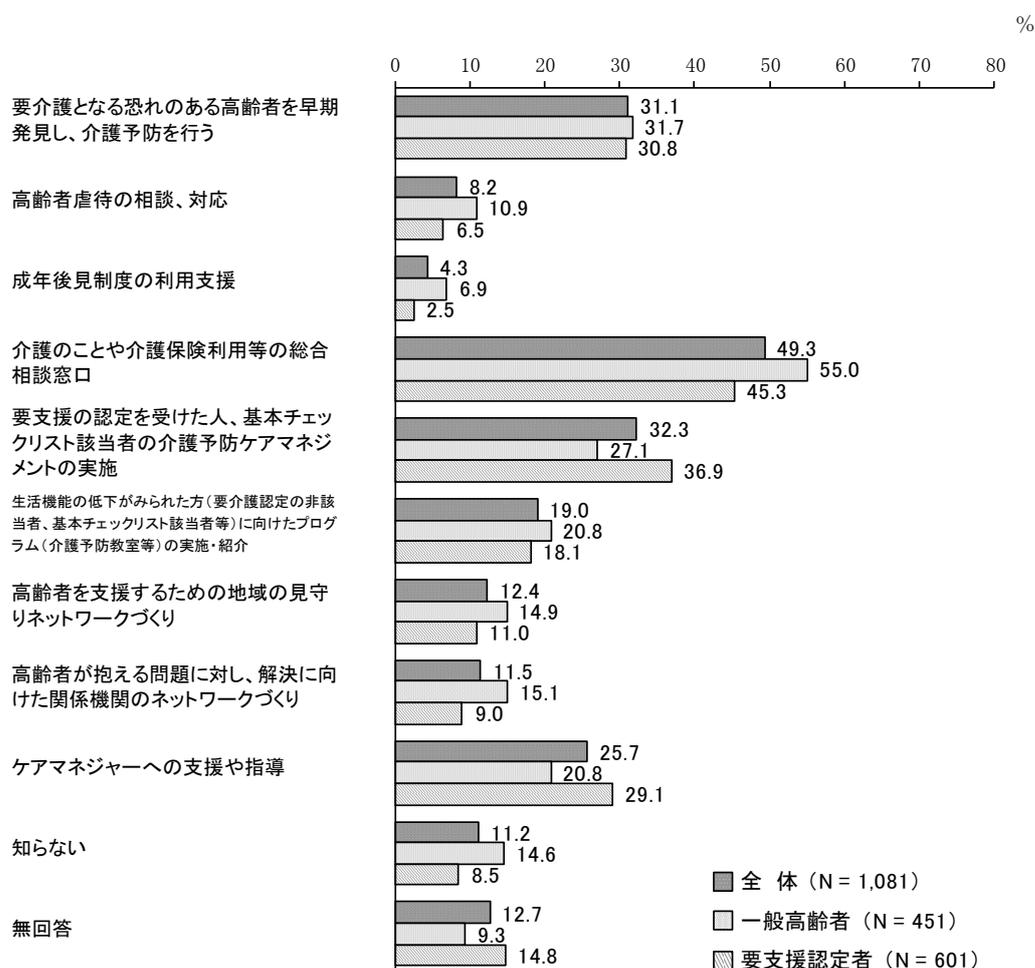
問 80 で「1 自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」または「2 地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」と回答した方にお伺いします。

問 80-②「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」の割合が 55.0%と最も高く、次いで「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」の割合が 31.7%、「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」の割合が 27.1%となっています。

要支援認定者では、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」の割合が 45.3%と最も高く、次いで「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」の割合が 36.9%、「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」の割合が 30.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」「高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくり」「知らない」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」「ケアマネジャーへの支援や指導」の割合が高くなっています。

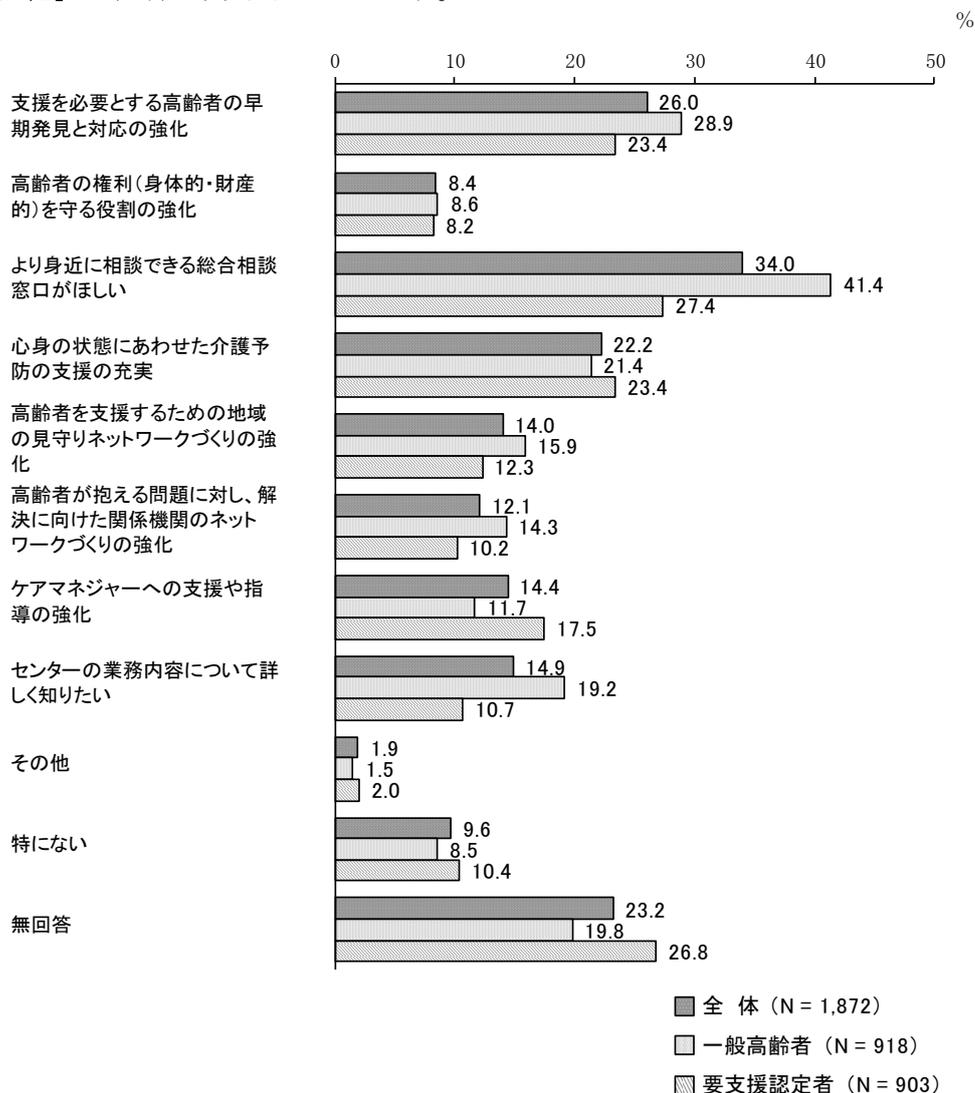


問 81 「地域包括支援センター」にどのようなことを望みますか。(複数選択可)

一般高齢者では、「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が 41.4%と最も高く、次いで「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」の割合が 28.9%、「心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実」の割合が 21.4%となっています。

要支援認定者では、「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が 27.4%と最も高く、次いで「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」、「心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実」の割合が 23.4%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」「センターの業務内容について詳しく知りたい」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「ケアマネジャーへの支援や指導の強化」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「高齢者の権利（身体的・財産的）を守る役割の強化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化	高齢者の権利（身体的・財産的）を守る役割の強化	より身近に相談できる総合相談窓口がほしい	心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実	高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくりの強化	高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくりの強化	ケアマネジャーへの支援や指導の強化	センターの業務内容について詳しく知りたい	その他	特になし	無回答
鈴鹿西部	347	23.9	6.1	34.9	20.7	11.0	8.9	16.1	14.7	2.0	7.5	25.9
鈴鹿北部	365	27.7	9.0	35.1	21.9	14.2	11.0	13.4	14.8	1.6	11.8	24.7
鈴鹿中部	377	24.9	6.9	35.0	21.0	13.5	15.1	12.2	16.2	2.1	10.1	22.5
鈴鹿南部	362	27.6	7.2	31.5	23.8	15.7	11.6	14.1	14.4	1.4	9.7	23.5
亀山	370	26.5	12.7	35.7	24.3	15.9	14.3	17.0	14.9	1.6	8.1	20.0

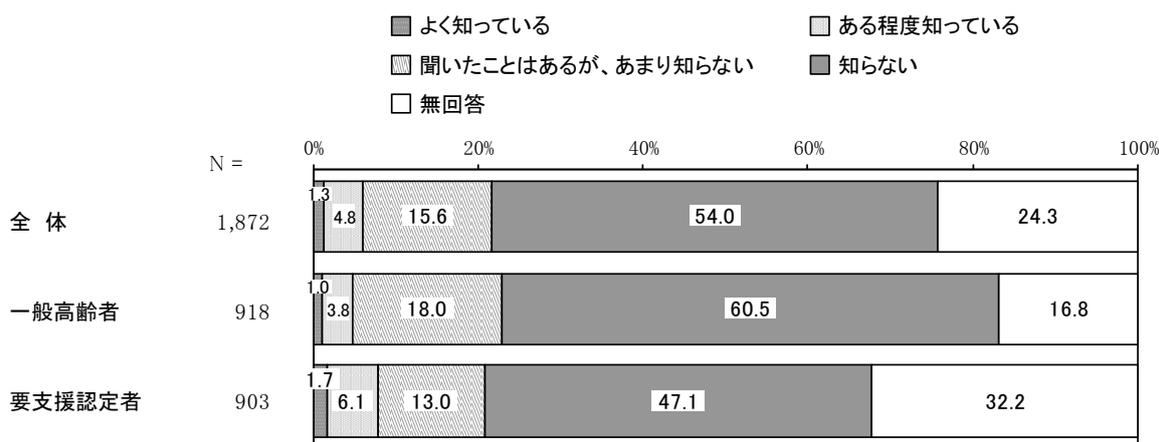
問 82 平成 27 年度の介護保険制度の改正により、高齢者が在宅での生活を継続できるよう、地域に下記のような役割を持つ専門員の設置を進めておりますが、ご存知ですか。
(それぞれ 1 つを選択)

在宅医療介護連携コーディネーター

一般高齢者では、「知らない」の割合が 60.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」の割合が 18.0%となっています。

要支援認定者では、「知らない」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」の割合が 13.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「知らない」の割合が高くなっています。

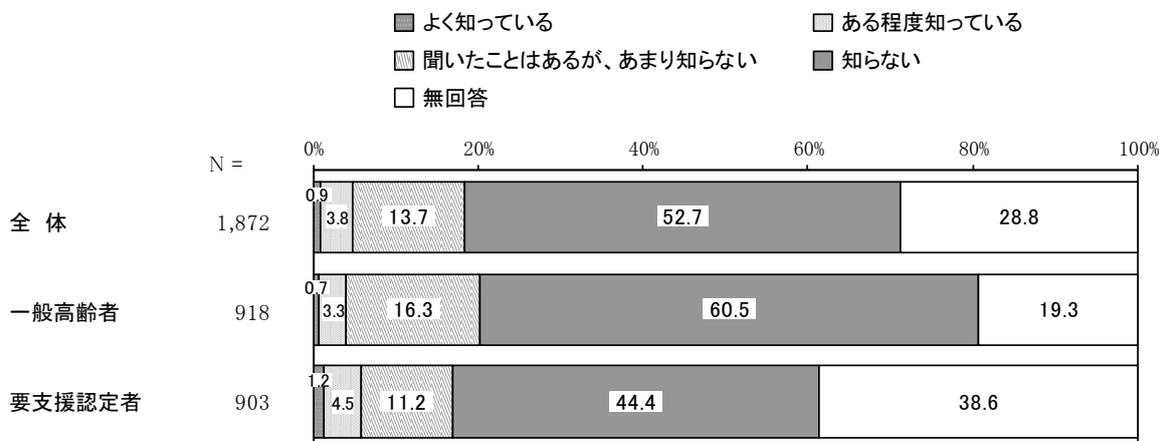


生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）

一般高齢者では、「知らない」の割合が 60.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」の割合が 16.3%となっています。

要支援認定者では、「知らない」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」の割合が 11.2%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「聞いたことはあるが、あまり知らない」「知らない」の割合が高くなっています。

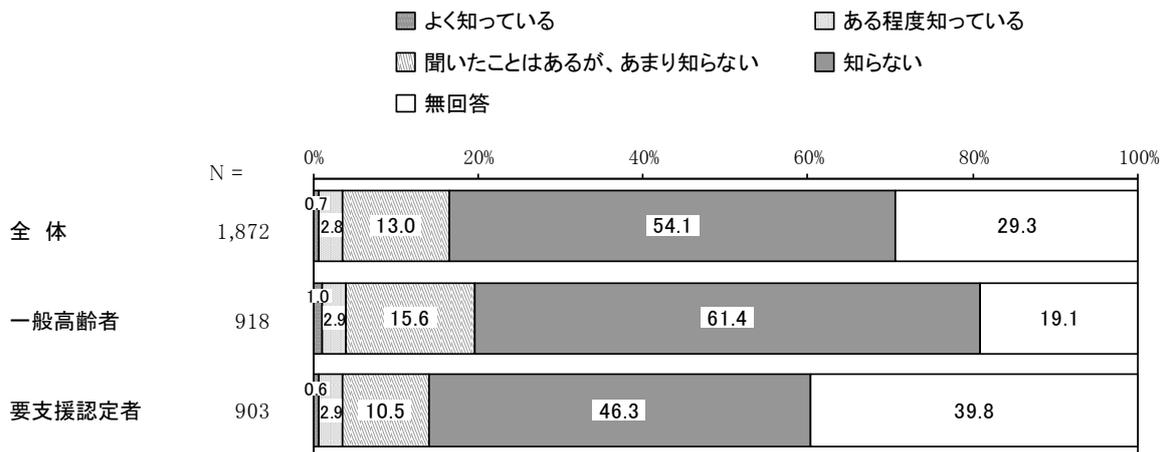


認知症地域支援推進員

一般高齢者では、「知らない」の割合が61.4%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」の割合が15.6%となっています。

要支援認定者では、「知らない」の割合が46.3%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、あまり知らない」の割合が10.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「聞いたことはあるが、あまり知らない」「知らない」の割合が高くなっています。

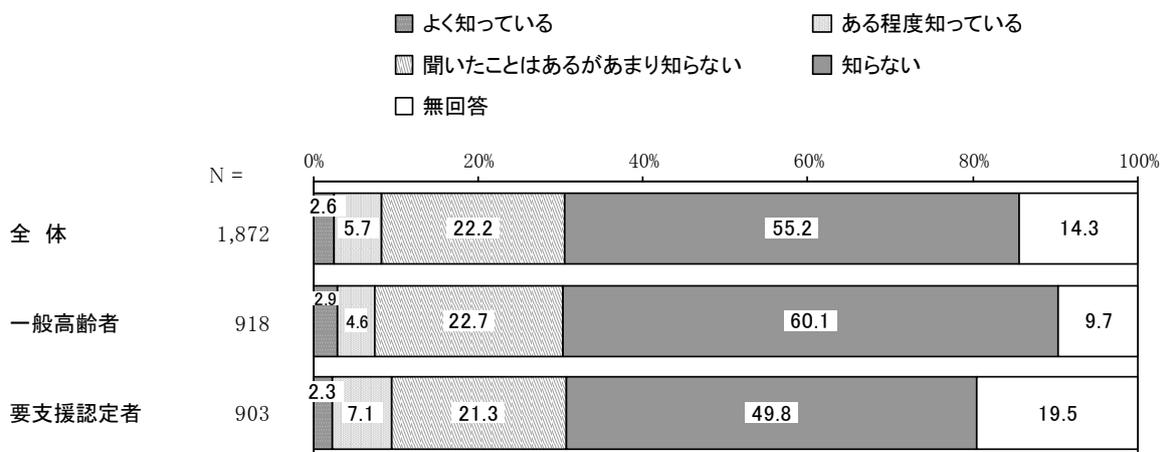


問 83 「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つを選択）

一般高齢者では、「知らない」の割合が60.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがあまり知らない」の割合が22.7%となっています。

要支援認定者では、「知らない」の割合が49.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがあまり知らない」の割合が21.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「知らない」の割合が高くなっています。

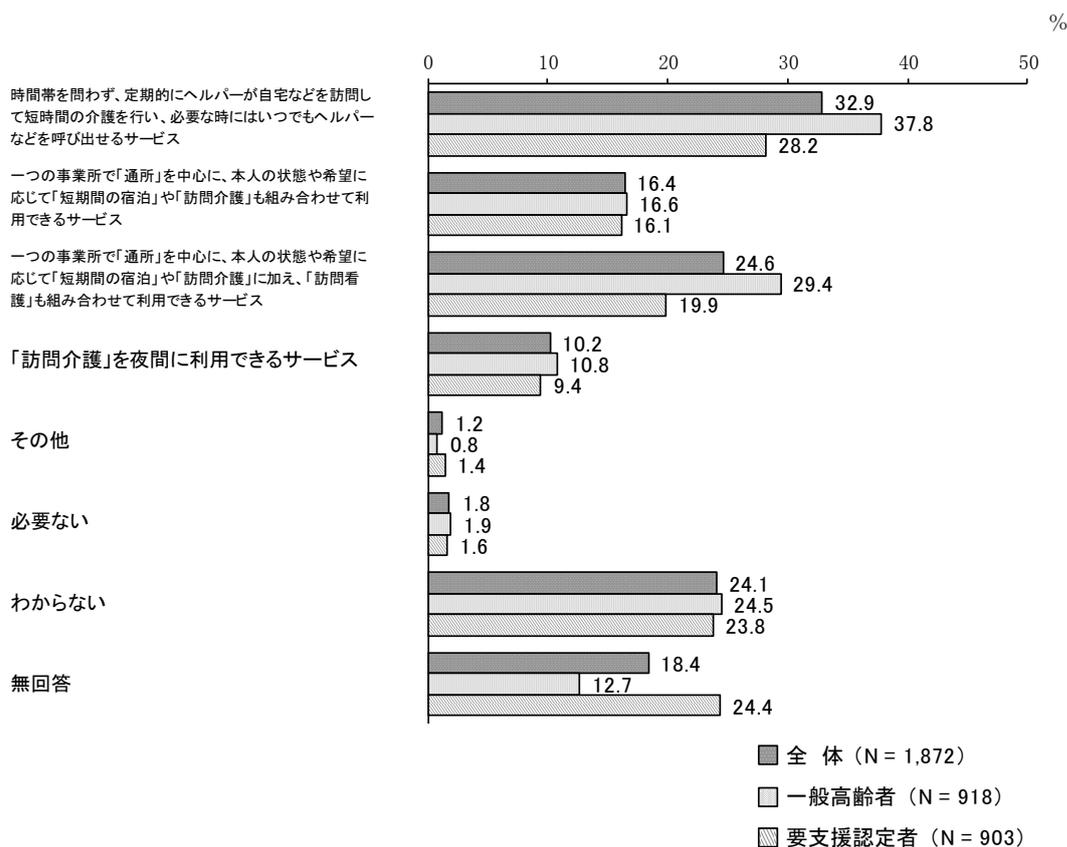


問 84 現在の在宅生活をしていく上で、充実したほうがいい・あったらいいと思う介護保険サービスはどれですか。(2つまでを選択)

一般高齢者では、「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が 29.4%、「わからない」の割合が 24.5%となっています。

要支援認定者では、「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」の割合が 28.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 23.8%、「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が 19.9%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」の割合が高くなっています。

単位：%

単位：%

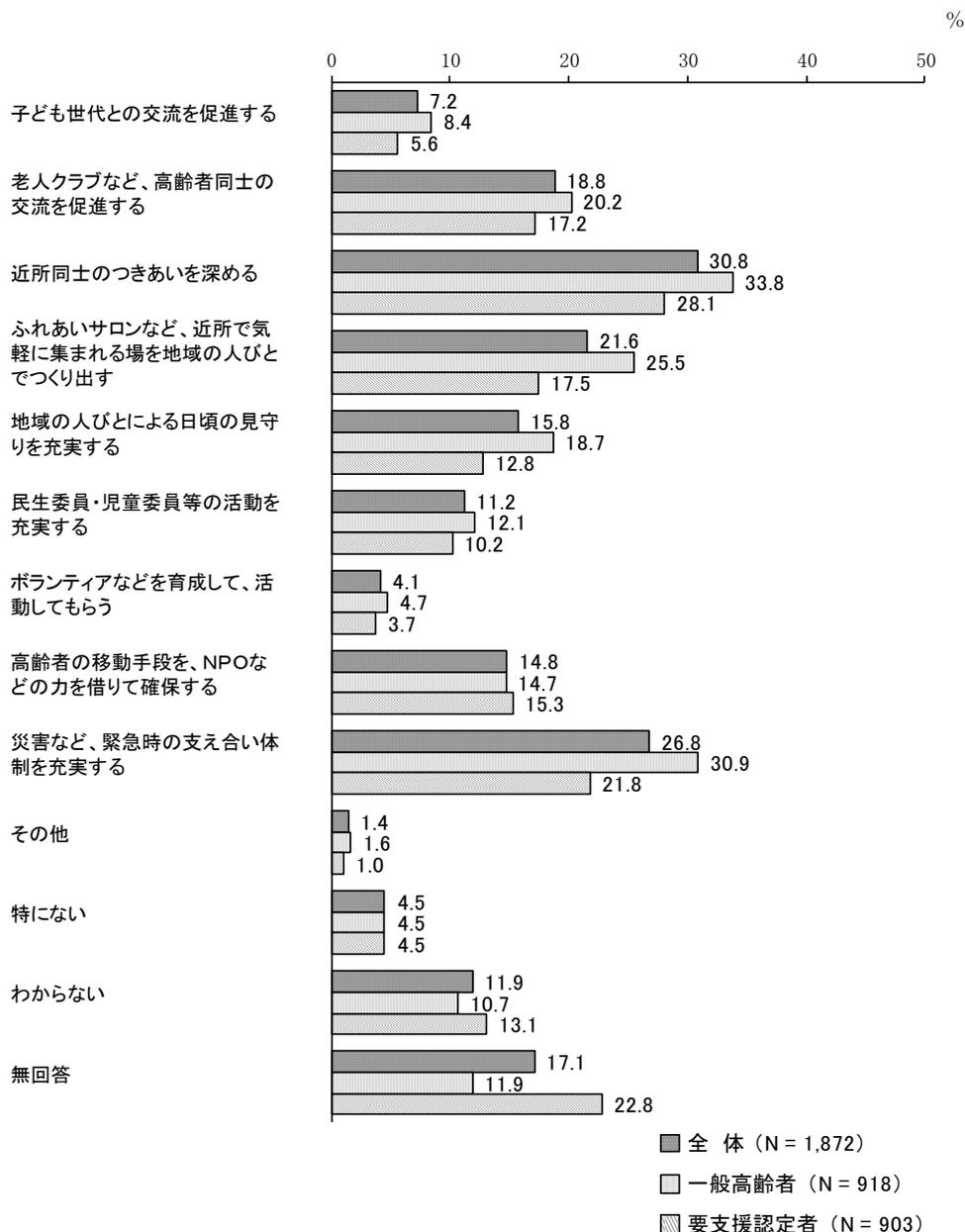
区分	有効回答数(件)	時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス	一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」も組み合わせ利用できるサービス	一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせ利用できるサービス	「訪問介護」を夜間に利用できるサービス	その他	必要ない	わからない	無回答
鈴鹿西部	347	30.3	20.2	25.6	8.9	0.6	0.9	18.2	24.2
鈴鹿北部	365	34.5	16.7	25.8	9.3	1.4	0.5	25.2	18.6
鈴鹿中部	377	31.0	14.1	21.8	10.3	1.3	3.2	28.1	16.2
鈴鹿南部	362	32.0	12.7	25.4	11.0	0.6	2.2	25.7	18.5
亀山	370	37.3	18.1	25.1	10.8	1.6	1.6	23.2	15.4

問 85 あなたは今、住んでいる地域（地区、自治会など）が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。（3つまでを選択）

一般高齢者では、「近所同士のつきあいを深める」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が 30.9%、「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」の割合が 25.5%となっています。

要支援認定者では、「近所同士のつきあいを深める」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が 21.8%、「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」の割合が 17.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「近所同士のつきあいを深める」「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」の割合が高くなる傾向がみられます。また、65～69 歳、70～74 歳で「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
65～69 歳	404	7.4	12.6	30.2	25.5	20.5	9.9	5.9	16.8	33.4	2.2	5.4	12.4	11.1
70～74 歳	325	8.0	19.1	31.1	27.4	15.7	12.6	6.2	13.2	32.3	1.5	4.3	11.1	11.7
75～79 歳	347	8.6	21.9	34.3	23.3	19.0	11.0	2.9	15.9	23.6	0.9	2.3	10.1	19.6
80～84 歳	338	5.6	23.4	31.4	19.2	11.8	13.3	3.3	13.3	24.9	0.6	5.0	10.9	18.9
85 歳以上	404	5.7	17.6	28.2	13.1	11.6	9.7	2.7	15.3	18.3	1.2	5.2	14.1	24.8

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山、鈴鹿西部で「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

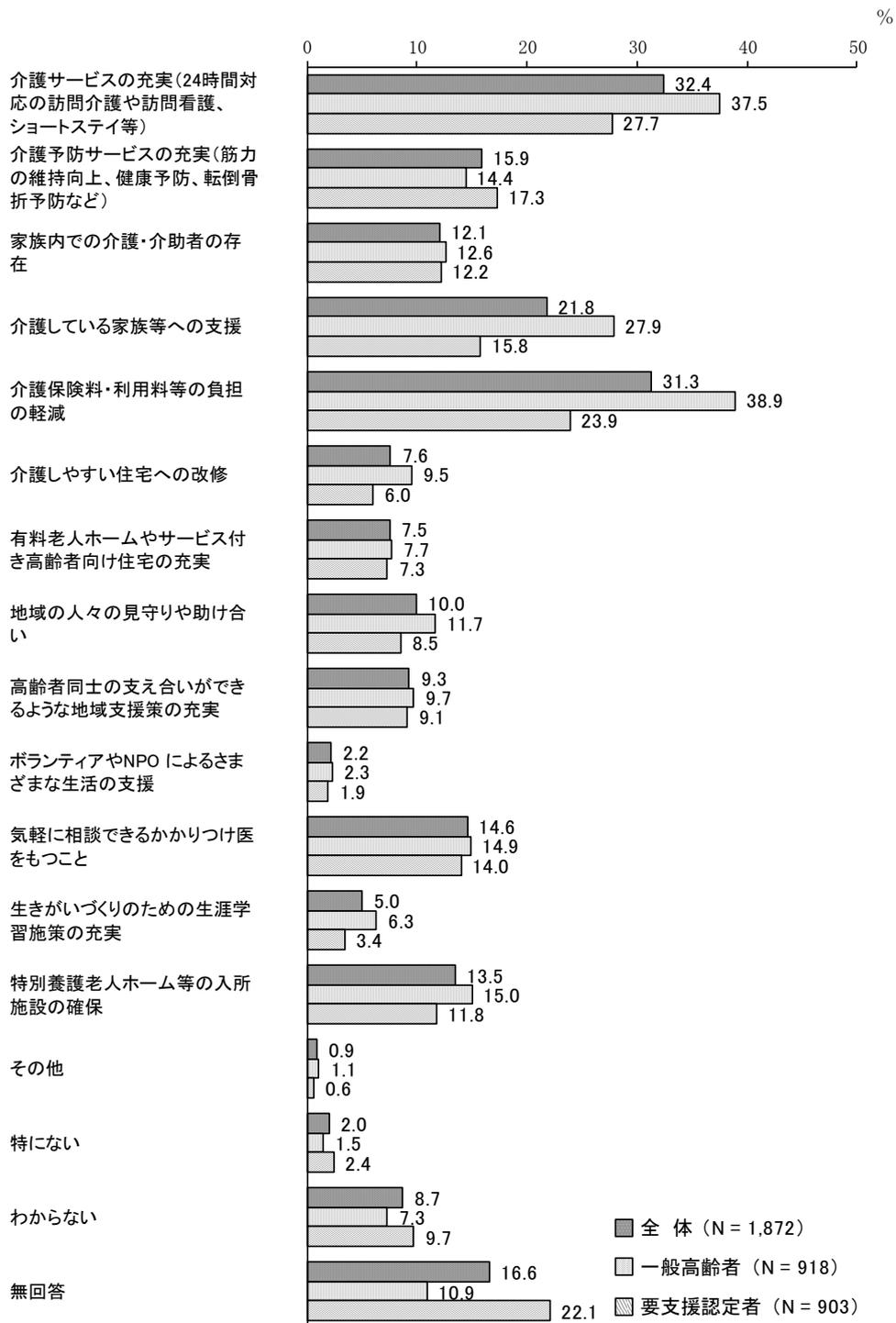
区分	有効回答数（件）	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
鈴鹿西部	347	7.2	23.3	32.3	20.7	14.1	9.2	3.5	13.0	22.8	1.2	3.7	11.0	20.7
鈴鹿北部	365	6.8	16.7	32.9	23.3	15.6	9.0	4.7	18.4	25.5	1.6	5.2	12.1	17.0
鈴鹿中部	377	5.3	17.2	29.7	20.7	16.2	12.2	4.5	11.9	26.5	1.6	4.0	13.5	17.5
鈴鹿南部	362	7.5	14.9	31.8	19.3	16.9	11.0	3.6	18.2	30.4	1.4	4.7	13.0	15.5
亀山	370	8.4	21.4	28.4	23.5	16.2	14.1	4.6	13.5	26.8	0.8	4.9	9.7	15.9

問 86 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、あなたは、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまでを選択）

一般高齢者では、「介護保険料・利用料等の負担の軽減」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「介護サービスの充実(24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等)」の割合が 37.5%、「介護している家族等への支援」の割合が 27.9%となっています。

要支援認定者では、「介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）」の割合が 27.7%と最も高く、次いで「介護保険料・利用料等の負担の軽減」の割合が 23.9%、「介護予防サービスの充実（筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防など）」の割合が 17.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「介護サービスの充実(24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等)」「介護している家族等への支援」「介護保険料・利用料等の負担の軽減」の割合が高くなっています。

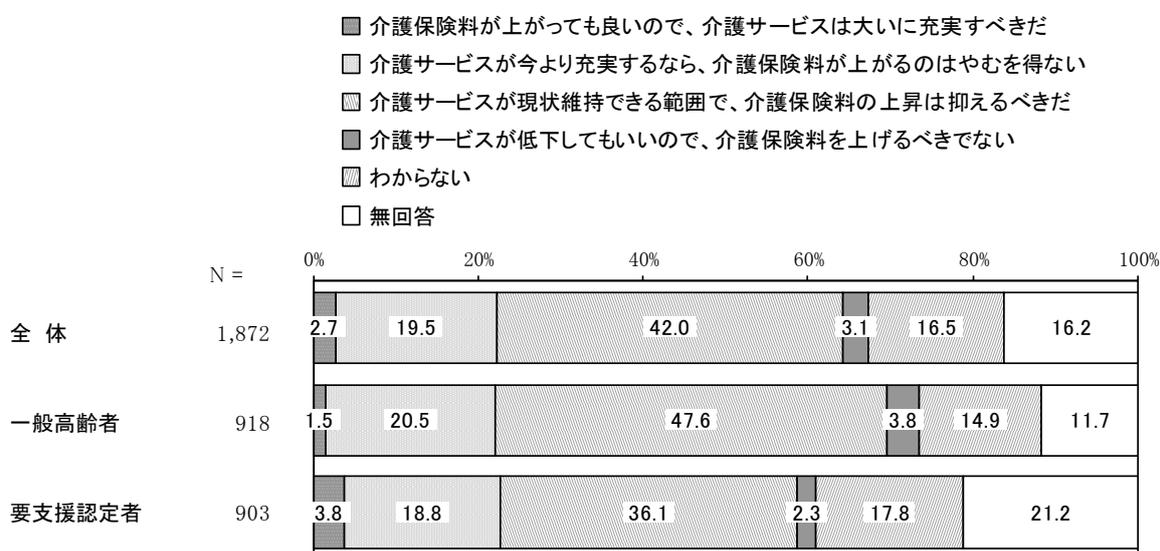


問 87 特別養護老人ホームや老人保健施設などへの入所、訪問介護（看護）や通所介護（リハビリ）、ショートステイなどの利用が多くなれば、それだけ介護保険料も上がることになります。あなたは、介護サービスの水準と保険料についてどのようにお考えですか。（1つを選択）

一般高齢者では、「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が47.6%と最も高く、次いで「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」の割合が20.5%、「わからない」の割合が14.9%となっています。

要支援認定者では、「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が36.1%と最も高く、次いで「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」の割合が18.8%、「わからない」の割合が17.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が高くなっています。

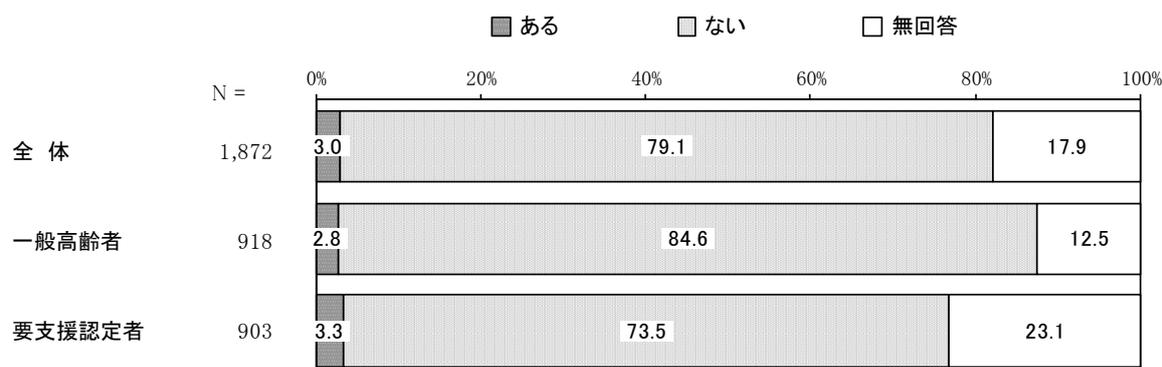


問 88 介護保険料についてお聞きします。市より保険料納付の督促状が届いたことがありますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「ある」の割合が2.8%、「ない」の割合が84.6%となっています。

要支援認定者では、「ある」の割合が3.3%、「ない」の割合が73.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「ない」の割合が高くなっています。



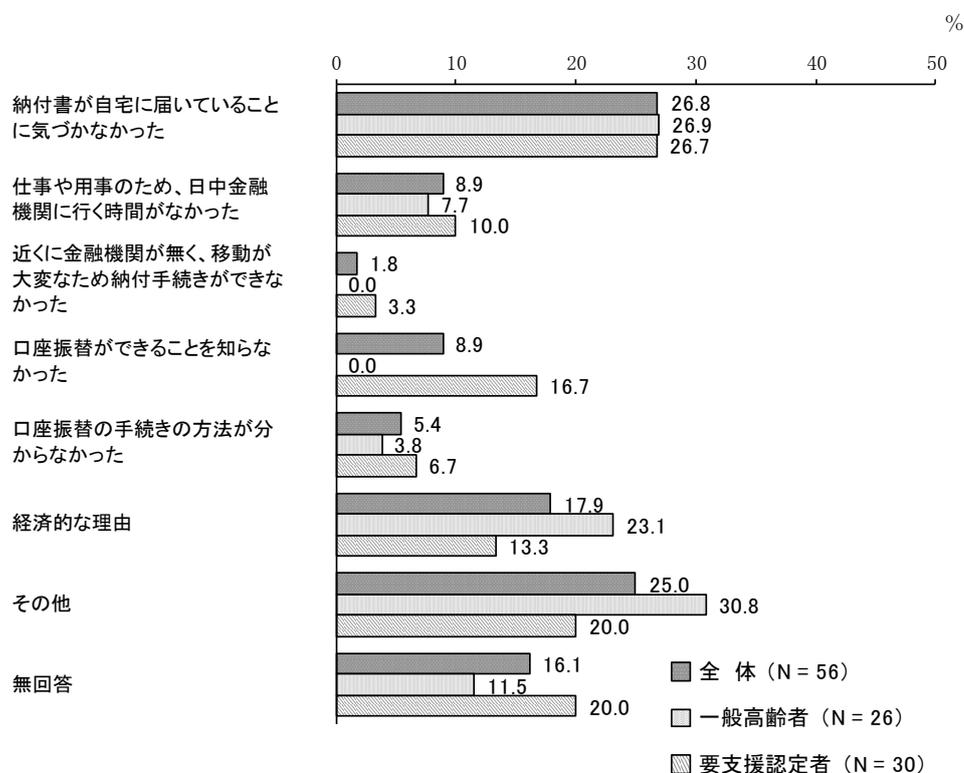
問 88 で「1 ある」と回答した方にお伺いします。

問 88-② 介護保険料を納期限内に納めることができなかった理由は何ですか。(複数選択可)

一般高齢者では、「納付書が自宅に届いていることに気づかなかった」の割合が 26.9%と最も高く、次いで「経済的な理由」の割合が 23.1%となっています。

要支援認定者では、「納付書が自宅に届いていることに気づかなかった」の割合が 26.7%と最も高く、次いで「口座振替ができることを知らなかった」の割合が 16.7%、「経済的な理由」の割合が 13.3%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「経済的な理由」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「口座振替ができることを知らなかった」の割合が高くなっています。



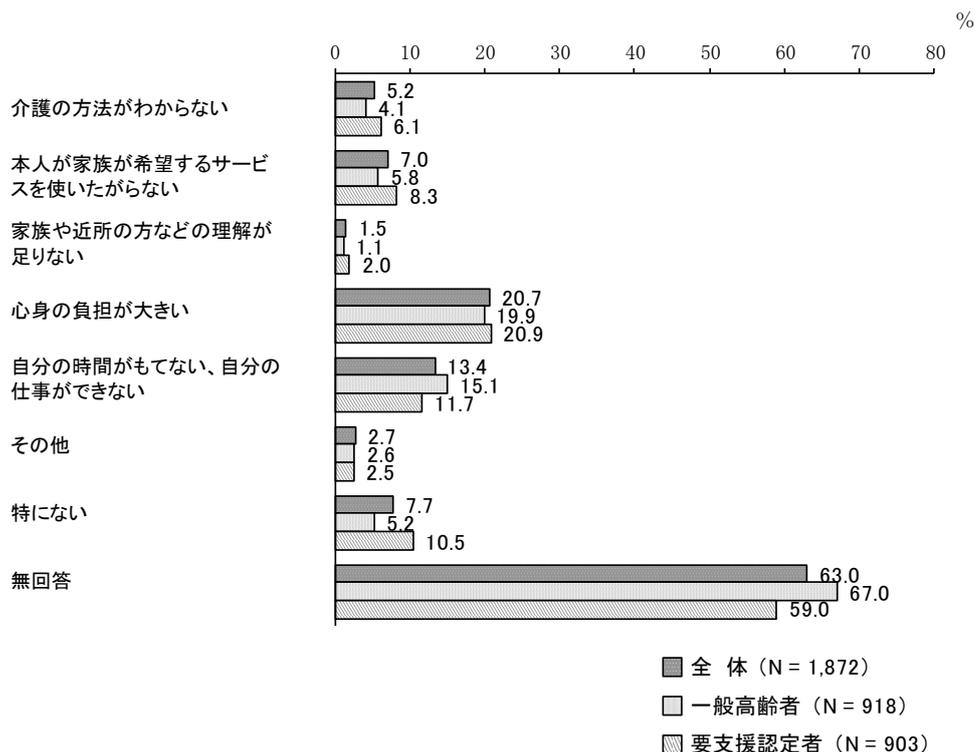
(9) ご家族を介護している（していた）方への質問

問 89 介護をされていて困っている（いた）ことはなんですか。（複数選択可）

一般高齢者では、「心身の負担が大きい」の割合が 19.9%と最も高く、次いで「自分の時間がない、自分の仕事ができない」の割合が 15.1%となっています。

要支援認定者では、「心身の負担が大きい」の割合が 20.9%と最も高く、次いで「自分の時間がない、自分の仕事ができない」の割合が 11.7%、「特にない」の割合が 10.5%となっています。

一般高齢者に比べ、要支援認定者で「特にない」の割合が高くなっています。

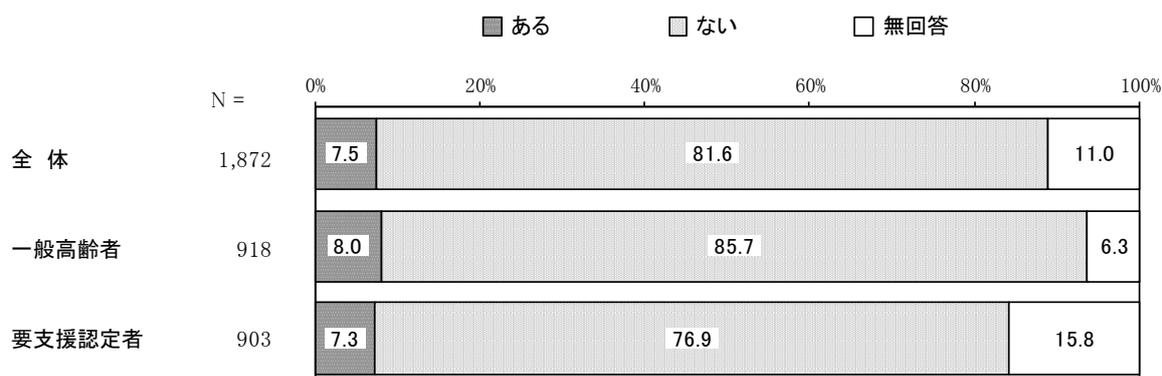


問 90 これまでに介護方法の研修を受けたことがありますか。（1つを選択）

一般高齢者では、「ある」の割合が 8.0%、「ない」の割合が 85.7%となっています。

要支援認定者では、「ある」の割合が 7.3%、「ない」の割合が 76.9%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「ない」の割合が高くなっています。

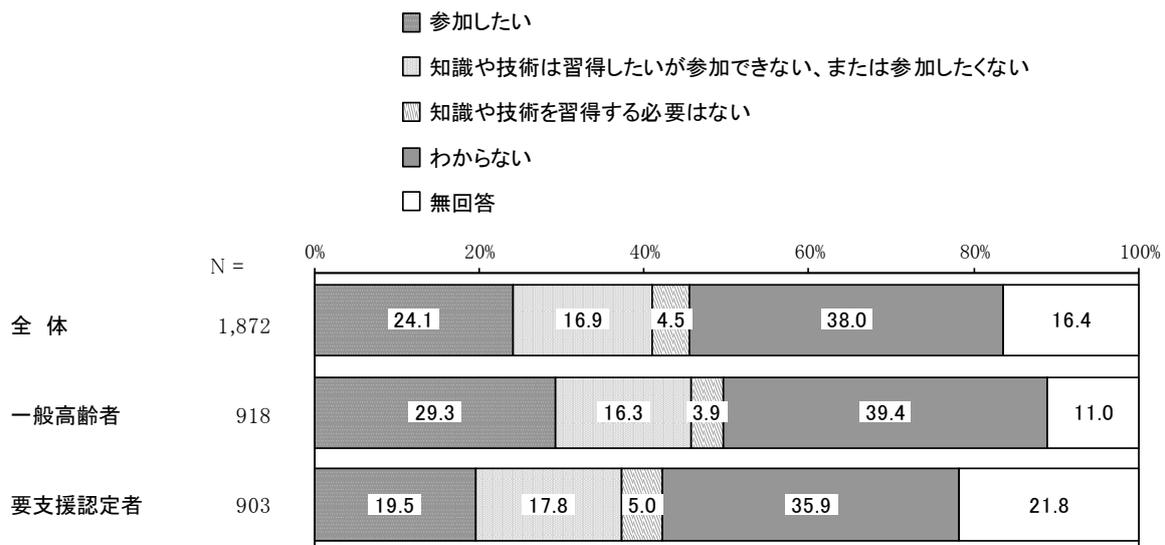


問 91 自宅で介護をするための知識や技術を習得する研修や講習会があれば、参加したいと思いますか。(1つを選択)

一般高齢者では、「わからない」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「参加したい」の割合が 29.3%、「知識や技術は習得したいが参加できない、または参加したくない」の割合が 16.3%となっています。

要支援認定者では、「わからない」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「参加したい」の割合が 19.5%、「知識や技術は習得したいが参加できない、または参加したくない」の割合が 17.8%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「参加したい」の割合が高くなっています。



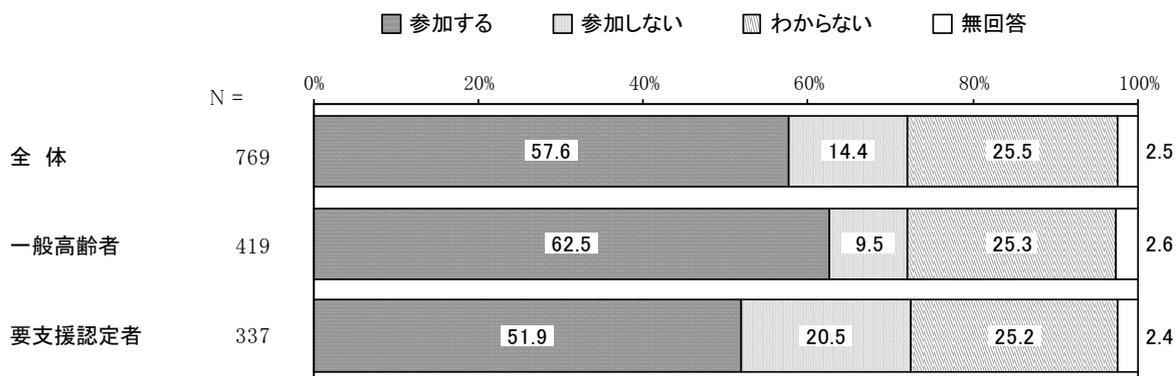
問 91 で「1 参加したい」または「2 知識や技術は習得したいが参加できない、または参加したくない」と回答した方にお伺いします。

**問 91-② あなたの住んでいる近くで研修や講習会があれば参加しますか。
(1つを選択)**

一般高齢者では、「参加する」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 25.3%となっています。

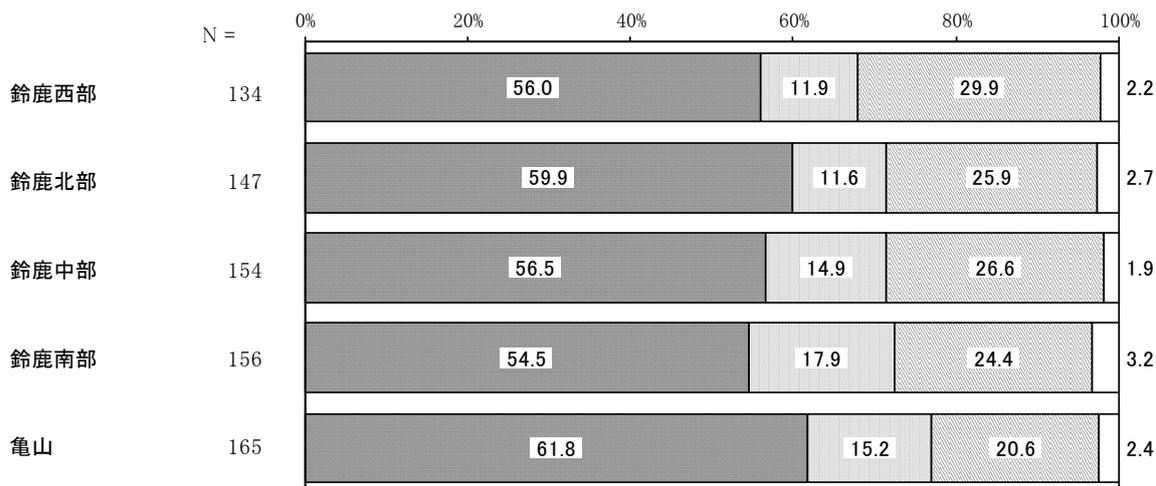
要支援認定者では、「参加する」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 25.2%、「参加しない」の割合が 20.5%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「参加する」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「参加しない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、大きな差異はみられません。



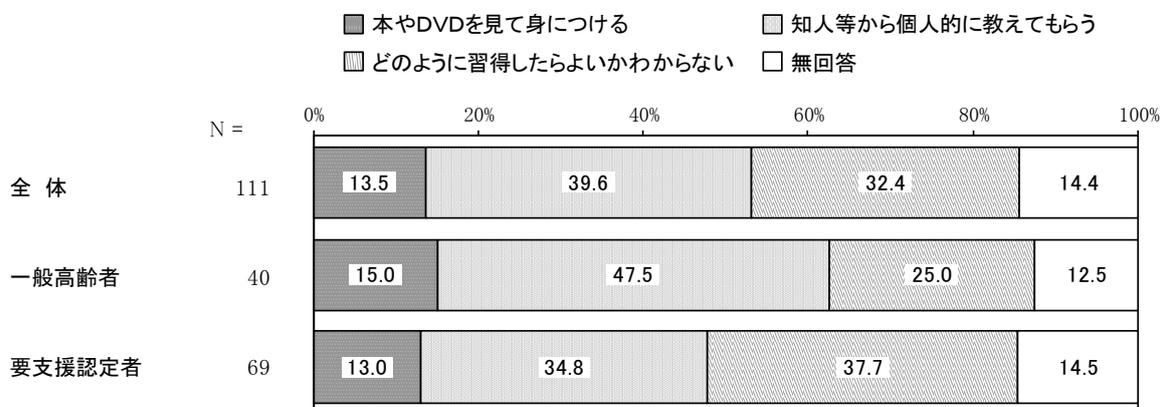
問 91-②で「2 参加しない」と回答した方にお伺いします。

**問 91-③ 自宅で介護するための知識や技術をどのように習得しますか。
(1つを選択)**

一般高齢者では、「知人等から個人的に教えてもらう」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「どのように習得したらよいかわからない」の割合が 25.0%、「本やDVDを見て身につける」の割合が 15.0%となっています。

要支援認定者では、「どのように習得したらよいかわからない」の割合が 37.7%と最も高く、次いで「知人等から個人的に教えてもらう」の割合が 34.8%、「本やDVDを見て身につける」の割合が 13.0%となっています。

要支援認定者に比べ、一般高齢者で「知人等から個人的に教えてもらう」の割合が高くなっています。一方、一般高齢者に比べ、要支援認定者で「どのように習得したらよいかわからない」の割合が高くなっています。



2 生活機能評価等に関する分析

(1) 機能別リスク該当者割合の分析

①運動器

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

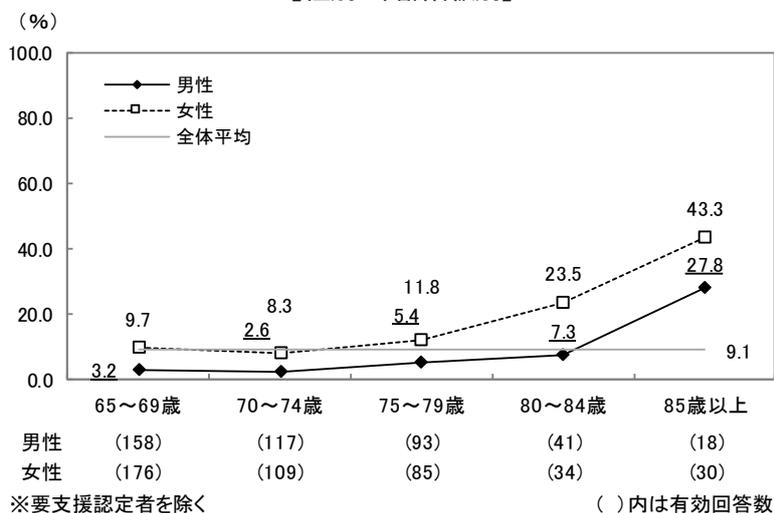
問番号	設問	該当する選択肢
問6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問8	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問9	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問10	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

【リスク該当状況】

国の手引きに基づく運動器の評価結果をみると、全体平均で9.1%が運動器の機能低下該当者となっています。

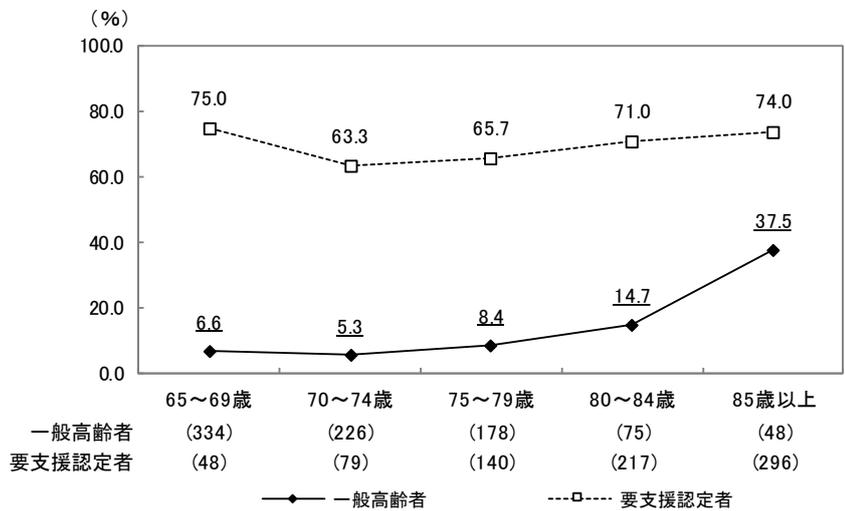
性別・年齢階級別にみると、女性では、すべての年代で男性に比べ該当者割合が高く、85歳以上では43.3%と75~79歳に比べ31.5ポイント上昇しています。一方、男性では、85歳以上では27.8%と80~84歳に比べ20.5ポイント上昇しています。したがって、男性、女性ともに75歳以降で運動器におけるリスクが顕在化し、特に女性でリスクが高くなっています。

【性別・年齢階級別】



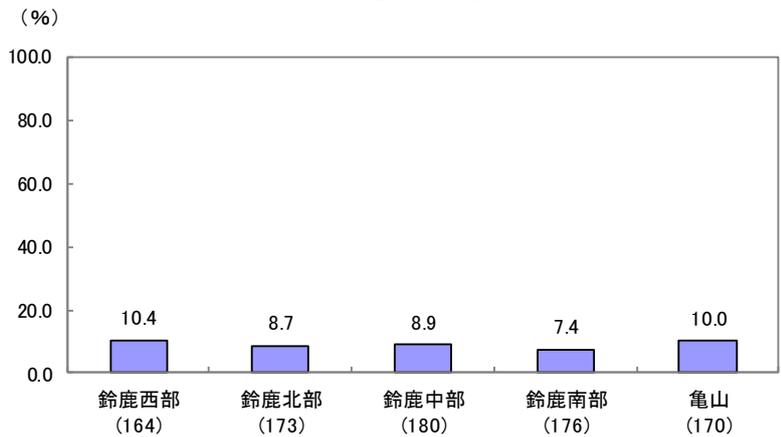
認定別・年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、85歳以上で37.5%と、80～84歳に比べ、22.8ポイント増加しています。また、一般高齢者の割合の増加に伴い、85歳以上では、一般高齢者と要支援認定者の差が小さくなっています。

【認定別・年齢階級別】



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿西部で10.4%、最も低い圏域は鈴鹿南部で7.4%となっており、3.0ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

②閉じこもり

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

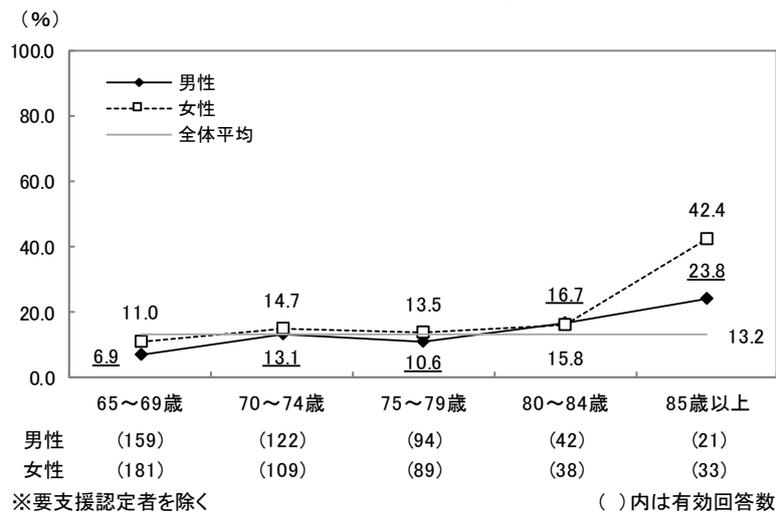
問番号	設問	該当する選択肢
問 11	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

【リスク該当状況】

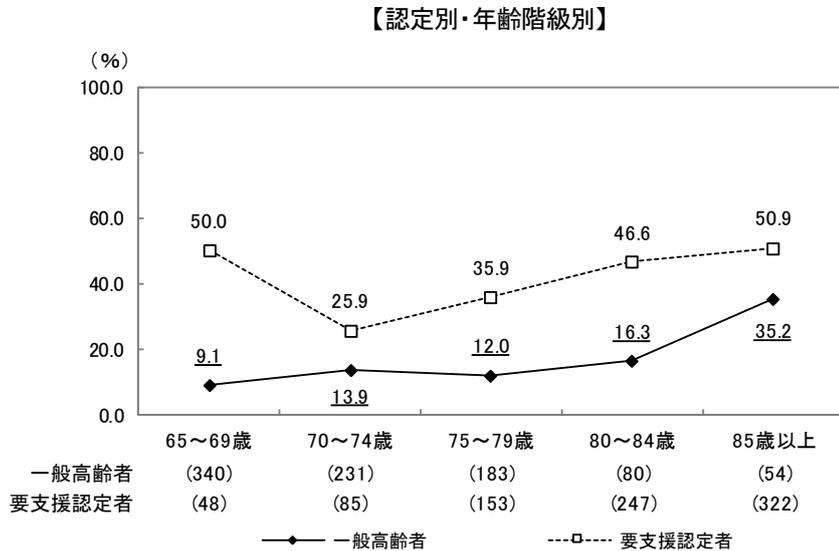
国の手引きに基づく閉じこもりの評価結果をみると、全体平均で13.2%が閉じこもりのリスク該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、85歳以上で42.4%と、80～84歳に比べ26.6ポイント上昇しています。また、85歳以上では、男性に比べて女性で割合が高く、18.6ポイントの差となっています。男性、女性ともに80歳以上で外出の頻度が徐々に減少し、特に85歳以上で加齢に伴う身体状態の悪化などにより急激に外出の頻度が減少しています。

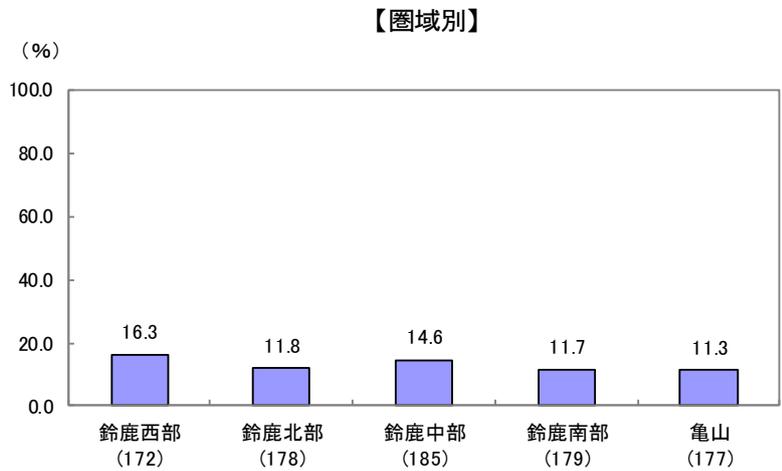
【性別・年齢階級別】



認定別・年齢階級別でみると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、85歳以上で35.2%と、80～84歳に比べ、18.9ポイント増加しています。他の年齢に比べ、70～74歳、85歳以上で一般高齢者と要支援認定者の差が小さくなっています。



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿西部で16.3%、最も低い圏域は亀山で11.3%となっており、5.0ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

③転倒

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

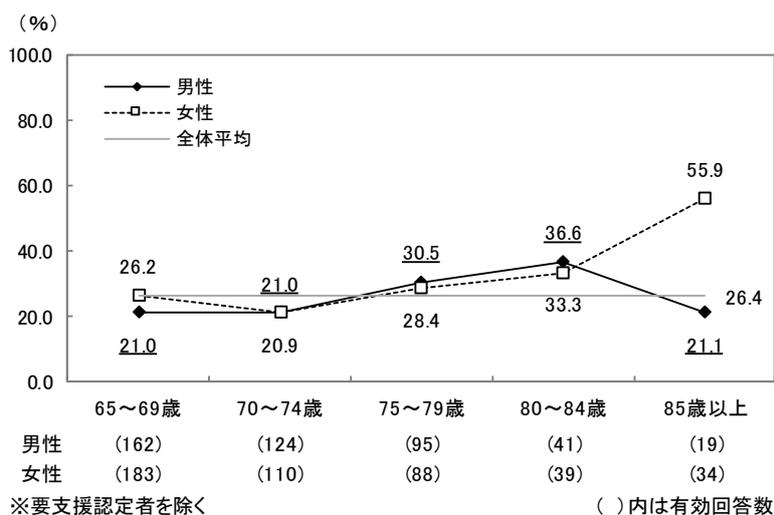
問番号	設問	該当する選択肢
問 9	過去 1 年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1 度ある

【リスク該当状況】

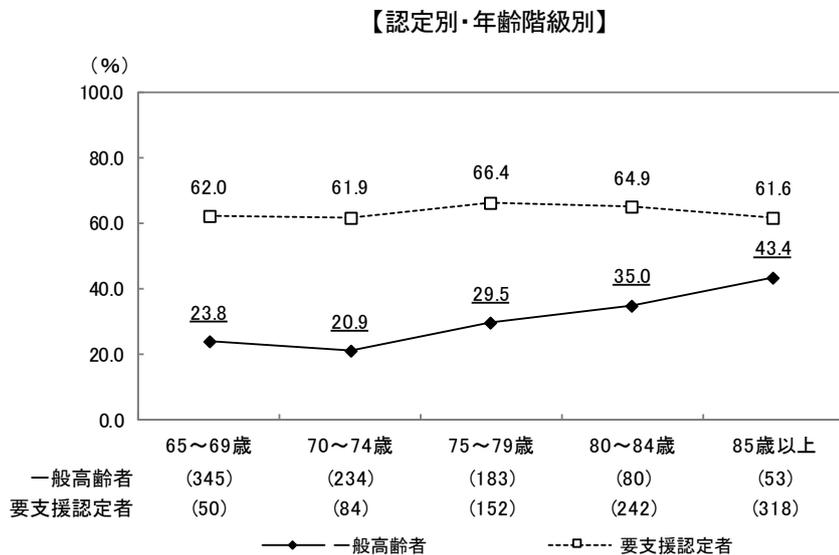
国の手引きに基づく転倒の評価結果をみると、全体平均で 26.4%が転倒リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性では、65～69 歳と 85 歳以上を除き女性に比べ転倒リスクが高くなっています。一方、女性では、80～84 歳を境に上昇し、85 歳以上で 55.9%と 80～84 歳に比べ 22.6 ポイント上昇しています。

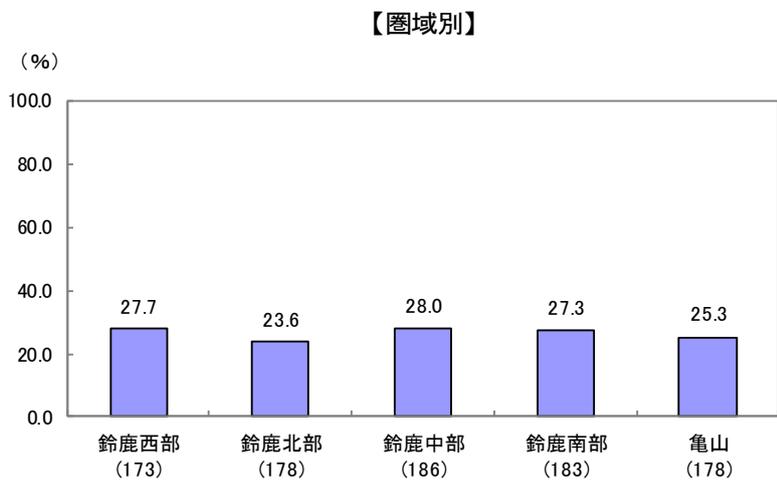
【性別・年齢階級別】



認定別・年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、70～74歳以降、年齢階級が高くなるにつれて割合が高くなっています。また、一般高齢者と要支援認定者の差をみると、70～74歳では41.0ポイント、85歳以上では18.2ポイントと差が小さくなっています。



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿中部で28.0%、最も低い圏域は鈴鹿北部で23.6%となっており、4.4ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

④ 栄養

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

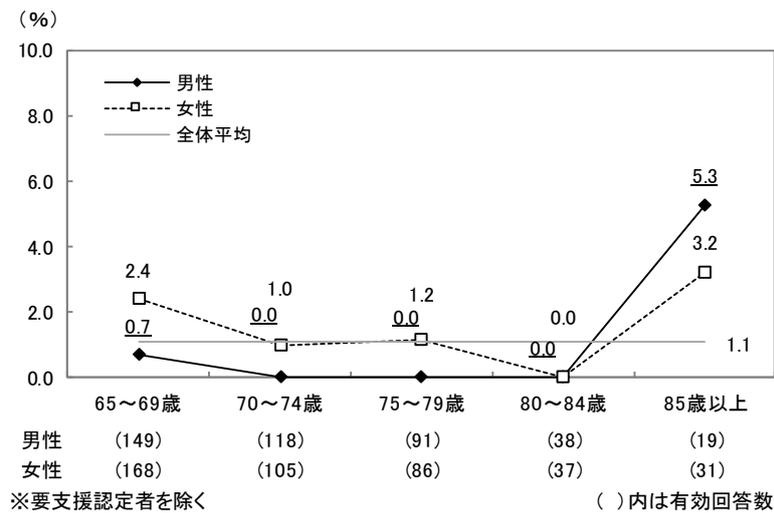
問番号	設問	該当する選択肢
問 15	身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5 未満
問 22	6 か月間で 2～3 kg 以上の体重減少がありましたか。	1. はい

【リスク該当状況】

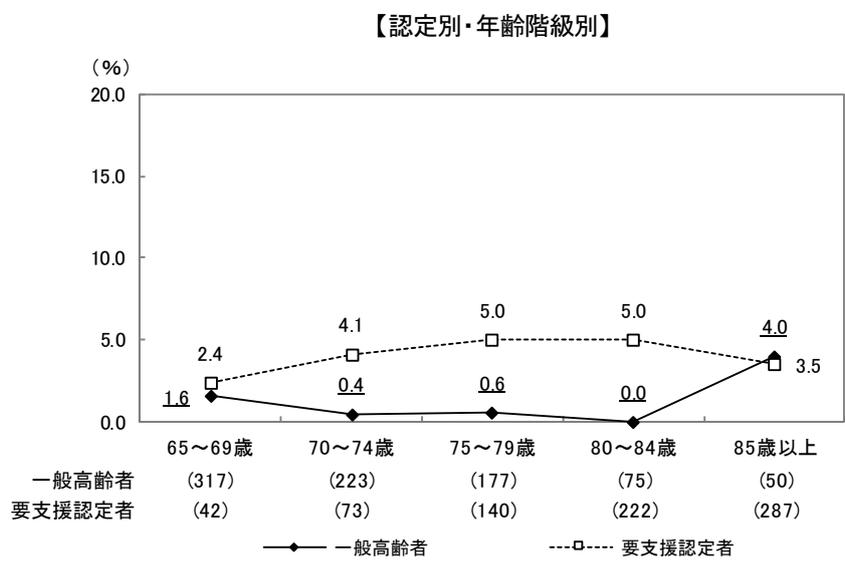
国の手引きに基づく栄養の評価結果をみると、全体平均で 1.1%が低栄養リスクの該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、男性と女性を比べると 85 歳以上でも 2.1 ポイントと大きな差はありません。

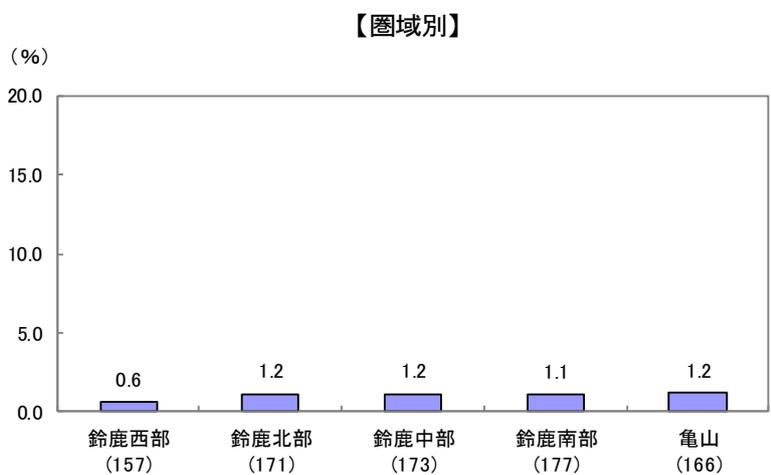
【性別・年齢階級別】



認定別・年齢階級別で見ると、85歳以上を除くすべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、85歳以上で4.0%と、80～84歳に比べ、4.0ポイント増加しています。



圏域別にみると、最も高い圏域は亀山、鈴鹿中部、鈴鹿北部で1.2%、最も低い圏域は鈴鹿西部で0.6%となっており、0.6ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

⑤口腔

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

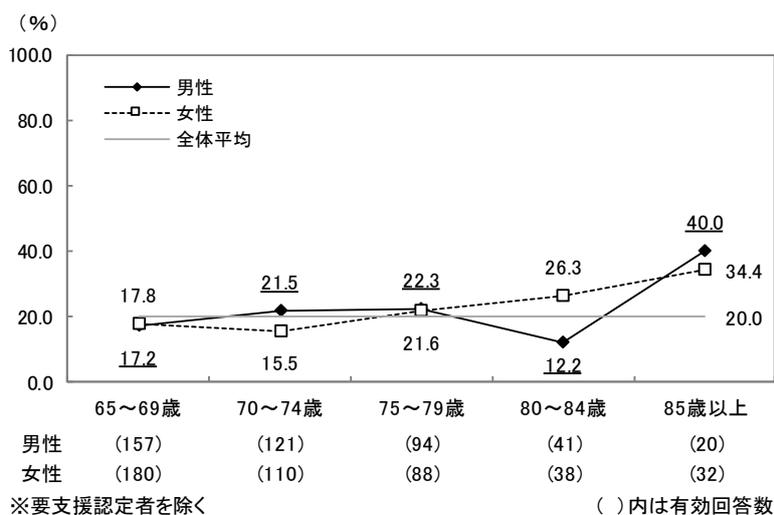
問番号	設問	該当する選択肢
問 16	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問 17	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問 18	口の渇きが気になりますか。	1. はい

【リスク該当状況】

国の手引きに基づく口腔の評価結果をみると、全体平均で 20.0%が口腔機能低下のリスク該当者となっています。

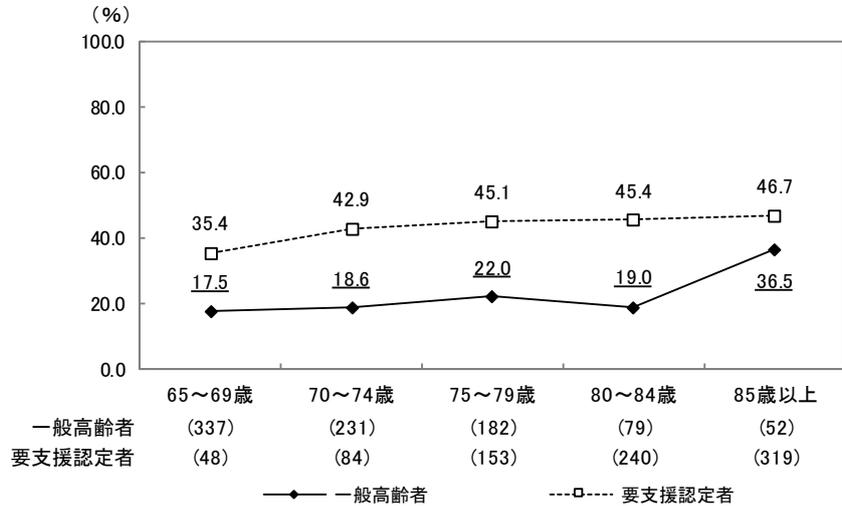
性別・年齢階級別にみると、女性では、75～79 歳で全体平均を超えており、75 歳以上になるとリスクが高くなることがうかがえます。男性では、85 歳以上で 40.0%と 80～84 歳に比べ 27.8 ポイント上昇しており、女性では、85 歳以上で 34.4%と 75～79 歳に比べ 12.8 ポイント上昇しています。

【性別・年齢階級別】



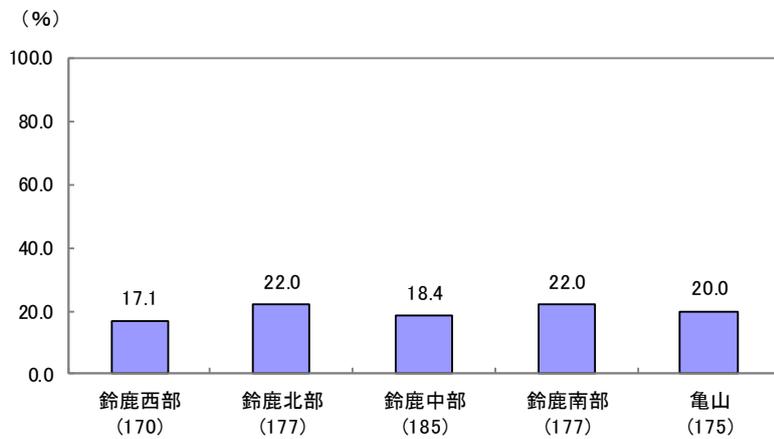
認定別・年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、85歳以上で36.5%と、80～84歳に比べ、17.5ポイント増加しています。

【認定別・年齢階級別】



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿北部、鈴鹿南部で22.0%、最も低い圏域は鈴鹿西部で17.1%となっており、4.9ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

⑥認知

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定しました。

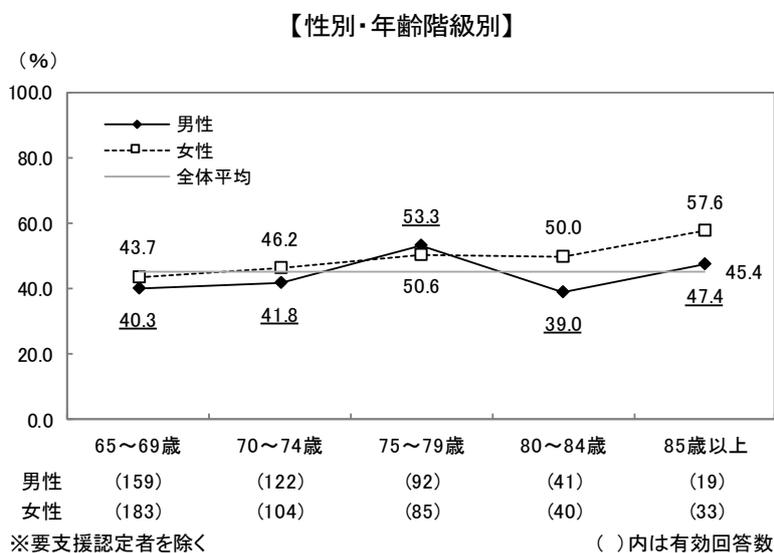
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 24	物忘れが多いと感じますか。	1. はい

【リスク該当状況】

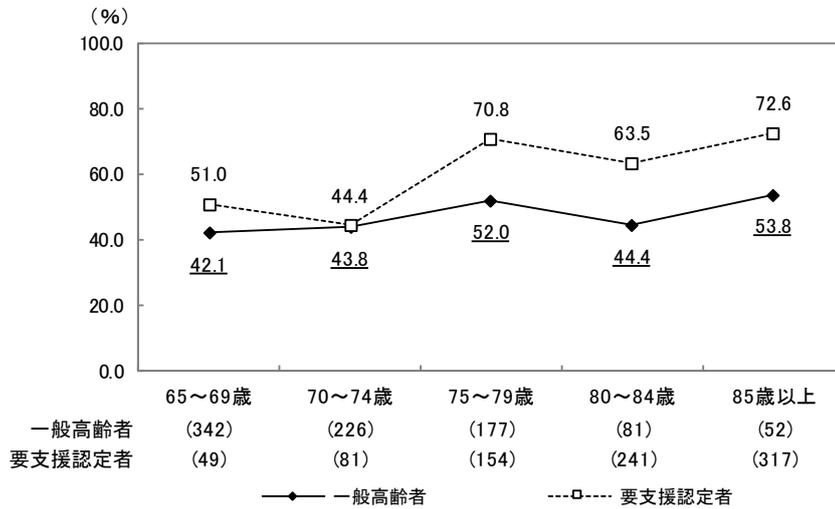
国の手引きに基づく認知の評価結果をみると、全体平均で45.4%が該当者となっています。

性別・年齢階級別にみると、女性では、75～79歳を除き男性に比べ認知のリスクが高くなっており、70歳代以上になると全体平均より割合が高くなっています。男性では、75～79歳で認知のリスクが最も高く53.3%となっています。



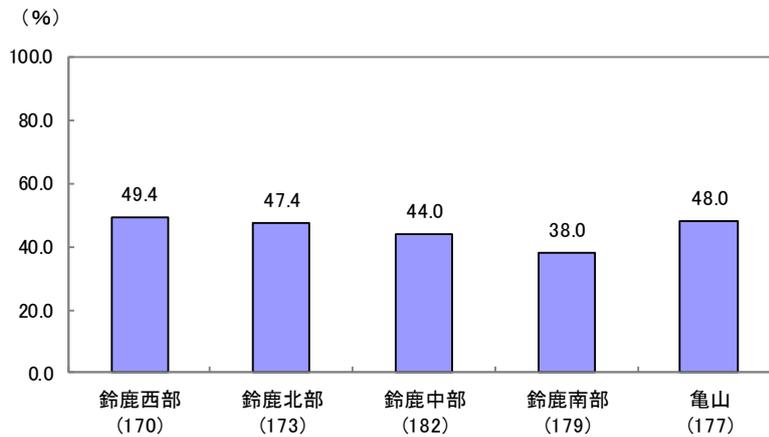
認定別・年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。70～74歳では一般高齢者と要支援認定者の割合はほぼ同じですが、要支援認定者では、75～79歳で70.8%と、70～74歳に比べ、26.4ポイント増加しています。以降、一般高齢者と要支援認定者の差は約20ポイントとなっています。

【認定別・年齢階級別】



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿西部で49.4%、最も低い圏域は南部で38.0%となっており、11.4ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

⑦うつ

国の手引きをもとに、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつのリスク該当者と判定しました。

【判定設問】

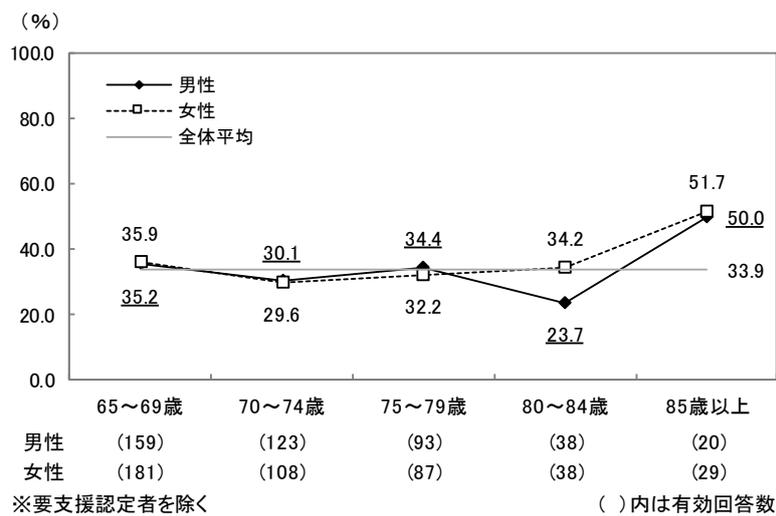
問番号	設問	該当する選択肢
問 58	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問 59	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

【リスク該当状況】

国の手引きに基づきうつの評価結果をみると、全体平均で33.9%が該当者となっています。

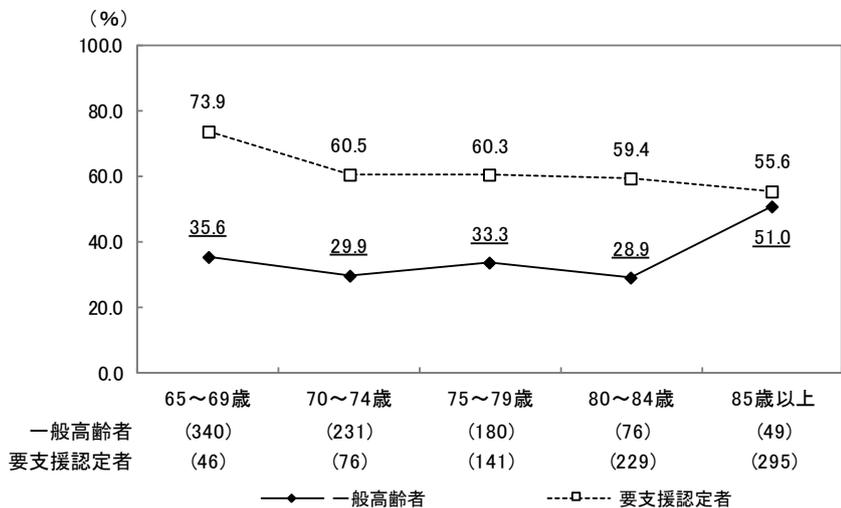
性別・年齢階級別にみると、80～84歳で男女の差が大きく、男性に比べ、女性で10.5ポイント高くなっています。

【性別・年齢階級別】



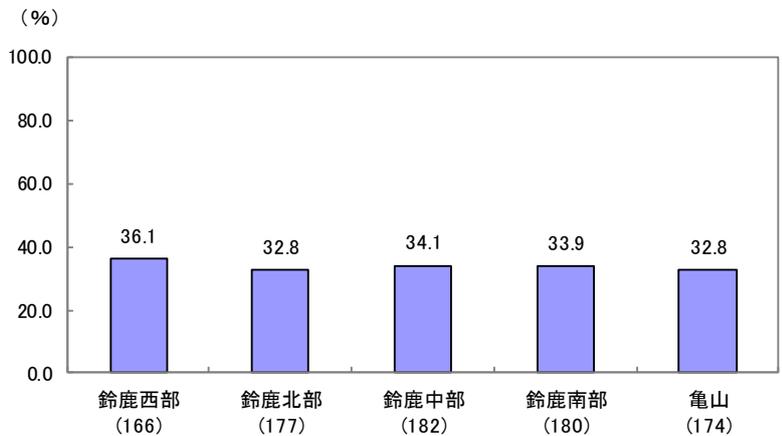
認定別・年齢階級別でみると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、85歳以上で51.0%と、80～84歳に比べ、22.1ポイント増加しています。また、一般高齢者と要支援認定者の差をみると、65～69歳では38.3ポイント、85歳以上では4.6ポイントと差が小さくなっています。

【認定別・年齢階級別】



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿西部で36.1%、最も低い圏域は鈴鹿北部で32.8%となっており、3.3ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

(2) 日常生活

①手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度 (IADL) に関する設問が5問あり、「手段的自立度 (IADL)」として尺度化されています。

評価は、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。

また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

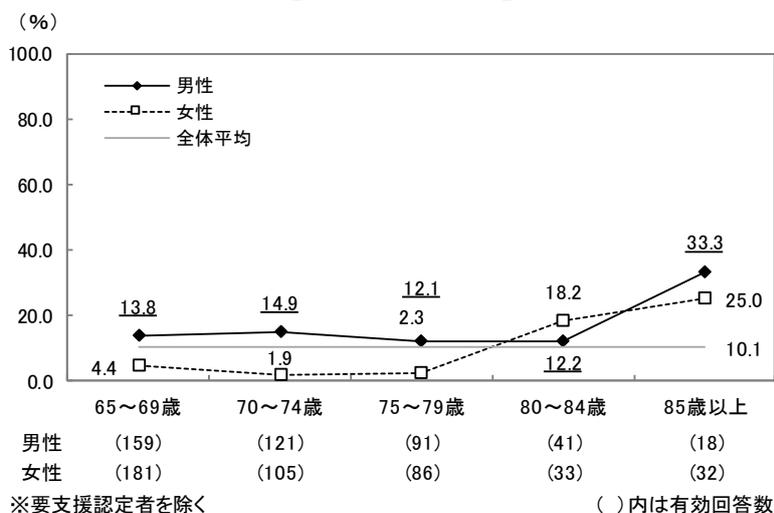
問番号	設問	該当する選択肢
問 25	バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問 26	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問 27	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問 28	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
問 29	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点

【該当状況】

全体平均では10.1%が手段的自立度の低下者となっています。

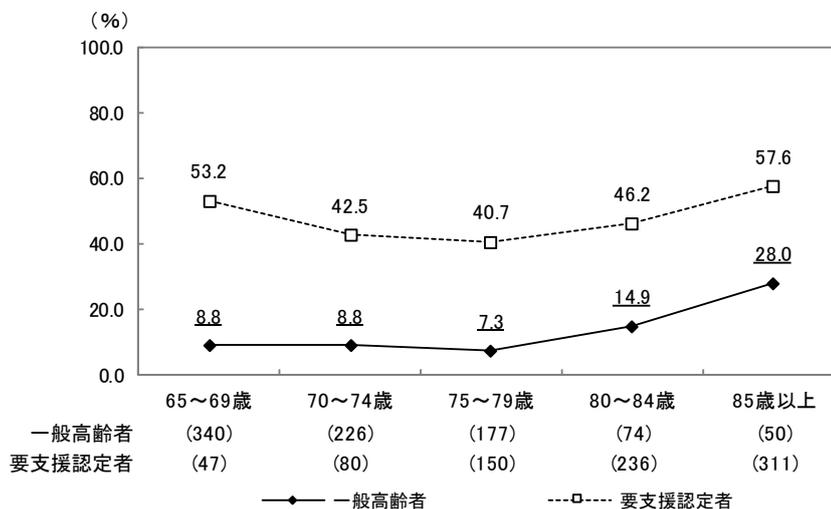
性別・年齢階級別でみると、男性では、85歳以上、女性では、80～84歳で急激に上昇しています。男性では、85歳以上で33.3%と80～84歳に比べ21.1ポイント、女性では、80～84歳で18.2%と75～79歳に比べ15.9ポイント増加しています。

【性別・年齢階級別】



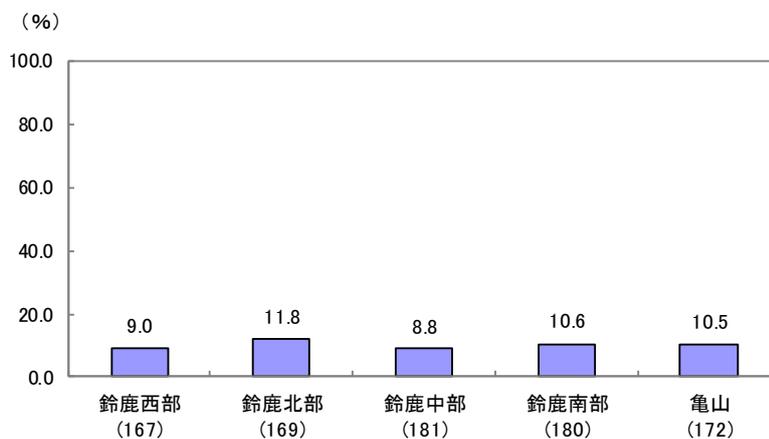
認定別・年齢階級別でみると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。75～79歳以降では、一般高齢者、要支援認定者とも、年齢階級が高くなるにつれて割合が高くなっています。

【認定別・年齢階級別】



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿北部で11.8%、最も低い圏域は鈴鹿中部で8.8%となっており、3.0ポイントの差となっています。

【圏域別】



※要支援認定者を除く

(3) 社会参加

① 知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問あり、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を示しています。

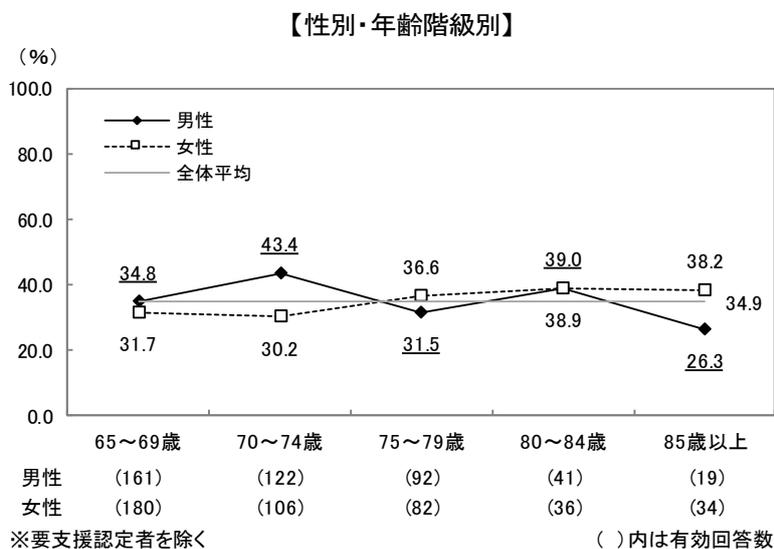
【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問 30	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1. はい：1点
問 31	新聞を読んでいますか。	1. はい：1点
問 32	本や雑誌を読んでいますか。	1. はい：1点
問 33	健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい：1点

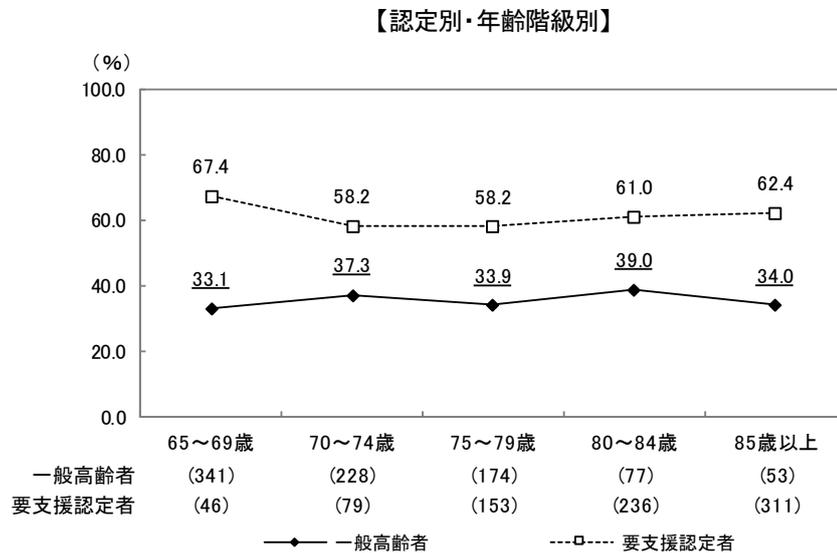
【該当状況】

知的能動性の低下者は、全体平均では34.9%となっています。

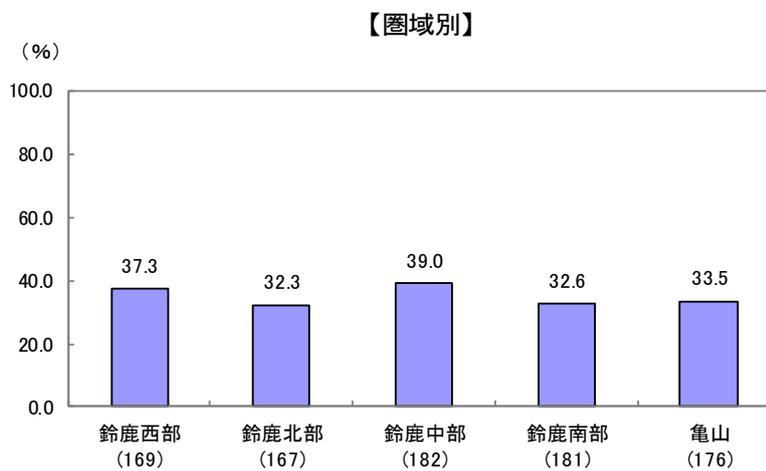
性別・年齢階級別でみると、男性では、75～79歳、85歳以上を除き女性に比べ割合が高くなっています。70～74歳で男女の差が大きく、女性に比べ、男性で13.2ポイント高くなっています。



認定別・年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、3割から4割の間で推移し、要支援認定者は65～69歳を除き、6割前後で推移しています。



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿中部で39.0%、最も低い圏域は鈴鹿北部で32.3%となっており、6.7ポイントの差となっています。



※要支援認定者を除く

②社会的役割

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問あり、「社会的役割」として尺度化されています。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

また、3点以下を社会的役割の低下者とし、低下者の割合を示しています。

【判定設問】

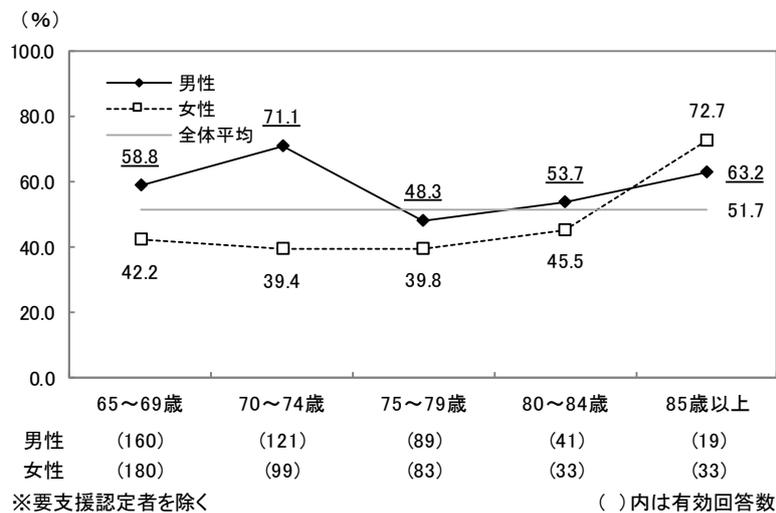
問番号	設問	該当する選択肢
問 34	友人の家を訪ねていますか。	1. はい：1点
問 35	家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい：1点
問 36	病人を見舞うことができますか。	1. はい：1点
問 37	若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい：1点

【該当状況】

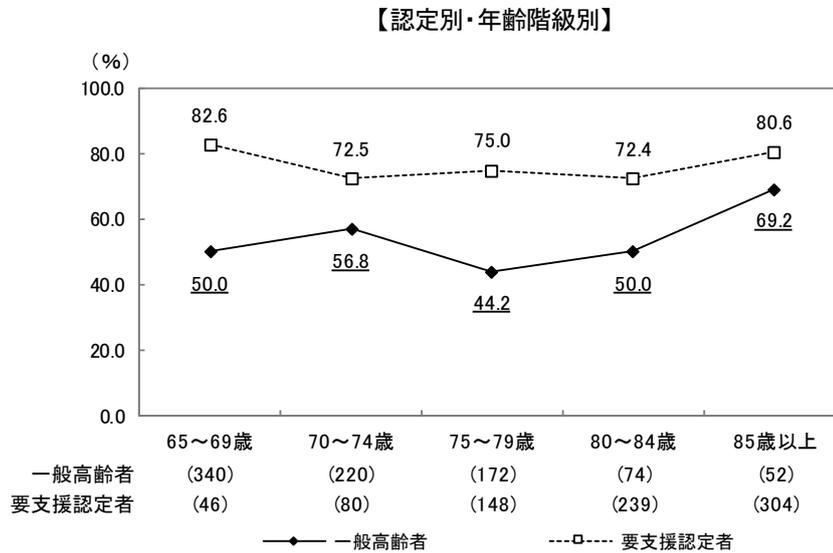
社会的役割の低下者は、全体平均では51.7%となっています。

性別・年齢階級別でみると、男性では、85歳以上を除き女性に比べ割合が高くなっています。女性では、85歳以上で急激に増加し、85歳以上で72.7%と80～84歳に比べ27.2ポイント増加しています。

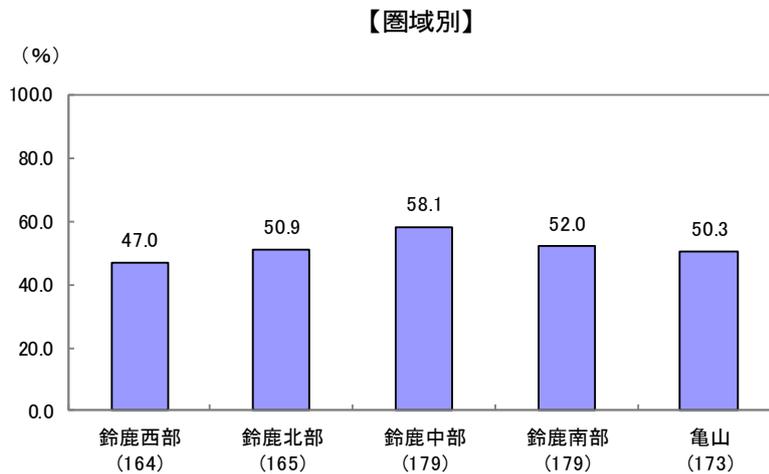
【性別・年齢階級別】



認定別・年齢階級別でみると、すべての年齢階級で要支援認定者が一般高齢者を上回っています。一般高齢者では、85歳以上で69.2%と、75～79歳に比べ、25.0ポイント増加しています。また、一般高齢者と要支援認定者の差をみると、75～79歳では30.8ポイント、85歳以上では11.4ポイントと差が小さくなっています。



圏域別にみると、最も高い圏域は鈴鹿中部で58.1%、最も低い圏域は鈴鹿西部で47.0%となっており、11.1ポイントの差となっています。



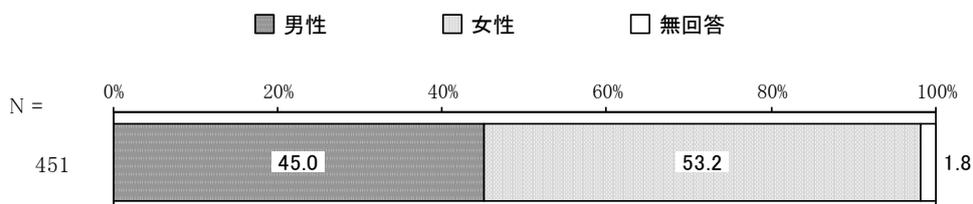
※要支援認定者を除く

3 2号保険者

(1) 回答者属性

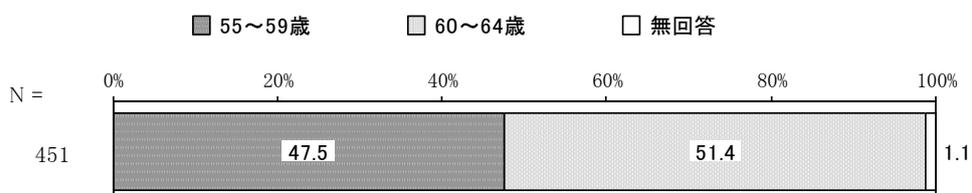
問1 あなた（封筒のあて名の方。以下同じです。）の性別はどちらですか。
（1つを選択）

「男性」の割合が45.0%、「女性」の割合が53.2%となっています。



問2 あなたの年齢は、おいくつですか。（1つを選択）

「55～59歳」の割合が47.5%、「60～64歳」の割合が51.4%となっています。



問3 あなたのお住まいの地区は、次のどちらですか。わからない場合は町名を書いてください。なお、若松、玉垣、飯野にお住まいの方は、【 】内の町名に注意してお答えください。(1つを選択)

「わからない」の割合が11.8%と最も高くなっています。

単位：%

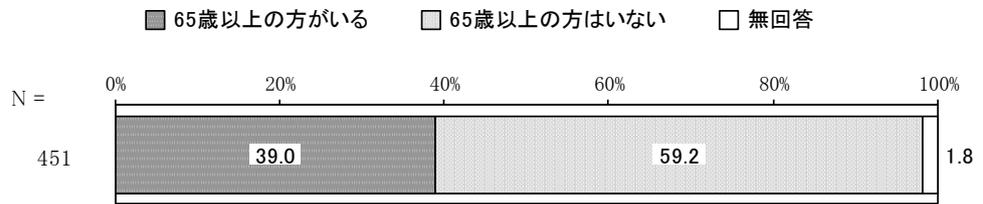
全体	西 部										北 部	
	庄野	加佐登	牧田	石薬師	井田川	久間田	椿	深伊沢	鈴峰	庄内	飯野①【西條町、飯野寺家町、西条1-9丁目】	河曲
451	2.4	1.3	4.0	2.4	1.8	1.8	0.9	0.4	2.4	1.6	2.0	3.3

北 部				中 部				南 部				
一ノ宮	箕田	神戸	玉垣①【矢橋1-3丁目】	国府	飯野②【飯野①以外】	玉垣②【玉垣①以外】	若松②【若松①以外】	白子	稲生	若松①【南若松町】	栄	天名
4.7	2.7	2.7	0.9	4.9	2.4	5.8	1.8	8.6	2.7	0.9	5.1	0.9

南 部	亀 山										わからない	無回答
合川	井田川	亀山	川崎	神辺	白川	野登	昼生	加太	坂下	関		
0.7	4.9	5.3	1.6	0.2	0.2	1.8	0.9	0.4	-	1.8	11.8	2.2

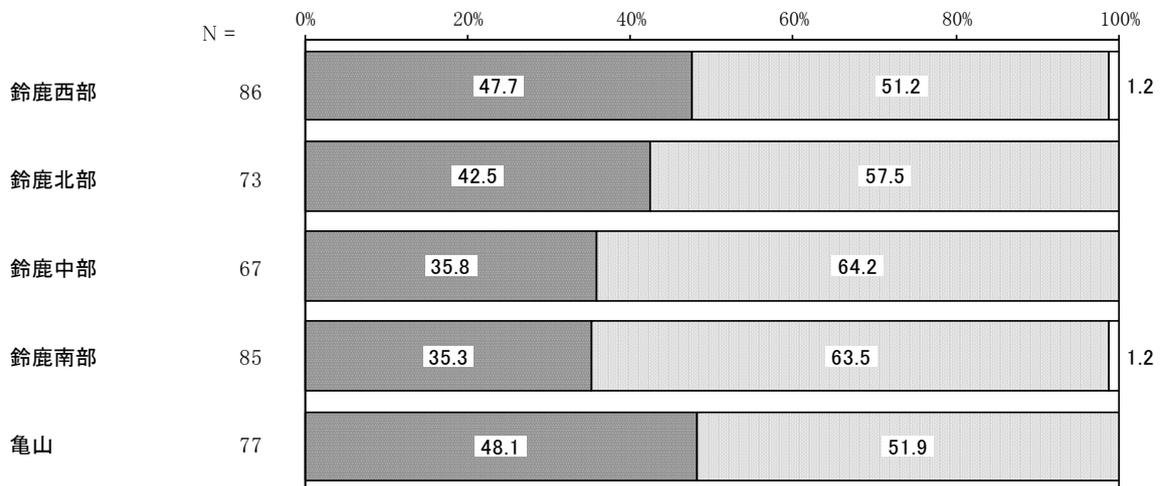
問4 あなたの世帯には65歳以上の方がお住まいですか。(1つを選択)

「65歳以上の方がいる」の割合が39.0%、「65歳以上の方はいない」の割合が59.2%となっています。



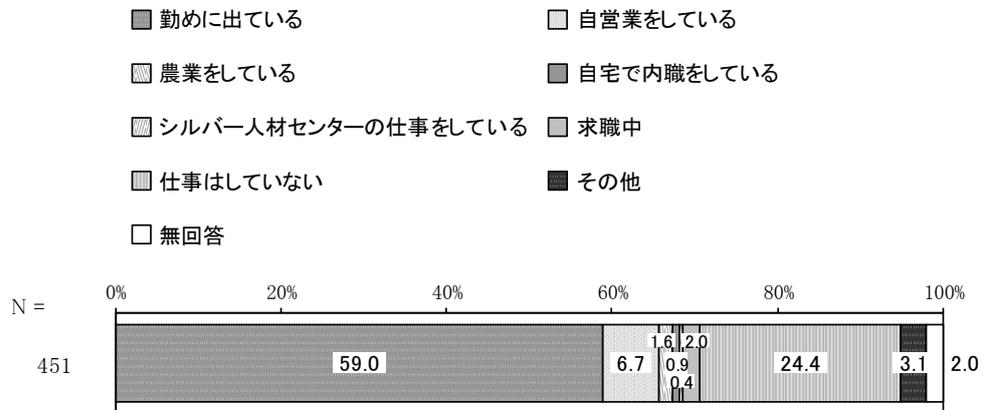
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿西部、亀山で「65歳以上の方がいる」の割合が高くなっています。



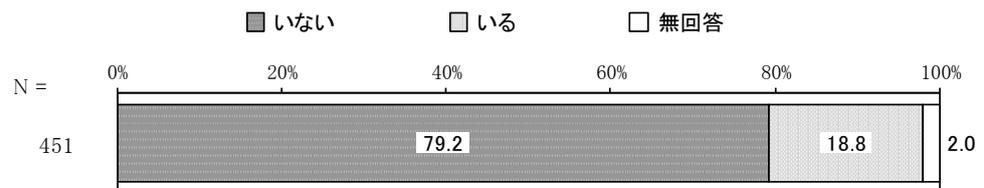
問5 あなたは、現在、どんな仕事をされていますか。(1つを選択)

「勤めに出ている」の割合が59.0%と最も高く、次いで「仕事はしていない」の割合が24.4%となっています。



問6 現在、あなたのご家族の中に介護が必要な方はいらっしゃいますか。(1つを選択)

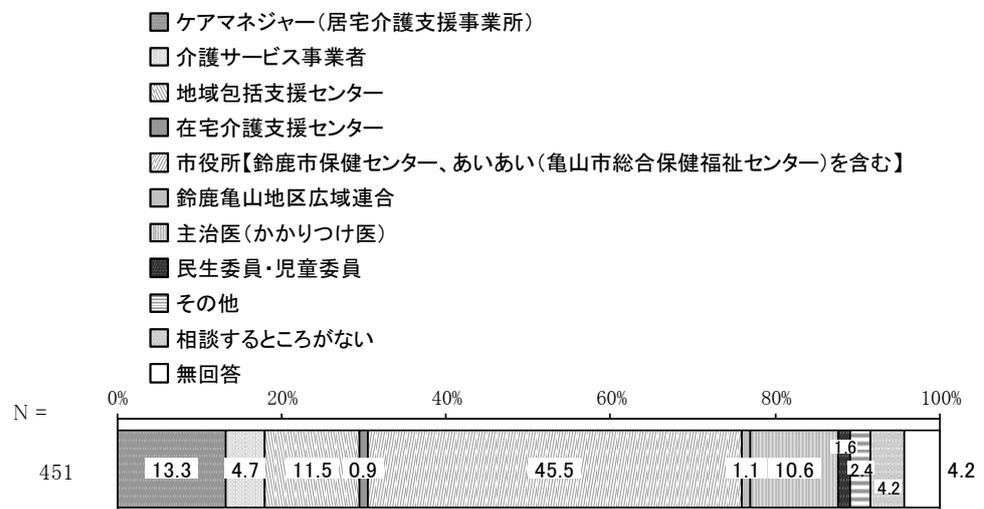
「いない」の割合が79.2%、「いる」の割合が18.8%となっています。



(2) 介護に関する考え方について

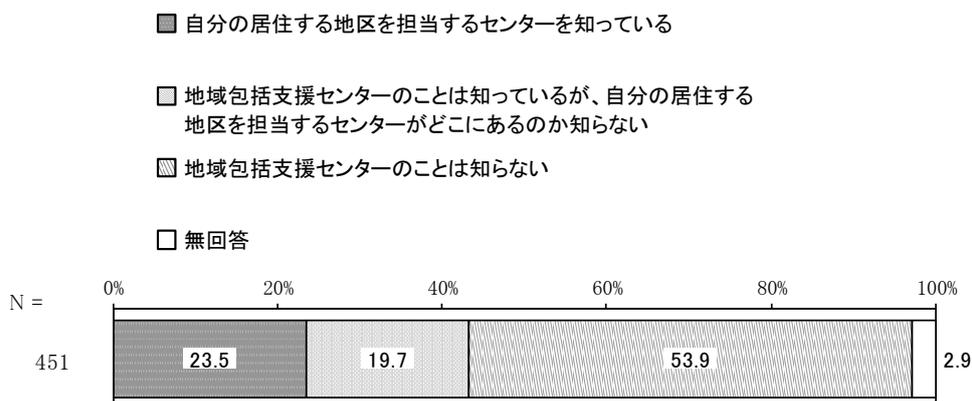
問7 あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。(1つを選択)

「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい(亀山市総合保健福祉センター)を含む】」の割合が45.5%と最も高く、次いで「ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)」の割合が13.3%、「地域包括支援センター」の割合が11.5%となっています。



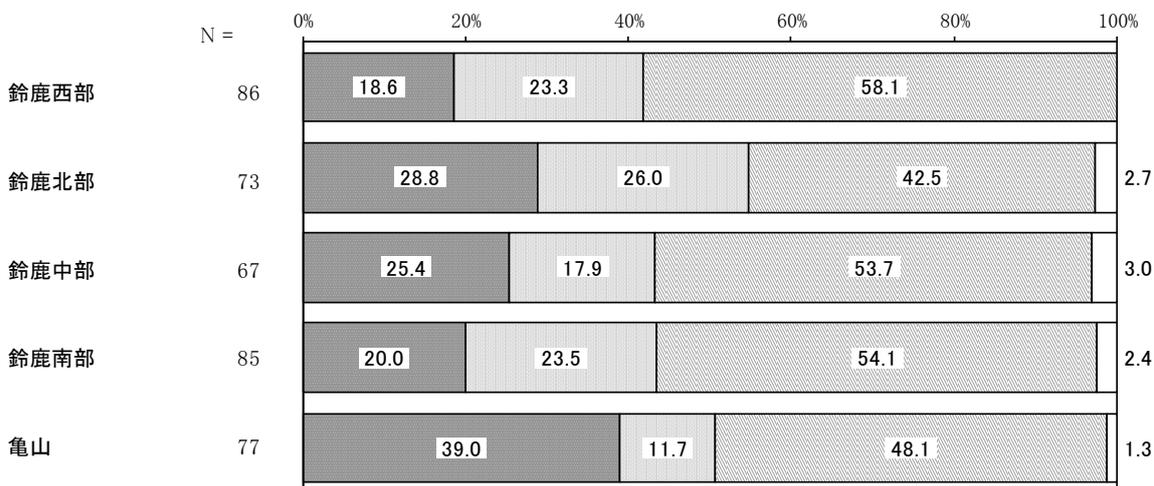
問8 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1つを選択）

「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が53.9%と最も高く、次いで「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が23.5%、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が19.7%となっています。



【日常生活圏域別】

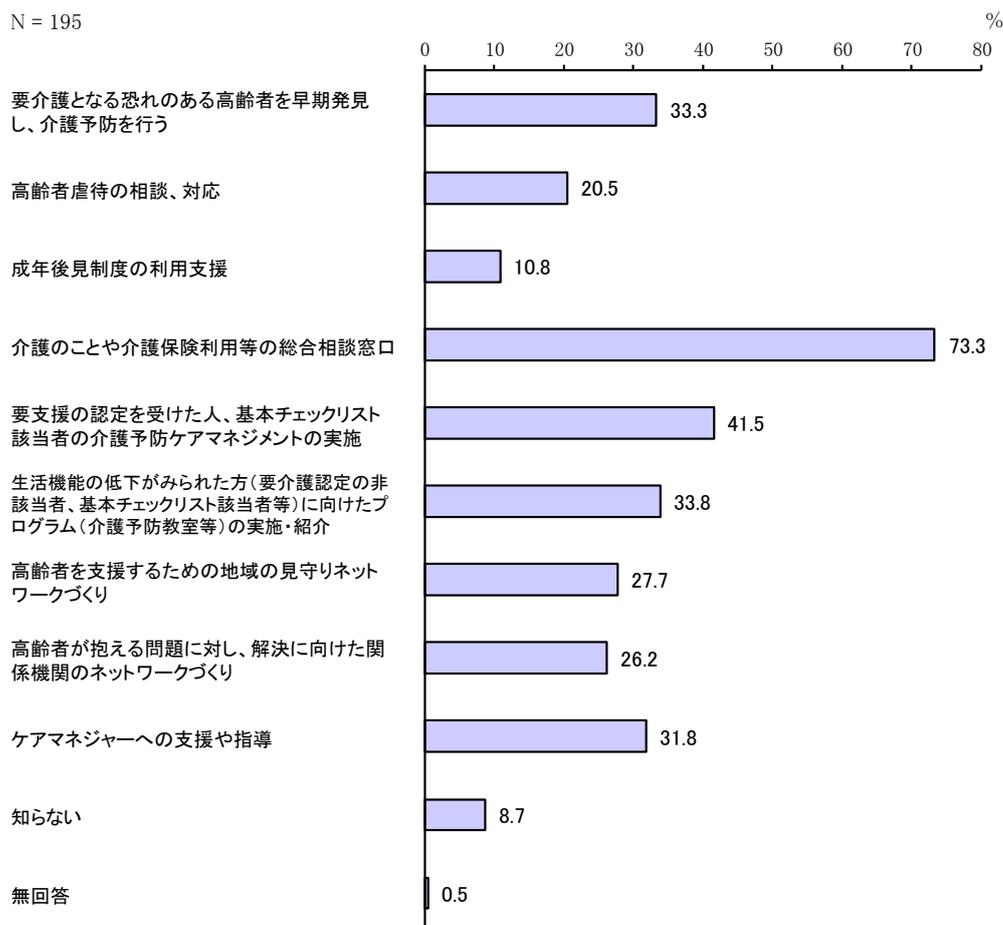
日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部で「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が高くなっています。



問8で「1 自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」または「2 地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」と回答した方にお伺いします。

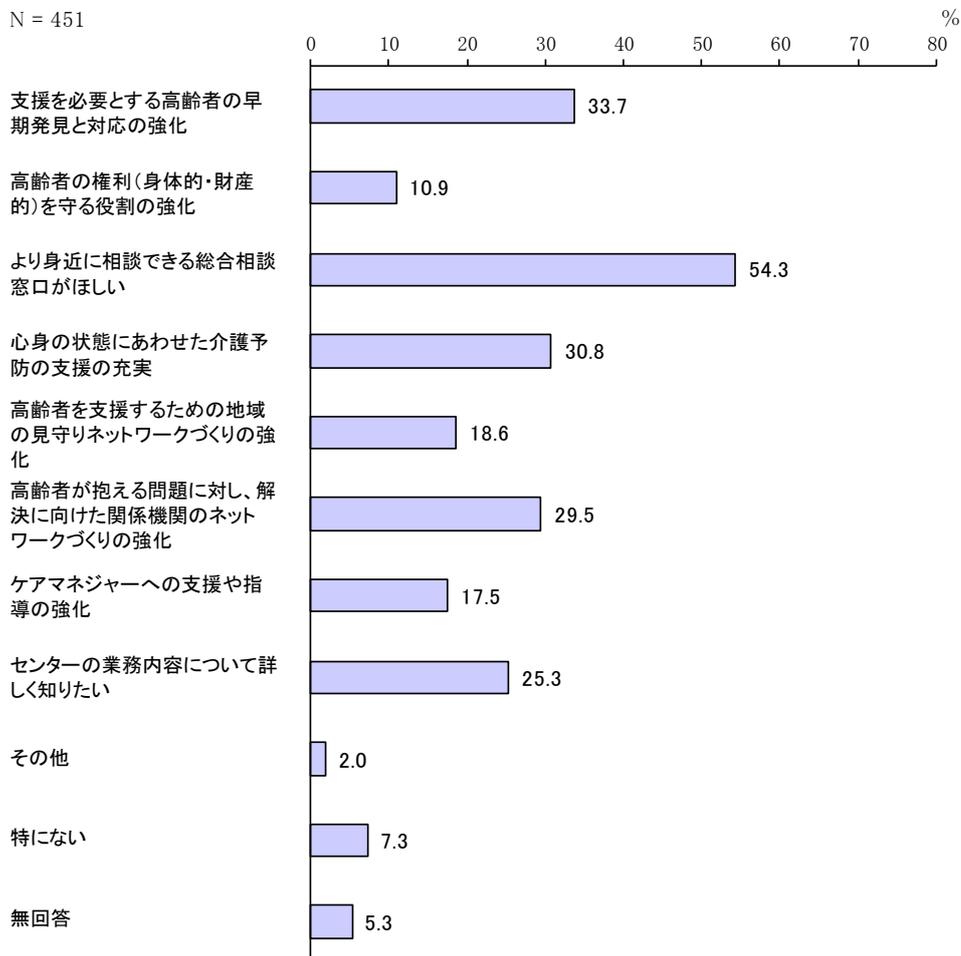
**問8-② 「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。
(複数選択可)**

「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」の割合が73.3%と最も高く、次いで「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」の割合が41.5%、「生活機能の低下がみられた方(要介護認定の非該当者、基本チェックリスト該当者等)に向けたプログラム(介護予防教室等)の実施・紹介」の割合が33.8%となっています。



問9 「地域包括支援センター」にどのようなことを望みますか。(複数選択可)

「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が54.3%と最も高く、次いで「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」の割合が33.7%、「心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実」の割合が30.8%となっています。



【日常生活圏域別】

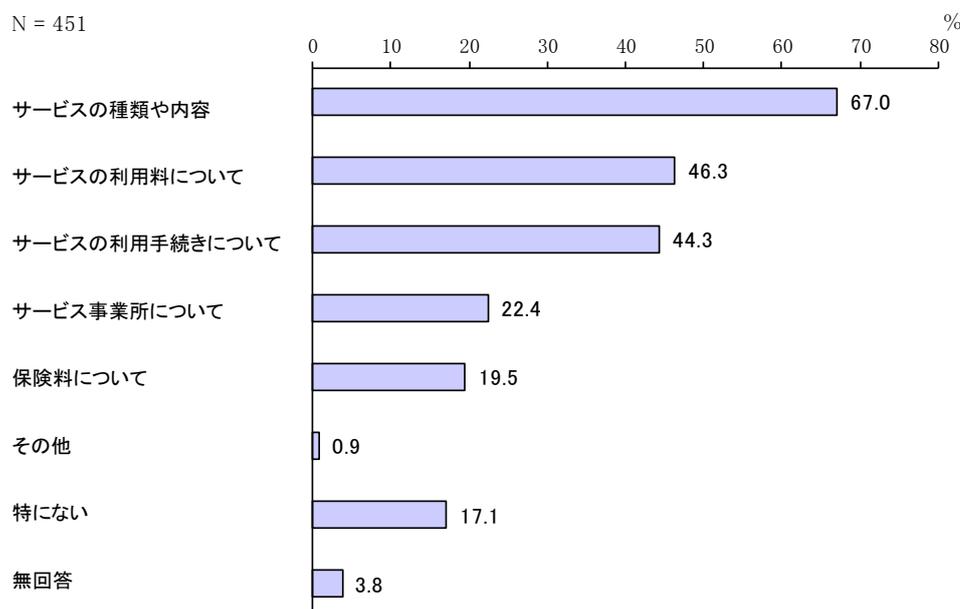
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部、鈴鹿中部で「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が、鈴鹿南部、亀山で「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくりの強化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化	高齢者の権利（身体的・財産的）を守る役割の強化	より身近に相談できる総合相談窓口がほしい	心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実	高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくりの強化	高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくりの強化	ケアマネジャーへの支援や指導の強化	センターの業務内容について詳しく知りたい	その他	特にない	無回答
鈴鹿西部	86	33.7	8.1	57.0	33.7	24.4	22.1	18.6	33.7	1.2	7.0	2.3
鈴鹿北部	73	32.9	13.7	61.6	31.5	17.8	35.6	21.9	19.2	2.7	6.8	2.7
鈴鹿中部	67	22.4	10.4	62.7	25.4	16.4	28.4	13.4	25.4	—	10.4	4.5
鈴鹿南部	85	41.2	14.1	52.9	36.5	16.5	36.5	22.4	22.4	1.2	9.4	4.7
亀山	77	45.5	13.0	46.8	28.6	24.7	32.5	19.5	24.7	3.9	2.6	9.1

問 10 介護保険について知りたい情報がありますか。（複数選択可）

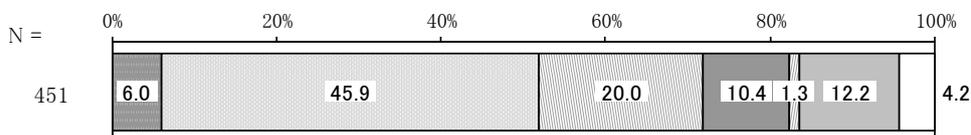
「サービスの種類や内容」の割合が 67.0%と最も高く、次いで「サービスの利用料について」の割合が 46.3%、「サービスの利用手続きについて」の割合が 44.3%となっています。



問 11 仮に、あなた自身が介護が必要な状態になった場合、どのようにしたいですか。(1つを選択)

「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が45.9%と最も高く、次いで「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい」の割合が20.0%、「わからない」の割合が12.2%となっています。

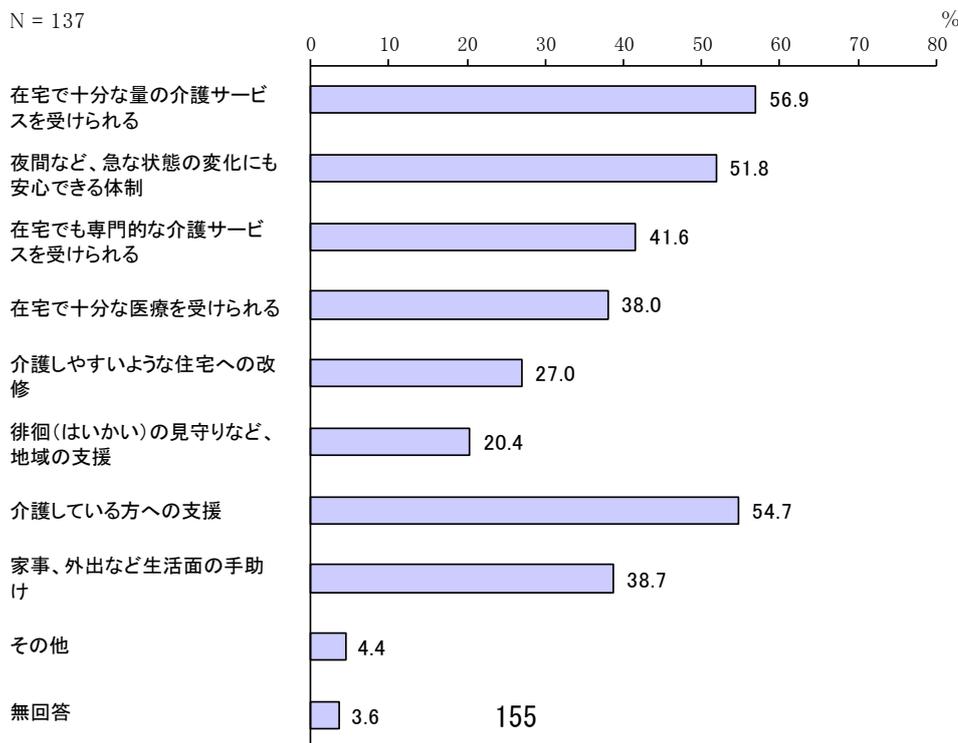
- 家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- その他
- わからない
- 無回答



問 11 で「3 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい」または「4 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい」と回答した方にお伺いします。

問 11-② どのような条件が整えば、自宅で生活を続けることができますか (複数選択可)

「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が56.9%と最も高く、次いで「介護している方への支援」の割合が54.7%、「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が51.8%となっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が、鈴鹿南部で「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「徘徊（はいかい）の見守りなど、地域の支援」の割合が、亀山で「介護しやすいような住宅への改修」「家事、外出など生活面の手助け」の割合が高くなっています。また、鈴鹿中部、亀山で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が高くなっています。

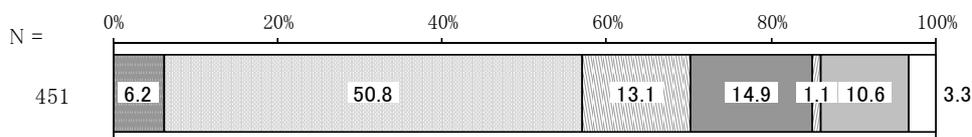
単位：％

区分	有効回答数（件）	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊（はいかい）の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
鈴鹿西部	32	59.4	40.6	34.4	31.3	28.1	9.4	56.3	21.9	9.4	—
鈴鹿北部	22	59.1	68.2	36.4	31.8	18.2	4.5	63.6	45.5	—	4.5
鈴鹿中部	15	66.7	60.0	33.3	40.0	20.0	20.0	33.3	46.7	6.7	—
鈴鹿南部	28	42.9	53.6	50.0	42.9	17.9	39.3	64.3	35.7	7.1	10.7
亀山	24	62.5	58.3	37.5	45.8	41.7	29.2	50.0	54.2	—	4.2

問12 あなたは、ご家族が介護が必要な状態になった場合（現在介護をしている場合も含む）、どのようにしたいですか。（1つを選択）

「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が50.8%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」の割合が14.9%、「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい」の割合が13.1%となっています。

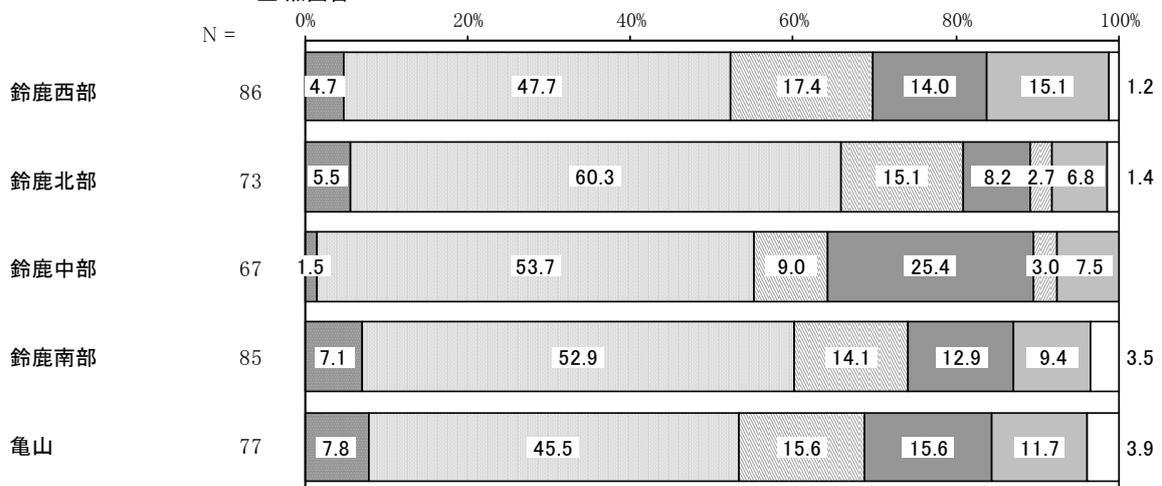
- なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい
- サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい
- その他
- わからない
- 無回答



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が、鈴鹿中部で「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」の割合が高くなっています。

- なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい
- ▨ サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい
- ▨ その他
- わからない
- 無回答

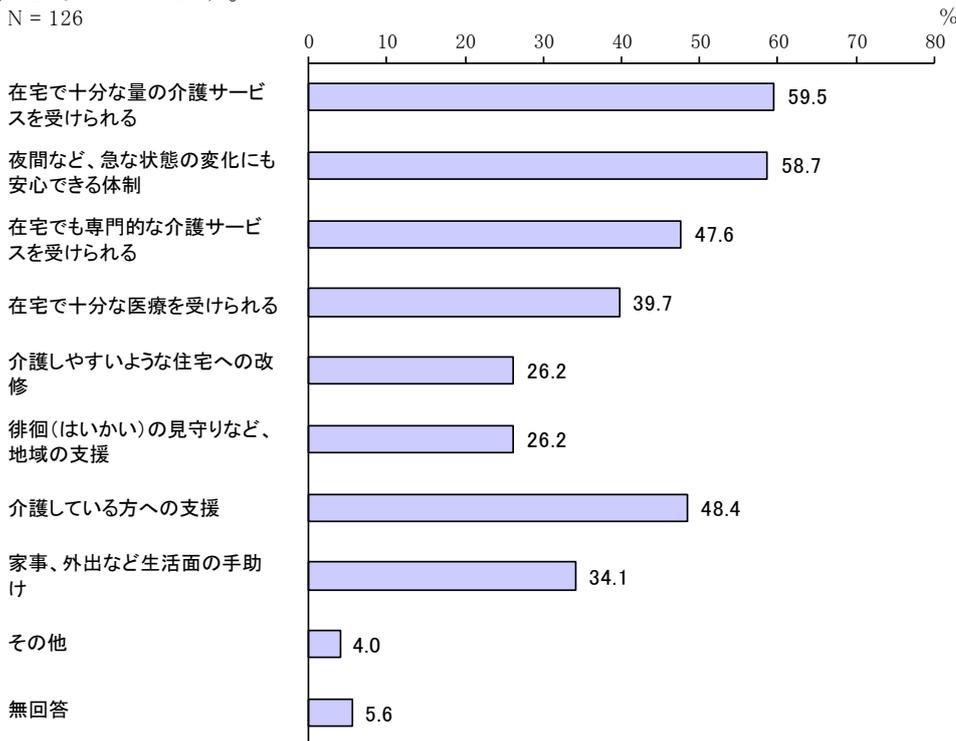


問 12 で「3 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい」または「4 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」と回答した方にお伺いします。

問 12-② どのような条件が整えば、自宅で生活が続けることができますか。
(複数選択可)

「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が 58.7%、「介護している方への支援」の割合が 48.4%となっています。

N = 126



【日常生活圏域別】

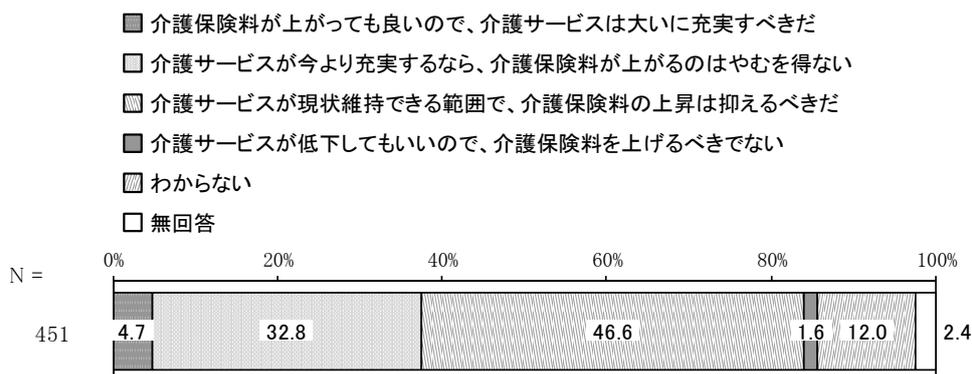
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿南部、亀山で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が、鈴鹿中部、亀山で「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が、鈴鹿北部で「介護している方への支援」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
鈴鹿西部	27	48.1	51.9	40.7	29.6	25.9	14.8	40.7	40.7	7.4	7.4
鈴鹿北部	17	58.8	58.8	52.9	41.2	29.4	11.8	64.7	23.5	5.9	5.9
鈴鹿中部	23	56.5	65.2	43.5	47.8	26.1	21.7	52.2	34.8	—	—
鈴鹿南部	23	69.6	56.5	56.5	43.5	21.7	34.8	47.8	34.8	4.3	8.7
亀山	24	66.7	66.7	41.7	37.5	29.2	37.5	41.7	29.2	4.2	8.3

問 13 特別養護老人ホームや老人保健施設などへの入所、訪問介護（看護）や通所介護（リハビリ）、ショートステイなどの利用が多くなれば、それだけ介護保険料も上がることになります。あなたは、介護サービスの水準と保険料についてどのようにお考えですか。（1つを選択）

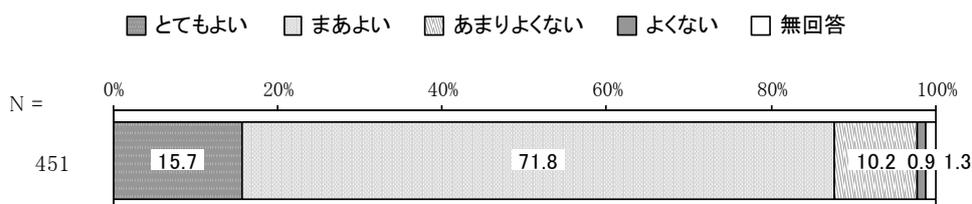
「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が 46.6%と最も高く、次いで「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」の割合が 32.8%、「わからない」の割合が 12.0%となっています。



（3）健康について

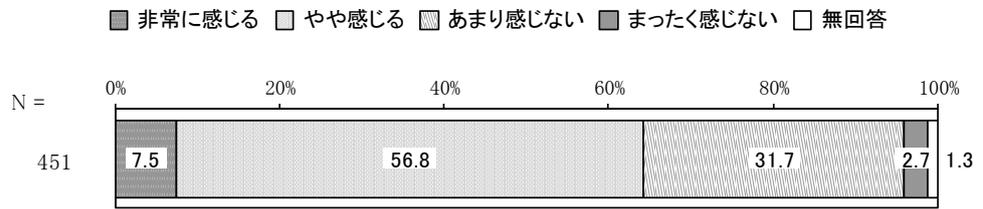
問 14 ご自分の健康状態についてどう思われますか。（1つを選択）

「とてもよい」と「まあよい」をあわせた“よい”の割合が 87.5%、「あまりよくない」と「よくない」をあわせた“よくない”の割合が 11.1%となっています。



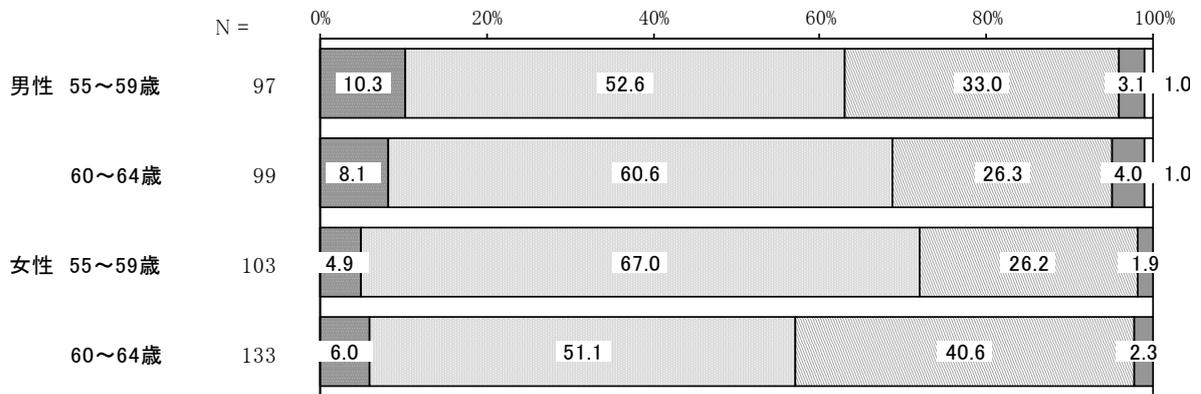
問 15 あなたは、1年ほど前に比べて身体の衰えを感じますか。(1つを選択)

「非常に感じる」と「やや感じる」をあわせた“身体の衰えを感じる”の割合が 64.3%、「あまり感じない」と「まったく感じない」をあわせた“身体の衰えを感じない”の割合が 34.4%となっています。



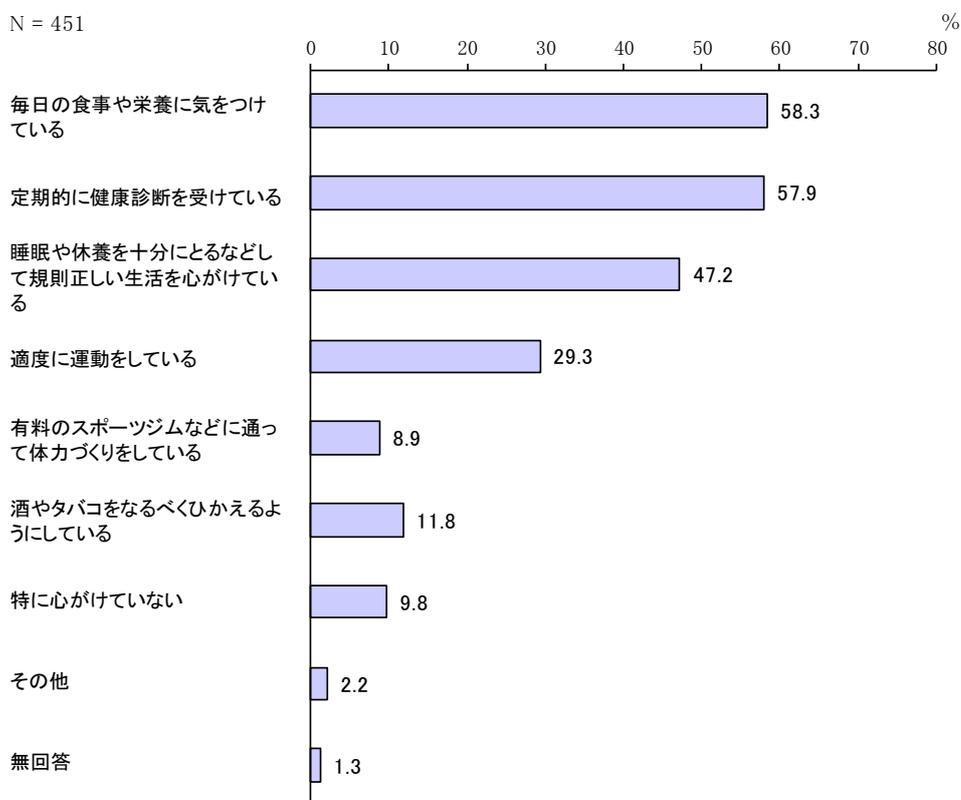
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の 60～64 歳、女性の 55～59 歳で“身体の衰えを感じる”の割合が高くなっています。



問 16 日頃、健康についてどんなことを心がけていますか。(複数選択可)

「毎日の食事や栄養に気をつけている」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」の割合が 57.9%、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」の割合が 47.2%となっています。



【性・年齢別】

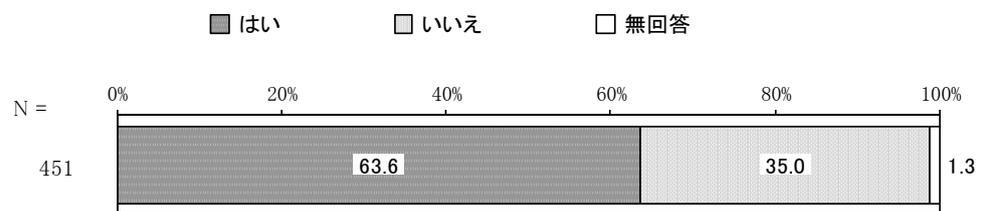
性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の 60～64 歳で「毎日の食事や栄養に気をつけている」「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」「有料のスポーツジムなどに通って体力づくりをしている」の割合が高くなっています。また、男性の 55～59 歳で「特に心がけていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	毎日の食事や栄養に気をつけている	定期的に健康診断を受けている	睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている	適度に運動をしている	有料のスポーツジムなどに通って体力づくりをしている	酒やタバコをなるべくひかえるようにしている	特に心がけていない	その他	無回答
男性 55～59 歳	97	48.5	53.6	44.3	26.8	5.2	17.5	16.5	2.1	1.0
60～64 歳	99	50.5	52.5	49.5	35.4	5.1	13.1	10.1	2.0	1.0
女性 55～59 歳	103	63.1	59.2	39.8	24.3	6.8	8.7	12.6	1.9	—
60～64 歳	133	68.4	62.4	57.1	32.3	16.5	9.0	3.8	3.0	—

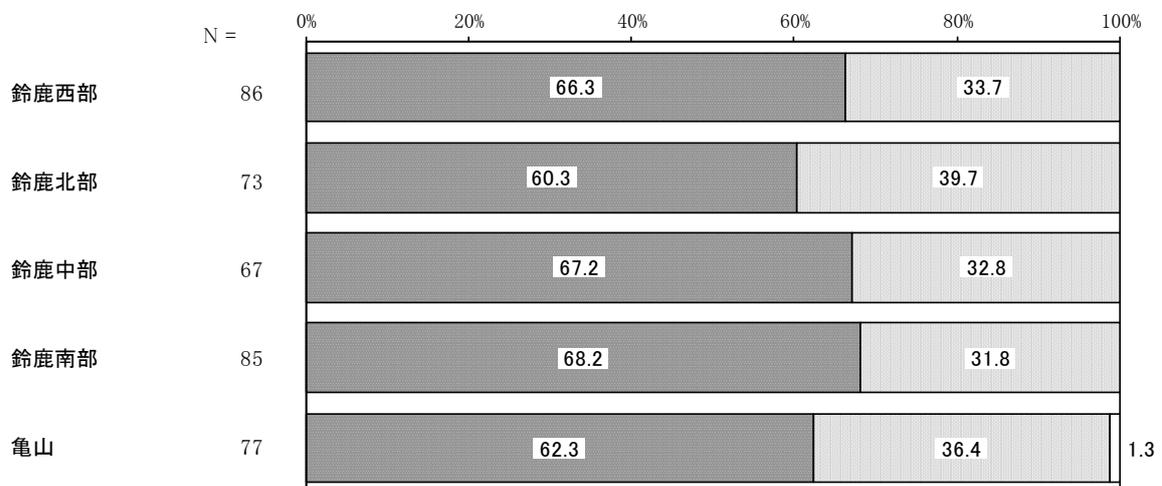
問 17 あなたには、「かかりつけ医（主治医）」または、いつもかかっている医療機関がありますか。

「はい」の割合が 63.6%、「いいえ」の割合が 35.0%となっています。



【日常生活圏域別】

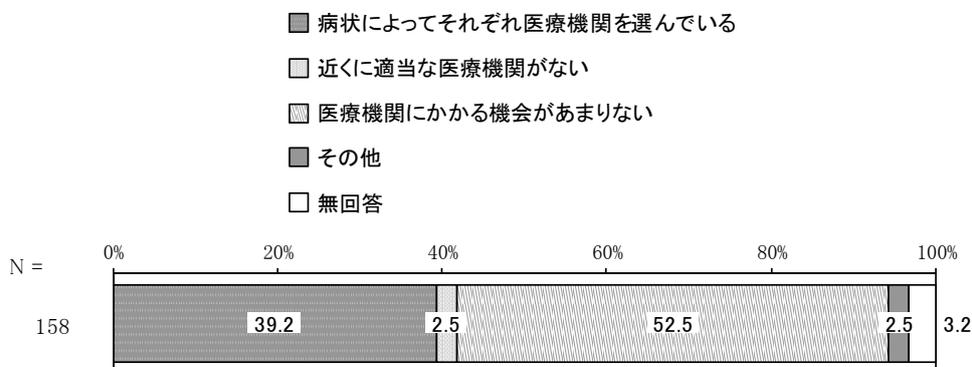
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿南部、鈴鹿中部で「はい」の割合が高くなっています。



問17で「2 いいえ」と回答した方にお伺いします。

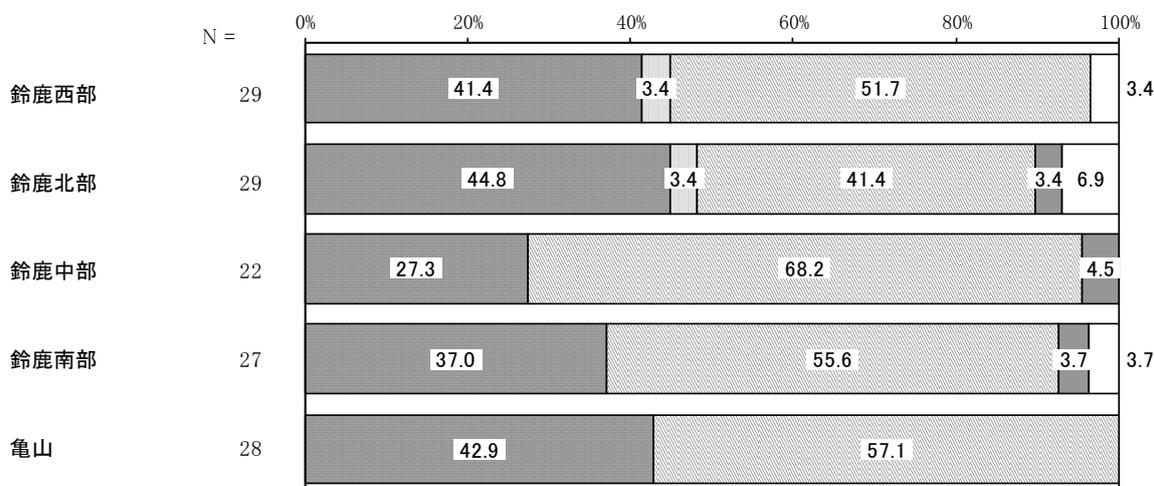
問17-②「かかりつけ医」をもたない主な理由は何ですか。(1つを選択)

「医療機関にかかる機会があまりない」の割合が52.5%と最も高く、次いで「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」の割合が39.2%となっています。



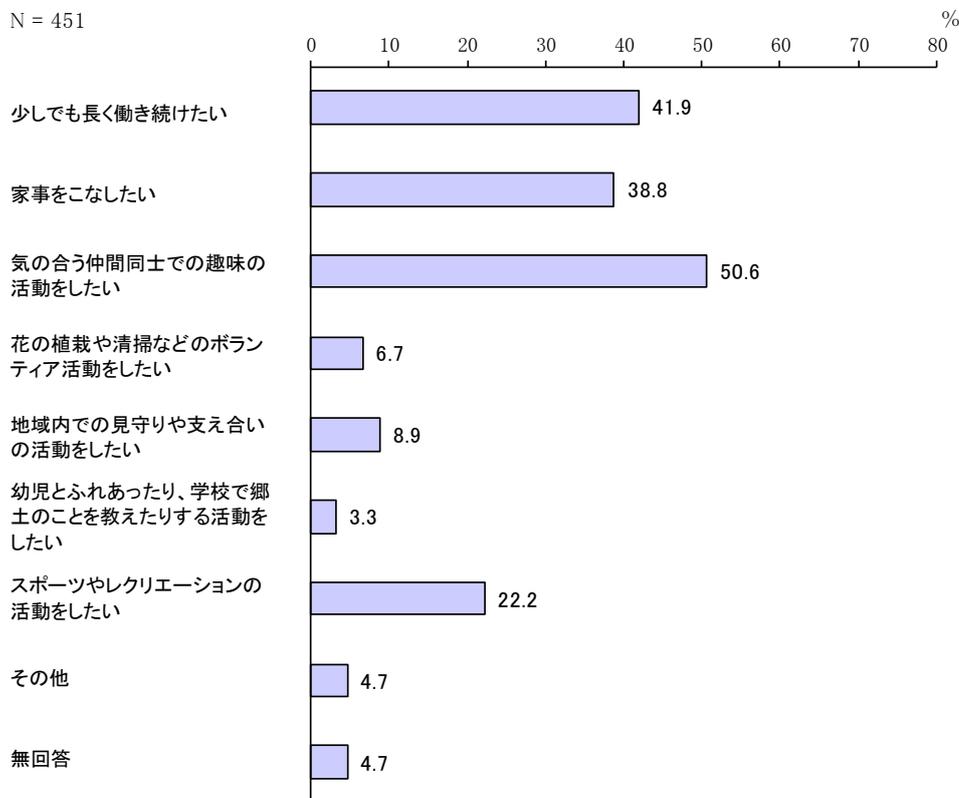
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部で「医療機関にかかる機会があまりない」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部、鈴鹿北部、亀山で「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」の割合が高くなっています。



問 18 あなたは、自分の健康や生きがいのために、どんなことをしたいと思いますか。(複数選択可)

「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「少しでも長く働きたい」の割合が 41.9%、「家事をこなしたい」の割合が 38.8%となっています。



【性・年齢別】

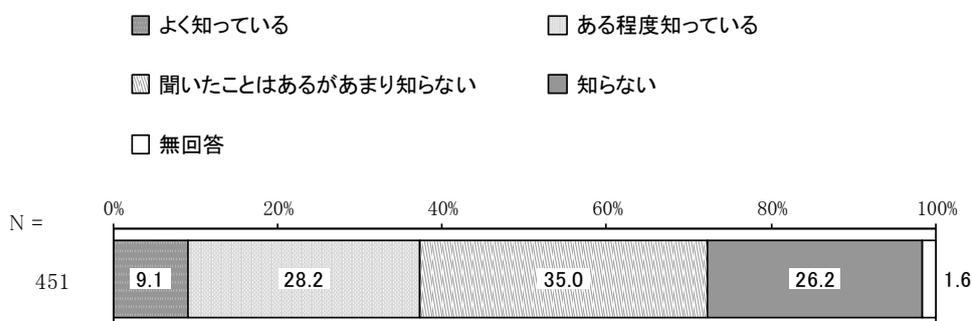
性・年齢別で見ると、いずれの年代でも、男性に比べ、女性で「家事をこなしたい」の割合が高くなっています。また、男性の 55～59 歳で「少しでも長く働きたい」の割合が、60～64 歳で「スポーツやレクリエーションの活動をしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	少しでも長く働きたい	家事をこなしたい	気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい	花の植栽や清掃などのボランティア活動をしたい	地域内での見守りや支え合いの活動をしたい	幼児とふれあったり、学校で郷土のことを教えたりする活動をしたい	スポーツやレクリエーションの活動をしたい	その他	無回答
男性 55～59 歳	97	55.7	18.6	45.4	4.1	7.2	2.1	20.6	8.2	4.1
60～64 歳	99	47.5	13.1	51.5	5.1	10.1	4.0	33.3	6.1	4.0
女性 55～59 歳	103	35.0	58.3	51.5	8.7	6.8	3.9	19.4	1.9	3.9
60～64 歳	133	30.8	57.1	54.1	9.0	11.3	3.0	19.5	3.0	3.8

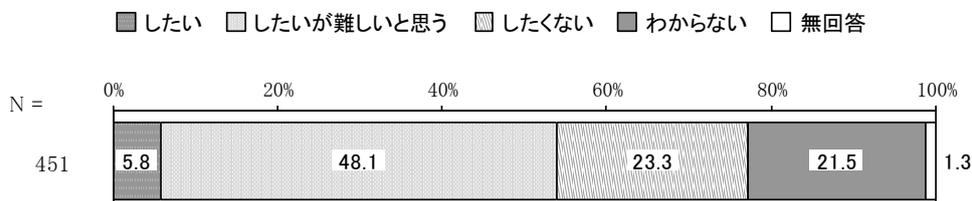
問 19 自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を残す「エンディングノート」を知っていますか。（1つを選択）

「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が37.3%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と「知らない」をあわせた“知らない”の割合が61.2%となっています。



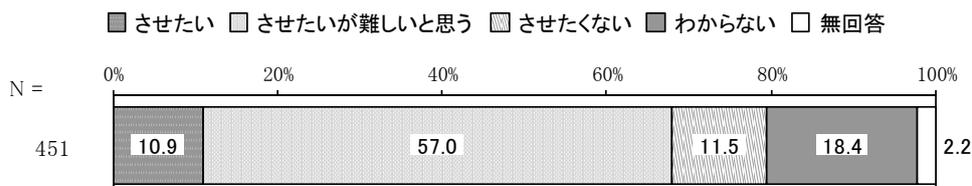
問 20 あなたは、今後、自身のお身体の状態が悪くなり、介護を必要とし、回復の見込みがなくなったとき、自宅で最後まで療養したいと思いますか。（1つを選択）

「したいが難しいと思う」の割合が48.1%と最も高く、次いで「したくない」の割合が23.3%、「わからない」の割合が21.5%となっています。



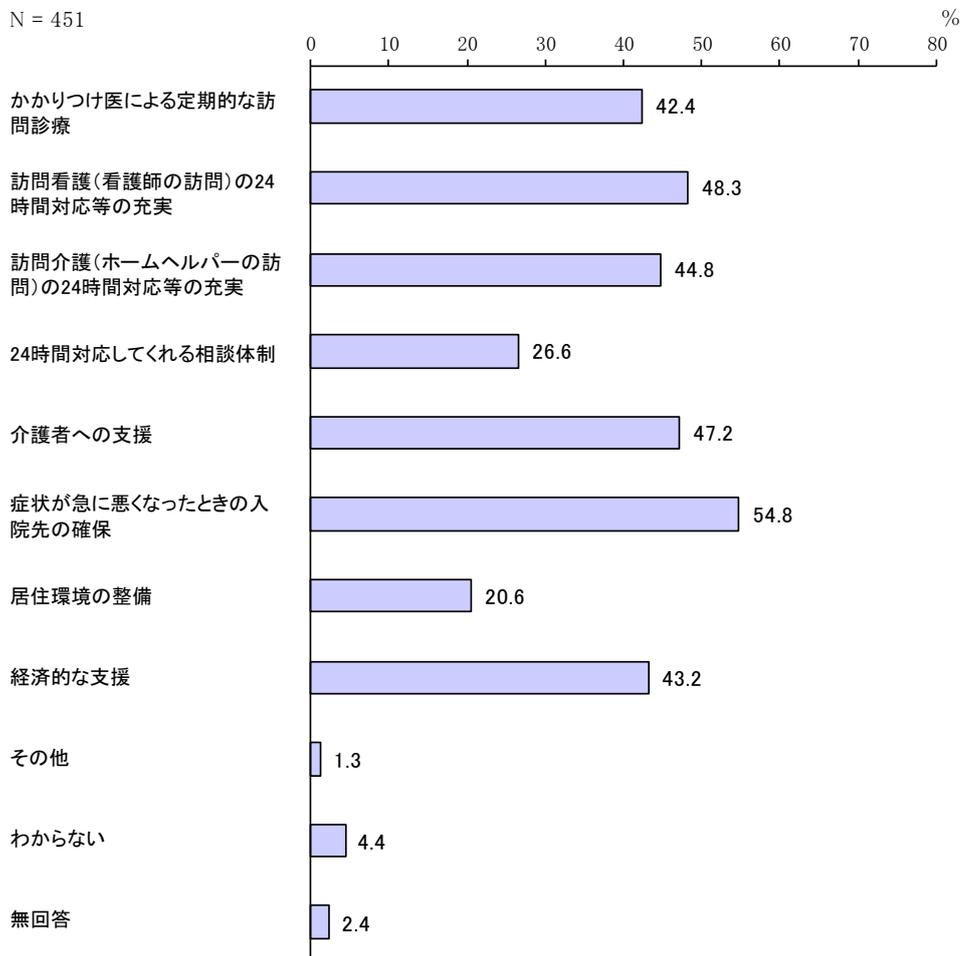
問 21 あなたは、ご家族が介護を必要とし、回復の見込みがなくなったとき、自宅で最期まで療養させたいと思いますか。（1つを選択）

「させたいが難しいと思う」の割合が57.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が18.4%、「させたくない」の割合が11.5%となっています。



問 22 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数選択可)

「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が 54.8%と最も高く、次いで「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」の割合が 48.3%、「介護者への支援」の割合が 47.2%となっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実」「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が高くなっています。また、鈴鹿中部、亀山で「介護者への支援」の割合が、鈴鹿西部、亀山で「訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実」の割合が高くなっています。

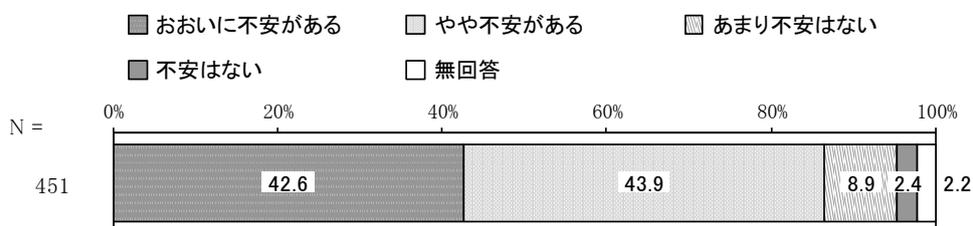
単位：％

区分	有効回答数（件）	かかりつけ医による定期的な訪問診療	訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	制24時間対応してくれる相談体	介護者への支援	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	居住環境の整備	経済的な支援	その他	わからない	無回答
鈴鹿西部	86	51.2	55.8	43.0	23.3	40.7	53.5	23.3	46.5	1.2	7.0	2.3
鈴鹿北部	73	43.8	43.8	56.2	35.6	47.9	69.9	19.2	45.2	—	1.4	—
鈴鹿中部	67	41.8	50.7	50.7	34.3	58.2	56.7	17.9	43.3	—	3.0	—
鈴鹿南部	85	37.6	49.4	40.0	21.2	45.9	48.2	22.4	47.1	2.4	5.9	2.4
亀山	77	42.9	55.8	48.1	27.3	53.2	58.4	26.0	42.9	3.9	1.3	2.6

(4) 認知症について

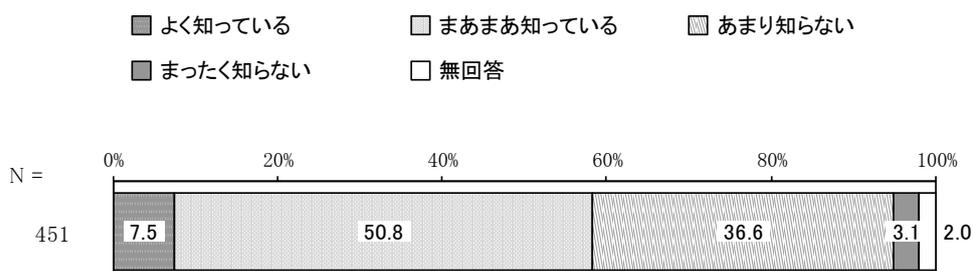
問 23 将来、ご自身やご家族が認知症になることに対して、不安がありますか。
(1つを選択)

「おおいに不安がある」と「やや不安がある」をあわせた“不安がある”の割合が86.5%、「あまり不安はない」と「不安はない」をあわせた“不安はない”の割合が11.3%となっています。



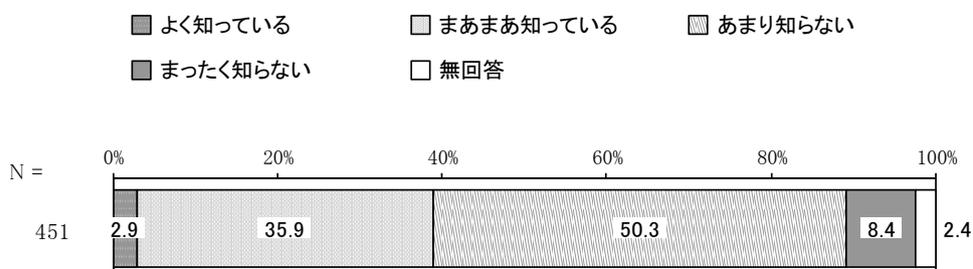
問 24 認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などが主な原因となって引き起こされます。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。
(1つを選択)

「よく知っている」と「まあまあ知っている」をあわせた“知っている”の割合が58.3%、「あまり知らない」と「まったく知らない」をあわせた“知らない”の割合が39.7%となっています。



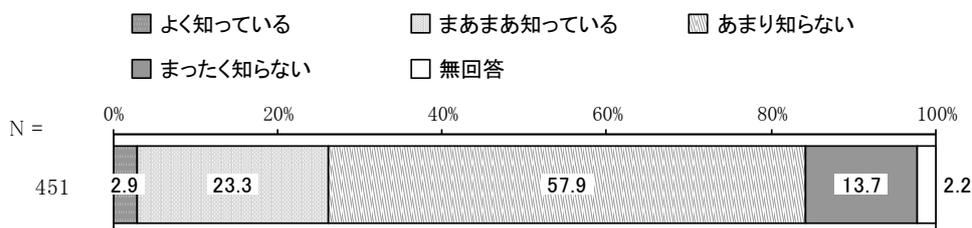
問 25 認知症には予防できる認知症があることをご存知ですか。(1つを選択)

「よく知っている」と「まあまあ知っている」をあわせた“知っている”の割合が38.8%、「あまり知らない」と「まったく知らない」をあわせた“知らない”の割合が58.7%となっています。



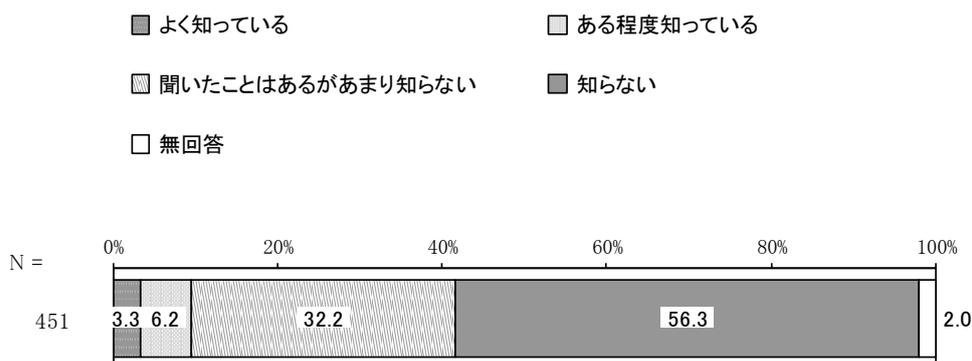
問 26 認知症には治る認知症があることをご存知ですか。(1つを選択)

「よく知っている」と「まあまあ知っている」をあわせた“知っている”の割合が26.2%、「あまり知らない」と「まったく知らない」をあわせた“知らない”の割合が71.6%となっています。



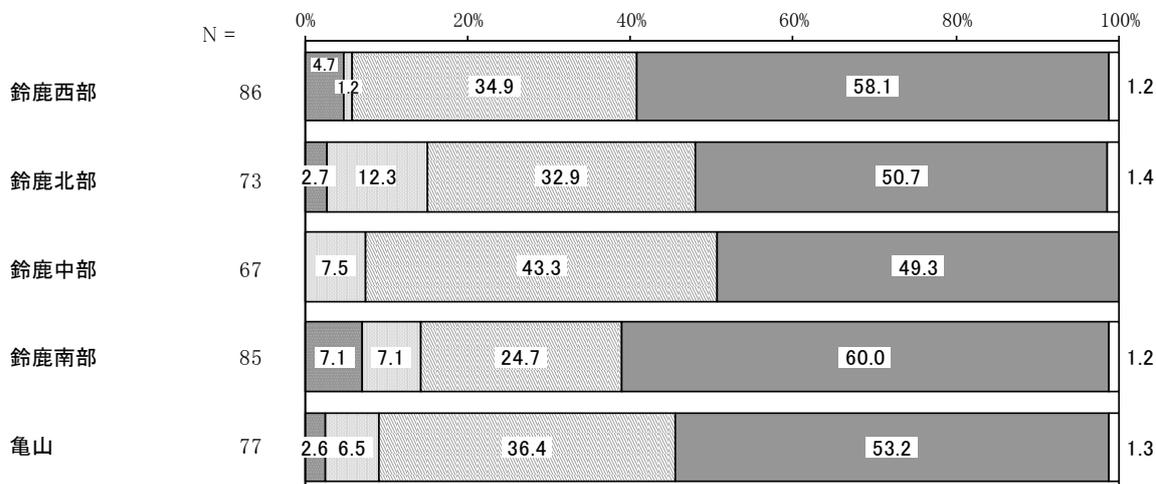
問 27 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存じですか。(1つを選択)

「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が9.5%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と「知らない」をあわせた“知らない”の割合が88.5%となっています。



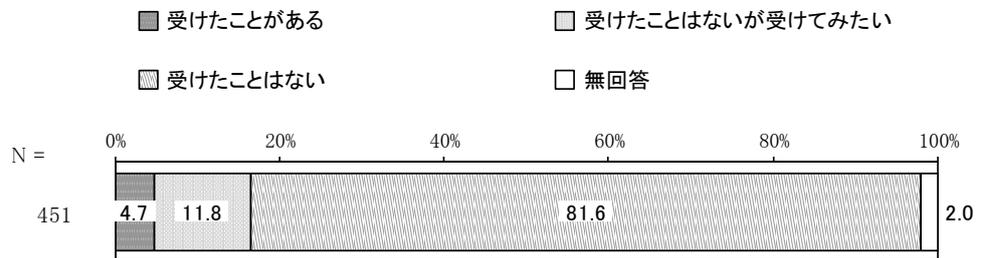
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿中部で“知らない”の割合が高くなっています。



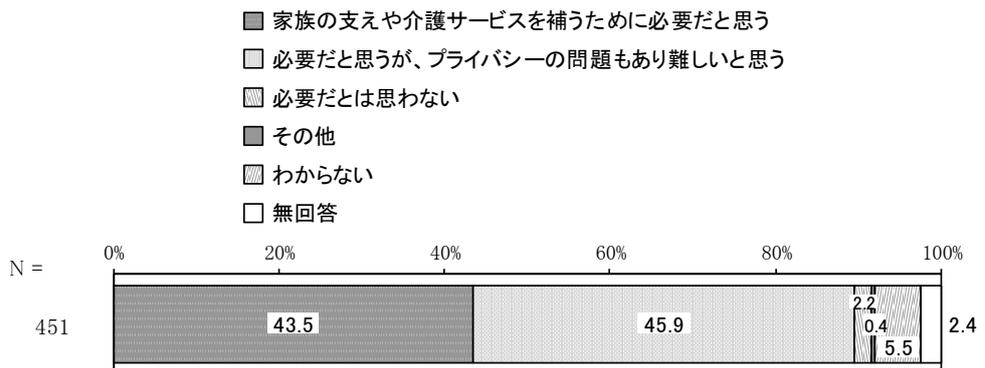
問 28 「認知症サポーター」の養成講座を受けたことがありますか。(1つを選択)

「受けたことはない」の割合が81.6%と最も高く、次いで「受けたことはないが受けてみたい」の割合が11.8%となっています。



問 29 認知症の高齢者が自宅で安心して生活するためには、介護保険サービスだけでなく地域住民の協力（見守りなど）は必要だと思いますか。(1つを選択)

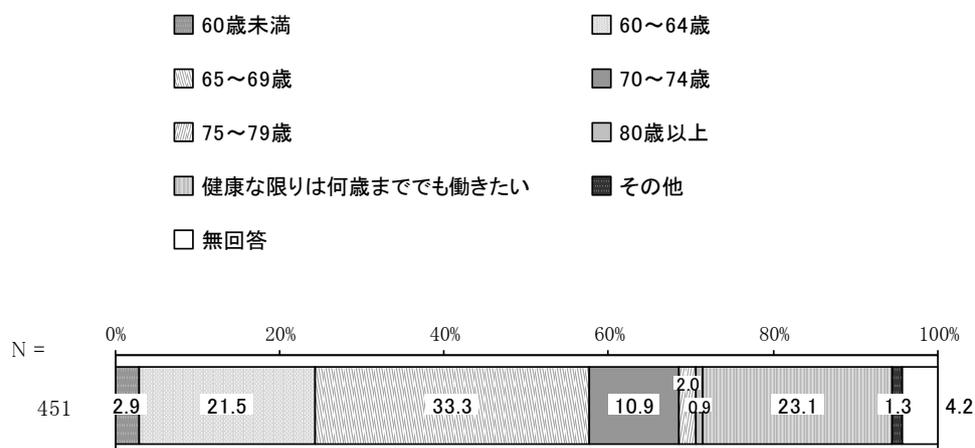
「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」の割合が45.9%と最も高く、次いで「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」の割合が43.5%となっています。



(5) 地域の助け合いについて

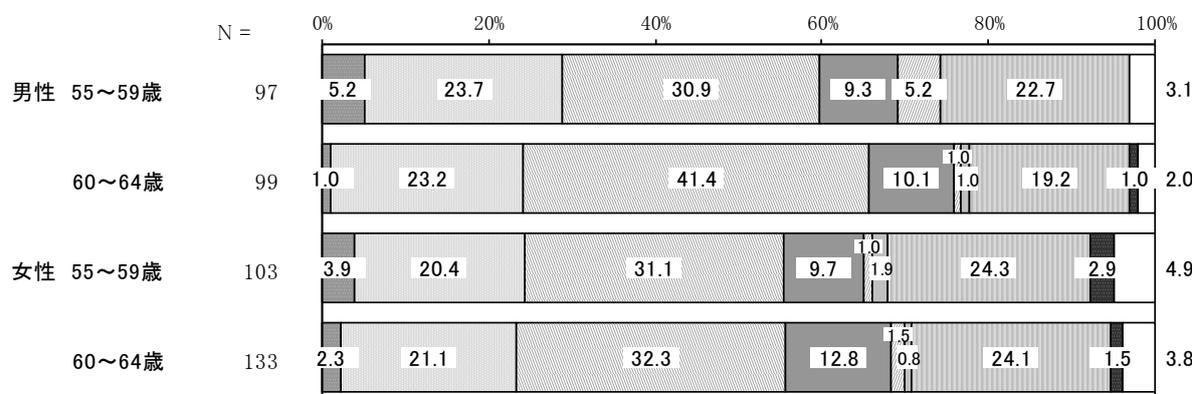
問 30 職業生活から引退（定年とは限りません）する年齢についてどのように考えていますか。（1つを選択）

「65～69 歳」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「健康な限りは何歳まででも働きたい」の割合が 23.1%、「60～64 歳」の割合が 21.5%となっています。



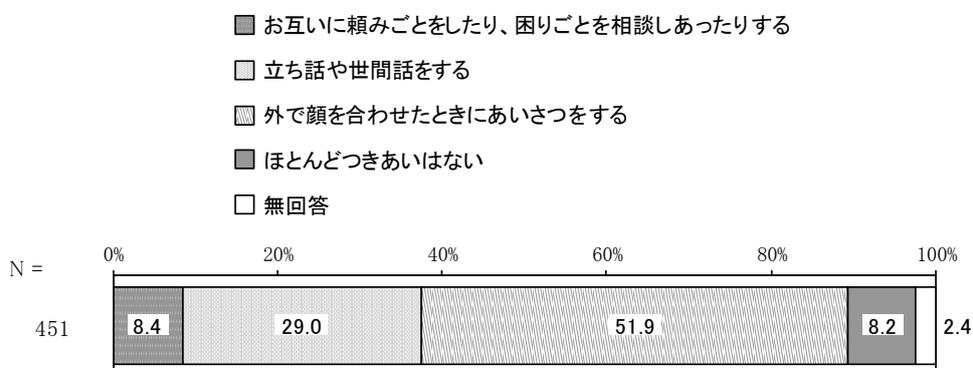
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の 60～64 歳で「65～69 歳」の割合が高くなっています。



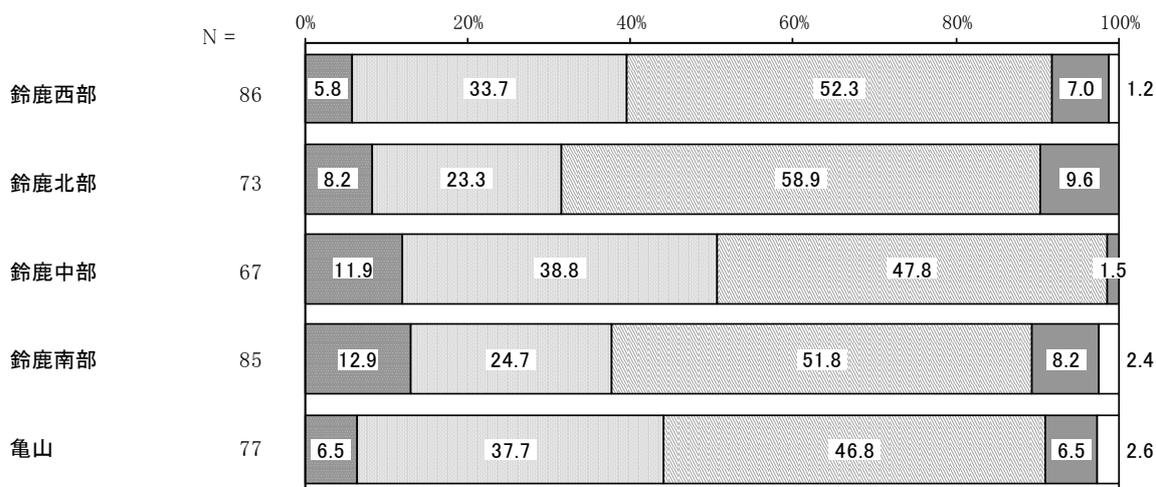
**問 31 あなたは、隣近所や地域の方との程度のおつきあいをしていますか。
(1つを選択)**

「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が51.9%と最も高く、次いで「立ち話や世間話をする」の割合が29.0%となっています。



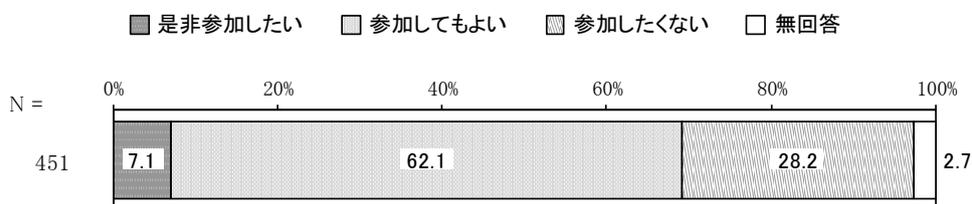
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が高くなっています。また、鈴鹿中部、亀山で「立ち話や世間話をする」の割合が高くなっています。



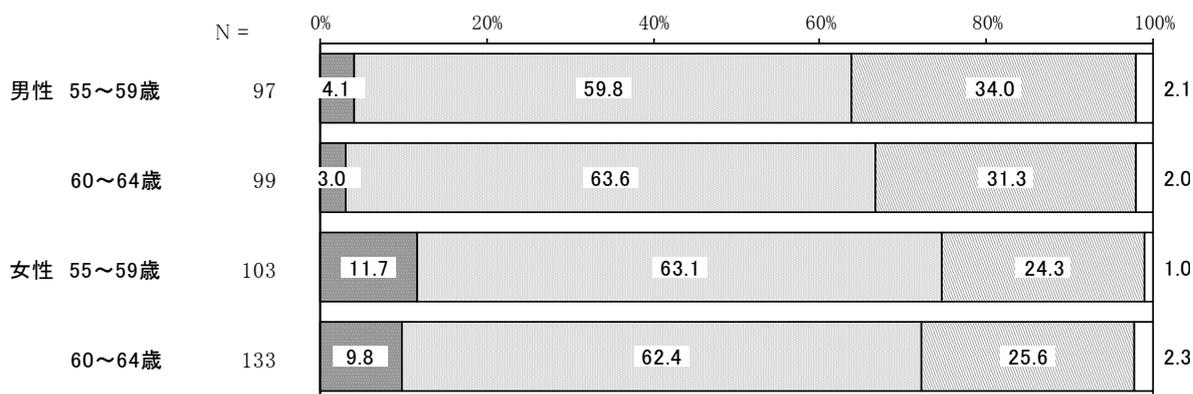
問 32 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択)

「参加してもよい」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「参加したくない」の割合が 28.2%となっています。



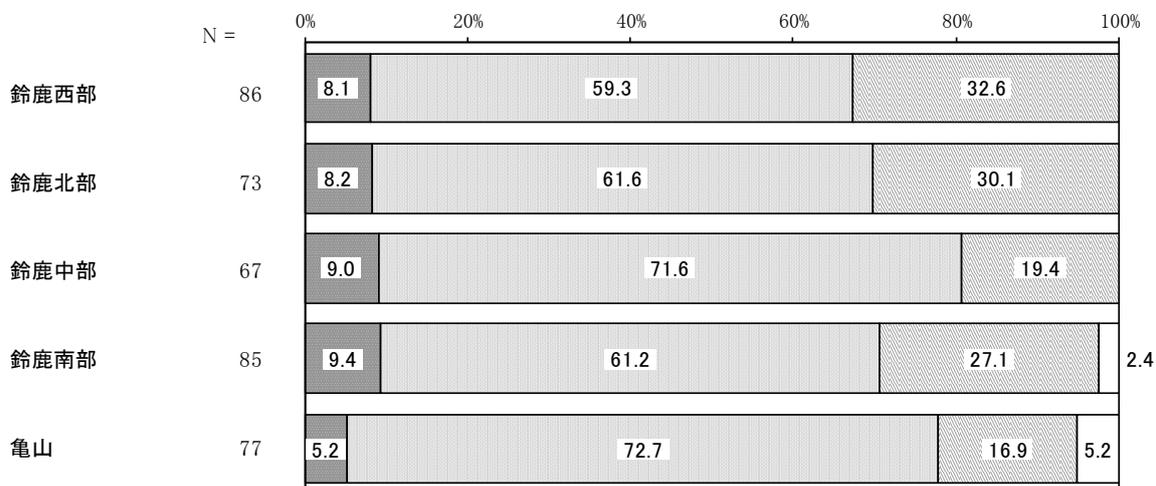
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、いずれの年代でも、男性に比べ、女性で「是非参加したい」の割合が高く、「参加したくない」の割合が低くなっています。



【日常生活圏域別】

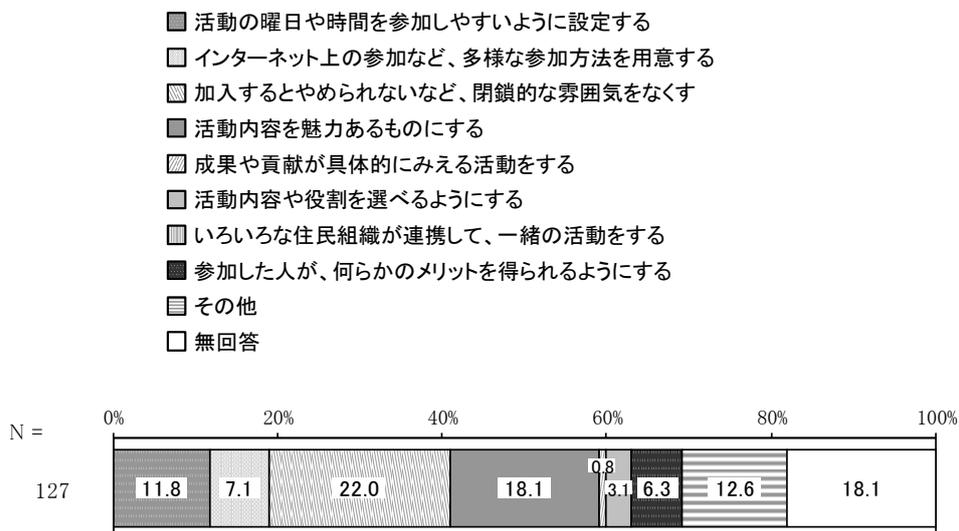
日常生活圏域別で見ると、鈴鹿中部、亀山で「参加してもよい」の割合が高くなっています。



問 32 で「3 参加したくない」と回答した方にお伺いします。

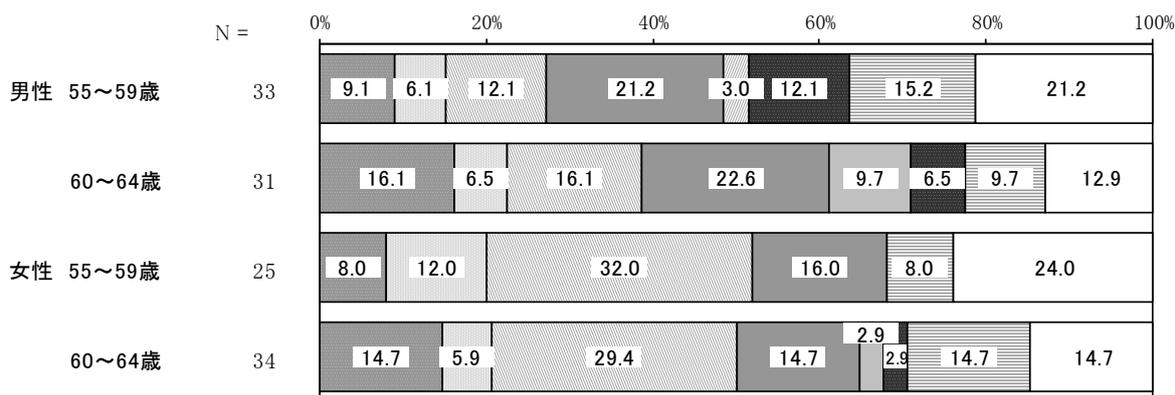
問 32-② どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)

「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が 22.0%と最も高く、次いで「活動内容を魅力あるものにする」の割合が 18.1%、「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」の割合が 11.8%となっています。



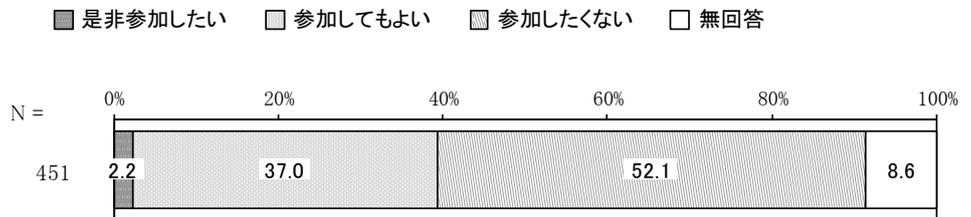
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、いずれの年代でも、男性に比べ、女性で「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気をつくす」の割合が高くなっています。また、男女とも、55～59 歳に比べ、60～64 歳で「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」の割合が高くなっています。



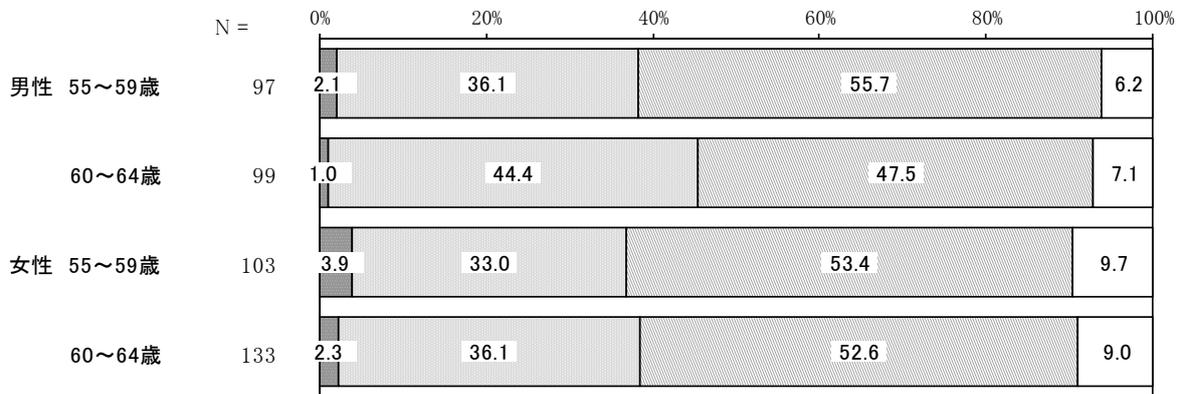
問 33 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つを選択）

「参加したくない」の割合が 52.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」の割合が 37.0%となっています。



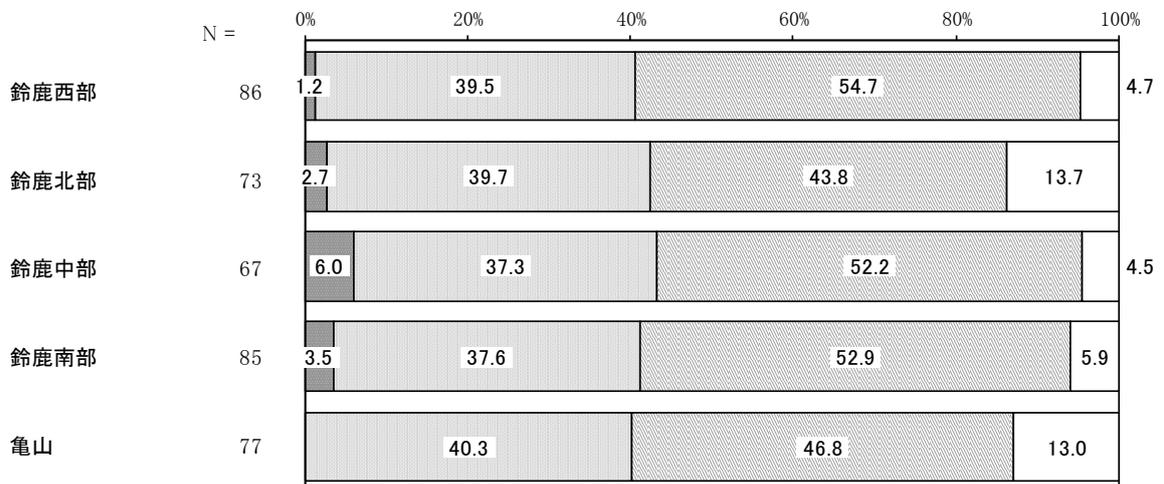
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の 60～64 歳で「参加してもよい」の割合が高くなっています。



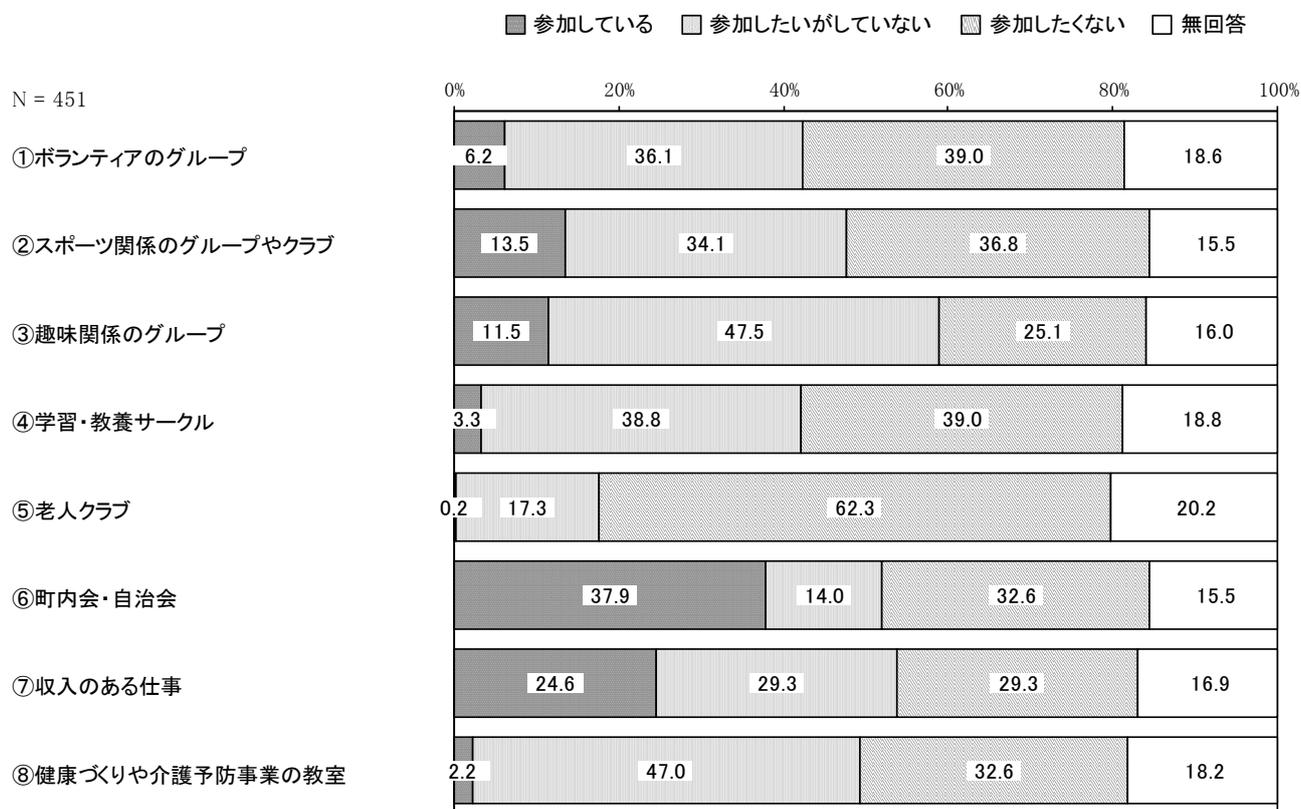
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿南部、鈴鹿中部で「参加したくない」の割合が高くなっています。



問 34 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。また参加したいですか。※①～⑧それぞれに1つを選択

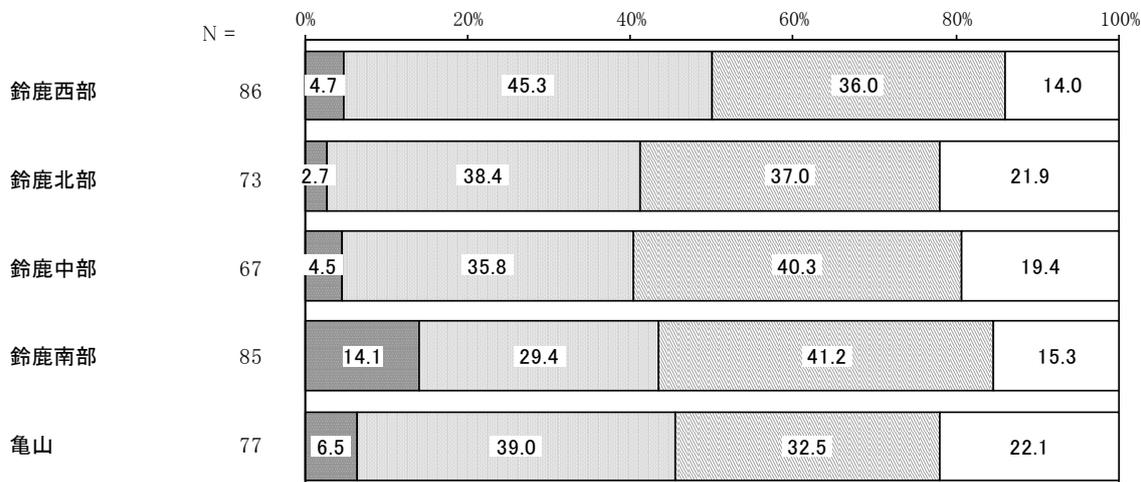
⑥町内会・自治会で「参加している」の割合が高く、約4割となっています。一方、⑤老人クラブで「参加したくない」の割合が高く、約6割となっています。



①ボランティアのグループ

【日常生活圏域別】

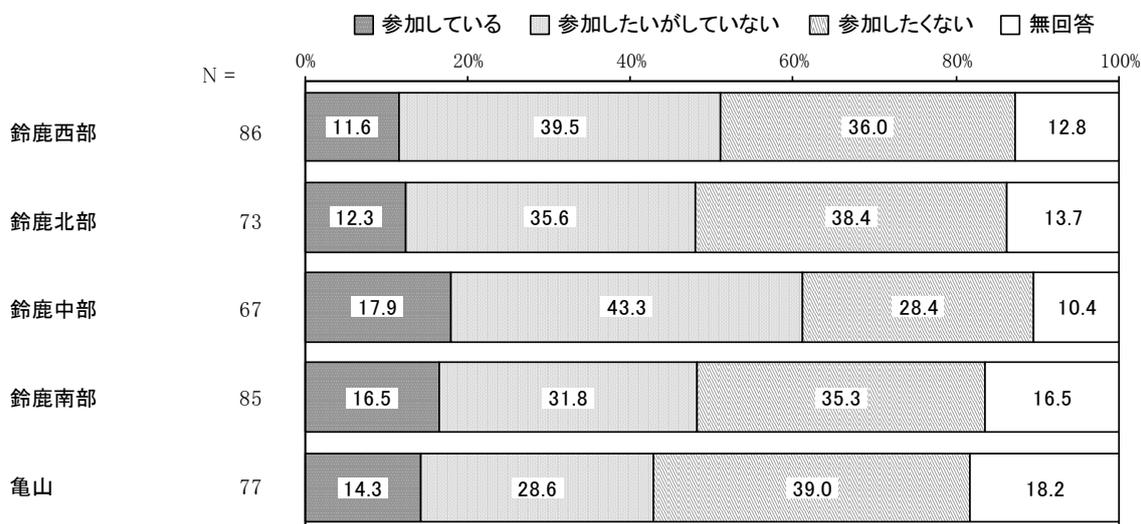
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「参加したいがしていない」の割合が高くなっています。また、鈴鹿南部で「参加している」の割合が高くなっています。



②スポーツ関係のグループやクラブ

【日常生活圏域別】

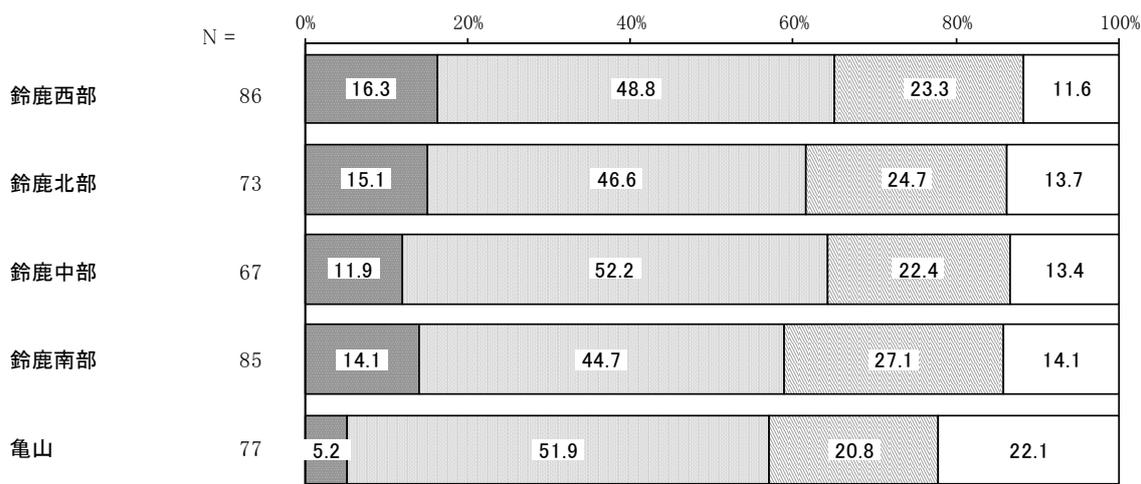
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部で「参加したいがしていない」の割合が高くなっています。



③趣味関係のグループ

【日常生活圏域別】

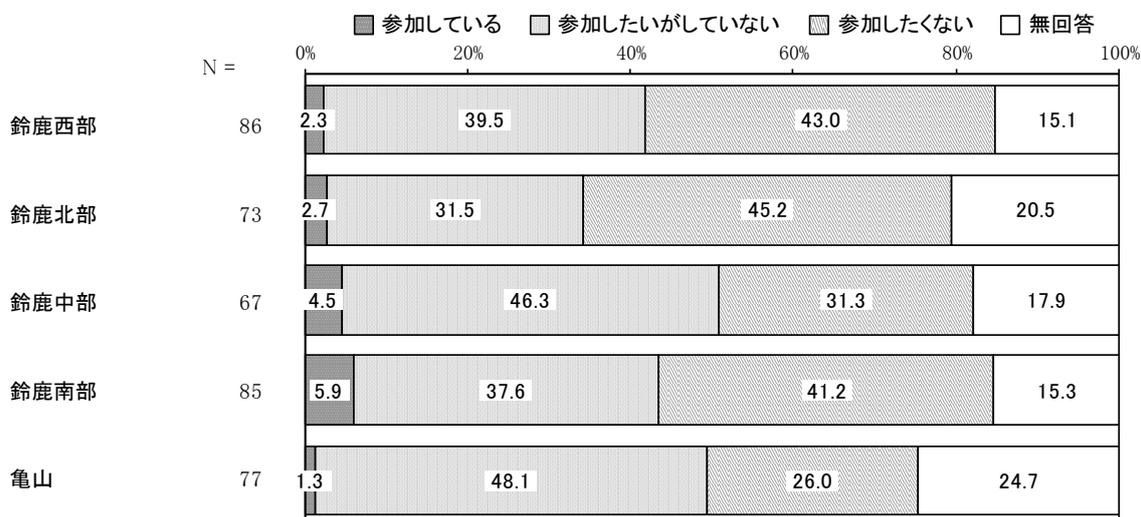
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部、亀山で「参加したいがしていない」の割合が高くなっています。



④学習・教養サークル

【日常生活圏域別】

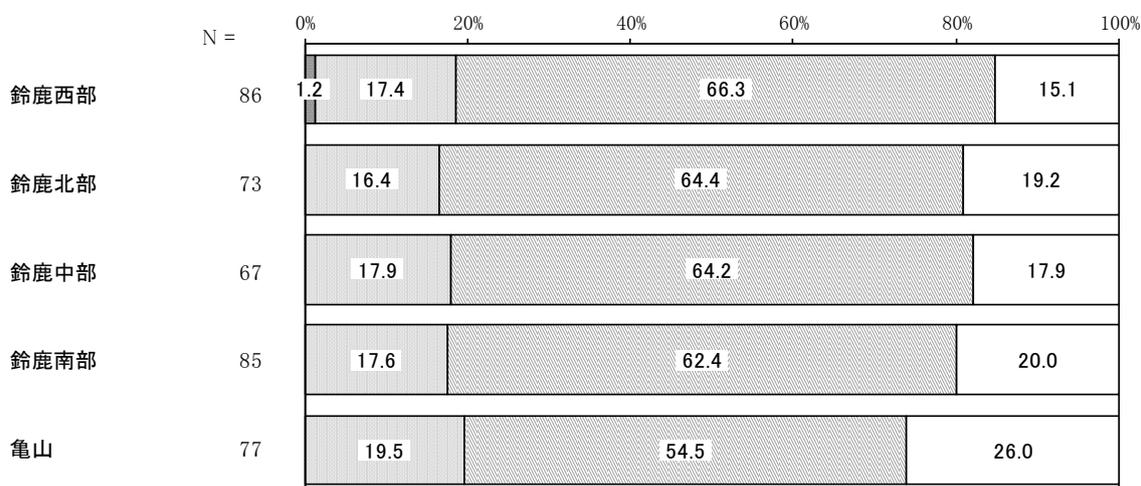
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿中部、亀山で「参加したいがしていない」の割合が高くなっています。また、亀山で「参加したくない」の割合が低くなっています。



⑤老人クラブ

【日常生活圏域別】

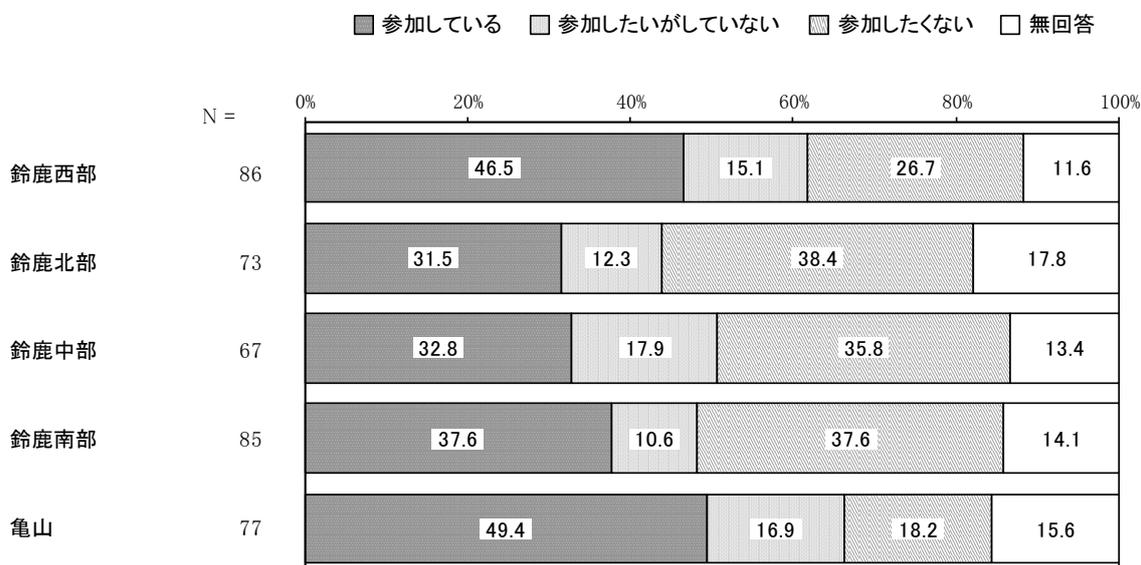
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、亀山で「参加したくない」の割合が低くなっています。



⑥町内会・自治会

【日常生活圏域別】

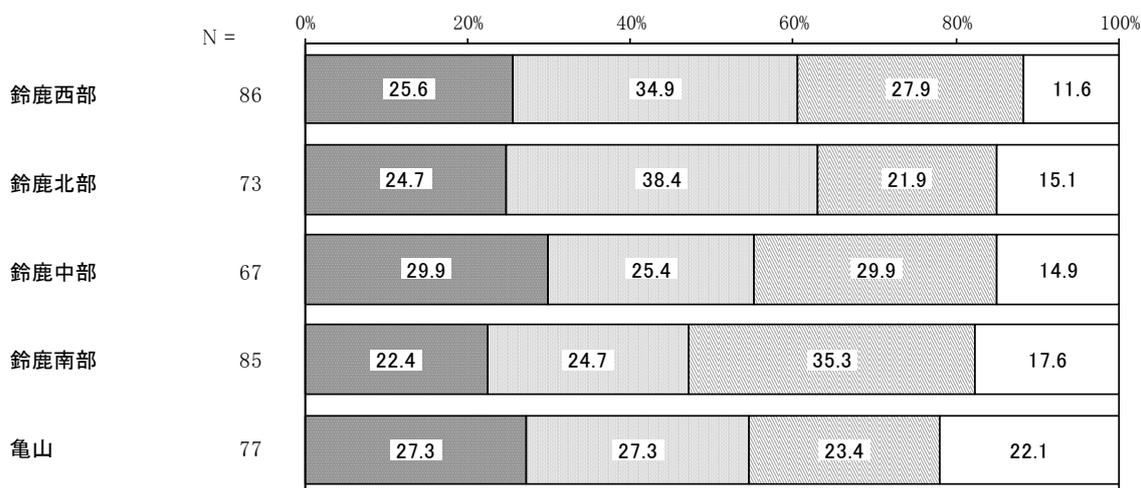
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、亀山で「参加している」の割合が高くなっています。また、亀山で「参加したくない」の割合が低くなっています。



⑦収入のある仕事

【日常生活圏域別】

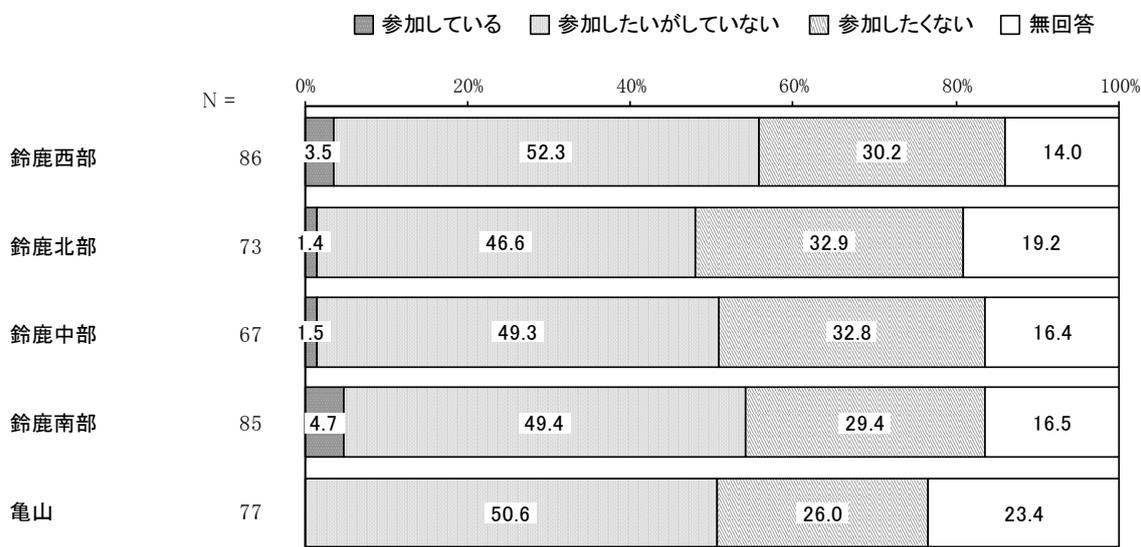
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「参加したいがしていない」の割合が高くなっています。また、鈴鹿南部で「参加したくない」の割合が高くなっています。



⑧健康づくりや介護予防事業の教室

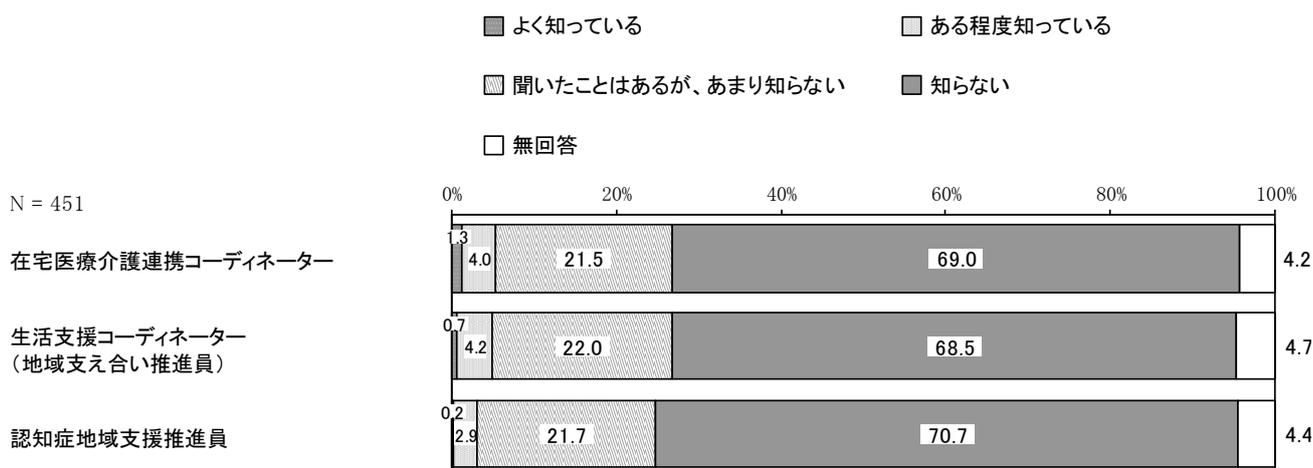
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「参加したいがしていない」の割合が高くなっています。



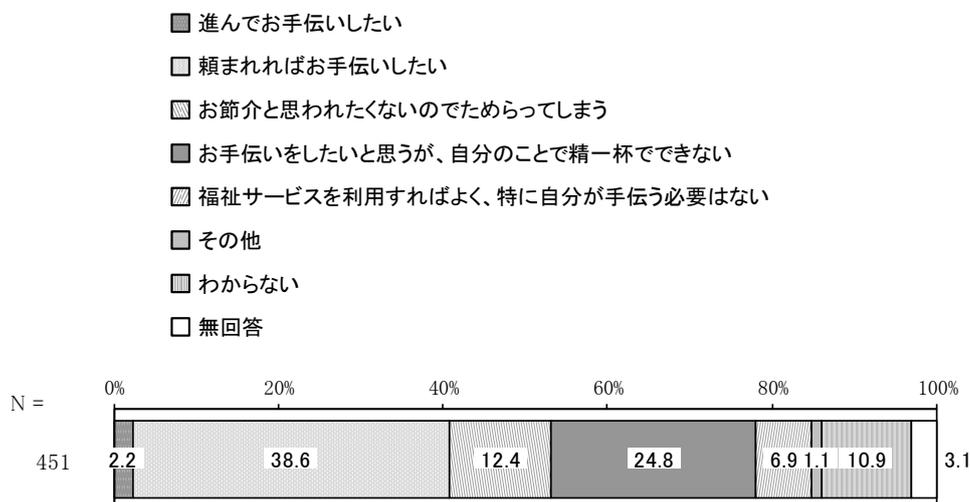
問 35 平成 27 年度の介護保険制度の改正により、高齢者が在宅での生活を継続できるよう、地域に下記のような役割を持つ専門員の設置を進めておりますが、ご存知ですか。（それぞれ 1 つを選択）

いずれの項目でも「知らない」の割合が約 7 割と高くなっています。



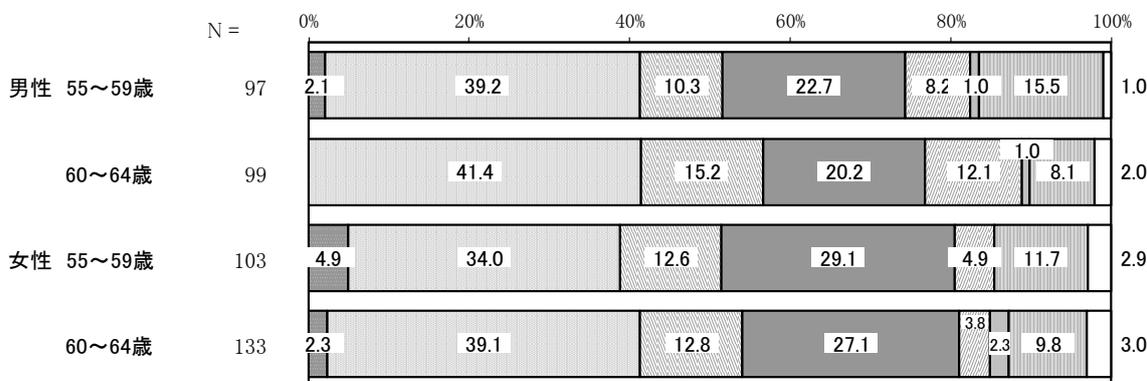
問 36 あなたのご近所で、高齢者のみの世帯など、手助けが必要な世帯があったら、どんな対応をしますか。(1つを選択)

「頼まれればお手伝いしたい」の割合が 38.6%と最も高く、次いで「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が 24.8%、「お節介と思われたくないのでためらってしまう」の割合が 12.4%となっています。



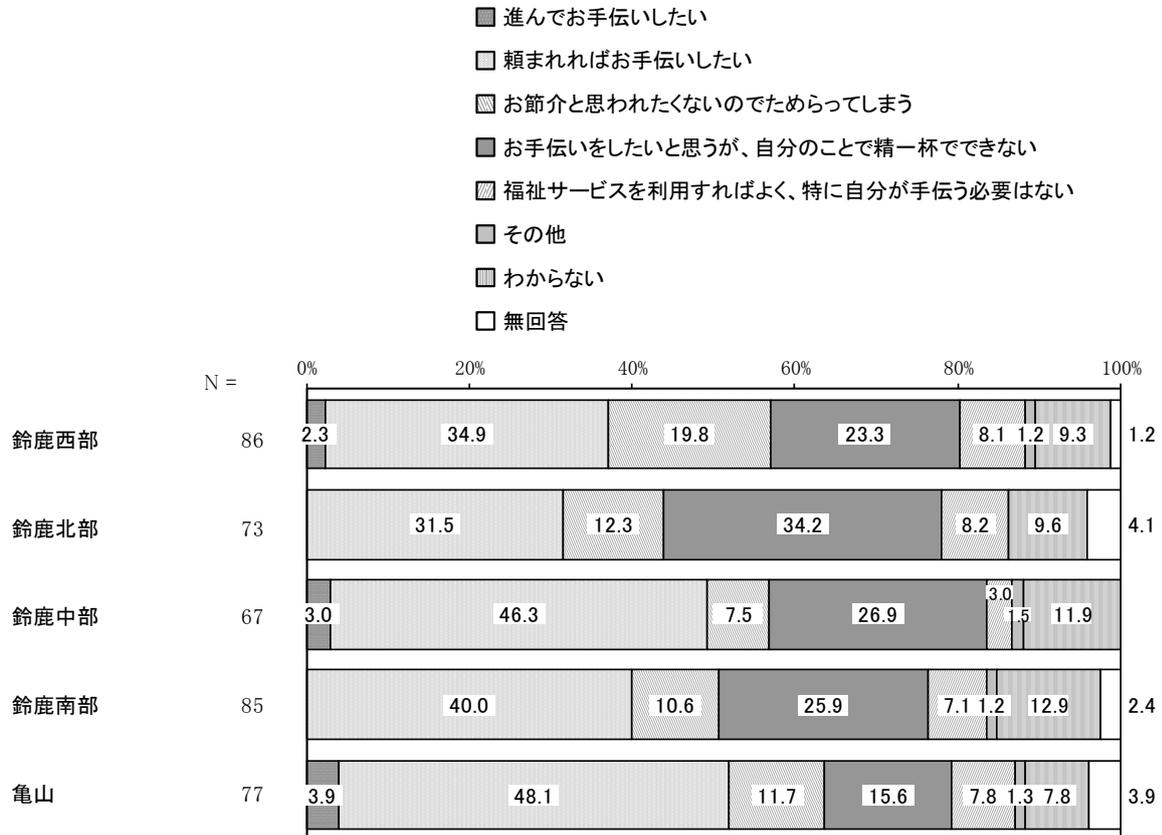
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、いずれの年代でも、男性に比べ、女性で「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

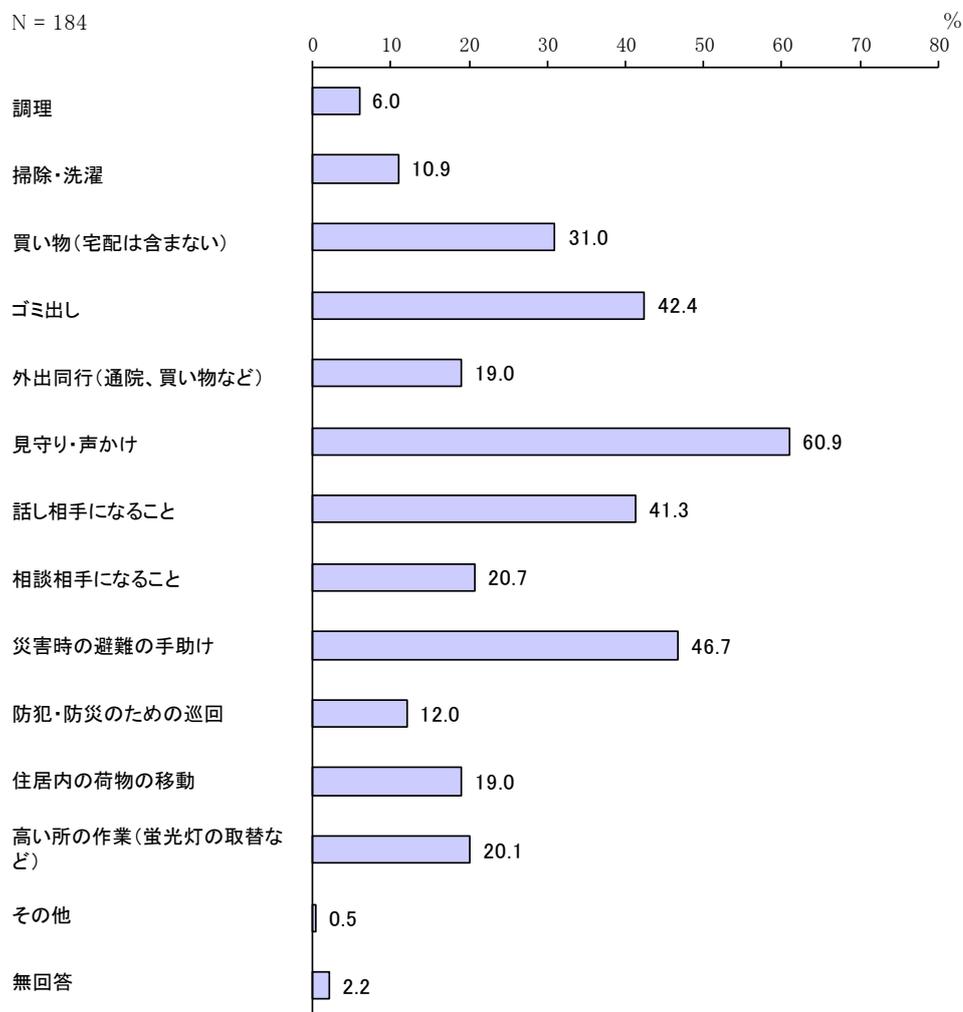
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部、亀山で「頼まれればお手伝いしたい」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部で「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」の割合が高くなっています。



問 36 で「1 進んでお手伝いしたい」または「2 頼まれればお手伝いしたい」と回答した方にお伺いします。

問 36-② 具体的にどのような手助けができますか。(複数選択可)

「見守り・声かけ」の割合が 60.9%と最も高く、次いで「災害時の避難の手助け」の割合が 46.7%、「ゴミ出し」の割合が 42.4%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、いずれの年代でも、男性に比べ、女性で「話し相手になること」の割合が高くなっています。また、男性の60～64歳で「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
男性 55～59歳	40	2.5	7.5	32.5	42.5	15.0	45.0	42.5	25.0	45.0	20.0	27.5	25.0	—	2.5
60～64歳	41	2.4	4.9	22.0	43.9	14.6	56.1	19.5	29.3	56.1	12.2	22.0	36.6	—	—
女性 55～59歳	40	7.5	15.0	30.0	35.0	17.5	65.0	50.0	17.5	60.0	7.5	15.0	15.0	—	2.5
60～64歳	55	9.1	14.5	38.2	47.3	27.3	70.9	49.1	16.4	34.5	9.1	14.5	10.9	1.8	3.6

【日常生活圏域別】

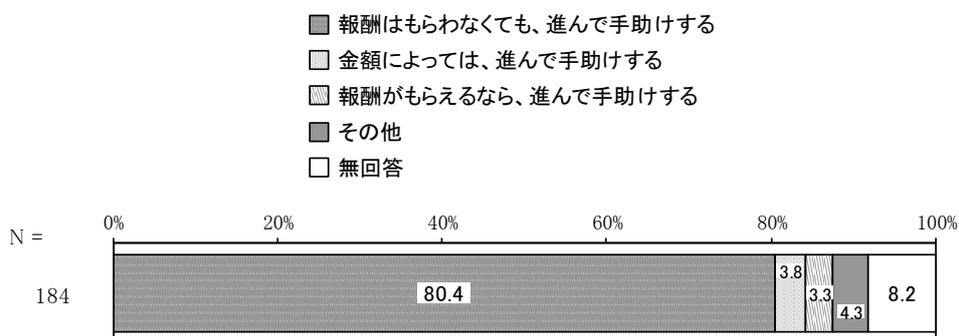
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿中部、亀山で「見守り・声かけ」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部で「ゴミ出し」「話し相手になること」「高い所の作業（蛍光灯の取替など）」の割合が高く、鈴鹿南部で「外出同行（通院、買い物など）」「災害時の避難の手助け」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
鈴鹿西部	32	—	3.1	25.0	34.4	6.3	62.5	25.0	12.5	46.9	9.4	21.9	25.0	—	—
鈴鹿北部	23	8.7	17.4	39.1	52.2	17.4	56.5	60.9	34.8	39.1	13.0	17.4	39.1	—	—
鈴鹿中部	33	6.1	15.2	27.3	39.4	18.2	63.6	45.5	30.3	45.5	15.2	12.1	12.1	—	3.0
鈴鹿南部	34	5.9	8.8	32.4	47.1	32.4	55.9	44.1	20.6	55.9	14.7	23.5	14.7	—	—
亀山	40	10.0	15.0	35.0	37.5	20.0	70.0	42.5	15.0	45.0	10.0	17.5	20.0	2.5	2.5

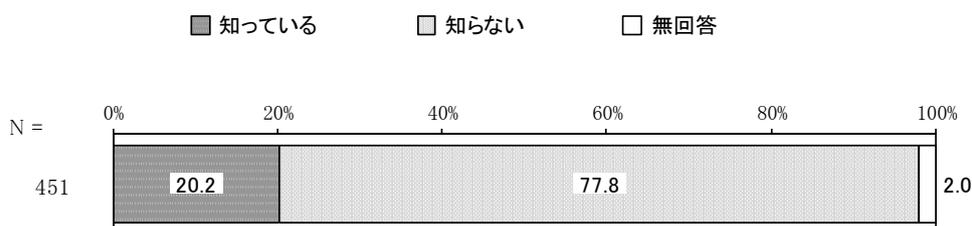
問 36-③ 上のような（問 36-②）の手助けに対し、報酬をもらうことをどう思いますか。
（1つを選択）

「報酬はもらわなくても、進んで手助けする」の割合が 80.4%と最も高くなっています。



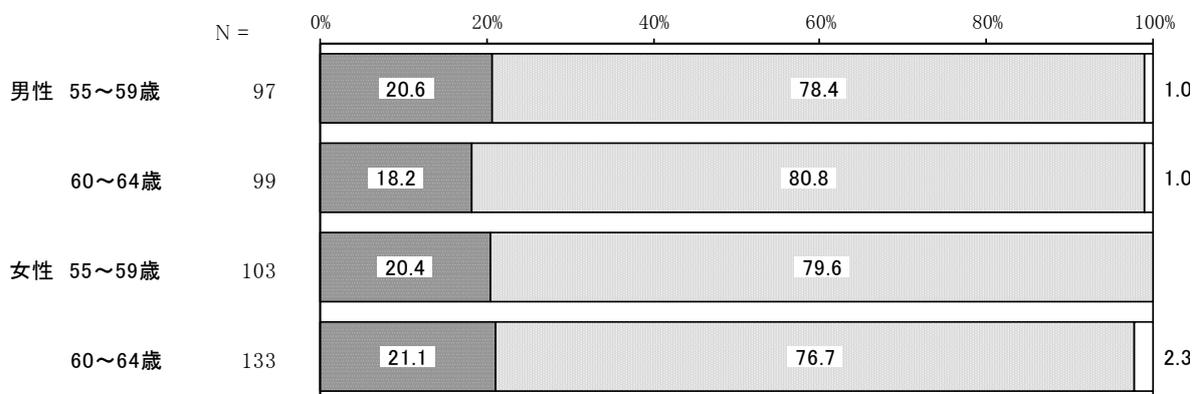
問 37 災害時要援護者支援活動とは、災害時の避難や避難所生活で、さまざまな困難が予想される高齢者や障がい者を登録し、その人の情報を消防署・消防団、民生委員・児童委員、自治会などの関係団体が持つことによって、住民同士の助け合いや支援活動を行いやすくする活動です。
あなたは、このような活動を知っていますか。

「知っている」の割合が 20.2%、「知らない」の割合が 77.8%となっています。



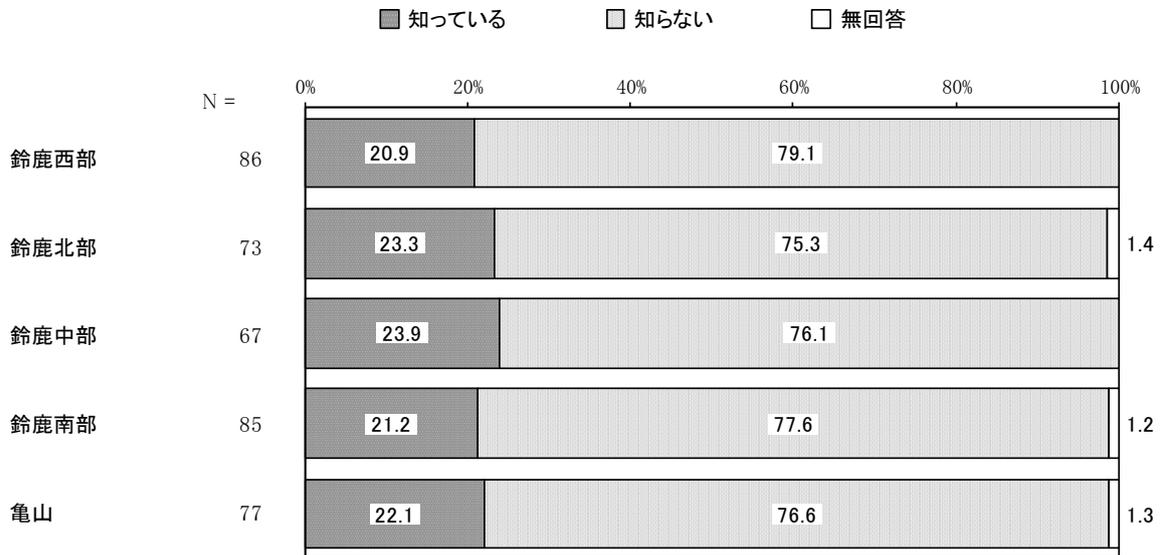
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、大きな差異はみられません。



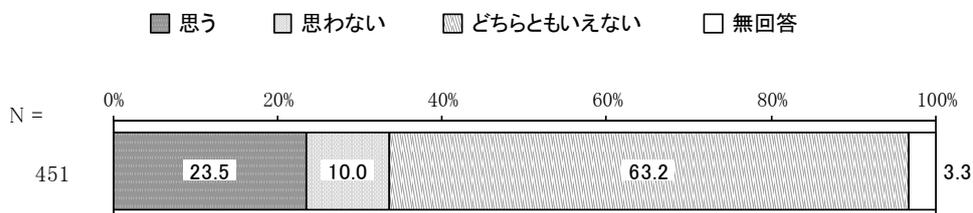
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。



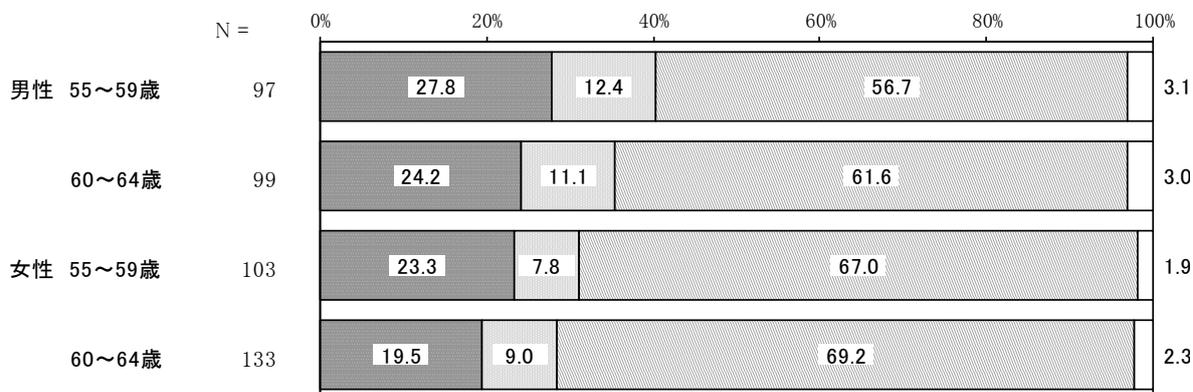
問 38 あなたは、災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」を支援する支援者になってもよいと思いますか。（1つを選択）

「どちらともいえない」の割合が63.2%と最も高く、次いで「思う」の割合が23.5%、「思わない」の割合が10.0%となっています。



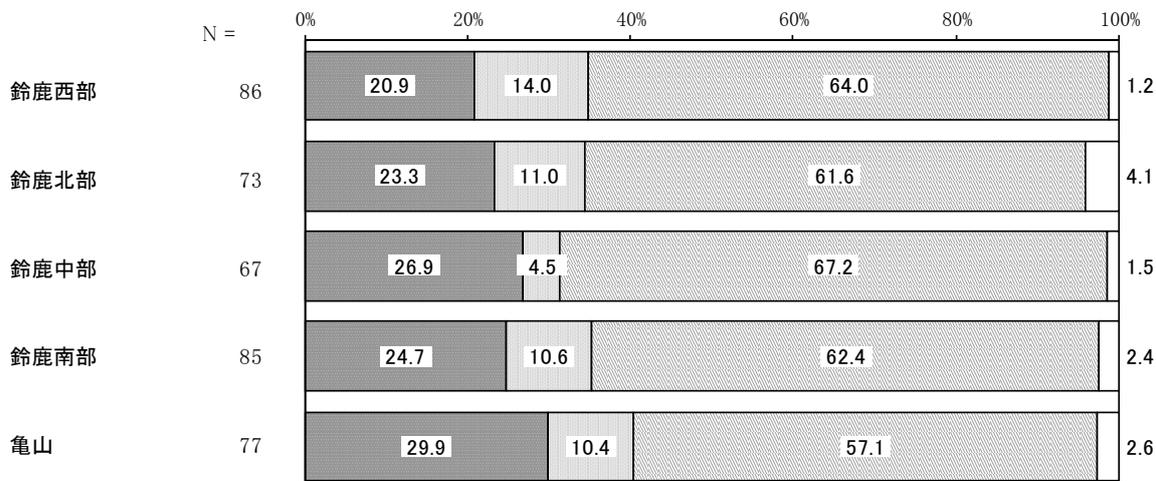
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、いずれの年代でも、女性に比べ、男性で「思わない」の割合が高くなっています。



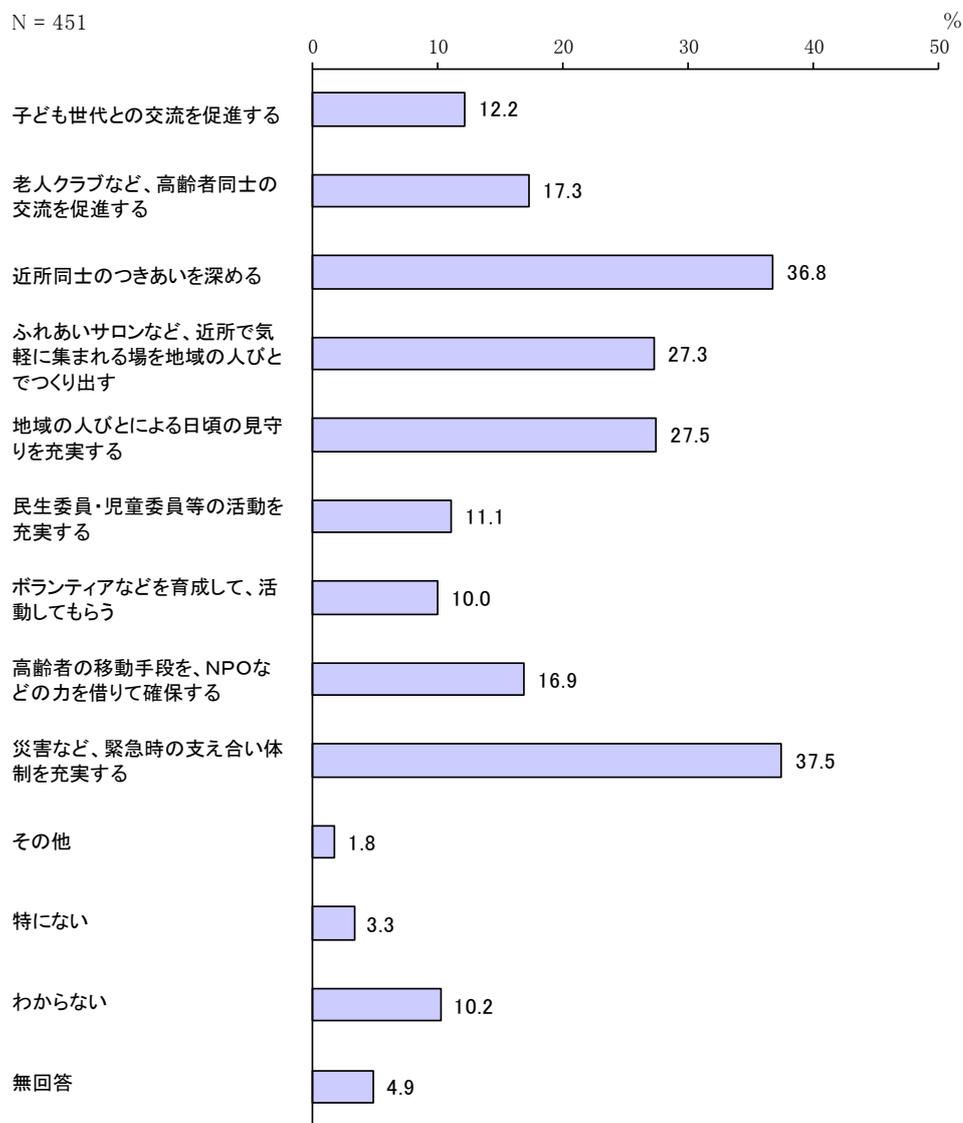
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、他に比べ、亀山で「思う」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部で「思わない」の割合が高くなっています。



問 39 あなたは今、住んでいる地域（地区、自治会など）が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。（3つまで選択）

「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「近所同士のつきあいを深める」の割合が 36.8%、「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」の割合が 27.5%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、55～59歳に比べ、60～64歳で「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にない	わからない	無回答
55～59歳	214	13.1	16.8	37.9	25.7	24.3	11.7	11.2	15.0	39.7	2.8	5.1	10.7	3.7
60～64歳	232	11.6	18.1	36.6	29.3	31.0	10.8	9.1	19.0	36.2	0.9	1.7	9.5	4.3

【日常生活圏域別】

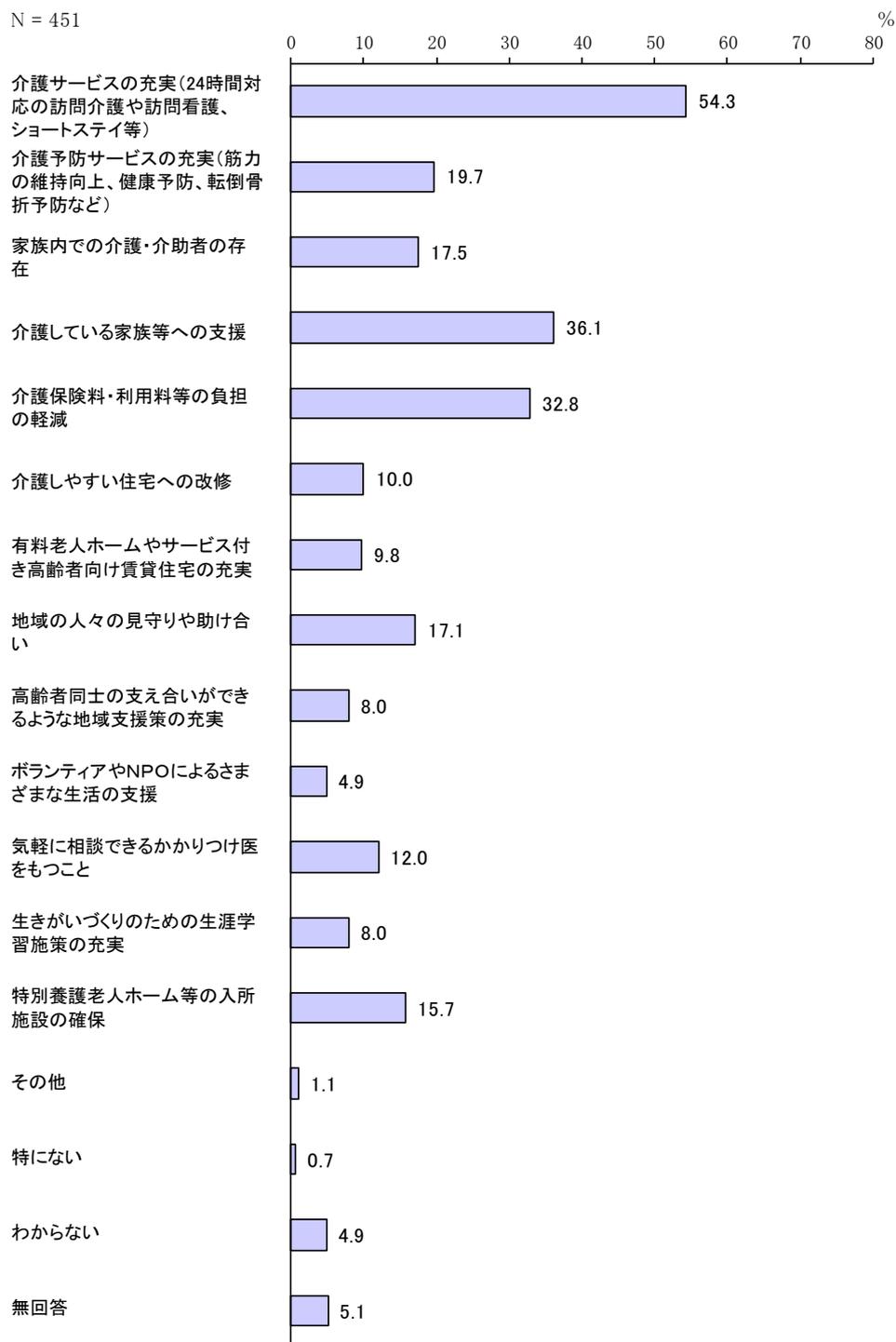
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部、亀山で「近所同士のつきあいを深める」の割合が、鈴鹿北部、亀山で「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にない	わからない	無回答
鈴鹿西部	86	11.6	15.1	38.4	30.2	24.4	11.6	8.1	12.8	30.2	1.2	3.5	17.4	3.5
鈴鹿北部	73	9.6	11.0	28.8	32.9	32.9	11.0	15.1	20.5	42.5	2.7	5.5	4.1	5.5
鈴鹿中部	67	17.9	26.9	43.3	28.4	25.4	14.9	6.0	17.9	34.3	—	—	13.4	4.5
鈴鹿南部	85	16.5	16.5	37.6	24.7	28.2	8.2	12.9	15.3	37.6	1.2	5.9	9.4	3.5
亀山	77	11.7	20.8	41.6	31.2	32.5	9.1	6.5	18.2	42.9	3.9	1.3	5.2	2.6

問 40 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、あなたは、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択）

「介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）」の割合が54.3%と最も高く、次いで「介護している家族等への支援」の割合が36.1%、「介護保険料・利用料等の負担の軽減」の割合が32.8%となっています。

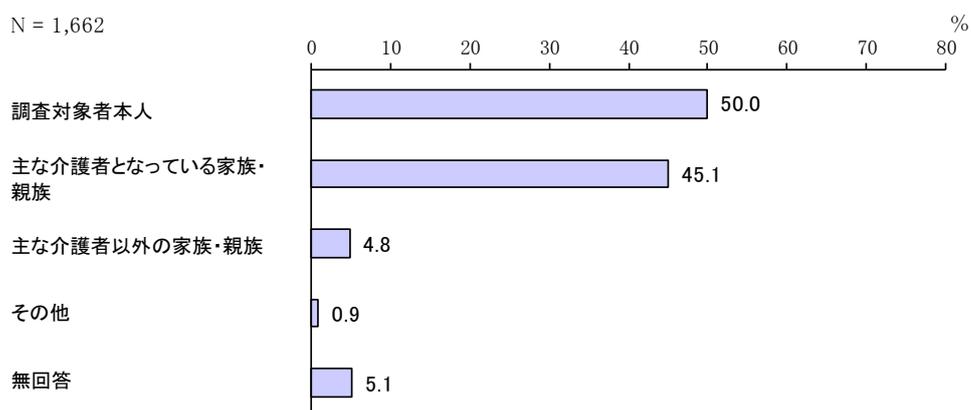


4 在宅介護認定者

(1) 要介護認定者本人について

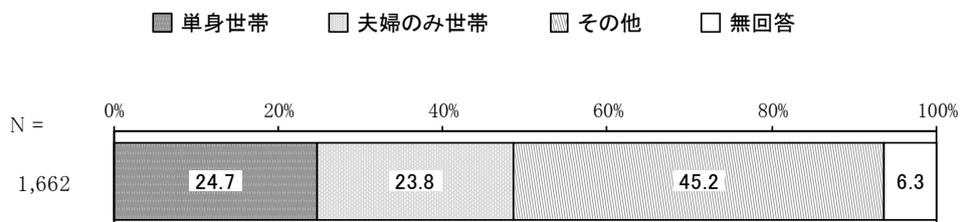
問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(複数回答可)

「調査対象者本人」の割合が50.0%と最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」の割合が45.1%となっています。



問2 世帯類型について、ご回答ください。(1つを選択)

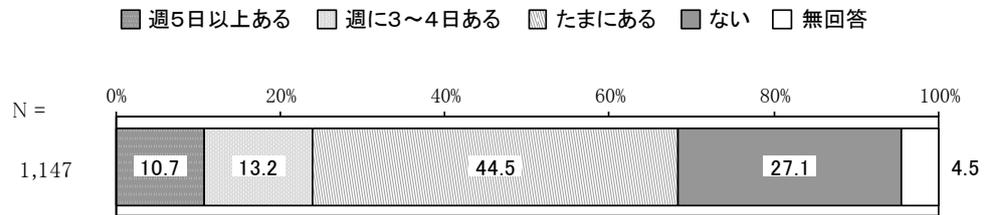
「単身世帯」の割合が24.7%、「夫婦のみ世帯」の割合が23.8%となっています。



問2で「2 夫婦のみ世帯」または「3 その他」と回答した方にお伺いします。

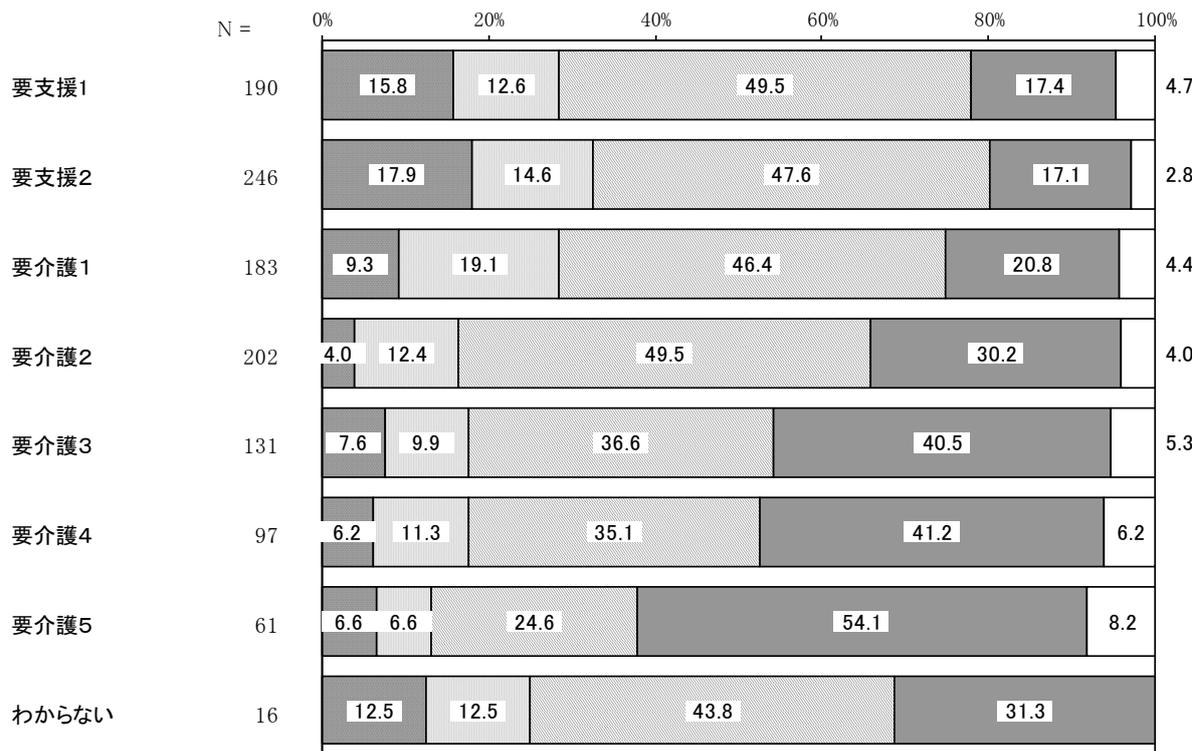
問2-② ご本人は、日中、一人になることがありますか。(1つを選択)

「たまにある」の割合が44.5%と最も高く、次いで「ない」の割合が27.1%、「週に3～4日ある」の割合が13.2%となっています。



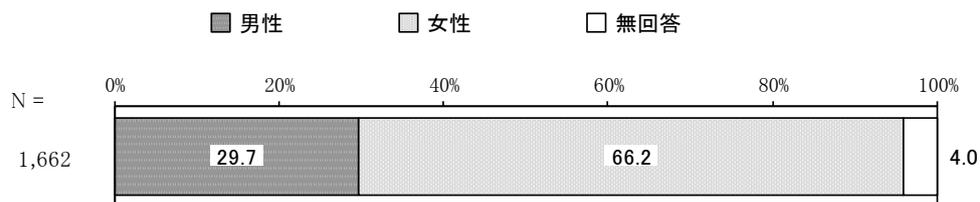
【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護5で「ない」の割合が高くなっています。また、要支援1、要支援2で「週5日以上ある」の割合が高くなっています。



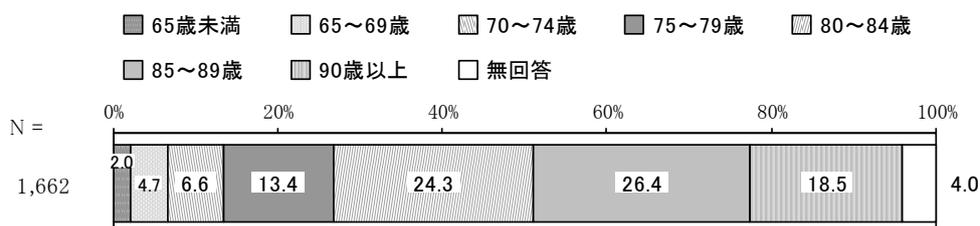
問3 ご本人の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

「男性」の割合が29.7%、「女性」の割合が66.2%となっています。



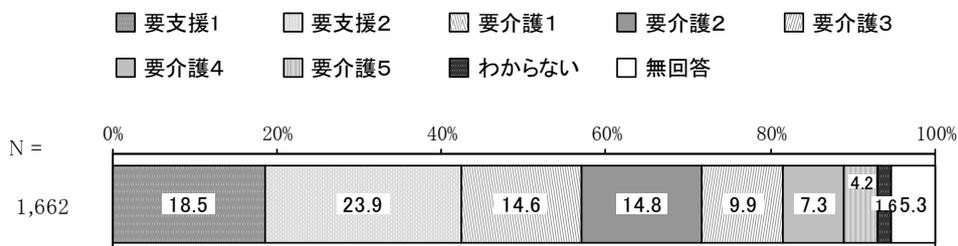
問4 ご本人の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

「85～89歳」の割合が26.4%と最も高く、次いで「80～84歳」の割合が24.3%、「90歳以上」の割合が18.5%となっています。



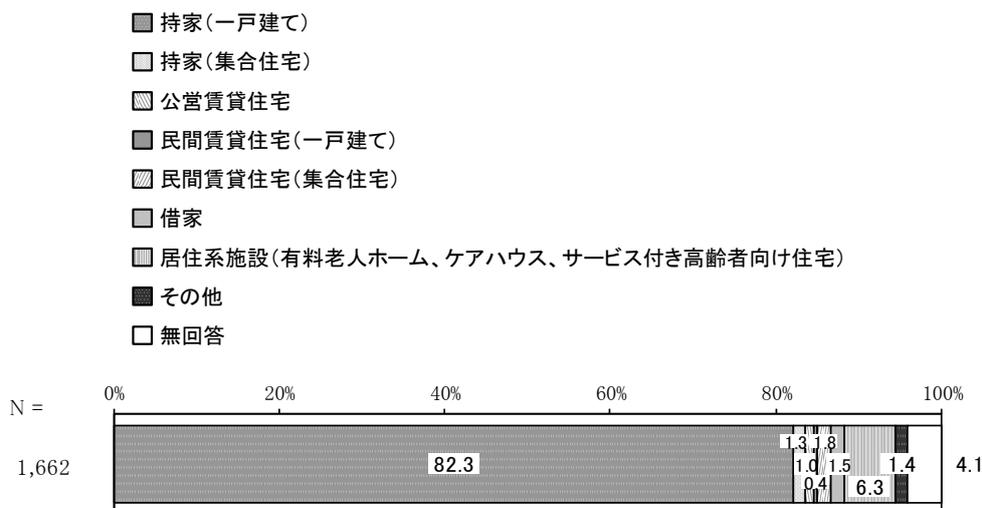
問5 ご本人の要介護度について、ご回答ください。(1つを選択)

「要支援2」の割合が23.9%と最も高く、次いで「要支援1」の割合が18.5%、「要介護2」の割合が14.8%となっています。



問6 お住まいは、次のうちどれですか。(1つを選択)

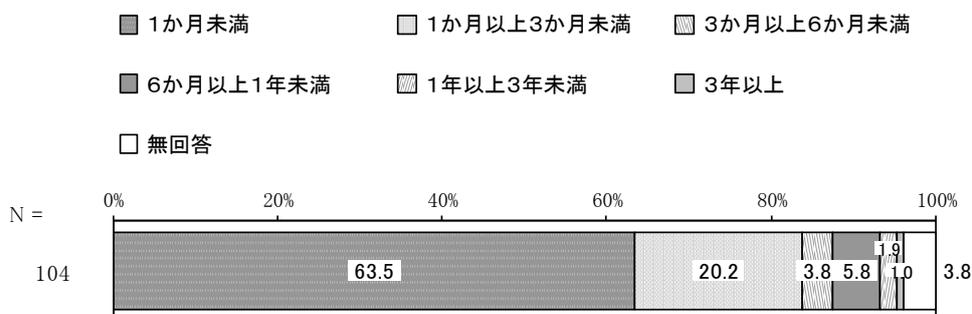
「持家（一戸建て）」の割合が82.3%と最も高くなっています。



問6で「7 居住系施設」と回答した方にお伺いします。

問6-② 施設に入居するまでの待機期間はどのくらいでしたか。(1つを選択)

「1か月未満」の割合が63.5%と最も高く、次いで「1か月以上3か月未満」の割合が20.2%となっています。



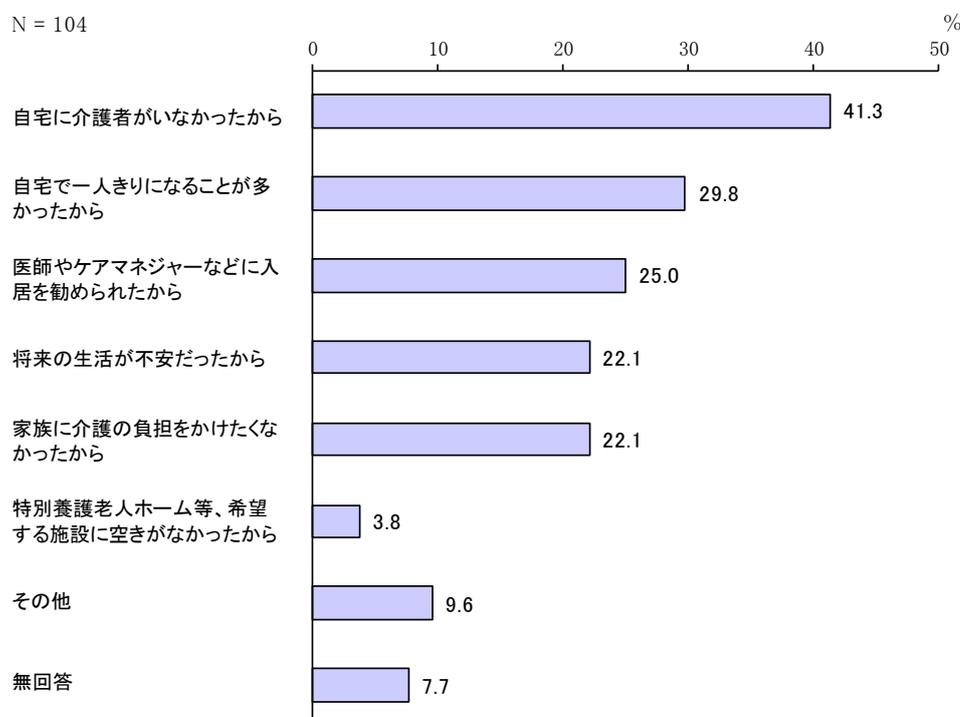
3年以上の人の具体的な待機期間

「5年以上」が1件となっています。

問6で「7 居住系施設」と回答した方にお伺いします。

問6-③ 現在の施設に入居した理由は何ですか（複数選択可）

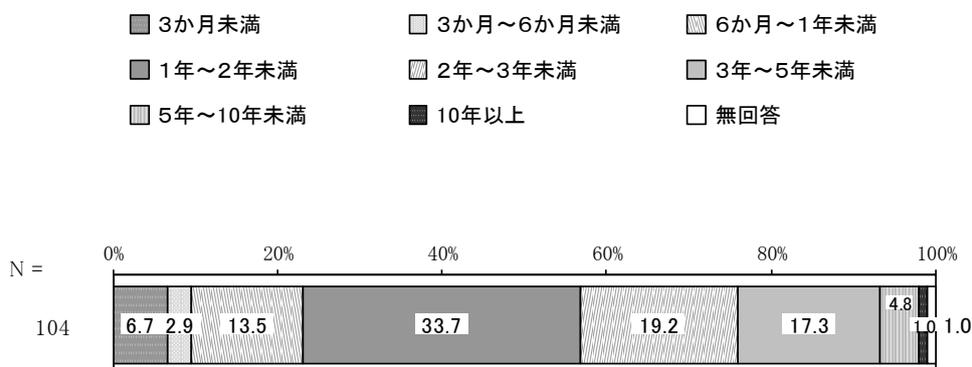
「自宅に介護者がいなかったから」の割合が41.3%と最も高く、次いで「自宅で一人きりになることが多かったから」の割合が29.8%、「医師やケアマネジャーなどに入居を勧められたから」の割合が25.0%となっています。



問6で「7 居住系施設」と回答した方にお伺いします。

問6-④ 現在の施設に入居してからどれくらいたちますか。（1つを選択）

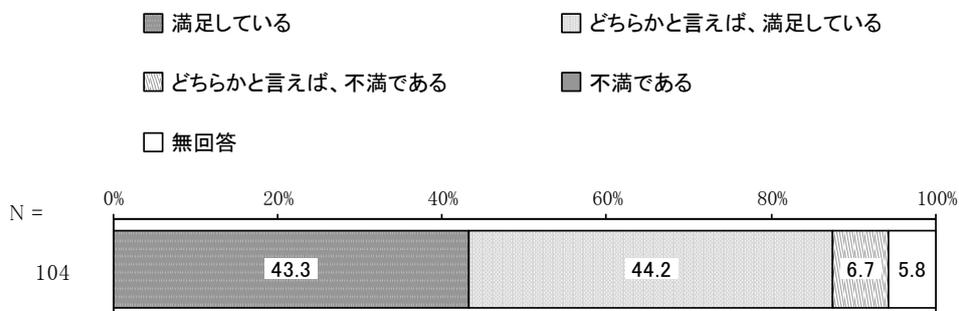
「1年～2年未満」の割合が33.7%と最も高く、次いで「2年～3年未満」の割合が19.2%、「3年～5年未満」の割合が17.3%となっています。



問6で「7 居住系施設」と回答した方にお伺いします。

問6-⑤ ご本人は、現在の施設等のサービスに満足していますか。(1つを選択)

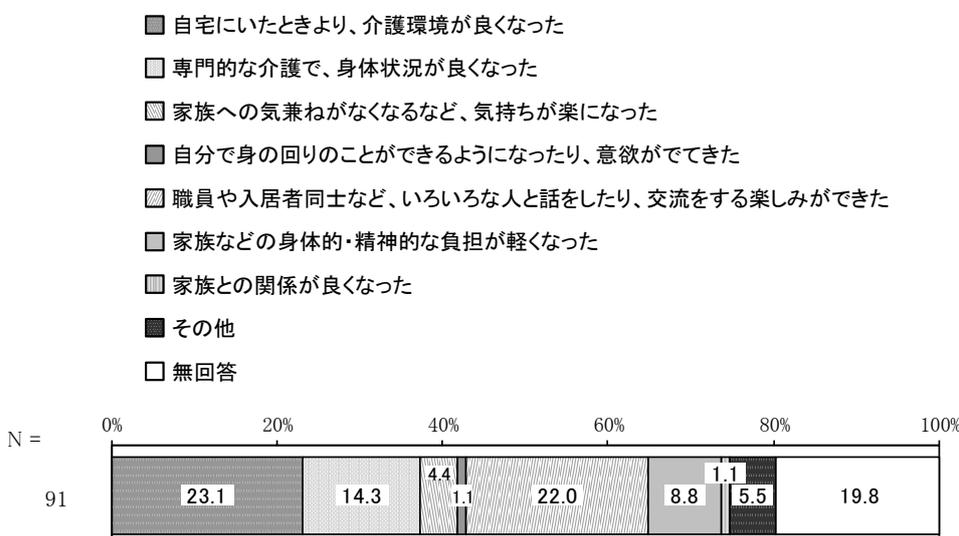
「満足している」と「どちらかと言えば、満足している」をあわせた“満足している”の割合が87.5%、「どちらかと言えば、不満である」と「不満である」をあわせた“不満である”の割合が6.7%となっています。



問6-⑤で「1 満足している」または「2 どちらかと言えば、満足している」と回答した方にお伺いします。

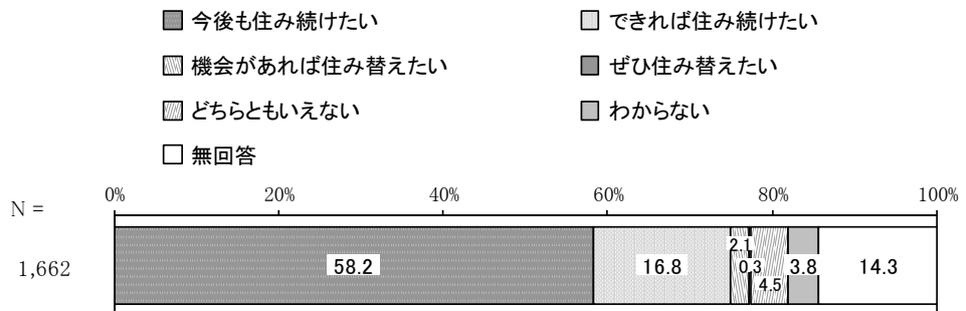
問6-⑤-② 満足している主な理由は何ですか。(1つを選択)

「自宅にいたときより、介護環境が良くなった」の割合が23.1%と最も高く、次いで「職員や入居者同士など、いろいろな人と話をしたり、交流をする楽しみができた」の割合が22.0%、「専門的な介護で、身体状況が良くなった」の割合が14.3%となっています。



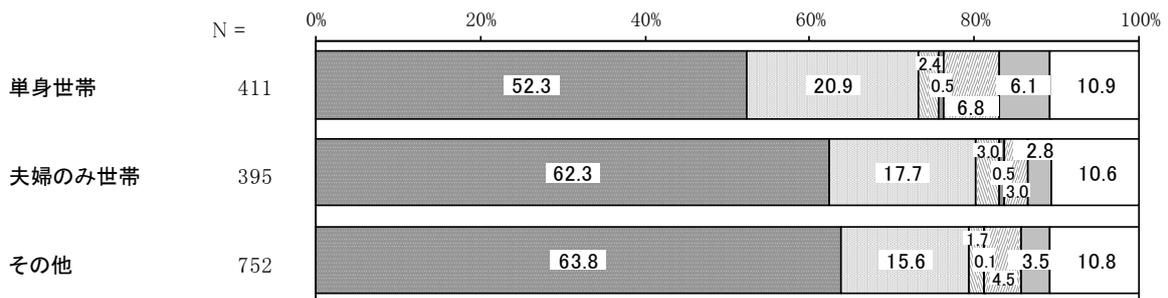
**問7 あなたは、現在のお住まいにこれからも住みたいと思いますか。
(1つを選択)**

「今後も住みたい」と「できれば住みたい」をあわせた“住みたい”の割合が75.0%、
「機会があれば住みたい」と「ぜひ住みたい」をあわせた“住み替えたい”の割合が2.4%
となっています。



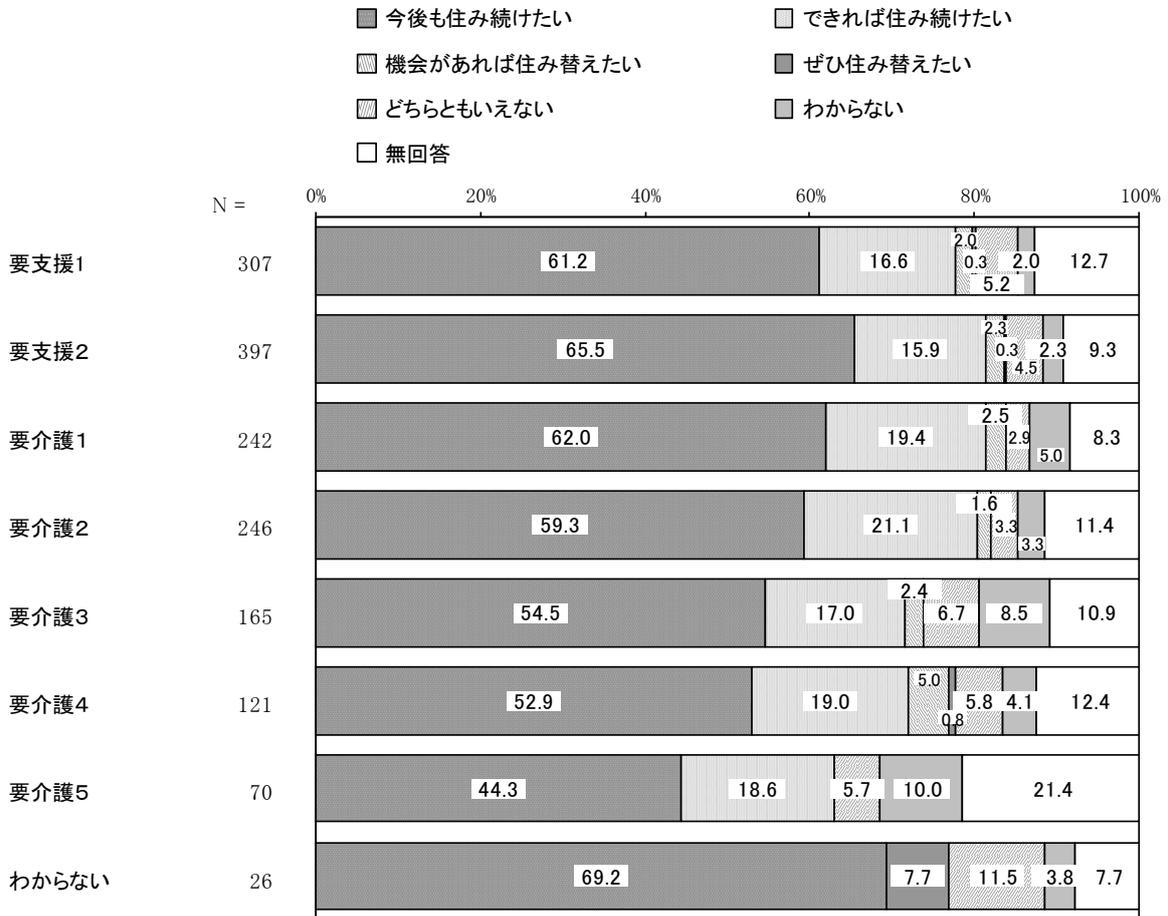
【家族構成別】

家族構成別で見ると、夫婦のみ世帯に比べ、単身世帯で“住みたい”の割合が低くなっています。



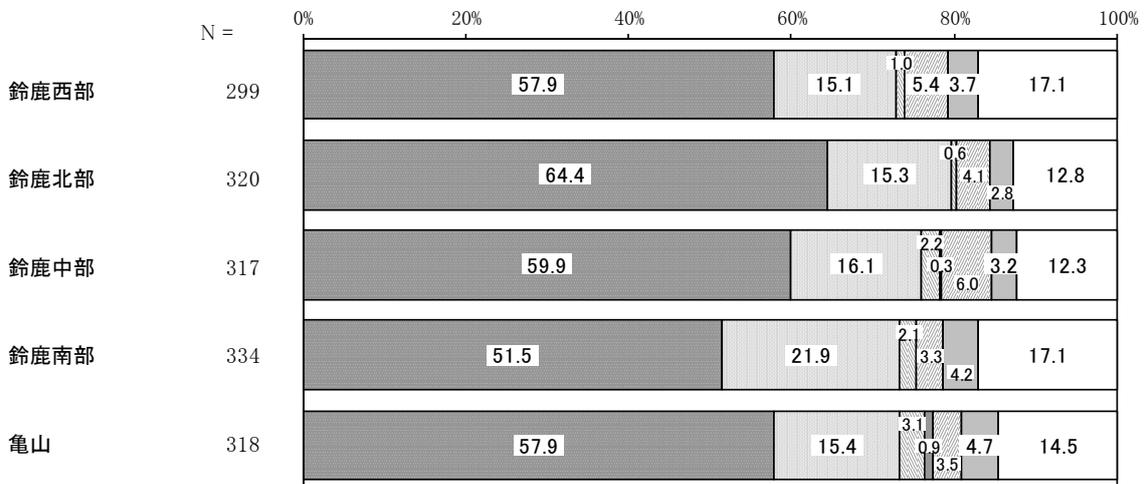
【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要支援1 から要介護2で“住み続けたい”の割合が高くなっています。



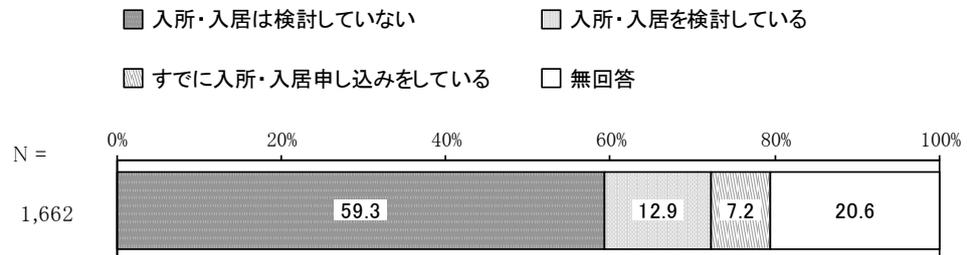
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部で“住み続けたい”の割合が高くなっています。



**問8 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。
(1つを選択)**

「入所・入居は検討していない」の割合が59.3%と最も高く、次いで「入所・入居を検討している」の割合が12.9%となっています。



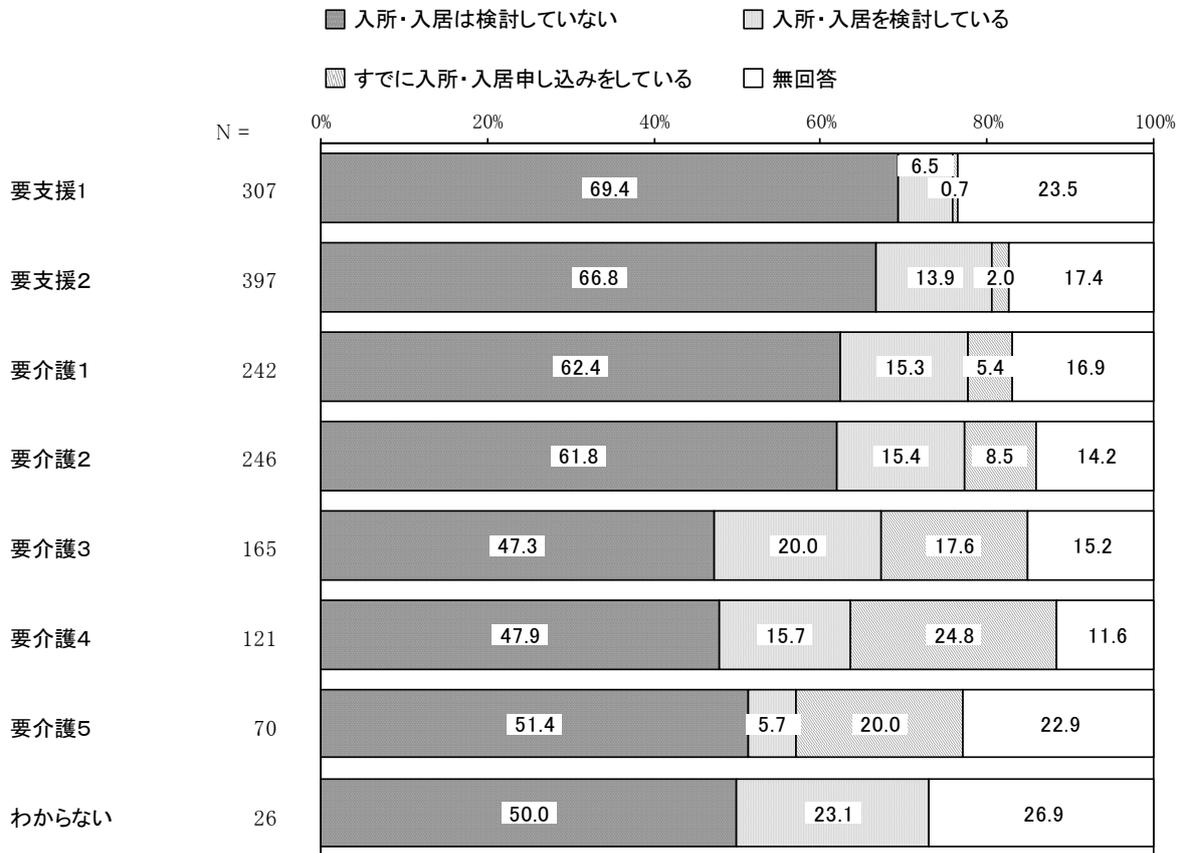
【家族構成別】

家族構成別で見ると、単身世帯に比べ、夫婦のみ世帯で「入所・入居は検討していない」の割合が高くなっています。



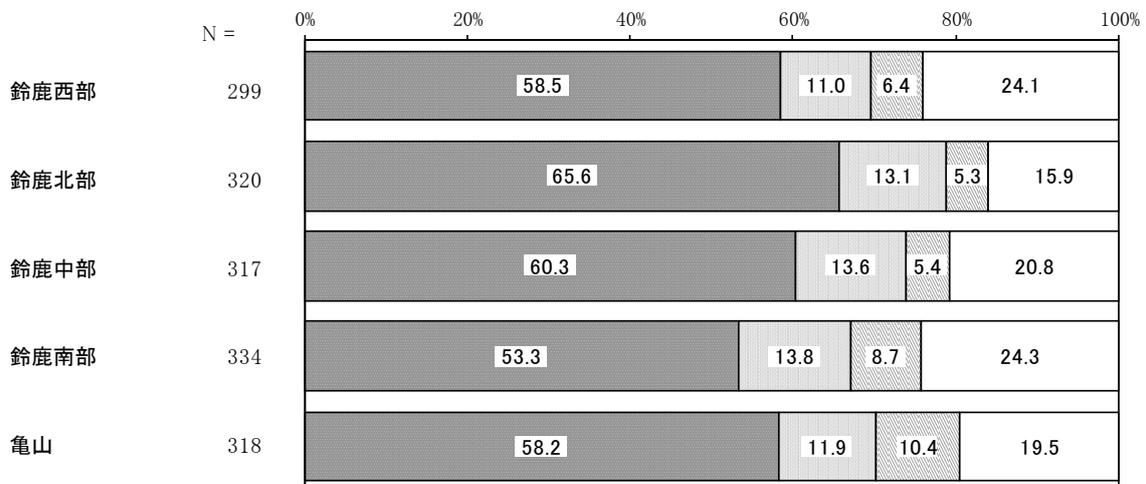
【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要支援1で「入所・入居は検討していない」の割合が高くなっています。また、要介護3から要介護5で「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

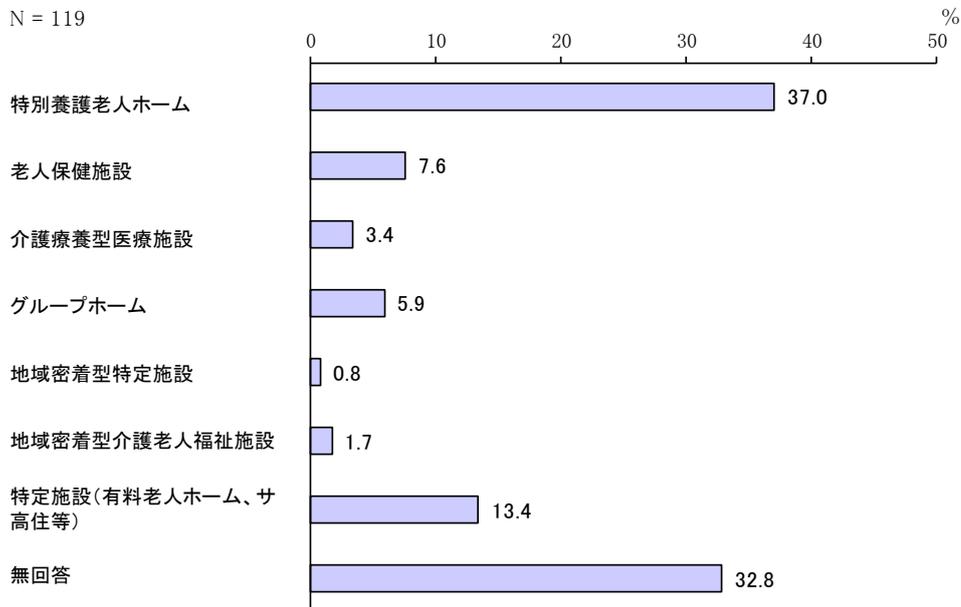
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部で「入所・入居は検討していない」の割合が高くなっています。



問8で「3 すでに入所・入居申し込みをしている」と回答した方にお伺いします。

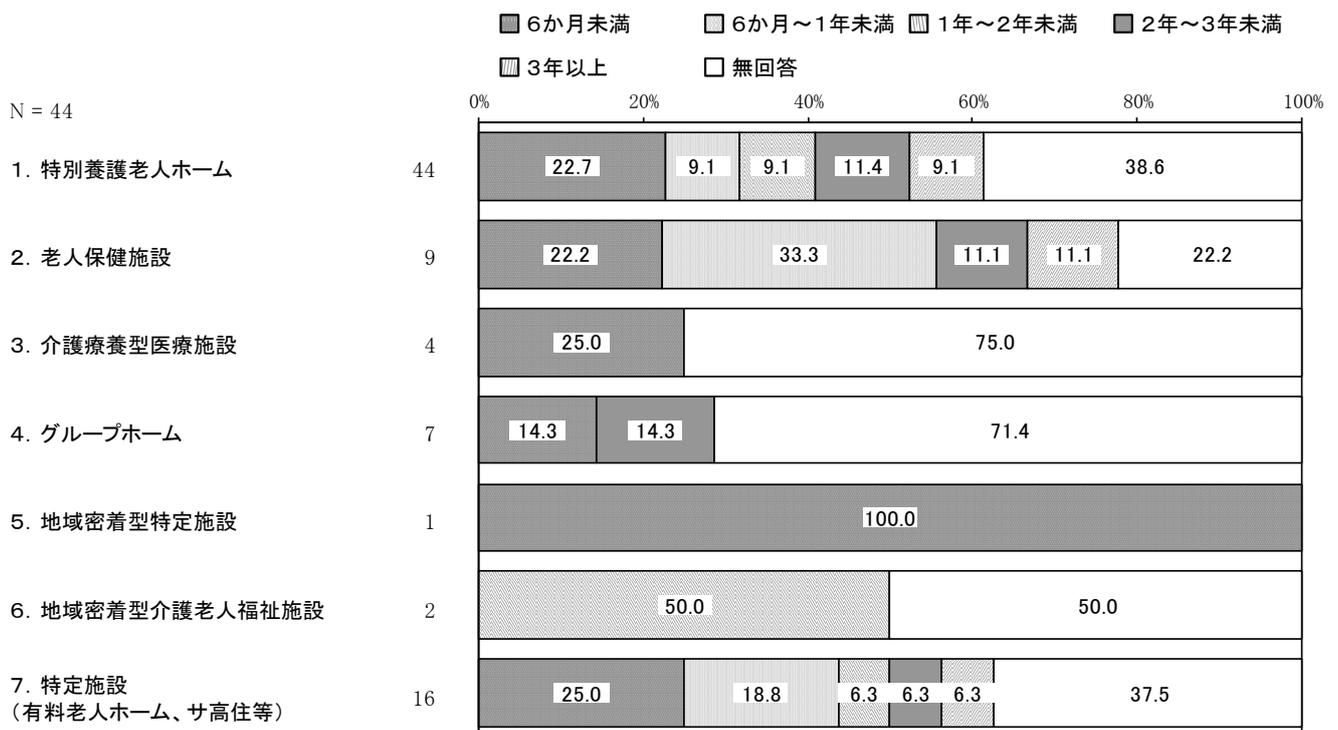
問8-② 申請しているすべての入所（入居）待機施設の番号に○をつけて、現時点での入所（入居）待機期間を記入してください。（複数選択可）

「特別養護老人ホーム」の割合が37.0%と最も高く、次いで「特定施設（有料老人ホーム、サ高住等）」の割合が13.4%となっています。



施設別の待機期間

特別養護老人ホームで「2年～3年未満」と「3年以上」をあわせた“2年以上”の割合が高く、約2割となっています。

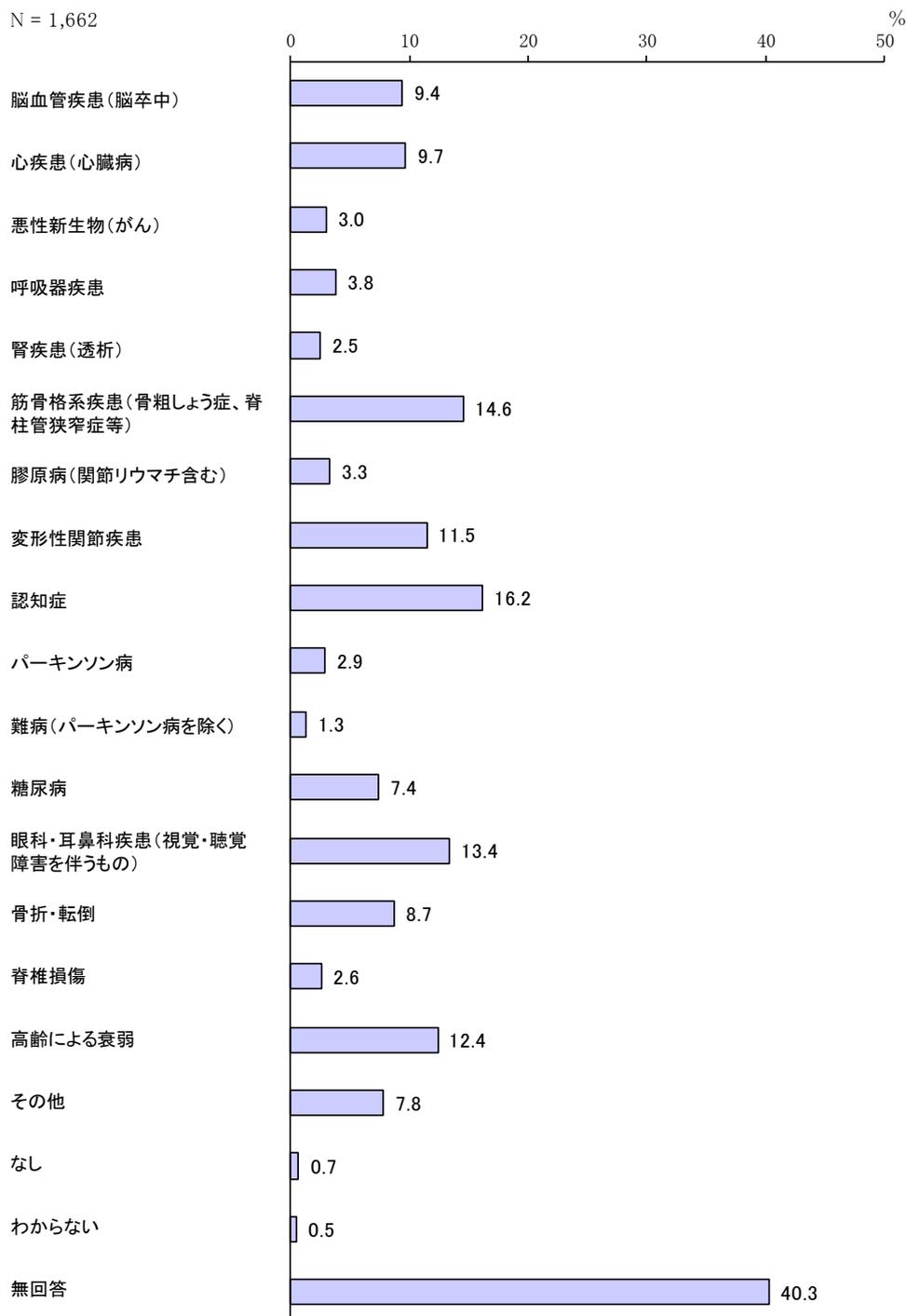


問9 ご本人（認定調査対象者）が、（A）現在抱えている傷病と（B）介護が必要となった主な原因について、該当する箇所に○をつけてください。（それぞれ複数選択可）

（A）現在抱えている傷病

「認知症」の割合が16.2%と最も高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の割合が14.6%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が13.4%となっています。

N = 1,662



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の65～69歳で「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が高くなっています。また、女性の90歳以上で「認知症」「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含 む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
男性 65歳未満	16	25.0	6.3	—	—	6.3	—	—	—	—	6.3
65～69歳	32	31.3	6.3	6.3	3.1	—	12.5	3.1	—	12.5	6.3
70～74歳	55	18.2	7.3	5.5	5.5	7.3	12.7	1.8	7.3	12.7	9.1
75～79歳	79	13.9	8.9	3.8	3.8	3.8	6.3	3.8	7.6	7.6	3.8
80～84歳	106	17.0	13.2	3.8	6.6	2.8	9.4	3.8	3.8	12.3	4.7
85～89歳	103	10.7	7.8	9.7	7.8	4.9	6.8	1.0	6.8	17.5	1.0
90歳以上	72	11.1	8.3	6.9	4.2	—	11.1	—	8.3	15.3	—
女性 65歳未満	17	23.5	—	—	—	11.8	11.8	—	11.8	17.6	5.9
65～69歳	41	26.8	2.4	4.9	—	4.9	22.0	7.3	4.9	7.3	—
70～74歳	49	2.0	—	4.1	2.0	2.0	12.2	8.2	10.2	4.1	4.1
75～79歳	132	9.8	12.9	1.5	3.8	0.8	15.9	7.6	16.7	7.6	3.8
80～84歳	280	6.4	8.2	2.9	2.9	2.5	20.0	3.9	14.3	18.6	2.9
85～89歳	319	5.3	13.5	1.6	3.4	2.8	18.8	4.7	19.4	21.9	2.5
90歳以上	222	4.5	12.2	1.4	4.1	0.9	16.7	0.5	11.3	24.8	2.7

【性・年齢別（つづき）】

単位：％

区分	難病（パーキンソン病を除く）	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	無回答
男性 65歳未満	—	—	—	6.3	—	—	6.3	—	—	56.3
65～69歳	6.3	9.4	—	3.1	6.3	—	12.5	—	—	28.1
70～74歳	5.5	18.2	9.1	3.6	5.5	1.8	5.5	—	—	27.3
75～79歳	1.3	13.9	7.6	7.6	2.5	3.8	5.1	—	—	53.2
80～84歳	—	8.5	10.4	5.7	—	10.4	5.7	—	—	50.0
85～89歳	—	6.8	13.6	1.9	2.9	19.4	11.7	1.0	1.0	41.7
90歳以上	—	2.8	18.1	2.8	—	22.2	11.1	1.4	1.4	40.3
女性 65歳未満	—	11.8	11.8	5.9	—	5.9	11.8	—	—	41.2
65～69歳	9.8	2.4	12.2	4.9	2.4	—	14.6	2.4	—	26.8
70～74歳	4.1	2.0	6.1	10.2	2.0	—	4.1	2.0	—	49.0
75～79歳	2.3	7.6	11.4	14.4	4.5	5.3	6.1	0.8	—	40.9
80～84歳	1.1	7.5	13.6	12.1	3.2	7.9	8.6	1.1	0.7	35.4
85～89歳	0.9	8.5	16.6	11.0	2.8	16.9	8.2	0.3	0.3	37.0
90歳以上	—	5.4	20.7	11.3	2.3	26.1	7.7	0.9	1.4	32.0

【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護5で「脳血管疾患（脳卒中）」「認知症」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含 む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
要支援1	307	9.1	7.5	3.9	4.6	1.0	21.5	3.9	13.4	2.6	1.6
要支援2	397	7.3	12.1	2.8	2.0	1.8	17.6	4.0	15.6	2.5	2.0
要介護1	242	8.7	10.3	3.7	2.5	3.3	14.5	1.7	13.2	23.1	2.5
要介護2	246	9.8	11.4	3.7	5.7	5.3	11.4	4.5	11.0	29.7	2.4
要介護3	165	11.5	12.1	3.0	5.5	2.4	13.9	3.0	7.3	35.8	5.5
要介護4	121	15.7	9.1	1.7	5.0	3.3	10.7	4.1	9.1	25.6	4.1
要介護5	70	20.0	5.7	2.9	7.1	2.9	7.1	2.9	7.1	40.0	11.4
わからない	26	3.8	3.8	—	—	—	3.8	—	3.8	11.5	—

区分	難病 (パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	無回答
要支援1	0.7	4.9	13.4	8.8	1.6	8.5	6.2	1.3	1.0	44.6
要支援2	0.5	7.3	15.4	11.1	5.8	12.3	6.3	0.8	0.5	40.8
要介護1	0.8	8.7	14.0	7.9	0.8	15.3	6.6	0.4	0.8	35.1
要介護2	2.0	11.4	15.4	9.3	0.8	15.0	12.6	0.8	0.8	30.5
要介護3	0.6	7.9	12.1	10.9	3.6	20.0	10.3	0.6	—	29.1
要介護4	5.8	7.4	10.7	5.8	1.7	11.6	10.7	—	—	38.0
要介護5	1.4	11.4	10.0	5.7	4.3	8.6	10.0	—	—	30.0
わからない	—	—	19.2	7.7	—	3.8	3.8	—	—	65.4

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

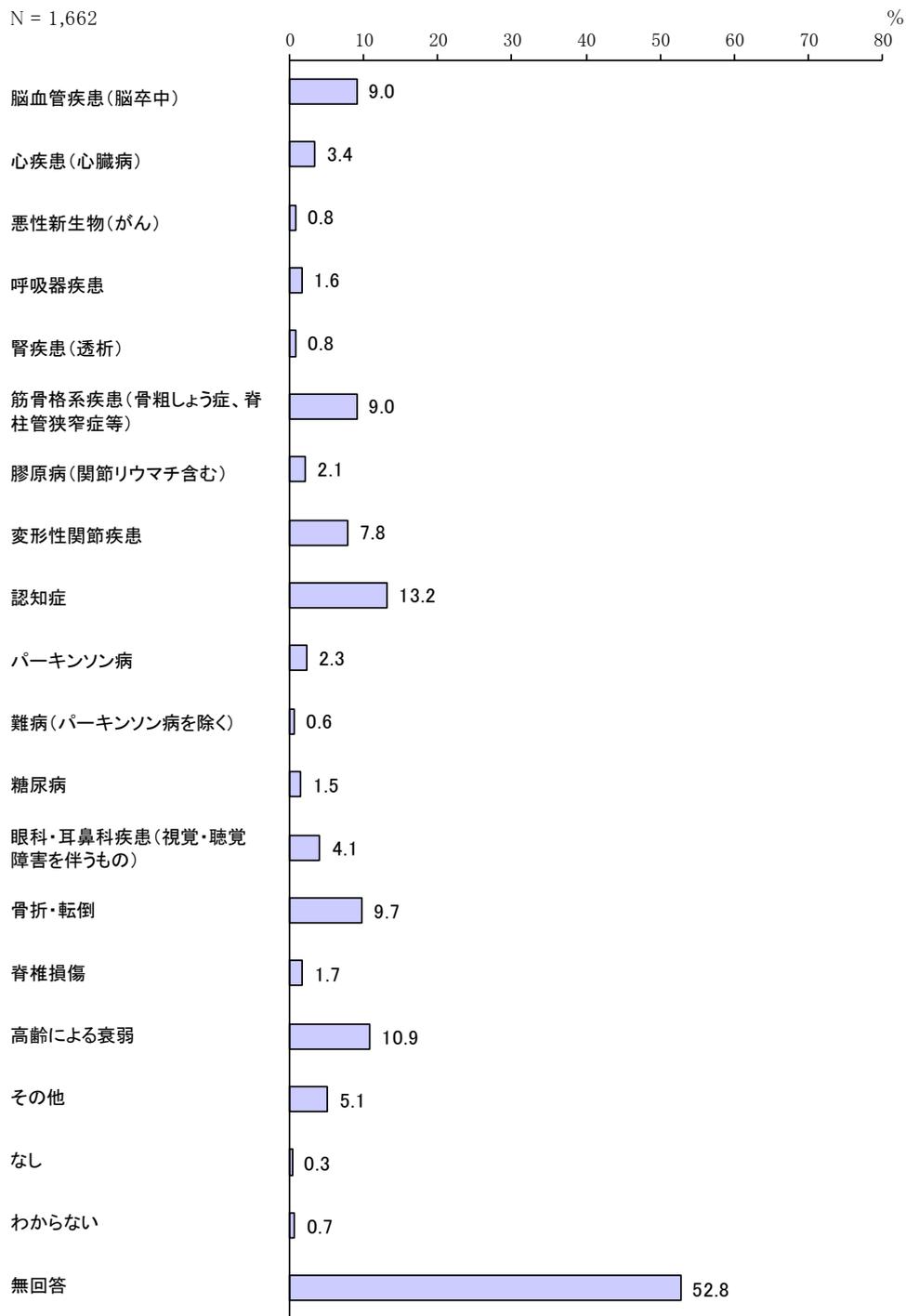
単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
鈴鹿西部	299	9.4	8.0	3.0	1.3	3.3	11.7	2.0	12.4	12.4	2.3
鈴鹿北部	320	11.6	9.1	2.5	4.4	1.3	16.3	2.8	11.3	16.3	2.5
鈴鹿中部	317	9.5	11.0	4.1	3.5	3.8	14.5	2.2	12.0	17.0	3.5
鈴鹿南部	334	8.7	9.6	3.3	4.8	1.8	16.5	5.4	11.7	17.1	3.9
亀山	318	6.9	10.7	2.5	4.7	2.5	13.8	4.4	11.3	17.0	2.5

区分	難病 (パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	無回答
鈴鹿西部	0.7	9.0	9.7	8.7	2.0	11.4	5.4	0.7	0.3	47.8
鈴鹿北部	2.5	8.4	13.8	8.4	4.7	11.9	7.2	0.3	—	39.4
鈴鹿中部	0.9	9.1	14.5	6.6	1.3	9.8	9.8	0.6	1.3	38.2
鈴鹿南部	1.8	4.5	14.4	11.4	0.9	12.6	6.3	1.2	—	41.6
亀山	0.6	5.7	13.8	9.1	4.1	15.4	10.1	0.6	0.9	37.1

(B) 介護が必要となった主な原因

「認知症」の割合が13.2%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」の割合が10.9%となっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の65歳未満、65～69歳で「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が高くなっています。また、男女とも90歳以上で「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	脳血管疾患（脳卒中）	心疾患（心臓病）	悪性新生物（がん）	呼吸器疾患	腎疾患（透析）	筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	膠原病（関節リウマチ含む）	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
男性 65歳未満	16	37.5	—	—	—	6.3	—	6.3	6.3	6.3	6.3
65～69歳	32	37.5	9.4	3.1	3.1	—	6.3	3.1	—	6.3	3.1
70～74歳	55	18.2	—	—	1.8	—	7.3	—	3.6	5.5	7.3
75～79歳	79	17.7	3.8	1.3	1.3	1.3	1.3	3.8	5.1	5.1	2.5
80～84歳	106	13.2	7.5	1.9	3.8	—	7.5	1.9	5.7	8.5	4.7
85～89歳	103	9.7	1.9	1.9	2.9	—	6.8	1.0	6.8	15.5	1.0
90歳以上	72	8.3	4.2	1.4	4.2	1.4	6.9	—	6.9	13.9	—
女性 65歳未満	17	17.6	—	—	—	5.9	5.9	—	5.9	17.6	5.9
65～69歳	41	29.3	—	—	—	—	12.2	4.9	2.4	9.8	2.4
70～74歳	49	4.1	—	—	—	—	4.1	4.1	4.1	4.1	2.0
75～79歳	132	6.1	3.8	0.8	2.3	0.8	9.1	4.5	9.1	9.1	3.0
80～84歳	280	6.8	3.6	1.4	0.4	1.4	12.1	3.6	8.9	14.6	2.5
85～89歳	319	6.0	5.0	0.6	1.6	0.9	10.0	1.6	13.8	18.2	1.6
90歳以上	222	3.6	2.3	—	1.8	—	12.2	0.5	7.7	19.4	1.8

【性・年齢別（つづき）】

単位：％

区分	難病（パーキンソン病を除く）	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	無回答
男性 65歳未満	—	6.3	6.3	—	—	6.3	6.3	—	—	37.5
65～69歳	—	—	—	—	3.1	—	3.1	—	—	43.8
70～74歳	1.8	3.6	1.8	1.8	3.6	1.8	5.5	1.8	1.8	58.2
75～79歳	1.3	1.3	1.3	6.3	5.1	3.8	2.5	—	—	60.8
80～84歳	0.9	3.8	1.9	5.7	—	7.5	3.8	—	—	57.5
85～89歳	—	1.0	5.8	3.9	3.9	17.5	8.7	1.0	1.0	53.4
90歳以上	—	—	6.9	4.2	—	27.8	5.6	—	—	50.0
女性 65歳未満	—	5.9	17.6	17.6	—	5.9	11.8	—	—	41.2
65～69歳	4.9	—	2.4	—	2.4	—	4.9	—	—	46.3
70～74歳	—	—	6.1	6.1	—	—	4.1	2.0	2.0	69.4
75～79歳	1.5	0.8	3.8	11.4	1.5	3.0	6.1	—	—	54.5
80～84歳	0.7	2.5	3.9	13.9	2.9	5.4	4.6	—	1.4	49.6
85～89歳	0.3	1.3	3.4	12.2	0.9	10.0	4.1	—	0.9	51.7
90歳以上	—	0.5	5.9	16.2	0.5	28.8	8.6	0.9	0.9	43.2

【要介護度別】

要介護度別でみると、要介護度が重くなるにつれ「脳血管疾患（脳卒中）」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、要介護2から要介護5で「認知症」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう 症、脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含 む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
要支援1	307	5.9	2.3	—	1.6	0.3	10.4	1.6	7.5	1.0	0.7
要支援2	397	4.8	3.3	1.3	1.0	0.3	10.6	2.3	9.8	1.3	1.3
要介護1	242	9.9	4.5	1.2	1.7	1.2	11.2	1.7	7.9	19.8	1.7
要介護2	246	11.0	4.1	1.2	2.4	2.0	8.9	2.4	8.5	26.4	2.0
要介護3	165	13.3	5.5	0.6	1.8	0.6	8.5	2.4	6.1	29.1	4.2
要介護4	121	16.5	3.3	0.8	1.7	1.7	6.6	5.0	9.1	24.0	5.0
要介護5	70	27.1	2.9	1.4	1.4	—	5.7	1.4	5.7	27.1	11.4
わからない	26	—	—	—	3.8	—	—	—	—	7.7	—

区分	難病 (パーキンソン病を除 く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	無回答
要支援1	—	0.7	2.3	7.8	0.3	5.5	2.6	0.3	—	68.4
要支援2	0.3	1.8	5.3	9.8	2.8	7.8	3.3	0.3	1.3	62.2
要介護1	0.4	1.2	5.4	9.1	—	14.5	3.7	0.8	1.7	45.5
要介護2	0.8	1.6	4.1	11.8	1.6	16.3	10.6	0.4	1.2	35.8
要介護3	1.2	1.2	7.3	14.5	1.2	19.4	7.9	—	—	33.3
要介護4	2.5	3.3	1.7	10.7	4.1	14.0	8.3	—	—	37.2
要介護5	1.4	2.9	2.9	12.9	7.1	8.6	7.1	—	—	28.6
わからない	—	—	3.8	—	—	7.7	3.8	—	—	80.8

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。

単位：％

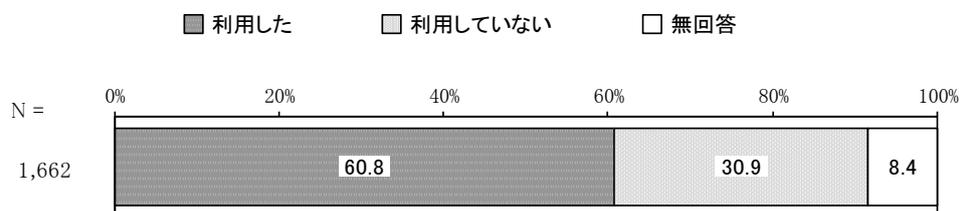
単位：％

区分	有効回答数 (件)	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、 脊柱管狭窄症等)	膠原病 (関節リウマチ含む)	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病
鈴鹿西部	299	10.7	3.0	0.3	0.7	1.0	8.0	1.7	9.0	12.0	1.7
鈴鹿北部	320	10.3	4.4	1.3	1.6	0.3	10.3	1.3	5.9	14.4	2.2
鈴鹿中部	317	7.6	2.5	0.9	1.9	0.6	6.6	1.9	8.5	13.6	3.2
鈴鹿南部	334	7.8	3.6	1.2	2.7	1.2	9.0	3.0	8.7	11.7	2.7
亀山	318	8.8	3.8	0.6	1.3	0.6	10.1	2.8	7.9	13.8	1.9

区分	難病 (パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	なし	わからない	無回答
鈴鹿西部	0.3	2.7	3.7	7.7	1.3	10.7	3.7	0.3	0.3	55.2
鈴鹿北部	0.9	1.3	5.0	10.0	2.2	10.9	6.6	—	—	51.3
鈴鹿中部	0.6	0.9	2.8	9.5	1.3	9.5	4.4	—	0.9	53.6
鈴鹿南部	0.6	1.5	3.6	10.2	0.3	9.3	4.8	0.6	1.2	58.1
亀山	0.6	1.3	4.7	11.0	3.1	12.3	6.6	0.6	1.3	48.7

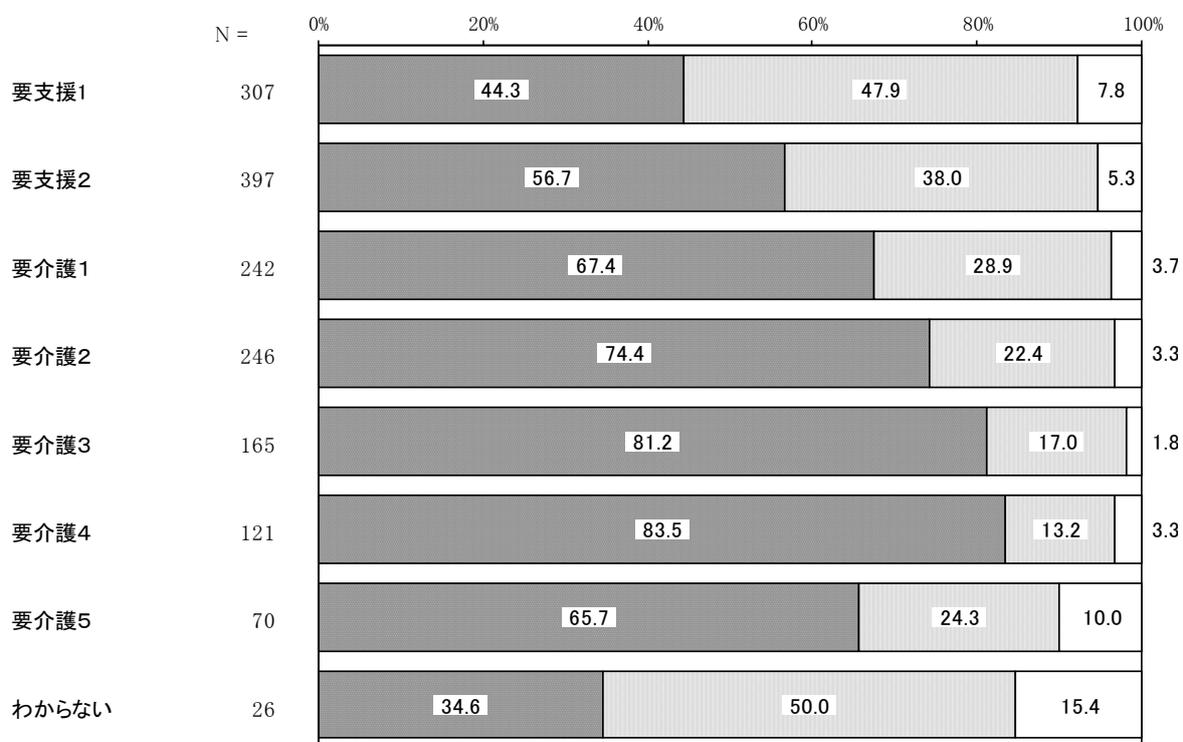
問 10 平成28年11月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。(1つを選択)

「利用した」の割合が60.8%、「利用していない」の割合が30.9%となっています。



【要介護度別】

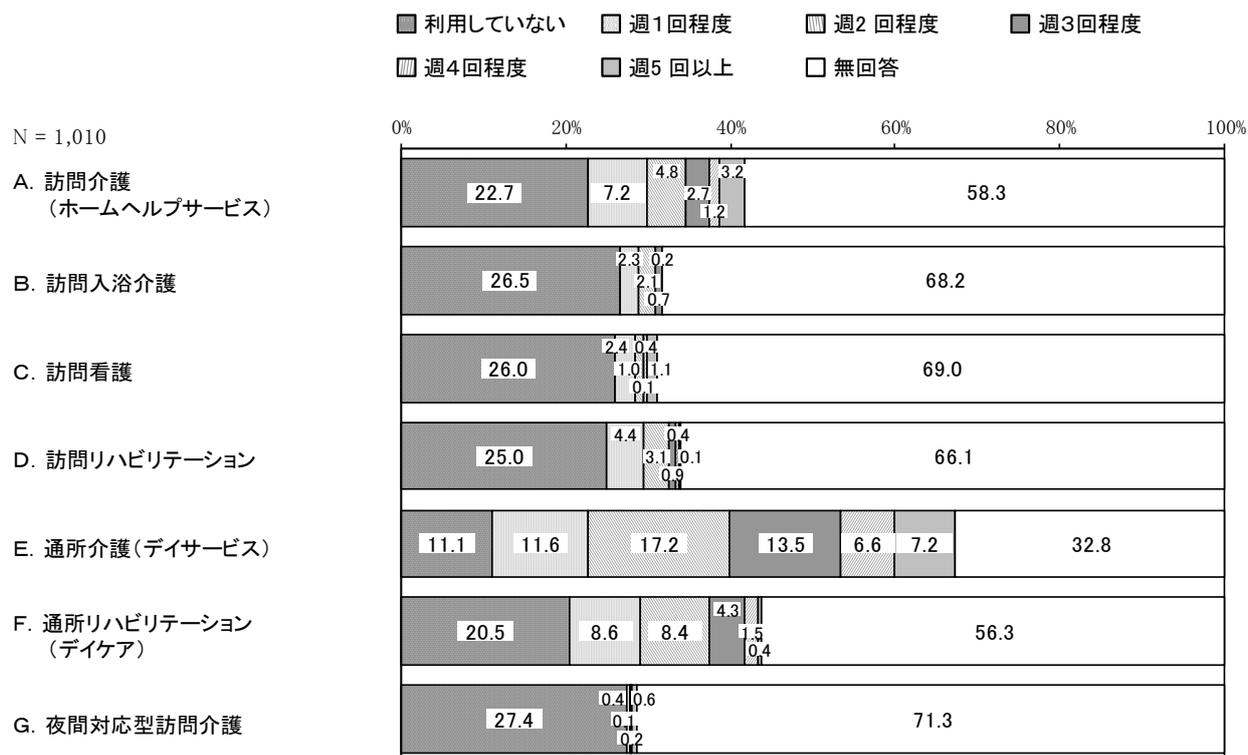
要介護度別で見ると、他に比べ、要介護3、要介護4で「利用した」の割合が高くなっています。一方、要支援1で「利用していない」の割合が高くなっています。

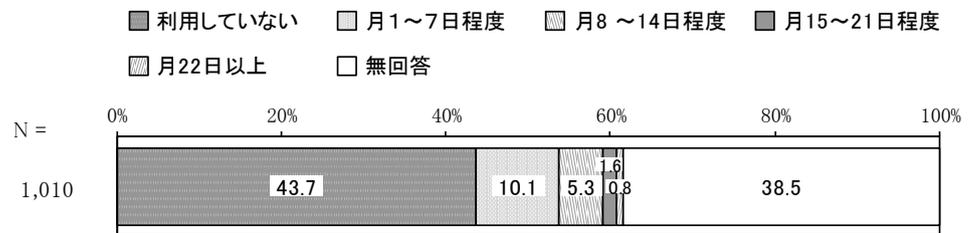
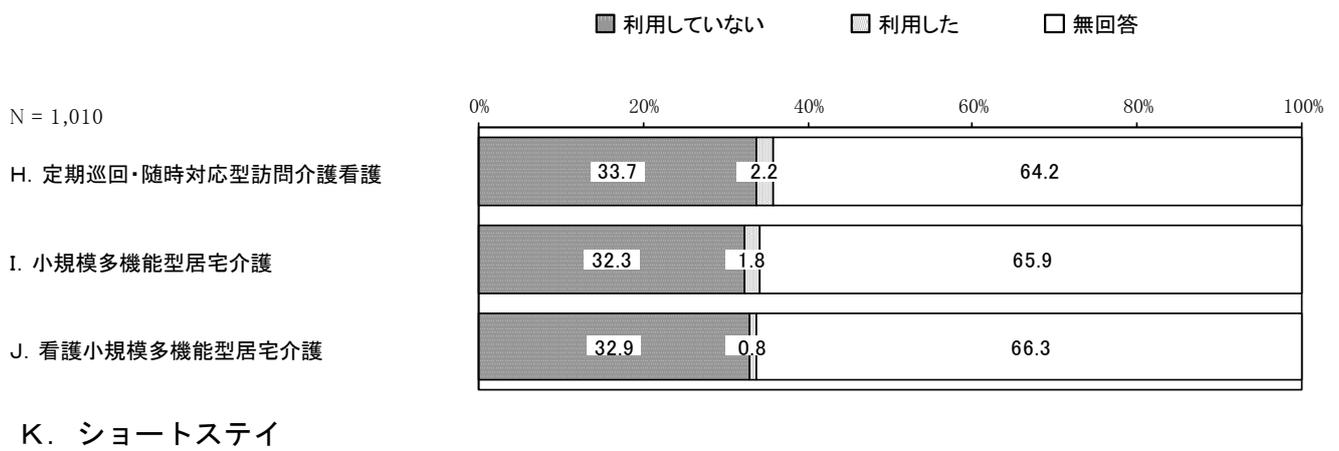


問 10 で「1 利用した」と回答した方にお伺いします。

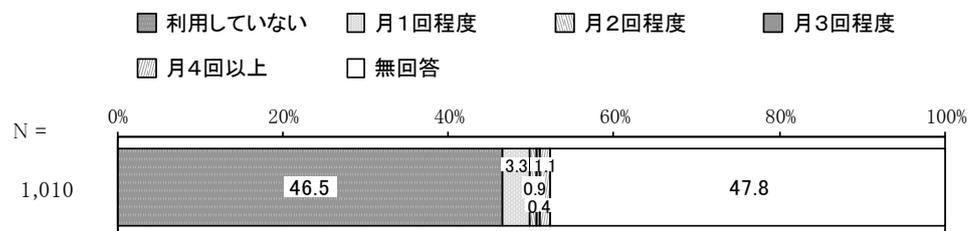
問 10-② 以下の介護保険サービスについて、平成 28 年 11 月の 1 か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「1. 利用していない」を選択してください。（それぞれ 1 つに○）

K. ショートステイ、L. 居宅療養管理指導で「利用していない」の割合が高く、4 割を超えています。





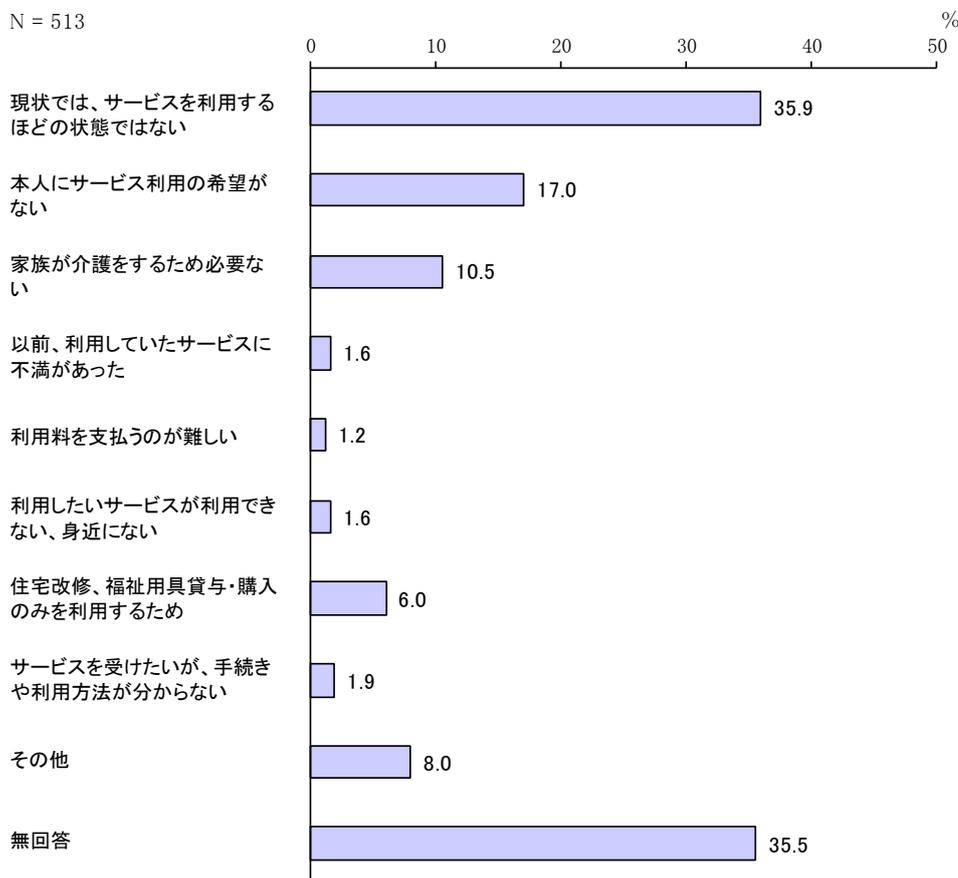
L. 居宅療養管理指導



問 10 で「2 利用していない」と回答した方にお伺いします。

問 10-③ 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」の割合が 17.0%、「家族が介護をするため必要ない」の割合が 10.5%となっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが、手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
単身世帯	144	36.8	10.4	4.9	2.1	1.4	2.1	8.3	2.1	9.0	37.5
夫婦のみ世帯	138	35.5	15.2	9.4	1.4	0.7	2.9	5.1	3.6	4.3	38.4
その他	214	35.0	22.4	15.9	1.4	1.4	0.5	5.6	0.9	10.3	31.3

【要介護度別】

要介護度別でみると、他に比べ、要支援1で「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が高くなっています。また、要介護1で「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが、手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
要支援1	147	48.3	12.9	6.1	0.7	1.4	2.0	4.8	0.7	7.5	30.6
要支援2	151	35.1	18.5	9.9	2.6	1.3	2.0	7.9	0.7	4.6	36.4
要介護1	70	28.6	32.9	21.4	4.3	—	1.4	5.7	2.9	4.3	41.4
要介護2	55	36.4	9.1	18.2	—	—	1.8	9.1	—	5.5	40.0
要介護3	28	17.9	14.3	10.7	—	3.6	—	—	3.6	25.0	32.1
要介護4	16	18.8	18.8	6.3	—	—	—	6.3	6.3	18.8	31.3
要介護5	17	5.9	—	5.9	—	5.9	—	5.9	—	35.3	41.2
わからない	13	46.2	15.4	—	—	—	—	—	23.1	7.7	15.4

【日常生活圏域別】

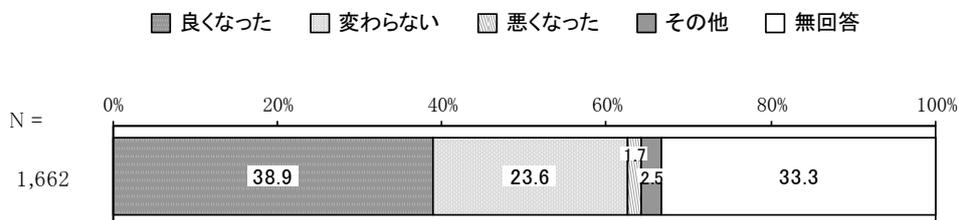
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿南部で「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が高くなっています。また、亀山で「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが、手続きや利用方法が分からない	その他	無回答
鈴鹿西部	91	41.8	17.6	14.3	1.1	2.2	2.2	4.4	1.1	7.7	27.5
鈴鹿北部	97	38.1	17.5	11.3	3.1	—	—	6.2	1.0	5.2	41.2
鈴鹿中部	100	27.0	16.0	4.0	2.0	1.0	1.0	4.0	2.0	11.0	46.0
鈴鹿南部	106	45.3	15.1	7.5	0.9	0.9	2.8	2.8	1.9	7.5	30.2
亀山	94	27.7	19.1	14.9	1.1	1.1	1.1	11.7	2.1	8.5	34.0

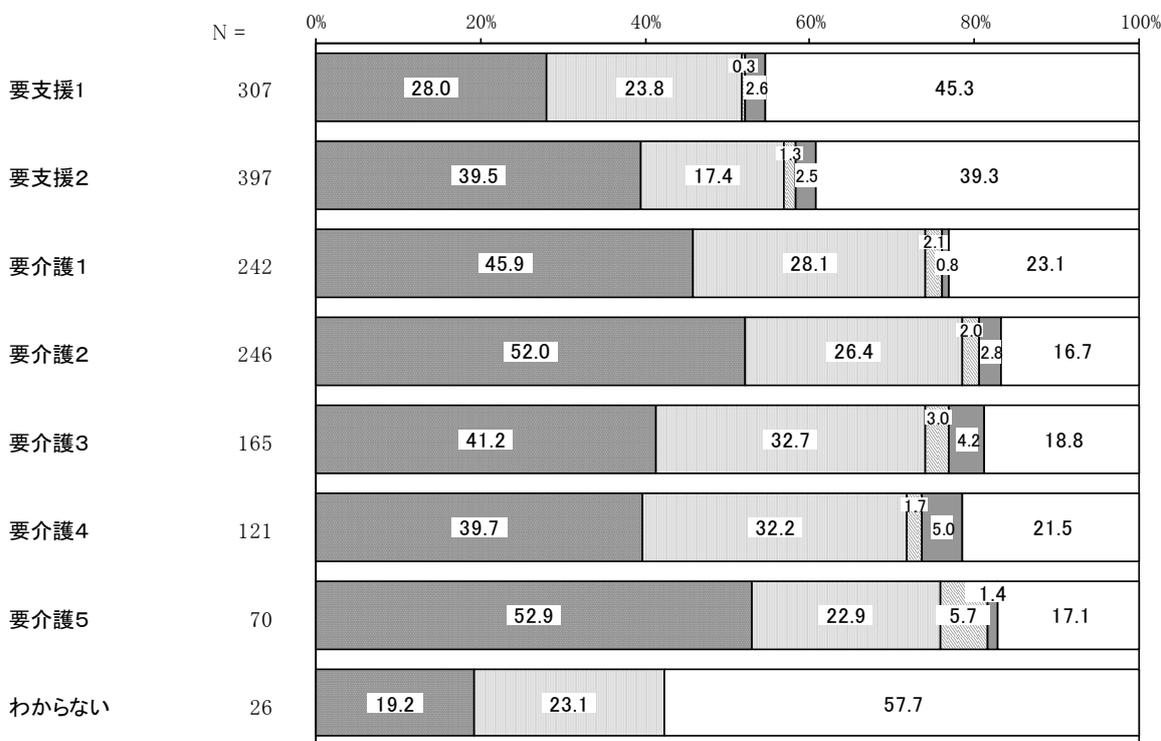
**問 11 サービスを利用して、身体的変化および精神的変化がありましたか。
(1つを選択)**

「良くなった」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「変わらない」の割合が 23.6%となっています。



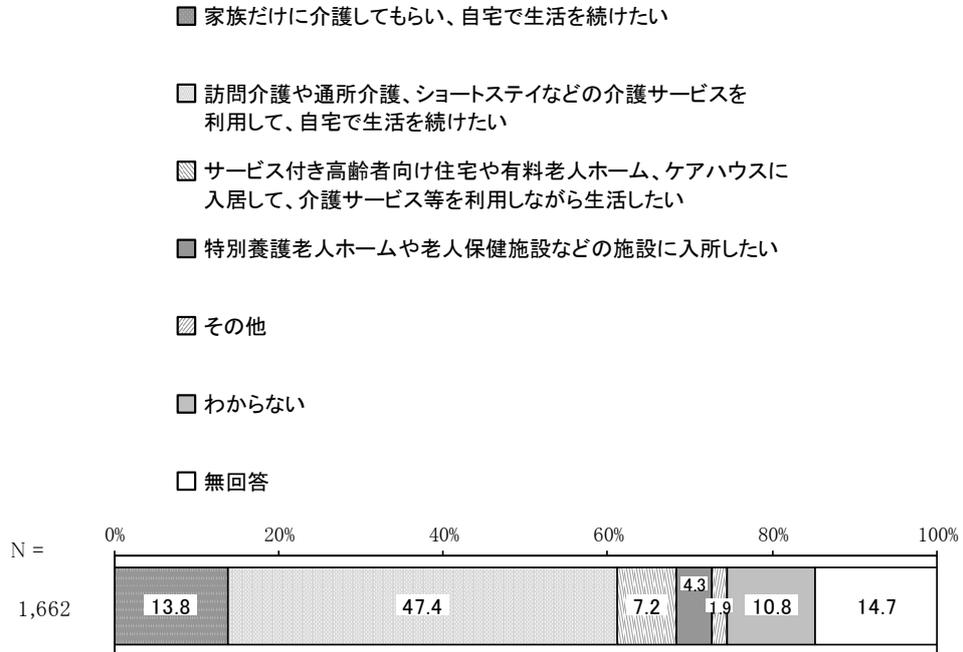
【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護 2、要介護 5で「良くなった」の割合が高くなっています。また、要介護 3、要介護 4で「変わらない」の割合が高くなっています。



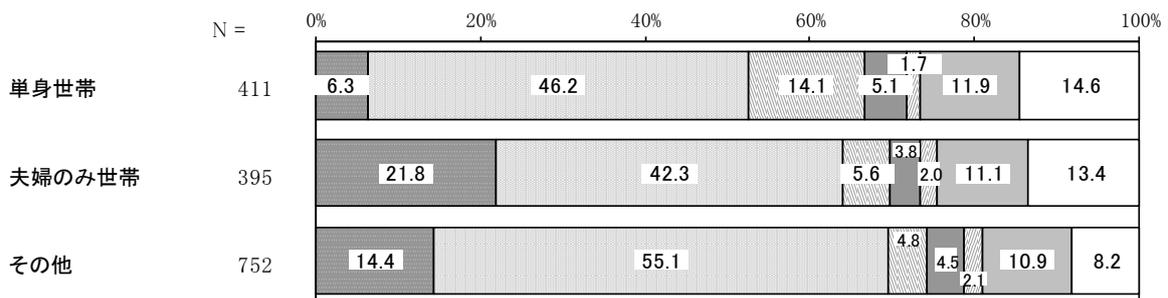
問 12 これからの生活をどこでどのように送りたいとお考えですか。(1つを選択)

「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が 13.8%、「わからない」の割合が 10.8%となっています。



【家族構成別】

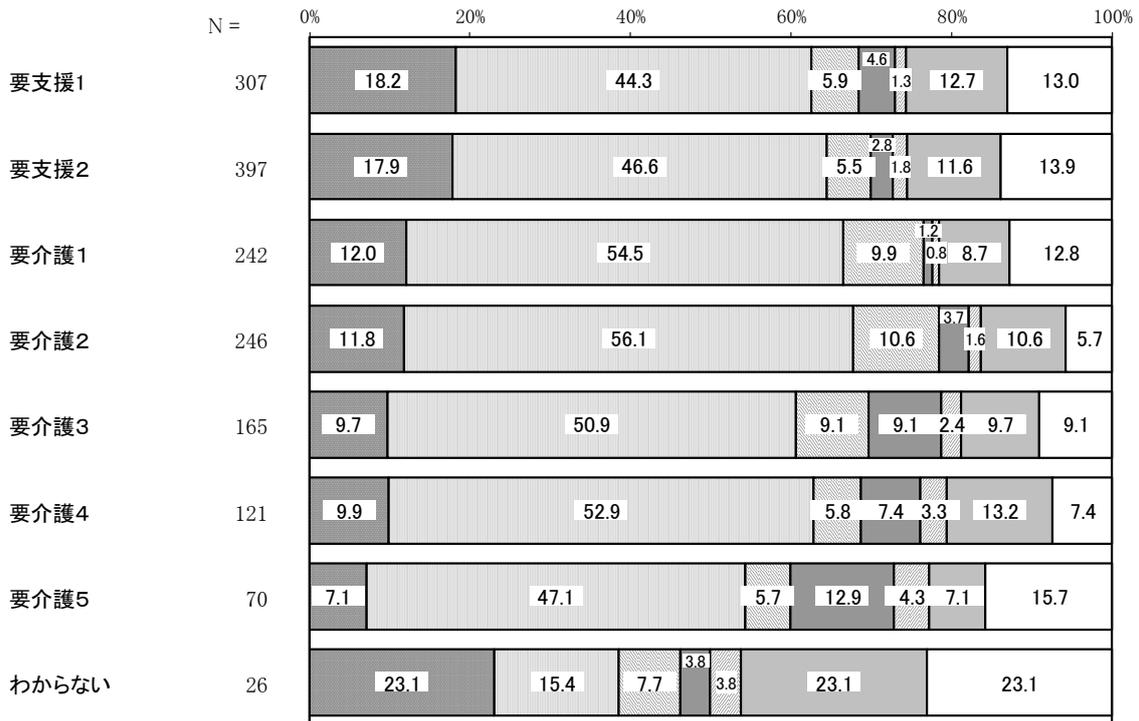
家族構成別で見ると、夫婦のみ世帯に比べ、単身世帯で「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい」の割合が高くなっています。また、単身世帯に比べ、夫婦のみ世帯で「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が高くなっています。



【要介護度別】

要介護度別でみると、要介護度が軽くなるにつれ「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、要介護1、要介護2で「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が高くなっています。

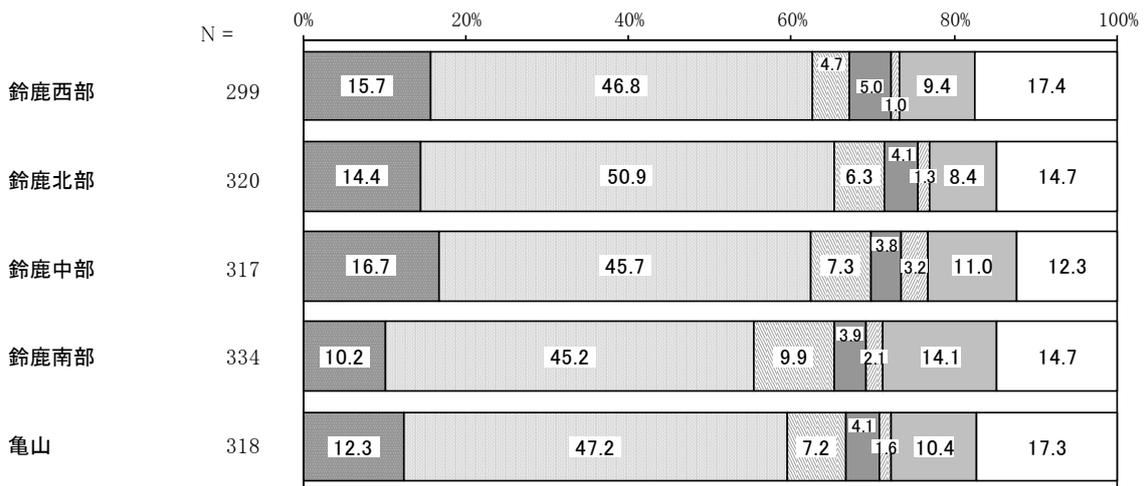
- 家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい
- ▨ サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- ▨ その他
- わからない
- 無回答



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」の割合が高くなっています。また、鈴鹿南部で「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」の割合が低くなっています。

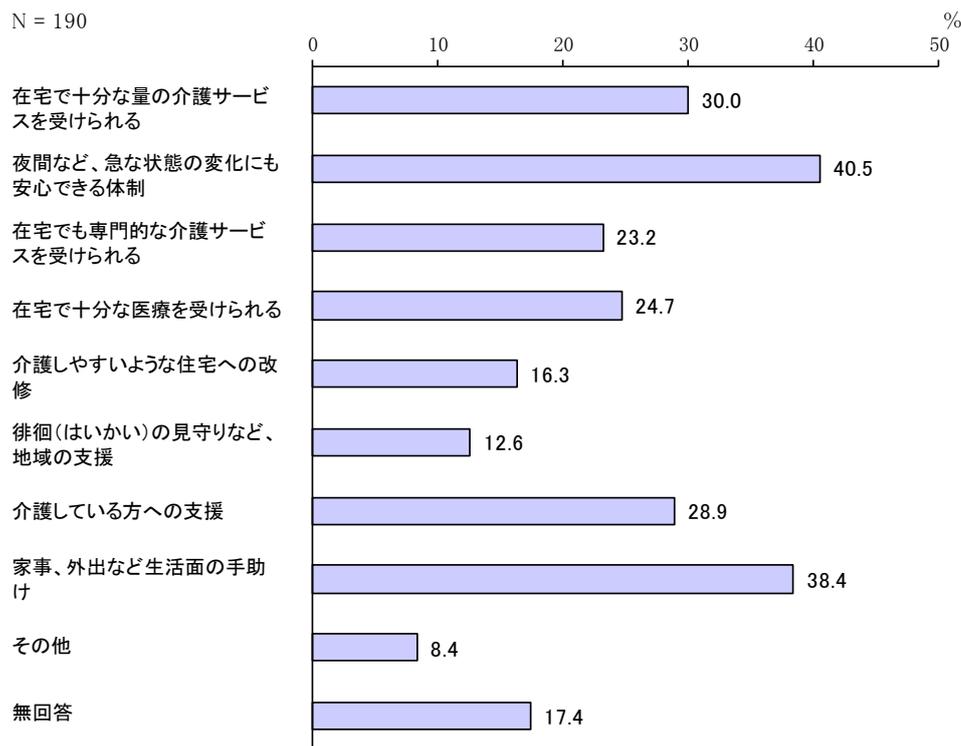
- 家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい
- 訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい
- ▨ サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活したい
- 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所したい
- ▨ その他
- わからない
- 無回答



問12で「3 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して介護サービス等を利用しながら生活したい」または「4 特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設に入所したい」と回答した方にお伺いします。

問12-② どのような条件を整えば、自宅で生活続けることができますか。(複数選択可)

「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が40.5%と最も高く、次いで「家事、外出など生活面の手助け」の割合が38.4%、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が30.0%となっています。



【要介護度別】

要介護度別でみると、他に比べ、要介護5で「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「在宅で十分な医療を受けられる」の割合が高くなっています。また、要介護2、要介護5で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が、要介護4で「介護している方への支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
要支援1	32	25.0	37.5	18.8	25.0	3.1	9.4	12.5	37.5	—	21.9
要支援2	33	24.2	39.4	21.2	15.2	12.1	9.1	24.2	27.3	9.1	18.2
要介護1	27	29.6	33.3	18.5	18.5	11.1	14.8	22.2	51.9	3.7	29.6
要介護2	35	42.9	48.6	31.4	34.3	17.1	11.4	37.1	40.0	14.3	11.4
要介護3	30	23.3	30.0	20.0	16.7	23.3	13.3	36.7	33.3	20.0	6.7
要介護4	16	25.0	43.8	18.8	31.3	31.3	25.0	43.8	50.0	—	12.5
要介護5	13	46.2	69.2	38.5	46.2	30.8	15.4	38.5	38.5	7.7	15.4
わからない	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	—	33.3	33.3	—	33.3

【日常生活圏域別】

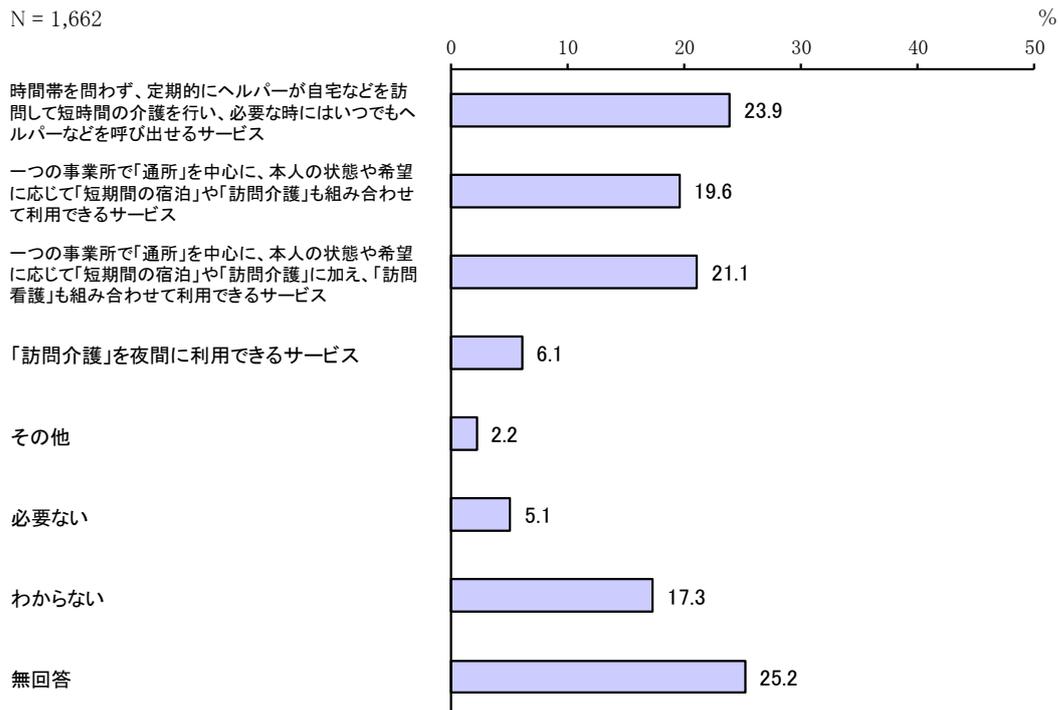
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿南部で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「家事、外出など生活面の手助け」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部、鈴鹿中部で「介護している方への支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
鈴鹿西部	29	34.5	34.5	24.1	24.1	17.2	17.2	34.5	27.6	10.3	24.1
鈴鹿北部	33	15.2	27.3	12.1	15.2	6.1	12.1	24.2	30.3	9.1	30.3
鈴鹿中部	35	28.6	40.0	20.0	25.7	14.3	20.0	37.1	40.0	5.7	14.3
鈴鹿南部	46	43.5	50.0	30.4	30.4	21.7	13.0	28.3	50.0	10.9	10.9
亀山	36	27.8	44.4	27.8	30.6	22.2	2.8	27.8	36.1	8.3	8.3

問 13 現在の在宅生活をしていく上で、充実したほうがいい・あったらいいと思う介護保険サービスはありますか。(2つまでを選択)

「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」の割合が23.9%と最も高く、次いで「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が21.1%、「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が19.6%となっています。



【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要支援1、要介護5で「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」の割合が高くなっています。また、要介護2で「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス	一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」も組み合わせて利用できるサービス	一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス	「訪問介護」を夜間に利用できるサービス	その他	必要ない	わからない	無回答
要支援1	307	31.3	15.6	17.6	7.2	1.6	5.2	18.9	24.1
要支援2	397	23.4	16.9	18.6	5.0	2.5	8.1	15.4	27.2
要介護1	242	25.6	24.0	22.3	4.1	2.9	4.5	21.1	16.1
要介護2	246	20.7	28.9	28.9	8.5	0.8	4.9	19.1	15.0
要介護3	165	23.0	24.8	26.1	4.8	3.6	3.0	15.2	21.8
要介護4	121	16.5	19.0	24.0	9.1	2.5	6.6	21.5	21.5
要介護5	70	32.9	15.7	28.6	11.4	4.3	1.4	8.6	24.3
わからない	26	26.9	19.2	15.4	—	—	—	19.2	42.3

【日常生活圏域別】

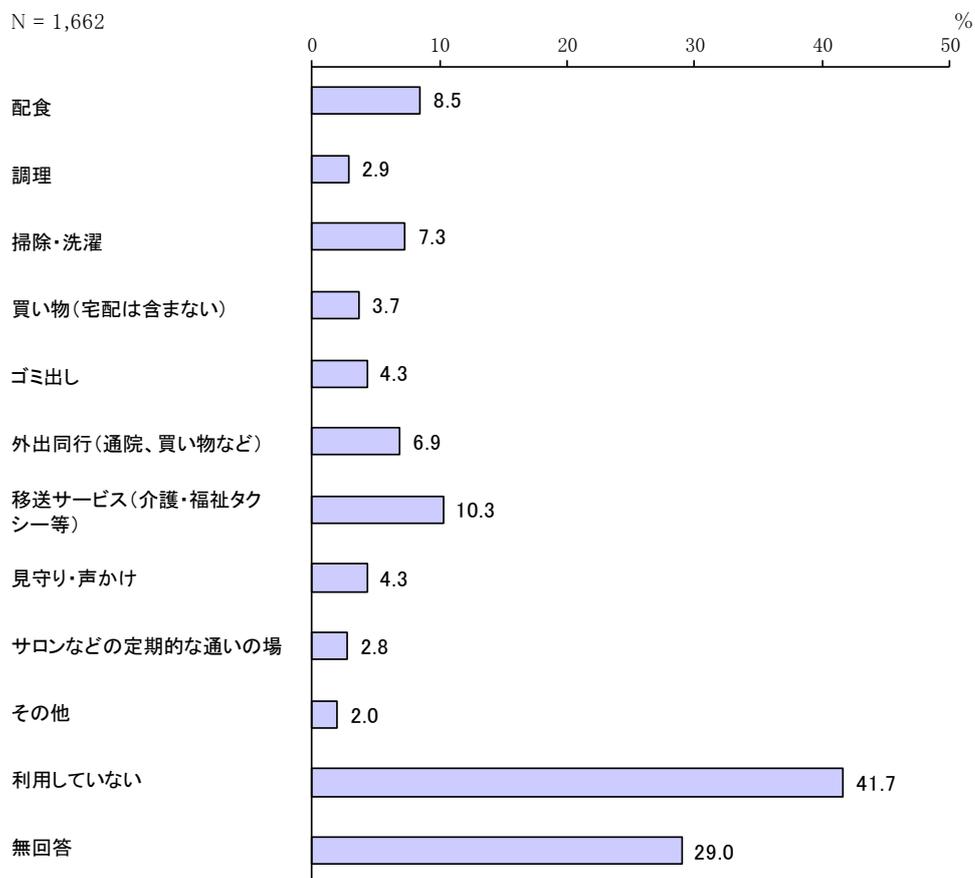
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス」の割合が高くなっています。また、鈴鹿中部で「一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	時間帯を問わず、定期的にヘルパーが自宅などを訪問して短時間の介護を行い、必要な時にはいつでもヘルパーなどを呼び出せるサービス	一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」も組み合わせて利用できるサービス	一つの事業所で「通所」を中心に、本人の状態や希望に応じて「短期間の宿泊」や「訪問介護」に加え、「訪問看護」も組み合わせて利用できるサービス	「訪問介護」を夜間に利用できるサービス	その他	必要ない	わからない	無回答
鈴鹿西部	299	20.1	20.7	21.1	6.7	2.3	5.7	19.7	24.1
鈴鹿北部	320	27.5	20.0	17.8	8.1	2.2	5.0	15.9	25.0
鈴鹿中部	317	22.1	18.6	24.6	5.7	1.9	5.0	18.3	23.3
鈴鹿南部	334	24.6	18.6	23.1	5.7	2.1	3.0	18.3	26.3
亀山	318	24.5	19.2	19.2	3.8	2.5	6.0	14.2	28.3

問 14 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、
ご回答ください。（複数選択可）

「利用していない」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が 10.3%となっています。



【日常生活圏域別】

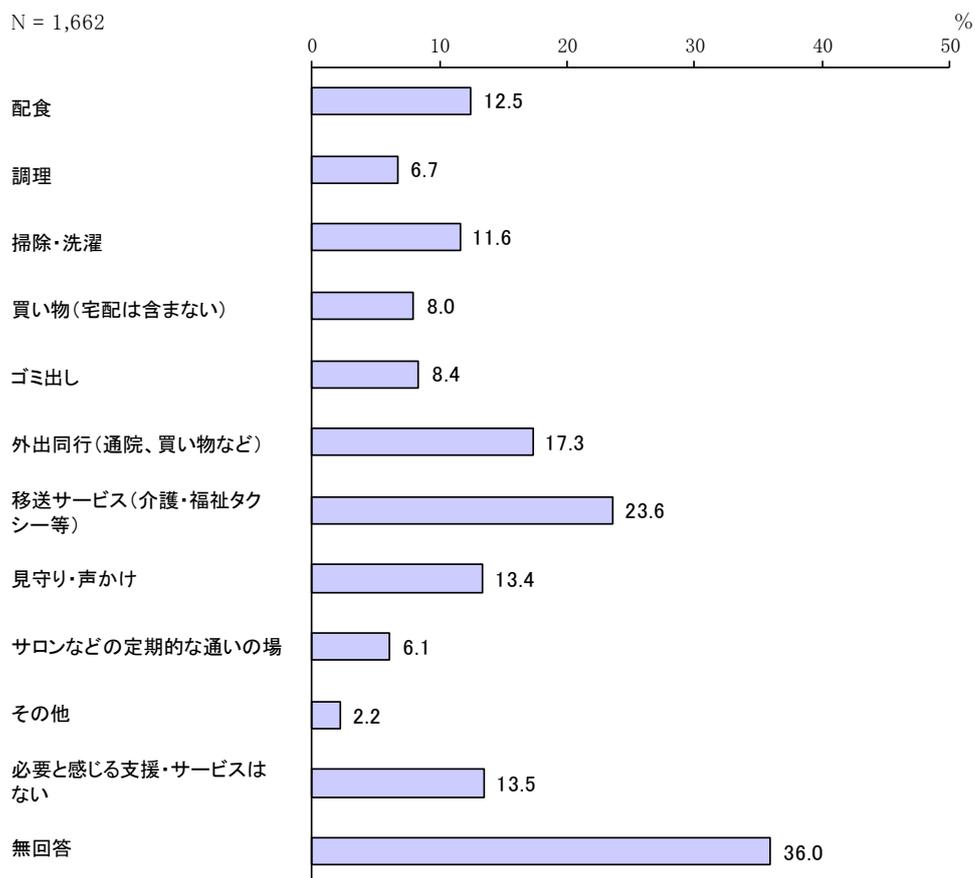
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿南部、亀山で「利用していない」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	配食	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	移送サービス(介護・福祉タクシー等)	見守り・声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
鈴鹿西部	299	8.4	3.7	7.4	2.7	4.7	7.4	9.4	5.4	2.7	1.0	42.5	28.8
鈴鹿北部	320	8.8	1.9	5.6	3.1	2.8	5.6	8.1	3.8	0.6	2.2	44.4	29.1
鈴鹿中部	317	9.1	1.9	5.4	2.5	2.5	4.1	8.8	3.2	2.2	2.5	45.1	29.3
鈴鹿南部	334	7.5	3.9	8.4	6.6	6.0	8.4	11.7	5.7	3.9	2.1	39.8	28.7
亀山	318	7.9	2.5	9.7	3.1	5.3	8.8	11.9	3.5	4.7	2.2	37.7	30.8

問 15 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。
（複数選択可）

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が 23.6%と最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」の割合が 17.3%、「必要と感じる支援・サービスはない」の割合が 13.5%となっています。



【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要介護5で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が高くなっています。また、要介護1から要介護3で「見守り・声かけ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り・声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	必要と感じる支援・サービスはない	無回答
要支援1	307	13.7	5.5	12.4	11.4	8.1	16.0	25.7	11.1	8.1	2.6	11.4	36.2
要支援2	397	10.8	6.3	12.8	8.6	12.6	19.4	22.4	10.8	5.5	2.5	12.8	35.3
要介護1	242	17.8	10.7	13.2	9.1	11.6	21.1	25.6	16.9	9.5	2.9	15.7	28.1
要介護2	246	14.2	6.5	12.6	8.1	6.1	20.3	23.2	20.7	5.7	1.6	17.9	25.2
要介護3	165	12.7	4.8	11.5	4.8	6.7	18.8	25.5	18.8	5.5	1.8	16.4	31.5
要介護4	121	9.1	6.6	9.1	5.0	4.1	9.1	26.4	8.3	4.1	1.7	14.9	41.3
要介護5	70	12.9	10.0	7.1	7.1	5.7	15.7	32.9	11.4	2.9	4.3	7.1	40.0
わからない	26	3.8	11.5	11.5	7.7	3.8	19.2	19.2	11.5	7.7	—	15.4	46.2

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部で「必要と感じる支援・サービスはない」の割合が高くなっています。

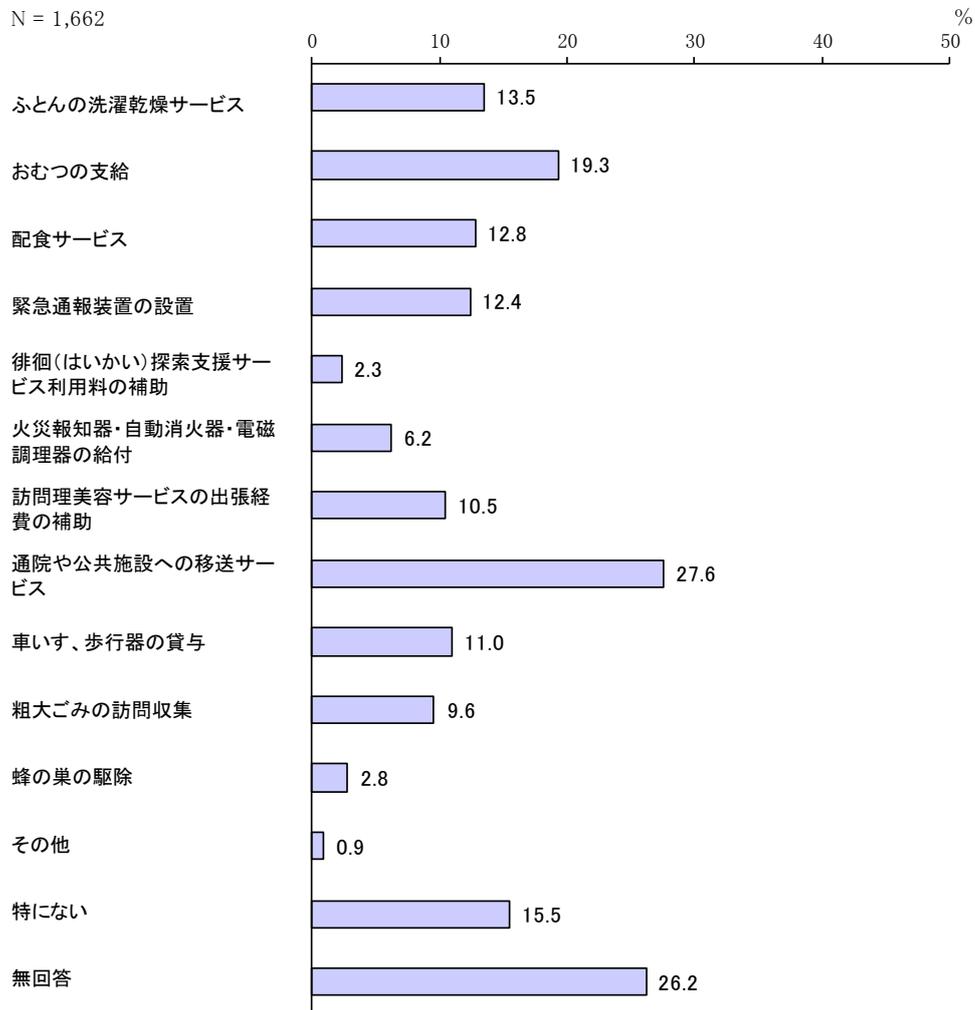
単位：％

単位：％

区分	有効回答数（件）	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り・声かけ	サロンなどの定期的な通いの場	その他	必要と感じる支援・サービスはない	無回答
鈴鹿西部	299	12.0	8.0	11.7	8.0	9.4	15.7	21.7	13.4	6.7	1.0	13.7	37.8
鈴鹿北部	320	10.9	5.0	10.0	7.8	6.9	18.4	25.6	11.3	5.9	3.1	18.4	30.0
鈴鹿中部	317	11.7	5.0	9.1	5.7	7.6	17.0	24.0	14.5	5.7	2.5	14.5	34.1
鈴鹿南部	334	10.5	6.9	12.9	11.1	10.5	17.7	23.1	14.7	6.0	1.8	13.2	36.8
亀山	318	16.0	8.5	13.8	7.9	8.2	17.9	21.1	13.2	7.2	2.2	9.4	42.8

問 16 以下のサービスで、利用したいと思うサービスはありますか。(複数選択可)

「通院や公共施設への移送サービス」の割合が 27.6%と最も高く、次いで「おむつの支給」の割合が 19.3%、「特にない」の割合が 15.5%となっています。



【日常生活圏域別】

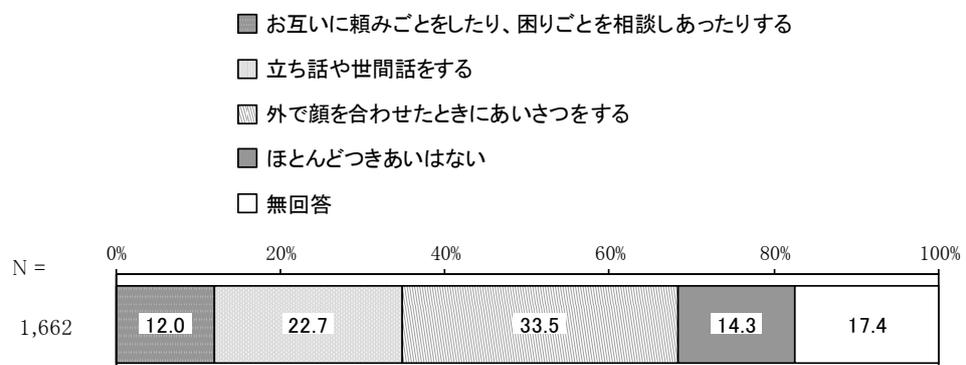
日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「おむつの支給」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	ふとんの洗濯乾燥サービス	おむつの支給	配食サービス	緊急通報装置の設置	徘徊(はいかい)探索支援サービス利用料の補助	電磁調理器の給付	火災報知器・自動消火器・電磁調理器の給付	訪問理美容サービスの出張費の補助	訪問美容サービスの出張費の補助	通院や公共施設への移送サービス	車いす、歩行器の貸与	粗大ごみの訪問収集	蜂の巣の駆除	その他	特になし	無回答
鈴鹿西部	299	14.7	22.7	12.0	10.0	1.3	3.0	9.0	25.1	10.4	10.7	3.0	0.3	19.4	25.1		
鈴鹿北部	320	11.9	20.3	11.6	14.4	1.9	5.9	10.3	28.1	9.7	9.7	1.6	0.9	16.3	21.9		
鈴鹿中部	317	12.0	21.1	13.2	11.0	2.5	6.9	12.9	26.2	10.1	9.5	3.8	0.9	16.1	27.4		
鈴鹿南部	334	15.6	18.9	11.7	14.1	1.5	8.7	11.7	29.9	13.5	10.8	2.4	1.5	13.8	26.0		
亀山	318	11.6	14.8	13.2	11.3	4.4	6.6	8.2	26.1	12.3	7.2	3.8	0.6	12.6	31.1		

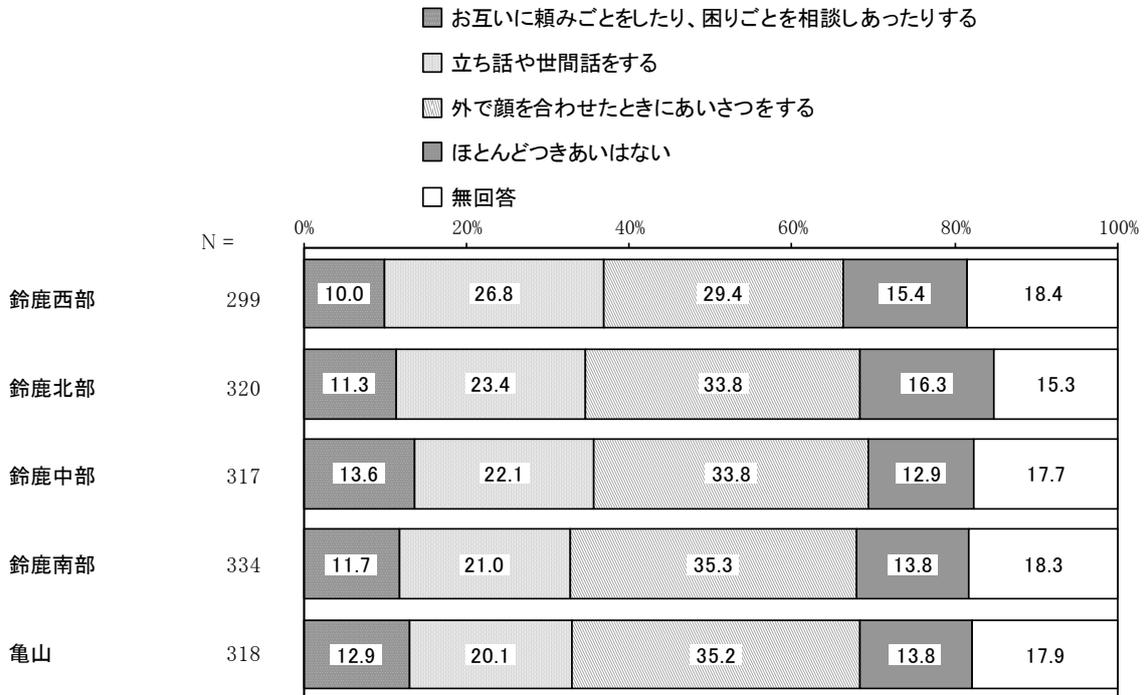
問 17 隣近所や地域の方との程度のおつきあいをしていますか。(1つを選択)

「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が33.5%と最も高く、次いで「立ち話や世間話をする」の割合が22.7%、「ほとんどつきあいはない」の割合が14.3%となっています。



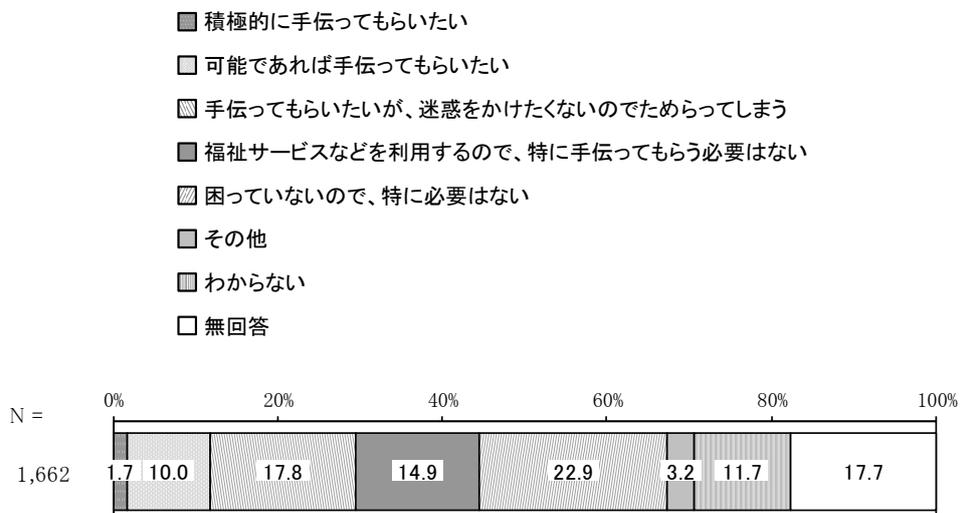
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「外で顔を合わせたときにあいさつをする」の割合が低くなっています。



問 18 隣近所や地域の人から困っていることなどの手助けをしてもらいたいですか。(1つを選択)

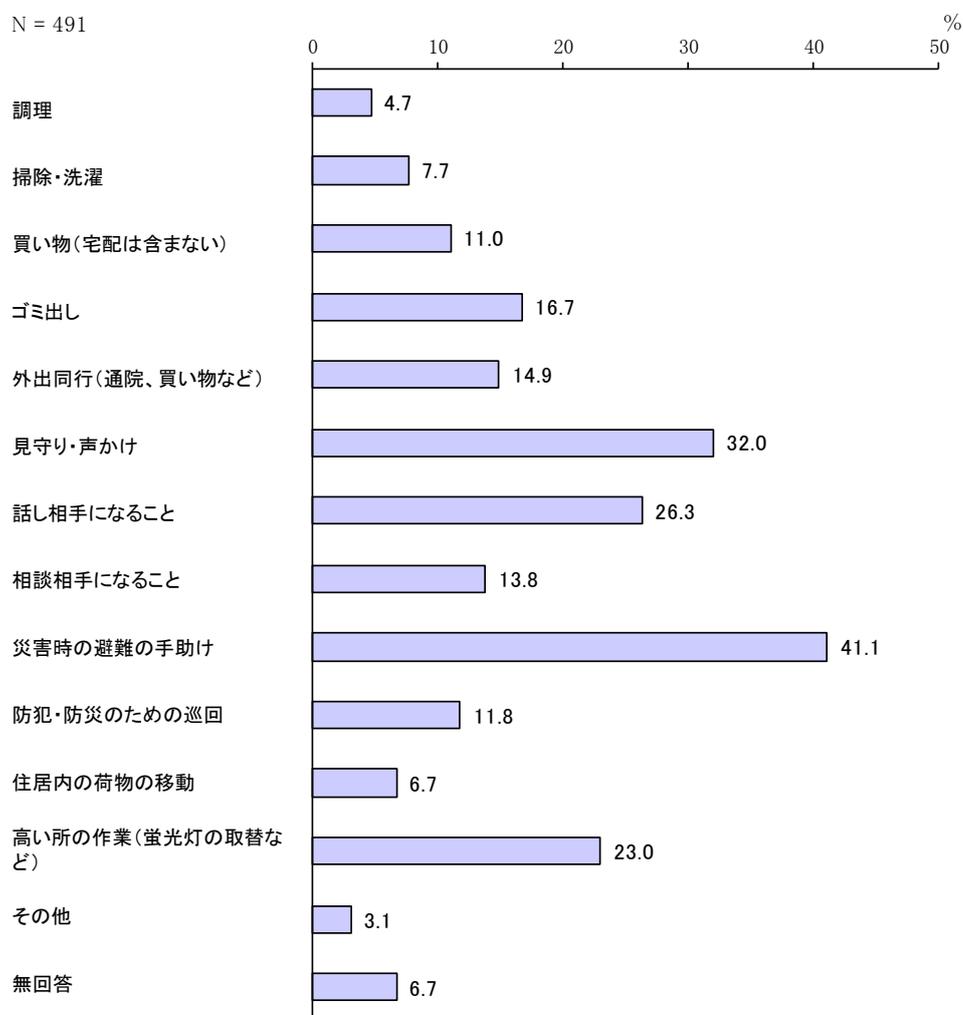
「困っていないので、特に必要はない」の割合が 22.9%と最も高く、次いで「手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのためらってしまう」の割合が 17.8%、「福祉サービスなどを利用するので、特に手伝ってもらわなければならない」の割合が 14.9%となっています。



問 18 で「1 積極的に手伝ってもらいたい」「2 可能であれば手伝ってもらいたい」「3 手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのためらってしまう」と回答した方にお伺いします。

問 18-② 具体的にどのような手助けをしてもらいたいですか。(複数選択可)

「災害時の避難の手助け」の割合が 41.1%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」の割合が 32.0%、「話し相手になること」の割合が 26.3%となっています。



【要介護度別】

要介護度別でみると、他に比べ、要介護2、要介護4、要介護5で「災害時の避難の手助け」の割合が高くなっています。また、要介護1から要介護3で「見守り・声かけ」の割合が、要介護1、要介護3で「話し相手になること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	巡回	防犯・防災のための	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
要支援1	120	2.5	6.7	13.3	10.8	18.3	26.7	15.0	10.0	41.7	18.3	8.3	30.0	0.8	10.8	
要支援2	131	1.5	6.9	12.2	22.1	19.1	21.4	20.6	12.2	37.4	6.9	7.6	27.5	6.1	8.4	
要介護1	70	10.0	11.4	8.6	20.0	11.4	42.9	38.6	17.1	30.0	7.1	8.6	18.6	2.9	2.9	
要介護2	63	7.9	6.3	12.7	19.0	17.5	44.4	31.7	23.8	50.8	14.3	4.8	14.3	1.6	3.2	
要介護3	47	6.4	6.4	6.4	10.6	2.1	46.8	40.4	6.4	44.7	12.8	2.1	10.6	6.4	4.3	
要介護4	28	7.1	7.1	7.1	14.3	10.7	28.6	28.6	14.3	53.6	10.7	3.6	17.9	—	3.6	
要介護5	15	—	6.7	6.7	6.7	—	20.0	26.7	13.3	53.3	13.3	—	13.3	—	6.7	
わからない	8	—	25.0	12.5	37.5	25.0	37.5	37.5	25.0	75.0	25.0	25.0	62.5	—	—	

【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部で「外出同行(通院、買い物など)」「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」の割合が高くなっています。

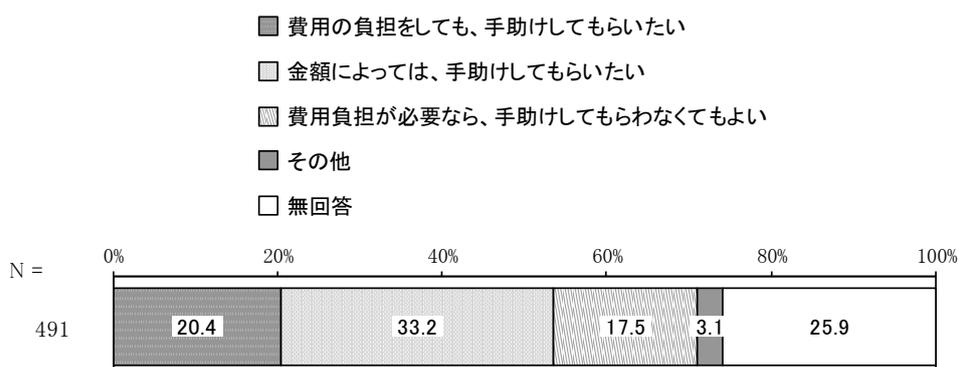
単位：％

区分	有効回答数(件)	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	巡回	防犯・防災のための	住居内の荷物の移動	高い所の作業(蛍光灯の取替など)	その他	無回答
鈴鹿西部	84	4.8	9.5	10.7	17.9	11.9	28.6	26.2	15.5	45.2	15.5	8.3	21.4	2.4	4.8	
鈴鹿北部	99	7.1	9.1	7.1	16.2	18.2	31.3	28.3	15.2	42.4	8.1	1.0	17.2	3.0	7.1	
鈴鹿中部	83	3.6	6.0	10.8	12.0	24.1	33.7	25.3	10.8	34.9	9.6	13.3	34.9	2.4	4.8	
鈴鹿南部	92	5.4	6.5	15.2	18.5	9.8	29.3	29.3	10.9	42.4	12.0	10.9	19.6	4.3	12.0	
亀山	102	2.9	6.9	12.7	16.7	13.7	34.3	25.5	14.7	42.2	11.8	2.9	22.5	2.9	4.9	

問 18 で「1 積極的に手伝ってもらいたい」「2 可能であれば手伝ってもらいたい」「3 手伝ってもらいたいが、迷惑をかけたくないのでためらってしまう」と回答した方にお伺いします。

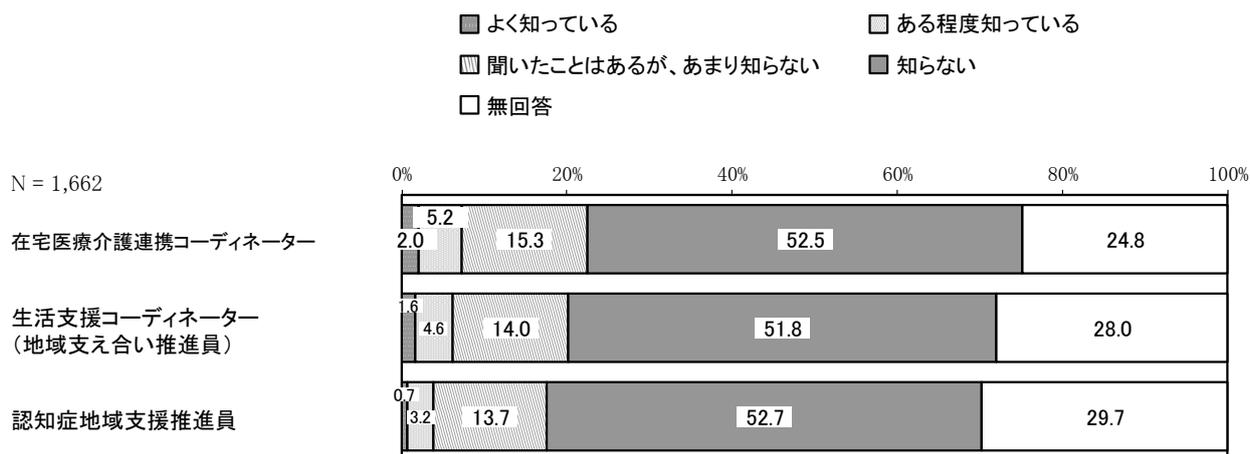
問 18-③ 問 18-②で選択された手助けに対し、費用の負担をすることをどう思いますか。(1つを選択)

「金額によっては、手助けしてもらいたい」の割合が 33.2%と最も高く、次いで「費用の負担をしても、手助けしてもらいたい」の割合が 20.4%、「費用負担が必要なら、手助けしてもらわなくてもよい」の割合が 17.5%となっています。



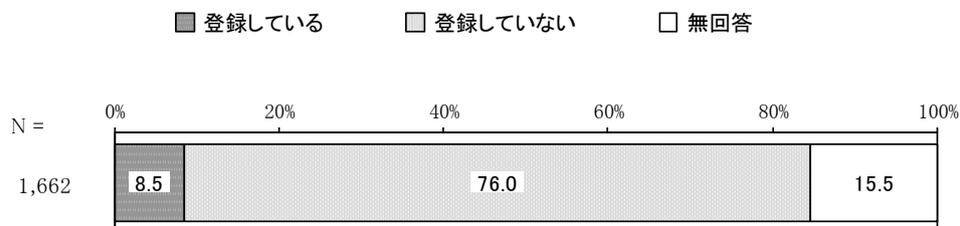
問 19 平成 27 年度の介護保険制度の改正により、高齢者が在宅での生活を継続できるよう、地域に下記のような役割を持つ専門員の設置を進めておりますが、ご存知ですか。(それぞれ1つを選択)

いずれの項目でも「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が低く、1割未満となっています。



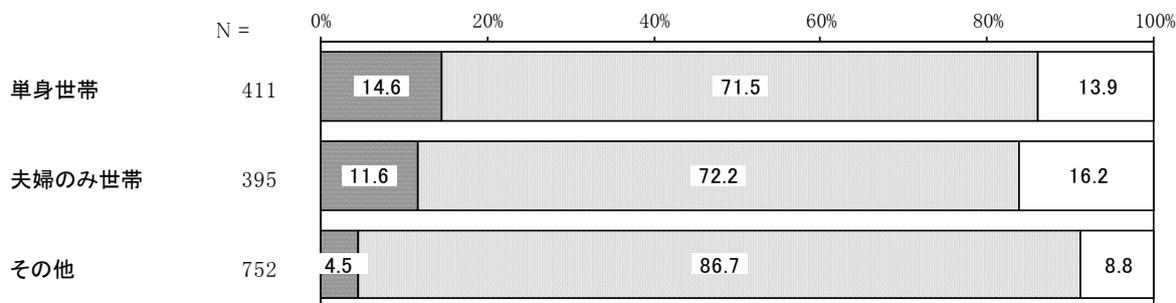
問 20 災害時要援護者とは、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに支援を要する人々をいい、一般的に高齢者、障がい者、外国人、乳幼児、妊婦等があげられています。
 ご本人は、災害時要援護者として登録していますか。(1つを選択)

「登録している」の割合が8.5%、「登録していない」の割合が76.0%となっています。



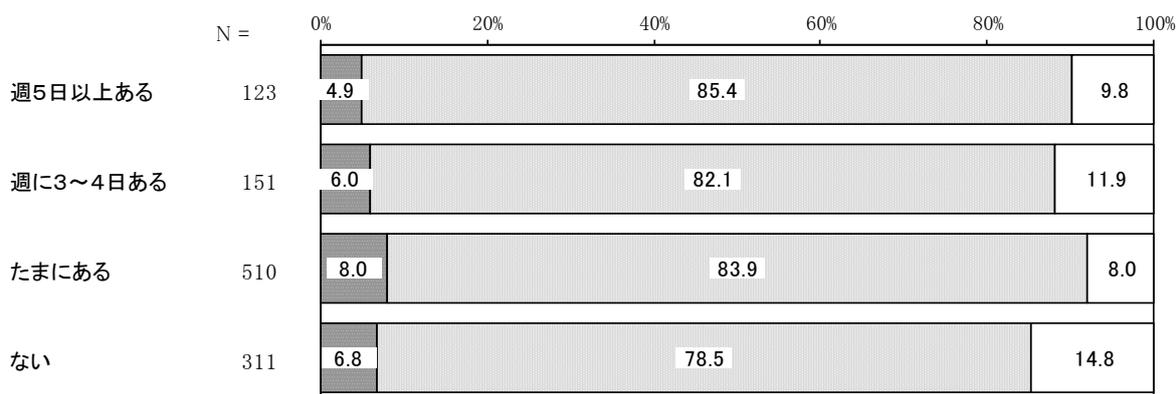
【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はみられません。



【日中1人でいることの有無別】

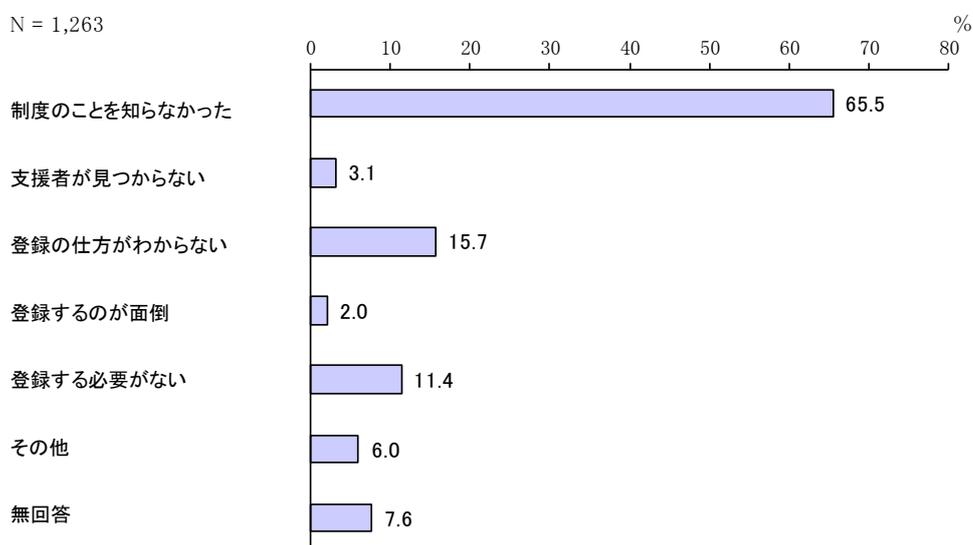
日中1人でいることの有無別でみると、他に比べ、日中1人でいることがない人で「登録していない」の割合が低くなっています。



問 20 で「2 登録していない」と回答した方にお伺いします。

問 20-② 登録していない理由は何ですか。(複数選択可)

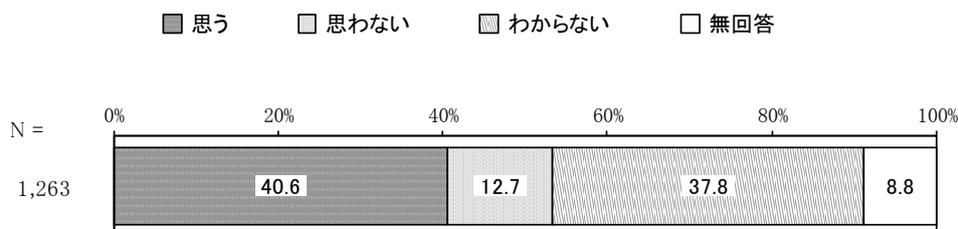
「制度のことを知らなかった」の割合が 65.5%と最も高く、次いで「登録の仕方がわからない」の割合が 15.7%、「登録する必要がある」の割合が 11.4%となっています。



問 20 で「2 登録していない」と回答した方にお伺いします。

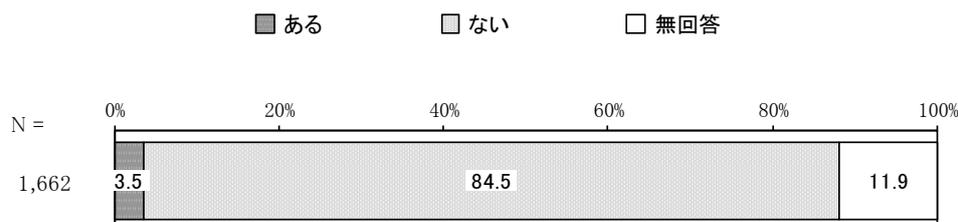
問 20-③ 今後、登録したいと思いますか。(1つを選択)

「思う」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 37.8%、「思わない」の割合が 12.7%となっています。



問 21 介護保険料についてお聞きします。市より保険料納付の督促状が届いたことがありますか。(1つを選択)

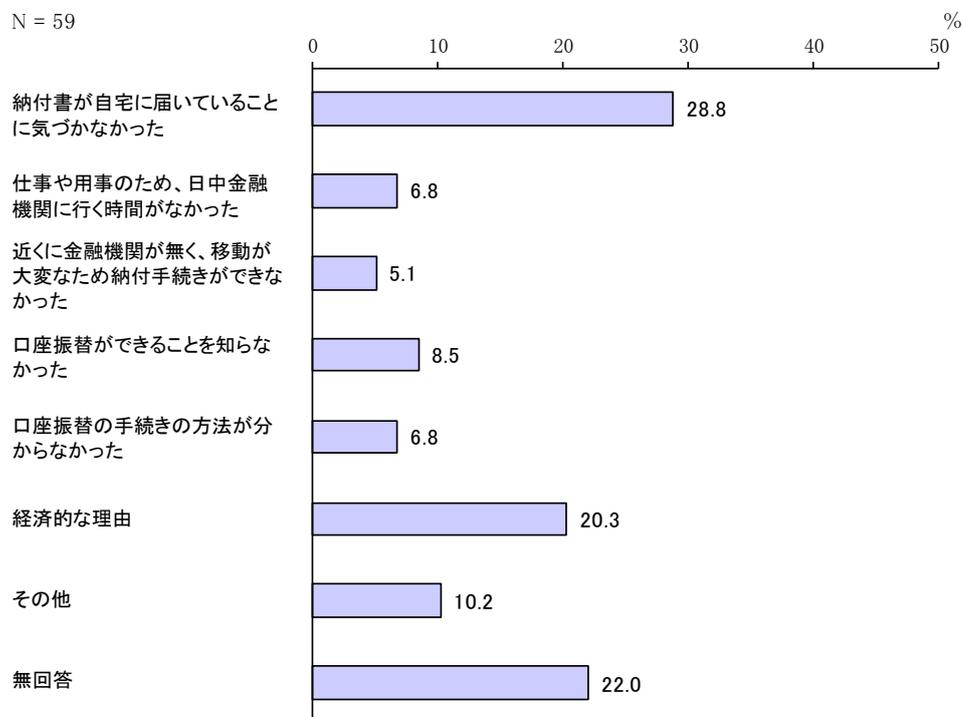
「ある」の割合が 3.5%、「ない」の割合が 84.5%となっています。



問 21 で「1 ある」と回答した方にお伺いします。

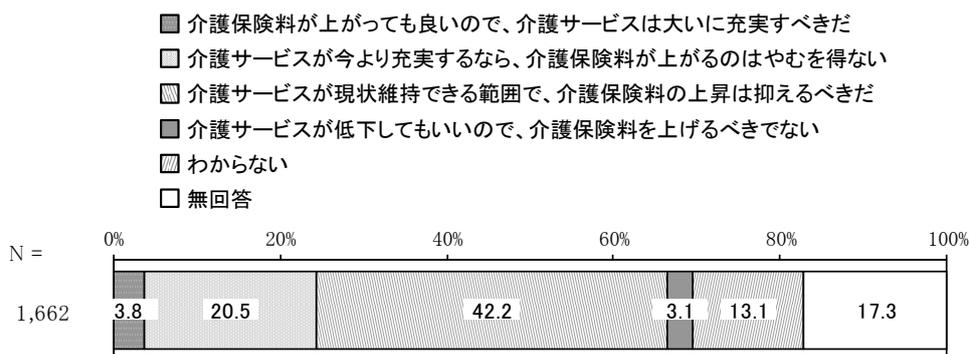
問 21-② 介護保険料を納期限内に納めることができなかった理由は何ですか。
(複数選択可)

「納付書が自宅に届いていることに気づかなかった」の割合が 28.8%と最も高く、次いで「経済的な理由」の割合が 20.3%となっています。



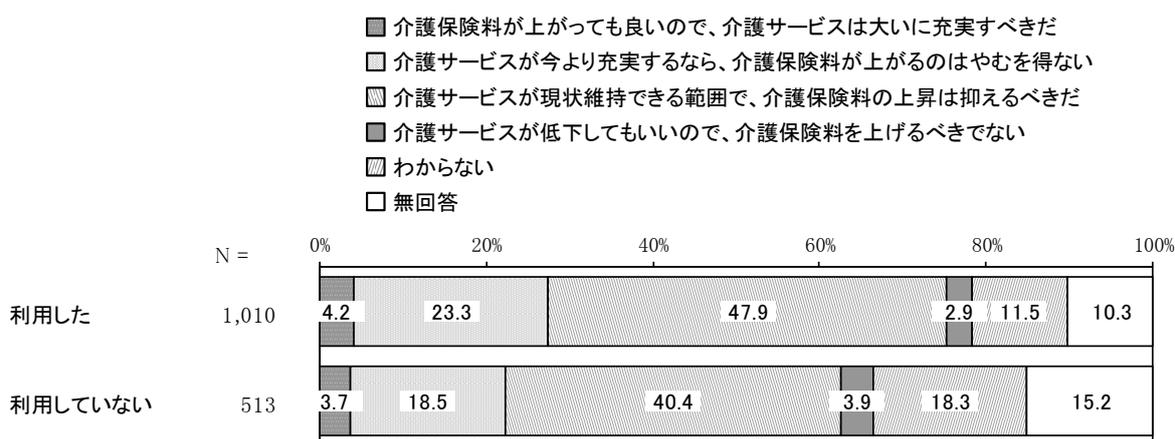
問 22 特別養護老人ホームや老人保健施設などへの入所、訪問介護（看護）や通所介護（リハビリ）、ショートステイなどの利用が多くなれば、それだけ介護保険料も上がることになります。あなたは、介護サービスの水準と保険料についてどのようにお考えですか。（1つを選択）

「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が 42.2% と最も高く、次いで「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」の割合が 20.5%、「わからない」の割合が 13.1% となっています。



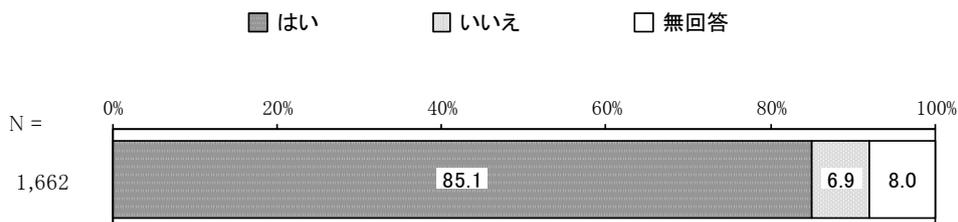
【介護保険サービス利用の有無別】

介護保険サービス利用の有無別でみると、介護保険サービスを利用していない人に比べ、利用している人で「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が高くなっています。



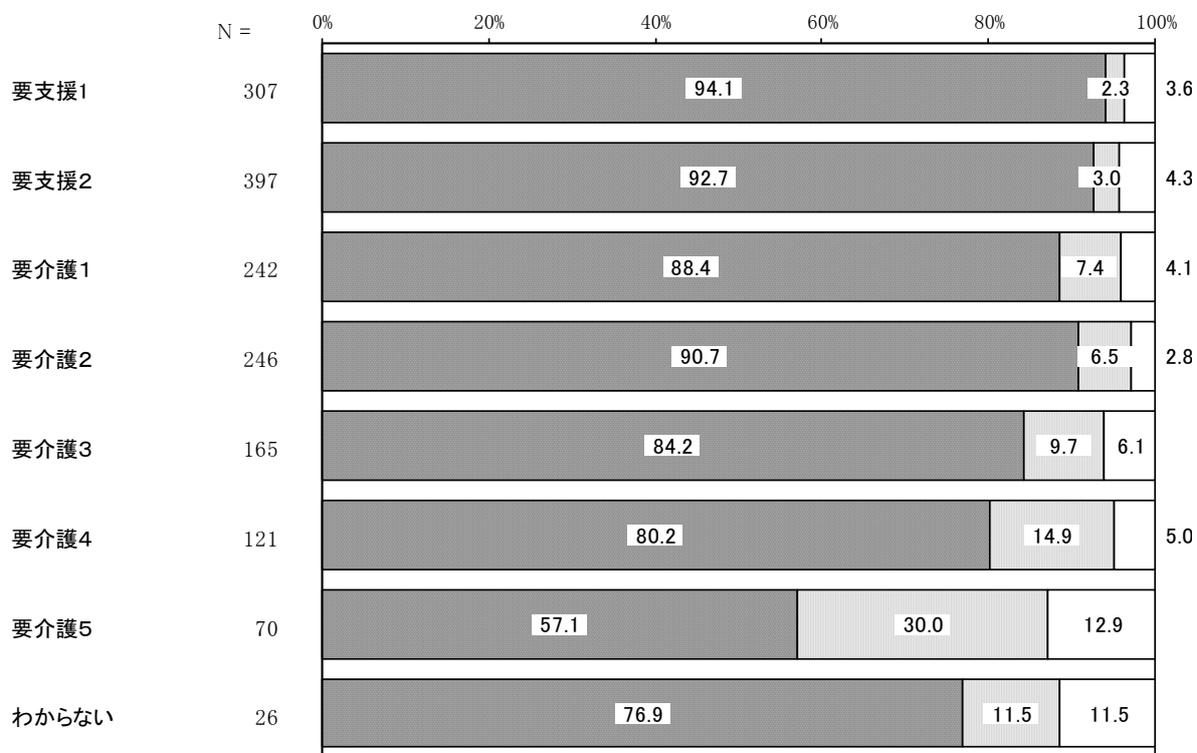
問 23 現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。（1つを選択）

「はい」の割合が85.1%、「いいえ」の割合が6.9%となっています。



【要介護度別】

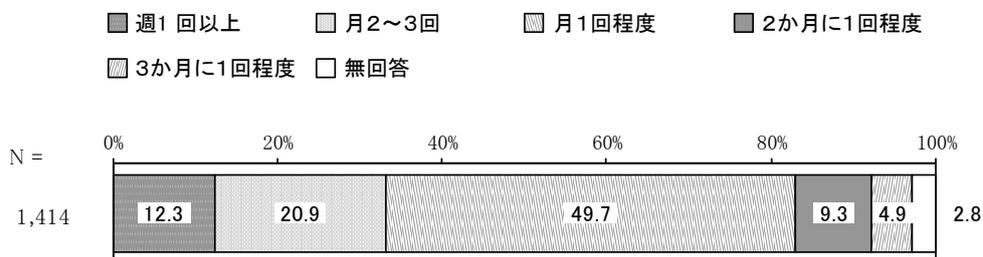
要介護度別で見ると、他に比べ、要支援1 から要介護2 で「はい」の割合が高くなっています。また、要介護5で「いいえ」の割合が高くなっています。



問 23 で「1 はい」と回答した方にお伺いします。

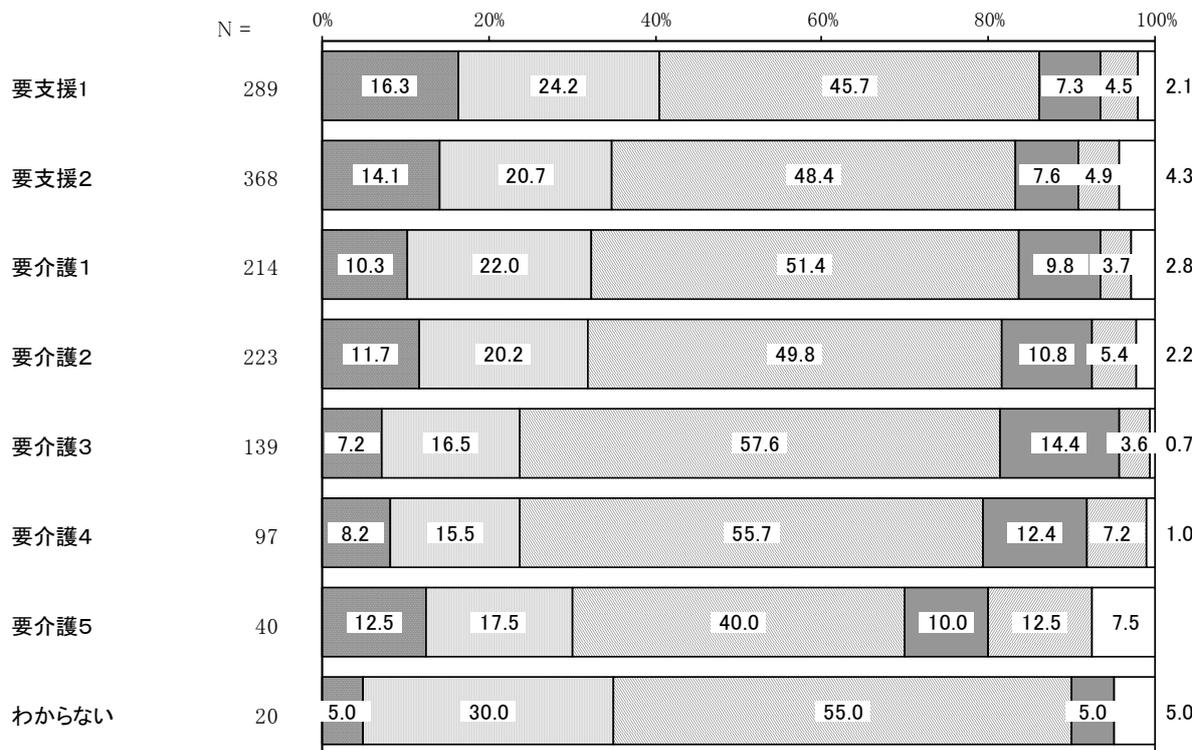
問 23-② その頻度は次のどれですか。(1つを選択)

「月1回程度」の割合が49.7%と最も高く、次いで「月2～3回」の割合が20.9%、「週1回以上」の割合が12.3%となっています。



【要介護度別】

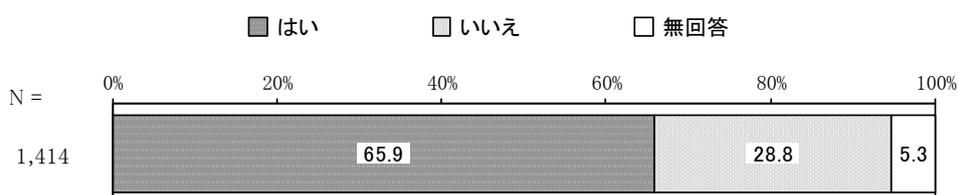
要介護度別で見ると、他に比べ、要介護3、要介護4で「月1回程度」の割合が高くなっています。



問 23 で「1 はい」と回答した方にお伺いします。

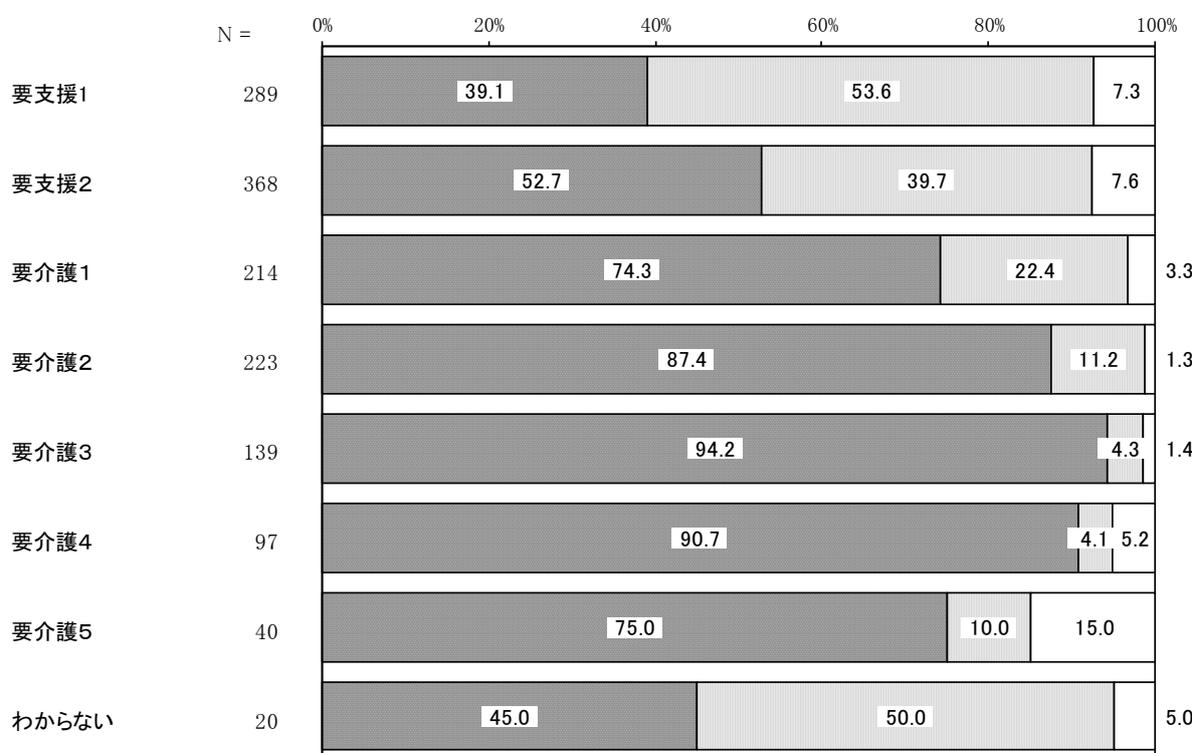
問 23-③ 通院に介助が必要ですか。(1つを選択)

「はい」の割合が 65.9%、「いいえ」の割合が 28.8%となっています。



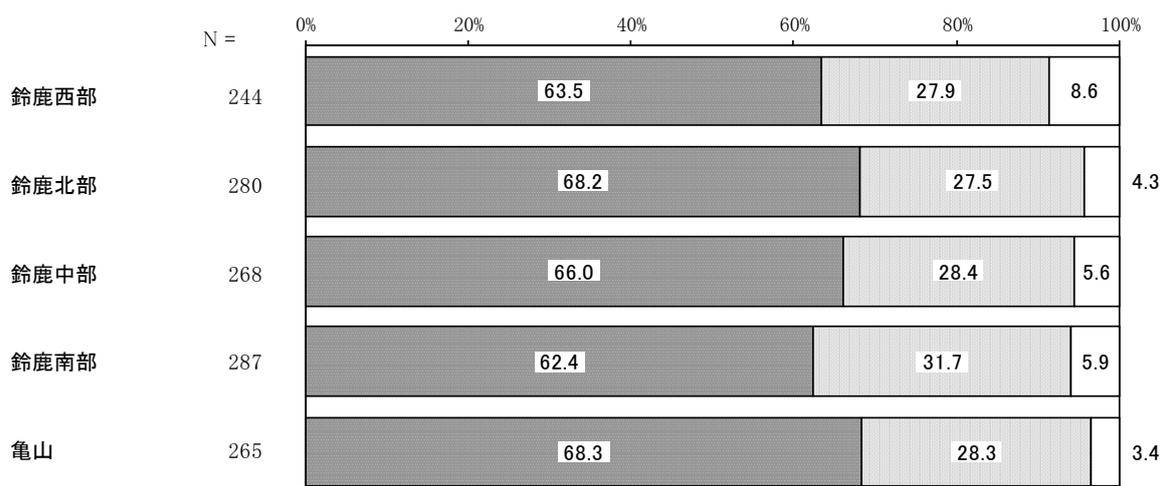
【要介護度別】

要介護度別でみると、他に比べ、要介護 3、要介護 4 で「はい」の割合が高くなっています。また、要支援 1 で「いいえ」の割合が高くなっています。



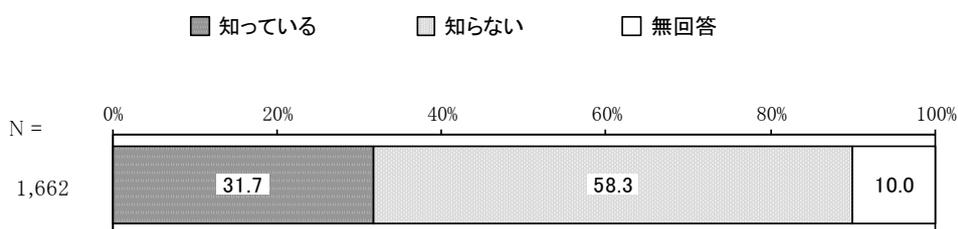
【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、大きな差異はみられません。



問 24 通院できない患者に対し、定期的に訪問を受けて診察が受けられる「訪問診療」をおこなう医療機関があることをご存知ですか。（1つを選択）

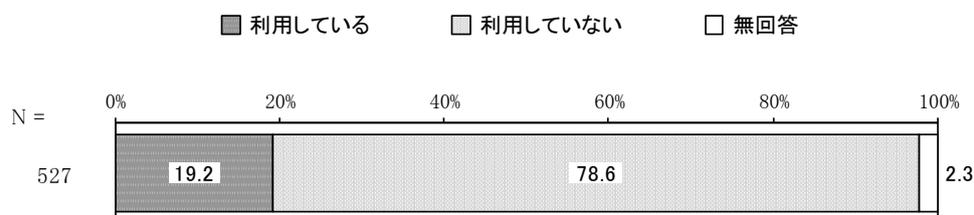
「知っている」の割合が31.7%、「知らない」の割合が58.3%となっています。



問 24 で「1 知っている」と回答した方にお伺いします。

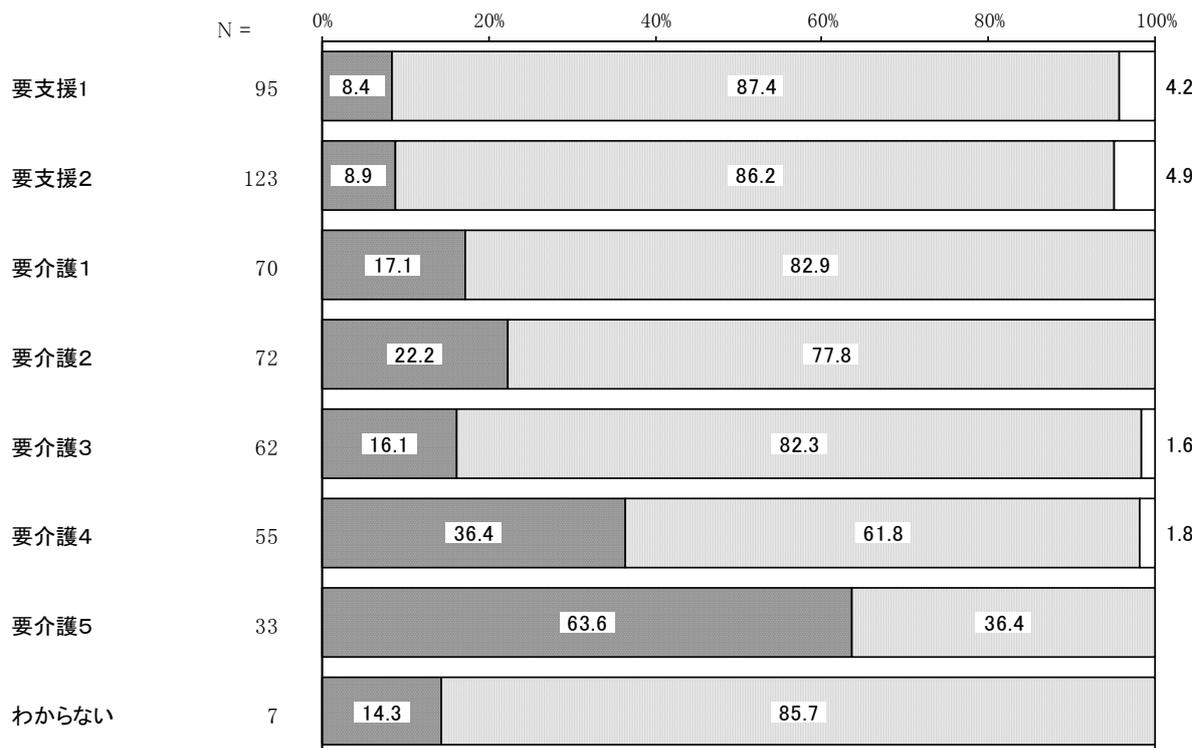
問 24-② ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（1つを選択）

「利用している」の割合が19.2%、「利用していない」の割合が78.6%となっています。



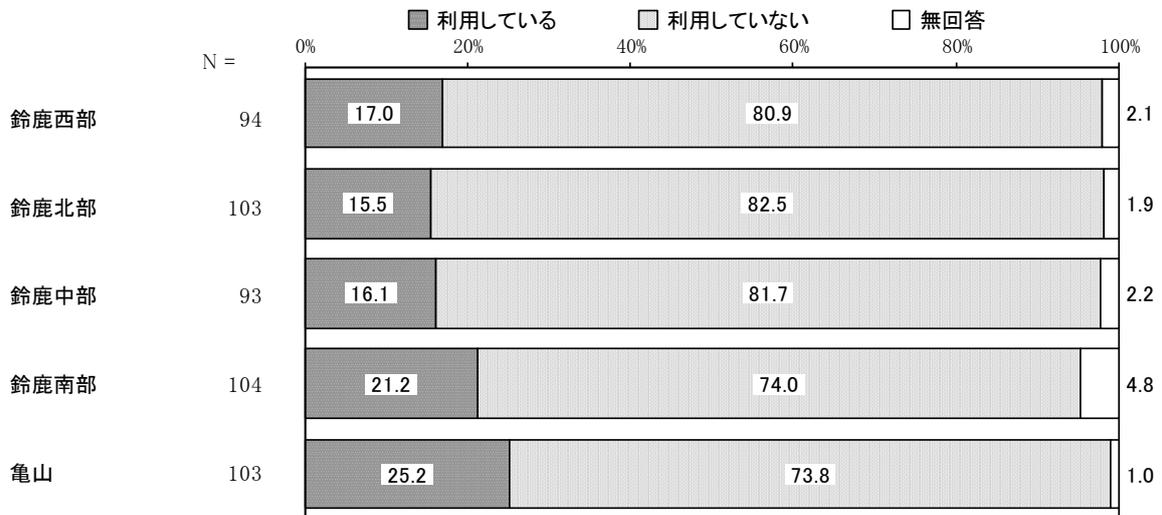
【要介護度別】

要介護度別で見ると、介護度が重くなるにつれ「利用している」の割合が高くなる傾向がみられます。



【日常生活圏域別】

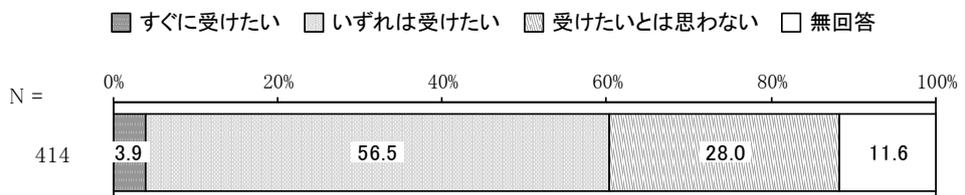
日常生活圏域別でみると、他に比べ、亀山で「利用している」の割合が高くなっています。



問 24-②で「2 利用していない」と回答した方にお伺いします。

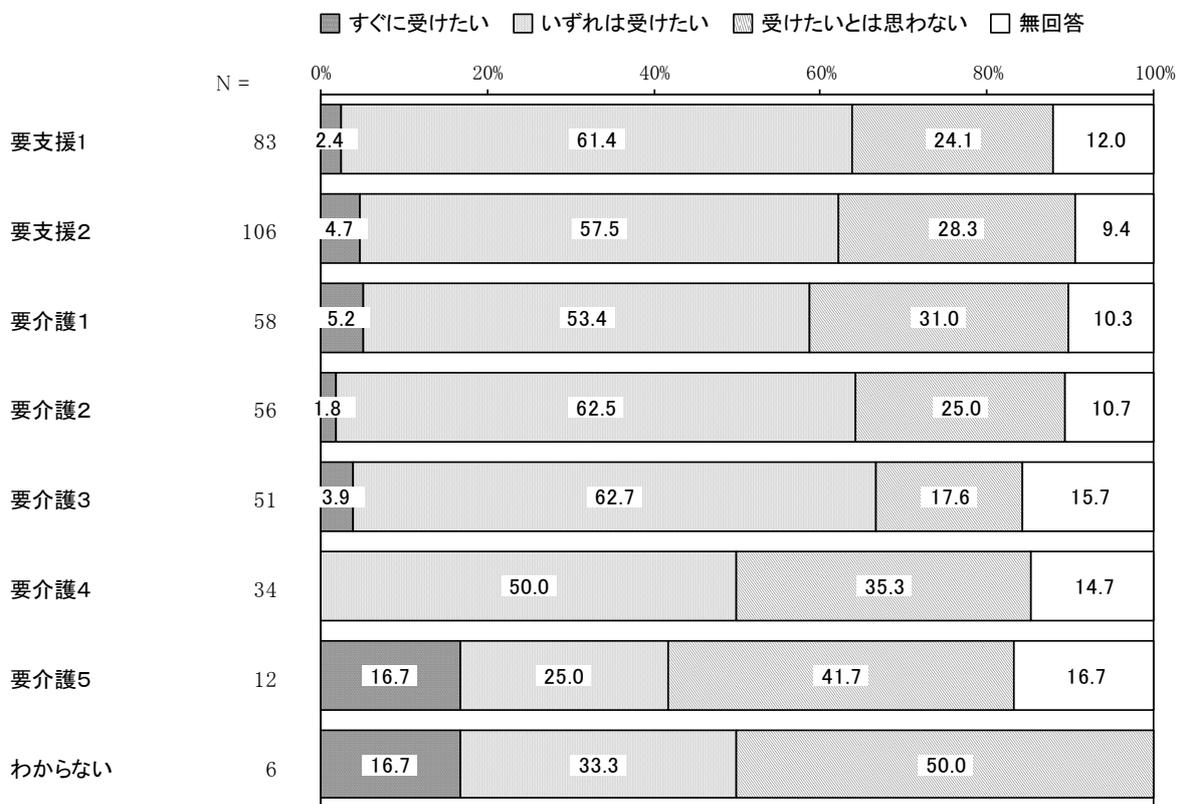
問 24-③ 「訪問診療」による診察を受けたいと思いますか。(1つを選択)

「いずれは受けたい」の割合が56.5%と最も高く、次いで「受けたいとは思わない」の割合が28.0%となっています。



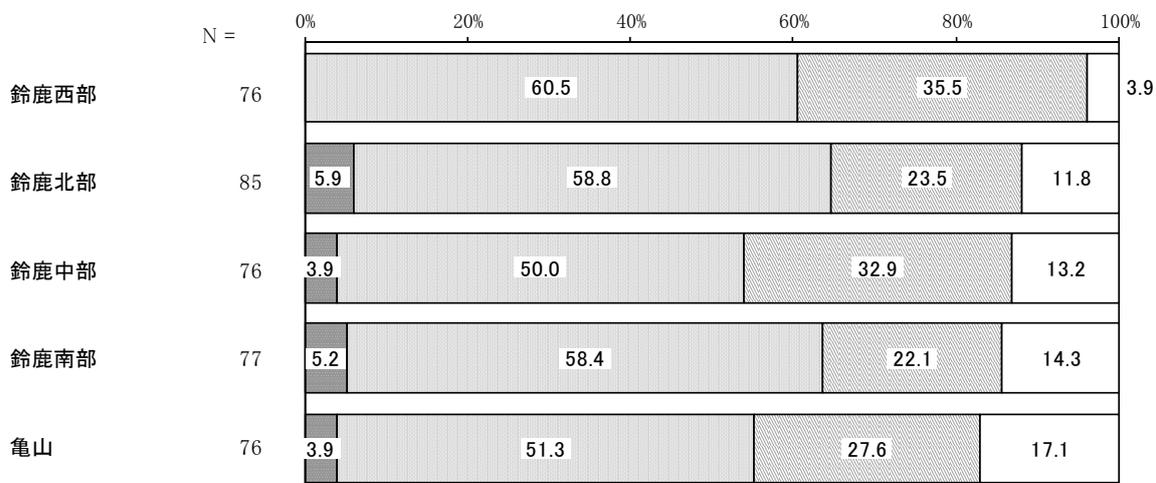
【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要支援1、要介護2、要介護3で「いずれは受けたい」の割合が高くなっています。また、要介護5で「すぐに受けたい」「受けたいとは思わない」の割合が高くなっています。



【日常生活圏域別】

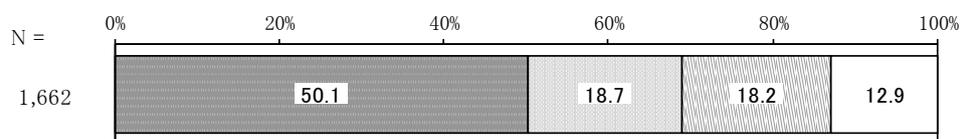
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「いずれは受けたい」の割合が高くなっています。



問 25 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1つを選択）

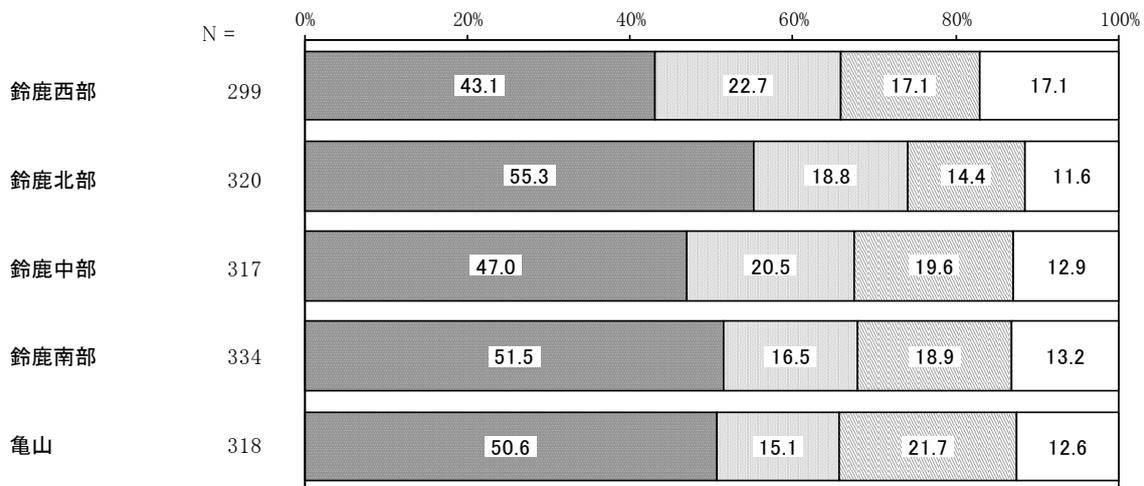
「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が50.1%と最も高く、次いで「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が18.7%、「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が18.2%となっています。

- 自分の居住する地区を担当するセンターを知っている
- 地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない
- ▨ 地域包括支援センターのことは知らない
- 無回答



【日常生活圏域別】

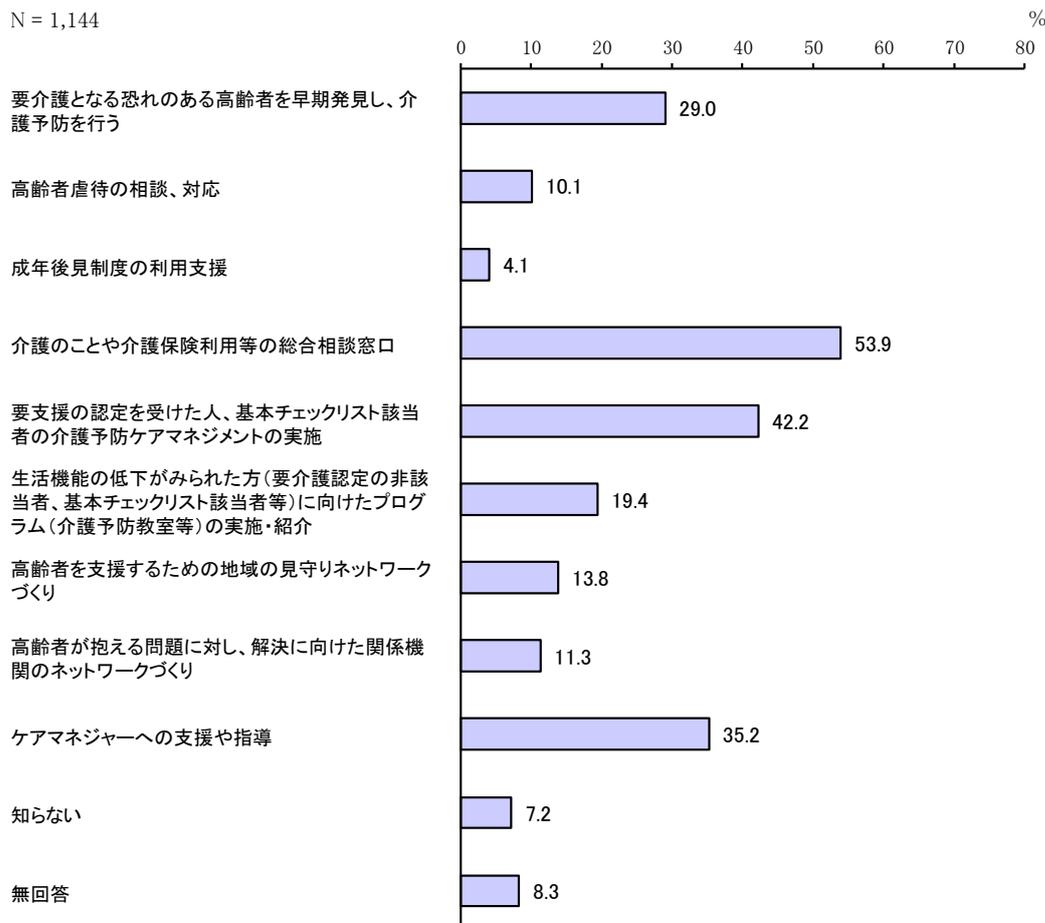
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が高くなっています。



問 25 で「1 自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」または「2 地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」と回答した方にお伺いします。

問 25-②「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。
(複数選択可)

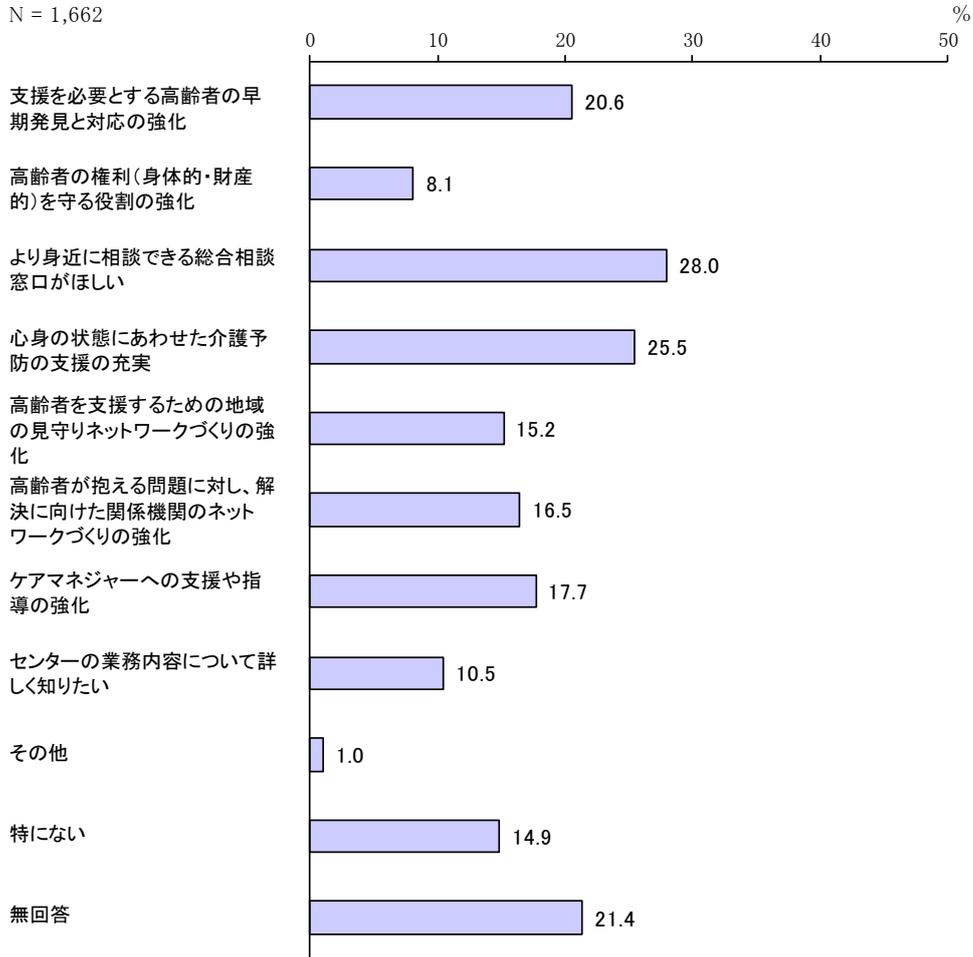
「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」の割合が 42.2%、「ケアマネジャーへの支援や指導」の割合が 35.2%となっています。



問 26 「地域包括支援センター」にどのようなことを望みますか。(複数選択可)

「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が 28.0%と最も高く、次いで「心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実」の割合が 25.5%、「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」の割合が 20.6%となっています。

N = 1,662



【日常生活圏域別】

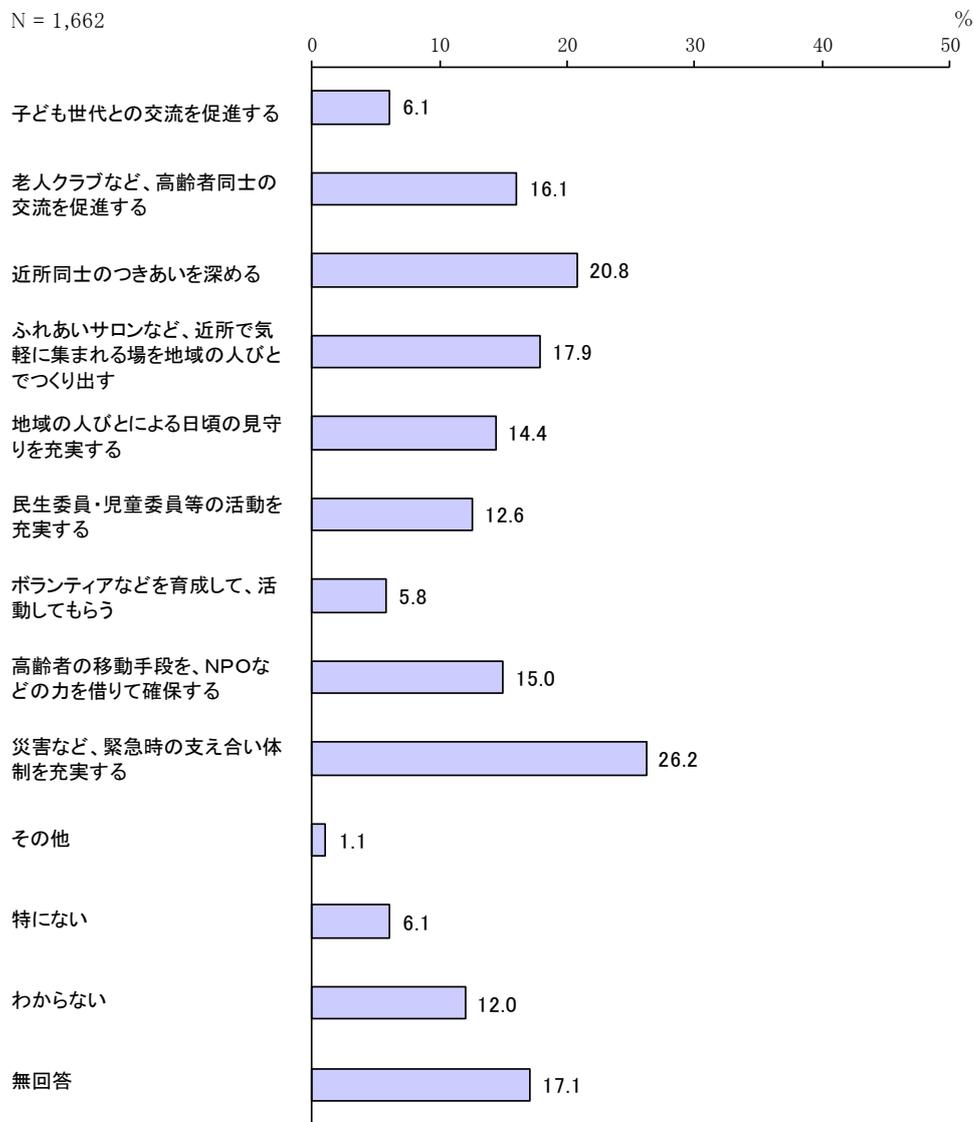
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化」「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部、鈴鹿中部で「ケアマネジャーへの支援や指導の強化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化	高齢者の権利(身体的・財産的)を守る役割の強化	より身近に相談できる総合相談窓口がほしい	心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実	高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくりの強化	高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくりの強化	ケアマネジャーへの支援や指導の強化	センターの業務内容について詳しく知りたい	その他	特になし	無回答
鈴鹿西部	299	19.7	8.7	26.4	26.8	15.1	14.4	19.7	11.7	0.3	13.7	23.7
鈴鹿北部	320	24.4	6.6	31.9	25.0	14.1	15.0	14.1	11.6	0.6	15.3	20.3
鈴鹿中部	317	18.6	9.8	26.8	26.8	15.8	18.3	20.8	9.8	0.6	15.1	21.8
鈴鹿南部	334	18.9	8.1	26.6	25.4	13.5	15.3	17.7	7.8	1.5	17.1	23.7
亀山	318	19.5	5.7	28.3	23.9	15.4	16.0	17.3	10.7	1.3	13.8	19.5

問 27 あなたは今、住んでいる地域（地区、自治会など）が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。（3つまでを選択）

「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が 26.2%と最も高く、次いで「近所同士のつきあいを深める」の割合が 20.8%、「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」の割合が 17.9%となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、75～79歳で「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。また、65～69歳で「地域の人びとによる日頃の見守りを充実する」の割合が、80～84歳、85～89歳で「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
65歳未満	34	11.8	11.8	11.8	26.5	5.9	11.8	8.8	26.5	29.4	2.9	2.9	11.8	11.8
65～69歳	78	5.1	9.0	19.2	17.9	25.6	10.3	6.4	16.7	25.6	—	11.5	12.8	10.3
70～74歳	110	10.0	12.7	24.5	20.9	16.4	9.1	9.1	20.0	25.5	0.9	3.6	17.3	15.5
75～79歳	222	4.5	14.0	21.6	18.0	10.4	12.2	5.9	18.0	33.8	1.4	4.1	14.0	15.3
80～84歳	404	6.2	20.8	23.8	18.3	16.6	14.6	5.0	15.6	27.5	0.7	5.2	9.9	13.9
85～89歳	439	6.4	20.0	23.0	16.6	14.8	15.3	5.2	12.3	25.5	2.1	7.5	10.7	14.8
90歳以上	308	6.2	11.7	16.6	19.8	14.6	11.0	7.1	15.6	25.6	0.3	8.1	15.6	14.3

【要介護度別】

要介護度別で見ると、他に比べ、要支援1 から要介護1 で「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」の割合が高くなっています。また、要介護2 で「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
要支援1	307	6.8	21.8	29.3	20.5	15.0	12.7	4.2	16.6	24.8	1.6	6.2	7.5	13.0
要支援2	397	4.5	17.9	21.4	17.4	13.4	13.6	8.3	14.9	25.9	1.3	8.1	10.3	14.4
要介護1	242	7.9	18.6	17.8	19.0	12.8	14.0	5.8	12.8	29.3	0.4	7.0	13.2	13.2
要介護2	246	7.3	13.4	21.1	24.4	17.1	14.2	5.7	13.4	29.3	0.4	6.9	17.9	8.5
要介護3	165	6.7	14.5	18.2	15.2	17.0	10.9	6.7	21.2	30.3	1.8	4.2	13.3	17.6
要介護4	121	5.0	8.3	19.0	14.0	18.2	12.4	4.1	19.0	28.1	1.7	2.5	15.7	18.2
要介護5	70	5.7	11.4	12.9	8.6	15.7	8.6	4.3	17.1	27.1	—	7.1	12.9	24.3
わからない	26	7.7	3.8	19.2	7.7	23.1	19.2	3.8	11.5	26.9	—	3.8	15.4	26.9

【日常生活圏域別】

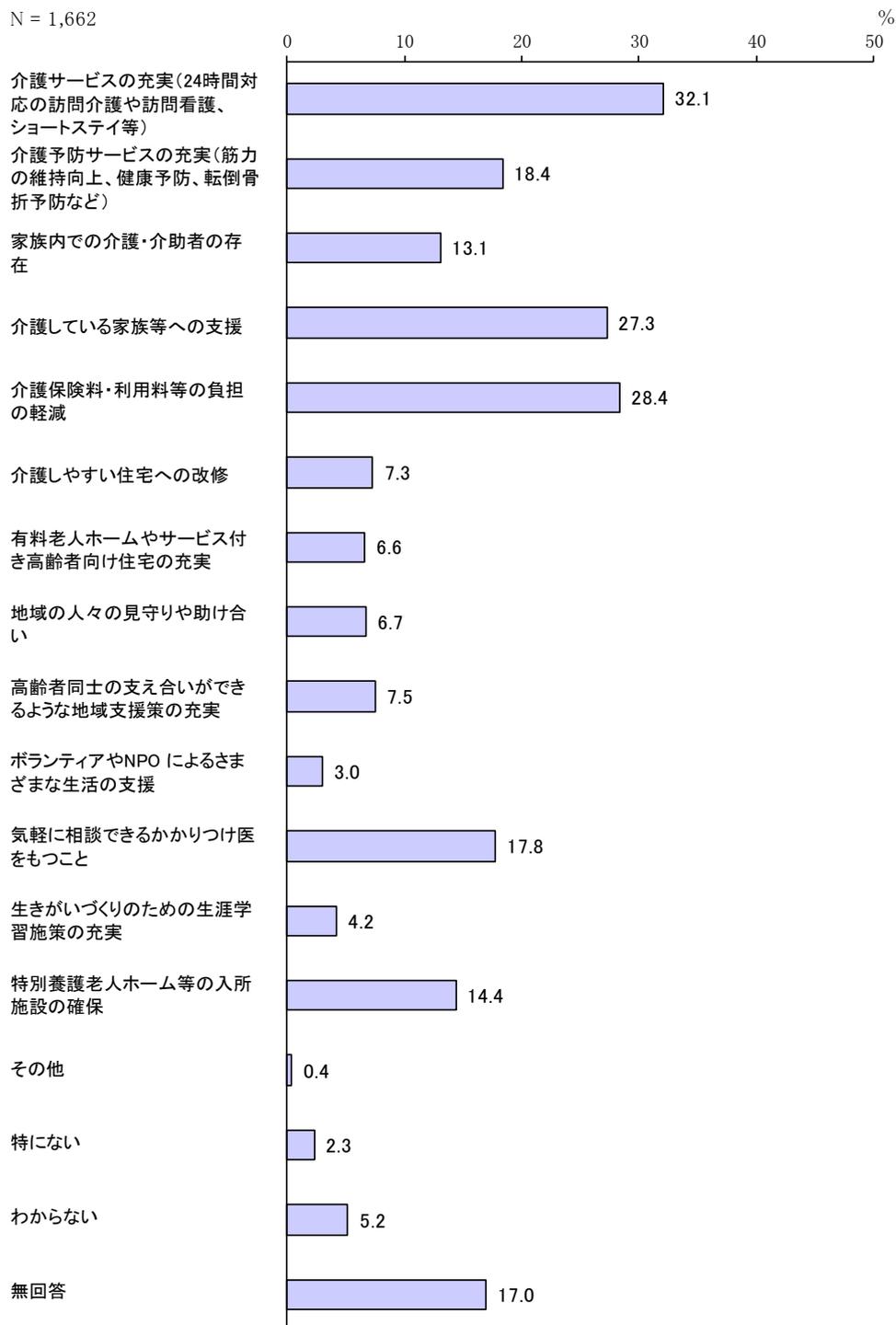
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部で「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
鈴鹿西部	299	5.4	13.0	22.1	15.4	11.4	9.4	4.0	14.7	23.4	—	6.7	14.4	19.7
鈴鹿北部	320	5.6	17.8	21.6	16.9	16.6	12.2	5.3	16.9	31.9	2.5	3.1	13.4	14.7
鈴鹿中部	317	6.6	17.0	20.8	20.5	13.2	12.3	5.7	14.8	23.7	0.3	6.6	12.9	18.3
鈴鹿南部	334	8.1	18.0	17.4	18.0	13.2	12.9	5.4	13.5	26.3	1.5	6.6	10.5	18.3
亀山	318	5.3	14.8	22.0	19.2	15.7	15.7	7.9	14.5	23.9	1.6	8.2	8.5	16.0

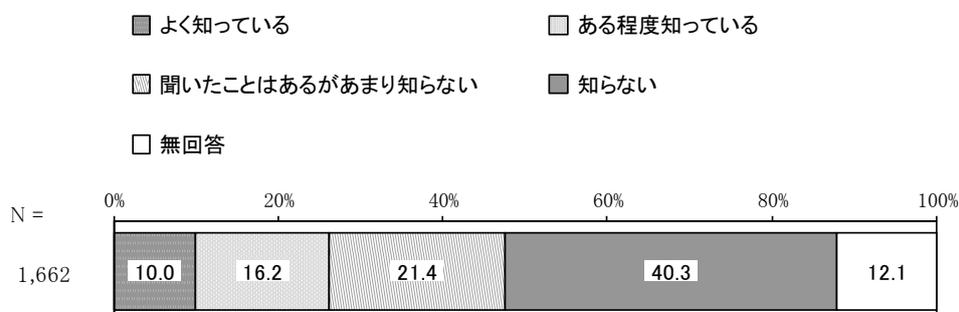
問 28 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、あなたは、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまでを選択）

「介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）」の割合が32.1%と最も高く、次いで「介護保険料・利用料等の負担の軽減」の割合が28.4%、「介護している家族等への支援」の割合が27.3%となっています。



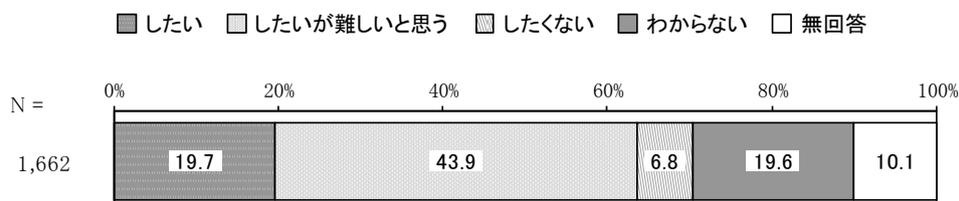
問 29 自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を残す「エンディングノート」を知っていますか。（1つを選択）

「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が26.2%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と「知らない」をあわせた“知らない”の割合が61.7%となっています。



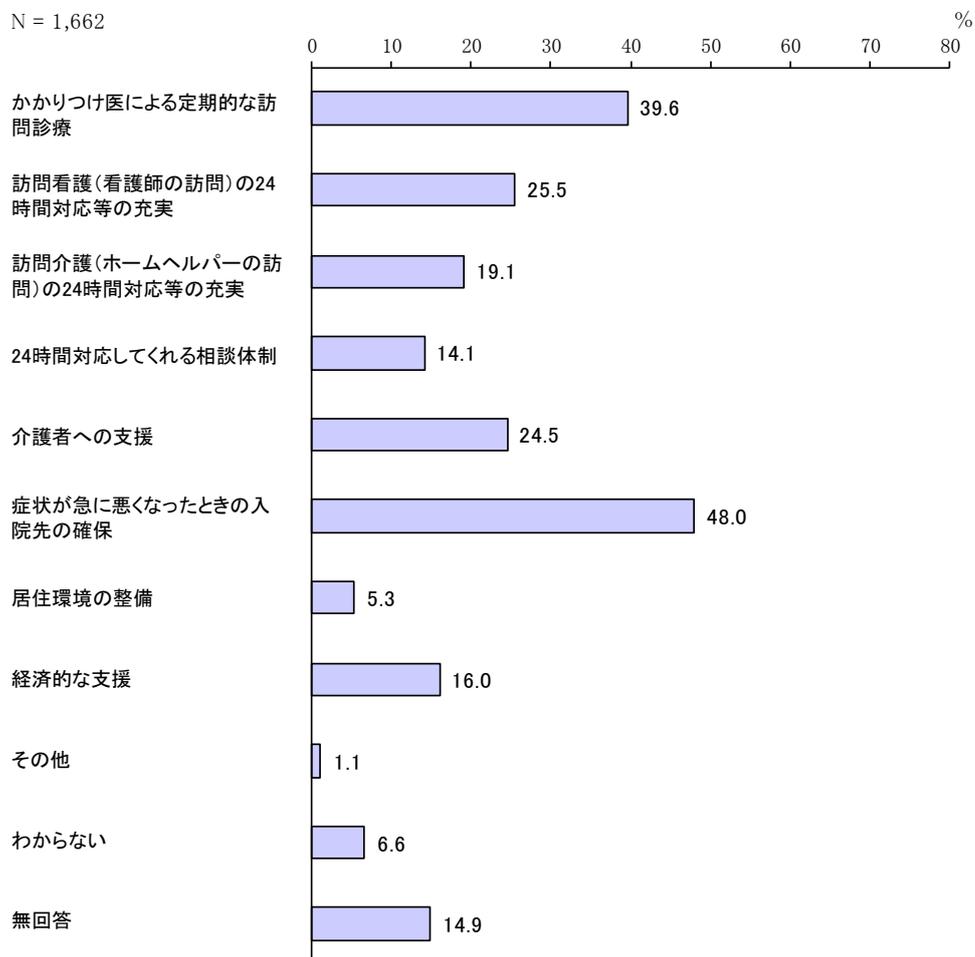
問 30 あなたは、今後、お身体の状態が悪くなり、回復の見込がなくなったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（1つを選択）

「したいが難しいと思う」の割合が43.9%と最も高く、次いで「したい」の割合が19.7%、「わからない」の割合が19.6%となっています。



問 31 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでを選択)

「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が48.0%と最も高く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」の割合が39.6%、「訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実」の割合が25.5%となっています。



【日常生活圏域別】

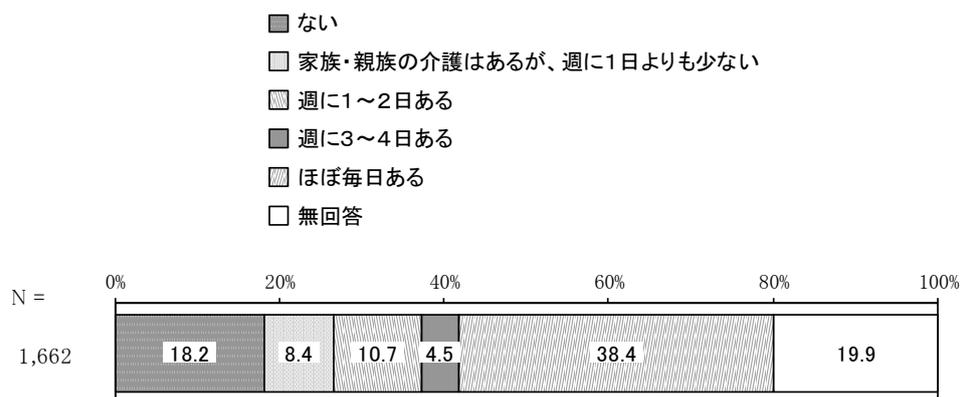
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部で「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が高くなっています。また、鈴鹿北部で「かかりつけ医による定期的な訪問診療」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	かかりつけ医による定期的な訪問診療	訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	24時間対応してくれる相談体制	介護者への支援	症状が急に悪くなったときの入院先の確保	居住環境の整備	経済的な支援	その他	わからない	無回答
鈴鹿西部	299	39.5	22.1	19.1	11.4	25.8	42.8	5.0	14.7	0.7	5.4	19.1
鈴鹿北部	320	45.3	26.9	21.9	14.1	25.0	49.7	4.4	16.6	1.3	5.6	11.9
鈴鹿中部	317	40.7	25.6	17.0	15.1	20.5	54.3	5.4	16.7	1.3	6.9	13.2
鈴鹿南部	334	35.9	24.0	16.8	17.1	26.3	44.9	6.0	16.8	1.2	9.3	15.3
亀山	318	35.8	28.3	20.4	12.6	24.8	47.5	5.0	14.5	1.3	5.0	17.3

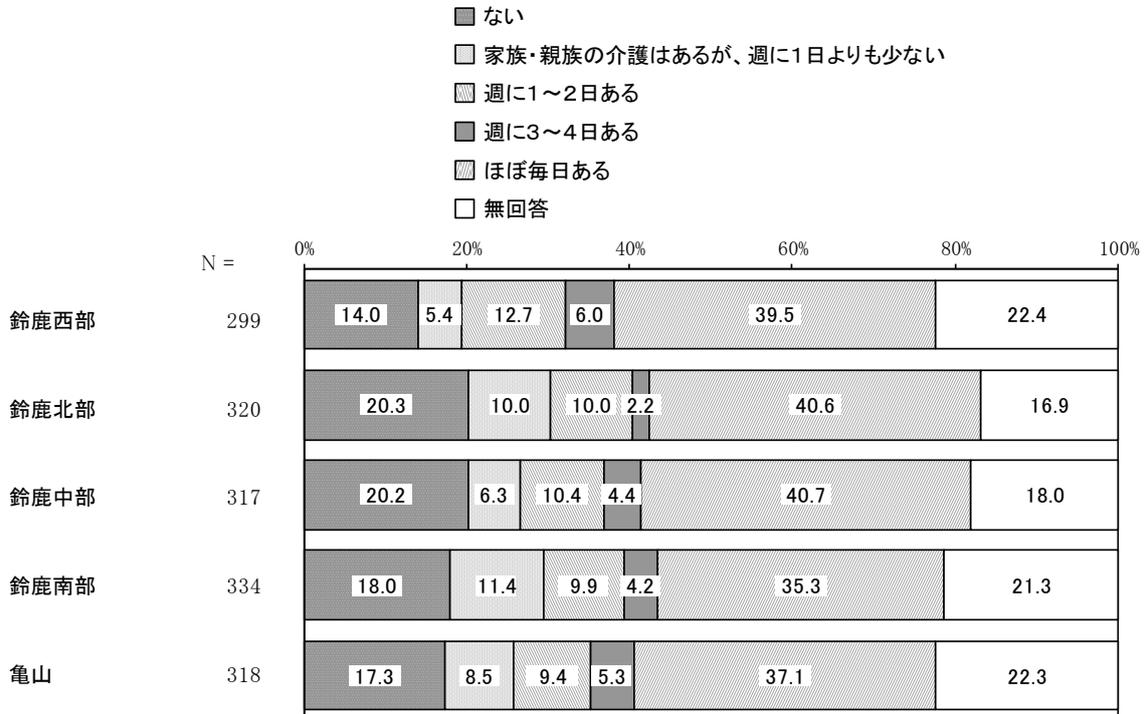
問 32 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

「ほぼ毎日ある」の割合が38.4%と最も高く、次いで「ない」の割合が18.2%、「週に1～2日ある」の割合が10.7%となっています。



【日常生活圏域別】

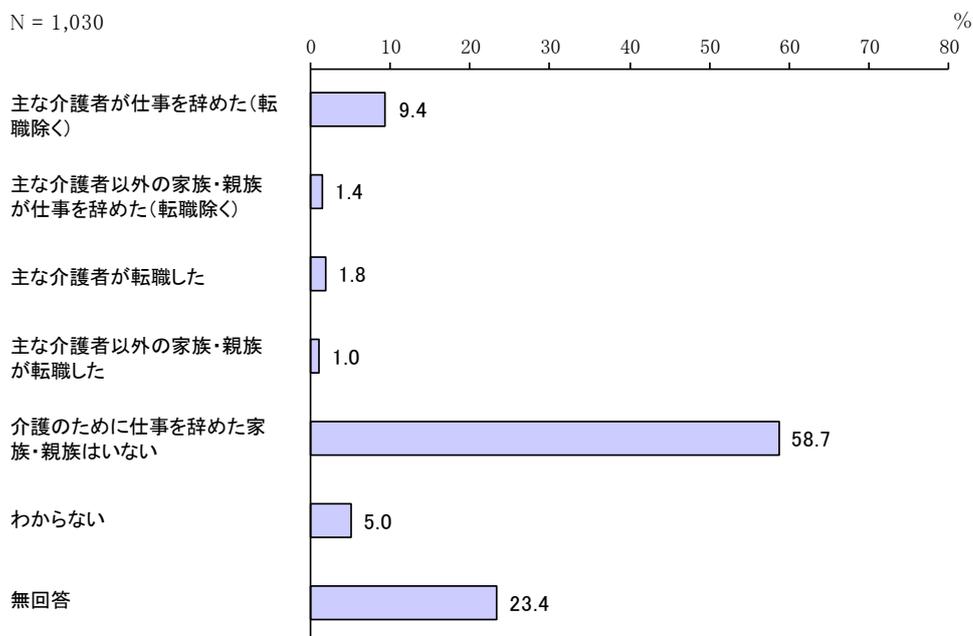
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部、鈴鹿南部で「ない」の割合が高くなっています。



(2) 介護者について

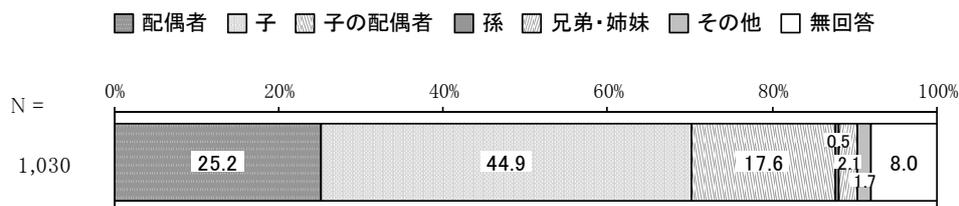
問 33 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が58.7%と最も高くなっています。



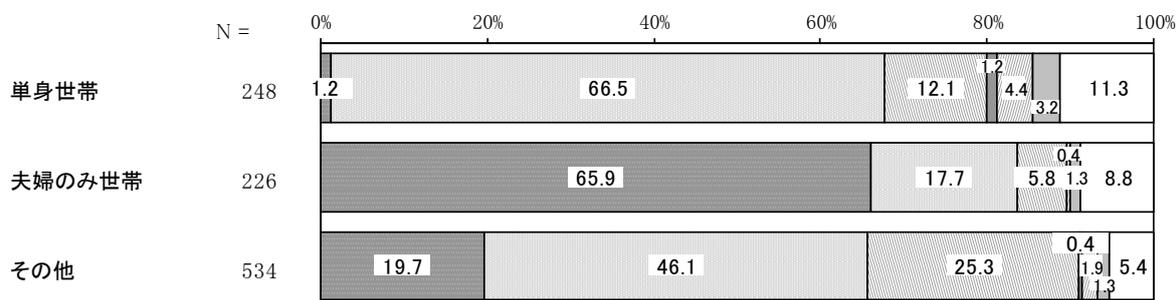
問 34 主な介護者の方は、どなたですか。（1つを選択）

「子」の割合が44.9%と最も高く、次いで「配偶者」の割合が25.2%、「子の配偶者」の割合が17.6%となっています。



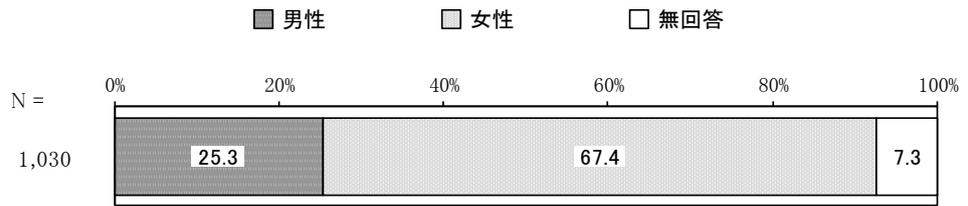
【家族構成別】

家族構成別で見ると、夫婦のみ世帯に比べ、単身世帯で「子」「子の配偶者」の割合が高くなっています。また、単身世帯に比べ、夫婦のみ世帯で「配偶者」の割合が高くなっています。



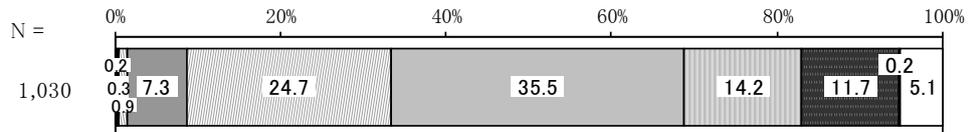
問 35 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1つを選択）

「男性」の割合が 25.3%、「女性」の割合が 67.4%となっています。



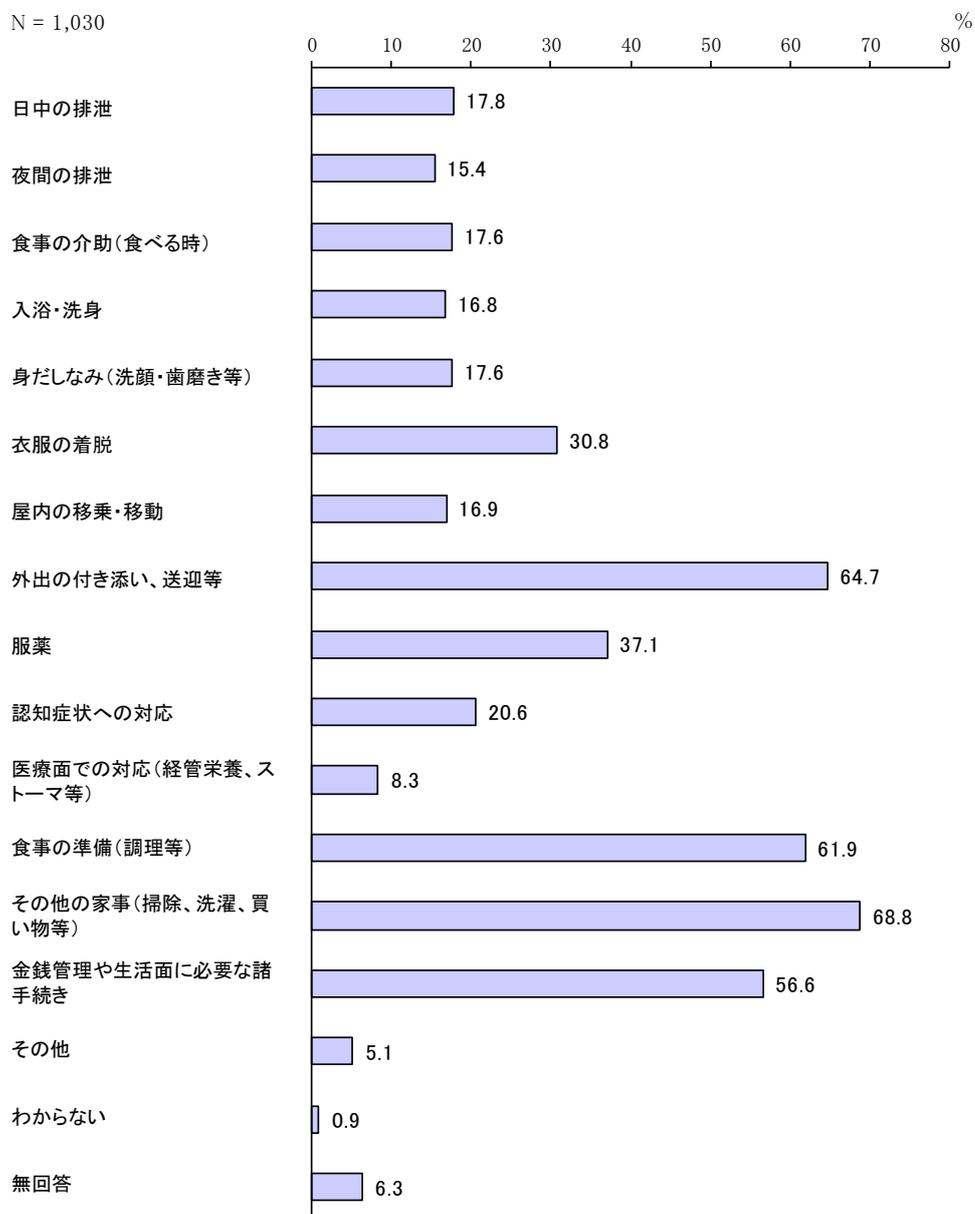
問 36 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（1つを選択）

「60代」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「50代」の割合が 24.7%、「70代」の割合が 14.2%となっています。



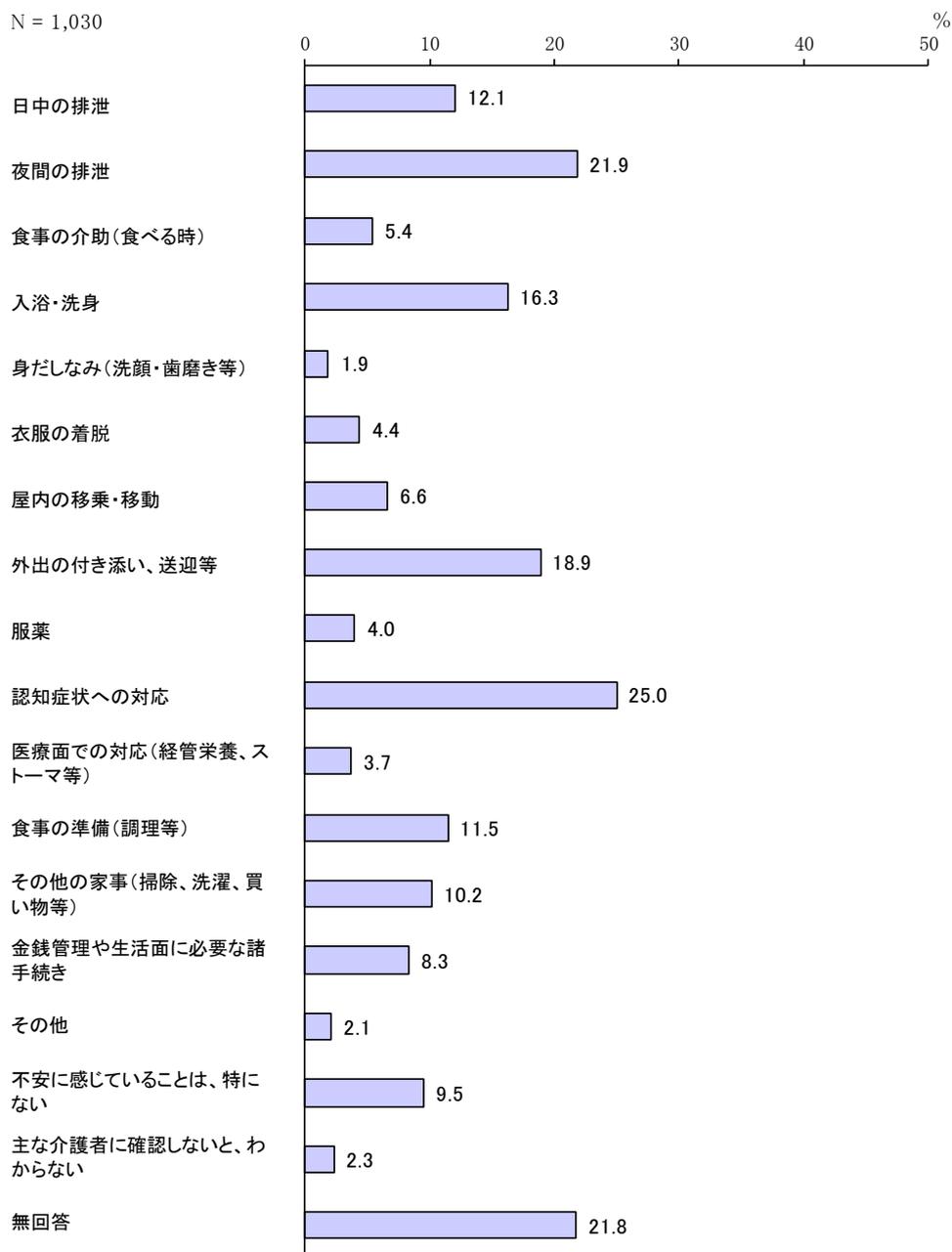
問 37 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。
(複数選択可)

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が 68.8%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」の割合が 64.7%、「食事の準備（調理等）」の割合が 61.9%となっています。



問 38 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません）
（3つまで選択可）

「認知症状への対応」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「夜間の排泄」の割合が 21.9%、「外出の付き添い、送迎等」の割合が 18.9%となっています。



【日常生活圏域別】

日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部、鈴鹿中部、亀山で「認知症状への対応」の割合が高くなっています。

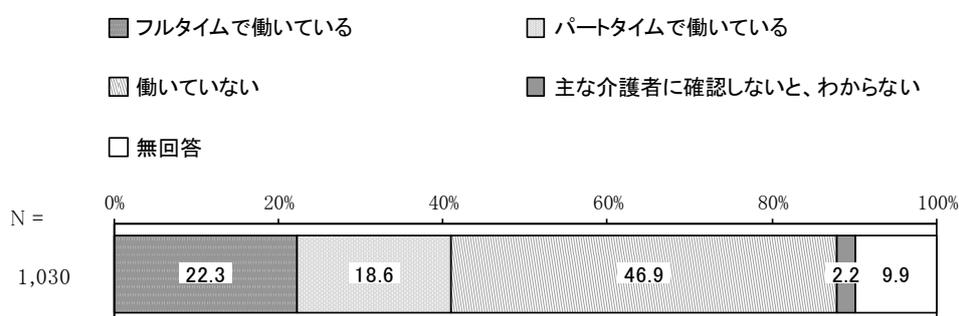
単位：％

区分	有効回答数 (件)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助 (食べる時)	入浴・洗身	身だしなみ (洗顔・ 歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、 送迎等	服薬
鈴鹿西部	190	10.5	21.6	5.8	15.8	2.1	3.7	8.4	18.4	3.7
鈴鹿北部	201	9.5	21.4	6.5	14.4	2.5	6.0	5.5	16.4	5.0
鈴鹿中部	196	12.8	24.5	4.1	19.4	1.0	4.1	4.6	22.4	4.6
鈴鹿南部	203	13.3	21.2	6.4	14.8	2.5	4.4	7.9	21.7	4.4
亀山	192	14.1	21.4	5.2	17.7	1.6	3.6	5.7	14.6	3.1

区分	認知症状への対応	医療面での対応 (経管栄養、 ストーマ等)	食事の準備 (調理等)	その他の家事 (掃除、洗濯、 買い物等)	金銭管理や生活 面に必要な諸 手続き	その他	不安に感じている ことは、特 にない	主な介護者に確 認しないと、わ からない	無回答
鈴鹿西部	23.2	4.7	13.2	9.5	10.5	3.2	11.1	2.6	17.9
鈴鹿北部	27.4	5.0	10.9	11.4	9.5	2.0	5.5	2.5	21.9
鈴鹿中部	29.1	3.1	8.7	8.2	6.1	2.6	11.7	2.6	20.9
鈴鹿南部	19.7	2.5	10.3	10.8	5.9	2.0	10.3	0.5	26.6
亀山	25.5	3.1	15.6	10.4	9.4	1.6	9.4	3.1	21.9

問 39 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

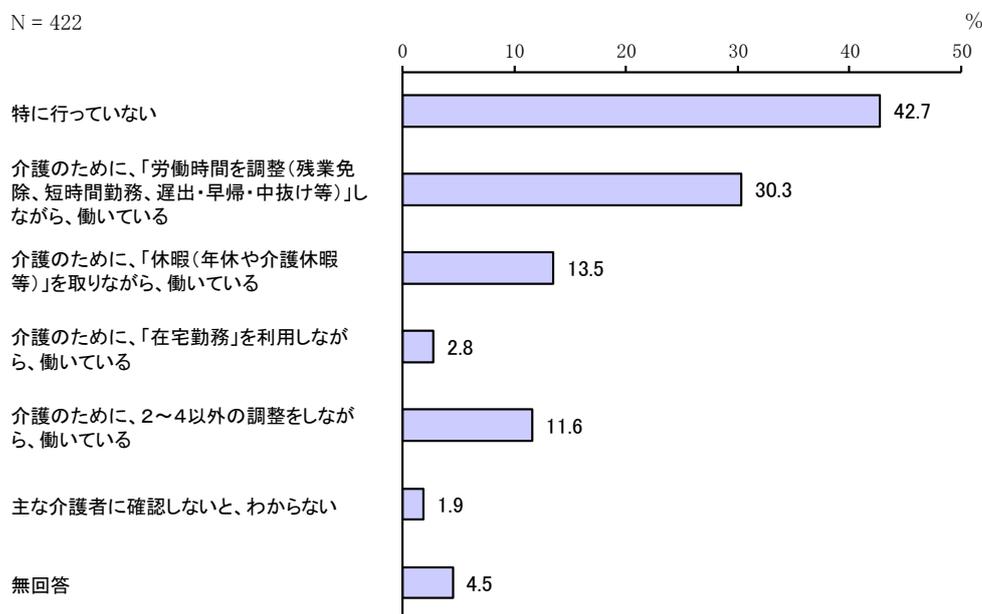
「働いていない」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」の割合が 22.3%、「パートタイムで働いている」の割合が 18.6%となっています。



問 39 で「1 フルタイムで働いている」または「2 パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

問 39-② 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか。(複数選択可)

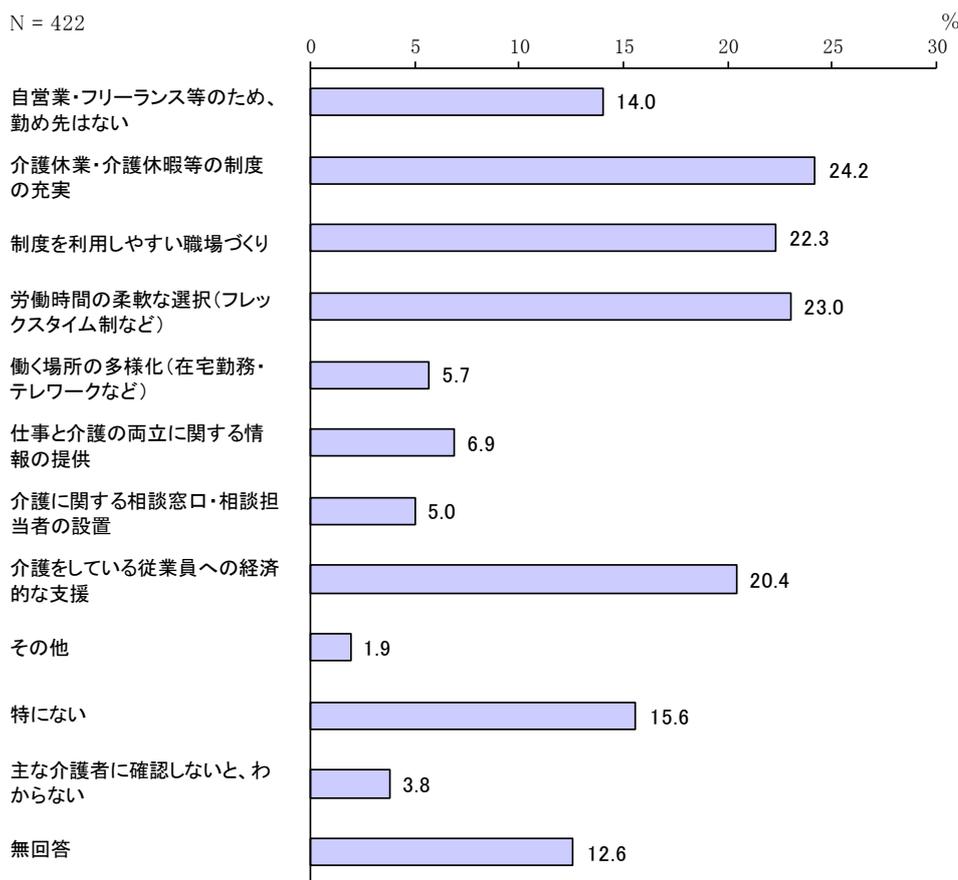
「特に行っていない」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」の割合が 30.3%、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」の割合が 13.5%となっています。



問 39 で「1 フルタイムで働いている」または「2 パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。

問 39-③ 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)

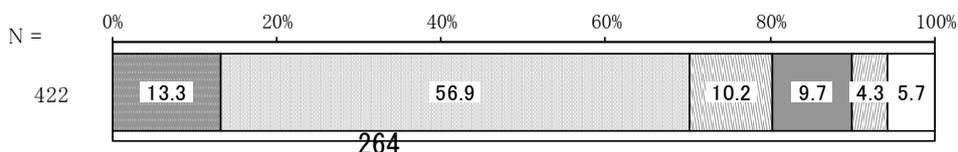
「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が 24.2%と最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」の割合が 23.0%、「制度を利用しやすい職場づくり」の割合が 22.3%となっています。



問 39-④ 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の割合が 13.3%、「続けていくのは、やや難しい」の割合が 10.2%となっています。

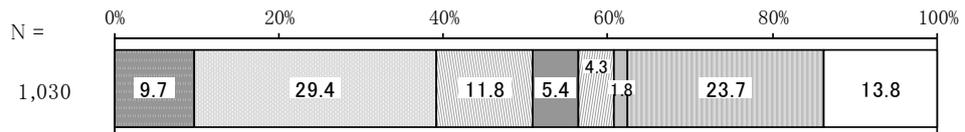
- 問題なく、続けていける
- 問題はあるが、何とか続けていける
- 続けていくのは、やや難しい
- 続けていくのは、かなり難しい
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答



**問 40 ご家族の中で、主な介護者の方以外に補助的な介護者はおられますか。
(1つを選択)**

「子」の割合が29.4%と最も高く、次いで「いない」の割合が23.7%、「子の配偶者」の割合が11.8%となっています。

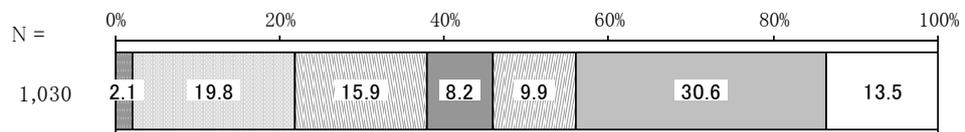
- 配偶者 □ 子 ▨ 子の配偶者 ■ 孫 ▩ 兄弟・姉妹
- その他 □ いない □ 無回答



問 41 介護者同士が集まり、日頃、介護をしながら抱えている悩みを相談し合ったり、介護方法の工夫を紹介し合ったり、情報交換する場があれば、参加したいと思いますか。(1つを選択)

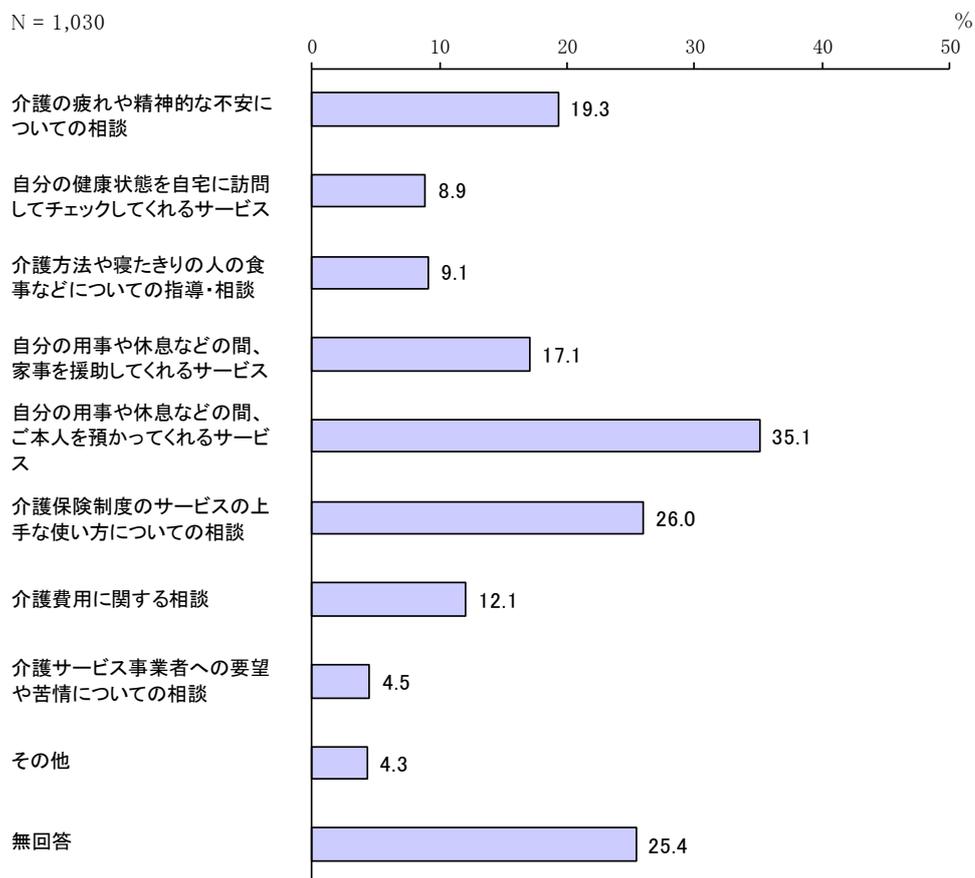
「わからない」の割合が30.6%と最も高く、次いで「できれば参加したい」の割合が19.8%、「あまり参加したくない」の割合が15.9%となっています。

- 積極的に参加したい □ できれば参加したい ▨ あまり参加したくない
- 参加したくない ▩ 参加したくてもできない ■ わからない
- 無回答



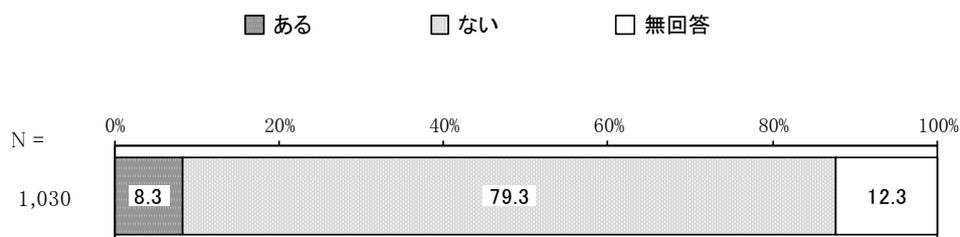
問 42 介護するうえで、あなた（主な介護者の方）自身が利用したいと思うものは何ですか。（複数選択可）

「自分の用事や休息などの間、ご本人を預かってくれるサービス」の割合が 35.1%と最も高く、次いで「介護保険制度のサービスの上手な使い方についての相談」の割合が 26.0%、「介護の疲れや精神的な不安についての相談」の割合が 19.3%となっています。



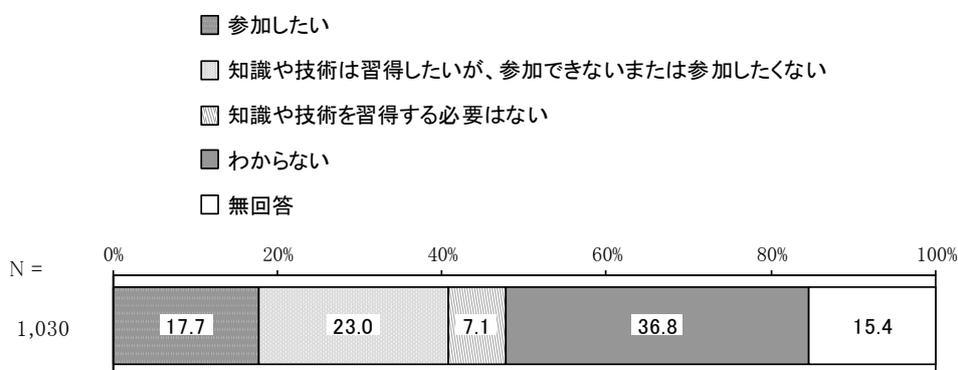
問 43 これまでに介護方法の研修を受けたことがありますか。（1つを選択）

「ある」の割合が 8.3%、「ない」の割合が 79.3%となっています。



問 44 自宅で介護をするための知識や技術を習得する研修や講習会があれば、参加したいと思いますか。（1つを選択）

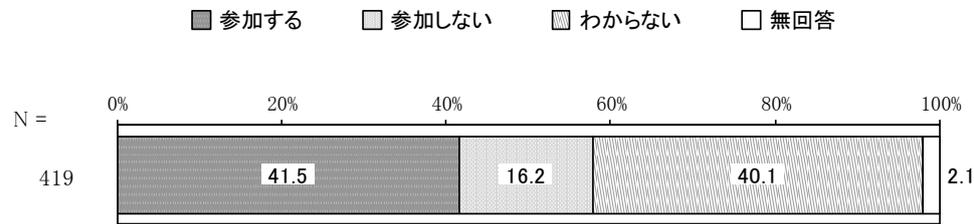
「わからない」の割合が36.8%と最も高く、次いで「知識や技術は習得したいが、参加できないまたは参加したくない」の割合が23.0%、「参加したい」の割合が17.7%となっています。



問 44 で「1 参加したい」または「2 知識や技術は習得したいが、参加できないまたは参加したくない」と回答した方にお伺いします。

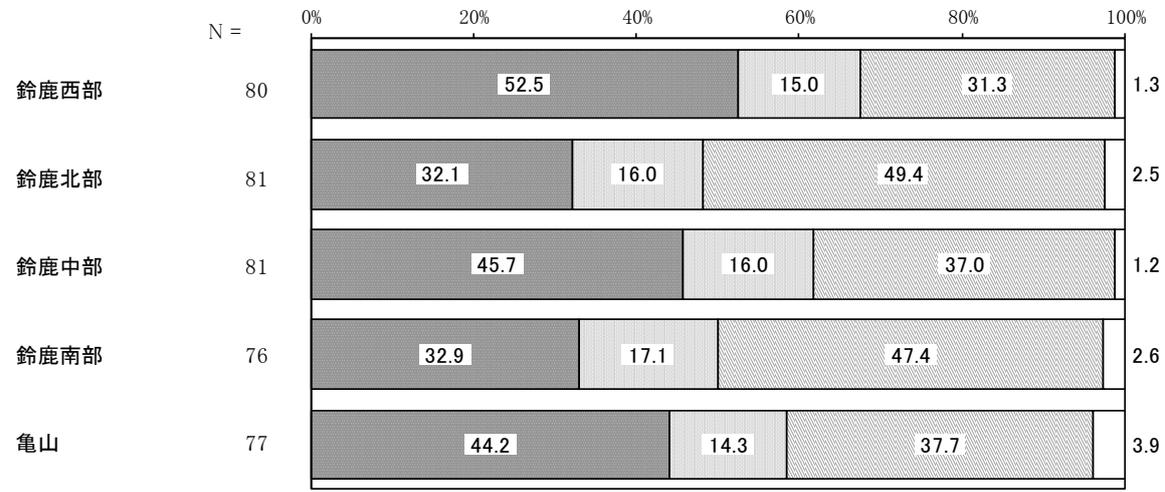
問 44-② あなたの住んでいる近くで研修や講習会があれば参加しますか。（1つを選択）

「参加する」の割合が41.5%と最も高く、次いで「わからない」の割合が40.1%、「参加しない」の割合が16.2%となっています。



【日常生活圏域別】

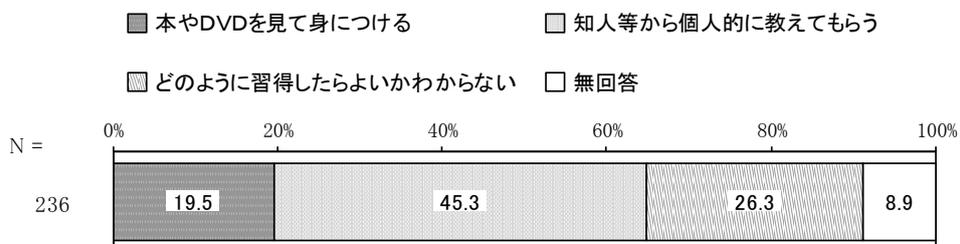
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「参加する」の割合が高くなっています。



問 44-②で「2 参加しない」または「3 わからない」と回答した方にお伺いします。

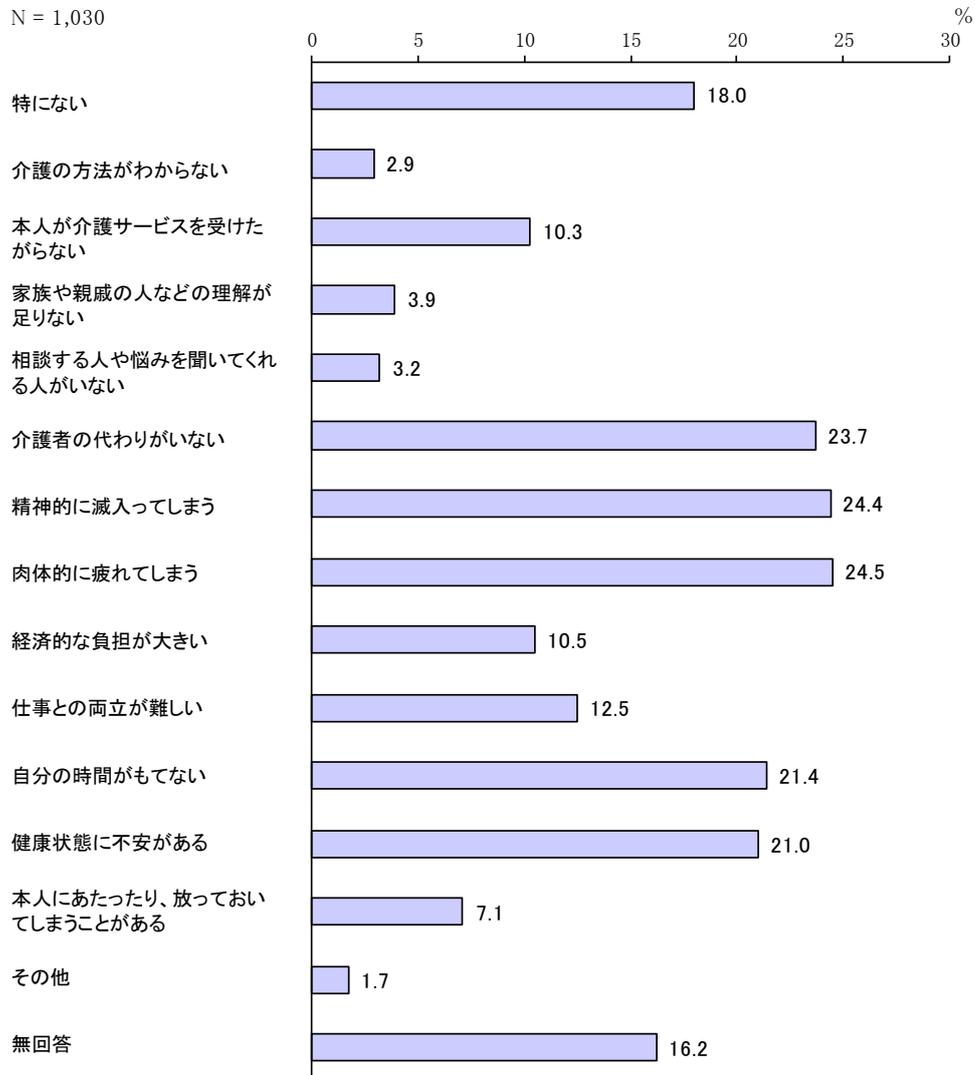
問 44-③ 自宅で介護するための知識や技術をどのように習得しますか。
(1つを選択)

「知人等から個人的に教えてもらう」の割合が 45.3%と最も高く、次いで「どのように習得したらよいかわからない」の割合が 26.3%、「本やDVDを見て身につける」の割合が 19.5%となっています。



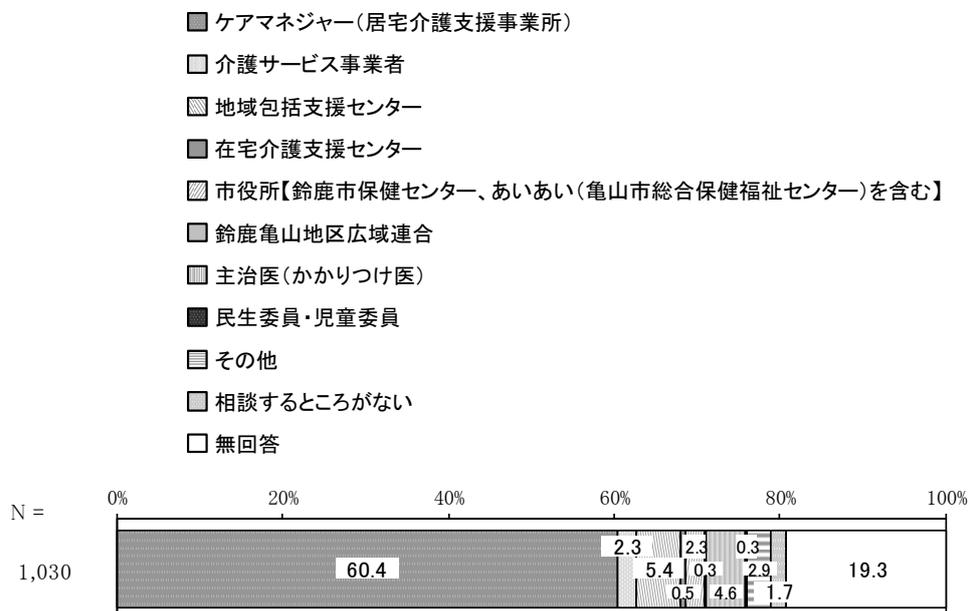
問 45 あなた（主な介護者の方）が介護するうえで、どんなことに困っていますか。（複数選択可）

「肉体的に疲れてしまう」の割合が 24.5%と最も高く、次いで「精神的に滅入ってしまう」の割合が 24.4%、「介護者の代わりがない」の割合が 23.7%となっています。



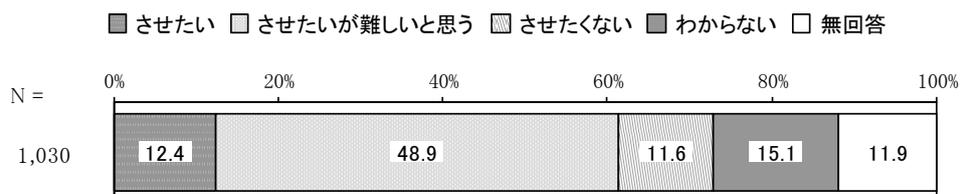
問 46 あなた（主な介護者の方）が介護について相談したいとき、まずどこに相談しますか。（1つを選択）

「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」の割合が60.4%と最も高くなっています。



問 47 あなた（主な介護者の方）は、本人が回復の見込みのない病気になった場合、自宅で最期まで療養させたいと思いますか。（1つを選択）

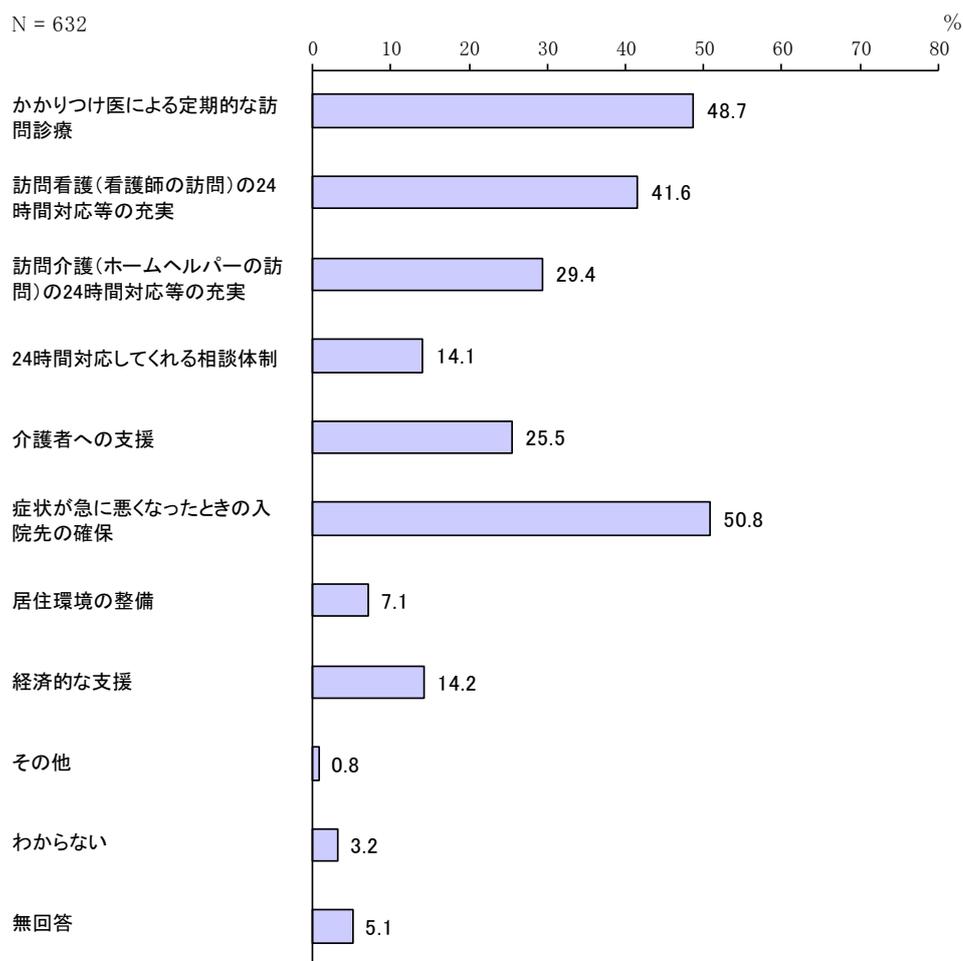
「させたいが難しいと思う」の割合が48.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が15.1%、「させたい」の割合が12.4%となっています。



問 47 で「1 させたい」または「2 させたいが難しいと思う」と回答した方にお伺いします。

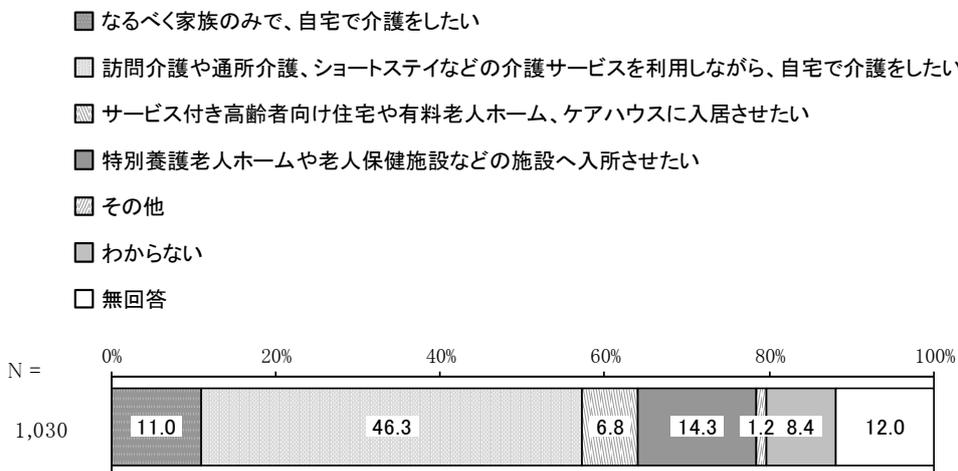
問 47-② 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3 つまで選択可)

「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」の割合が 48.7%、「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」の割合が 41.6%となっています。



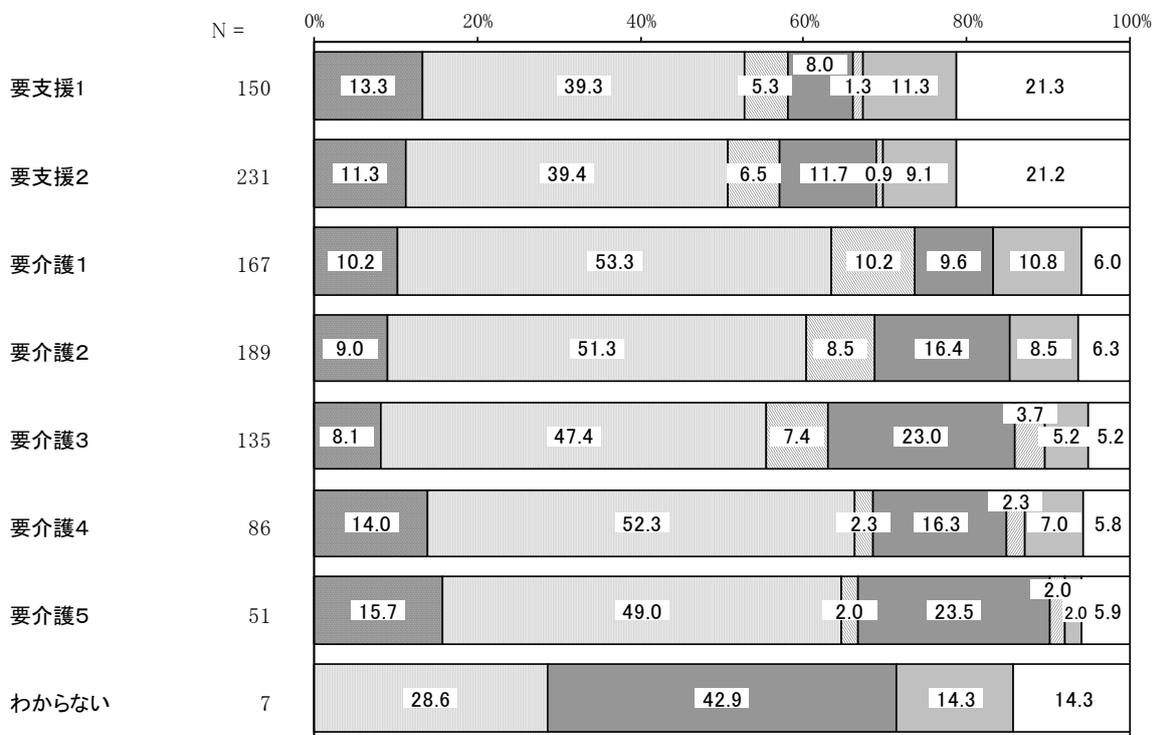
問 48 今後、ご本人の介護についてどのようにお考えですか。（1つを選択）

「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が46.3%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」の割合が14.3%、「なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい」の割合が11.0%となっています。



【要介護度別】

要介護度別でみると、要支援に比べ、要介護で「訪問介護や通所介護、ショートステイなどの介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」の割合が高くなっています。また、他に比べ、要介護3、要介護5で「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」の割合が高くなっています。

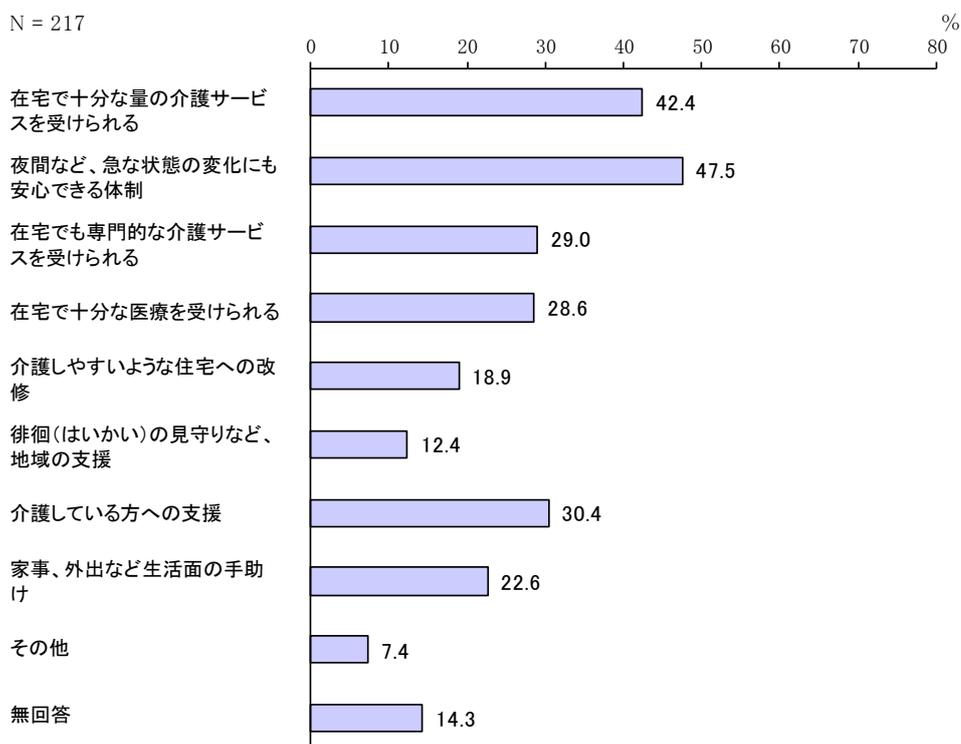


問 48 で「3 サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居させたい」または「4 特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設へ入所させたい」と回答した方にお伺いします。

問 48-② どのような条件が整えば、自宅で生活続けることができますか。(複数選択可)

「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が 42.4%、「介護している方への支援」の割合が 30.4%となっています。

N = 217



【要介護度別】

要介護度別でみると、他に比べ、要介護4で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」の割合が高くなっています。また、要支援2で「在宅で十分な医療を受けられる」の割合が、要介護1、要介護2、要介護4で「介護している方への支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
要支援1	20	30.0	40.0	40.0	15.0	15.0	—	5.0	15.0	10.0	20.0
要支援2	42	38.1	50.0	28.6	38.1	16.7	2.4	16.7	21.4	4.8	11.9
要介護1	33	42.4	42.4	21.2	24.2	18.2	15.2	39.4	33.3	6.1	12.1
要介護2	47	48.9	53.2	31.9	34.0	23.4	23.4	40.4	23.4	8.5	6.4
要介護3	41	41.5	48.8	31.7	26.8	14.6	14.6	34.1	19.5	7.3	22.0
要介護4	16	56.3	56.3	31.3	25.0	18.8	12.5	37.5	25.0	—	18.8
要介護5	13	30.8	30.8	7.7	23.1	30.8	15.4	30.8	15.4	15.4	15.4
わからない	3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—	33.3

【日常生活圏域別】

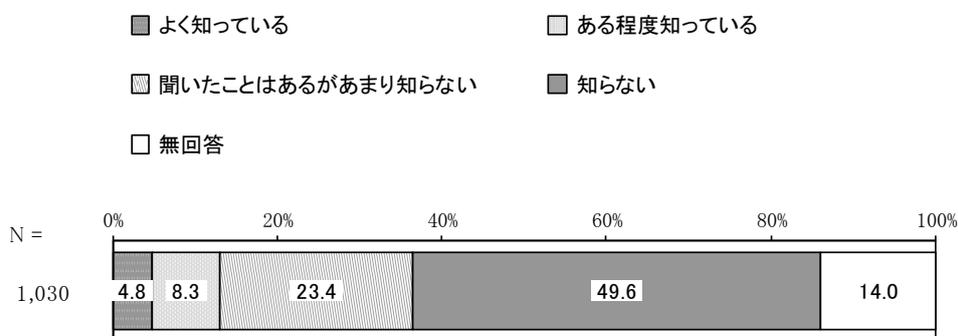
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿中部で「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」「在宅で十分な医療を受けられる」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部、鈴鹿南部で「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制	在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	在宅で十分な医療を受けられる	介護しやすいような住宅への改修	徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援	介護している方への支援	家事、外出など生活面の手助け	その他	無回答
鈴鹿西部	40	50.0	55.0	30.0	27.5	17.5	17.5	37.5	12.5	7.5	12.5
鈴鹿北部	42	38.1	52.4	23.8	26.2	11.9	9.5	31.0	16.7	4.8	11.9
鈴鹿中部	40	37.5	62.5	47.5	40.0	20.0	17.5	40.0	32.5	5.0	12.5
鈴鹿南部	49	49.0	36.7	28.6	16.3	16.3	4.1	24.5	22.4	10.2	20.4
亀山	37	35.1	29.7	13.5	29.7	27.0	13.5	21.6	27.0	10.8	10.8

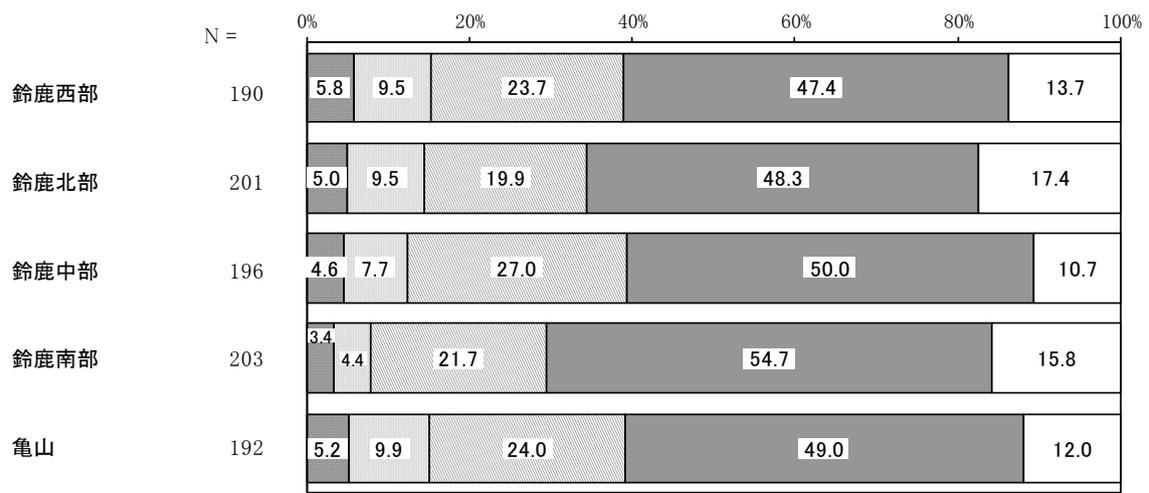
問 49 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存じですか。(1つを選択)

「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が13.1%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と「知らない」をあわせた“知らない”の割合が73.0%となっています。



【日常生活圏域別】

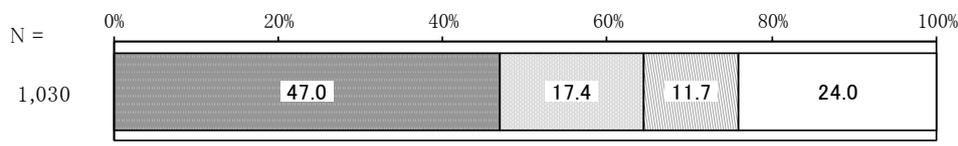
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿南部で「知らない」の割合が高くなっています。



問 50 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1つを選択）

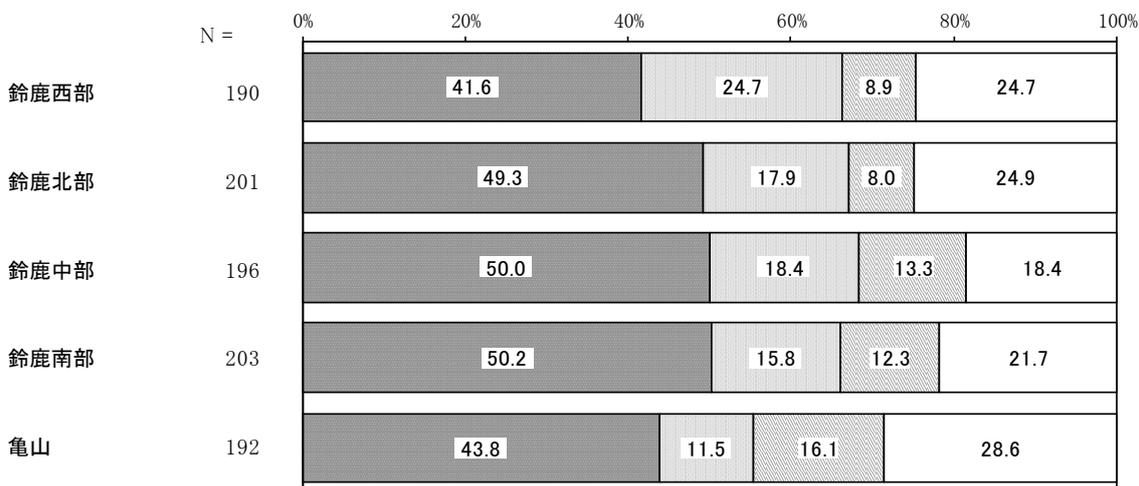
「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が47.0%と最も高く、次いで「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が17.4%、「地域包括支援センターのことは知らない」の割合が11.7%となっています。

- 自分の居住する地区を担当するセンターを知っている
- 地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない
- 地域包括支援センターのことは知らない
- 無回答



【日常生活圏域別】

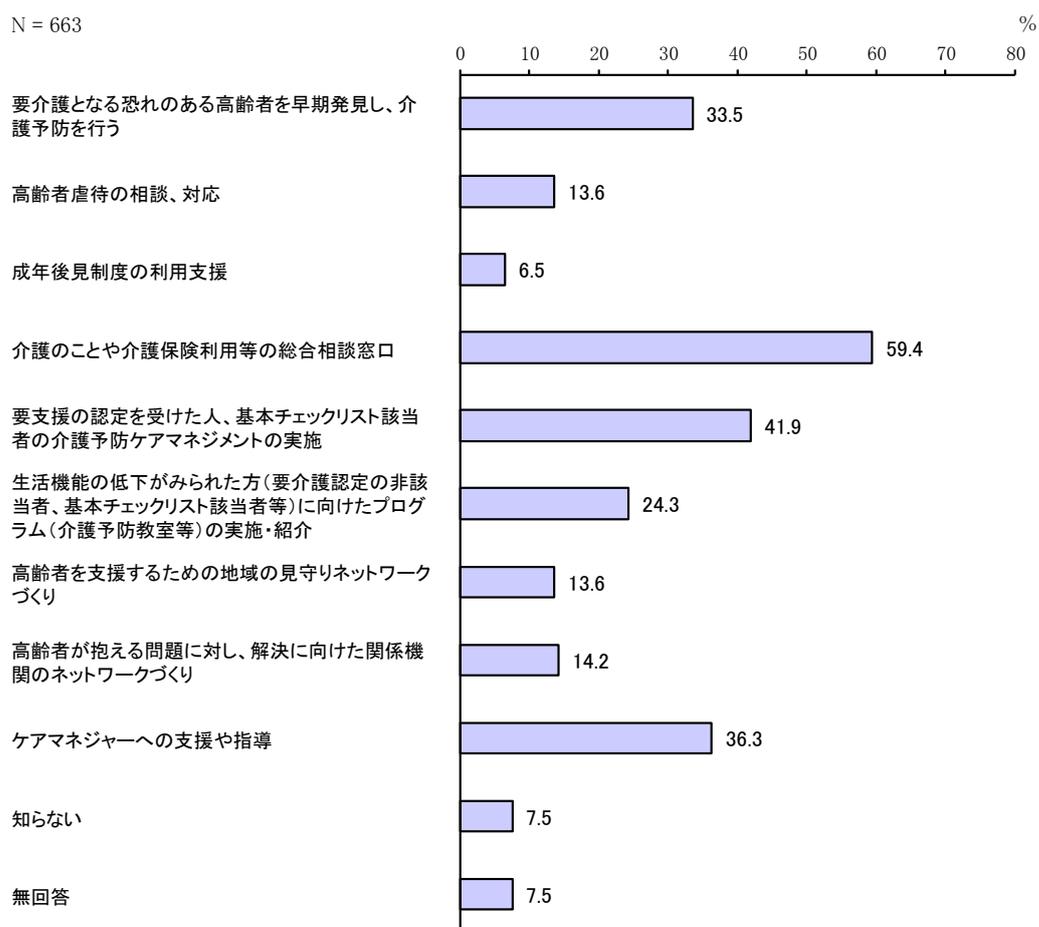
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿北部、鈴鹿南部、鈴鹿中部で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部で「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」の割合が高くなっています。



問 50 で「1 自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」または「2 地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」と回答した方にお伺いします。

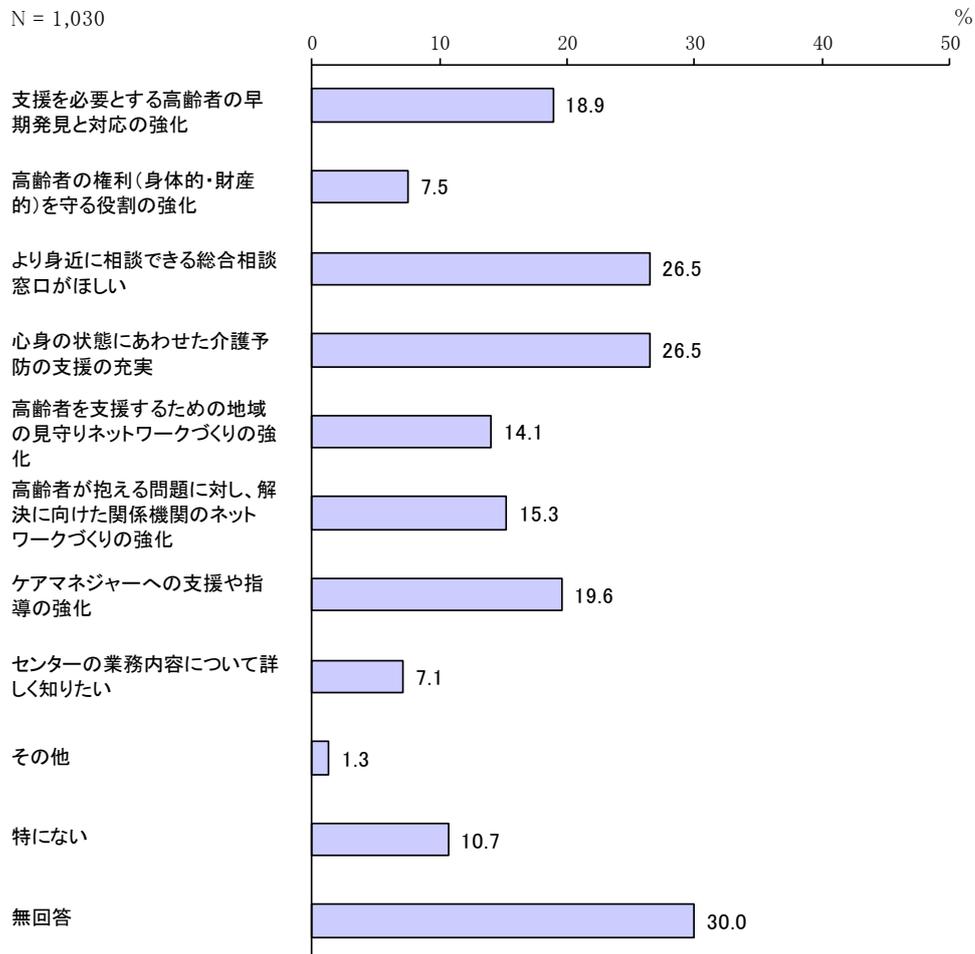
問 50-② 「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。
(複数選択可)

「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」の割合が 41.9%、「ケアマネジャーへの支援や指導」の割合が 36.3%となっています。



問 51 「地域包括支援センター」にどのようなことを望みますか。(複数選択可)

「より身近に相談できる総合相談窓口がほしい」、「心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実」の割合が 26.5%と最も高く、次いで、「ケアマネジャーへの支援や指導の強化」の割合が 19.6%となっています。



【日常生活圏域別】

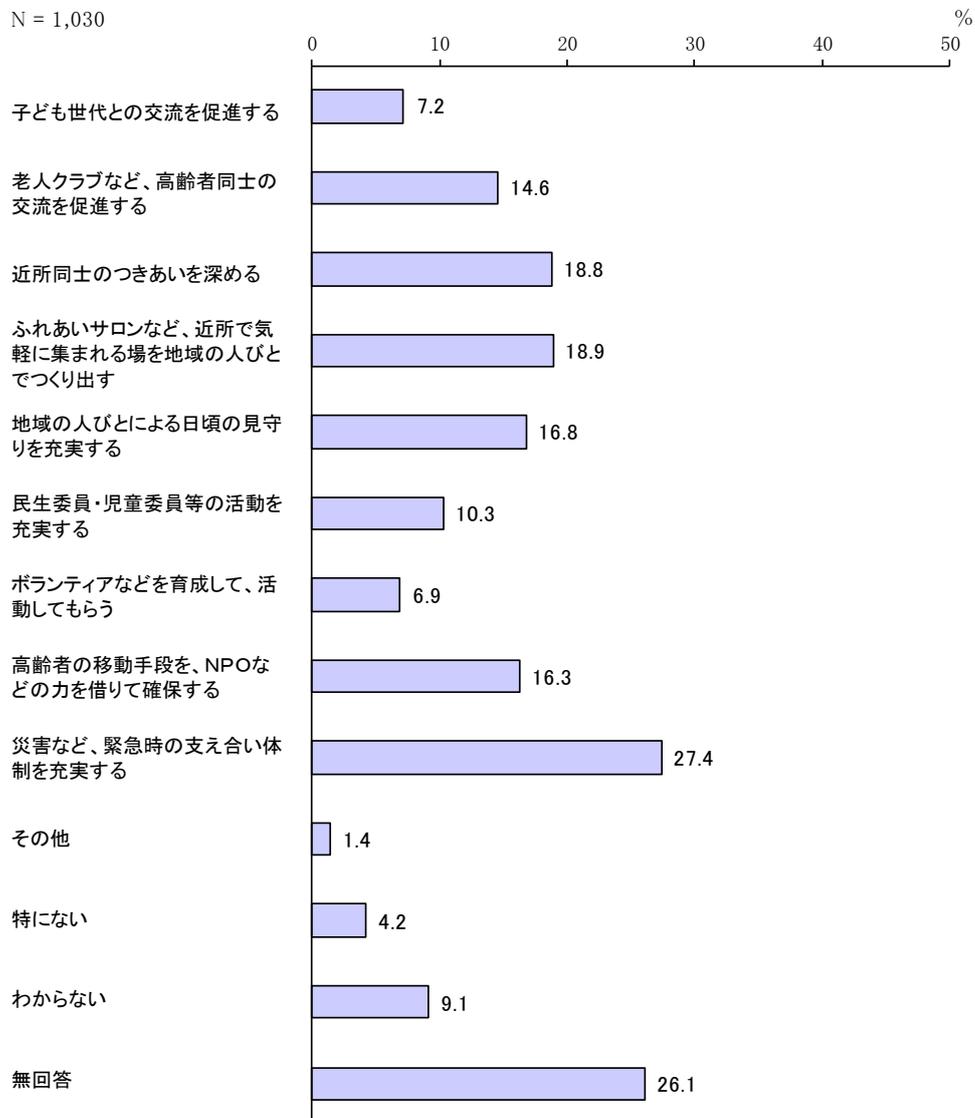
日常生活圏域別でみると、他に比べ、鈴鹿西部、鈴鹿中部で「心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実」の割合が高くなっています。また、鈴鹿南部、鈴鹿中部で「ケアマネジャーへの支援や指導の強化」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	支援を必要とする高齢者の早期発見と対応の強化	高齢者の権利(身体的・財産的)を守る役割の強化	より身近に相談できる総合相談窓口がほしい	心身の状態にあわせた介護予防の支援の充実	高齢者を支援するための地域の見守りネットワークづくりの強化	高齢者が抱える問題に対し、解決に向けた関係機関のネットワークづくりの強化	ケアマネジャーへの支援や指導の強化	センターの業務内容について詳しく知りたい	その他	特になし	無回答
鈴鹿西部	190	22.6	11.6	24.7	30.5	10.5	20.0	17.9	4.7	—	8.4	30.0
鈴鹿北部	201	15.4	3.0	30.3	24.9	11.9	11.9	15.4	8.5	1.5	11.9	31.3
鈴鹿中部	196	21.9	8.7	28.1	30.1	17.9	17.9	25.5	7.1	1.5	10.7	24.0
鈴鹿南部	203	18.2	10.8	27.1	24.1	13.8	12.8	23.6	6.9	0.5	14.8	29.6
亀山	192	17.2	3.6	22.9	22.9	16.1	13.0	16.1	7.3	1.6	8.3	34.4

問 52 あなたは今、住んでいる地域（地区、自治会など）が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。（3つまでを選択）

「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が 27.4%と最も高く、次いで「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」の割合が 18.9%、「近所同士のつきあいを深める」の割合が 18.8%となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、65歳未満で「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にない	わからない	無回答
65歳未満	18	11.1	5.6	16.7	38.9	22.2	11.1	11.1	11.1	38.9	—	5.6	11.1	11.1
65～69歳	46	6.5	8.7	10.9	17.4	15.2	6.5	8.7	17.4	32.6	—	6.5	6.5	34.8
70～74歳	55	9.1	14.5	14.5	18.2	18.2	1.8	3.6	14.5	21.8	—	3.6	14.5	32.7
75～79歳	115	6.1	14.8	20.9	15.7	15.7	11.3	7.0	17.4	33.9	—	4.3	8.7	21.7
80～84歳	256	6.6	14.8	23.4	18.4	14.1	10.9	7.0	16.8	26.6	1.6	3.9	6.3	30.1
85～89歳	306	7.2	17.0	19.3	20.6	18.6	11.1	6.9	14.1	23.2	2.3	3.9	8.8	26.5
90歳以上	228	7.9	12.7	14.0	18.4	18.0	9.6	7.0	19.3	30.7	0.9	4.4	12.3	21.1

【要介護度別】

要介護度別で見ると、要支援2、要介護3、要介護4で「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
要支援1	150	6.0	11.3	23.3	20.0	12.0	11.3	4.0	14.0	24.0	2.0	1.3	5.3	36.7
要支援2	231	6.1	15.2	20.8	18.2	15.6	11.7	6.1	18.2	30.3	1.3	6.1	6.5	26.4
要介護1	167	6.0	17.4	15.6	15.0	15.6	8.4	7.8	14.4	25.1	1.2	3.6	10.2	30.5
要介護2	189	8.5	14.3	16.4	25.4	16.4	10.6	9.0	12.7	26.5	0.5	4.2	12.7	20.6
要介護3	135	6.7	13.3	17.8	19.3	18.5	8.9	6.7	20.7	31.9	1.5	3.0	11.1	21.5
要介護4	86	10.5	16.3	17.4	19.8	25.6	10.5	8.1	18.6	30.2	2.3	4.7	5.8	22.1
要介護5	51	11.8	7.8	15.7	7.8	25.5	7.8	9.8	19.6	27.5	—	5.9	13.7	19.6
わからない	7	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	—	—	14.3	14.3	—	14.3	14.3	28.6

【日常生活圏域別】

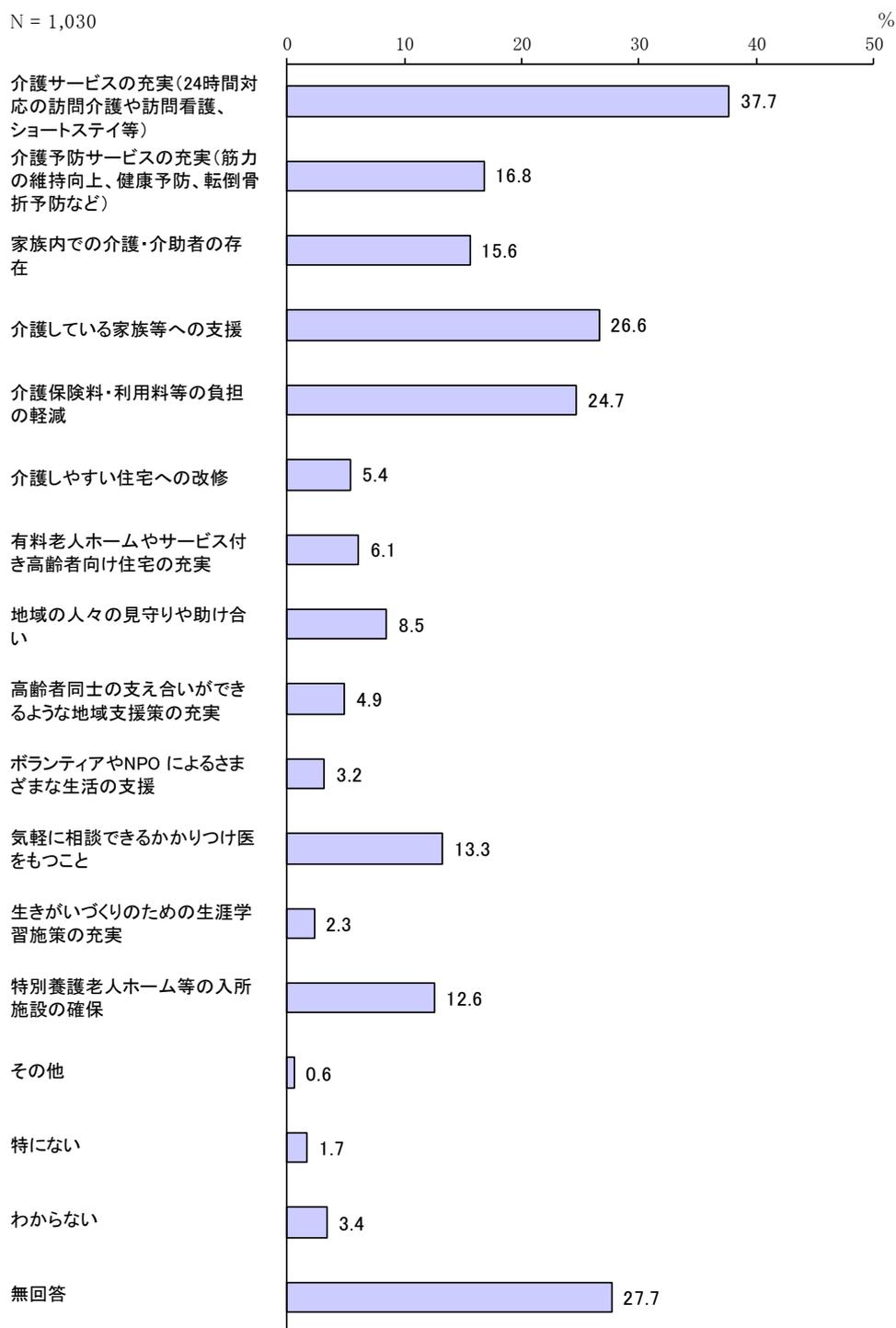
日常生活圏域別で見ると、他に比べ、鈴鹿北部で「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人びとによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の活動を充実する	ボランティアなどを育成して、活動してもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	無回答
鈴鹿西部	190	9.5	16.3	23.2	17.4	17.4	7.9	10.0	14.7	26.3	0.5	5.3	10.5	24.2
鈴鹿北部	201	6.5	14.9	19.9	20.4	12.4	9.0	7.0	18.4	35.3	2.0	2.5	6.5	25.4
鈴鹿中部	196	9.2	14.8	20.9	23.5	15.8	14.3	6.6	17.3	29.1	2.0	2.6	6.6	24.5
鈴鹿南部	203	6.9	14.3	14.3	18.2	17.2	9.4	5.4	16.3	25.1	1.0	6.9	11.8	24.6
亀山	192	4.7	13.0	16.1	16.1	21.9	9.9	4.7	16.1	22.9	1.6	4.2	8.9	30.2

問 53 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、あなたは、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまでを選択）

「介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）」の割合が37.7%と最も高く、次いで「介護している家族等への支援」の割合が26.6%、「介護保険料・利用料等の負担の軽減」の割合が24.7%となっています。

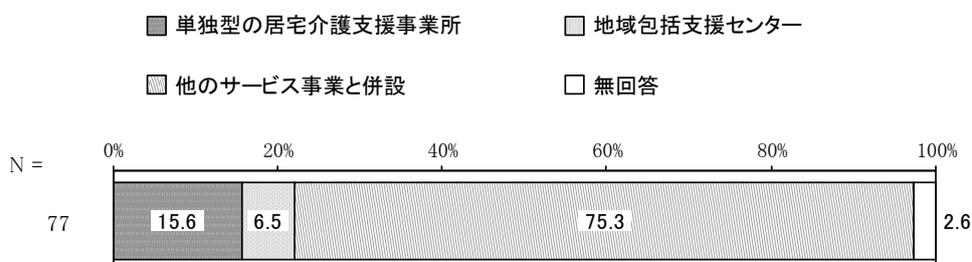


5 居宅介護支援事業所

(1) 事業者の状況について

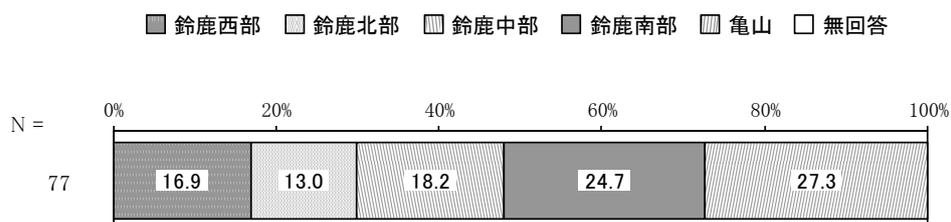
問1 事業所の形態をお選びください。(○は1つ)

「他のサービス事業と併設」の割合が75.3%と最も高く、次いで「単独型の居宅介護支援事業所」の割合が15.6%となっています。



問2 貴事業所の所在地をお選びください。 (○は1つ、区域は問3を参考にしてください)

「亀山」の割合が27.3%と最も高く、次いで「鈴鹿南部」の割合が24.7%、「鈴鹿中部」の割合が18.2%となっています。



問3 貴事業所のサービス提供地域をお選びください。(〇はいくつでも)

「鈴鹿市・亀山市全域」の割合が44.2%と最も高く、次いで「鈴鹿市全域」の割合が29.9%、「白子」の割合が16.9%となっています。

単位：%

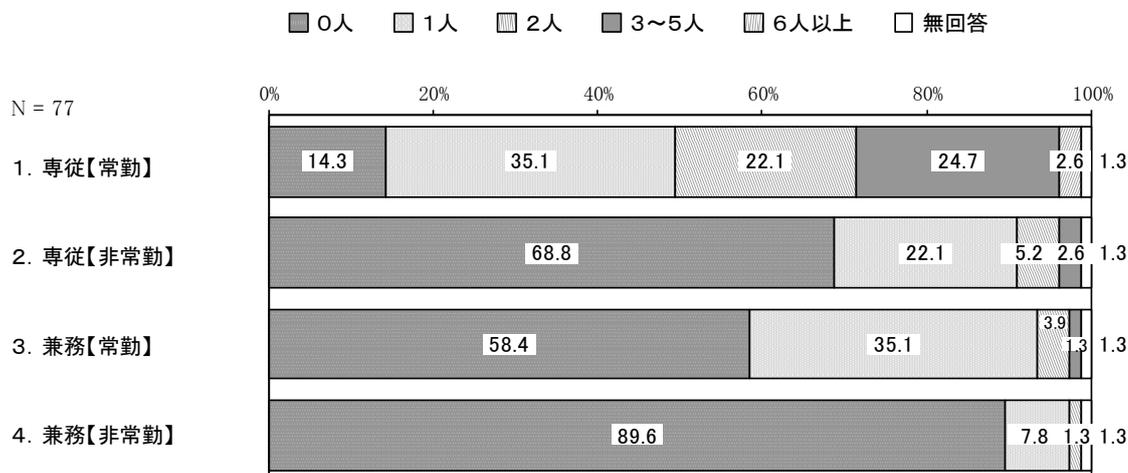
全体	鈴鹿市・ 亀山市全域	鈴鹿市全域	亀山市全域	西部									
				庄野	加佐登	牧田	石薬師	井田川	久間田	椿	深伊沢	鈴峰	庄内
77	44.2	29.9	9.1	11.7	11.7	9.1	11.7	9.1	5.2	5.2	5.2	5.2	13.0

北部					中部					南部			
飯野①【西條町、西条1～9丁目】	一ノ宮	箕田	神戸	玉垣①【矢橋3丁目】	国府	飯野②【飯野①以外】	玉垣②【飯野①以外】	若松②【若松①以外】	白子	稲生	松町【南若松①】	若松①【南若松②】	栄
7.8	5.2	9.1	6.5	6.5	9.1	15.6	7.8	13.0	10.4	16.9	9.1	9.1	6.5

南部		亀山										無回答
天名	合川	井田川	亀山	川崎	神辺	白川	野登	昼生	加太	坂下	関	
3.9	3.9	11.7	11.7	15.6	3.9	5.2	7.8	5.2	5.2	6.5	9.1	-

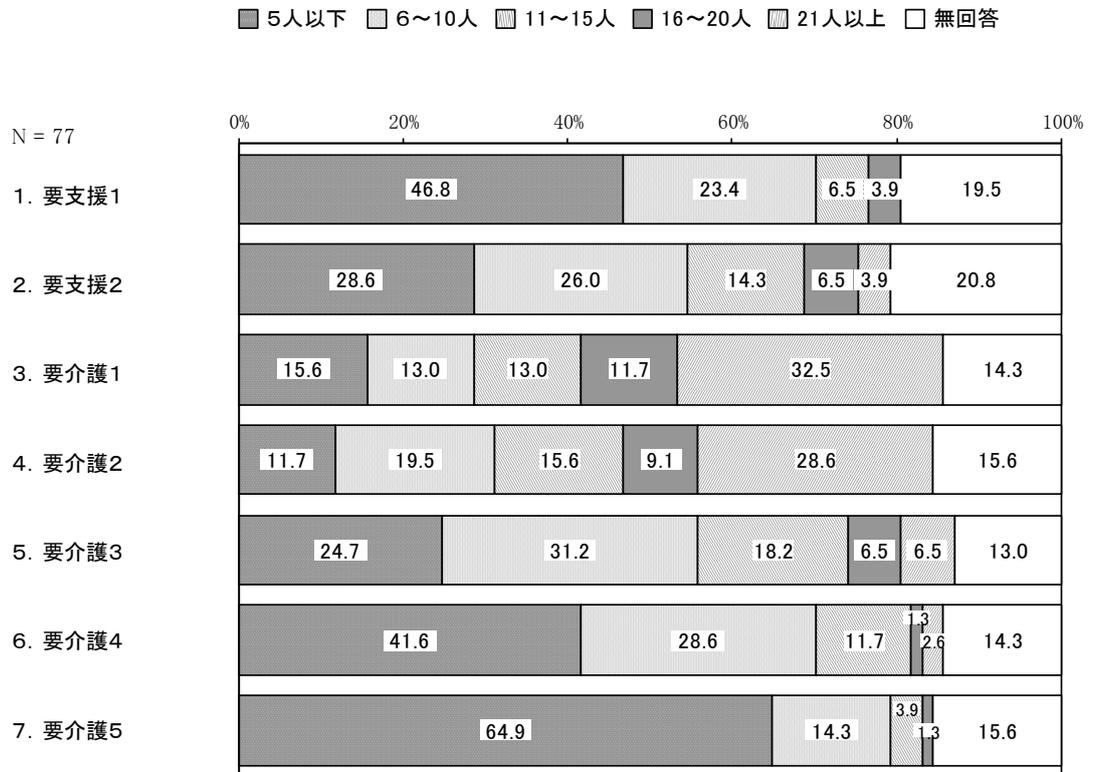
問4 貴事業所には、介護支援専門員の方が何名いらっしゃいますか。

4. 兼務兼務【非常勤】で「0人」の割合が高く、約9割となっています。また、専従【常勤】で「3～5人」「6人以上」の割合が高く、2割を超えています。



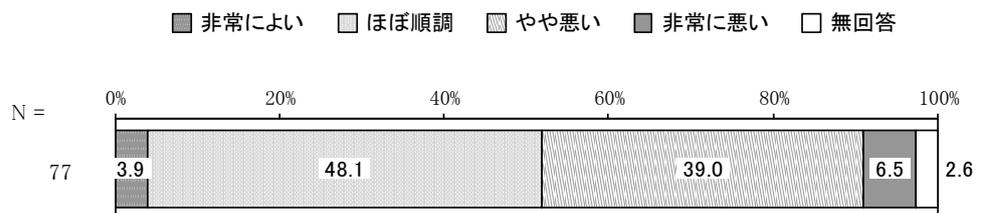
問5 貴事業所の要介護度別利用者数を教えてください。(委託分含む)

要介護1、要介護2で「21人以上」の割合が高く、約3割となっています。



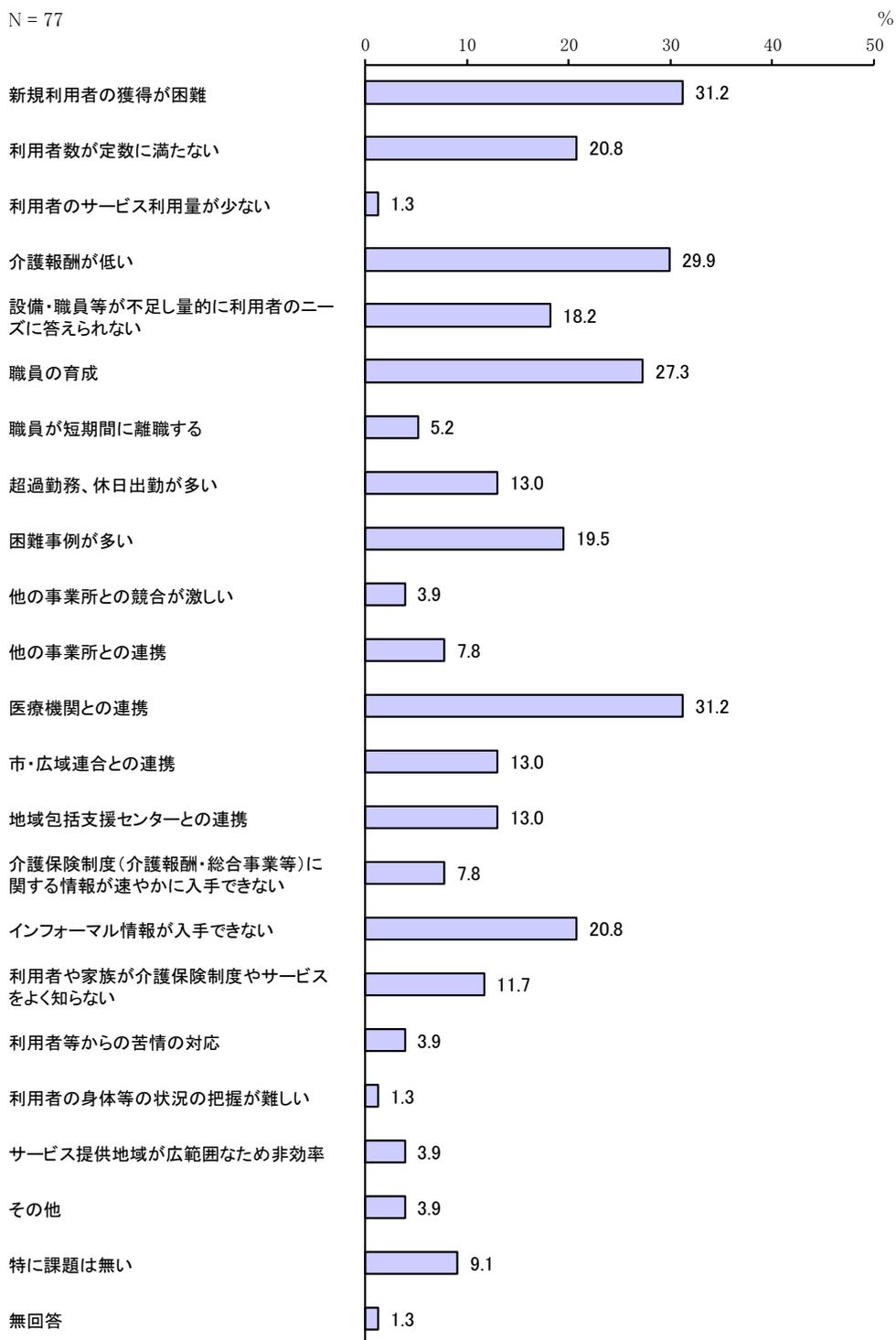
問6 貴事業所の運営（経営）状況はいかがですか。(○は1つ)

「ほぼ順調」の割合が48.1%と最も高く、次いで「やや悪い」の割合が39.0%となっています。



問7 貴事業所が事業を運営する上での課題は何ですか。(〇はいくつでも)

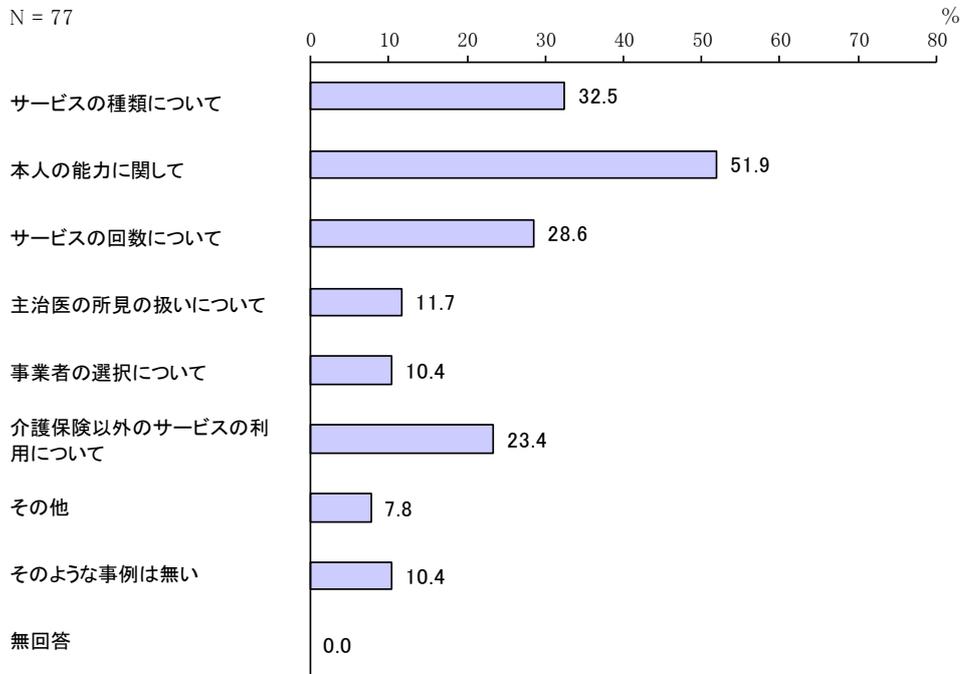
「新規利用者の獲得が困難」、「医療機関との連携」の割合が31.2%と最も高く、次いで、「介護報酬が低い」の割合が29.9%となっています。



(2) ケアマネジメントについて

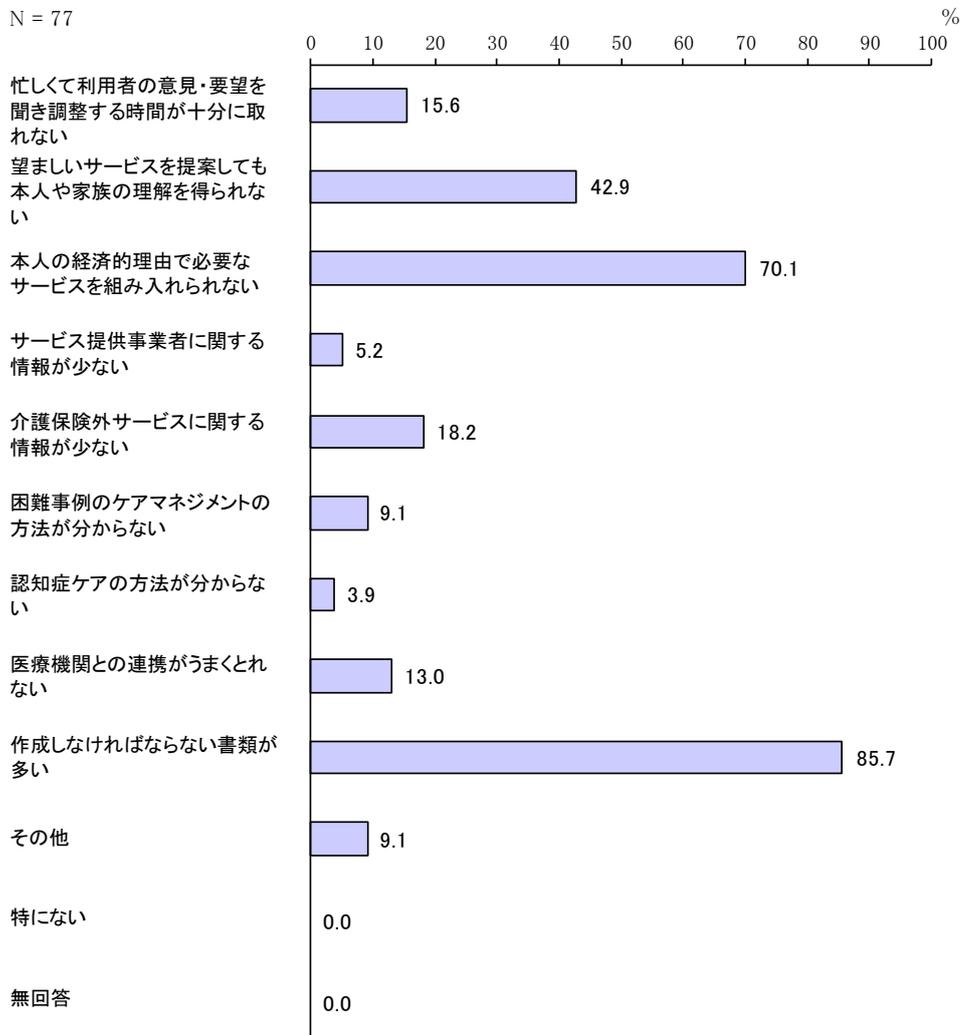
問8 ケアプランを作成する際、介護支援専門員の意見と、利用者との意見が食い違うのは、どのような場合ですか。(〇はいくつでも)

「本人の能力に関して」の割合が51.9%と最も高く、次いで「サービスの種類について」の割合が32.5%、「サービスの回数について」の割合が28.6%となっています。



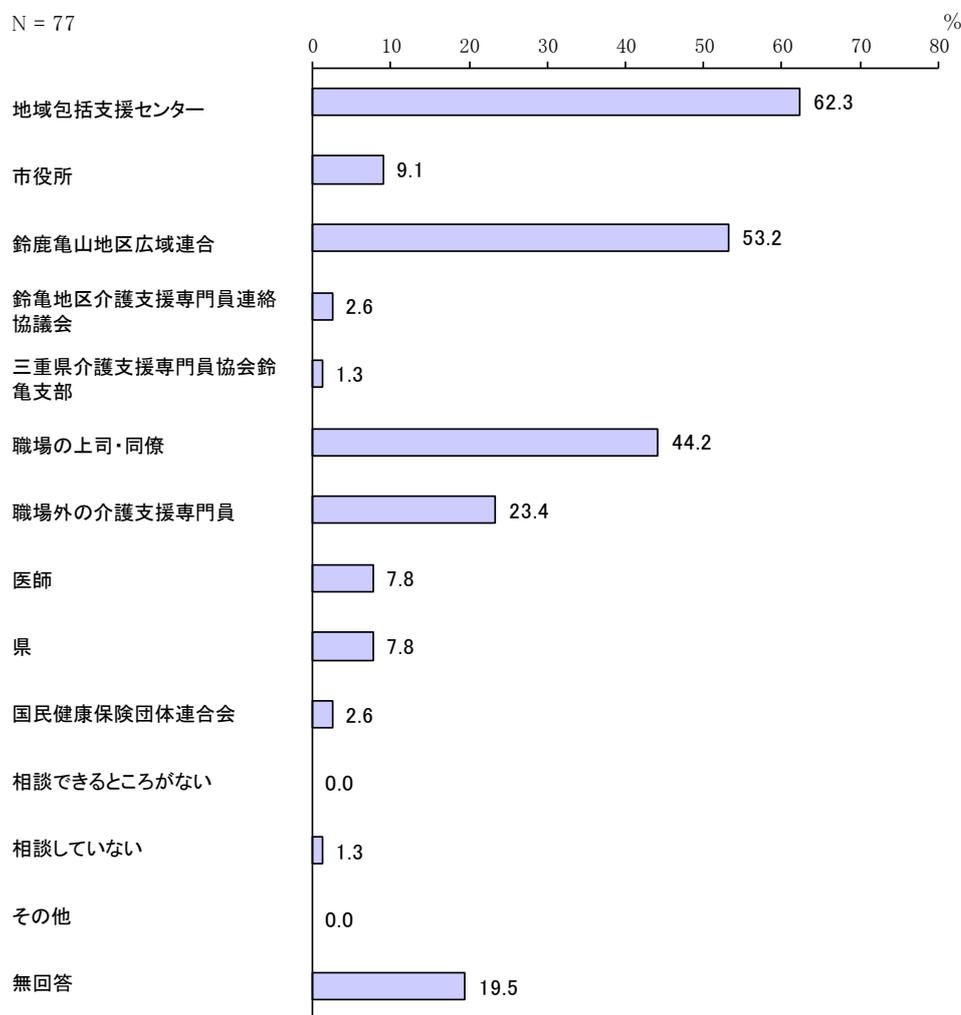
問9 ケアマネジメントするうえで、どんなことに問題や難しさを感じますか。
(〇はいくつでも)

「作成しなければならない書類が多い」の割合が85.7%と最も高く、次いで「本人の経済的理由で必要なサービスを組み入れられない」の割合が70.1%、「望ましいサービスを提案しても本人や家族の理解を得られない」の割合が42.9%となっています。



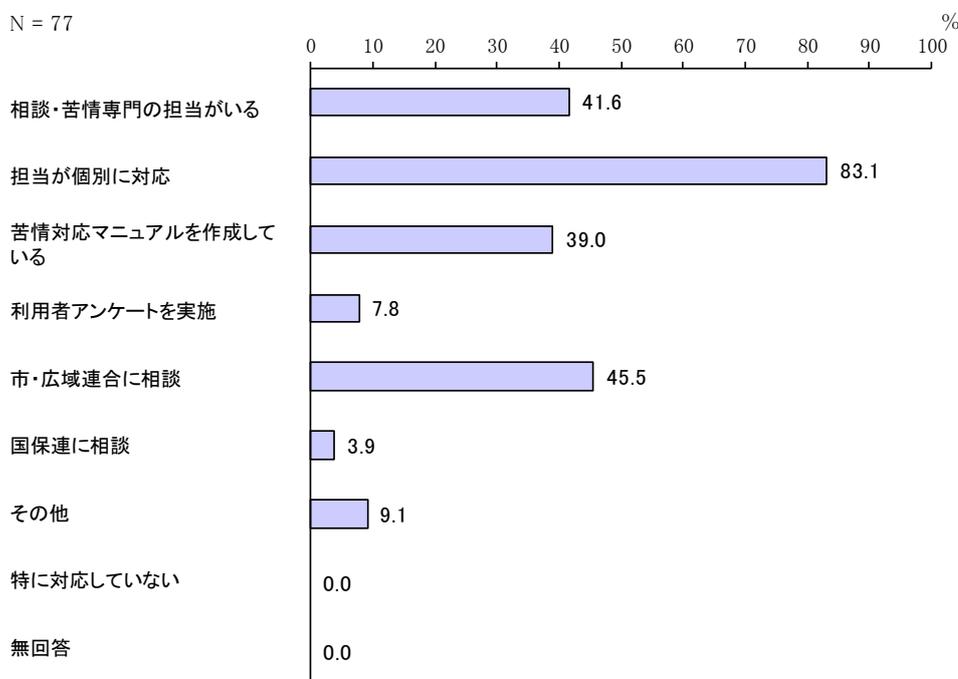
問 10 業務を進める上で、困ったときは主にどこに相談していますか。
(〇は3つまで)

「地域包括支援センター」の割合が62.3%と最も高く、次いで「鈴鹿亀山地区広域連合」の割合が53.2%、「職場の上司・同僚」の割合が44.2%となっています。



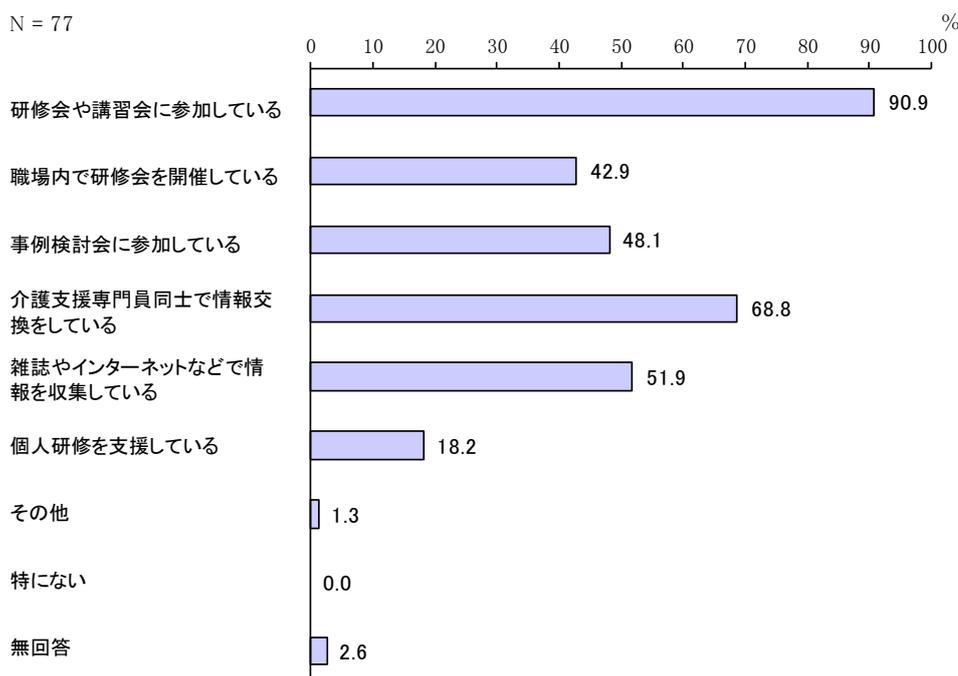
問 11 貴事業所では、利用者や家族からの相談や苦情についてどのように対応していますか。(〇はいくつでも)

「担当が個別に対応」の割合が 83.1%と最も高く、次いで「市・広域連合に相談」の割合が 45.5%、「相談・苦情専門の担当がいる」の割合が 41.6%となっています。



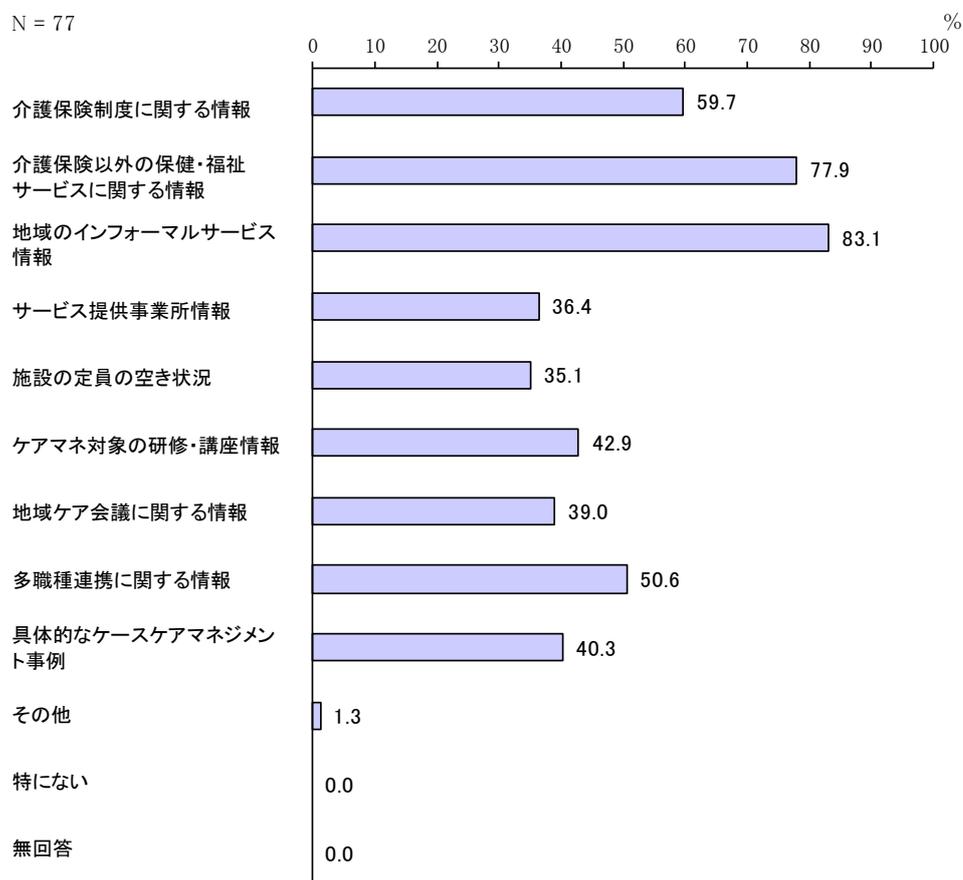
問 12 介護支援専門員としての資質向上を図るため、貴事業所で行っていることはありますか。(〇はいくつでも)

「研修会や講習会に参加している」の割合が 90.9%と最も高く、次いで「介護支援専門員同士で情報交換をしている」の割合が 68.8%、「雑誌やインターネットなどで情報を収集している」の割合が 51.9%となっています。



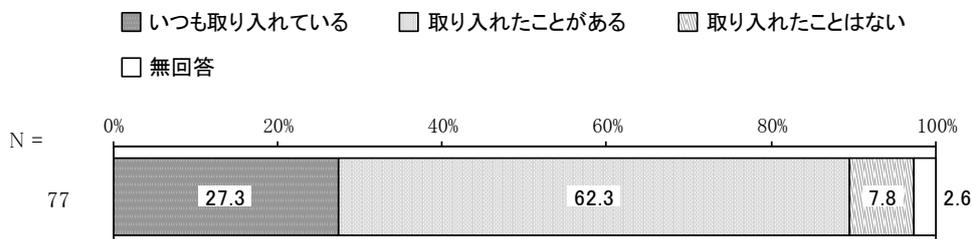
問13 ケアマネジメント業務を行う上で、どのような情報があれば良いと思いますか。(〇はいくつでも)

「地域のインフォーマルサービス情報」の割合が83.1%と最も高く、次いで「介護保険以外の保健・福祉サービスに関する情報」の割合が77.9%、「介護保険制度に関する情報」の割合が59.7%となっています。



問 14 介護（予防）サービス計画に介護保険以外のサービスを取り入れていますか。（○は1つ）

「取り入れたことがある」の割合が62.3%と最も高く、次いで「いつも取り入れている」の割合が27.3%となっています。



問 14 で「1 いつも取り入れている」または「2 取り入れたことがある」と回答した方にお伺いします。

問 14-② それはどのようなサービスですか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・配食サービス
- ・介護タクシー
- ・シルバー人材センター
- ・医療系サービス
- ・有償ボランティア

問 14 で「1 いつも取り入れている」または「2 取り入れたことがある」と回答した方にお伺いします。

問 14-③ その理由は何ですか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・本人・家族の希望
- ・必要なサービスだから
- ・生活の維持に必要であっても介護保険サービスでは対応できない部分があるため
- ・一人暮らしでも在宅生活が安心して暮らせるように

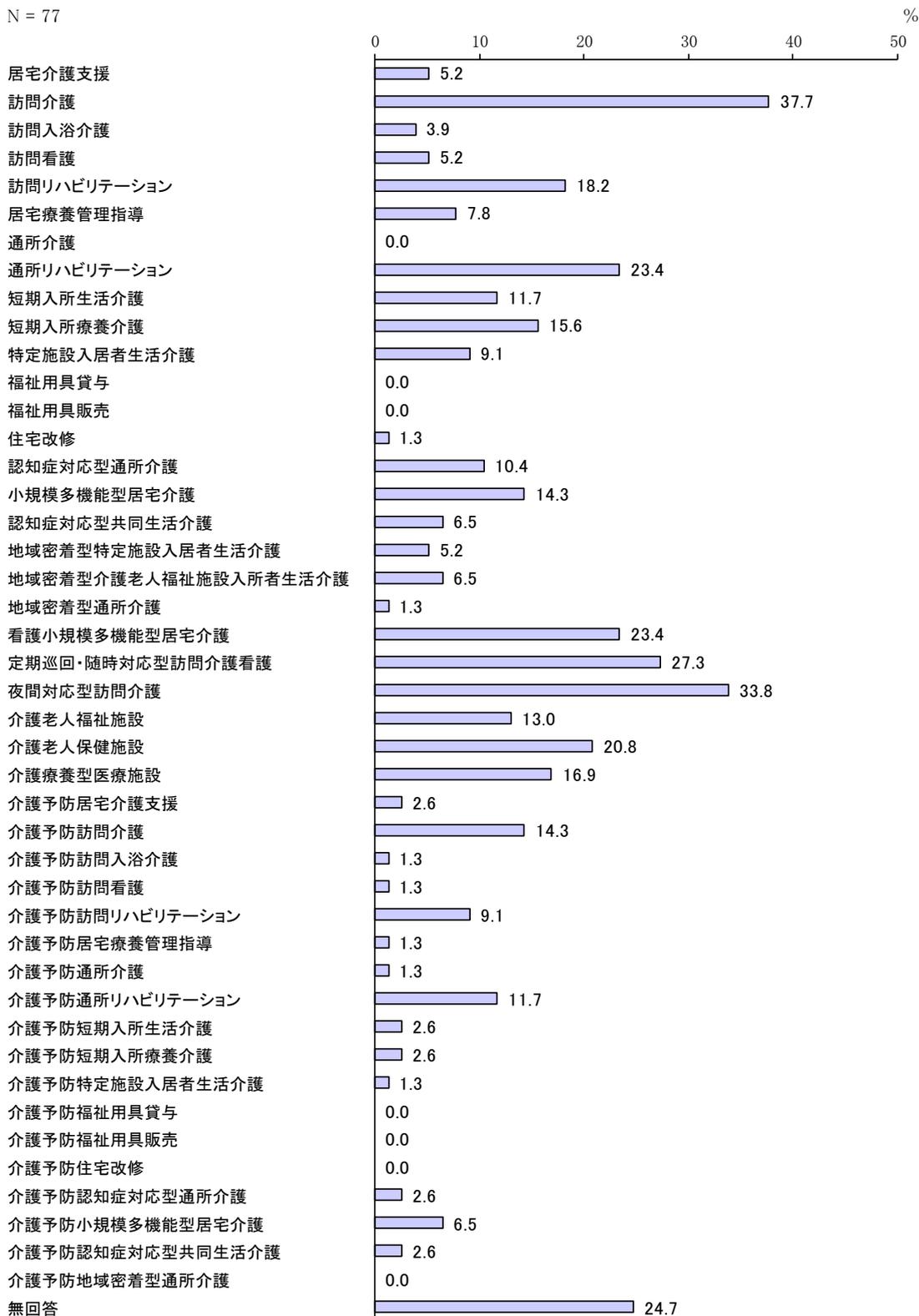
(3) 介護サービスについて

問 15 現行サービス（1～44）について利用者のニーズに対し管内の提供体制で充足していると思いますか。また評価はどうか。ア、イ、ウのそれぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

ア. サービスの量が不足

「訪問介護」の割合が37.7%と最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」の割合が33.8%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の割合が27.3%となっています。

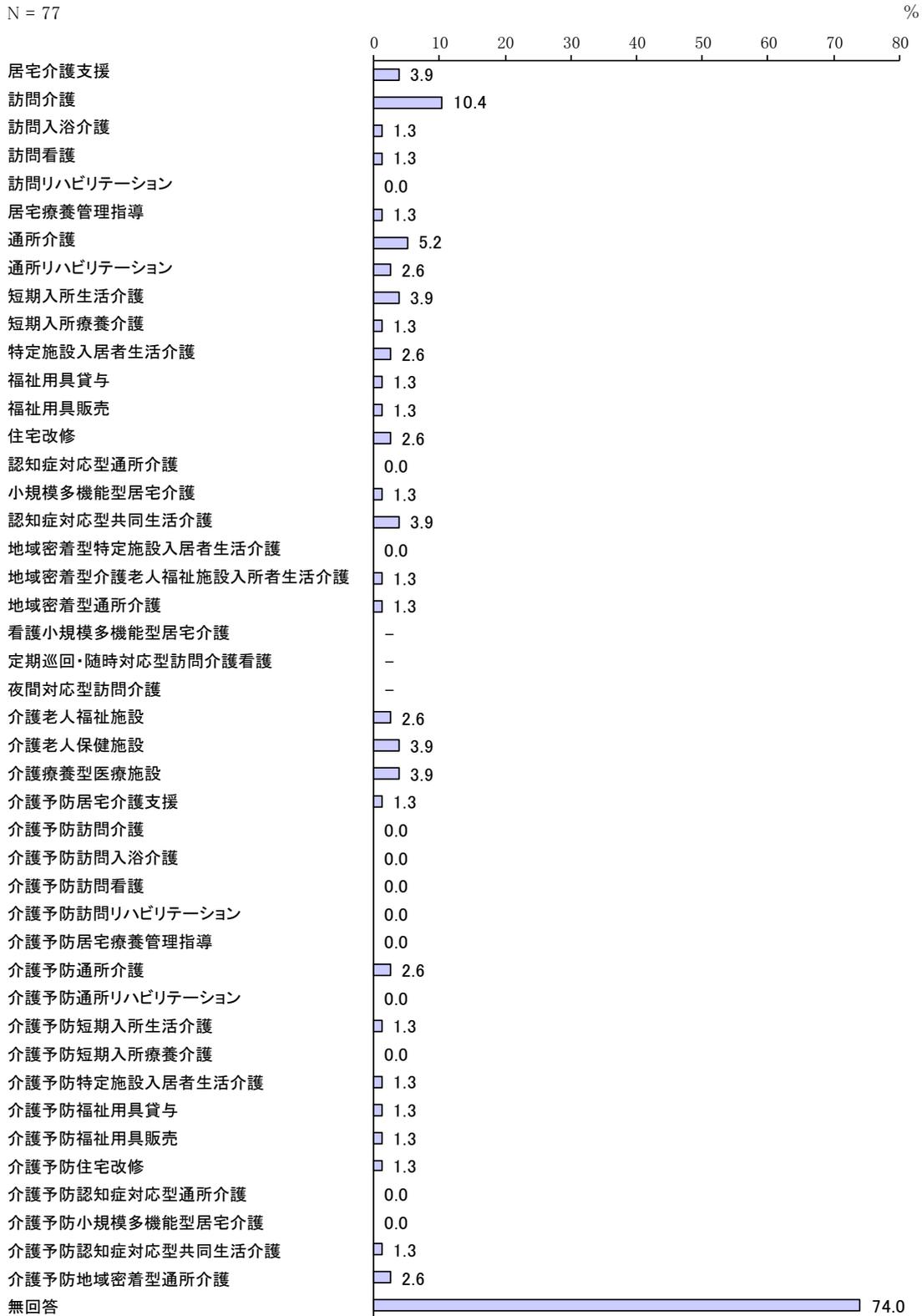
N = 77



イ. サービスの質が悪い

「訪問介護」の割合が10.4%と最も高くなっています。

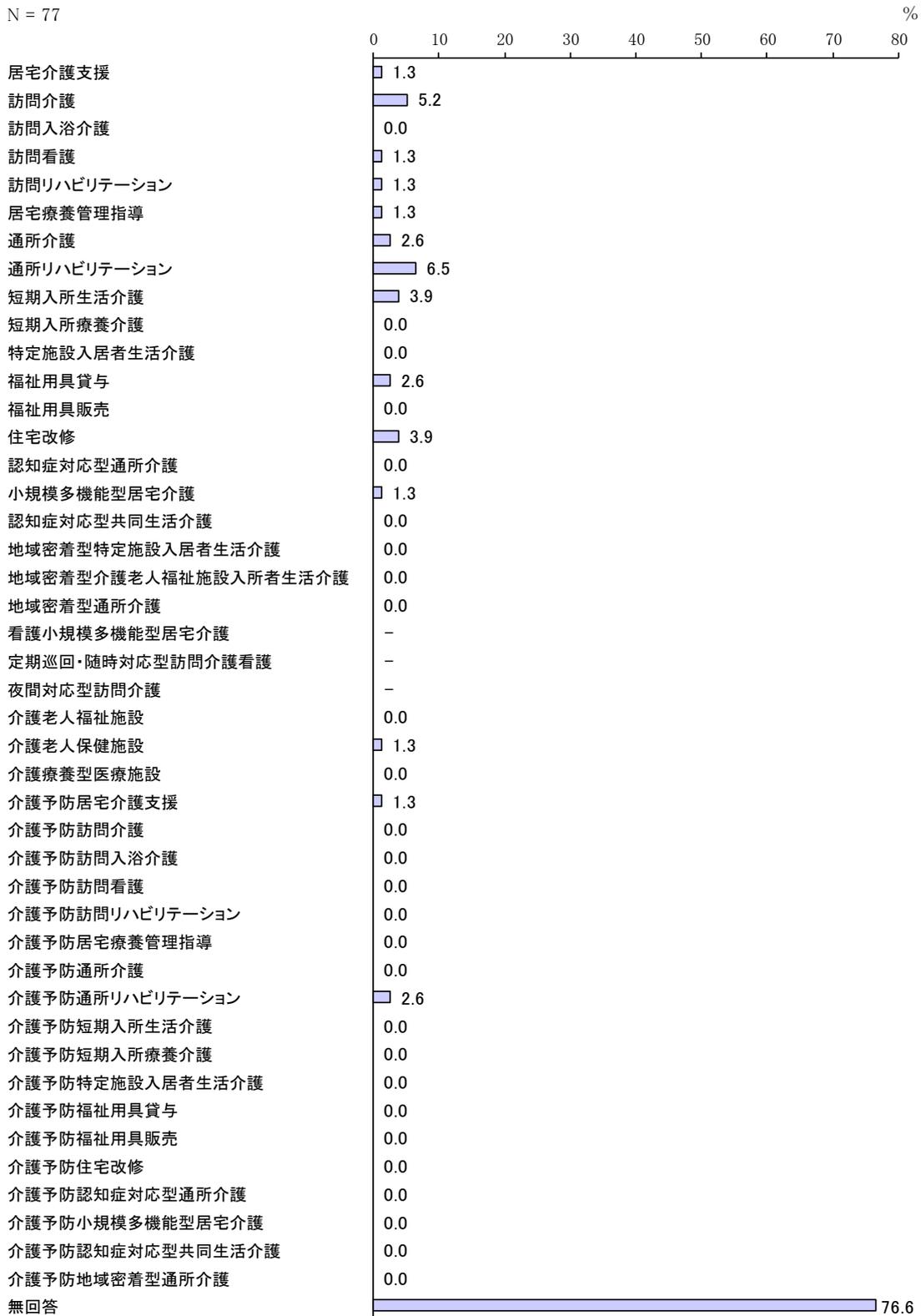
N = 77



ウ 利用者の不満が多い

「通所リハビリテーション」の割合が6.5%と最も高くなっています。

N = 77



問 15 の「ウ. 利用者の不満が多い」の項目で、○をつけたサービスについて伺います。

問 15-② 不満が多いと感じる具体的な事例があれば下の欄にお書きください。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

〔1 居宅介護支援〕

- ・ケアマネジャーの質が低い

〔2 訪問介護〕

- ・土日にサービス出来る事業所が少ない
- ・訪問してほしい時間に来てもらえない
- ・朝、夕など支援時間が集中すると不足する
- ・担当者により、質の違い、不一致がある
- ・通院乗降サービスが不足

〔3 訪問入浴介護〕

- ・手技が下手になってきた

〔4 訪問看護〕

- ・単価が高い
- ・土日に休業する事業所があり、利用しにくい
- ・事業所格差

〔5 訪問リハビリテーション〕

- ・事業所が少ない
- ・利用回数が増やせない

〔6 居宅療養管理指導〕

- ・費用がかさむ

〔7 通所介護〕

- ・職員の離職率が高く、質の向上がされていない
- ・量が多すぎて特色がかえてない
- ・認知症の方に対する対応や考え方

〔8 通所リハビリテーション〕

- ・利用定員が多く、すぐ対応してもらえない
- ・リハビリ型デイサービスの方が熱心にリハをしてくれる。
- ・利用者の状態を十分理解しておらずリハビリによって寝たきりになってしまった
- ・一事業所の受入れ人数が多ければ足りているという問題ではない
- ・個別リハの時間がない
- ・亀山地域では少ないと思われる
- ・利用金額が高い。大規模が多く目が届かない

〔9 短期入所生活介護〕

- ・退屈だと申される
- ・薬の飲み忘れやお迎えの時間がほったらかし
- ・多床室が少ない

〔11 特定施設入居者生活介護〕

- ・ 経済的問題

〔12 福祉用具貸与〕

- ・ 搬入までに時間がかかることがある
- ・ 介護度によって借りられない種類がある

〔14 住宅改修〕

- ・ すぐにしてほしいが時間がかかる
- ・ 個人事業所に指導してほしい
- ・ 一般業者（住宅メーカー等）の場合、対応がルーズ、適切ではない工事になる
- ・ 手すりの金額に差がある

〔16 小規模多機能型居宅介護〕

- ・ 利用の仕方が難しい

〔17 認知症対応型共同生活介護〕

- ・ 問題行動を理由に入所を断られる

〔18 地域密着型特定施設入居者生活介護〕

- ・ 経済的理由

〔19 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護〕

- ・ 経済的理由

〔21 看護小規模多機能型居宅介護〕

- ・ これからの推進

〔24 介護老人福祉施設〕

- ・ 新しくできた施設はサービスの質が低い。社会福祉法人としての自覚を持ってほしい

〔25 介護老人保健施設〕

- ・ リハビリ目的での入所が、1週間に10分程度と聞く
- ・ 医療依存の高い方が入所できない

〔27 介護予防居宅介護支援〕

- ・ ケアマネジャーの質が低い、所属事業所のサービスを利用させる

〔28 介護予防訪問介護〕

- ・ 朝、夕など支援時間が集中すると不足する

〔30 介護予防訪問看護〕

- ・ 土日に休業する事業所があり、利用しにくい

〔34 介護予防通所リハビリテーション〕

- ・ 個別のリハビリ対応がしてもらえない

〔40 介護予防住宅改修〕

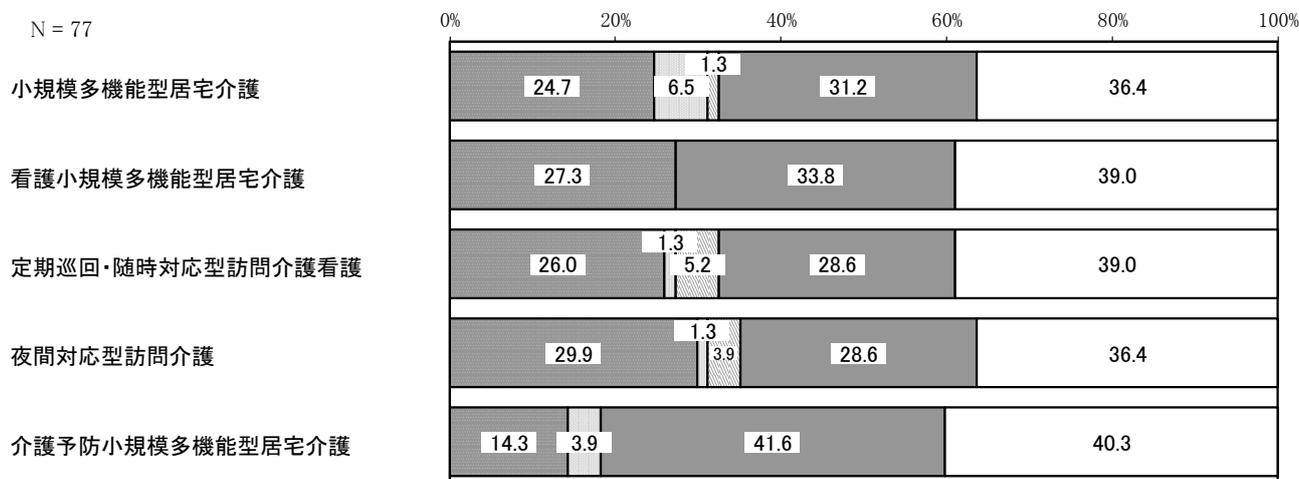
- ・ 専門知識のない工務店が工事をするとう適切ではない工事になる

問 16 現計画（第6期介護保険事業計画）に対し整備が遅れているサービスについてお聞きします。

これらのサービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。また、「2 ニーズはあるが、現行サービスで補完できている」「3 ニーズはあるが、現行サービスが充実すれば補完可能」を選ばれた場合は、サービス名称をご記入ください。（サービスごとに○は1つずつ）

介護予防小規模多機能型居宅介護で「ニーズはない」の割合が高く、約4割となっています。

- ニーズはあるので整備が必要
- ニーズはあるが、現行サービスで補完できている
- ▨ ニーズはあるが、現行サービスが充実すれば補完可能
- ニーズはない
- 無回答



「2 ニーズはあるが、現行サービスで補完できている」「3 ニーズはあるが、現行サービスが充実すれば補完可能」を選ばれた場合の主な意見は、以下のとおりとなっています。

〔小規模多機能型居宅介護〕

- ・訪問介護
- ・通所介護
- ・ショートステイ
- ・ヘルパー

〔定期巡回・随時対応型訪問介護看護〕

- ・ショートステイ
- ・訪問介護・訪問看護

〔夜間対応型訪問介護〕

- ・ショートステイ
- ・訪問介護

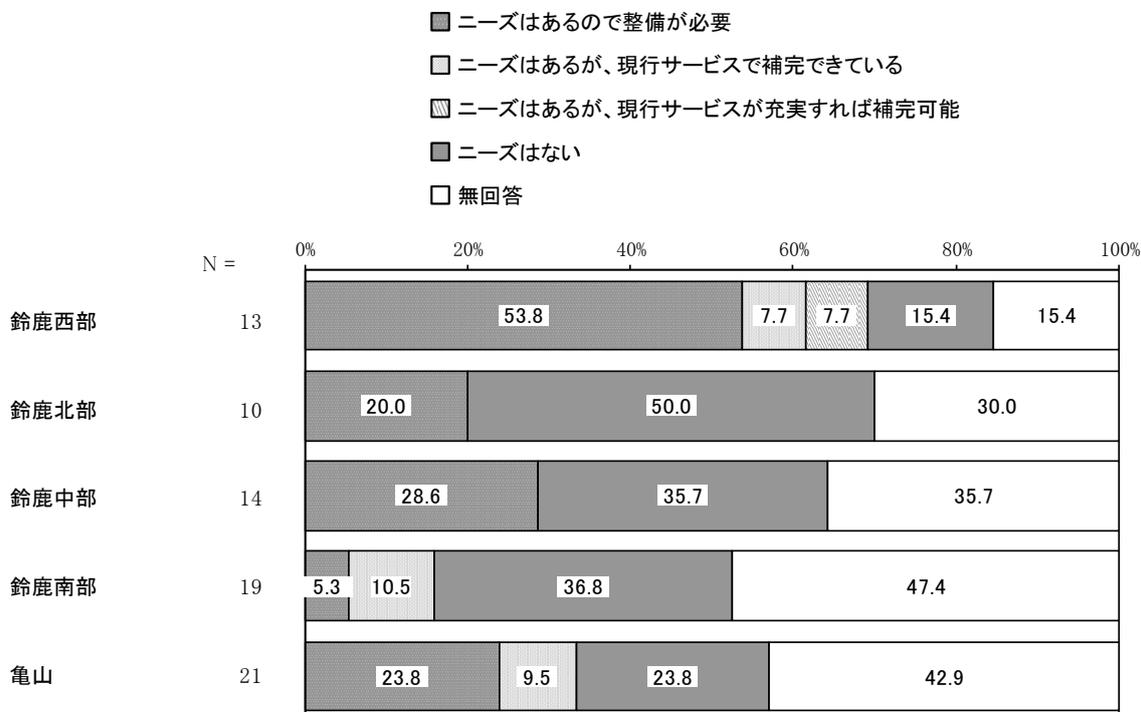
〔介護予防小規模多機能型居宅介護〕

- ・デイサービス
- ・ショートステイ
- ・ヘルパー

小規模多機能型居宅介護

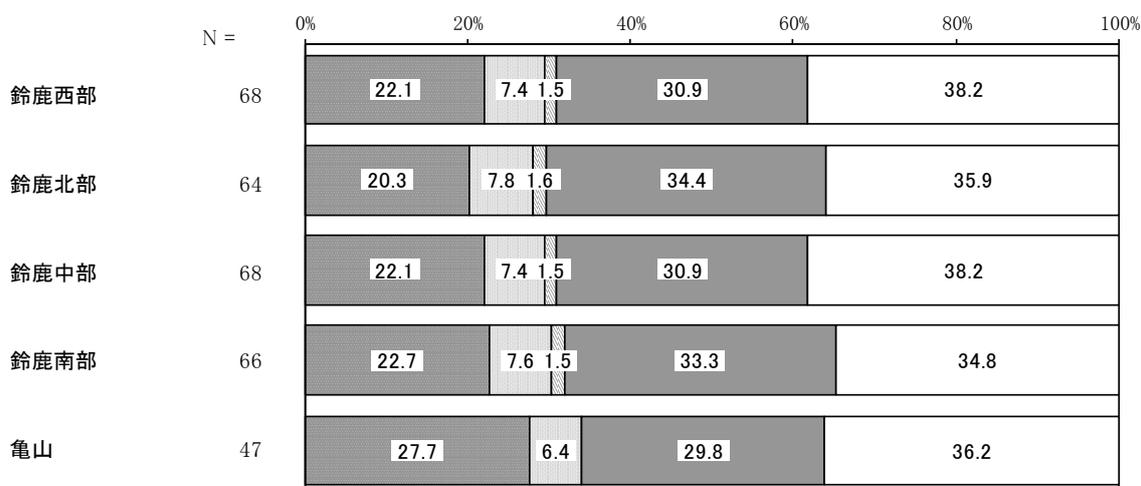
【所在地別】

所在地別で見ると、他に比べ、鈴鹿西部で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



【サービス提供地域別】

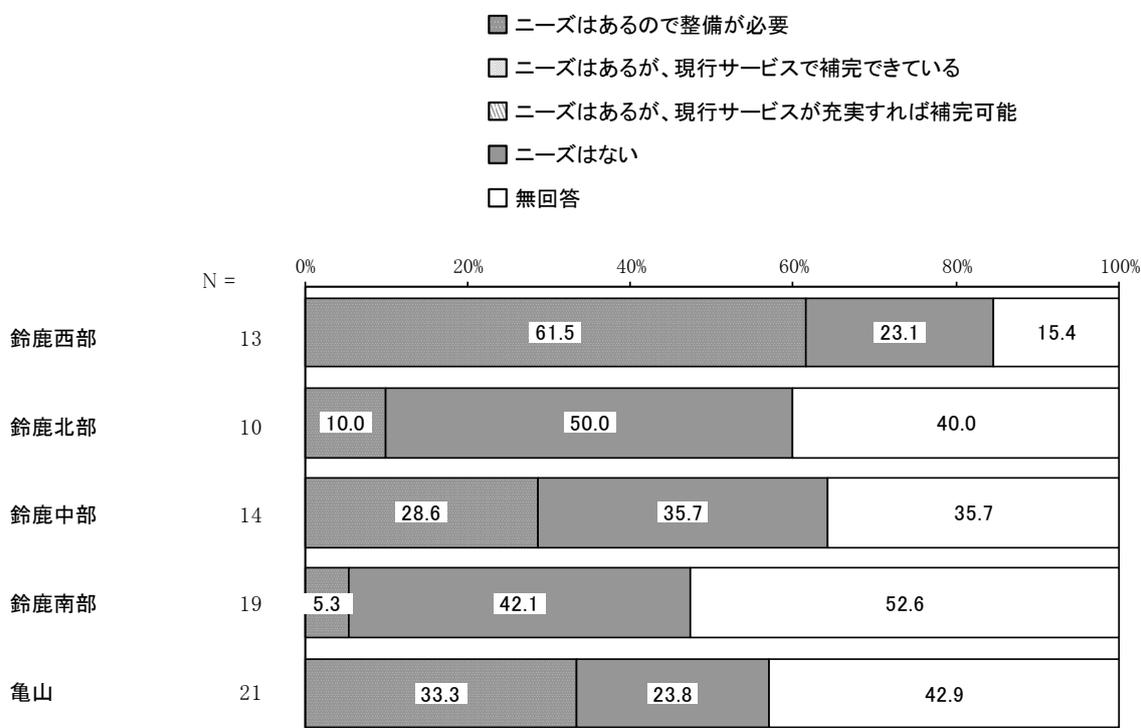
サービス提供地域別で見ると、他に比べ、亀山で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



看護小規模多機能型居宅介護

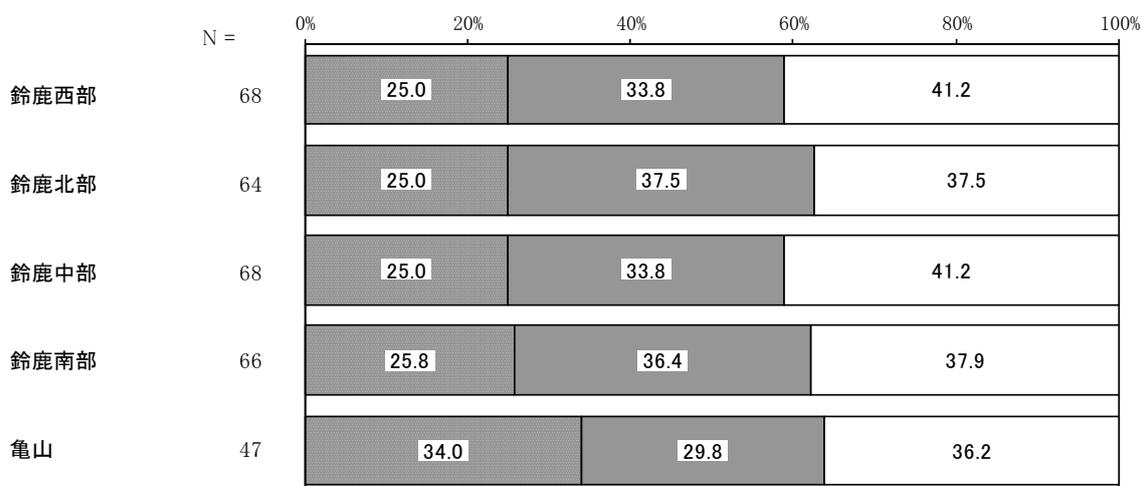
【所在地別】

所在地別で見ると、他に比べ、鈴鹿西部で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



【サービス提供地域別】

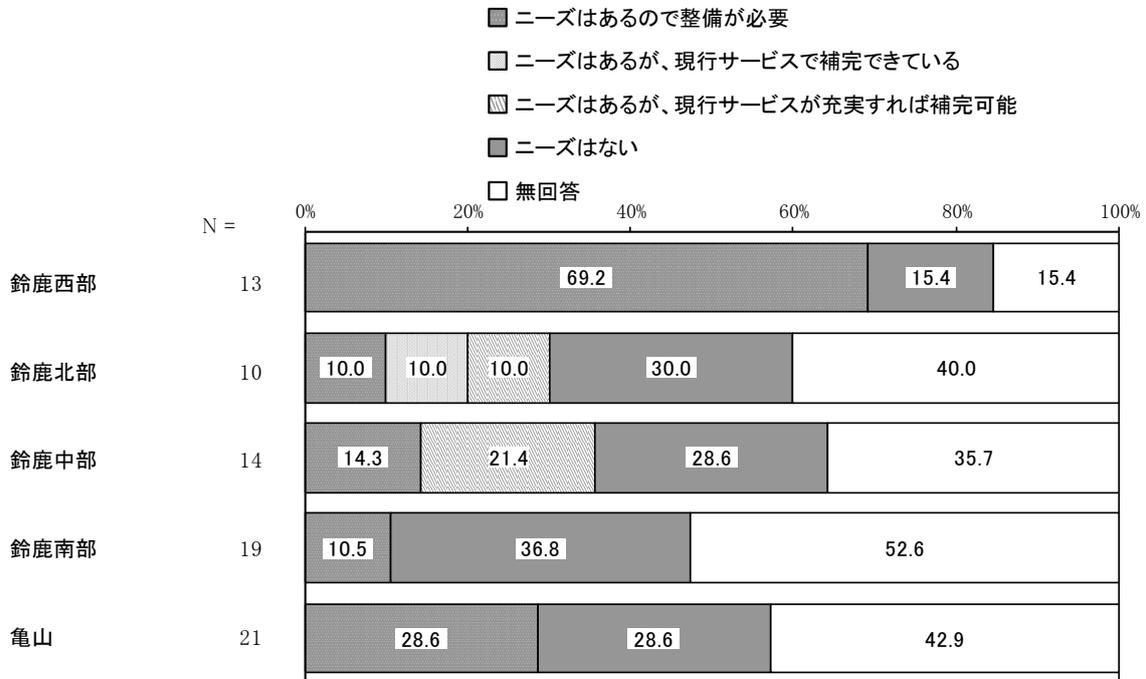
サービス提供地域別で見ると、他に比べ、亀山で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



定期巡回・随時対応型訪問介護看護

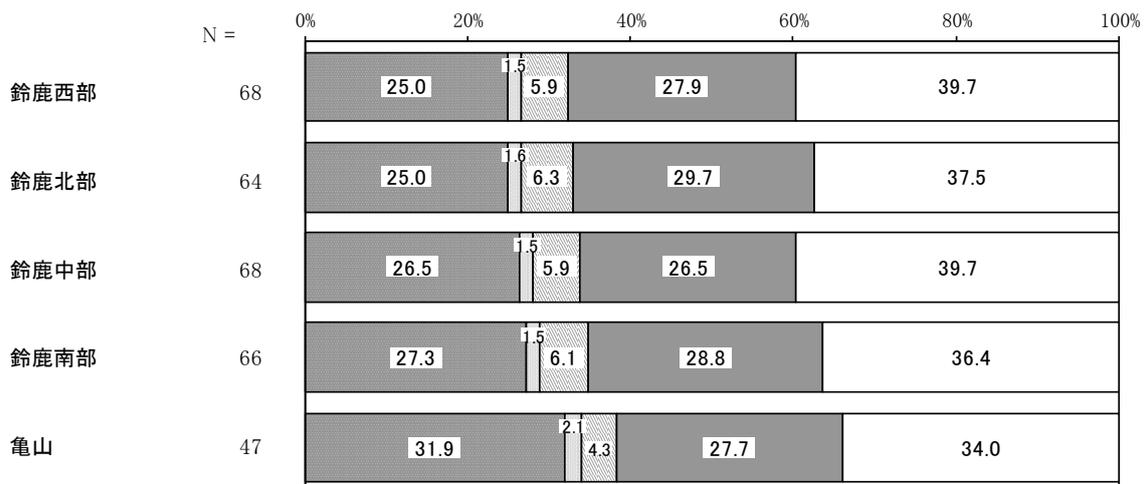
【所在地別】

所在地別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



【サービス提供地域別】

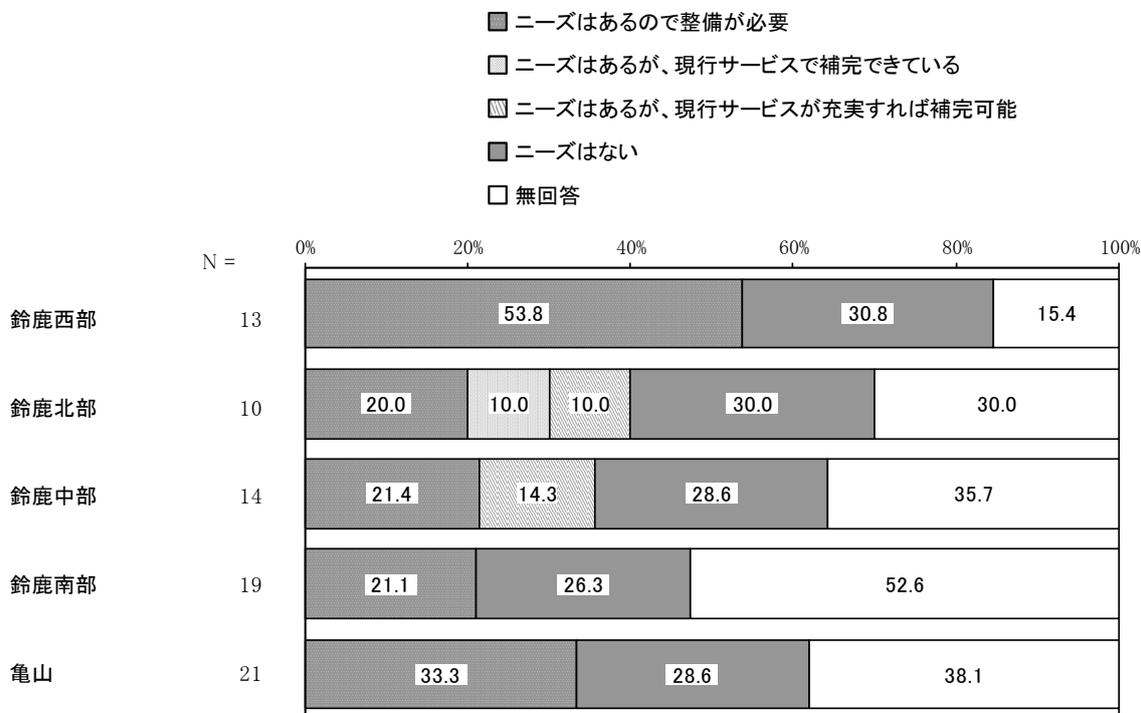
サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



夜間対応型訪問介護

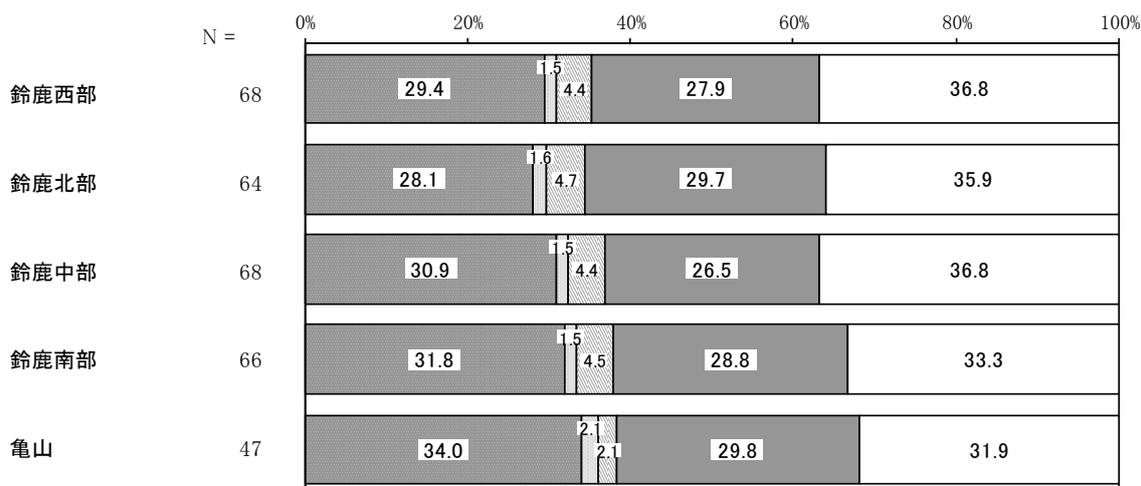
【所在地別】

所在地別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



【サービス提供地域別】

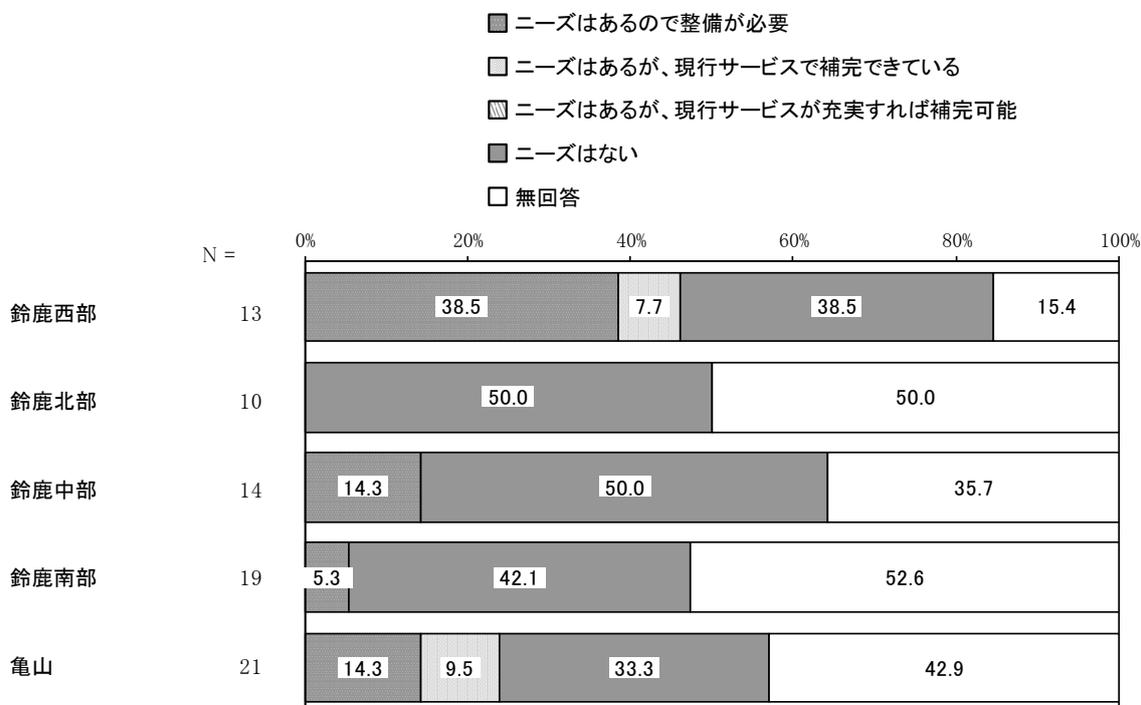
サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



介護予防小規模多機能型居宅介護

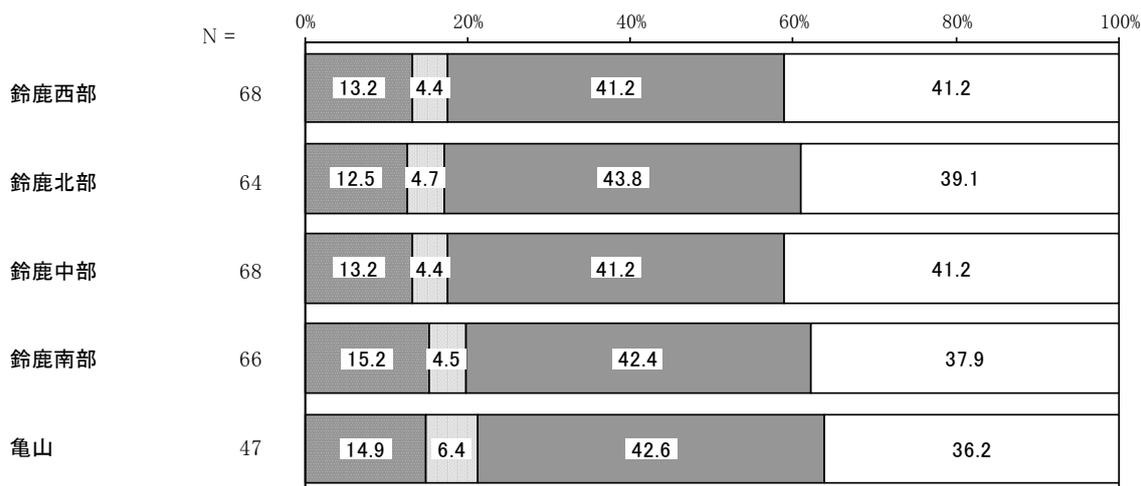
【所在地別】

所在地別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「ニーズはあるので整備が必要」の割合が高くなっています。



【サービス提供地域別】

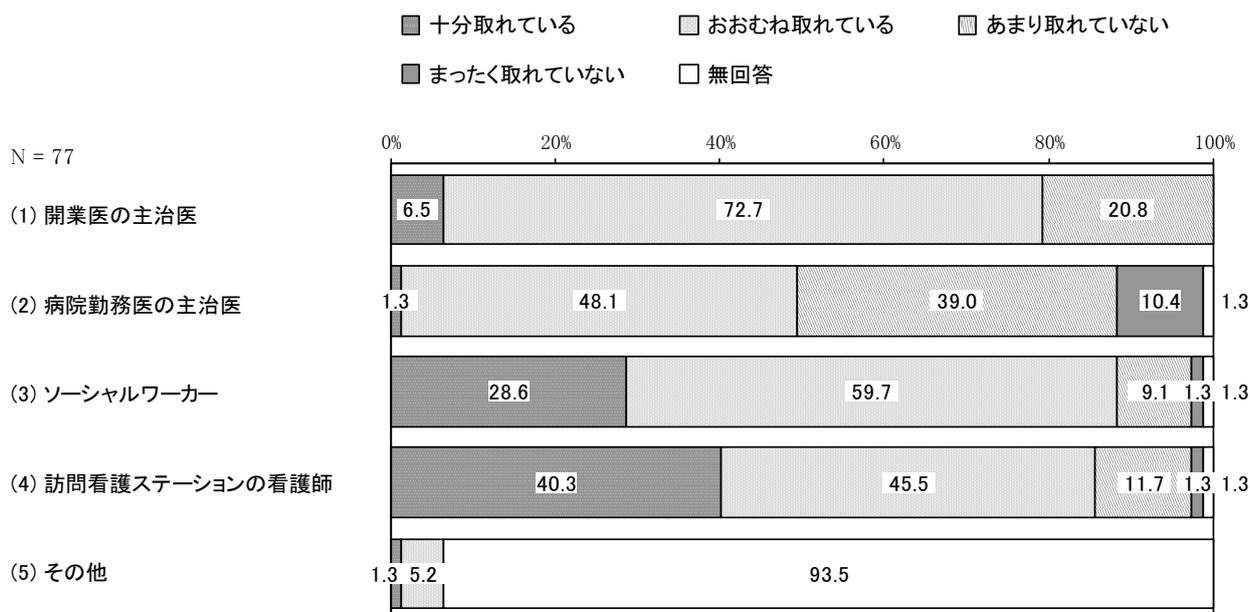
サービス提供地域別でみると、大きな差異はみられません。



(4) 医療との連携について

問 17 医療ニーズの高い要支援・要介護者の増加が見込まれる中、主治医、病院の地域連携室、訪問看護ステーションなど、医療との連携がますます重要になりますが、あなたは、次のような職種との連携がどの程度取れていますか。(〇は1つずつ)

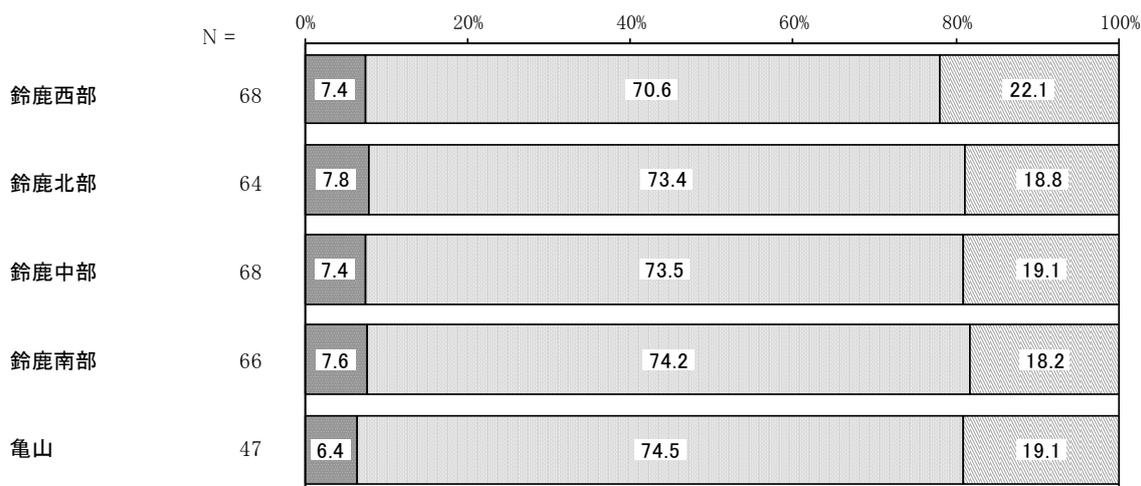
(3) ソーシャルワーカーで「十分取れている」と「おおむね取れている」をあわせた“連携が取れている”の割合が高く、約9割となっています。一方、(2) 病院勤務医の主治医で“連携が取れている”の割合が低く、約5割となっています。



開業医の主治医

【サービス提供地域別】

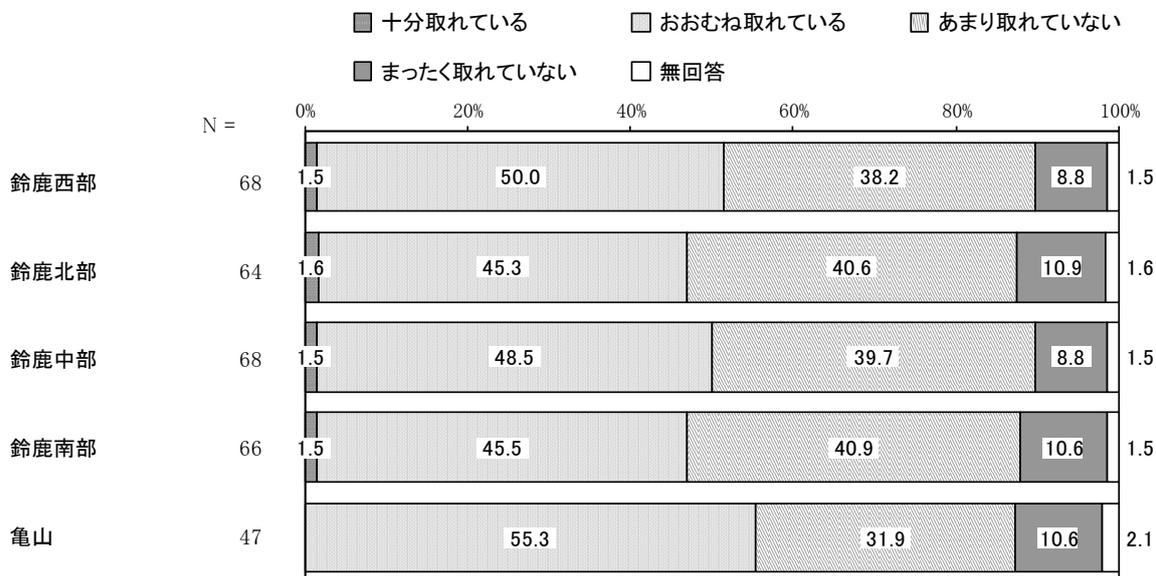
サービス提供地域別でみると、大きな差異はみられません。



病院勤務医の主治医

【サービス提供地域別】

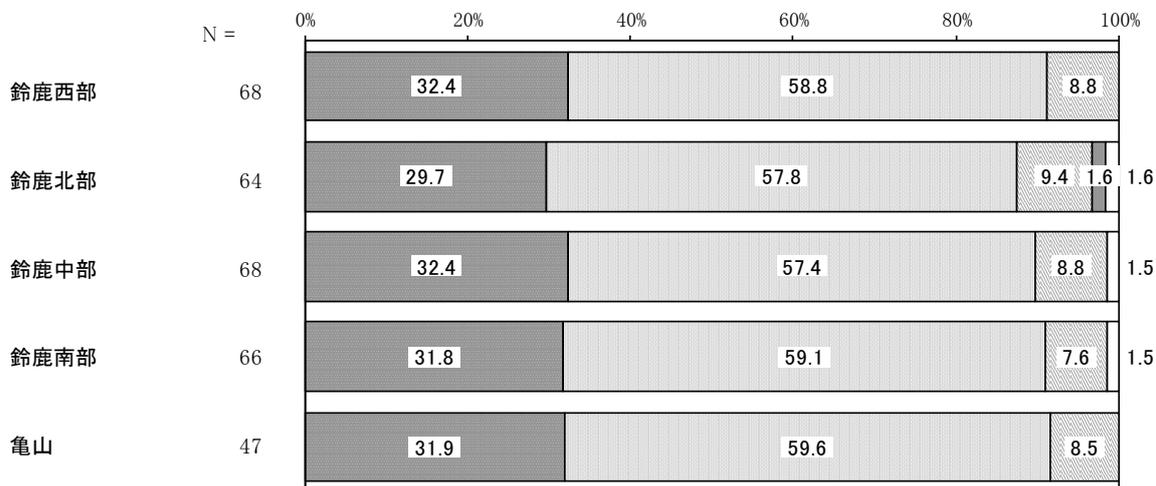
サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で“連携が取れている”の割合が高くなっています。



ソーシャルワーカー

【サービス提供地域別】

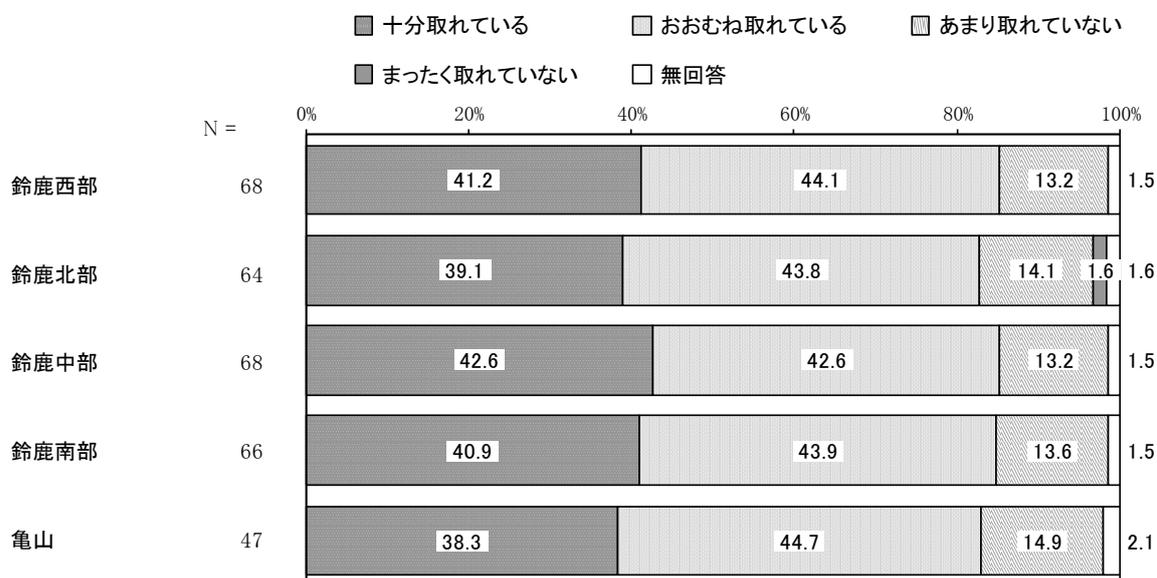
サービス提供地域別でみると、大きな差異はみられません。



訪問看護ステーションの看護師

【サービス提供地域別】

サービス提供地域別でみると、大きな差異はみられません。



問 17 の(1)～(4)のいずれかで「3 あまり取れていない」または「4 まったく取れていない」と回答した方にお伺いします。

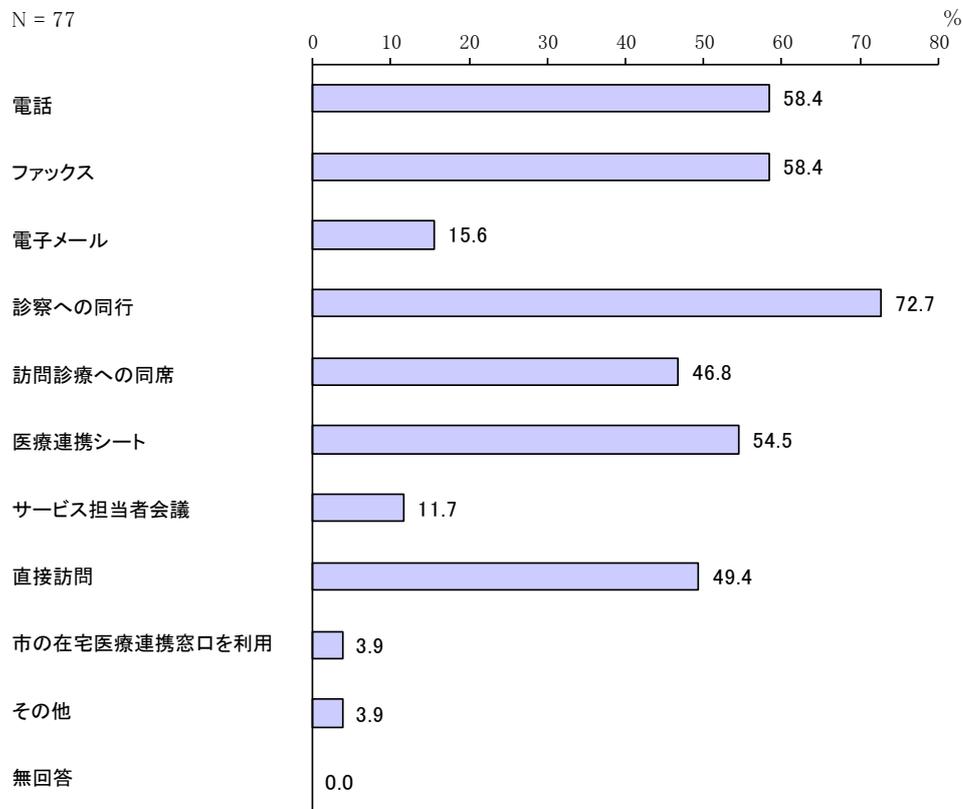
問 17-② 連携がうまく取れていないのはなぜですか。また、どうすればうまく連携できるとお思いますか。具体的にお書きください。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・病院により連携意識、情報提供のばらつきがある。医療関係者に連携の必要性を理解してもらう
- ・病院勤務医との連携について、どの時間帯に、どのように取ったらよいかわからない事が多い
- ・医療と介護の考え方が違いかみ合わないことがある
- ・主治医のアポイントメントがとりづらい
- ・連携がとりやすいシステム等をつくってほしい

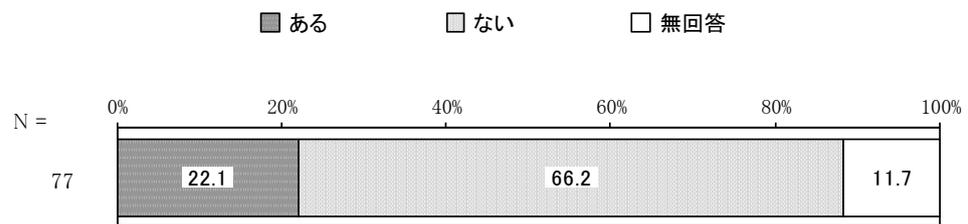
問 18 貴事業所は、通常、医療機関やかかりつけ医とどのような方法で情報を交換していますか。(〇はいくつでも)

「診察への同行」の割合が72.7%と最も高く、次いで「電話」、「ファックス」の割合が58.4%となっています。



問 19 貴事業所で医療行為が必要なためにケアマネジメントで困っていることはありますか。(〇は1つ)

「ある」の割合が 22.1%、「ない」の割合が 66.2%となっています。



問 19 で「1 ある」と回答した方にお伺いします。

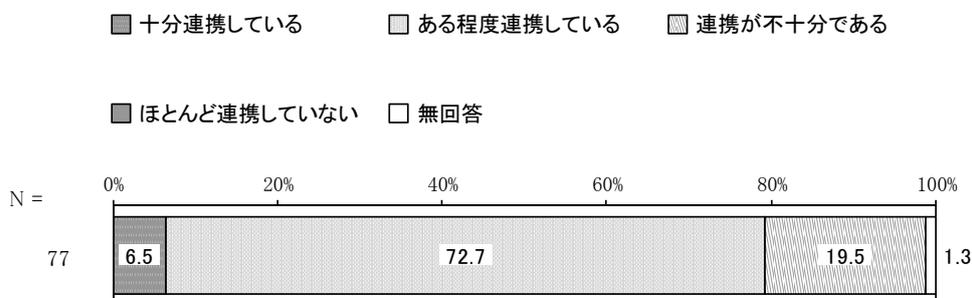
問 19-② それはどのようなことですか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・吸痰、吸引の夜間対応
- ・胃ろう、インスリン、じょくそうの処置等
- ・医療行為が必要だが、経済状況上、行為が困難
- ・緩和や透析で在宅を希望しているが医療機関側が通院を拒否する
- ・難病により、気管切開になられた方への通所系、入所系サービスがない

問 20 在宅療養者への支援において、医療・介護は連携していると思いますか。
(○は1つ)

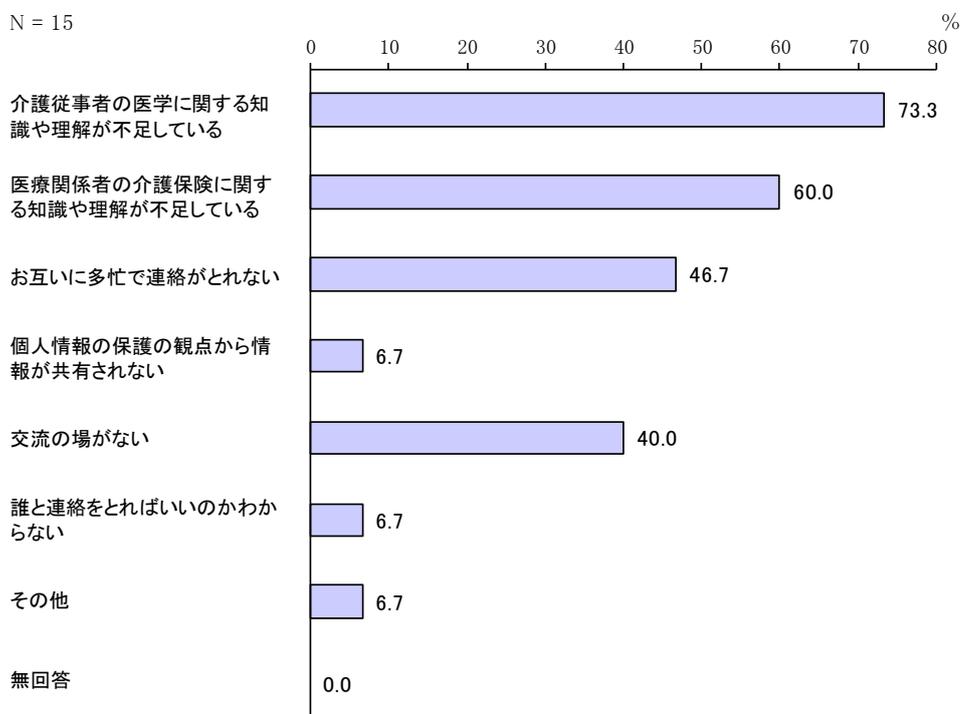
「十分連携している」と「ある程度連携している」をあわせた“連携している”の割合が 79.2%、
「連携が不十分である」と「ほとんど連携していない」をあわせた“連携していない”の割合が
19.5%となっています。



問 20 で「3 連携が不十分である」または「4 ほとんど連携していない」と回答した方にお伺いします。

問 20-② そのように考える理由は次のどれですか (○は3つまで)

「介護従事者の医学に関する知識や理解が不足している」の割合が 73.3%と最も高く、次いで
「医療関係者の介護保険に関する知識や理解が不足している」の割合が 60.0%、「お互いに多忙
で連絡がとれない」の割合が 46.7%となっています。

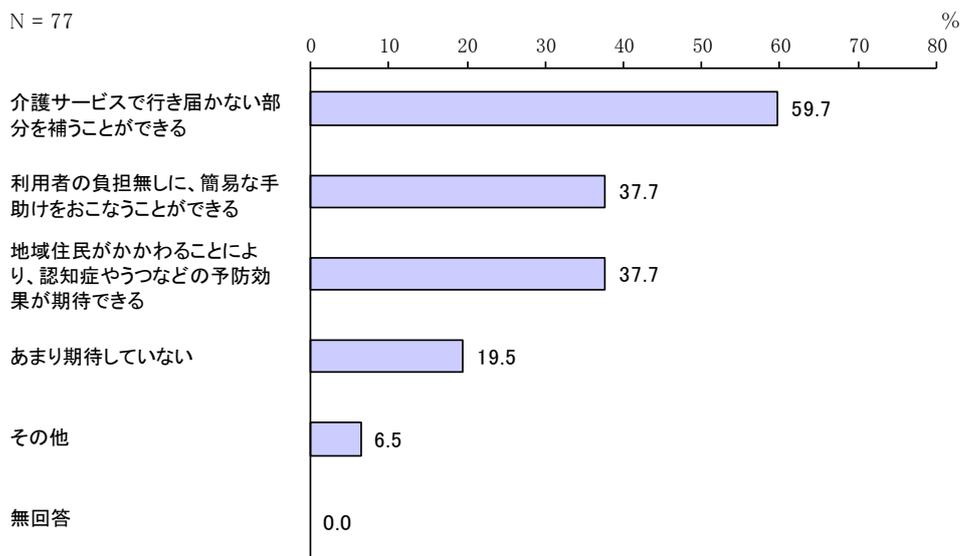


(5) 地域包括ケアについて

問 21 平成 29 年 4 月より総合事業が開始されますが、ボランティアやNPOによる介護や生活支援サービスに対し、どのような期待を持っていますか。
(〇はいくつでも)

「介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「利用者の負担無しに、簡易な手助けをおこなうことができる」、「地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果が期待できる」の割合が 37.7%となっています。

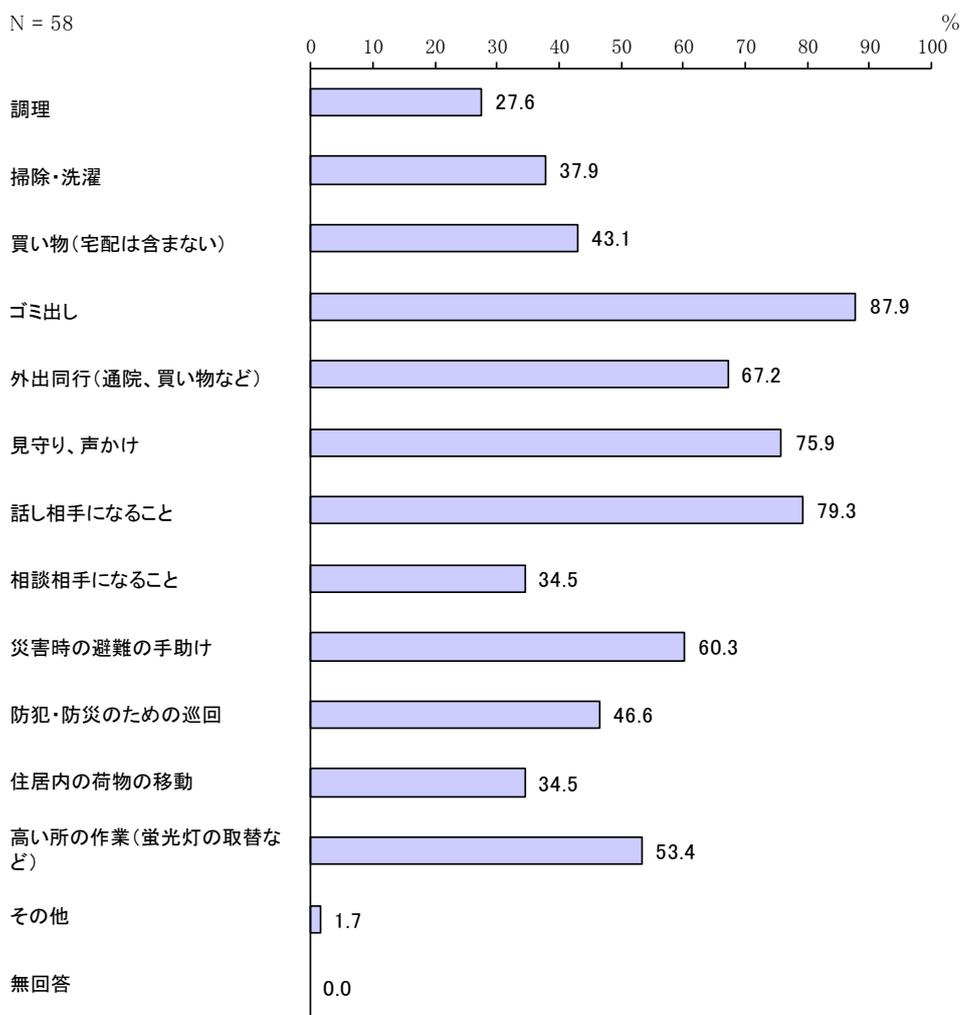
N = 77



問 21 で「1 介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」「2 利用者の負担無しに、簡易な手助けをおこなうことができる」「3 地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果が期待できる」と回答した方にお伺いします。

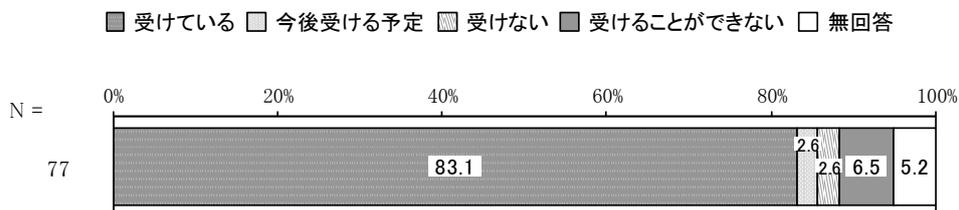
問 21-② ボランティアやNPOは、具体的にどのような手助けをすることが有効だと思いますか。(〇はいくつでも)

「ゴミ出し」の割合が 87.9%と最も高く、次いで「話し相手になること」の割合が 79.3%、「見守り、声かけ」の割合が 75.9%となっています。



問 22 ケアプランの作成について、包括支援センターの委託を受けていますか。もしくは、受けられますか。(〇は1つ)

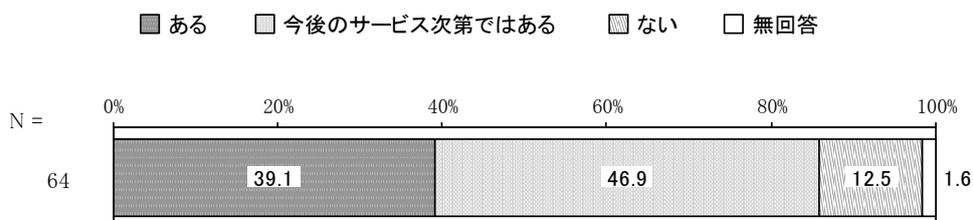
「受けている」の割合が 83.1%と最も高くなっています。



問 22 で「1 受けている」と回答した方にお伺いします。

問 22-② 日常生活支援総合事業の多様なサービスを利用することで、利用者負担を軽減できる可能性がある予防ケースがありますか。(〇は1つ)

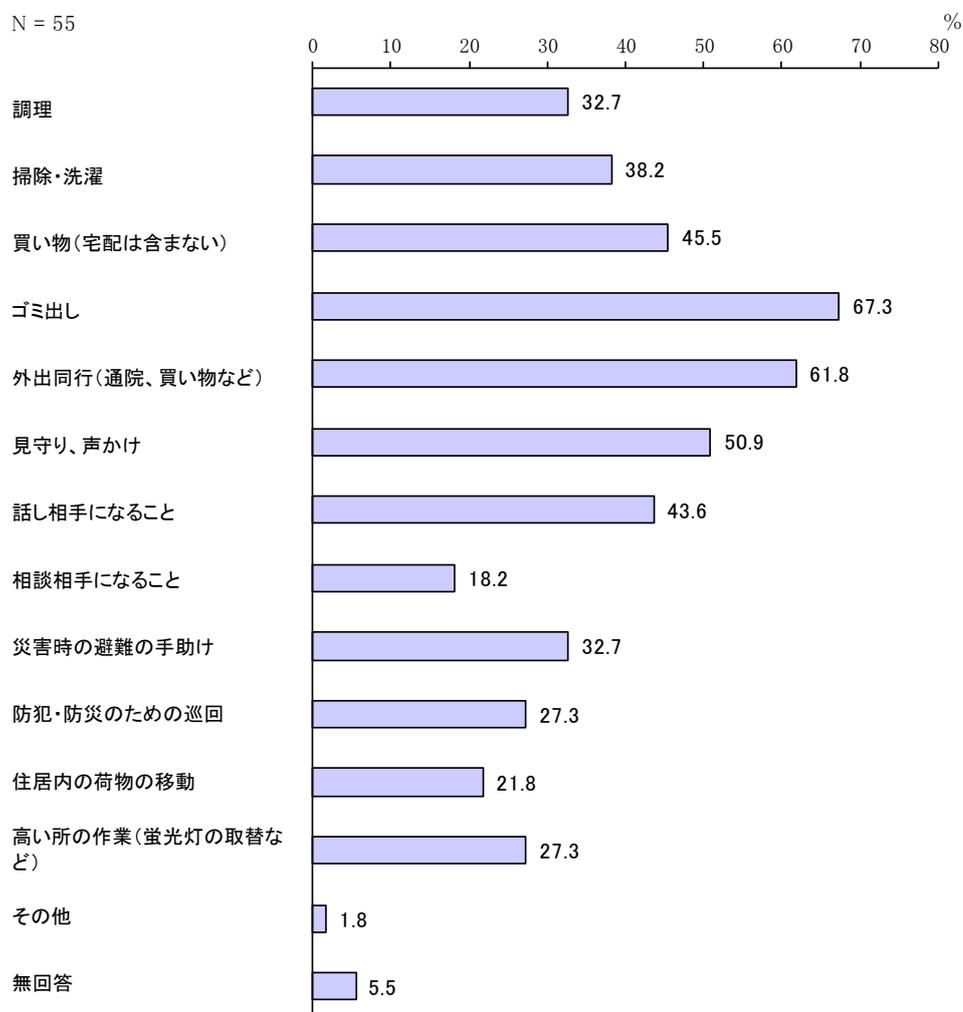
「今後のサービス次第ではある」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「ある」の割合が 39.1%、「ない」の割合が 12.5%となっています。



問 22-②で「1 ある」または「2 今後のサービス次第ではある」と回答した方にお伺いします。

問 22-③ それは、具体的にどのようなサービスですか。(〇はいくつでも)

「ゴミ出し」の割合が 67.3%と最も高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」の割合が 61.8%、「見守り、声かけ」の割合が 50.9%となっています。



問 22 で「3 受けない」または「4 受けることができない」と回答した方にお伺いします。

問 22-④ その理由は何ですか。

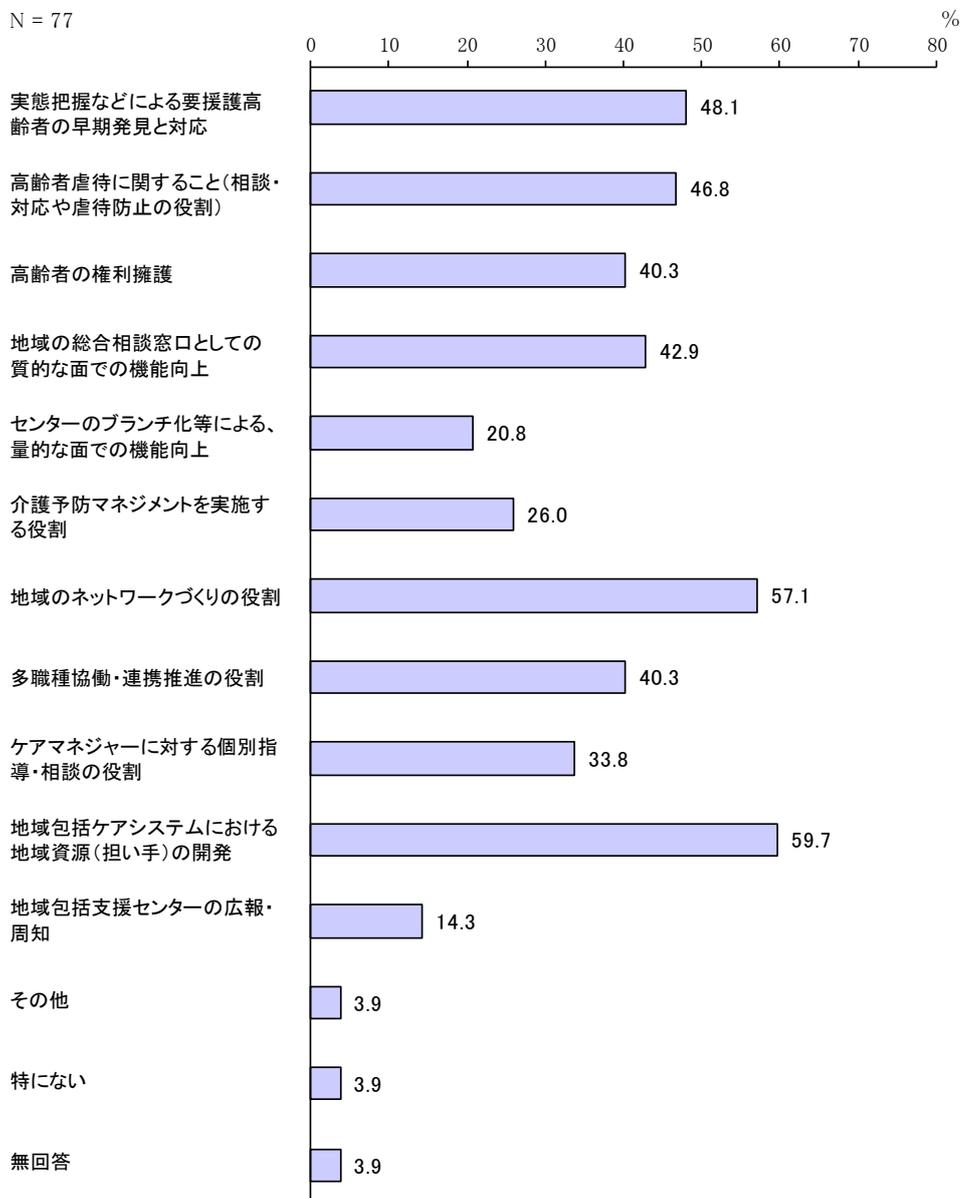
主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・家事援助の支援であっても、出来るところは自身で行う自立支援のプランを作成しているため
- ・ゴミ出しのニーズがあるが、朝の時間帯に支援できる訪問介護事業所がなかなかない
- ・要介護者のケアマネジメント件数が多く支援の方を受ける余裕がない
- ・事業対象者がいない
- ・現在の利用者で総合事業で行えるものは本人でできているため

問 23 地域包括支援センターにおいて、強化が必要と思われる機能・役割は何ですか。(〇はいくつでも)

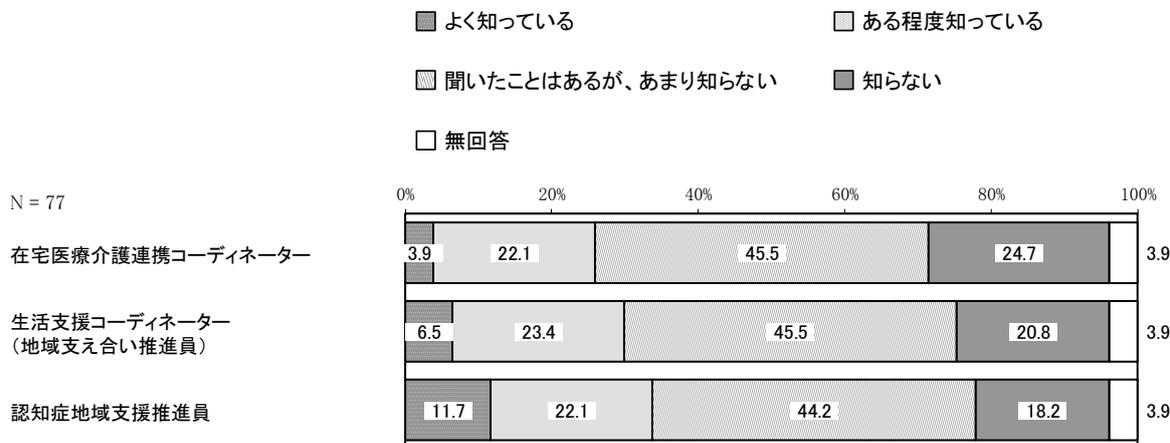
「地域包括ケアシステムにおける地域資源（担い手）の開発」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「地域のネットワークづくりの役割」の割合が 57.1%、「実態把握などによる要援護高齢者の早期発見と対応」の割合が 48.1%となっています。

N = 77



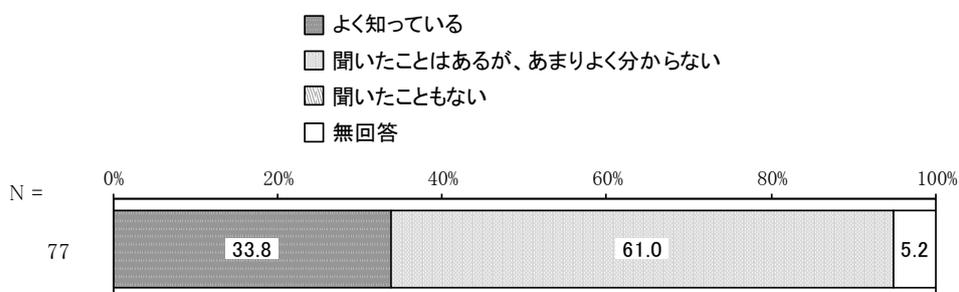
問 24 平成 27 年度の介護保険制度の改正により、高齢者が在宅での生活を継続できるよう、地域に下記のような役割を持つ専門員の設置を進めておりますが、ご存知ですか。
(〇は 1 つずつ)

認知症地域支援推進員で「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が高く、3 割半ばとなっています。



問 25 地域において住まい、医療、介護、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指しておりますが、内容についてご存じですか。
(〇は 1 つ)

「聞いたことはあるが、あまりよく分からない」の割合が 61.0%と最も高く、次いで「よく知っている」の割合が 33.8%となっています。



問 25 で「1 よく知っている」と回答した方にお伺いします。

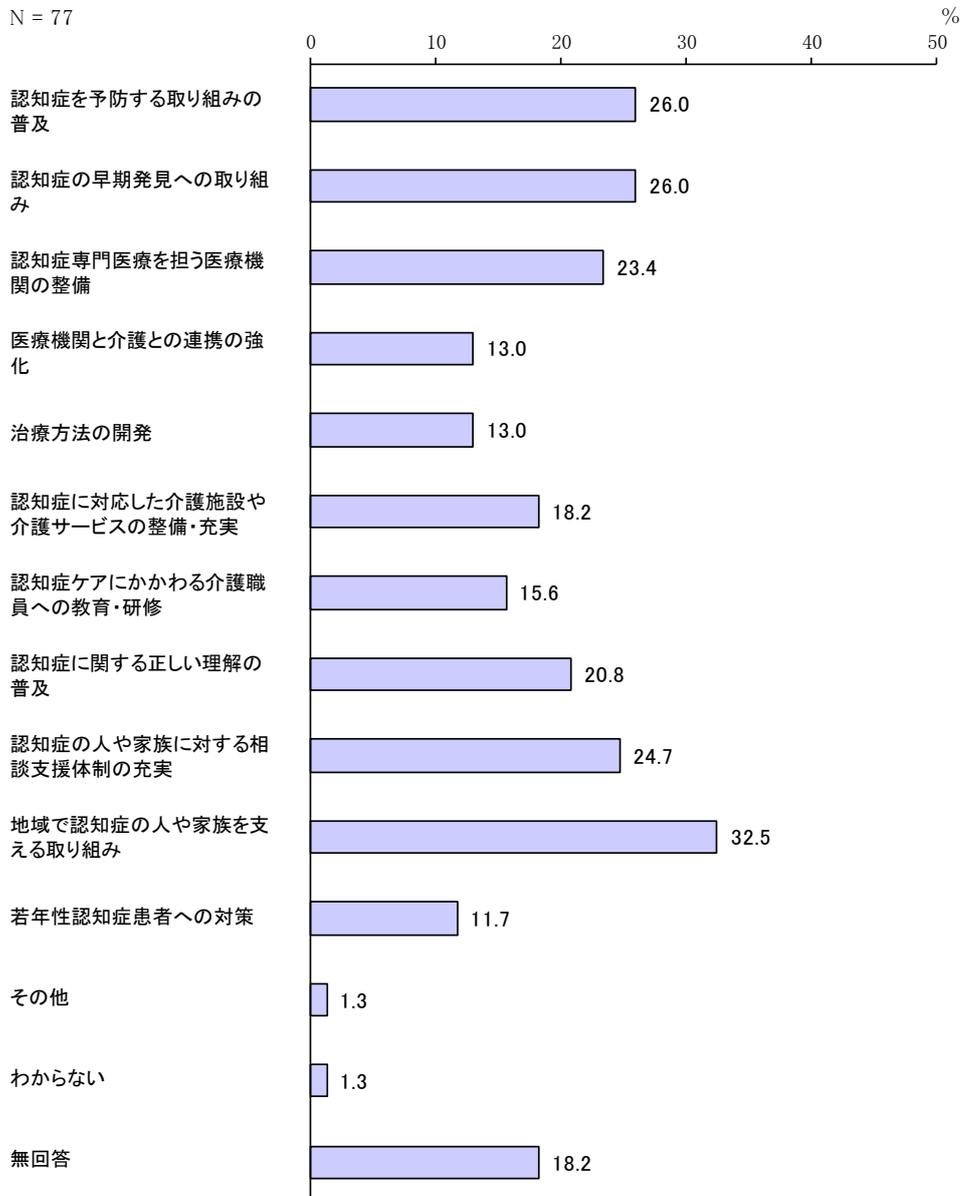
問 25-② 「地域包括ケアシステム」の構築を鈴鹿亀山地区において実現するためには、どのような課題を解決する必要があると思いますか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・地域包括ケアシステムを利用者、家族、地域の人たちに理解をしてもらう
- ・関係機関や関係者が同等な立場に立って連携できるようにする必要がある
- ・医療と介護の連携
- ・早朝、夕方～夜間、祝日曜日等のサービスが必要な方、急に体調を崩された方等の対応が難しい例が多い
- ・それぞれの機関の情報共有を密にすること

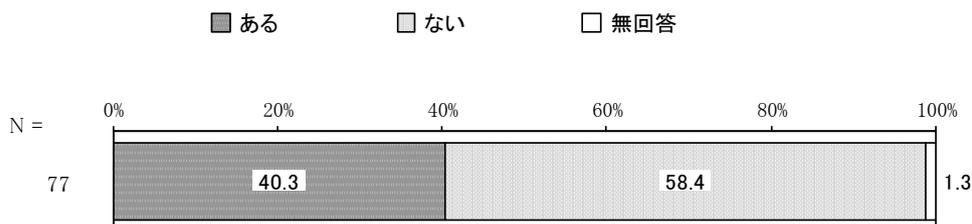
問 26 社会において、特に重点を置くべき認知症対策は何だと思えますか。(〇は3つまで)

「地域で認知症の人や家族を支える取り組み」の割合が32.5%と最も高く、次いで「認知症を予防する取り組みの普及」、「認知症の早期発見への取り組み」の割合が26.0%となっています。



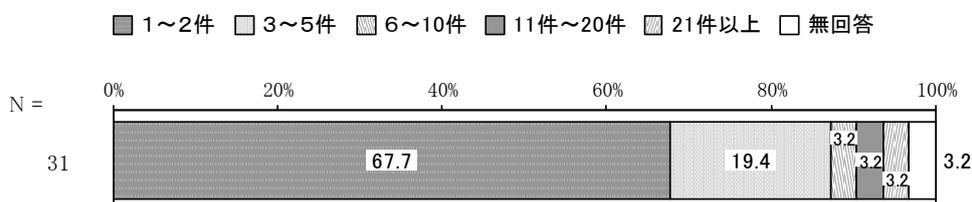
問 27 この1年間に虐待の疑われるケースにかかわったことがありますか。

「ある」の割合が40.3%、「ない」の割合が58.4%となっています。



虐待の疑われるケースの件数

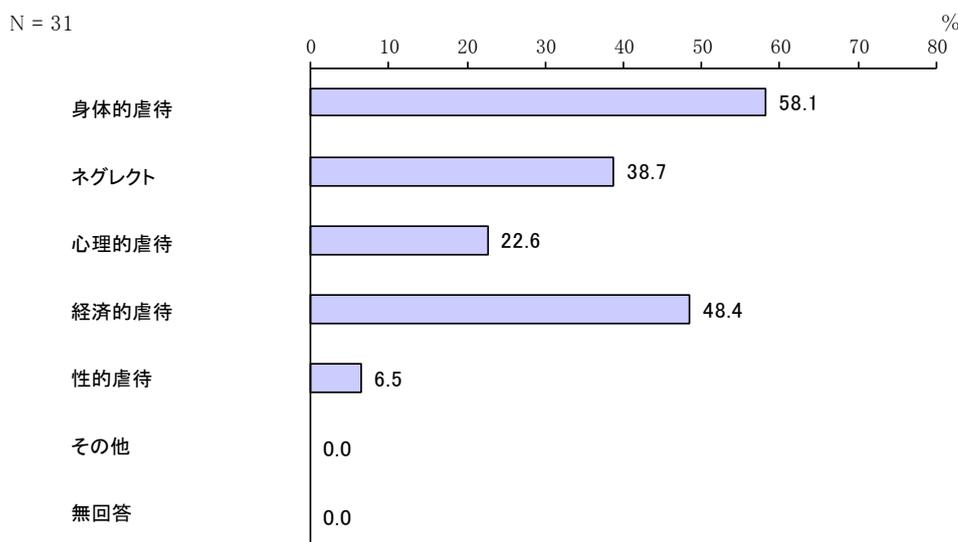
「1～2件」の割合が67.7%と最も高く、次いで「3～5件」の割合が19.4%となっています。



問 27 で「1 ある」と回答した方にお伺いします。

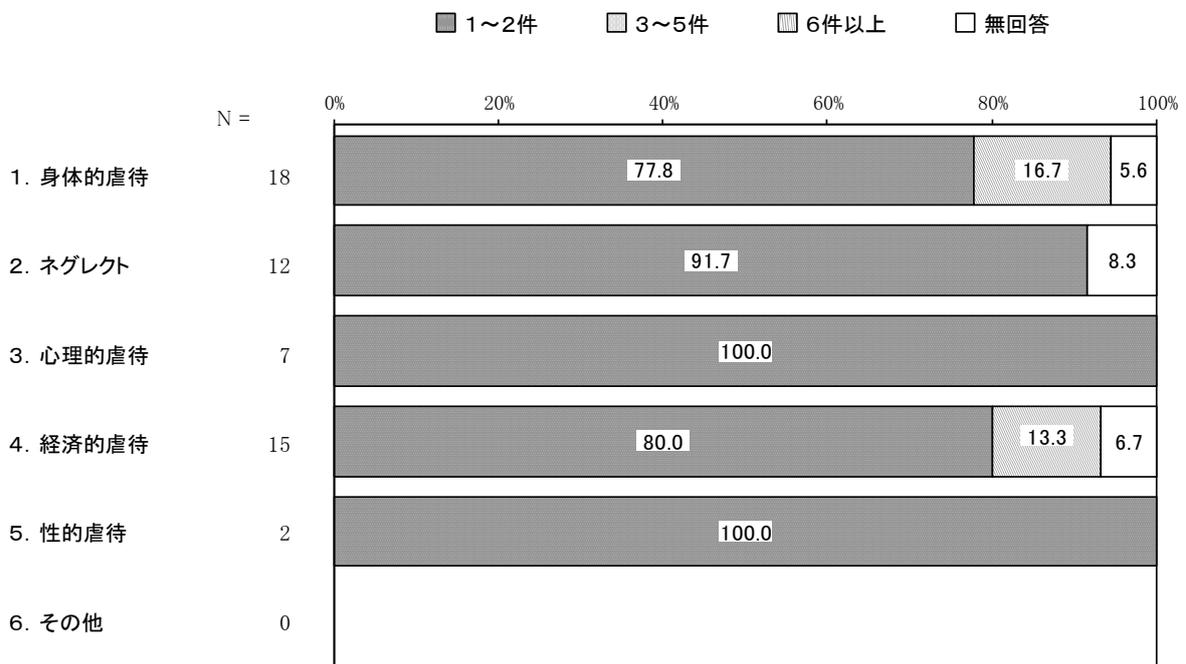
問 27-② かかわった虐待の疑われるケースは、次の分類で何件ずつになりますか。あてはまる分類すべてに○をつけ、件数を記入してください。

「身体的虐待」の割合が58.1%と最も高く、次いで「経済的虐待」の割合が48.4%、「ネグレクト」の割合が38.7%となっています。



各虐待類型の件数

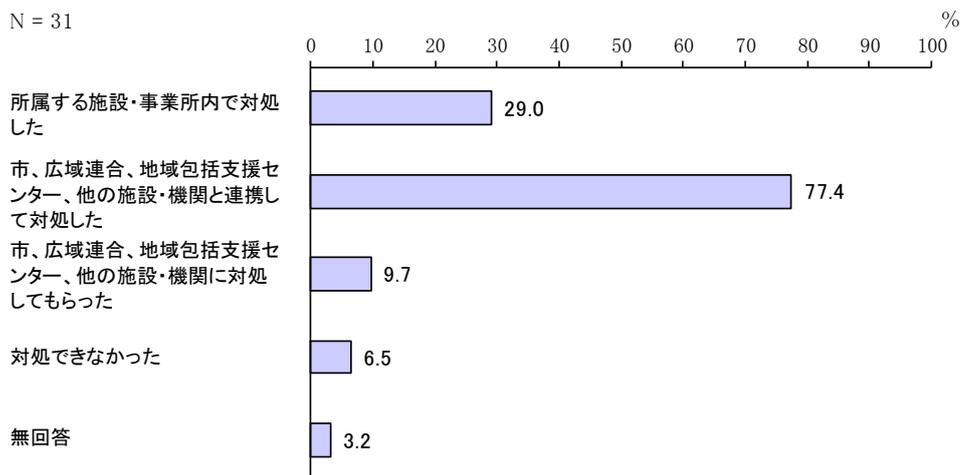
1, 身体的虐待で「6件以上」の割合が高く、1割半ばとなっています。



問 27 で「1 ある」と回答した方にお伺いします。

問 27-③ 虐待の疑われる事例にかかわったときに、どのような方法で対処しましたか。
(〇はいくつでも)

「市、広域連合、地域包括支援センター、他の施設・機関と連携して対処した」の割合が 77.4% と最も高く、次いで「所属する施設・事業所内で対処した」の割合が 29.0% となっています。



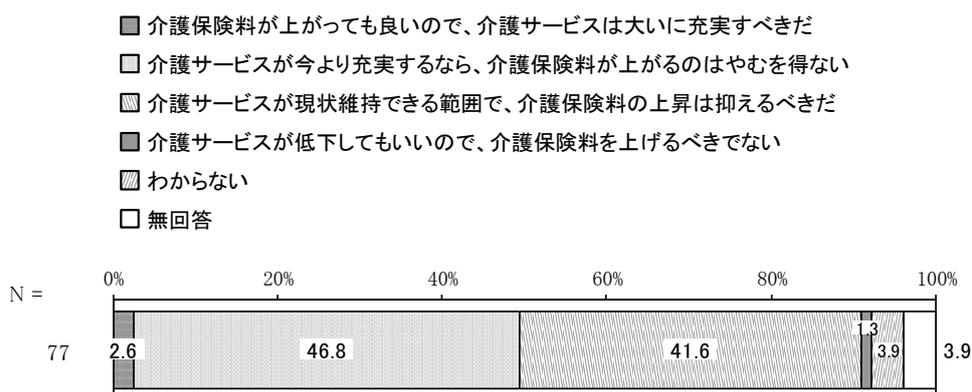
〔対処できなかった理由〕

- ・ 家族の理解が得られない
- ・ 主治医との連携

(6) 今後の高齢者介護について

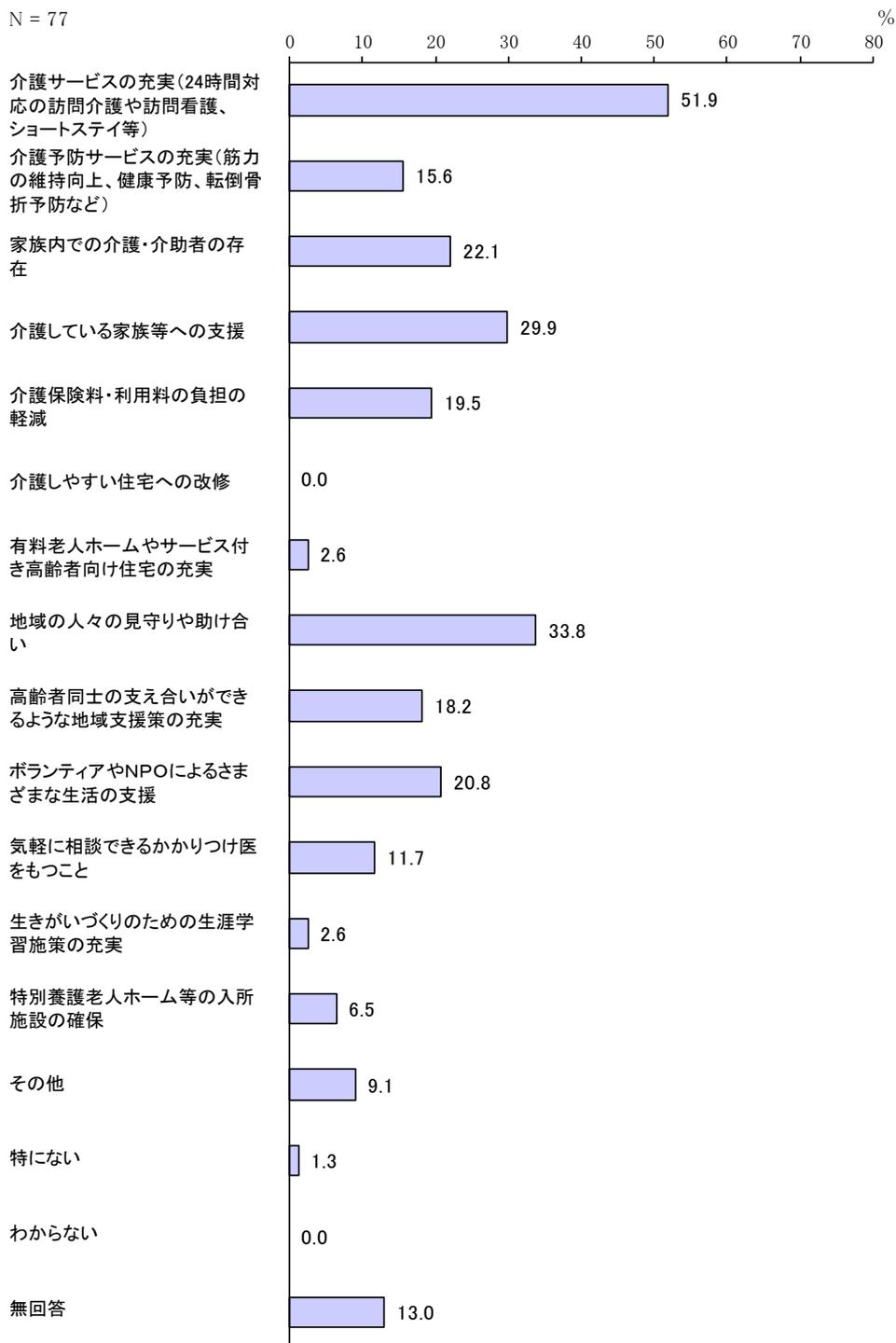
問 28 特別養護老人ホームや老人保健施設などへの入所、訪問介護（看護）や通所介護（リハビリ）、ショートステイなどの利用が多くなれば、それだけ介護保険料も上がることになります。あなたは、介護サービスの水準と保険料についてどのようにお考えですか。（1つを選択）

「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」の割合が46.8%と最も高く、次いで「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が41.6%となっています。



問 29 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「介護サービスの充実(24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等)」の割合が51.9%と最も高く、次いで「地域の人々の見守りや助け合い」の割合が33.8%、「介護している家族等への支援」の割合が29.9%となっています。



【所在地別】

所在地別でみると、他に比べ、鈴鹿西部で「高齢者同士の支え合いができるような地域支援策の充実」「ボランティアやNPOによるさまざまな生活の支援」の割合が、鈴鹿南部で「地域の人々の見守りや助け合い」「気軽に相談できるかかりつけ医をもつこと」の割合が、鈴鹿中部で「家族内での介護・介助者の存在」「介護している家族等への支援」「介護保険料・利用料の負担の軽減」の割合が、亀山で「介護予防サービスの充実（筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防など）」の割合が高くなっています。また、鈴鹿西部、鈴鹿北部で「介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）	介護予防サービスの充実（筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防など）	家族内での介護・介助者の存在	介護している家族等への支援	介護保険料・利用料の負担の軽減	介護しやすい住宅への改修	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実	地域の人々の見守りや助け合い
鈴鹿西部	13	61.5	15.4	23.1	30.8	23.1	—	7.7	—
鈴鹿北部	10	60.0	10.0	20.0	10.0	10.0	—	—	30.0
鈴鹿中部	14	50.0	14.3	35.7	50.0	28.6	—	—	35.7
鈴鹿南部	19	47.4	15.8	15.8	26.3	21.1	—	—	63.2
亀山	21	47.6	19.0	19.0	28.6	14.3	—	4.8	28.6

区分	高齢者同士の支え合いができるような地域支援策の充実	ボランティアやNPOによるさまざまな生活の支援	気軽に相談できるかかりつけ医をもつこと	生きがいづくりのための生涯学習施策の充実	特別養護老人ホーム等の入所施設の確保	その他	特になし	わからない	無回答
鈴鹿西部	30.8	38.5	—	—	7.7	7.7	—	—	15.4
鈴鹿北部	10.0	20.0	10.0	10.0	—	20.0	—	—	20.0
鈴鹿中部	14.3	21.4	7.1	7.1	7.1	7.1	—	—	—
鈴鹿南部	10.5	10.5	26.3	—	10.5	15.8	—	—	10.5
亀山	23.8	19.0	9.5	—	4.8	—	4.8	—	19.0

【サービス提供地域別】

サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で「介護している家族等への支援」の割合が高くなっています。

単位：％

単位：％

区分	有効回答数（件）	介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）	介護予防サービスの充実（筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防など）	家族内での介護・介助者の存在	介護している家族等への支援	介護保険料・利用料の負担の軽減	介護しやすい住宅への改修	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実	地域の人々の見守りや助け合い
鈴鹿西部	68	52.9	13.2	23.5	29.4	20.6	—	2.9	30.9
鈴鹿北部	64	51.6	12.5	23.4	28.1	21.9	—	3.1	34.4
鈴鹿中部	68	52.9	13.2	23.5	30.9	20.6	—	2.9	33.8
鈴鹿南部	66	53.0	13.6	22.7	31.8	21.2	—	3.0	33.3
亀山	47	46.8	12.8	27.7	36.2	23.4	—	2.1	27.7

区分	ボランティアやNPOによるさまざまな生活の支援	気軽に相談できるかかりつけ医をもつこと	生涯学習施策の充実	特別養護老人ホーム等の入所施設の確保	その他	特になし	わからない	無回答
鈴鹿西部	17.6	10.3	2.9	7.4	10.3	1.5	—	13.2
鈴鹿北部	18.8	12.5	3.1	6.3	9.4	1.6	—	12.5
鈴鹿中部	17.6	11.8	2.9	5.9	10.3	1.5	—	11.8
鈴鹿南部	18.2	13.6	3.0	6.1	10.6	1.5	—	10.6
亀山	17.0	10.6	4.3	8.5	8.5	2.1	—	10.6

問30 政府が掲げる「2020年代初等にやむを得ず介護を理由に離職される方をなくす」という目標を達成するためには、どんなことが必要だと思いますか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

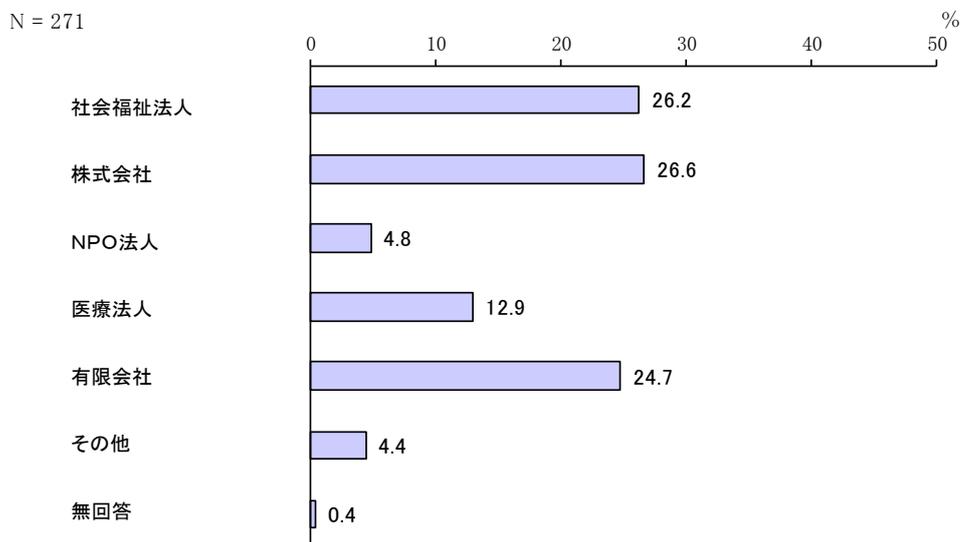
- ・介護休業、介護休暇を取得できる体制づくり
- ・職場の理解の推進
- ・仕事と介護が両立できる環境を整える
- ・在宅サービスの充実と施設受け入れを増やす
- ・金銭的な負担の軽減

6 介護サービス提供事業所

(1) 事業者の状況について

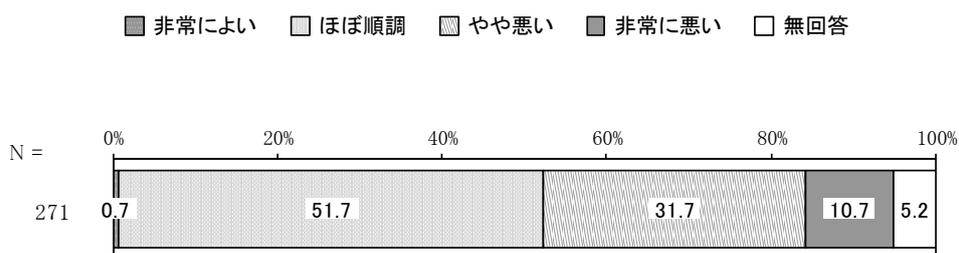
問1 貴事業所の経営主体はどれですか。(〇はいくつでも)

「株式会社」の割合が26.6%と最も高く、次いで「社会福祉法人」の割合が26.2%、「有限会社」の割合が24.7%となっています。



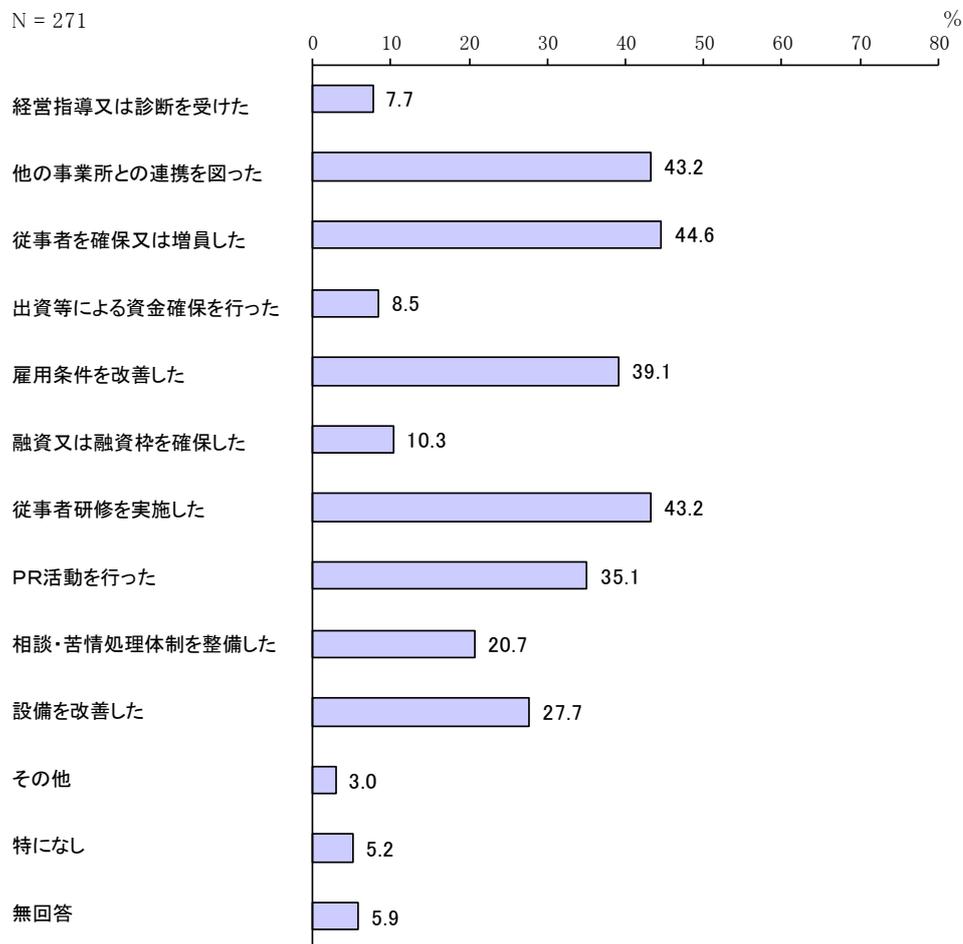
問2 貴事業所の運営（経営）状況はいかがですか。(〇は1つ)

「ほぼ順調」の割合が51.7%と最も高く、次いで「やや悪い」の割合が31.7%、「非常に悪い」の割合が10.7%となっています。



問3 介護保険制度が導入されてから現在までに、以下の経営改善等に関することを行いましたか。(〇はいくつでも)

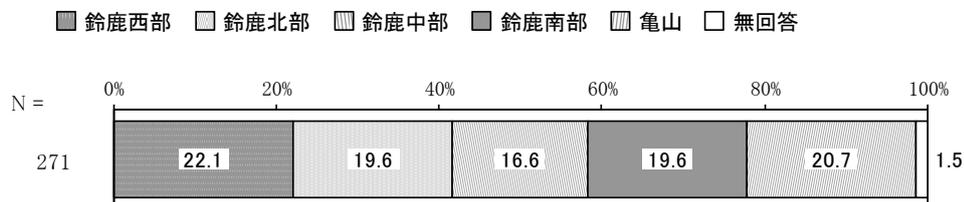
「従事者を確保又は増員した」の割合が44.6%と最も高く、次いで「他の事業所との連携を図った」、「従事者研修を実施した」の割合が43.2%となっています。



(2) 介護サービスについて

問4 貴事業所の所在地をお選びください。(区域は問5を参考にしてください)

「鈴鹿西部」の割合が22.1%と最も高く、次いで「亀山」の割合が20.7%、「鈴鹿北部」、「鈴鹿南部」の割合が19.6%となっています。



問5 貴事業所のサービス提供地域をお答えください。(〇はいくつでも)

「鈴鹿市・亀山市全域」の割合が48.0%と最も高く、次いで「鈴鹿市全域」の割合が25.8%、「白子」の割合が11.8%となっています。

単位：%

全体	鈴鹿市・ 亀山市全域	鈴鹿市全域	亀山市全域	西部									
				庄野	加佐登	牧田	石薬師	井田川	久間田	椿	深伊沢	鈴峰	庄内
271	48.0	25.8	7.7	9.6	8.1	8.5	10.3	6.6	5.5	5.5	5.5	7.4	6.6

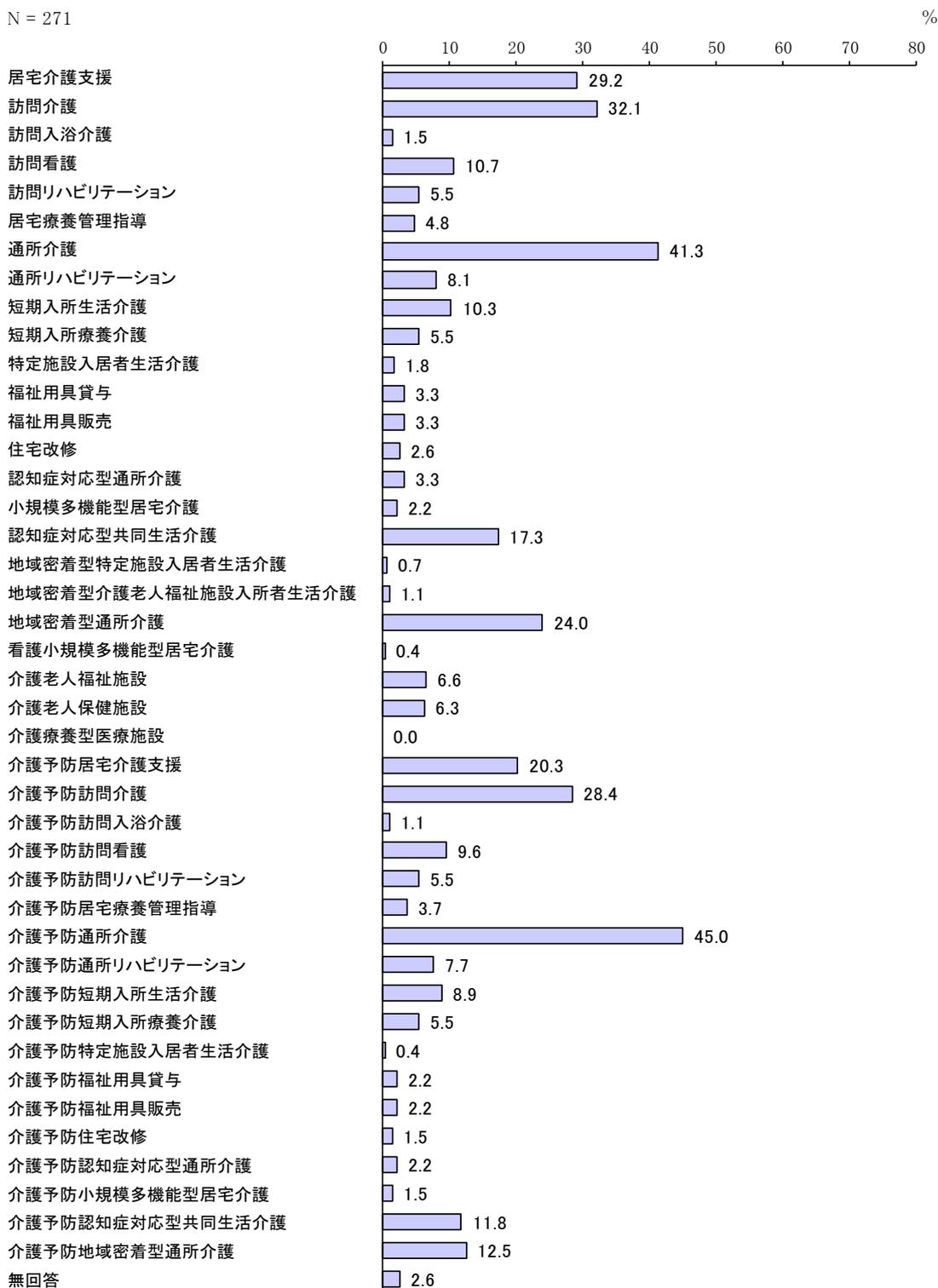
北部				中部				南部											
飯野寺家町、西条159丁目	飯野①【西條町、飯野②【若松①【南若松町】	河曲	一ノ宮	箕田	神戸	3町、矢橋1丁目	玉垣①【矢橋】	国府	①以外	飯野②【飯野】	①以外	玉垣②【玉垣】	①以外	若松②【若松】	白子	稻生	松町	若松①【南若松町】	栄
9.6	7.4	7.0	10.7	10.7	8.5	5.9	6.6	10.3	9.2	11.8	11.4	9.2	5.5						

南部			亀山									無回答
天名	合川	井田川	亀山	川崎	神辺	白川	野登	昼生	加太	坂下	関	
5.9	4.8	11.1	10.7	9.6	4.8	5.9	5.5	4.8	3.3	3.7	6.6	5.5

問6 貴事業所において実施されている介護保険サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

「介護予防通所介護」の割合が45.0%と最も高く、次いで「通所介護」の割合が41.3%、「訪問介護」の割合が32.1%となっています。

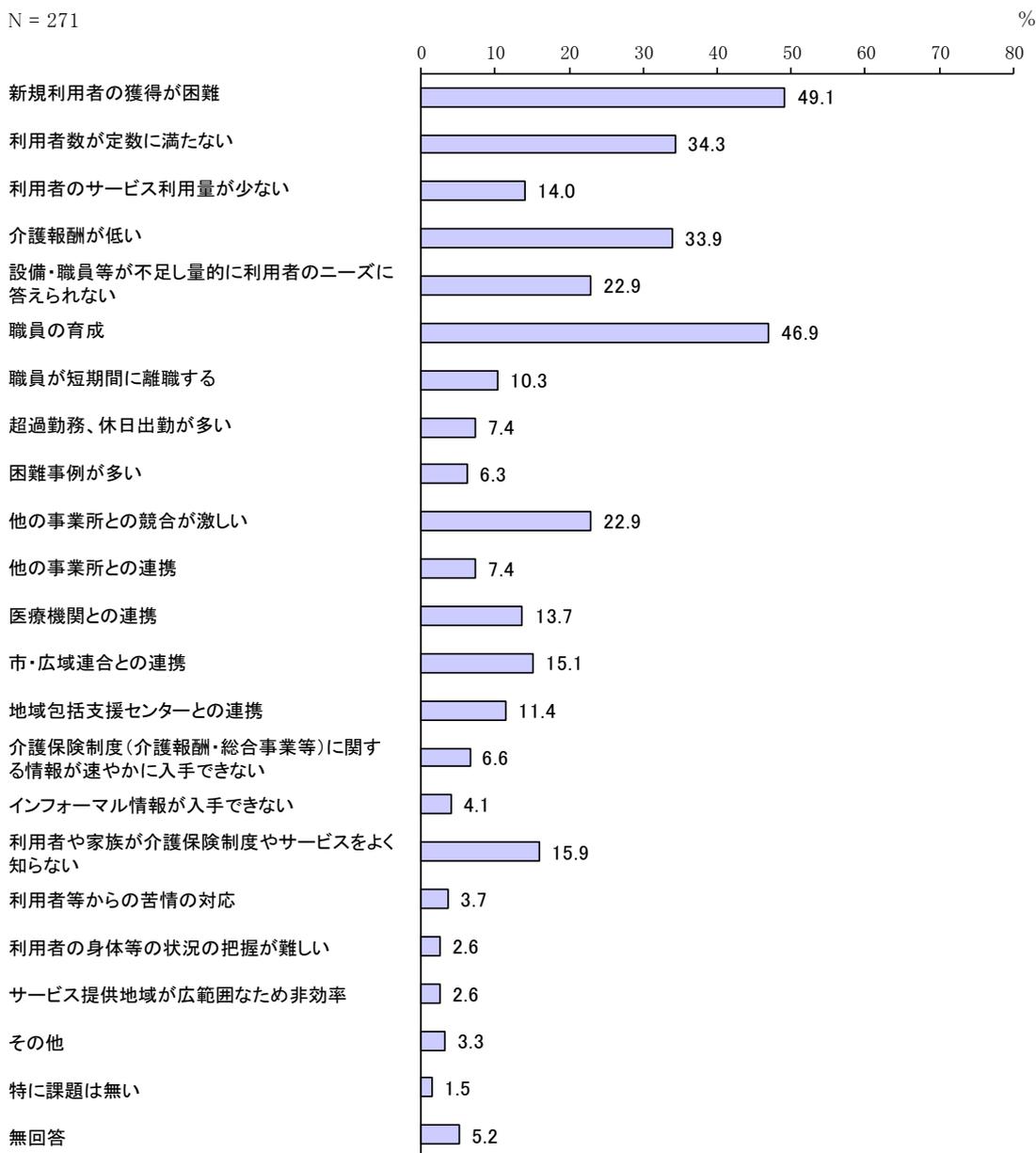
N = 271



問7 居宅介護支援以外の居宅サービスについて、事業を運営する上での課題は何ですか。(〇はいくつでも)

「新規利用者の獲得が困難」の割合が49.1%と最も高く、次いで「職員の育成」の割合が46.9%、「利用者数が定数に満たない」の割合が34.3%となっています。

N = 271



【サービス提供地域別】

サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で「市・広域連合との連携」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	新規利用者の獲得が困難	利用者が定数に満たない	利用者のサービス利用量が少ない	介護報酬が低い	設備・職員等が不足し量的に利用者のニーズに答えられない	職員の育成	職員が短期間に離職する	超過勤務、休日出勤が多い	困難事例が多い	他の事業所との競合が激しい	他の事業所との連携
鈴鹿西部	219	49.3	33.8	14.2	35.6	21.9	45.7	9.6	7.8	6.8	22.8	7.8
鈴鹿北部	220	48.6	33.2	13.6	35.5	21.4	46.8	9.5	7.3	6.8	21.8	7.7
鈴鹿中部	221	48.9	33.0	13.6	35.3	23.1	47.1	9.5	7.2	6.8	22.2	7.7
鈴鹿南部	219	49.8	33.3	13.7	35.2	22.4	46.6	9.6	7.8	7.3	21.9	7.8
亀山	161	49.7	33.5	15.5	29.2	23.6	42.9	11.8	9.9	6.2	19.9	5.6

区分	医療機関との連携	市・広域連合との連携	地域包括支援センターとの連携	介護保険制度（介護報酬・総合事業等）に関する情報が速やかに入手できない	インフォーマル情報が入手できない	利用者や家族が介護保険制度やサービスをよく知らない	利用者等からの苦情の対応	利用者の身体等の状況の把握が難しい	サービス提供地域が広範囲なため非効率	その他	特に課題は無い	無回答
鈴鹿西部	16.4	15.5	11.4	7.8	4.6	17.8	2.7	3.2	3.2	3.7	1.8	5.0
鈴鹿北部	14.1	15.5	11.8	8.2	4.5	19.1	3.2	3.2	3.2	3.6	1.8	4.5
鈴鹿中部	14.0	15.4	12.2	8.1	4.5	18.6	2.7	3.2	3.2	3.6	1.8	4.5
鈴鹿南部	14.6	16.0	12.3	8.2	4.6	19.2	2.7	3.2	3.2	3.7	1.8	4.6
亀山	14.3	20.5	13.7	5.0	3.7	16.1	2.5	1.2	1.9	2.5	2.5	5.0

【実施している介護保険サービス別】

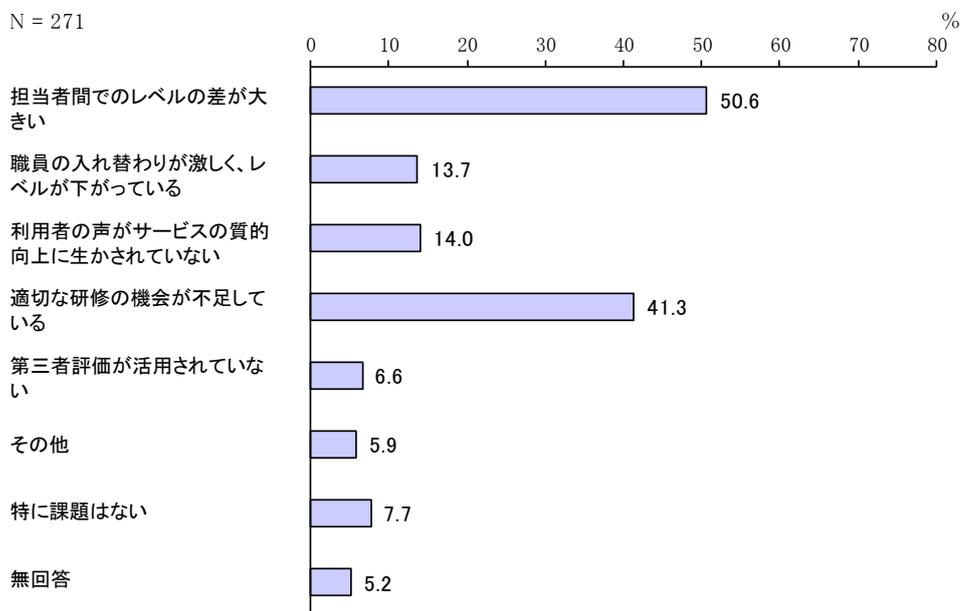
実施している介護保険サービス別でみると、他に比べ、居宅療養管理指導で「介護報酬が低い」の割合が、介護老人福祉施設で「設備・職員等が不足し量的に利用者のニーズに答えられない」「職員の育成」の割合が、介護予防認知症対応型共同生活介護で「困難事例が多い」の割合が、介護予防地域密着型通所介護で「新規利用者の獲得が困難」「利用者数が定数に満たない」の割合が高くなっています。また、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導で「地域包括支援センターとの連携」の割合が高くなっています。

区分	有効回答数(件)	新規利用者の獲得が困難	利用者が定数に満たない	利用者のサービス利用量が少ない	介護報酬が低い	設備・職員等が不足し量的に利用者のニーズに答えられない	職員の育成	職員が短期間に離職する	超過勤務、休日出勤が多い	困難事例が多い	他の事業所との競合が激しい	他の事業所との連携
居宅介護支援	79	45.6	26.6	16.5	31.6	25.3	50.6	8.9	11.4	2.5	26.6	7.6
訪問介護	87	48.3	28.7	18.4	36.8	31.0	54.0	10.3	10.3	6.9	20.7	8.0
訪問入浴介護	4	75.0	75.0	75.0	25.0	25.0	75.0	—	25.0	—	50.0	—
訪問看護	29	55.2	41.4	37.9	27.6	13.8	27.6	10.3	10.3	3.4	37.9	3.4
訪問リハビリテーション	15	53.3	60.0	53.3	53.3	6.7	33.3	6.7	—	—	73.3	13.3
居宅療養管理指導	13	61.5	53.8	53.8	69.2	—	23.1	—	—	—	53.8	15.4
通所介護	112	49.1	36.6	16.1	28.6	24.1	60.7	8.9	7.1	5.4	29.5	5.4
通所リハビリテーション	22	50.0	54.5	50.0	59.1	22.7	40.9	9.1	—	4.5	63.6	4.5
短期入所生活介護	28	42.9	25.0	14.3	17.9	21.4	71.4	3.6	14.3	7.1	14.3	7.1
短期入所療養介護	15	60.0	60.0	60.0	53.3	20.0	26.7	6.7	—	6.7	73.3	—
特定施設入居者生活介護	5	40.0	—	—	20.0	—	40.0	—	—	40.0	40.0	40.0
福祉用具貸与	9	22.2	—	—	11.1	22.2	55.6	—	22.2	—	33.3	—
福祉用具販売	9	22.2	—	—	11.1	22.2	55.6	—	22.2	—	33.3	—
住宅改修	7	42.9	14.3	—	14.3	14.3	57.1	—	28.6	—	42.9	—
認知症対応型通所介護	9	55.6	66.7	33.3	—	11.1	33.3	—	—	—	22.2	—
小規模多機能型居宅介護	6	50.0	50.0	16.7	16.7	—	33.3	—	—	16.7	16.7	—
認知症対応型共同生活介護	47	38.3	25.5	8.5	31.9	29.8	48.9	10.6	8.5	12.8	17.0	8.5
地域密着型特定施設入居者生活介護	2	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—	50.0	100.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	3	66.7	—	—	—	—	100.0	—	33.3	—	—	—
地域密着型通所介護	65	78.5	72.3	27.7	50.8	12.3	27.7	7.7	3.1	1.5	29.2	9.2
看護小規模多機能型居宅介護	1	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	100.0	—
介護老人福祉施設	18	50.0	16.7	5.6	22.2	44.4	77.8	5.6	5.6	—	5.6	5.6
介護老人保健施設	17	58.8	64.7	58.8	52.9	17.6	29.4	5.9	—	—	76.5	—
介護療養型医療施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
介護予防居宅介護支援	55	36.4	16.4	9.1	25.5	29.1	52.7	7.3	14.5	3.6	21.8	7.3
介護予防訪問介護	77	46.8	23.4	16.9	37.7	33.8	53.2	10.4	11.7	7.8	22.1	6.5
介護予防訪問入浴介護	3	100.0	66.7	66.7	—	33.3	100.0	—	33.3	—	33.3	—
介護予防訪問看護	26	61.5	46.2	42.3	30.8	11.5	23.1	11.5	7.7	3.8	42.3	3.8
介護予防訪問リハビリテーション	15	53.3	60.0	53.3	53.3	6.7	33.3	6.7	—	—	73.3	13.3
介護予防居宅療養管理指導	10	70.0	70.0	70.0	70.0	—	10.0	—	—	—	70.0	—
介護予防通所介護	122	51.6	41.8	16.4	34.4	21.3	57.4	9.0	7.4	4.9	30.3	5.7
介護予防通所リハビリテーション	21	57.1	57.1	52.4	52.4	23.8	38.1	14.3	—	4.8	61.9	4.8
介護予防短期入所生活介護	24	45.8	20.8	12.5	16.7	25.0	70.8	4.2	16.7	8.3	8.3	8.3
介護予防短期入所療養介護	15	60.0	60.0	60.0	60.0	26.7	26.7	6.7	—	6.7	73.3	—
介護予防特定施設入居者生活介護	1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	100.0	—	100.0
介護予防福祉用具貸与	6	—	—	—	—	33.3	50.0	—	16.7	—	33.3	—
介護予防福祉用具販売	6	—	—	—	—	33.3	50.0	—	16.7	—	33.3	—
介護予防住宅改修	4	—	—	—	—	25.0	50.0	—	25.0	—	50.0	—
介護予防認知症対応型通所介護	6	50.0	83.3	33.3	—	—	50.0	—	—	—	33.3	—
介護予防小規模多機能型居宅介護	4	25.0	25.0	25.0	—	—	25.0	—	—	—	25.0	—
介護予防認知症対応型共同生活介護	32	37.5	18.8	9.4	40.6	28.1	50.0	15.6	9.4	18.8	18.8	6.3
介護予防地域密着型通所介護	34	85.3	79.4	41.2	58.8	17.6	20.6	2.9	—	—	35.3	—

区分	医療機関との連携	市・広域連合との連携	地域包括支援センターとの連携	介護保険制度（介護報酬・総合事業等）に関する情報が速やかに入手できない	インフォーマル情報が入手できない	利用者や家族が介護保険制度やサービスをよく知らない	利用者等からの苦情の対応	利用者の身体等の状況の把握が難しい	率	サービス提供地域が広範囲なため非効	その他	特に課題は無い	無回答
居宅介護支援	16.5	24.1	19.0	2.5	3.8	10.1	2.5	—	—	1.3	3.8	5.1	
訪問介護	9.2	13.8	12.6	8.0	—	17.2	4.6	—	3.4	3.4	3.4	—	
訪問入浴介護	—	25.0	25.0	—	—	25.0	25.0	—	—	—	—	—	
訪問看護	6.9	34.5	27.6	10.3	3.4	13.8	6.9	—	3.4	6.9	10.3	—	
訪問リハビリテーション	20.0	60.0	53.3	—	—	13.3	—	6.7	—	—	—	—	
居宅療養管理指導	15.4	61.5	53.8	—	—	7.7	—	—	—	—	15.4	—	
通所介護	12.5	21.4	17.0	5.4	3.6	14.3	5.4	—	0.9	0.9	1.8	1.8	
通所リハビリテーション	18.2	40.9	36.4	4.5	9.1	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	—	—	
短期入所生活介護	14.3	7.1	7.1	3.6	—	7.1	3.6	—	—	3.6	—	3.6	
短期入所療養介護	13.3	46.7	46.7	—	—	6.7	—	6.7	—	—	—	—	
特定施設入居者生活介護	20.0	40.0	20.0	—	—	40.0	20.0	—	—	—	—	—	
福祉用具貸与	11.1	11.1	—	11.1	—	—	—	—	—	—	11.1	22.2	
福祉用具販売	11.1	11.1	—	11.1	—	—	—	—	—	—	11.1	22.2	
住宅改修	14.3	14.3	—	14.3	—	—	—	—	—	—	14.3	—	
認知症対応型通所介護	11.1	11.1	11.1	—	—	—	—	—	—	—	—	11.1	
小規模多機能型居宅介護	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	
認知症対応型共同生活介護	12.8	12.8	12.8	10.6	8.5	6.4	2.1	2.1	—	6.4	4.3	12.8	
地域密着型特定施設入居者生活介護	100.0	50.0	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域密着型通所介護	12.3	20.0	20.0	9.2	3.1	10.8	—	4.6	3.1	—	—	1.5	
看護小規模多機能型居宅介護	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
介護老人福祉施設	11.1	5.6	5.6	5.6	—	11.1	5.6	—	—	—	—	—	
介護老人保健施設	17.6	41.2	41.2	—	—	5.9	—	—	—	5.9	—	—	
介護療養型医療施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
介護予防居宅介護支援	20.0	16.4	14.5	3.6	5.5	5.5	3.6	—	—	1.8	5.5	7.3	
介護予防訪問介護	10.4	15.6	14.3	9.1	—	15.6	3.9	—	3.9	3.9	3.9	—	
介護予防訪問入浴介護	—	—	—	—	—	66.7	33.3	—	—	—	—	—	
介護予防訪問看護	7.7	38.5	30.8	7.7	—	15.4	7.7	—	3.8	—	11.5	—	
介護予防訪問リハビリテーション	20.0	60.0	53.3	—	—	13.3	—	6.7	—	—	—	—	
介護予防居宅療養管理指導	—	70.0	70.0	—	—	—	—	—	—	—	20.0	—	
介護予防通所介護	13.9	20.5	16.4	9.0	2.5	14.8	4.1	1.6	2.5	0.8	1.6	1.6	
介護予防通所リハビリテーション	19.0	42.9	38.1	4.8	9.5	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8	—	—	
介護予防短期入所生活介護	16.7	8.3	8.3	4.2	—	—	4.2	—	—	4.2	—	4.2	
介護予防短期入所療養介護	20.0	46.7	46.7	—	—	6.7	—	6.7	—	—	—	—	
介護予防特定施設入居者生活介護	—	100.0	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—	
介護予防福祉用具貸与	16.7	16.7	—	16.7	—	—	—	—	—	—	16.7	16.7	
介護予防福祉用具販売	16.7	16.7	—	16.7	—	—	—	—	—	—	16.7	16.7	
介護予防住宅改修	25.0	25.0	—	25.0	—	—	—	—	—	—	25.0	—	
介護予防認知症対応型通所介護	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.7	
介護予防小規模多機能型居宅介護	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	75.0	
介護予防認知症対応型共同生活介護	15.6	18.8	18.8	12.5	12.5	9.4	—	—	—	6.3	6.3	15.6	
介護予防地域密着型通所介護	2.9	26.5	26.5	2.9	2.9	2.9	—	2.9	—	—	—	—	

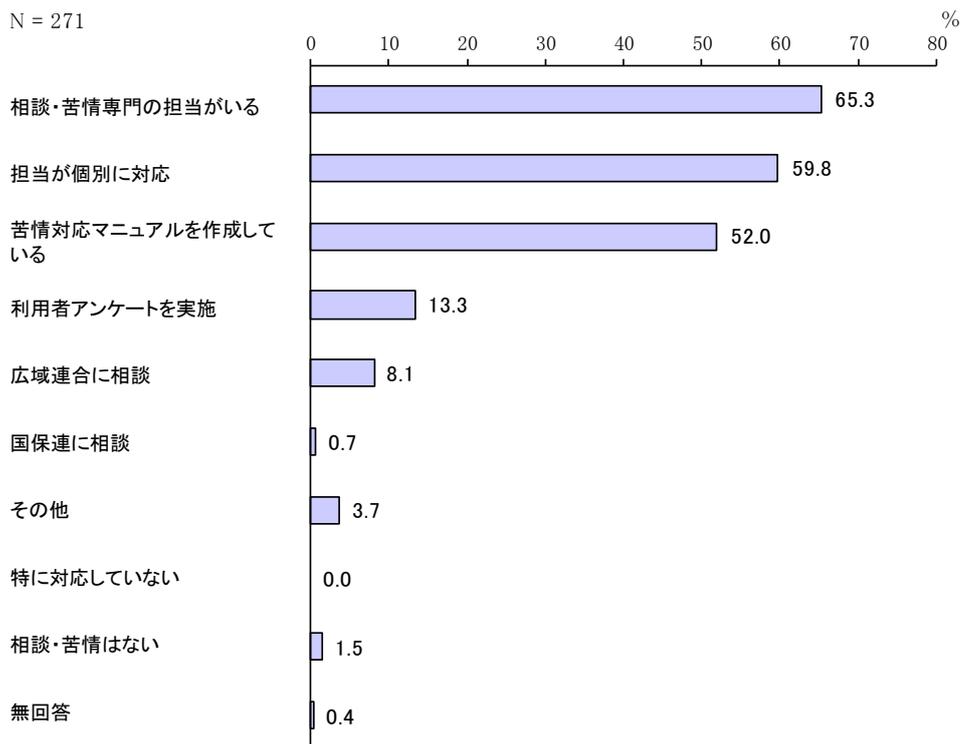
問8 介護知識や介護技術などをレベルアップし、サービスの質的向上を図るうえでの課題は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

「担当者間でのレベルの差が大きい」の割合が50.6%と最も高く、次いで「適切な研修の機会が不足している」の割合が41.3%、「利用者の声がサービスの質的向上に活かされていない」の割合が14.0%となっています。



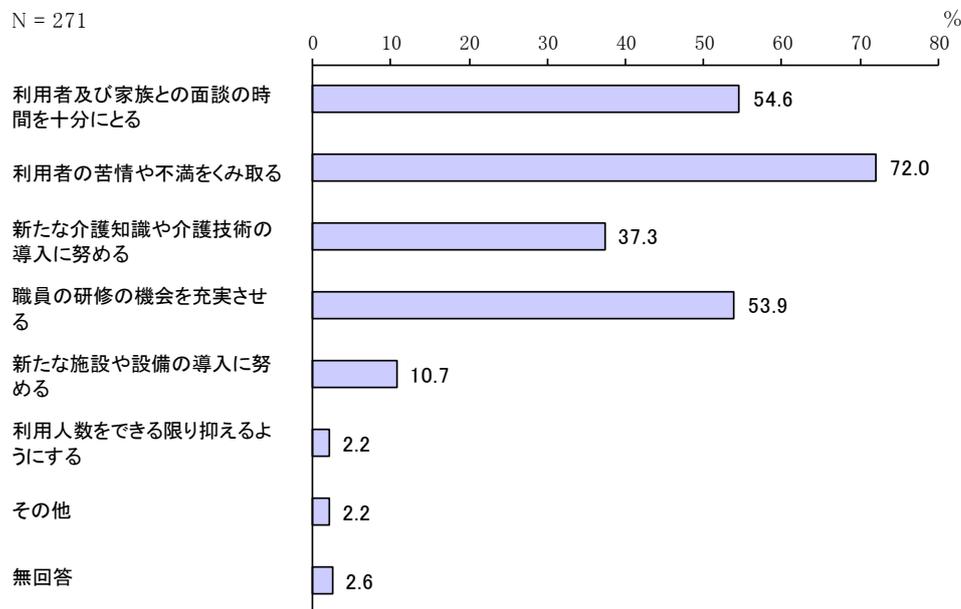
問9 貴事業所では、利用者や家族からの相談や苦情についてどのように対応していますか。(〇はいくつでも)

「相談・苦情専門の担当がいる」の割合が65.3%と最も高く、次いで「担当が個別に対応」の割合が59.8%、「苦情対応マニュアルを作成している」の割合が52.0%となっています。



問10 サービスの質を高めるために貴事業所が行っていることはどんなことですか。(〇はいくつでも)

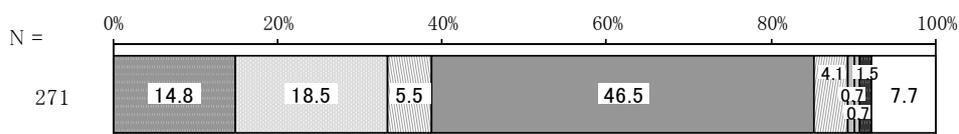
「利用者の苦情や不満をくみ取る」の割合が72.0%と最も高く、次いで「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」の割合が54.6%、「職員の研修の機会を充実させる」の割合が53.9%となっています。



問11 貴事業所は、今後、どのように介護サービスを展開していこうとお考えですか。(〇は1つだけ)

「現状維持」の割合が46.5%と最も高く、次いで「現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大」の割合が18.5%、「現在実施しているサービスの事業拡大」の割合が14.8%となっています。

- 現在実施しているサービスの事業拡大
- ▨ 現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大
- ▩ 未実施のサービスへの事業拡大
- 現状維持
- ▨ サービス種類を絞り込み、集中して実施
- ▩ 現在実施しているサービスの事業縮小
- ▩ 早い時期に事業撤退
- その他
- 無回答

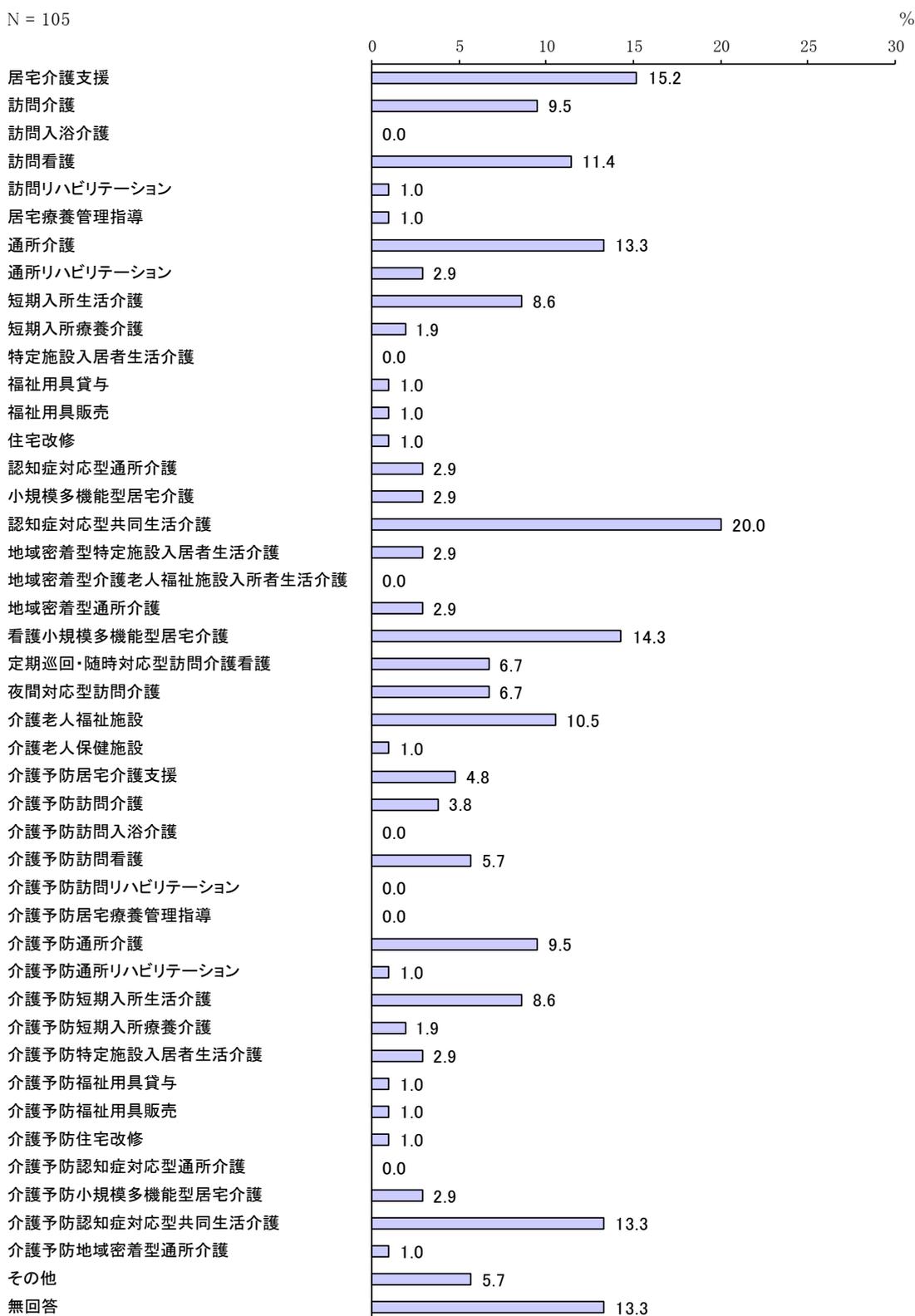


問11で「1 現在実施しているサービスの事業拡大」「2 現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大」「3 未実施のサービスへの事業拡大」と回答した事業所にお伺いします。

問11-② 貴事業所において今後、参入・拡充を考えている介護保険サービスはありますか。(〇はいくつでも、施設サービスについては定員も記入)

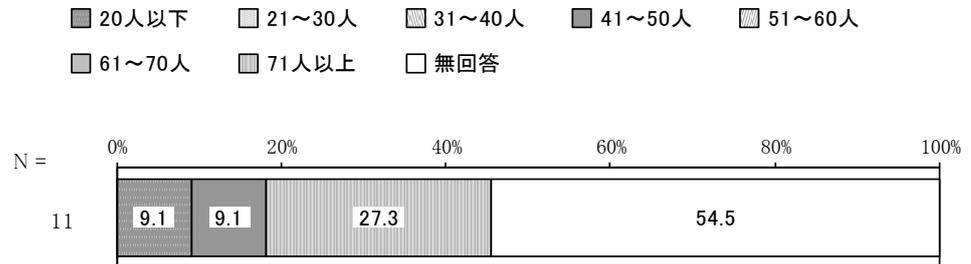
「認知症対応型共同生活介護」の割合が20.0%と最も高く、次いで「居宅介護支援」の割合が15.2%、「看護小規模多機能型居宅介護」の割合が14.3%となっています。

N = 105



介護老人福祉施設の定員

「71人以上」の割合が27.3%と最も高くなっています。



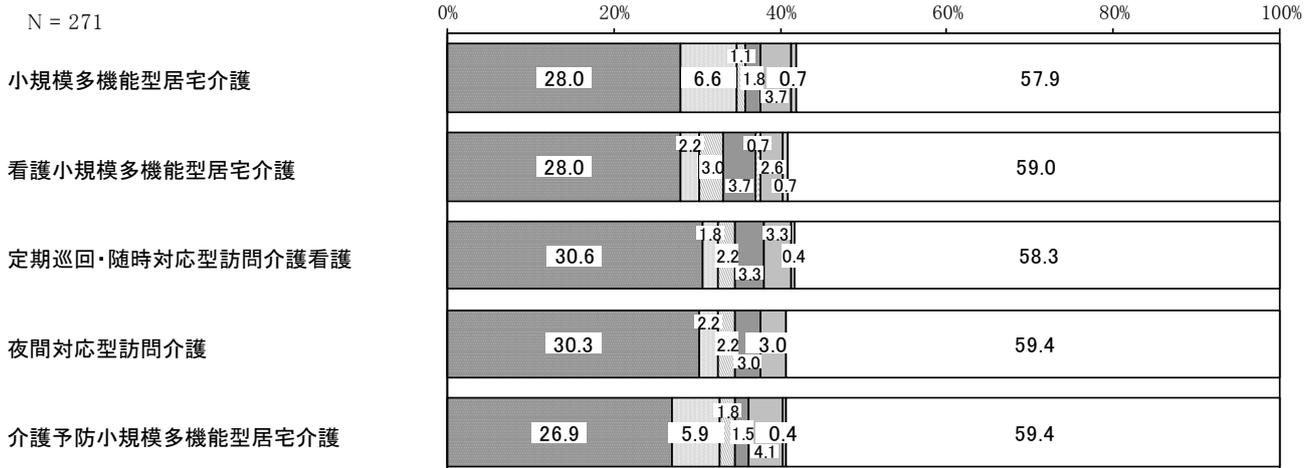
介護老人保健施設の定員

「6~10人」が1件となっています。

問12 現計画（第6期介護保険事業計画）に対し整備が遅れているサービス（問11-②の16、21、22、23、41）についてお聞きします。これらのサービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（サービスごとに○は1つずつ）

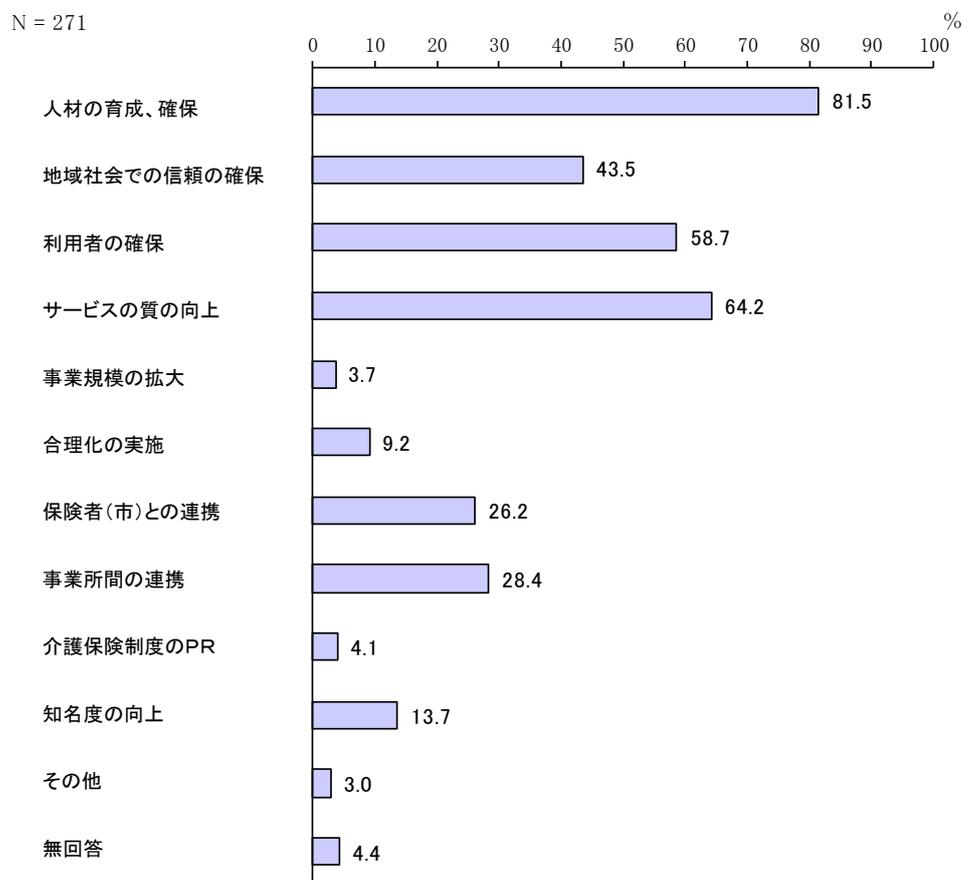
いずれの項目でも「参入は検討していない。」の割合が3割前後となっています。

- 参入は検討していない。
- ニーズがないので参入しない。
- 採算が見込めないので、参入しない。
- ニーズが見込めるので、参入を検討したい。
- 採算が見込めるので、参入を検討したい。
- わからない
- その他
- 無回答



問 13 今後、事業を展開していく上での課題は何ですか。(〇はいくつでも)

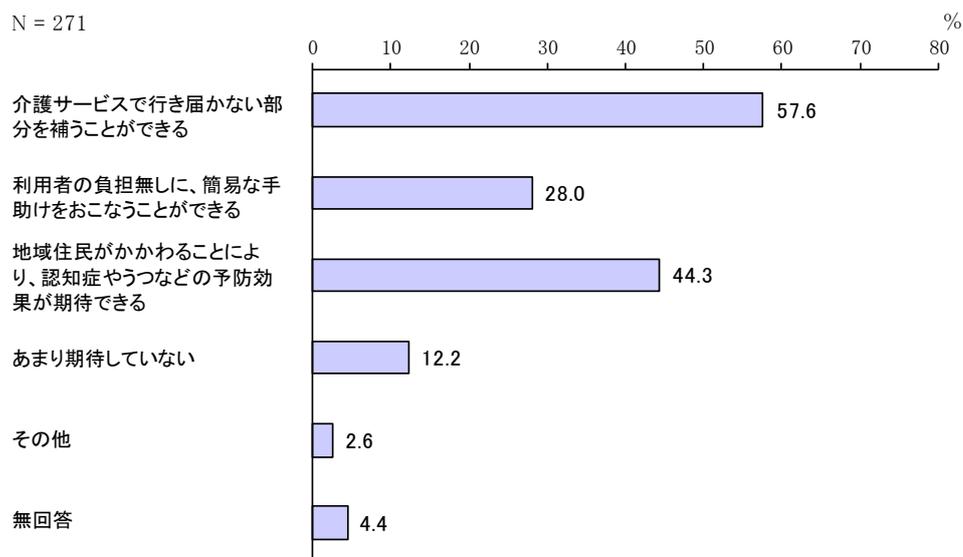
「人材の育成、確保」の割合が 81.5%と最も高く、次いで「サービスの質の向上」の割合が 64.2%、「利用者の確保」の割合が 58.7%となっています。



(3) 地域包括ケアについて

問 14 平成 29 年 4 月より介護予防・日常生活支援総合事業が開始されますが、ボランティアやNPOによる介護や生活支援サービスに対し、どのような期待を持っていますか。(〇はいくつでも)

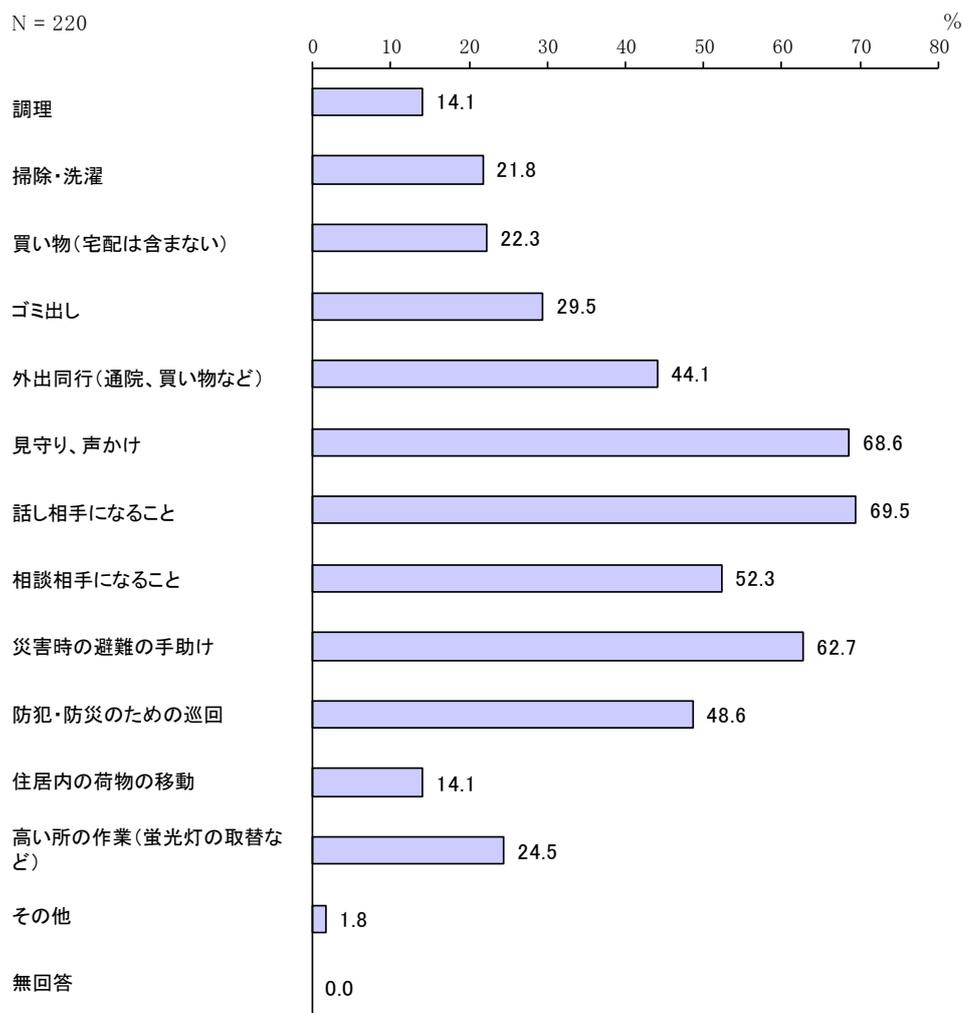
「介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」の割合が 57.6%と最も高く、次いで「地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果が期待できる」の割合が 44.3%、「利用者の負担無しに、簡易な手助けをおこなうことができる」の割合が 28.0%となっています。



問 14 で「1 介護サービスで行き届かない部分を補うことができる」「2 利用者の負担無しに、簡易な手助けをおこなうことができる」「3 地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果が期待できる」と回答した事業所にお伺いします。

問 14-② ボランティアやNPOは、具体的にどのような手助けをすることが有効だと思いますか。(〇はいくつでも)

「話し相手になること」の割合が 69.5%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」の割合が 68.6%、「災害時の避難の手助け」の割合が 62.7%となっています。



【サービス提供地域別】

サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で「調理」「掃除・洗濯」「買い物（宅配は含まない）」「ゴミ出し」「住居内の荷物の移動」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	見守り、声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け	防犯・防災のための巡回	住居内の荷物の移動	高い所の作業（蛍光灯の取替など）	その他	無回答
鈴鹿西部	179	15.1	22.9	25.1	30.7	49.7	69.8	71.5	46.9	66.5	49.7	14.5	25.1	2.2	—
鈴鹿北部	181	16.0	24.9	24.9	30.4	48.6	69.1	71.8	49.2	65.2	48.6	15.5	24.9	2.2	—
鈴鹿中部	182	14.8	24.2	24.2	30.2	46.2	69.8	72.0	48.9	64.8	47.8	14.3	24.7	1.6	—
鈴鹿南部	181	15.5	25.4	24.9	31.5	47.5	69.6	72.4	48.1	64.6	47.5	14.4	25.4	1.7	—
亀山	132	6.1	13.6	16.7	25.0	47.0	71.2	71.2	49.2	62.9	50.8	9.8	22.0	2.3	—

問 14 で「4 あまり期待していない」と回答した事業所にお伺いします。

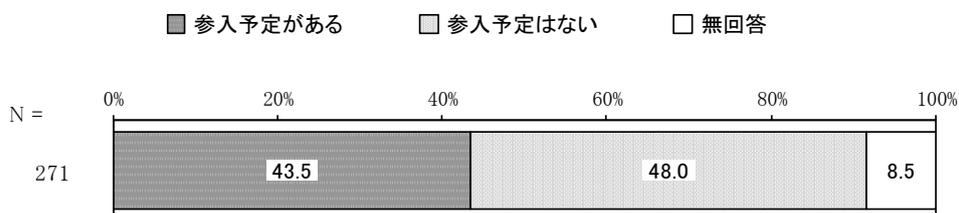
問 14-③ その理由は何ですか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・介護に知識・経験のある方が関わる方がよい

問 15 貴事業所の今後の事業展開として、「介護予防・日常生活支援総合事業」へ参入の予定がありますか（〇は1つだけ）

「参入予定がある」の割合が 43.5%、「参入予定はない」の割合が 48.0%となっています。

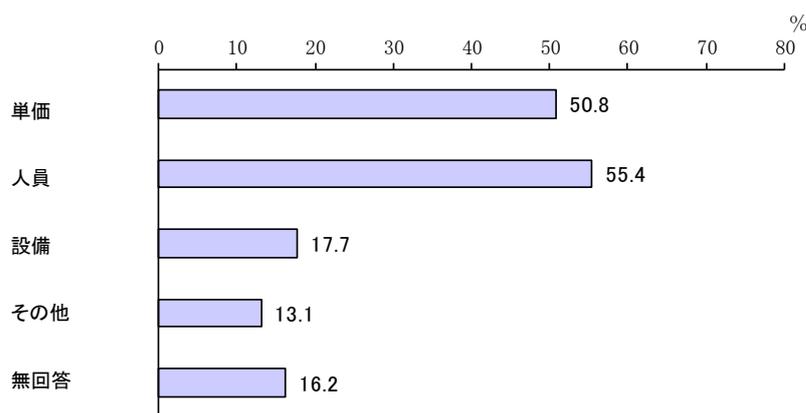


問 15 で「2 参入予定はない」と回答した事業所にお伺いします。

問 15-③ 参入にあたっての条件として、何が解決されれば参入できると思いますか。（〇はいくつでも）

「人員」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「単価」の割合が 50.8%、「設備」の割合が 17.7%となっています。

N = 130



問 15 で「1 参入予定がある」と回答した事業所にお伺いします。

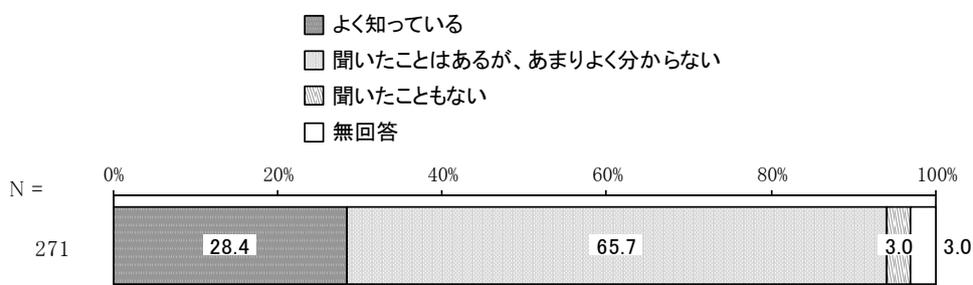
問 15-② 参入にあたり、課題となっていることがあればご記入ください。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・ 利用者の確保
- ・ 報酬単価が低い
- ・ 利用者へのサービスの周知方法
- ・ 人材の育成や確保
- ・ 採算がとれるかどうか

問 16 地域において住まい、医療、介護、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指しておりますが、内容についてご存じですか。(〇は1つだけ)

「聞いたことはあるが、あまりよく分からない」の割合が65.7%と最も高く、次いで「よく知っている」の割合が28.4%となっています。



問 16 で「1 よく知っている」と回答した事業所にお伺いします。

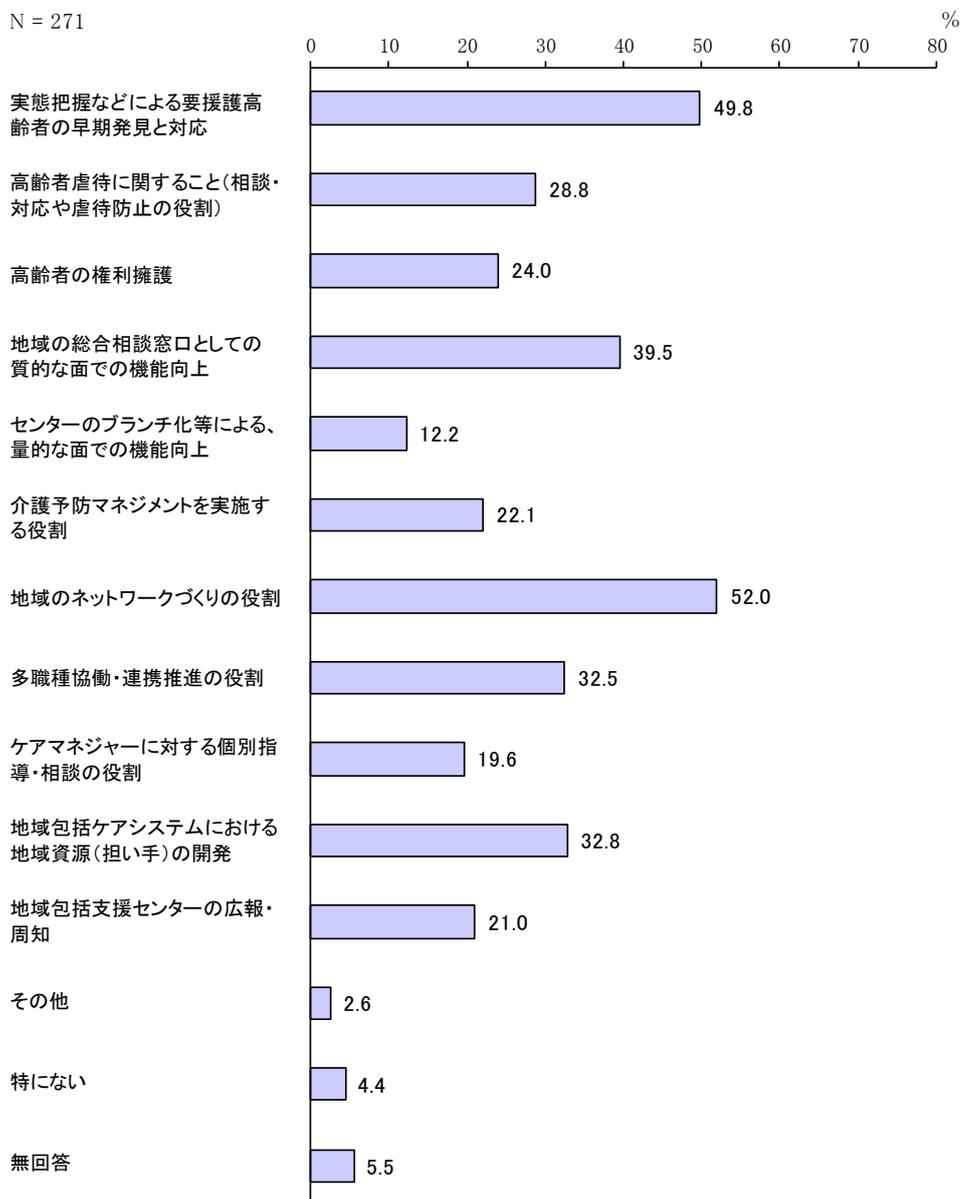
問 16-② 「地域包括ケアシステム」の構築を鈴鹿亀山地区において実現するためにはどのような課題を解決する必要があると思いますか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・多職種間での連携を図る
- ・訪問診療の整備
- ・地域全体が地域包括ケアシステムを理解すること
- ・医療、介護間の連携
- ・ボランティア等の人員確保

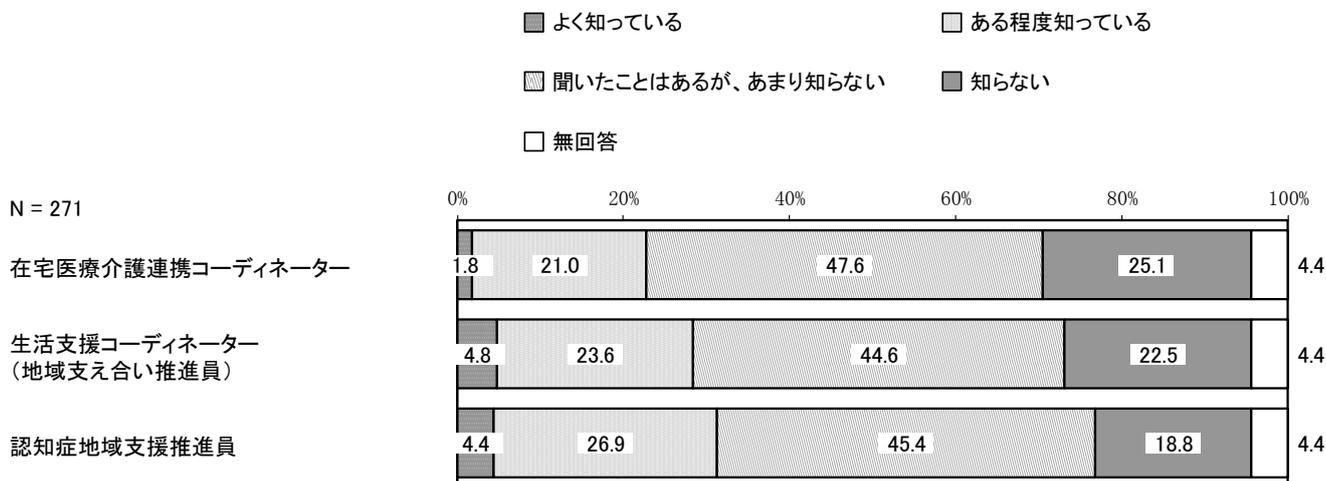
問 17 地域包括支援センターにおいて、強化が必要と思われる機能・役割は何ですか。(〇はいくつでも)

「地域のネットワークづくりの役割」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「実態把握などによる要援護高齢者の早期発見と対応」の割合が 49.8%、「地域の総合相談窓口としての質的な面での機能向上」の割合が 39.5%となっています。



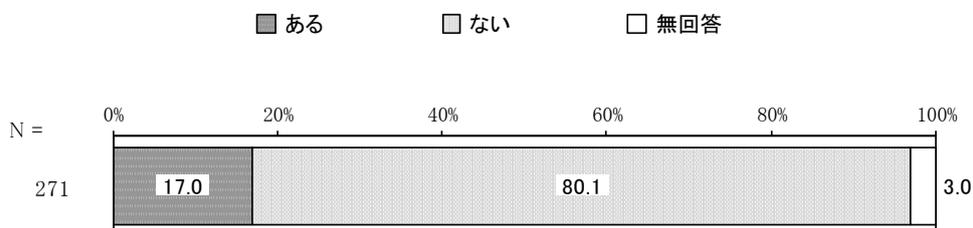
問 18 平成 27 年度の介護保険制度の改正により、高齢者が在宅での生活を継続できるよう、地域に下記のような役割を持つ専門員の設置を進めておりますが、ご存知ですか。
(〇は 1 つずつ)

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）、認知症地域支援推進員で「よく知っている」と「ある程度知っている」をあわせた“知っている”の割合が高く、約 3 割となっています。



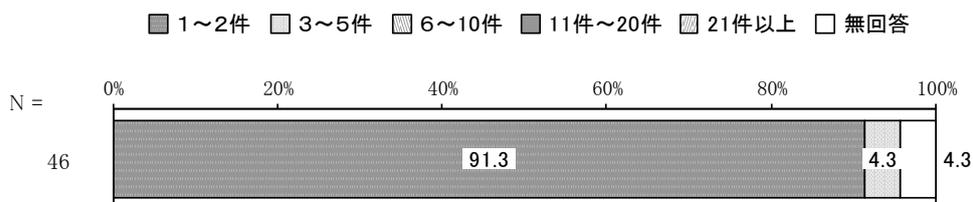
問 19 この 1 年間に、家族介護者等による虐待が疑われるケースにかかわったことがありますか。「ある」に〇をつけた方は、() 内にその件数を記入してください。

「ある」の割合が 17.0%、「ない」の割合が 80.1%となっています。



虐待が疑われる件数

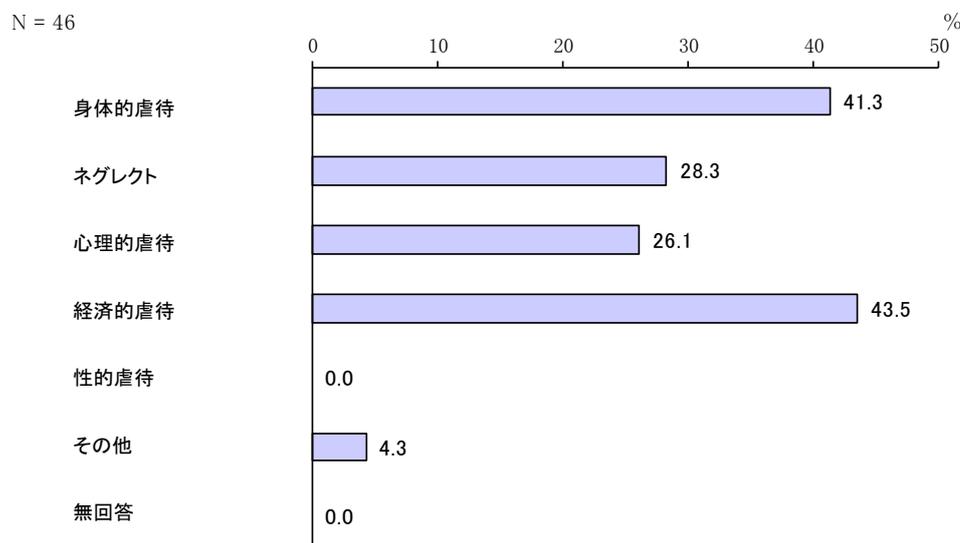
「1～2件」の割合が 91.3%と最も高くなっています。



問 19 で「1 ある」と回答した事業所にお伺いします。

問 19-② 貴事業所でかかわった虐待の疑われるケースは、次の分類で何件ずつになりますか。あてはまる分類すべてに○をつけ、件数を記入してください。

「経済的虐待」の割合が 43.5%と最も高く、次いで「身体的虐待」の割合が 41.3%、「ネグレクト」の割合が 28.3%となっています。



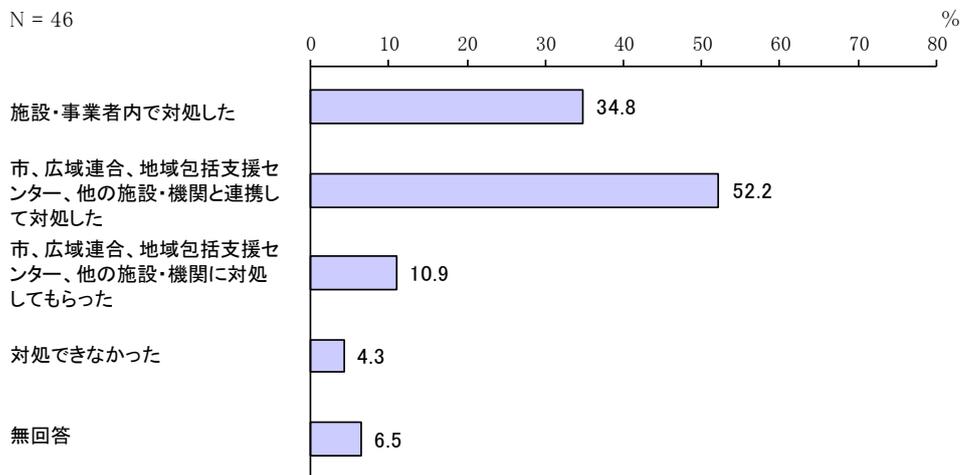
各虐待類型の件数

5. 性的虐待以外の項目で「1～2件」の割合が高く、8割を超えています。



問 19-③ 貴事業所が虐待の疑われる事例にかかわったときに、どのような方法で対処しましたか。(〇はいくつでも)

「市、広域連合、地域包括支援センター、他の施設・機関と連携して対処した」の割合が 52.2%と最も高く、次いで「施設・事業者内で対処した」の割合が 34.8%、「市、広域連合、地域包括支援センター、他の施設・機関に対処してもらった」の割合が 10.9%となっています。



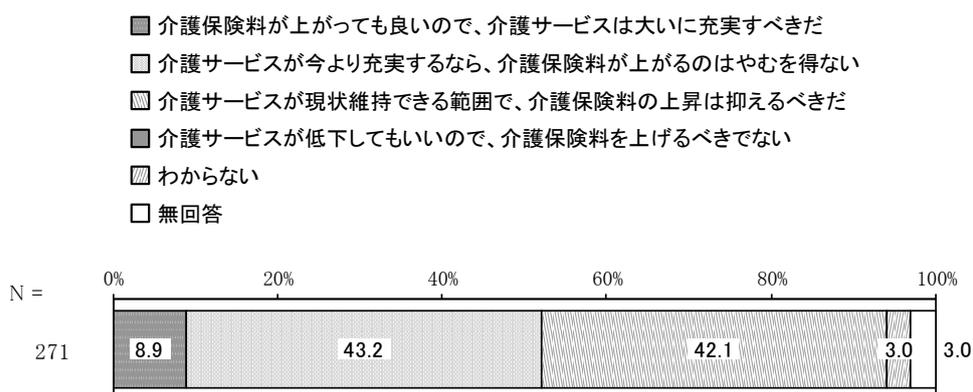
〔対処できなかった理由〕

- ・ 家族が理解・対応しない
- ・ 明かな暴力や暴言があったわけではない場合、立ち入りづらいことがある。

(4) これからの高齢者介護について

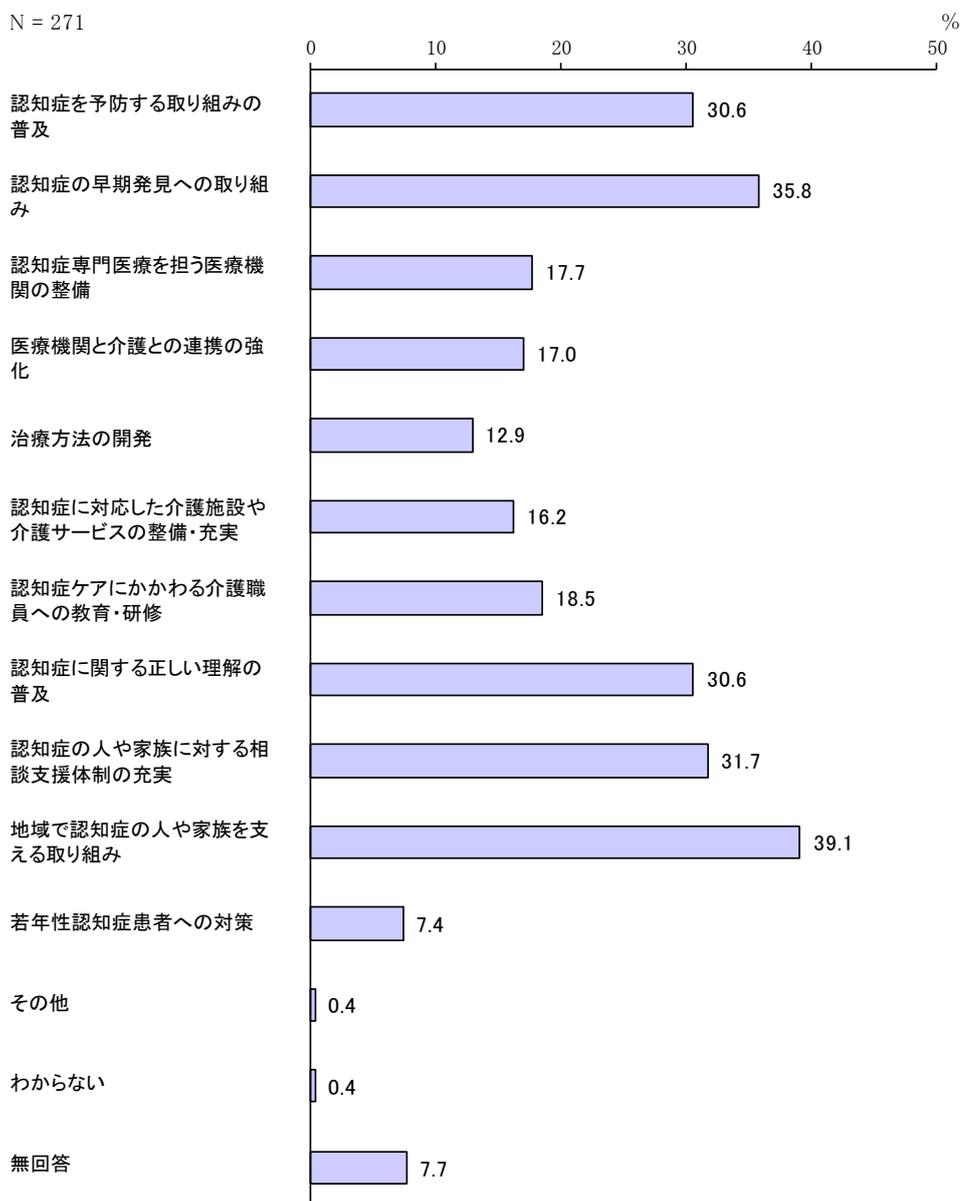
問 20 特別養護老人ホームや老人保健施設などへの入所、訪問介護（看護）や通所介護（リハビリ）、ショートステイなどの利用が多くなれば、それだけ介護保険料も上がることとなります。あなたは、介護サービスの水準と保険料についてどのようにお考えですか。（1つを選択）

「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」の割合が43.2%と最も高く、次いで「介護サービスが現状維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」の割合が42.1%となっています。



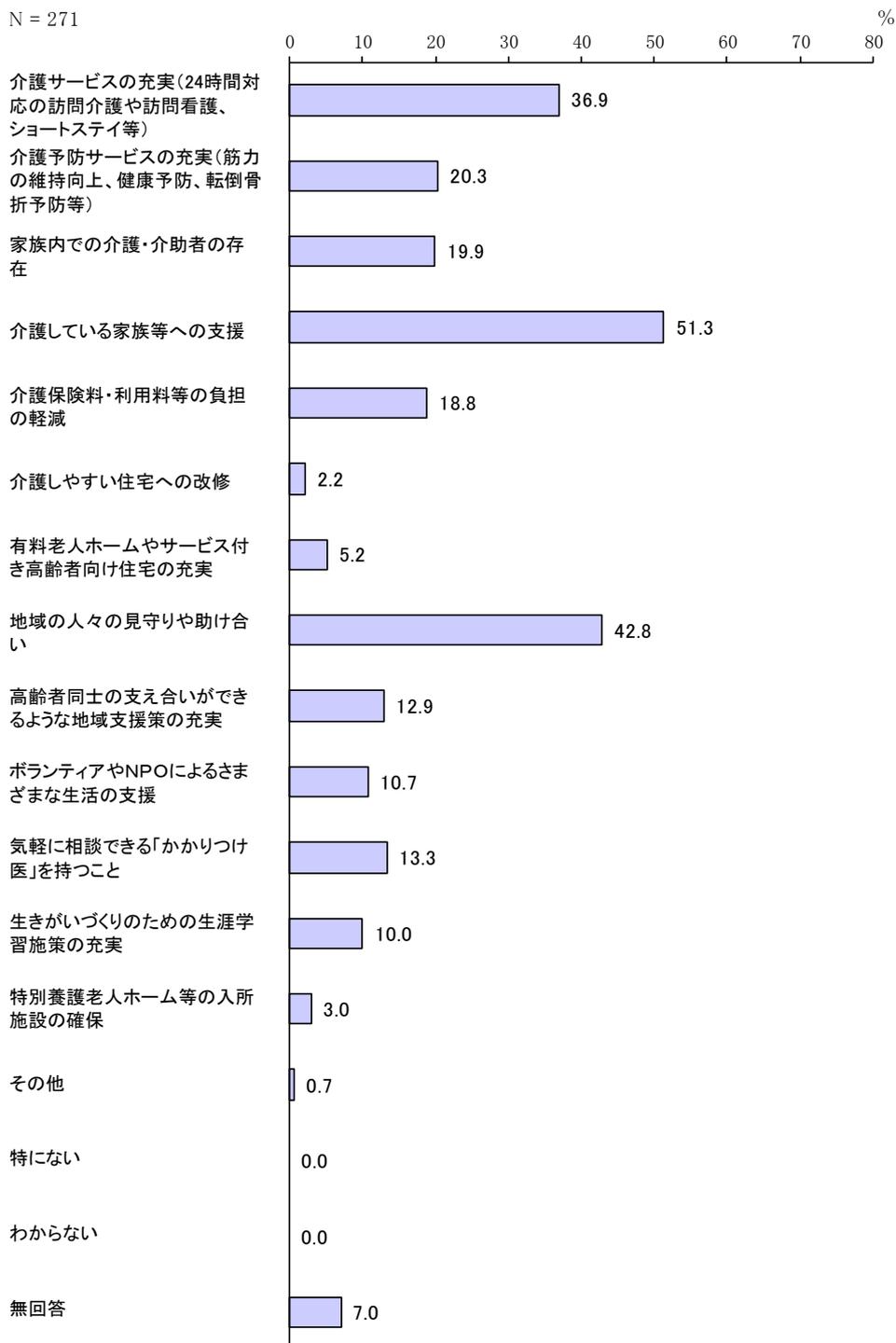
問 21 社会において、特に重点を置くべき認知症対策は何だと思えますか。
(〇は3つまで)

「地域で認知症の人や家族を支える取り組み」の割合が39.1%と最も高く、次いで「認知症の早期発見への取り組み」の割合が35.8%、「認知症の人や家族に対する相談支援体制の充実」の割合が31.7%となっています。



問 22 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、貴事業所では、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまでを選択）

「介護している家族等への支援」の割合が51.3%と最も高く、次いで「地域の人々の見守りや助け合い」の割合が42.8%、「介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）」の割合が36.9%となっています。



【サービス提供地域別】

サービス提供地域別でみると、他に比べ、亀山で「介護予防サービスの充実（筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防等）」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	介護サービスの充実（24時間対応の訪問介護や訪問看護、ショートステイ等）	介護予防サービスの充実（筋力の維持向上、健康予防、転倒骨折予防等）	家族内での介護・介助者の存在	介護している家族等への支援	介護保険料・利用料等の負担の軽減	介護しやすい住宅への改修	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実	地域の人々の見守りや助け合い
鈴鹿西部	219	39.7	21.9	19.6	49.8	20.1	2.3	5.0	43.8
鈴鹿北部	220	37.7	23.2	19.1	53.2	20.5	2.7	5.0	42.3
鈴鹿中部	221	36.7	21.3	19.9	51.6	19.9	2.7	5.9	43.0
鈴鹿南部	219	38.8	22.4	19.6	52.1	20.5	2.7	5.0	42.0
亀山	161	34.2	14.3	20.5	49.1	21.7	2.5	4.3	46.6

区分	高齢者同士の支え合いができるような地域支援策の充実	ボランティアやNPOによるさまざまな生活の支援	気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つこと	生きがいづくりのための生涯学習施策の充実	特別養護老人ホーム等の入所施設の確保	その他	特にない	わからない	無回答
鈴鹿西部	11.4	11.0	15.1	10.0	2.7	0.9	—	—	6.4
鈴鹿北部	10.5	10.5	15.0	9.5	2.7	0.5	—	—	6.8
鈴鹿中部	11.3	10.9	15.8	10.0	2.7	0.5	—	—	6.8
鈴鹿南部	10.5	11.0	15.5	9.6	2.7	0.5	—	—	6.8
亀山	11.8	9.9	16.8	11.8	3.1	1.2	—	—	8.1

問 23 政府が掲げる「2020年代初等にやむを得ず介護を理由に離職される方をなくす」という目標を達成するためには、どんなことが必要だと思いますか。

主な意見は、以下のとおりとなっています。

- ・仕事と介護が両立できるような職場環境を整える
- ・仕事内容に応じた給料を支払うこと
- ・介護人材の確保
- ・介護休業を取得しやすくする
- ・介護サービスの理解と普及、充実